

第5回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査 ～サラリーマンシニアを中心として～

平成 24 (2012) 年 3 月

財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル

TEL: 03-5793-9411

FAX: 03-5793-9413

URL: <http://www.nensoken.or.jp>

第5回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

～サラリーマンシニアを中心として～

平成 24 (2012) 年 3 月

財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル

TEL: 03-5793-9411

FAX: 03-5793-9413

URL: <http://www.nensoken.or.jp>

ごあいさつ

当機構は、わが国における年金制度と年金資金運用及び年金生活に関する研究の推進を目的とした専門研究機関です。少子高齢化が急速に進む中で、老後所得保障の柱としての年金制度を守り、育てていくために、このようなテーマに関する研究を体系的総合的に行っています。

その事業の一つとして、「サラリーマンの生活と生きがい」に関するアンケート調査を実施してまいりました。この調査は、サラリーマン現役およびOBの方々を対象に、普段の生活状況や生きがい等についてのお考えを伺い、それが定年退職後の生活にどのように影響するのかを目的としております。また、この調査は、平成3年度に第1回調査を実施し、その後も5年ごとの定期調査と位置づけ、平成8年度(第2回調査)、平成13年度(第3回調査)、平成18年度(第4回調査)に調査を実施し、今回、平成23年度に第5回調査を実施しました。

今回調査により過去20年間の継時的な動向把握が可能となり、本報告書では過去20年間(第1回～第5回調査)の調査データに基づき、サラリーマンの「生活」と「生きがい」に関する5時点間の変化を把握し、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化しているのか分析を行います。

また今回も、より深いデータ分析を目指して、当研究会の4名の先生方に、「生きがいと性・年齢ならびに性格行動特徴との関連」、「社会参加の効果と関連要因」、「働き方と生きがい」、「単身世帯の生活と生きがい」という4つの視点から分析・執筆をお願いしました。

今回の調査により、第1回～第5回調査のデータ(アンケート調査有効回収件数累計1万6千件強)が蓄積されることになりました。今後のわが国の超高齢社会における様々な問題を研究する際の資料として有効かつ貴重なものと考えられ、各方面でもご活用をいただければ幸いです。

なお、本調査研究に対して、貴重な助言・指導をいただいた「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会(別掲)の千保喜久夫座長をはじめとする委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

また、今回の調査にご協力いただいた皆様方にもこの場を借りて御礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会メンバー（敬称略）

【座長】 千保 喜久夫 東京成徳大学 経営学部教授
福川 康之 早稲田大学 文学学術院准教授
富樫 ひとみ 茨城キリスト教大学 生活科学部 人間福祉学科准教授
藤森 克彦 みずほ情報総研株式会社 社会保障
藤森 クラスタ 藤森クラスター主席研究員
戸田 淳仁 株式会社リクルート ワークス研究所 研究員

【事務局】 財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

専務理事 福山 圭一
参事役 亀山 政男
主任研究員 菅谷 和宏
主任研究員 長野 誠治
主任研究員 田中 英治

（注）各メンバーの所属・役職は平成24年3月時点のものである

【調査報告書執筆担当者】 (敬称略)

序 章	菅谷 和宏
第1章	千保 喜久夫
第2章	菅谷 和宏
第3章	菅谷 和宏
第4章	福川 康之
第5章	富樫 ひとみ
第6章	戸田 淳仁
第7章	藤森 克彦
第8章	長野 誠治
第9章	福山 圭一

(資料編)

1 調査票	菅谷 和宏
2 単純集計結果	長野 誠治、田中 英治
3 調査票質問項目一覧表 (過去調査分との対照表)	長野 誠治

【調査研究成果の刊行に関する一覧表】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	出版年
福川 康之	中高年期の生きがいと性・年齢ならびに性格行動特徴との関連	年金と経済	第31巻 第1号	2012
富樫 ひとみ	社会参加の効果と関連要因	年金と経済	第31巻 第1号	2012
戸田 淳仁	働き方と生きがい～高齢者が生きがいを持って働くためには～	年金と経済	第31巻 第1号	2012
藤森 克彦	単身世帯の生活と生きがい	年金と経済	第31巻 第1号	2012
菅谷 和宏	「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」 ～アンケート調査 結果概要～	年金と経済	第30巻 第4号	2012
菅谷 和宏	「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査結果」～20年間のサラリーマンの生きがいに関する考え方を追って～	生きがい研究	第18号	2012

目 次

ごあいさつ

序 章 調査実施概要

1 はじめに	1
2 本調査研究の目的	2
3 本調査研究の枠組み	3
4 日本の経済環境と雇用環境の変化	5
5 第1回調査～第4回調査結果の振り返り	8
6 第5回調査の実施概要	11

第1章 総括

1 本調査の意義	19
2 今回調査結果の概要	20
3 本調査20年の歩みに見る生きがい状況	21
4 テーマ別の調査分析論文	23
5 今後に向けて	25

第2章 第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査結果の概要

1 はじめに.....	27
2 第5回調査結果の概要.....	27
3 まとめ	60

第3章 第1回調査結果から第5回調査結果におけるサラリーマンの生活と生きがいの変化について

1 はじめに	63
2 第1回調査結果から第5回調査結果までの変化について	64
3 調査結果からの考察	92
4 おわりに	96

第4章 中高年期の生きがいと性・年齢ならびに性格行動特徴との関連

1 はじめに	99
2 方法	99
3 結果と考察	101
4 展望	108

第5章 社会参加の効果と関連要因

1 はじめに	111
2 社会参加状況の推移	111
3 性別・年代別の社会参加状況 —今回の調査結果—	118
4 高齢者の社会参加の状況	120
5 高齢者における社会参加への関連要因と生活満足度	123
6 考察とまとめ	126

第6章 働き方と生きがい

—高齢者が生きがいを持って働くためには

1 はじめに	131
2 使用するデータ	132
3 仕事に対する生きがい	134
4 誰が仕事に対する生きがいを持っているか	136
5 結びにかえて	143

第7章 単身世帯の生きがいと生活

1 はじめに	145
2 分析の視点と留意点	146
3 単身世帯と生きがい	149
4 単身世帯の仕事面の満足度	154
5 単身世帯の生活面の満足度	158
6 単身世帯の退職後	162
7 おわりに	167

第8章 男女間および現役と退職者の比較による生きがいの相違

1 はじめに	169
2 男女別の比較	170
3 現役と退職者との比較	203
4 おわりに	220

第9章 今回の生きがい調査を通して

～PLP セミナー実施に向けた調査結果のまとめ～

1 はじめに	225
2 企業年金に加入するサラリーマンにとっての生活と生きがい	226
3 企業年金のない人も含めたサラリーマンの生活と生きがい	242
4 女性にとっての生活と生きがい	256
5 おわりに	266

(資料編)

1 第5回アンケート調査票	269
2 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表	287
1 本人調査結果（企業年金あり）（第1回～第5回調査結果）	287
2 本人調査結果（企業年金なし）（第5回調査結果のみ）	308
3 配偶者調査結果（第1回～第5回調査結果）	329
3 調査票質問項目一覧表（過去調査分との質問項目対照表）	339
1 本人調査票質問項目	339
2 配偶者調査票質問項目	344

序章 調査実施概要

1 はじめに

年金シニアプラン総合研究機構では、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するとともにそのあり方を探り、これらの人々に対する定年退職後の生活に向けての支援策や生きがいを持って生活ができる政策提言に結びつけることを目的に、平成3年（1991年）から5年毎にサラリーマンシニア層を中心として、生きがいについての考え方や生活状況についてのアンケート調査を実施している。本調査は定期的（5年毎）に実施することにより、社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移の中で、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化しているかの調査も併せて実施する定点観測調査であり、今回が第5回目の調査となる。

既に第1回調査から20年が経過し、日本経済は高度成長から低成長時代へと移行し、団塊の世代¹が大量に定年を迎える中、日本人の平均寿命は第1回調査時の男性75.92歳、女性81.90歳（1990年）から男性79.64歳、女性86.39歳（2010年）²に延び、日本の高齢化率も第1回調査時の12.0%（1990年）³から23.1%（2010年）⁴に大きく上昇した。経済・雇用環境が変化し、高齢者が増加する中、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方も変化が生じているのであろうか。本稿では今回の調査結果を基に、第1回調査からの20年間にわたるサラリーマンの生活と生きがいに関する考え方の変化について報告する。

主な調査結果としては、経済・雇用環境の悪化に伴い「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのほりあい」「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。このような中、サラリーマンが生きがいを持って生活するためにはどうしたら良いのか。そのキーワードのひとつは「社会参加」と「高齢者の能力を活かす場」ではないかと考えられる。定年退職後も仕事に代わる生きがいを持てるような社会参加への「きっかけ」作りと、これらの人々が現役時代に培った能力を社会に還元し、地域社会を支える役割を担えるような仕組み作りが必要である。また、社会と企業に求められることは、これから定年退職を迎える人々に対して将来の生活不安を少しでも解消するため、若い頃からの将来の生活設計と定年退職に向けた社員教育と、公的年金を補完する「経済基盤」の整備が必要である。これらは今後の日本の超高齢社会への対策ともなり、日本の明るい未来へ繋がると思う。

¹ 日本の第一次ベビーブームに出生した1947年から1949年までの世代を指し、年間出生数は約270万人でその前後の年より約2～3割多く、3年間の出生数合計は約806万人にのぼる。これら団塊の世代が大量に60歳定年退職を迎えたのが2007～2009年である。

² 厚生労働省「第19回生命表(完全生命表)」

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/index.html>, 2011.12.7).

³ 厚生労働省「平成22年簡易生命表の概況」

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/>, 2011.12.7).

⁴ 内閣府『平成23年版 高齢社会白書』

(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html, 2011.12.7).

2 本調査研究の目的

2.1 本調査研究の目的

本調査は主に次の5つを目的として実施している。

- ① 定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析し、サラリーマンの生活と生きがいのあり方を探り、これらの人々に対する定年退職後の生活に向けての支援策の検討やこれらの人々が生きがいを持って生活ができる政策の提言に結びつける。
- ② サラリーマンシニアを中心として、生活設計についての考え方や実際の状況についてアンケート調査を通して明らかにし、これらの人々の生活実態や生きがいに関する考え方の調査分析を行う。
- ③ 本調査は、単に一時点におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するのみならず、過去の調査結果との比較により、社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移との関係の中で、生活と生きがいについての考え方の変化の調査を意図している定点観測調査であり、団塊の世代などの出生コホート(cohort)別における5年後の考え方の変化などをみることも可能である。
- ④ 本調査によりサラリーマンの定年退職後の生活ニーズを把握し、企業や当機構が提供するサラリーマン定年退職者に対するサービス「年金ライフプランセミナー」⁵の開発と充実へ繋げる。
- ⑤ 本調査結果は、定年退職者の生活と生きがいについて様々な角度から検討するための基礎的資料を社会に提供することを意図しており、厚生年金基金などを軸とする職域福祉の推進に寄与するのみならず、各企業の人事担当者や、自治体などの地域職員、中高年者の生涯教育に携わる人、または高齢社会を研究テーマとする研究機関や研究者にも広く活用され、我が国の高齢社会への対応に向けての基礎資料として活用されることを意図している。

2.2 本調査の調査対象者について

本調査の対象者は、ライフステージを4つの区間に分けた35歳から74歳までの「サラリーマン」男女である。第1回調査～第4回調査は厚生年金基金等企業年金に加入している人を対象としていたが、第5回調査は企業年金に加入していない「サラリーマン」も新たに調査対象とした。

① 35～44歳	サラリーマンシニア前期
② 45～54歳	定年準備期
③ 55～64歳	定年期
④ 65～74歳	年金生活期

⁵ 年金ライフプランセミナー（PLP：Pension Life Plan）とは、定年退職間際の人に対して、定年退職後も充実した生活を送れるよう、定年退職後に必要な年金などの基礎知識の習得や定年退職後の生活設計（ライフプラン）を作成するなど、定年退職後の生活の準備を行うことを目的としたセミナーであり、主に「健康」「家庭経済」「生きがい」を中心とした内容とされている。

2.3 本調査報告における用語について

本調査においては、男女の企業在職者及びその経験者を「サラリーマン」と呼ぶ。そのうち、現在企業に在職中の現役就業者男女を「サラリーマン現役または現役」と呼び、定年等の退職経験者男女を「サラリーマンOBまたはOB」と呼ぶ。「サラリーマンOB」は、退職後の再就職の有無は問わない。

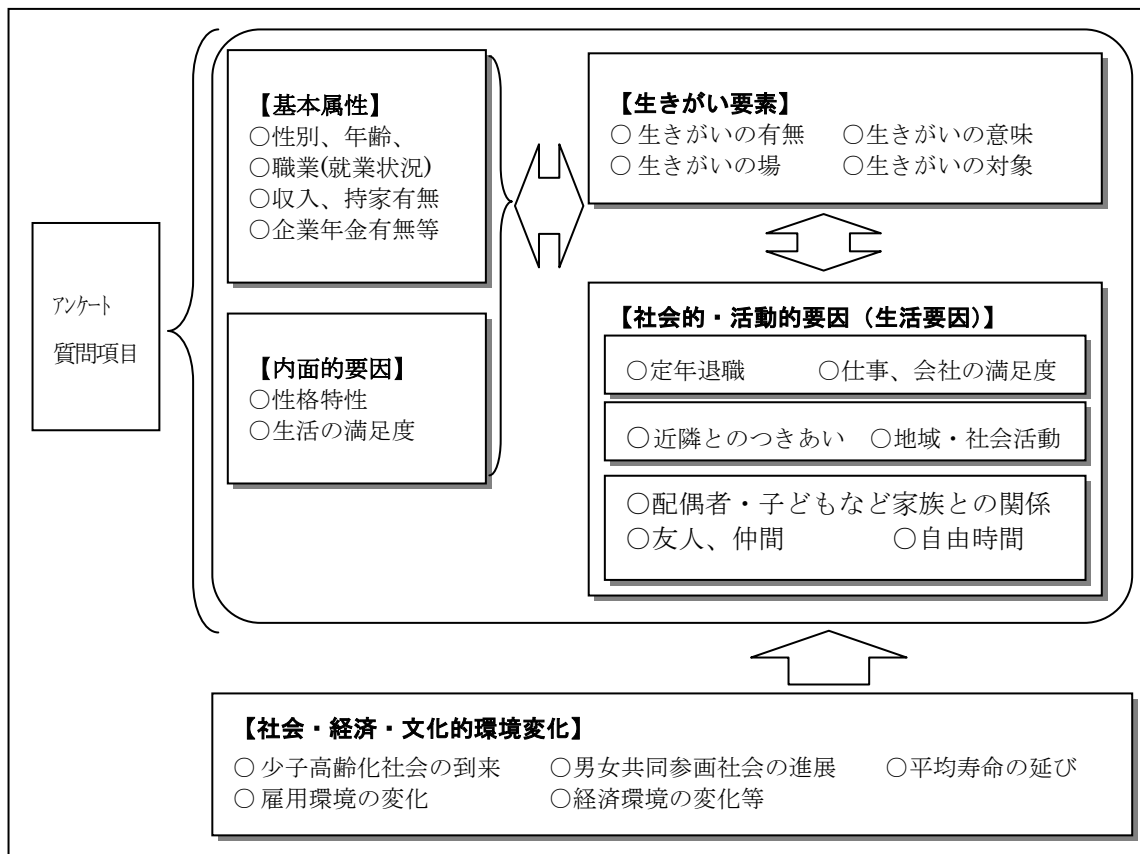
3 本調査研究の枠組み

3.1 本調査研究の基本的枠組み

本調査の枠組みは「生きがい要素」を「社会的・活動的要因」「基本属性・内面的要因」と関連付け、相互の関係を見る枠組みとしている。さらに、外枠とし調査時点の「社会・経済・文化的環境変化」から、「生きがい要素」「社会的・活動的要因」「基本属性・内面的要因」との三者との関係を見る。

- ① 生きがい要素：本調査の中核であり、生きがい観、生きがいの有無、生きがいの場、生きがいの対象を何に求めているかについて調査する。また、生活面における充足度、生きがい度の変化を確認することにより、個々の生きがい像を具体化する。
- ② 社会的・活動的要因：仕事・会社との関係（満足度）、仕事以外の近隣との付き合い、地域・社会活動、配偶者・子どもとの関係、友人関係などを見て、どのような生活上（社会関係や日常活動上）の要因が生きがい要素に影響するかを分析する。
- ③ 基本属性・内面的要因：性別、年齢、職業、健康状態などの「基本属性」及び、社会人、家庭人のうちどの立場を重視しているかという帰属意識、性格、行動特性などの個人の「内面的要因」が、生きがいの要素にどのように影響するかを分析する。
- ④ ライフステージでの推移、社会・文化的変化：定年前後におけるサラリーマンのライフステージを4つの区間（前述2.2）に分け、ライフステージの推移が、生きがい要素、関連する要因にどのように関係するかを見る。

【調査の枠組み】



3.2 前回までと同じ視点での調査項目

- ① 現在のサラリーマン層の生活実態と生きがいに関する考え方を探り、どのようなものに生きがいを感じているかを明らかにする。また、その生きがいに関する考え方が、その人の基本属性、社会的活動的要因、ライフステージなどとそのような関係にあるのかの分析を行う。
- ② 過去の調査結果との比較を行い、サラリーマンの生活設計についての考え方や実態の変化を明らかにし、その変化の要因についての分析を行う。前回調査から今回調査までの5年間の社会情勢や経済環境、雇用環境等の変化との関係の中で、生活設計についての考え方や実際の状況の変化、生活と生きがいについての意識の変化などについて明らかにしその要因を分析する。
- ③ 特に今回は第1回調査から第4回調査までとの比較を通して、第1回調査開始（1991年）から20年間における経済環境や雇用環境の変化が、サラリーマンの生活と生きがいにもどのような変化をもたらしているかの分析を行う。

3.3 第5回調査の枠組みと今回新たに追加した調査項目

- ① 前述の本調査の枠組みによる調査を行うと共に、第1回調査から第4回調査までとの比較を通して、20年間における経済環境や雇用環境の変化が、サラリーマンの生活と生きがいとどのような変化をもたらしているかの分析を行う。
- ② 従前の調査は厚生年金基金等の企業年金に加入している人に対する調査であり、経済的に恵まれたサラリーマン層への調査でもあった。近年の経済環境の低迷、企業業績の悪化、会計基準の変更、企業年金法制の改定等により、企業年金の減少が続き、企業年金に加入していない人は厚生年金被保険者の約半数になっている⁶。今回調査では「企業年金がないサラリーマン層」も調査対象に加え、サラリーマン層全体での生活実態や生きがいを明らかにするとともに、企業年金がある人との生きがいに関する考え方などの対比を行う。

4 日本の経済環境と雇用環境の変化

本調査は日本経済のバブル崩壊時の1991年に、第1回調査が実施され、その後は5年後に第2回調査(1996年)、第3回調査(2001年)、第4回調査(2006年)を実施してきた。この間、日本経済はアジア通貨危機(1997年)、ITバブル崩壊(2000年)、リーマンショック(2008年)といういくつかの経済危機と最近ではユーロ危機を経験し、日本経済も株価低迷と円高という厳しい状況となっている。雇用環境においては「男女雇用均等法」(1997年)の改正施行、「高年齢者等の雇用の安定に関する法」(2004年)の改正施行がなされ、女性の社会進出が増え、雇用者の定年延長や定年退職後の雇用継続といった就業機会が増加してきた。一方、近年の企業業績の低迷などから正規社員の割合が減り、非正規雇用という形態が増加してきており、厚生労働省が発表した「平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査」⁷によると、非正規雇用者の割合は38.7%まで上昇してきている。また、若年齢層の雇用環境も厳しい状況が続いており、文部科学省の「学校基本調査・平成23年度(速報)結果の概要」⁸によると、平成23年3月に4年制大学を卒業した学生55万3千人の内、就職が決まったのは34万人で、進学や定職に就かない進路未定者が10万7千人にのぼり、就職率は61.6%という結果であり、バブル経済崩壊後の就職氷河期(1993年～2005年)から一旦は回復(2006年～2008年)したものの、再度リーマンショック等により雇用環境は厳しい状況となっている。20年の間に、日本経済は高度経済成長から低成長時代へと移り、2007年～2009年にかけて団塊の世代が大量に60歳定年を迎える中、平均寿命は男性79.64歳、

⁶ 「企業年金に関する資料」(2010.12) 企業年金連合会によると、企業年金(厚生年金基金、適格退職年金、確定給付企業年金、確定拠出年金)の加入者数1,697万人(H22.3末)は厚生年金被保険者3,425万人の約半数49.5%である。

⁷ 「平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査」: 事業所規模5人以上の民営事業所約17,000カ所と、そこで働く労働者約51,000人を対象として、平成22年10月1日現在の状況について調査を実施したもの。

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html>, 2011.12.7).

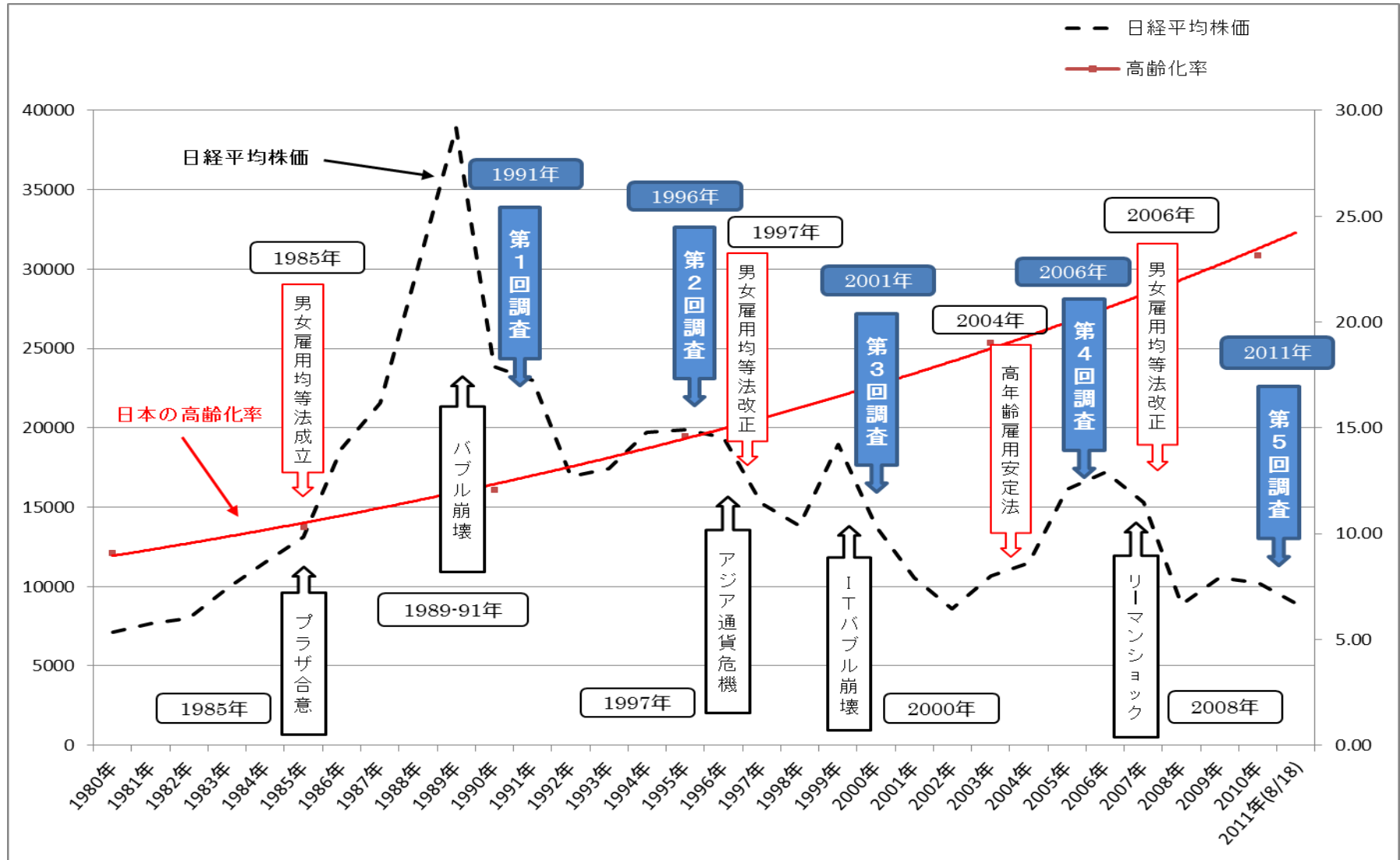
⁸ 「学校基本調査平成23年度(速報)結果の概要」: 平成23年に4年制大学を卒業した学生の就職状況を調査したもの。

(http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1309148.htm/, 2011.12.7).

女性 86.39 歳（2010 年）まで延び、高齢化率も 23.1%（2010 年）まで上昇し、日本は「超高齢社会」⁹へ移ってきた。このように経済環境、雇用環境、社会環境が著しく変化し、定年退職後の人生も長くなる中、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方や生活にも変化が生じてきているのであろうか。

⁹ 高齢化率が 7%～14%を「高齢化社会」、14%～21%を「高齢社会」、21%以上を「超高齢社会」と呼んでいる。

〔図表〕日経平均株価と日本の高齢化率の推移について



出典：日経平均株価は「日経平均プロフィール(<http://ecodb.net/other/nikkei225.html>, 2011.7.28)」、高齢化率指数は政府統計局情報 (<http://www.stat.go.jp/data/topics/topics051.htm>, 2011.7.28) より筆者が作成。

5 第1回調査～第4回調査結果の振り返り

5.1 第1回調査＜平成3年（1991年）＞

第1回	H3.10.20～H3.11.18	調査対象:200基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,000人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,000人	男性:女性(4:1)=800人:200人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	3,051人	76.3%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,573人	64.3%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,642人	

第1回調査は、バブル経済の中で物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを大切にしていく必要があるという認識のため、定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいの問題についての調査が初めて実施され、定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいに関するデータが初めて示されたものである。調査が実施された1991年は、日本経済のバブル崩壊が始まる中での調査となった。

第1回調査の主な調査結果は、生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では66.2%で、サラリーマンOBは75.3%が生きがいを持ち、現役の60.9%よりも多いという結果が得られた。また、高学歴者ほど「地域・近隣」から生きがいを得ることが少なく、「仕事・会社」と「家庭」に限られる傾向が見られた。生きがいに影響する要因としては、「帰属意識」「性格」「友人」「社会活動」が深く関与していることが指摘され、特に性格については「積極性」以外に「親和性（人との和を大切にする）」の強い人ほど生きがいを持っていることが判明し、友人を持ち、社会活動に参加することが、生きがいを持つ比率を高めると指摘した。社会活動の参加状況は、サラリーマン全体では24.8%で、サラリーマンOBの31.2%は、現役の20.7%よりも多いという結果であった。一般に、社会活動に参加している人は生活に充足感を感じ、生きがいを持つ人が多いことが判明し、社会参加の機会の拡充が必要であることを指摘した。調査結果より、豊かな定年退職後の生活を送るためには、「健康の維持・推進」「経済的基盤」「生涯楽しめる趣味を持つ」ことが必要であると指摘し、社会的対応策として、「雇用環境の維持」「定年退職者の能力を活かす場」「社会活動の機会や情報提供」などを挙げた。

5.2 第2回調査＜平成8年（1996年）＞

第2回	H8.11.6～H8.12.9	調査対象:210基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,141人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,000人	男性:女性(3:1)=750人:250人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	2,909人	70.2%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,430人	58.7%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,339人	

21世紀には4人に1人が高齢者となる超高齢社会が予測され、日本経済のバブル崩壊や日本型終身雇用制度が変化するなど社会や経済状況が変化していく中、雇用者の意識も仕事と

仕事以外の生活とのバランスを重視するようになり、サラリーマンの生活と生きがいについても、さらに追加分析する必要性が認識され、第1回調査の5年後に第2回調査が実施された。これにより初めて「サラリーマンの生活と生きがい」に関する2時点の比較が可能となった。平成8年(1996年)は、日本経済がバブル崩壊から回復に向かう中での調査となった。

第2回調査の主な調査結果では、バブル絶頂期であった第1回調査(1991年)よりもバブル崩壊後の第2回調査(1996年)の方が、生きがいを持っているサラリーマンが多いということが明らかとなった。生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では78.4%となり、前回調査よりも12.2%ポイント増加し、サラリーマンOBの85.1%、現役の74.6%ともに前回調査より10%ポイント以上も増加した。生きがいを得られる場については前回と同様に「仕事・会社」と「家庭」に集中していたが、「仕事・会社」が10%ポイント以上減少する中、「家庭」「個人的友人」「その他」が増加した。生きがいに影響する要因としては、「健康状態」が良い人ほど生きがいを持ち、「暮らし向き」が良い人ほど生きがいを持っていた。また、配偶者や子どもなどの家族が増えると生きがいを持つ人が増えることも判明した。生きがいの有無は「友人関係」「生涯学習」「社会活動」と強い相関関係があることも改めて認識された。調査結果より、将来の生活設計がしっかりできている人ほど、将来の生活にも不安が少ないことが判明し、定年退職後の生活を生きがいを持って豊かに生きるためには、将来の生活設計をしっかり持つことが大切であり、「年金ライフプランセミナー」を行う必要性を指摘し、併せて、定年退職後の生活設計は早い段階から行う必要があることも指摘した。「年金ライフプランセミナー」については、「健康」「経済」「生きがい」の3つを中心課題としているものが多いが、「再就職」や「介護」についても不安に感じており、これらに関する情報提供の必要性を指摘した。企業に求められることは、「経済的基盤整備の支援」と「就職の場の提供」であり、社会的政策として「雇用環境の維持」と「定年退職者の能力を活かす場の提供」の必要性を挙げた。サラリーマンの意識が「仕事・会社」から離れ、仕事以外の生活も大切にする傾向が進み、生きがいそのものが多様化し、その中で自分自身の生きる意味を問い直し、生きがいに対する認識がより深まっていることを指摘した。

5.3 第3回調査<平成13年(2001年)>

第3回	H13.10.17~H13.12.18	調査対象:175基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,505人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,100人	男性:女性(3:1)=750人:250人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	3,189人	70.8%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,525人	56.0%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,714人	

21世紀への今後の展望を切り開く観点から5年後に第3回目の調査が実施された。2001年は、バブル崩壊からの回復が徐々に進行する中、アジア通貨危機(1997年)、ITバブルの崩壊(2000年)という2つの経済危機を経験した直後であった。

第3回調査の主な調査結果では、生きがいを持っているサラリーマンの割合は第2回調査

から減少し、ほぼ第1回調査の水準に戻った状況となった。生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では67.3%で前回より11.1%ポイント減少し、第1回調査の66.2%と同水準となった。生きがいを得られる場については第1回調査及び第2回調査と同様に「仕事・会社」と「家庭」の2つに集中し、第2回調査と同様に「仕事・会社」が減少する一方、「家庭」「個人的友人」「その他」が増加した。第3回調査では、これから団塊世代が大量に定年退職を迎える動向や、1997年に施行された「男女雇用均等法改正」により、徐々に社会進出が著しくなってきた女性の動向についての分析を実施した。これによると、団塊世代について世代固有の傾向は認められなかったが、団塊世代は人口構成において常に大きなウェイトを占め、マクロ社会においても大きな影響を与える集団として認識しておく必要があることを指摘した。女性就業者については、未婚者が4割弱と大きなウェイトを占めており、男性と比べて異なる傾向が示された。女性就業者の未婚者は生きがいを「持っていない」「わからない」とする回答が多く、婚姻者よりも生きがいの保持率が低い結果となった。生きがいの場についても「個人的友人」が第1位を占め、「家庭」の選択傾向は低い結果であった。女性就業の変化は男女共同参画社会と密接に関係しており、今後の社会情勢の基本軸は「少子高齢化社会の進展」「雇用環境の変化」と「男女共同参画社会の進展」であるとした。また、女性については特に長生きリスクへの対処が大きな課題であることを指摘した。就業状況が多様化していく中、これらの多様性を享受し、生きがい感のある生活と社会の構築が必要であるとした。

5.4 第4回調査<平成18年(2006年)>

第4回	H18.12.7~H19.2.12	調査対象:93基金(厚生年金基金、DB基金型・規約型)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計2,928人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約700人	男性:女性(3:1)=525人:175人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	1,992人	68.0%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	1,519人	51.9%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	3,511人	

21世紀が現実となる中、2004年には「高齢者等の雇用の安定に関する法律」が改正施行され、団塊の世代が大量定年を迎える2007年問題を控えた時期であった。21世紀には高齢化人口が35%に上昇すると予想され、サラリーマンOBの生活と生きがいの動向を探ることは、21世紀の社会の方向性を探る上で重要であり、過去3つの時点の比較や現役とOBの比較、サラリーマン男女の比較を軸に21世紀の定年退職者の生活と生きがいを考えることを目的として第4回調査が実施された。特に、「定年退職者の社会参加と生きがい」「生きがいと生活満足度や性格」「生きがい喪失仮説と濡れ落ち葉仮説の検証」「夫婦関係と仕事の満足度」などの個別テーマを挙げ、これらの検証を行った。

第4回調査の主な調査結果は、生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では56.9%で第3回調査より10.4%ポイント減少し、第2回調査の78.4%から毎回10%ポイント減少してきている状況となった。生きがいを「持っていない」とする人の割合も第2回調査の11.9%、第3回調査の15.5%、第4回調査の20.9%と増えていた。生きがいを得られる場

については前回までと同様に「仕事・会社」と「家庭」の2つが主であるものの、「仕事・会社」がさらに減少する一方、「家庭」と「個人的友人」がより増加する傾向も前回までと同様であった。生きがいに影響する要因としては、地域との繋がりが深いほど「社会参加」が増え、生きがいにも繋がることを指摘した。一方、未婚者や離別者は地域との繋がりが弱いこと、社会参加が低いことや、高学歴者も社会参加が少ない傾向が判明した。また、前回までの調査と同様に、「社会参加」している人ほど、生活満足度や地位・仕事の満足度も高く、生きがいを持っていることが再認識された。

6 第5回調査の実施概要

6.1 アンケートの調査方法

- (1) 前回調査までは厚生年金基金等の企業年金へ調査を依頼し、厚生年金基金等の加入者及び受給者へ郵送による調査を行い、併せてそれらの配偶者にも調査を実施した。今回は個人情報保護法の施行（2005年4月1日施行）後、調査環境が厳しくなる中、近年、様々な調査でも実施されるようになってきたインターネット調査を使用することとした¹⁰。
- (2) インターネット調査は、調査会社に登録しているモニターに対して調査票を無作為に送信し、回答してもらうものである。サラリーマンの抽出方法としては、国民年金第2号被保険者（厚生年金保険適用者）と厚生年金の受給者を対象とし、配偶者については、国民年金の第3号被保険者を対象とした。
- (3) 配偶者については、国民年金の第3号被保険者を抽出し対象とした。配偶者調査票については、本人との比較検討のため、「会社や仕事に関する設問項目」を除き本人と同様の調査票項目での調査を行うこととした。

6.2 アンケートの調査概要

- ① 調査対象地域：全国
- ② 調査形態：インターネット調査
- ③ 調査委託先：株式会社クロス・マーケティング（モニター数 149 万人：平成 23 年 8 月現在）
- ④ 実施時期：2011 年 10 月 25 日～2011 年 10 月 28 日（本調査実施期間）
- ⑤ 調査対象者：35～74 歳の厚生年金被保険者及び厚生年金受給者とそれらの配偶者計 5,145 人
- ⑥ 調査方法：クロス・マーケティングモニター会員約 149 万人に対してネット調査（事前調査及び本調査票）を配信し、上記の年齢区分、国民年金第 2 号被保険者及び第 3 号被保険者区分、企業年金ありとなしの区分毎に回答受付順で 5,145 人のサンプル数を確保した。国民年金の被保険者区分及び年齢区分（下記回答者の分布参照）については、国民年金の第 1 号被保険者～第 3 号被保険者及び年齢構成が『社会保障審議会

¹⁰ 当機構でのインターネット調査実績：「独身女性の老後生活調査」（2010）、「企業年金がない人の意識調査」（2011）

年金数理部会「公的年金財政状況報告―平成19年度―」の比率と一致するように設定。
また、企業年金の加入有無については、企業年金連合会編『企業年金に関する基礎資料』（平成22年12月版）の比率と一致するように設定した。

調査区分	年齢	男性			女性			合計	
		第2号		(合計)	第2号		(合計)		第3号
		企業年金あり	企業年金なし		企業年金あり	企業年金なし			
(1)サラリーマン シニア前期	35-39歳	291	149	440	132	67	199	177	816
	40-44歳	245	125	370	115	59	174	153	697
(2)定年準備期	45-49歳	218	111	329	111	56	167	137	633
	50-54歳	205	105	310	102	52	154	133	597
(3)定年期	55-59歳	242	123	365	109	55	164	139	668
	60-64歳	226	115	341	91	47	138	115	594
(4)年金生活期	65-70歳	234	120	354	94	48	142	115	611
	70-74歳	192	98	290	86	44	130	109	529
(合計)		1,853	946	2,799	840	428	1,268	1,078	5,145

- (注1) 厚生労働省社会保障審議会年金数理部会「公的年金財政状況報告（平成19年度）」による35-59歳の被保険者数及び60-74歳の受給者数に基づき、男女別年齢別に割付け。
(注2) 配偶者は国民年金の第3号被保険者及び第3号被保険者だった人として割付け。60-74歳の第3号は数値がないため、厚生労働省「厚生年金・国民年金事業概況」の第3号被保険者割合（0.347%）で数値を算出して割付け。なお、厚生労働省が発表している「平成21年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」によると、男性の国民年金第3号被保険者は約11万人で、国民年金被保険者6,874万人の0.16%で調査母数が確保できないため、今回調査では対象外とした。
(注3) 企業年金ありの人は、「厚生年金基金」「確定給付企業年金」「企業型確定拠出年金」「適格退職年金」の加入者とし、企業年金連合会「企業年金に関する基礎資料（平成22年12月）」の2頁記載の数値（H21年3月末時点）より厚生年金被保険者の49.5%とした。企業年金なしの人は50.5%で割付け。
(注4) 第2号被保険者の企業年金あり（男女）については、前回調査結果との比較を行う観点から前回調査サンプル数と合わせるため、上記で算出した数値を2倍したサンプル数を確保した。
(注5) 第1回調査～第4回調査との比較分析の際は継続性の観点から「企業年金あり（男女）」のみで比較実施。

6.3 回答者の属性（調査結果より）

F1：【性別】

No.	性別	回答数	%
1	男性	2,799	54.4
2	女性	2,346	45.6
全体		5,145	100.0

F2：【婚姻状況】

No.	婚姻状況	回答数	%
1	未婚	452	8.8
2	既婚（配偶者あり）	4,336	84.3
3	既婚（離別）	255	5.0
4	既婚（死別）	102	2.0
全体		5,145	100.0

F 3 :【同一世帯内の同居状況】

No.	同一世帯内の同居状況	回答数	%
1	ひとり暮らし	452	8.8
2	自分たち夫婦だけ	1,616	31.4
3	自分たち夫婦（または自分）と未婚の子	2,184	42.4
4	自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦（ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む）	101	2.0
5	自分たち夫婦（または自分）と親（ほかに子や孫がいる場合を含む）	584	11.4
6	その他	208	4.0
全体		5,145	100.0

F 4 :【子どもの有無】

No.	子どもの有無	回答数	%
1	子どもがいる	3,908	76.0
2	子どもはいない	1,237	24.0
全体		5,145	100.0

F 5 :【子どもがいる人の子どもの状況（性別、年齢、就業、結婚）】

No.	子どもの有無	回答数	%
1	子どもがいる	3,908	76.0
2	子どもはいない	1,237	24.0
全体		5,145	100.0

No.	18歳以上の子どもの同居状況	回答数	%
1	同居	1,867	34.9
2	非同居	3,476	65.1
全体		5,343	100.0

子どもの平均人数	1.98
----------	------

No.	18歳以上の子どもの結婚状況	回答数	%
1	既婚	2,275	42.6
2	未婚	3,068	57.4
全体		5,343	100.0

No.	子どもの人数	回答数	%
1	子ども1人	944	24.2
2	子ども2人	2,185	55.9
3	子ども3人	700	17.9
4	子ども4人	72	1.8
5	子ども5人	5	0.1
6	子ども6人	0	0.0
7	子ども7人	2	0.1
全体		3,908	100.0

No.	18歳以上の子どもの就業状況	回答数	%
1	正社員	2,862	53.6
2	契約社員、派遣社員、パート、アルバイト	981	18.4
3	未就業（学生除く）	741	13.9
4	学生	759	14.2
全体		2,481	100.0

No.	子どもの性別	回答数	%
1	男の子	4,020	51.9
2	女の子	3,721	48.1
全体		7,741	100.0

F 6 :【居住形態】

No.	居住形態	回答数	%
1	持ち家（一戸建て）	3,063	59.5
2	持ち家（分譲マンション等）	1,050	20.4
3	社宅・会社の寮	108	2.1
4	公社・公団・公営の賃貸住宅	177	3.4
5	民間の借家・マンション・アパート	721	14.0
6	その他	26	0.5
全体		5,145	100.0

F 7 :【居住年数】

No.	居住年数	回答数	%
1	5年未満	646	12.6
2	5年以上～10年未満	707	13.7
3	10年以上～20年未満	1,222	23.8
4	20年以上～30年未満	816	15.9
5	30年以上	1,754	34.1
全体		5,145	100.0

F 8 :【居住地域】

No.	居住地域	回答数	%	No.	居住地域	回答数	%
1	北海道	237	4.6	25	滋賀県	65	1.3
2	青森県	28	0.5	26	京都府	119	2.3
3	岩手県	32	0.6	27	大阪府	453	8.8
4	宮城県	97	1.9	28	兵庫県	324	6.3
5	秋田県	24	0.5	29	奈良県	68	1.3
6	山形県	24	0.5	30	和歌山県	26	0.5
7	福島県	44	0.9	31	鳥取県	17	0.3
8	茨城県	92	1.8	32	島根県	9	0.2
9	栃木県	53	1.0	33	岡山県	65	1.3
10	群馬県	31	0.6	34	広島県	113	2.2
11	埼玉県	355	6.9	35	山口県	38	0.7
12	千葉県	290	5.6	36	徳島県	17	0.3
13	東京都	796	15.5	37	香川県	32	0.6
14	神奈川県	535	10.4	38	愛媛県	46	0.9
15	新潟県	57	1.1	39	高知県	17	0.3
16	富山県	39	0.8	40	福岡県	160	3.1
17	石川県	37	0.7	41	佐賀県	20	0.4
18	福井県	15	0.3	42	長崎県	38	0.7
19	山梨県	26	0.5	43	熊本県	35	0.7
20	長野県	56	1.1	44	大分県	25	0.5
21	岐阜県	50	1.0	45	宮崎県	21	0.4
22	静岡県	114	2.2	46	鹿児島県	26	0.5
23	愛知県	289	5.6	47	沖縄県	20	0.4
24	三重県	70	1.4	全体		5,145	100.0

F 9 :【就業状況・形態】

No.	就業状況・形態	回答数	%
1	正社員	2,195	42.7
2	契約社員・嘱託	164	3.2
3	派遣社員	39	0.8
4	パート・アルバイト	438	8.5
5	自営業・自由業・家族従業員	323	6.3
6	内職	30	0.6
7	シルバー人材センター（高齢者事業団）	18	0.3
8	無職	1,938	37.7
全体		5,145	100.0

F 10 :【現在就業している人の就業状況、職種、従業員数】

No.	業種	回答数	%
1	水産・農林	12	0.4
2	鉱業	11	0.3
3	建設	252	7.9
4	食料品	69	2.2
5	繊維製品、パルプ・紙	42	1.3
6	化学、医薬品	98	3.1
7	石油・石炭	12	0.4
8	ゴム製品、ガラス・土石製品	16	0.5
9	鉄鋼、非鉄金属、金属製品	79	2.5
10	機械、電気機器	197	6.1
11	輸送用機器、精密機器、その他製品	148	4.6
12	卸売業、小売業	314	9.8
13	銀行、証券、保険、その他金融	107	3.3
14	不動産	103	3.2
15	運輸（陸運、海運、空運）、倉庫	133	4.1
16	通信	82	2.6
17	電気・ガス	31	1.0
18	サービス	626	19.5
19	公官庁	100	3.1
20	その他	775	24.2
全体		3,207	100.0

No.	職種	回答数	%
1	専門技術職（研究職・技師等）	486	15.2
2	管理職（役員・課長以上の管理職）	799	24.9
3	事務職（一般事務・営業・経理事務等）	885	27.6
4	販売職（店員・セールス等）	214	6.7
5	技能職	384	12.0
6	サービス職（添乗員・ホテルマン等）	113	3.5
7	その他	326	10.2
全体		3,207	100.0

No.	従業員数	回答数	%
1	1～29人	976	30.4
2	30～99人	491	15.3
3	100～299人	447	13.9
4	300～999人	403	12.6
5	1000人以上	722	22.5
6	わからない	168	5.2
全体		3,207	100.0

F11：【現在就業している人の労働日数、労働時間】

1週間の平均労働日数	4.85
------------	------

1日の平均労働時間（残業時間含む）	8.00
-------------------	------

No.	1週間の労働日数	回答数	%
1	1日	49	1.5
2	2日	99	3.1
3	3日	174	5.4
4	4日	212	6.6
5	5日	2,144	66.9
6	6日	480	15.0
7	7日	49	1.5
全体		3,207	100.0

No.	1日の労働時間 (残業時間含む)	回答数	%
1	3時間以下	168	5.2
2	4～5時間	290	9.0
3	6～8時間	1,663	51.9
4	9～11時間	911	28.4
5	12～14時間	131	4.1
6	15時間以上	44	1.4
全体		3,207	100.0

F12：【会社の定年年齢】

(定年がない会社は自分で考えている退職年齢)

No.	会社の定年年齢	回答数	%
1	60歳未満	47	2.8
2	60歳	1,270	75.7
3	61歳	2	0.1
4	62歳	22	1.3
5	63歳	22	1.3
6	64歳	5	0.3
7	65歳	269	16.0
8	66～69歳	5	0.3
9	70歳以上	35	2.1
全体		1,677	100.0

F13：【定年前に退職した年齢】

No.	定年前の退職年齢	回答数	%
1	29歳以下	92	16.5
2	30～34歳	27	4.8
3	35～39歳	16	2.9
4	40～44歳	16	2.9
5	45～49歳	28	5.0
6	50～54歳	102	18.3
7	55～59歳	219	39.2
8	60歳以上	58	10.4
全体		558	100.0

F14：【定年退職者の実際の定年年齢】

No.	実際に定年退職した年齢	回答数	%
1	55歳以下	29	3.9
2	56～60歳	520	69.4
3	61～64歳	112	15.0
4	65歳以上	88	11.7
全体		749	100.0

F 15 : 【世帯年収（夫婦合わせて）】

No.	世帯年収（夫婦合わせて）	回答数	%
1	200万円未満	201	3.9
2	200万円以上～300万円未満	406	7.9
3	300万円以上～400万円未満	636	12.4
4	400万円以上～500万円未満	670	13.0
5	500万円以上～600万円未満	625	12.1
6	600万円以上～800万円未満	910	17.7
7	800万円以上～1000万円未満	641	12.5
8	1000万円以上～1500万円未満	495	9.6
9	1500万円以上	190	3.7
10	わからない	371	7.2
全体		5,145	100.0

F 16 : 【世帯の金融資産残高（夫婦合わせて、不動産は除く）】

No.	世帯の金融資産残高（夫婦合わせて）	回答数	%
1	なし	253	4.9
2	100万円未満	420	8.2
3	100万円以上～500万円未満	1,004	19.5
4	500万円以上～1000万円未満	675	13.1
5	1000万円以上～2000万円未満	717	13.9
6	2000万円以上～5000万円未満	729	14.2
7	5000万円以上～1億円未満	227	4.4
8	1億円以上	77	1.5
9	わからない	1,043	20.3
全体		5,145	100.0

F 17 : 【住宅ローン残高】

No.	住宅ローン残高	回答数	%
1	100万円未満	34	2.1
2	100万円以上～500万円未満	153	9.6
3	500万円以上～1000万円未満	286	18.0
4	1000万円以上～2000万円未満	542	34.1
5	2000万円以上～5000万円未満	443	27.9
6	5000万円以上～1億円未満	17	1.1
7	1億円以上	0	0.0
8	わからない	113	7.1
全体		1,588	100.0

F 18 : 【住宅ローンの残年数】

No.	住宅ローン残年数	回答数	%
1	4年以下	125	7.9
2	5～9年	241	15.2
3	10～14年	263	16.6
4	15～19年	248	15.6
5	20～24年	275	17.3
6	25～29年	209	13.2
7	30年以上	227	14.3
全体		1,588	100.0

F19 : 【最終学歴】

No.	最終学歴	回答数	%
1	小学校・高等小学校・新制中学校	196	3.8
2	旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校・新制高等学校	1,160	22.5
3	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	733	14.2
4	大学・大学院	2,396	46.6
5	専門学校・専修学校	565	11.0
6	その他	95	1.8
	全体	5,145	100.0

第1章 総括

1 本調査の意義

本調査は、次のような趣旨から平成3（1991）年に始められた。

サラリーマンにとっては人生の大きな節目となり、また生きがいが大きく影響を及ぼすと想定される「定年退職」を中心に据え、その生活転換期の前後にある現役のサラリーマンやサラリーマンOBの生活実態、生活意識、将来展望、生活上の諸問題等を把握して、今日的なサラリーマンシニア像とともに、将来のサラリーマンシニア像をも明らかにし、併せて、豊かな老後生活への支援策や問題解決策の検討に資することを目的としている（第1回調査研究報告書『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査』P.13）。

以来この趣旨の下、5年毎に調査を重ね今回で5回目となった。この間20年にわたり経済社会の動向を映してきた。

「サラリーマンの生活と生きがい」調査は、サラリーマン（この中には、当然のことながら、サラリーウーマンも含まれる）の就労期から定年後の生活まで網羅するライフコースのほぼ全体を視野に入れたもので、調査の観点は、各ライフサイクル（各年齢階層）上での生活と生きがい、定年後の生活へ向けた就労期における備え、という2つに括ることができるだろう。

一般に、どの年齢であろうとも生きがいを持つことや生活に充足感を持ち満足することが大切なことは論を待たない。生きがいや生活の満足度は、人々の幸福度を表す1つの指標といえよう。その意味で、これらを探る本調査は意義あるものと思われるが、さらに生きがいに関する次のような内容を持つところにもユニークで大きな特長を有すると思う。

それはまず、生きがいそのものを多面的に構造的に捉えようとする試みである。生きがいについて直接的に聞く一連の問いでは、最初に生きがいの「意味」（生きる喜びや満足感、心の安らぎや気晴らし…）を問い、そしてそうした生きがいを持っているかの「有無」を問う流れである。さらにそうした生きがいの「対象」（仕事、趣味、子ども・孫・親などの家族・家庭…）とそれの得られる「場」（仕事・会社、家庭、地域・近隣、個人的友人…）を問うように配列されている。人々の持つそれぞれの生きがい感に関連づけながら、その有無や対象、得られる場を捉えようとしている。

次に、生きがいとそれに深く関わる生活の諸側面とを関連付けていることである。仕事、地域生活、社会活動、家族関係、友人・仲間、定年後の生活（経済）とその展望、準備などである。

これらを性別、年齢階層別でも比較することで、サラリーマンの生活と生きがいに関する各ライフステージを踏まえた、擬似的ではあるものの、ライフコースにわたる鳥瞰図が得られることになる。そしてこれにより、今の生活をどう向上させていくか、また定年後への展

望では自らの備え、会社への期待（PLP（ペンション・ライフ・プラン）セミナーの充実ほか）、社会への期待等を導き出すこともできるだろう。

さて以下の第2節から第4節までは、各詳細をそれぞれ該当する章に譲り、ここでは筆者の理解に沿った概要としてまとめてみたい。

2 今回調査結果の概要

2.1 第5回調査結果（第2章）

今回調査の結果を主に35歳から74歳まで10歳刻みにした年齢階層でみると次のようであった。

現在働いている人にとっての仕事や職場の満足度では、これを「全体として」への回答でみると、「とても満足している」と「やや満足している」の合計が、35～44歳の44.5%に対して65～74歳では67.1%と、若年齢層ほど満足度が低かった。35～44歳に注目すると、「どちらともいえない」が32.4%、「やや不満である」と「とても不満である」の合計が23.0%であり、この層の仕事や職場の満足度はやや低めとなった。これは、「賃金」と「業績評価の公平さ」への不満度が高かったことを反映したものとみられる。

生活の満足度では、健康、経済的ゆとり、家族や友人等で概ね「満たされている」との回答が多かった。ただし、これまでの調査と同様、近隣との交流、社会に役立つことでは、「どちらともいえない」が最多で、概ね満足度は低かった。

社会活動への参加状況は、「定期的に参加している」と「ときどき参加している」の合計が、35～44歳の21.6%に対して65～74歳では37.5%と、高年齢層ほど高かった。なお、不参加者に対する今後の参加意向において、「積極的に参加したい」と「条件によっては参加してもよい」の合計が35～44歳で54.4%、65～74歳で57.3%あることは注目される。

生きがいに関して、その意味では、すべての年齢層で「生きる喜びや満足感」、「生活の活力やはりあい」、「心の安らぎや気晴らし」が上位3つであった。そうした生きがいを持っているかでは、「持っている」が35～44歳で48.0%、45～54歳で48.5%、55～64歳で55.6%、65～74歳で68.9%となった。若年層ほど仕事、子育て等で経済的ゆとり、精神的ゆとりが乏しいためだろうが、その生きがい保有率は必ずしも高くない。

生きがいの対象では、35～44歳をみると、「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「趣味」、「配偶者・結婚生活」、「仕事」の順となり、仕事の順位は高くないのが現状である。65～74歳は、「趣味」、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の順になっている。

定年前に、定年退職に向け個人として必要なことへの回答（複数回答3つまで）をみると、すでに定年を経験している65～74歳では、「健康の維持・増進を心がける」（63.9%）、「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」（59.9%）、「生涯楽しめる趣味などを持つ」（52.9%）が上位3つで、次の「夫婦・家族の関係を大切にする」（32.5%）を大きく引き離れた。この回答状況が、年金生活期にある方々の実感とみられよう。これに対して、35～44歳でも、上位4つの項目はまったく同じであった。ただ「生涯楽しめる趣味などを持つ」が37.8%であるの

で、65～74歳の回答からは、趣味等定年後に何か打ち込めるものを用意せよとのメッセージとして受け止めることができるかもしれない。

定年退職に向け企業に期待する条件整備では、どの年齢層でも定年年齢の延長と定年後の再雇用が上位2つで、次に65～74歳の声に聞くと、「企業年金の充実など経済的基盤充実に力を入れる」、「退職準備教育などを充実させる」、「中高年の能力再開の研修制度を充実させる」であった。社会に期待する条件整備では、「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」と「定年退職者の能力を活かす場を増やす」の2つが圧倒的上位であった。

2.2 今回調査結果における男女比較（第8章）

ここでは、今回調査結果での男女間の比較を取り上げたい。

現在働いている人にとっての仕事や職場の満足度を「全体として」への回答でみると、満足計（「とても満足している」と「やや満足している」の合計。以下同様）は、女性の50.5%に対して男性は47.1%と、女性の方がやや高かった。これは、「仕事の内容」、「職場の人間関係・雰囲気」などで女性の満足度の方が高かったことによるだろう。反面、「職場での地位の高さ」、「業績評価での公平さ」では、女性の方の満足度（満足計－不満計）が低く、この点は過年度から続く課題である。

生活の満足度では、各項目で男性に比べ女性の満足計が高いものは「健康」、「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」、「友人・仲間」、「近隣との交流」などであった。男性の方が高かったものは「熱中できる趣味」、「仕事のやりがい」、「社会的地位」、「自然とのふれあい」などであった。

生きがいの保有率については、男女計55.9%の中で、男性が55.4%、女性が57.0%で、心持ち女性の方が高かった。

生きがいの対象では、回答率で男性の方が高いものは「趣味」、「仕事」、「スポーツ」、「配偶者・結婚生活」など、女性の方が高いものは「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「友人など家族以外の人との交流」などであった。

定年前に、定年退職に向け個人として準備していることでは、男女とも「健康の維持・増進を心がける」と「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」が他を引き離しての上位2つとなるが、特に「友人や仲間との交流を深める」では女性回答率が男性に比べ高かった。

総じていえば、生活面では男性に比べ女性の方が、より家族、友人志向といえる。

3 本調査 20年の歩みに見る生きがい状況（第3章）

今回を含む5回の調査から過去20年間における傾向を、生きがいを中心にみると次のとおりである。

生きがいの意味は、「生きる喜びや満足感」が一貫して1位であった。これに加えた「生活の活力ややりがい」、「心の安らぎや気晴らし」が、ほぼ上位3つを占めてきた。

今回「心の安らぎや気晴らし」が2位に上がり、傾向的に「生活のリズムやメリハリ」、「人観や価値観の形成」への回答率が増加する一方、「他人や社会の役に立っていると感じること」、「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」への回答率が減少していることを考慮すると、生きがいの意味が、活動的なものから心の安らぎといった内面的なものへ向かっていると窺われる。

そうした生きがいの有無は、「持っている」が55.9%と全体では過半数を超えるものの、傾向としては低下してきている(第1回66.2%→第2回78.4%→第3回67.3%→第4回56.9%)。このような生きがい保有率の低下トレンドは、本調査から抽出される無視し得ないファクト・ファインディングの1つだろう。

生きがいの対象では、「仕事」への回答率が傾向的に減少し、「趣味」や「ひとりで気ままに過ごすこと」への回答率が増えてきた。

生きがいの有無に影響を及ぼす生活満足度をみると、満足計の比率が傾向的に増加してきたものに「時間的ゆとり」がある。一方、減少してきたものは「健康」、「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」、「家族の愛情・理解」、「友人・仲間」、「仕事のやりあい」、「社会的地位」、「自然とのふれあい」など、かなりの項目にのぼる。生きがいの対象や生活満足度でみる仕事については、長引く経済社会の厳しい環境が色濃く投影されているのだろう。

社会活動への参加状況では、今回結果が「定期的に参加している」9.3%、「ときどき参加している」19.4%、「以前に参加したことがある」16.7%、「参加していない」54.6%であった。この回答率の過去20年間の傾向は、「定期的に参加している」がやや減少、「ときどき参加している」が増加である。また、「以前に参加したことがある」が今回かなり増えた。

注目したいのは、不参加理由と不参加者の今後の活動(参加)意向である。不参加理由では、常に「時間がない」、「精神的ゆとりがない」、「何から始めるか、きっかけがつかめない」、「自分に合った活動の場所がない」が上位4つを占めるが、後者2つへの高い回答状況と、不参加者の今後の活動(参加)意向における「条件によっては参加してもよい」への高回答率(単一回答で56.1%)を考え合わせれば、工夫しただけでは社会活動への参加率を引き上げ得る可能性を示唆しよう。この傾向は過去20年変わっておらず、地域、活動団体、企業、行政等の一層の施策努力が期待されると思う。

定年退職に向け個人として必要なことへの回答をみると、「健康の維持・増進を心がける」、「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」、「生涯楽しめる趣味などを持つ」が、過去一貫してこの順番で上位3つを占めてきた。まさに、いわゆる健やかな生活の3要素“健康”、“経済(所得)”、“生きがい(趣味等)”と一致する結果となっている。

定年退職に向け企業に期待する条件整備では、定年年齢の延長と定年後の再雇用への回答率が傾向的に増加してきた。これに「企業年金の充実など経済的基盤充実に力を入れる」、「退職準備教育などを充実させる」を加えたものが一貫して上位4つであった。

社会に期待する条件整備では、「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」、「定年退職者の能力を活かす場を増やす」、「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」が一貫して上位3つであった。

4 テーマ別の調査分析論文

今回調査においては、本研究会メンバーの方々に次のテーマで調査分析いただいた。大変興味深く貴重な内容のため是非各本文をお読みいただきたいが、ここでは誤解を恐れず筆者なりに理解した内容を概略することとしたい。

4.1 中高年期の生きがいと性・年齢ならびに性格行動特徴との関連（第4章）

まず、本論文では冒頭に取り上げられている生きがい概念が1つのキーワードである。それは、「柴田（2002）は、生きがいについて、自立した生活機能と人生や生活への満足感すなわちQOL（Quality of Life：生活の質）に、生産性すなわち役割意識や達成感を加えた日本型のサクセスフル・エイジングの概念であると述べている」との指摘である。

そして1つの傾向として次が指摘されている。「男女とも「他人や社会の役に立っていると感じる」と生きがいの意味とする割合が低かったことがある。この項目の選択率は、第1回調査から今回まで下がり続けてきた。また「自分自身の向上」も同様な一方、「生活のリズムやメリハリ」のみは漸増してきた。「これら…の一連の結果は、生きがいの意味が、生産性よりもQOLを重視する方向に変化しつつあることを示しているように思われる」。

性格行動特徴13項目についての因子分析により、「協調性」、「独自性」、「意欲」の3因子が抽出されている。これら3因子の尺度から対象者が分類され、3つのクラスターが作られた。すなわち、性格行動特徴の類型としての積極型（3つの尺度得点がどれも高い群）、平均型（3つの尺度得点が平均的な群）、消極型（3つの尺度得点がどれも低い群）である。その上で、生きがい保有率をクラスター間で比較したところ、「持っている」の割合は、積極型83.0%、平均型54.3%、消極型37.1%であった。

性格行動特徴と生きがいの意味との関係からは、「我が国の中高年世代の性格行動類型は、積極型から消極型へと変容しつつあるのかもしれない」。

こうした分析を基に、消極型に対しては、あくまでこれを個性としその性格行動特徴を尊重しつつ、「生きがいの獲得や喪失予防という観点から有用なアプローチを考案することが課題」とされ、その方策にかかわる示唆が与えられている。

4.2 社会参加の効果と関連要因（第5章）

「近年、社会参加への要請が高まり、またそれを受けて社会参加に対する関心が高まっている。社会参加は、生きがいや生活の満足度への好影響が認められているが、社会活動の参加者の劇的な増加には至っていない」状況下で、本調査でも、第2回調査を除き、これを重要な領域として取り上げてきた。

社会参加率を参加計（「定期的に参加」と「ときどき参加」の合計）で計ると、第1回調査以降概ね25%前後で推移してきたが、より仔細にみると参加率は「増加傾向にあるが、これは参加のしかたが「定期的に参加」より「ときどき参加」が増加しているためである」。

生きがいの有無に関しては、「これまでの調査報告より、社会活動に参加している人ほど生

きがいを持っている傾向があることが判明している。今回調査の実際の割合でもその傾向は認められた」。また、「今回調査においても社会参加している人ほど生活の満足を感じていることが明らかになった」。「社会活動を定期的に行っている人ほど生きがいを持っており、また生活の満足度は高いので、社会参加を促進することは社会的意味のあることである」。

今回調査の分析からは、社会活動が地域で行われ、実際に活動するかどうかは活動内容によって決められ、「やりがいのある活動団体では「個人または個人の集まり」が高かった」ので、今後の社会参加促進に向けては、たとえば「町内会や自治会は魅力ある活動の場を提供する」こと、「地域住民に単発的な活動をいくつも呼びかけるのも良いかもしれ」ず、そうして「ときどきの参加」の活動を増やすことが大切だと考える。また、これからは個人的な集まりで活動が行えるような環境整備も求められるようになると考えられる。

4.3 働き方と生きがい—高齢者が生きがいを持って働くためには（第6章）

本論文では「少子高齢化に伴い高齢者が生涯働く環境作りが求められている中で、仕事に対する生きがいを感じたり持ったりしているのだろうかという疑問」が検討された。

仕事に対する生きがいに関しては、「仕事に現在生きがいを感じている者の割合を見てみると、男性は3割前後であり、年齢階層によって大きな違いはない。しかし、女性では65～69歳で年齢計より10ポイント以上高い一方、年齢の若い層では低い傾向も多少みられる」。次に「仕事に現在生きがいを感じていて、かつ現在生きがいを持っている者の割合は、男性では2割が該当する。ただし、年齢が高くなるにつれてその割合が高くなっている傾向がみられる。女性では年齢計で15.4%が該当し、男性同様年齢が高くなるにつれて、その割合が高くなる傾向が多少みられる」。

「仕事や職場についての満足度」をみると、「仕事の内容が満足であるほど、職場での地位の高さが満足であるほど、そして職場の人間関係や雰囲気が良いほど、仕事に対して生きがいを感じ、かつ生きがいを持ちやすいことが分かった」。とりわけ、「仕事内容をいかに満足させるかが、仕事に生きがいを感じ、生きがいを持つためには重要な要素であるといえる」。

仕事内容の満足度については、特に男性60歳以上の場合、「仕事内容に満足をしていると生きがいを感じやすく生きがいを持ちやすい」。また、この年齢層では、職場の地位の高さや職場の人間関係や雰囲気は統計的に有意な影響を与えない。このため、高齢者（とりわけ定年退職経験者）については「仕事内容に満足できるよう、企業側も面談等を行い労働者の意向を把握し、可能な限り仕事内容に満足するような配慮をしていくことが求められているといえる」。

4.4 単身世帯の生活と生きがい（第7章）

すでに「1980年代より単身世帯が趨勢的に増加しており、…今後は…特に、中高年男性の単身世帯の増加は著しい」ことが見込まれている。これを踏まえれば、単身世帯の生活と生きがい状況を把握しておくことの必要性が高いことが了解される。

「単身世帯と二人以上世帯で生きがいをもつ人の割合を比べると、単身世帯では生きがい

をもつ人の割合が低い」。

また、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」の比較において、生きがいの対象をみると、前者の比率が後者を上回っていたのは、「趣味」、「仕事」、「家族・家庭」、「スポーツ」、「学習活動」、「社会活動」である。このうち「仕事」は、両者の「比率の差がもっとも大きい項目となっており、「生きがいをもつ単身世帯」では単身男性を中心に「仕事」が重要な要素となっている」。一方、「生きがいをもたない単身世帯」では、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人が41.1%いる。こうしたことから「一概にはいえないが、生きがいへの寄与は、一人で活動することよりも他者との交流の方が強いかもしれない」。このため、「単身男性では「人との交流」を重視し、…単身男性が人との交流の場を得られるような社会の枠組み作りも必要であろう」。

単身世帯の男女比較においては、「単身女性は「友人など家族以外の人との交流」「家族・家庭」といった「人との交流」を生きがいの対象とする人の割合が高い」。

また、「仕事や職場に対する満足度をみると、…、特に単身女性で仕事に不満をもつ人の割合が高い。「今後、単身女性の仕事への満足度を高めることが重要になる。そのためには、賃金や業務評価などの点を含め、男女を平等に扱う雇用慣行の強化が求められる」。

5 今後に向けて

以上第2節から第4節まで、今回調査結果にかかわる分析内容の概要を紹介してきた。それぞれ本文に当たっていただきたいが、サラリーマンの生活と生きがいに関し数多くの重要な指摘と対応策への示唆が得られたと思う。本調査は、こうして経済社会の情勢を映し出しており、調査分析結果を活かしていくべきことを考慮すれば、今後とも5年毎に継続実施していく意義が高いと思われる。

本調査は、調査対象が35歳から74歳までをカバーし、仕事、生活、生活満足度、生きがい、定年後への備えなど幅広い領域を扱っているため、多くの方々にとってより良い生活を送っていただくためのヒントが多数含まれていると思う。その意味からも、これを大いにご利用いただけることを願ってやまない。

第2章 第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査結果の概要

1 はじめに

本章では、今回行った第5回調査結果の単純集計結果を記載する。単純集計結果については、各年齢階層別での集計と、企業年金への加入有無による集計結果を行っている。また、質問項目により配偶者の集計結果を併せて掲載している。男女別の単純集計結果については、第8章を参照頂きたい。なお、本調査における年齢階層は次の分類としている。

① 35～44 歳	サラリーマンシニア前期
② 45～54 歳	定年準備期
③ 55～64 歳	定年期
④ 65～74 歳	年金生活期

主な調査結果としては、経済・雇用環境の悪化に伴い「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのはりあい」「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。このような中、サラリーマンが生きがいを持って生活するためにはどうしたら良いのか。そのキーワードのひとつは「社会参加」と「高齢者の能力を活かす場」ではないかと考えられる。定年退職後も仕事に代わる生きがいを持てるような社会参加への「きっかけ」作りと、これらの人々が現役時代に培った能力を社会に還元し、地域社会を支える役割を担えるような仕組み作りが必要である。また、社会と企業に求められることは、これから定年退職を迎える人々に対して将来の生活不安を少しでも解消するため、若い頃からの将来の生活設計と定年退職に向けた年金教育と、公的年金を補完するような「経済基盤」の整備作りが必要である。第2節以降では主な調査項目の結果を抜粋して述べる。

2 第5回調査結果の概要

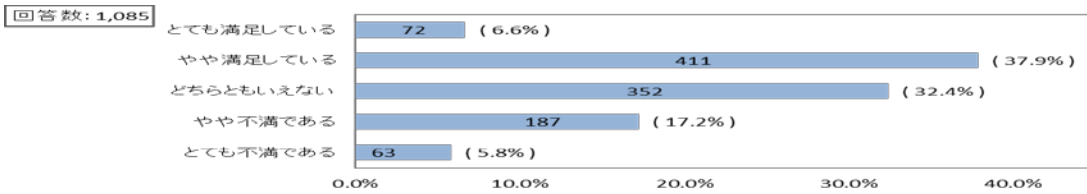
2.1 職場環境や生活環境の満足度について

【問 10】 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。(1)～(8)のそれぞれについてお答えください。((1)から(8)まで、回答は1つずつ)

(1)仕事の内容、(2)就業形態、(3)職場での地位の高さ、(4)賃金、
(5)業績評価の公平さ、(6)福利厚生、(7)職場の人間関係・雰囲気、
(8)全体として

<(8)全体としての回答結果>

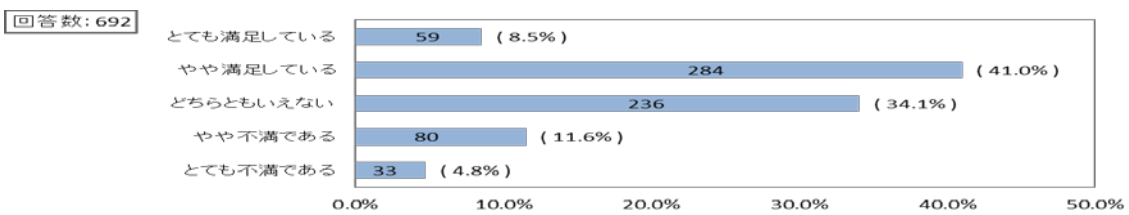
(35-44 歳)



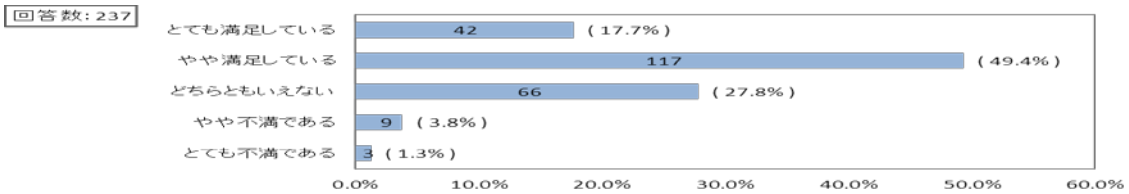
(45-54 歳)



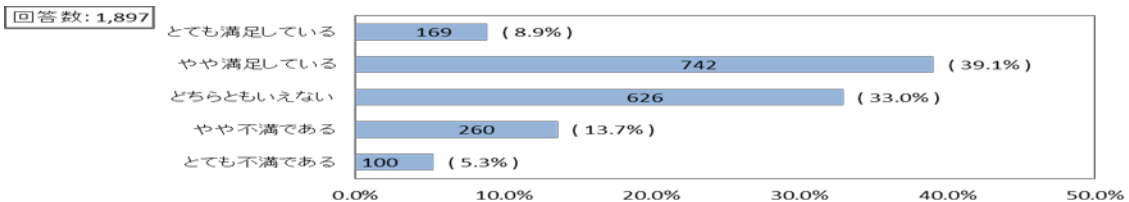
(55-64 歳)



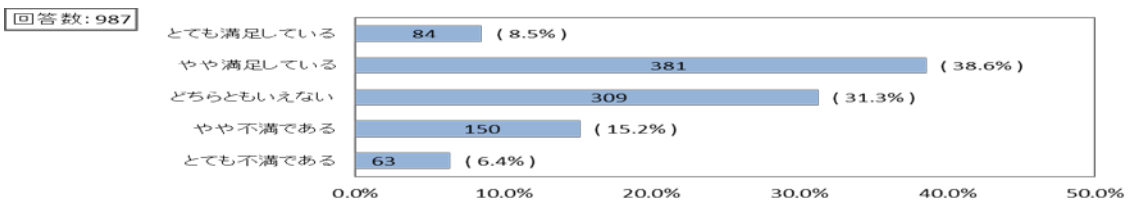
(65-74 歳)



(企業年金あり)



(企業年金なし)



現在働いている人に対して仕事や職場の満足度について聞いたところ、「(8)全体として」をみると、35～44歳で「とても満足している」と「やや満足している」の合計は44.5%、45～54歳で44.9%、55～64歳で49.5%、65～74歳で67.1%と、若年齢層ほど満足度が低く、65～74歳では満足度が高い状況であった。35～44歳、45～54歳、55～64歳では共通

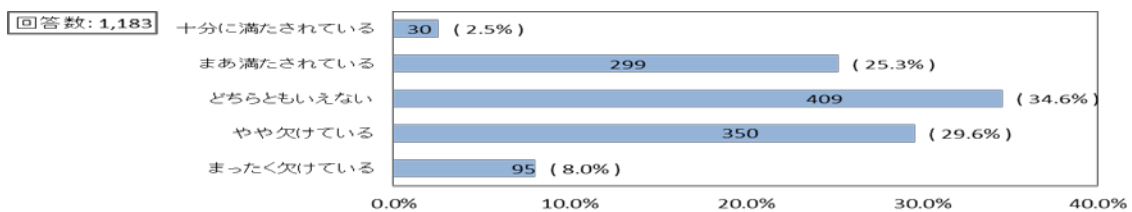
して「(4)賃金」と「(5)業績評価の公平さ」では「満足である」より「不満である」の方が多く、満足度が低い状況であった。一方、全年齢層で満足度が高かったのは、「(1)仕事の内容」、「(2)就業形態」、「(7)職場」であった。また、企業年金の有無では大きな差異はなかった。「仕事の内容」や「就業形態」、「職場の人間関係」には満足しているものの、「賃金」や「業績評価の公平さ」に不満を持っていることが伺える。

【問 13】現在のあなたの生活で、次の(1)から(12)の項目についてどの程度満たされていると思いますか。(単一回答)

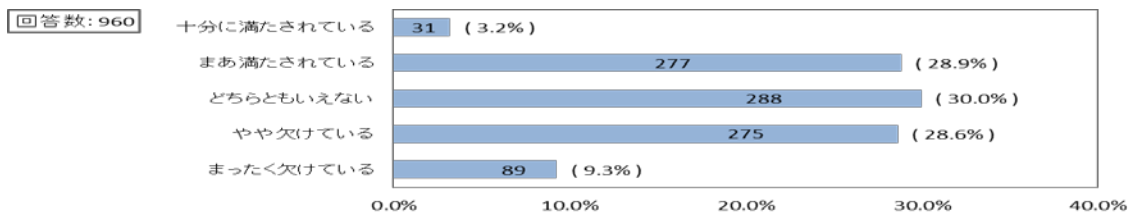
- (1)健康、(2)時間的ゆとり、(3)経済的ゆとり、(4)精神的ゆとり、(5)家族の理解・愛情、
 (6)友人・仲間、(7)熱中できる趣味、(8)仕事のやりがい、(9)社会的地位、
 (10)自然とのふれあい、(11)近隣との交流、(12)社会の役に立つこと、(13)住まいのこと

<(4)精神的ゆとりについての回答結果>

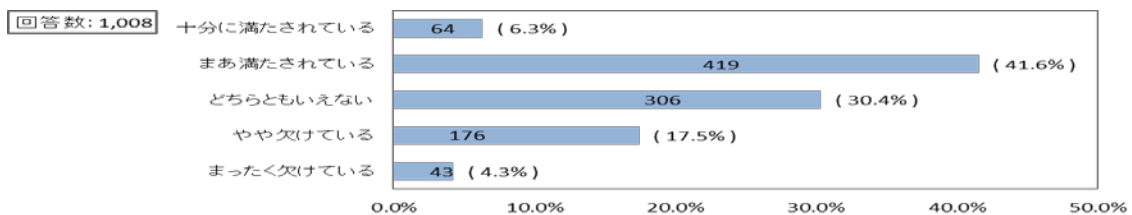
(35-44 歳)



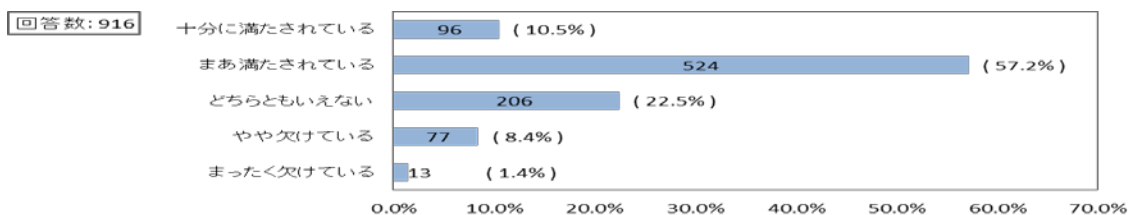
(45-54 歳)



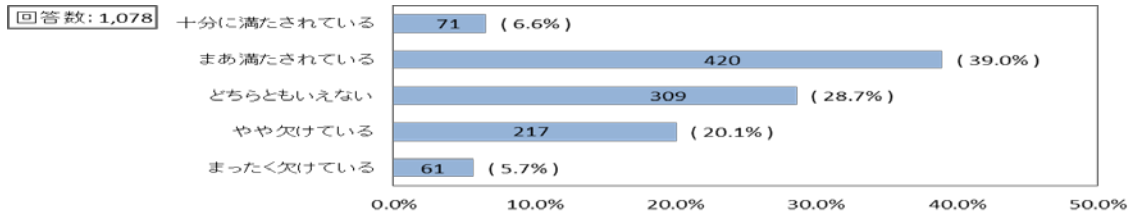
(55-64 歳)



(65-74 歳)



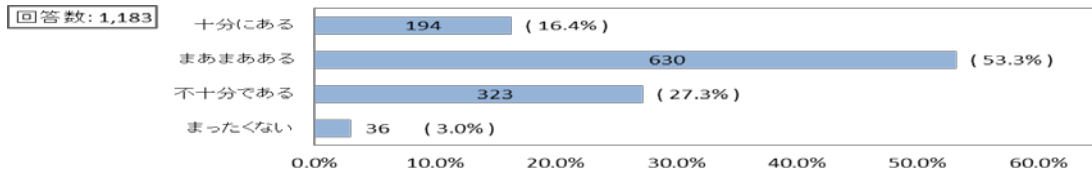
(配偶者)



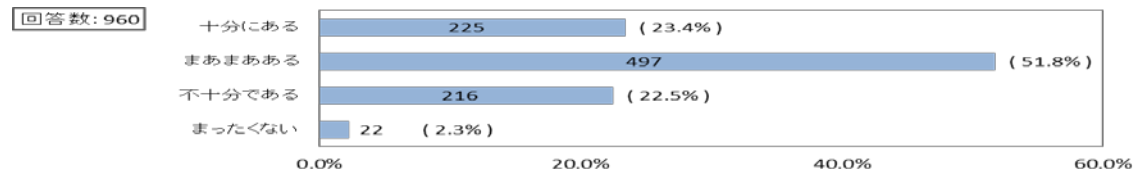
全体では(1)～(10)までは「満たされている」とした回答が多かったが、「(11)近隣との交流」と「(12)社会の役に立つこと」については、「満たされている」とした回答が低く「どちらともいえない」が一番多かった。「(3)経済的ゆとり」と「(4)精神的ゆとり」については、「満たされている」とする回答が少なく、「やや欠けている」とする回答が多かった。「時間的ゆとり」はあるものの、「経済的ゆとり」と「精神的ゆとり」がない状況となっており、これは近年の経済環境と雇用環境の悪化によるものではないかと推測される。「(4)精神的ゆとり」について年齢別にみると、35～44歳で「十分満たされている」と「まあ満たされている」の合計は27.8%、45～54歳で32.1%、55～64歳で47.9%、65～74歳で67.7%と、年齢とともに満足度が上昇し、特に65～74歳では満足度が高い状況であった。やはり就業時は仕事に忙しく精神的ゆとりがない状況で、定年退職により時間的ゆとりが得られると、精神的ゆとりも得られるのではないかと思われる。若い頃から精神的ゆとりが持てるような社会が望まれる。また、「(11)近隣との交流」と「(12)社会の役に立つこと」が満たされていないと感じているのは、社会参加が少なく、近隣との交流や、社会に役立つ活動が少ない結果と見えよう。

【問 11】あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。(単一回答)

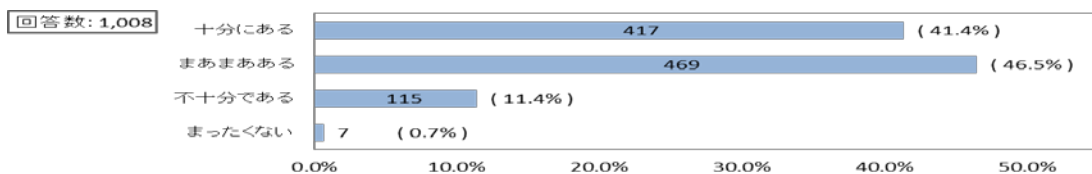
(35-44 歳)



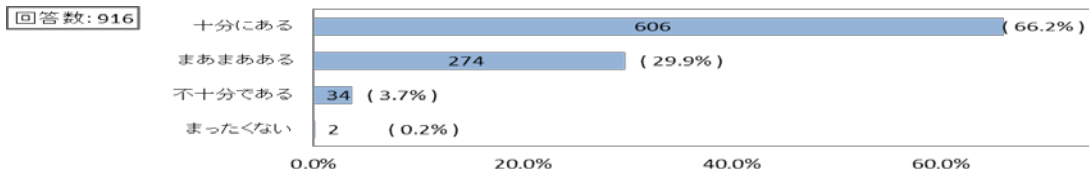
(45-54 歳)



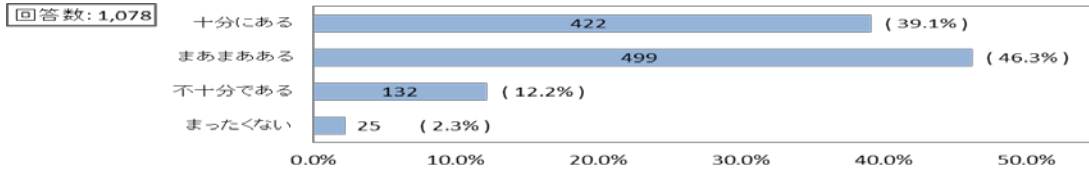
(55-64 歳)



(65-74 歳)



(配偶者)



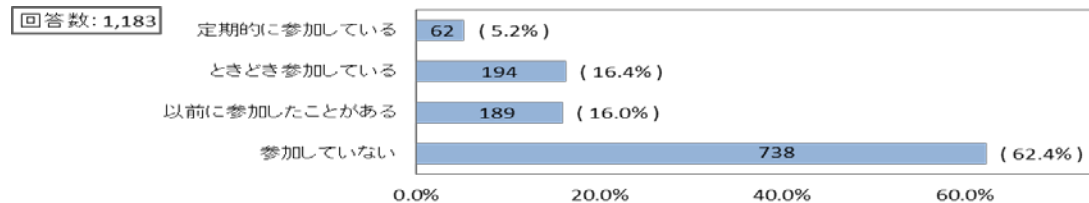
全員に対して自由時間について聞いてみたところ、「十分ある」と「まあまあある」とする回答の合計は、35～44 歳で 69.7%、45～54 歳で 75.2%、55～64 歳で 87.9%、65～74 歳で 96.1%であり、若年齢層ほど忙しく、年齢が上がるにつれて自由時間が増える傾向にあり、65～74 歳では 9 割が自由時間があると感じている。特に 55～64 歳と 65～74 歳になると「十分にある」が「まあまあある」より多くなり、65～74 歳では 6 割強が「十分にある」と感じていた。35～44 歳と 45～54 歳では「不十分である」とする人がそれぞれ 27.3%、22.5%あり、仕事が忙しい状況が推測される。

2.2 社会活動への参加状況について

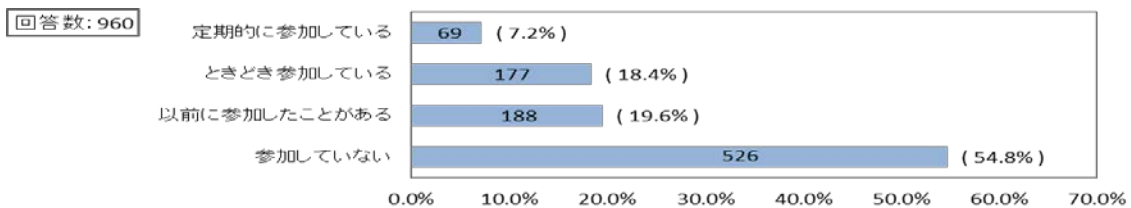
【問 12】あなたは、地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。

団体活動でも個人の活動でもかまいません。(単一回答)

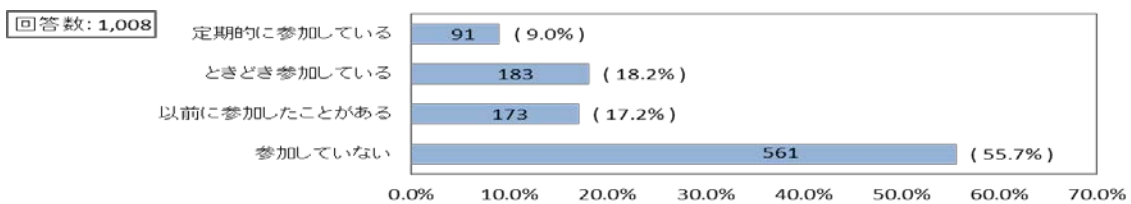
(35-44 歳)



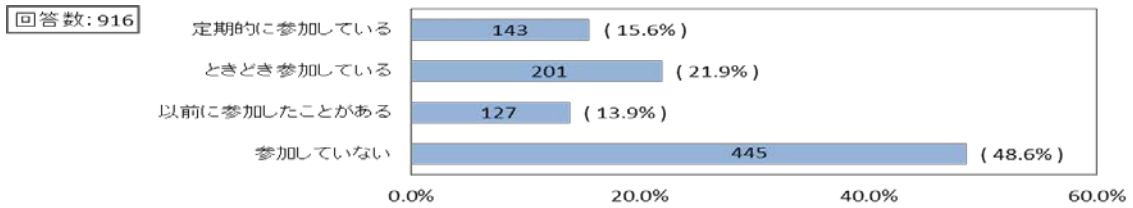
(45-54 歳)



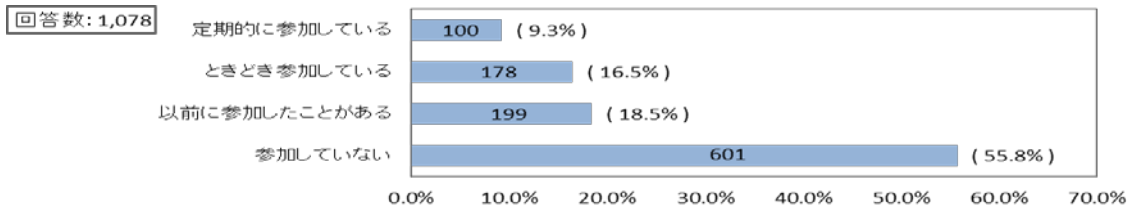
(55-64 歳)



(65-74 歳)



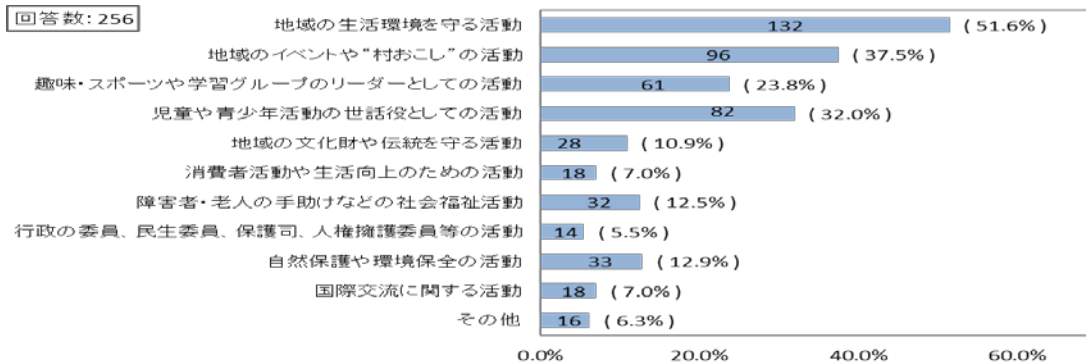
(配偶者)



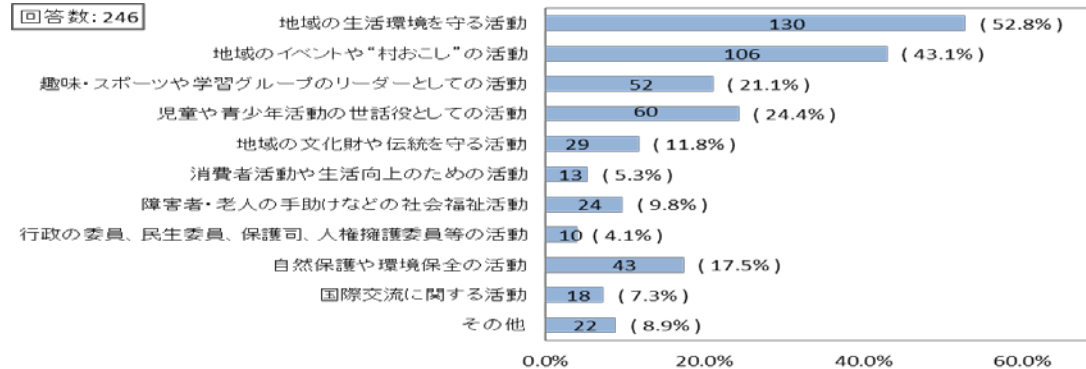
地域活動やボランティア活動への参加状況については、参加しているが35～44歳で11.5%、45～54歳で25.6%、55～64歳で27.2%、65～74歳で37.5%と高年齢層ほど参加している状況であった。若年齢層ほど社会参加率が少ない状況である。

【問 12-1】地域活動やボランティア活動などに参加されているとお答えですが、それはどのような分野の活動ですか。(複数回答)

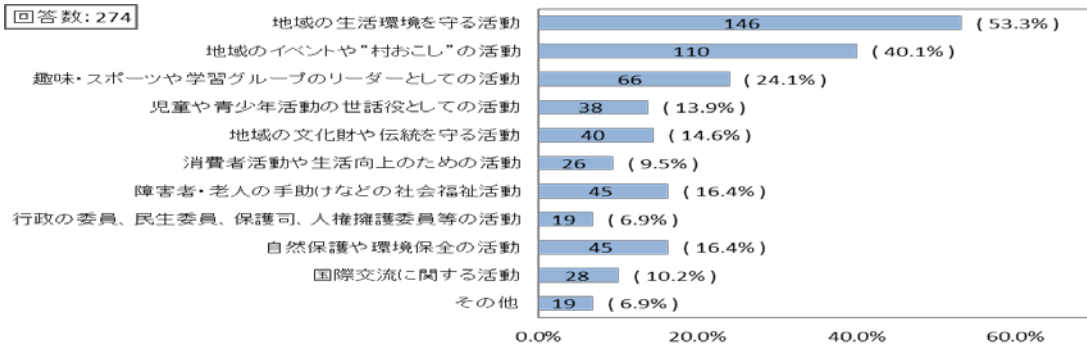
(35-44 歳)



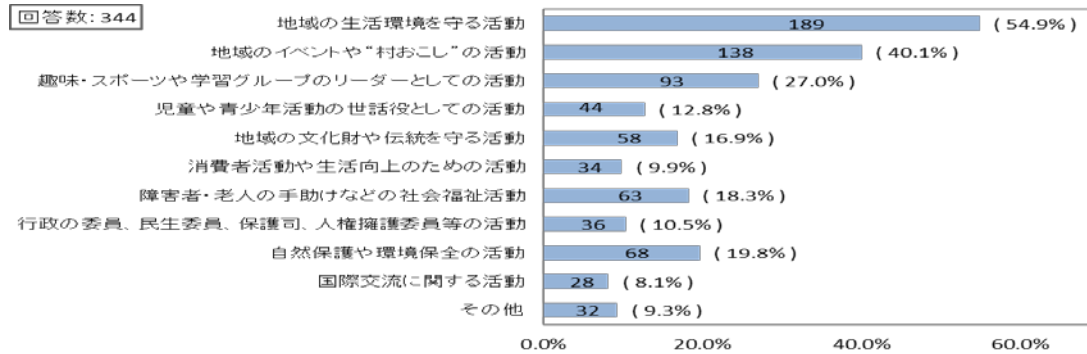
(45-54 歳)



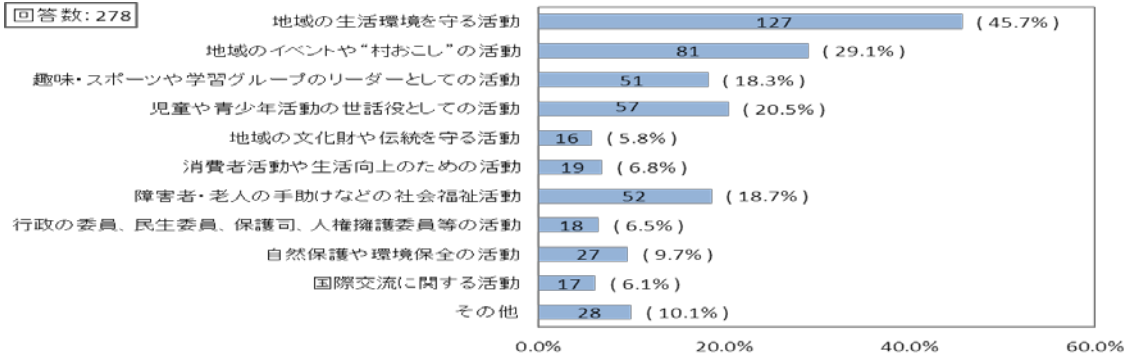
(55-64 歳)



(65-74 歳)



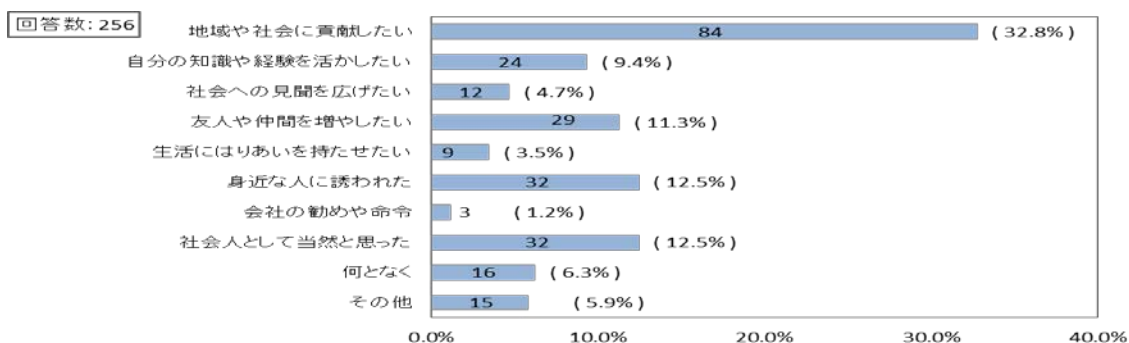
(配偶者)



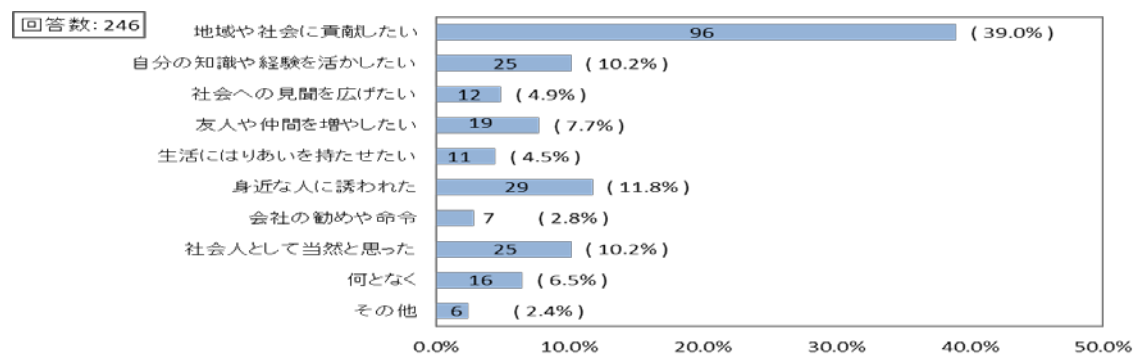
地域活動やボランティア活動で多いのは全年齢層を通して、「地域の生活環境を守る活動」で、次は「地域のイベント活動」である。35～44 歳と 45～54 歳と配偶者では、「児童・青少年の世話役」がその次に多い。これは自分の子どもが入っている野球やサッカークラブなどを通しての活動ではないかと推測される。また、55～64 歳と 65～74 歳になると「趣味や学習グループのリーダー」「自然保護や環境保全の活動」「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」などの地域活動が増えてくる。定年退職後は自分の趣味を高めることや、自然への関心が増えること、さらに自分自身の高齢化に伴い身近な社会福祉活動への関心が高まるからではないかと推測される。一方、「行政の委員等の活動」や「国際交流に関する活動」への参加者は全年齢層を通して少ない状況であった。

【問 12-2】地域活動やボランティア活動などに参加されているとお答えですが、参加した理由は何ですか。(単一回答)

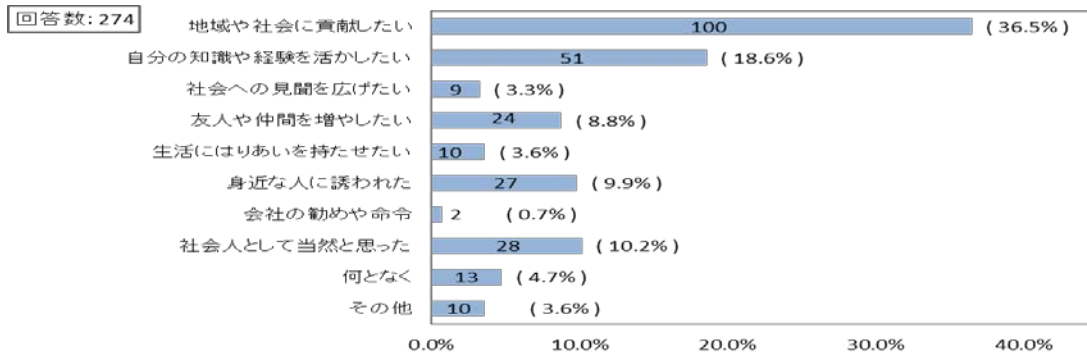
(35-44 歳)



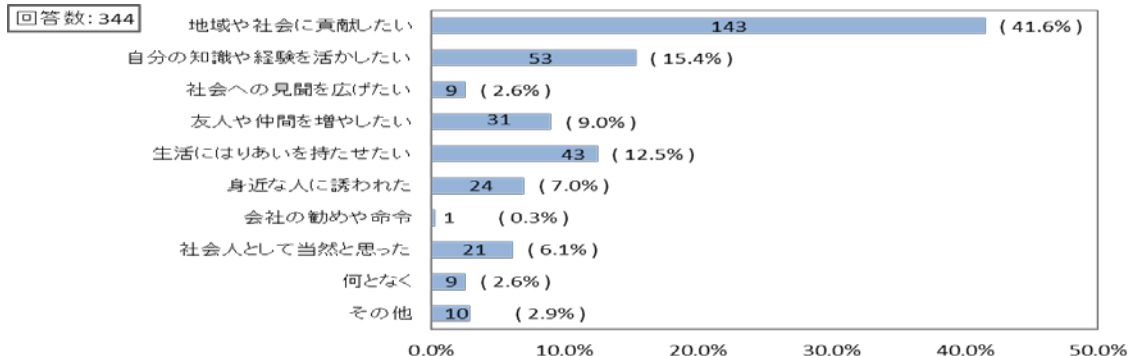
(45-54 歳)



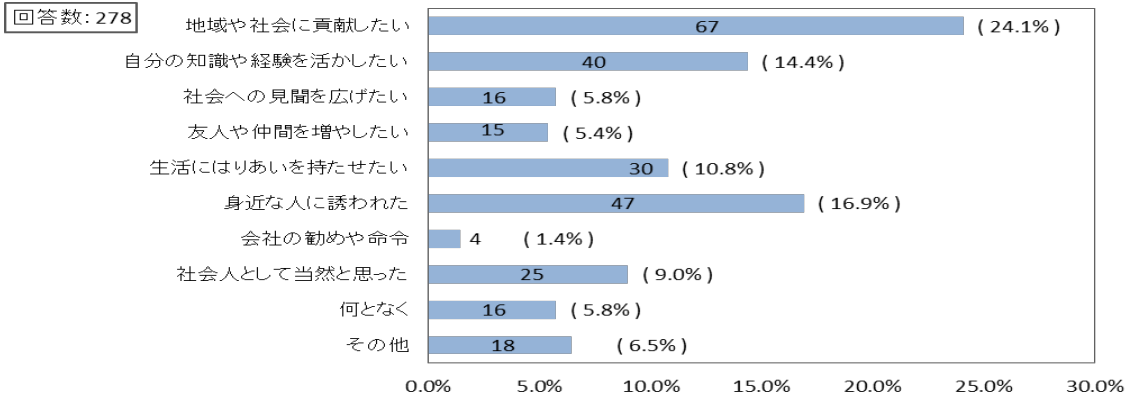
(55-64 歳)



(65-74 歳)



(配偶者)

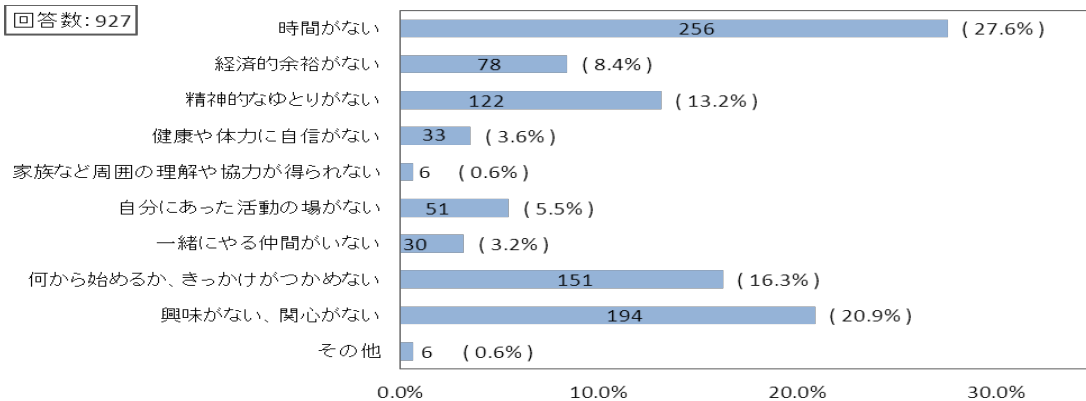


地域活動やボランティア活動の参加理由については、「地域や社会に貢献したい」とする回答が全ての年齢層で一番多かった。35～44歳では、「身近な人に誘われた」「友人や仲間を増やしたい」とする回答が多いが、この割合は年齢が上がるとともに減少し、55～64歳と65～74歳になると「自分の知識や経験を活かしたい」が増加する。特に65～74歳では「生活にはりあいを持たせたい」とする回答が急に伸びており、定年退職後の生活に、仕事に代わって何かしらの張り合いを持たせたいという気持ちが強いと思われる。なお、配偶者では「身近な人に誘われた」とする回答の割合が本人に比べて多く、子どもの付き合いや近所付き合いなどの知人からの誘いが社会参加のきっかけになることが多いのではと思われる。若いころは誰かに誘われて地域のイベントに参加したり、自分の子どもを通しての世話役などとして社会参加をしていることが多いが、年齢が上がるにつれて、今度は自らの意思で自然保護活動や社会福祉活動に参加し、自らの知識を社会や他人のために貢献したいと思うようになるとと思われる。

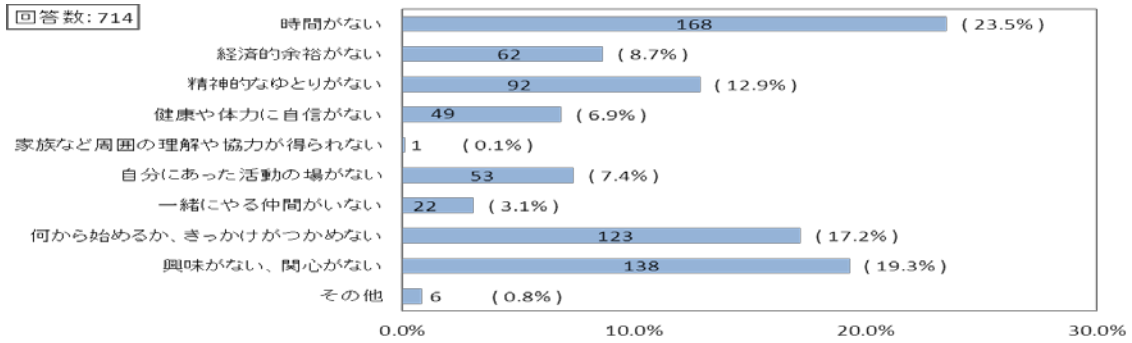
【問 12-5】地域活動やボランティア活動などに参加されていないとお答えですが、その理由は何ですか。

(単一回答)

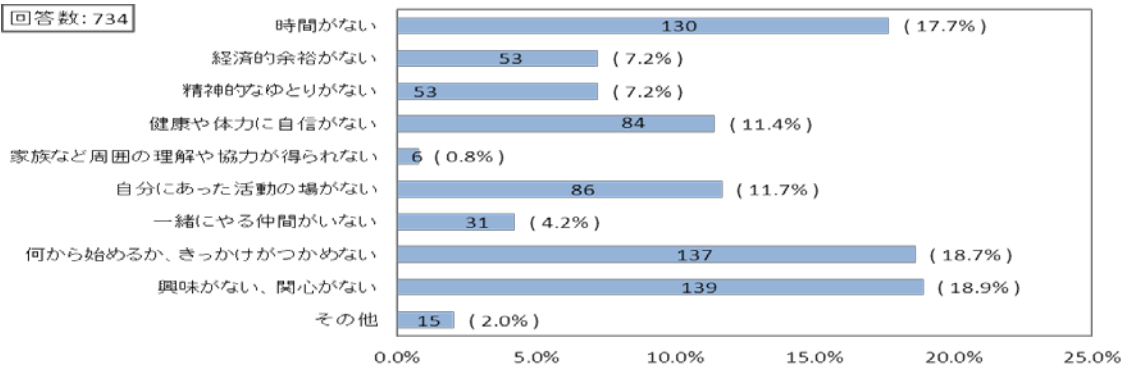
(35-44歳)



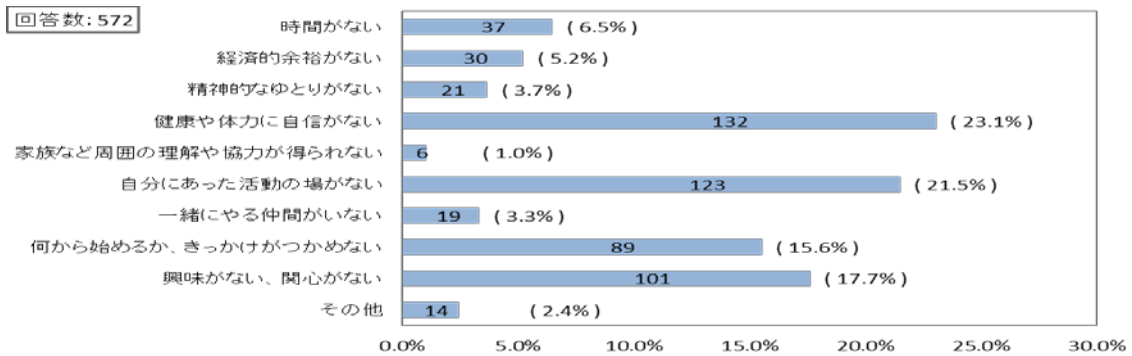
(45-54 歳)



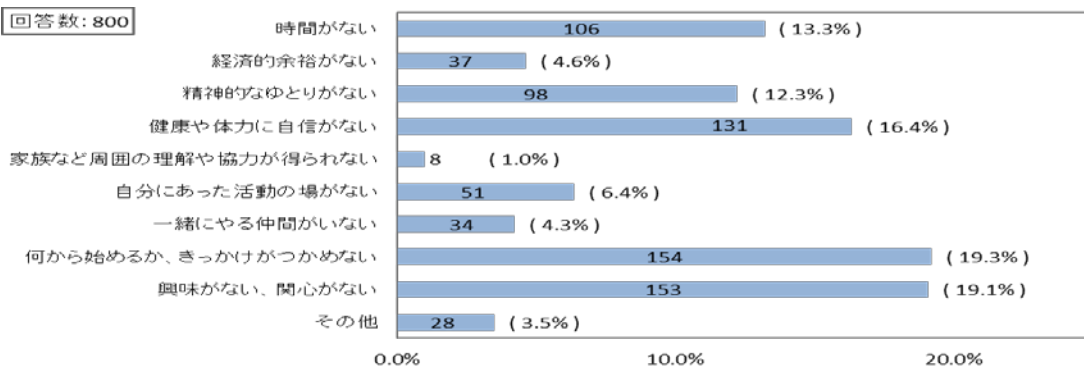
(55-64 歳)



(65-74 歳)



(配偶者)

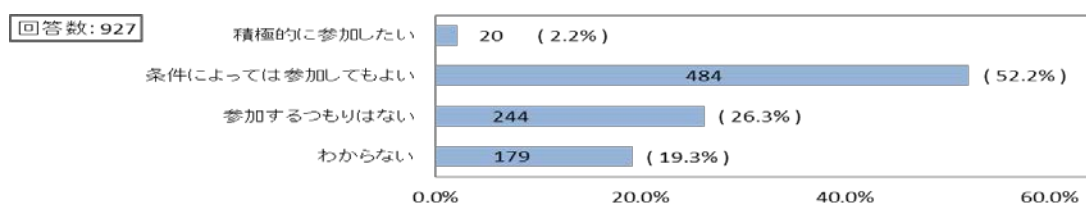


地域活動やボランティア活動に参加していない理由については、35～44歳と45～54歳では「時間がない」「興味関心がない」とする回答が一番多く、55～64歳では「きっかけがな

い」とする回答が多くなっていく。65～74 歳になると「時間がない」は非常に少なくなり、代わって「健康や体力に自信がない」が一番多くなり、次に「自分にあつた活動がない」という回答が多くなる。若いころは仕事が忙しく社会参加そのものにあまり興味がない状況であると思われる。定年退職して時間ができるようになると多少興味を持つものものどうしたら良いかわからず「きっかけがない」状態が続き、さらに高齢になると段々と「健康と体力に自信がなくなり」、何となく「自分にあつた活動がない」と思い込んでしまうのであろうか。やはり、若いころから色々な社会参加に興味を持って参加し、その中から将来続けられそうな自分に合った社会活動を探していくことが高齢期における社会参加に繋がるのではないかとと思われる。配偶者も「きっかけがない」とする回答が一番多い。前問の社会活動の参加理由でも「身近な人に誘われて」とする回答が多かったが、きっかけさえあれば、参加する意思はあるのではないかとと思われる。本人も配偶者も「きっかけがない」とする回答が多く、「きっかけ」作りが社会参加への第1歩であると思われ、豊かな老後生活のためにも社会参加への「きっかけ」作りが必要である。

【問 12-6】地域活動やボランティア活動などに参加されていないとお答えですが、今後参加したいと思いますか。(単一回答)

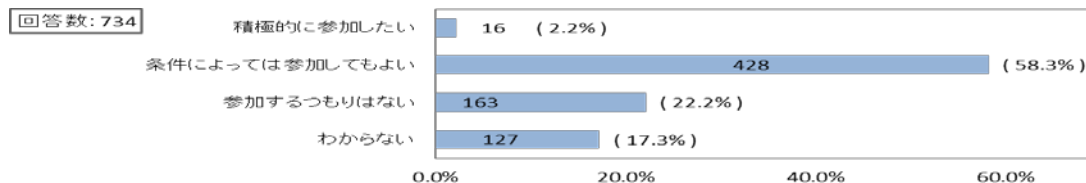
(35-44 歳)



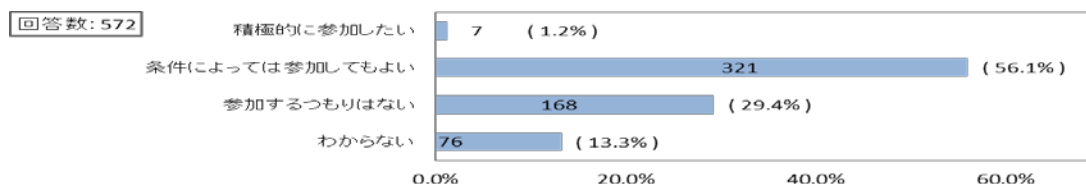
(45-54 歳)



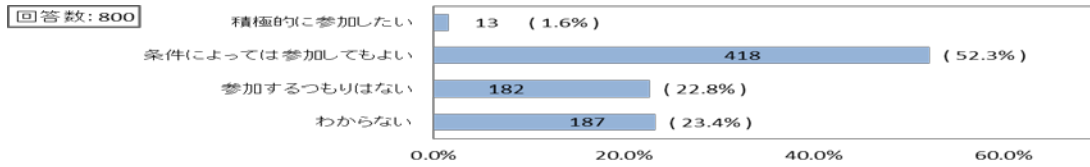
(55-64 歳)



(65-74 歳)



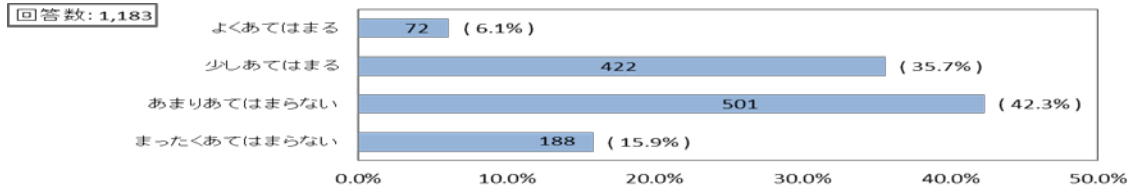
(配偶者)



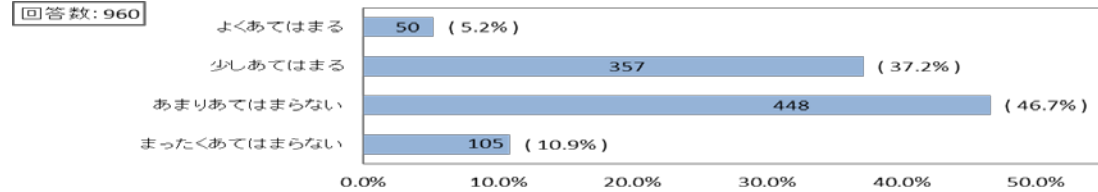
地域活動やボランティア活動に参加していない人に対して今後の参加意思について聞いたところ、それぞれで「条件によっては参加してもよい」とする人が半数以上を占め、社会参加について拒否しているものではなく、機会があれば参加する意思はあると思われる。社会参加には、やはり「きっかけ」が大事なのであろう。

【問 14-10】あなたは、「新しいグループの中に、わりと気軽に入れる」ことについて、あてはまると思いますか。(単一回答)

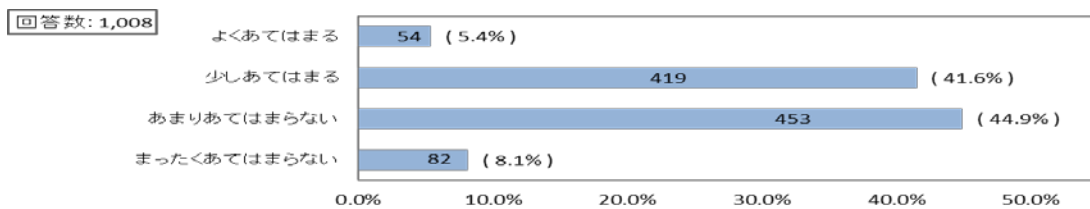
(35-44 歳)



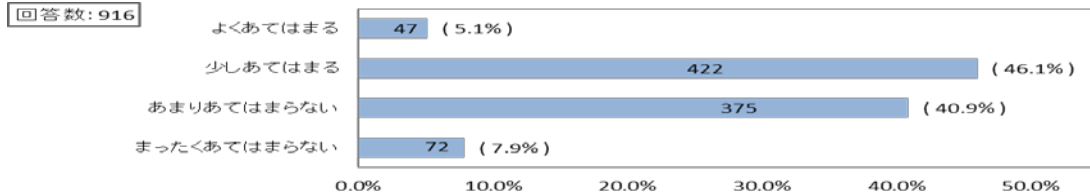
(45-54 歳)



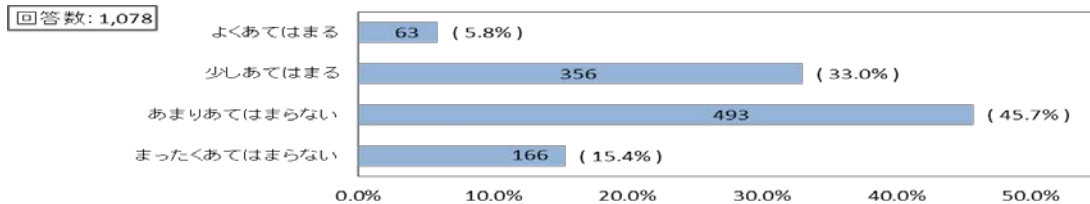
(55-64 歳)



(65-74 歳)



(配偶者)

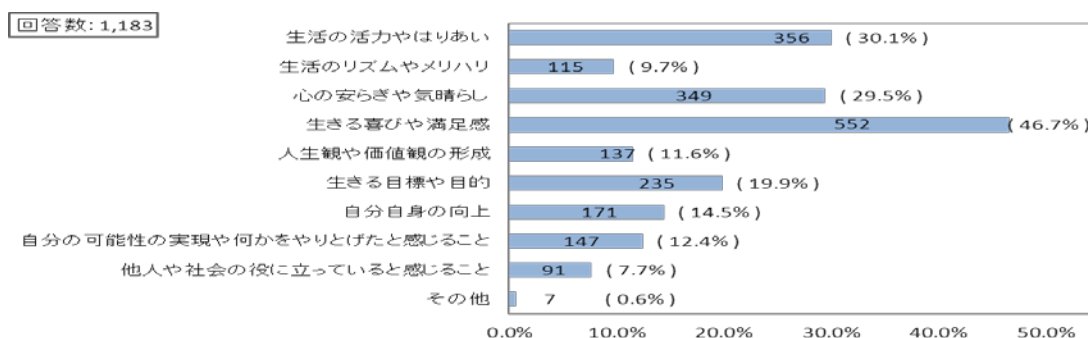


第1回調査で生きがいと性格の関係について、「積極性」以外に「親和性（人との和を大切にする）」の強い人ほど生きがいを持っていることが指摘されており、この「親和性」として「新しいグループの中に気軽に入れるか」という設問についてみると、各年齢層での違いはなく「あまりあてはまらない」とする回答が一番多く、自分から進んで新しい活動に入るのが苦手な人が多い状況であった。これは今回のネット調査でのバイアスが多少あるのかも知れないが、社会参加へは新しいグループ活動に気軽に入れるようにすることが必要であると思われる。また、前問までの結果からも「知人の誘い」があれば、社会参加することも十分に考えられ、社会参加への「きっかけ」を作っていくには、知人などを通して社会活動への参加を働きかけることが良いのではないかと思われる。

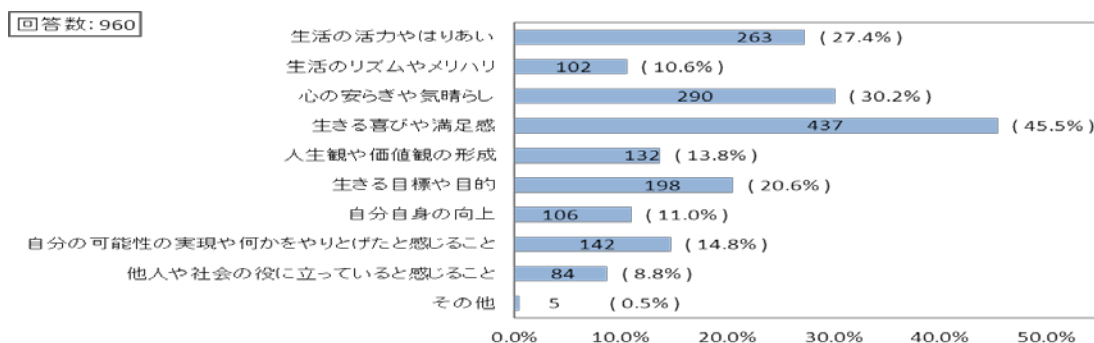
2.3 生きがいについて

【問 15-1】よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。（回答は2つまで）

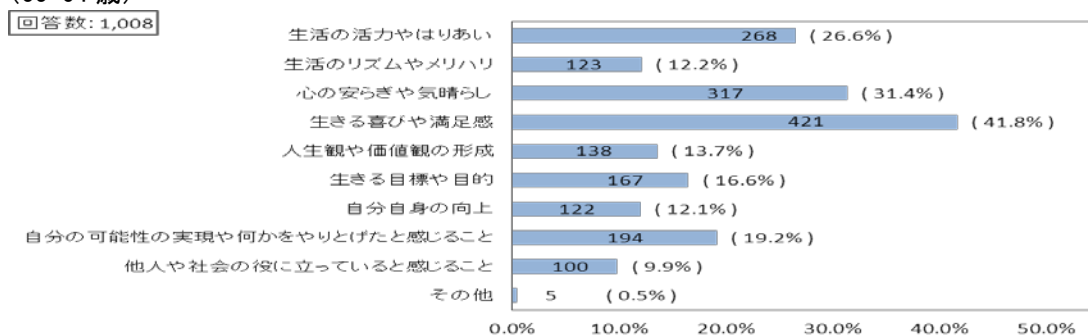
（35-44 歳）



（45-54 歳）

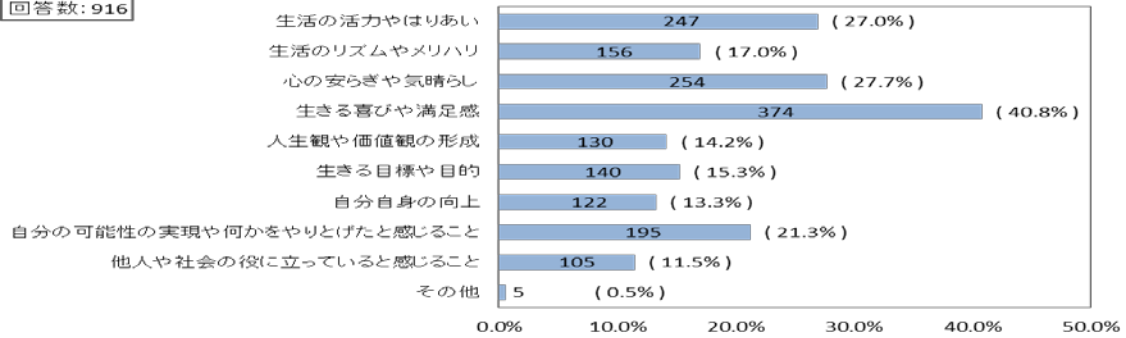


（55-64 歳）



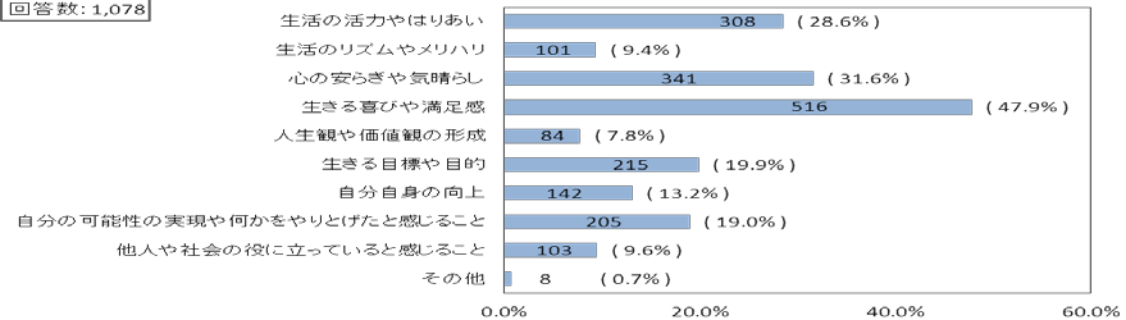
(65-74 歳)

回答数: 916



(配偶者)

回答数: 1,078

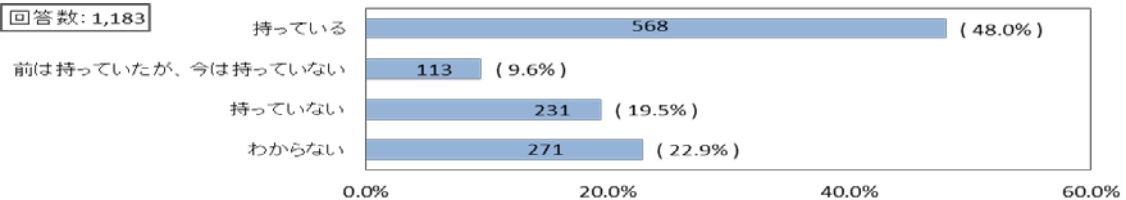


生きがいについて聞いたところ、各年齢層で差異はなく「生きる喜びや満足感」とする回答が各年齢層ともに一番多いが、年齢が上がるにつれてその割合は徐々に低下していく。次に多いのが「心のやすらぎ」「生活の活力やはりあい」でこの2つは各年齢層でほぼ同じ割合を維持していた。一方、年齢が上がるにつれて「自分の可能性の実現」と「他人や社会の役に立っていると感じる事」の割合が徐々に増加していく。生きがいが年齢とともに「自分が生きる喜び」という自己実現から、「他人や社会に役に立つこと」という社会への貢献に変化していくのではないかとと思われる。やはり、年齢とともに生きがいに変化していくということであろう。

【問 15-2】 そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。(単一回答)

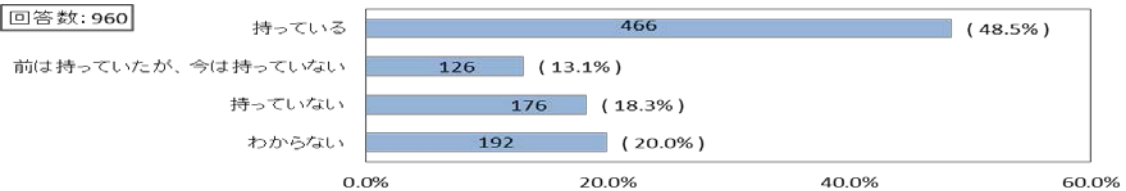
(35-44 歳)

回答数: 1,183

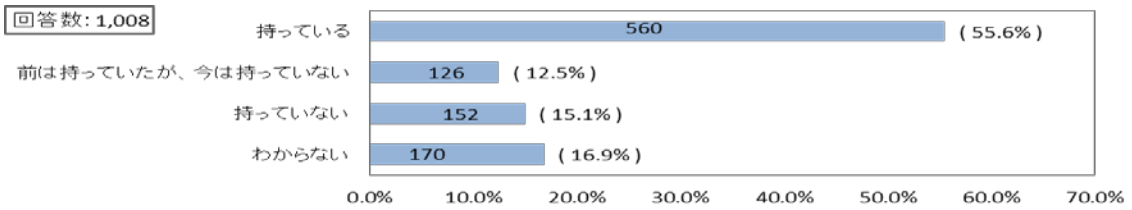


(45-54 歳)

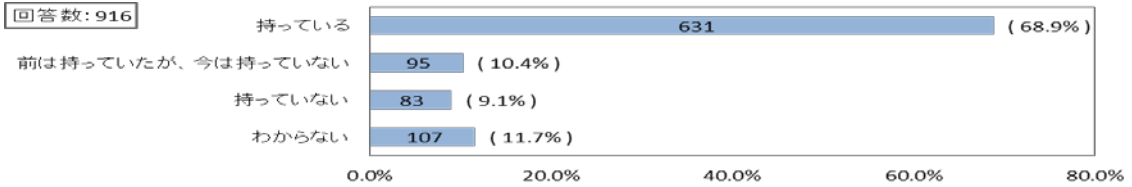
回答数: 960



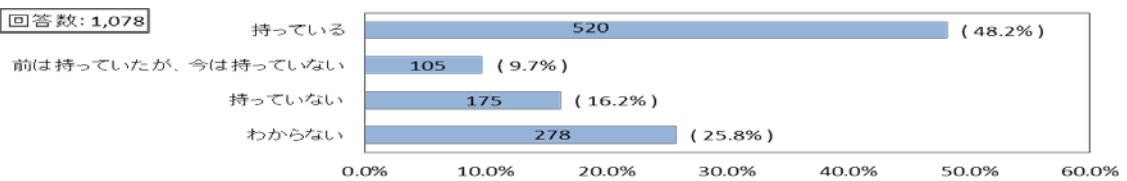
(55-64 歳)



(65-74 歳)



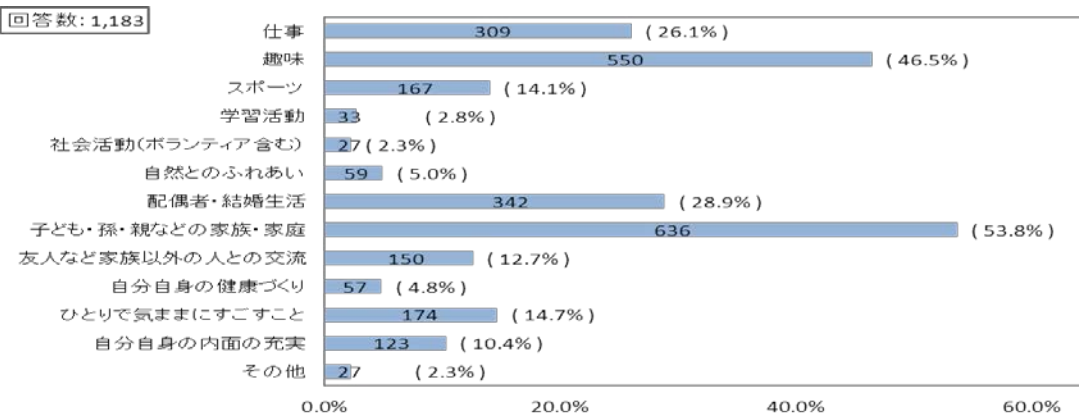
(配偶者)



生きがいの保有率は、年齢が上がるにつれて上昇していく。若いころは仕事に忙しく生きがいを考える時間も感じる間も少ないが、定年退職後に時間の余裕ができると、生きがいについて考えるようになるのではないだろうか。若い頃から生きがいを持って生活していくことが、将来の生きがいの保有にも繋がってくると思われ、若い頃から生きがいを持てる社会の実現が望まれる。

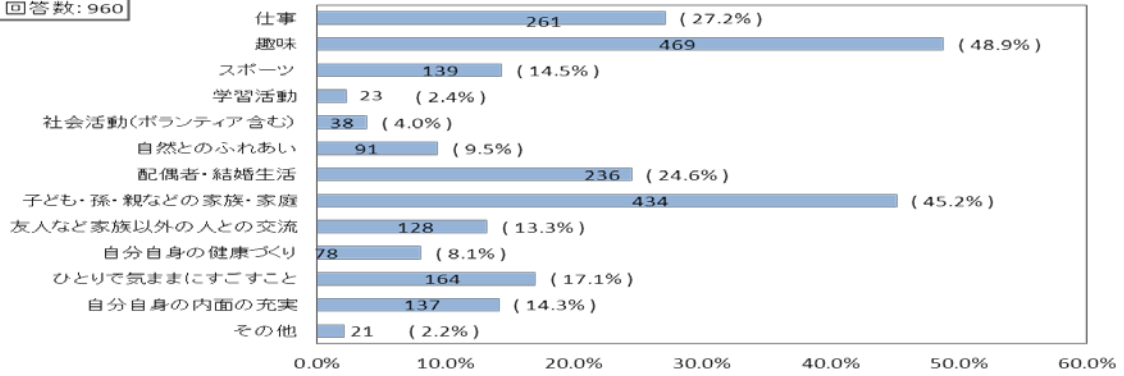
【問 16】あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。あなたのお考えに最も近いものから3つまで選んでください。(回答は3つまで)

(35-44 歳)



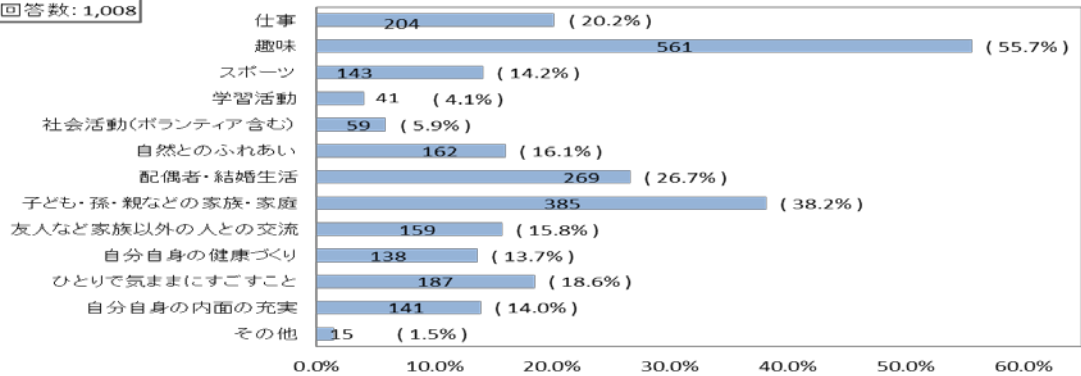
(45-54 歳)

回答数: 960



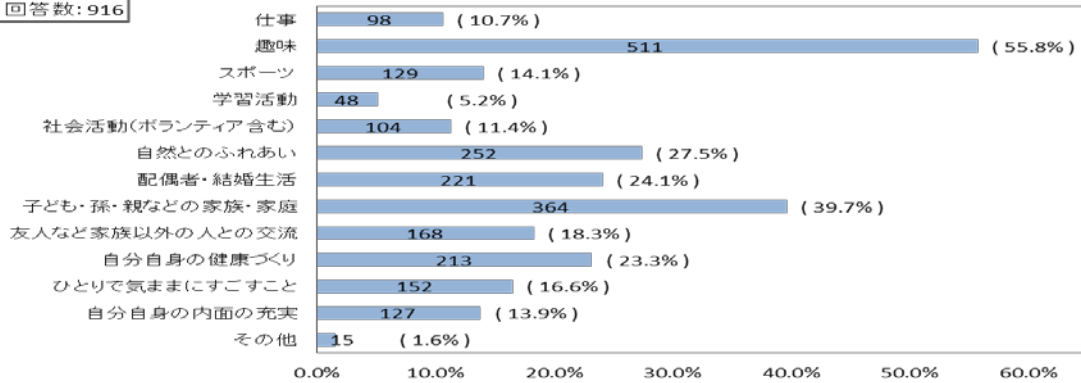
(55-64 歳)

回答数: 1,008



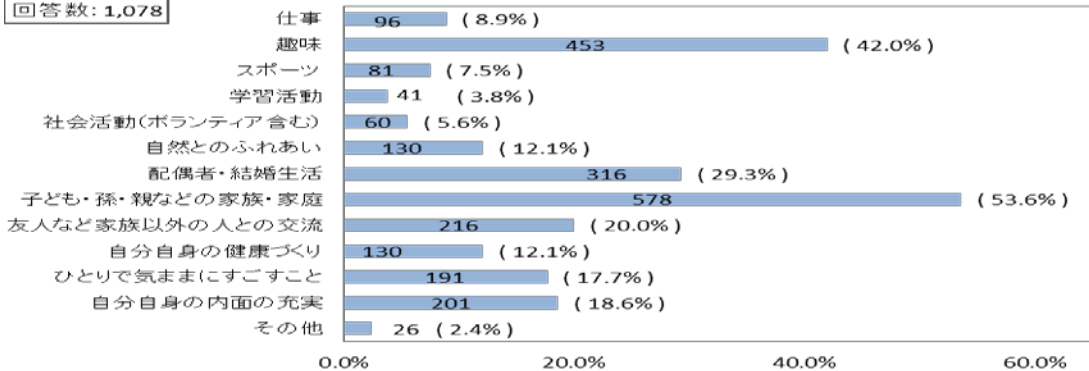
(65-74 歳)

回答数: 916



(配偶者)

回答数: 1,078



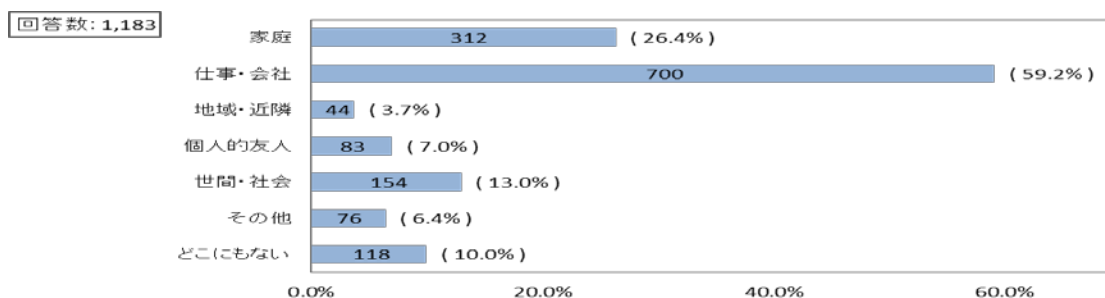
生きがいを感じるものとして、35～44歳では「家族・家庭」が一番多く、次いで「趣味」となっている。45～54歳ではこれが逆転し、「趣味」とする回答が一番多くなり、次いで「家族・家庭」となる。この傾向は55～64歳でさらに大きくなり、「趣味」が増加し、「家族・家庭」が減少する。しかし、65～74歳になると「趣味」はさらに増加するが、「家族・家庭」も一転して増加に転じる。これは、孫が生まれ「家族」への生きがいが増加するのではないかと推測される。さらに、65～74歳では「自然とのふれあい」「健康づくり」なども増加する。「仕事」は当然のことながら若年齢層の方が多く年齢が上がるにつれて減少しており、若い頃は「仕事」に生きがいを感じていることが分かる。配偶者は「家族・家庭」が一番多く、「趣味」は二番目である。また、本人、配偶者共に「配偶者・結婚生活」を三番目に挙げており、夫婦間での認識のずれは見られないと思われる。「配偶者・結婚生活」については各年齢階層共に大きな割合の変化はない。一方、各年齢層共に低かったのは「学習活動」と「社会活動」であり、学習活動や社会活動も年齢に関わらず可能なものであり、このような学習活動や社会活動に対して生きがいを見出すことができれば、もう少し生きがいの保有率の上昇に繋がるのではないかとと思われる。

【問 17】 生きがいに関連する次の(1)～(9)の項目について、それは家庭や仕事・会社などのどこで得られるか、あてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。(回答はそれぞれ2つまで)

- (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか
 (2)生活のどの場でリズムやメリハリがつかますか
 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこが多いですか
 (4)生活のどの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか
 (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えているのはどこの人ですか
 (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか
 (7)どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか
 (8)自分の可能性を実現したり何かをやりとげたりすると感じるのはどの場が多いですか
 (9)自分が役に立っていると感じたり評価を得ているのはどの場でのことが多いですか

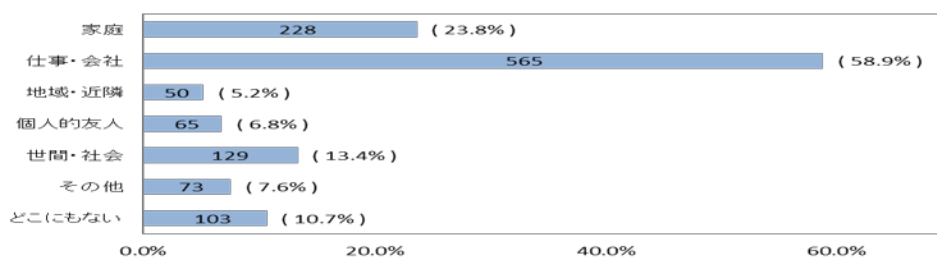
<(8)自分の可能性を実現したり何かをやりとげたりすると感じるのはどの場が多いですか。>

(35-44 歳)



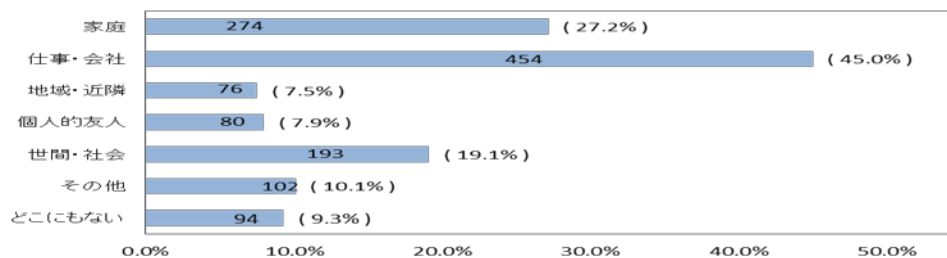
(45-54 歳)

回答数: 960



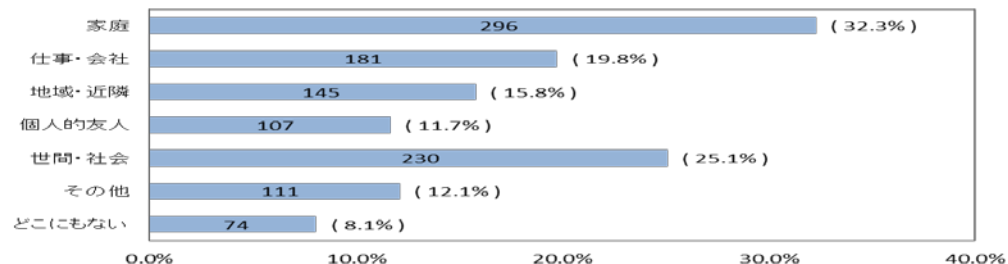
(55-64 歳)

回答数: 1,008



(65-74 歳)

回答数: 916



生きがいを得られる場について、配偶者と本人の 65～74 歳では(1)～(9)の全てを「家庭」で得られると回答していたが、本人の 35～44 歳、45～54 歳、55～64 歳では(1)～(6)は「家庭」で得られるとするものの、(7)～(9)については「仕事・会社」で得られるとしていた。就業している間は自己実現やその評価の場所として「仕事・会社」に拠り所を求めている結果であった。

2.4 配偶者との関係について

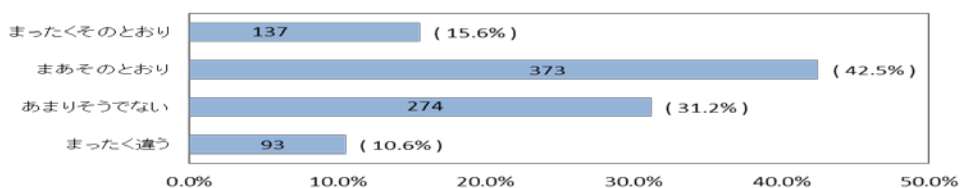
【問 18】 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)～(10)の項目について、お答えください。(単一回答)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (1) 配偶者は自分のことを応援してくれている | (2) 自分は配偶者の良き理解者である |
| (3) 配偶者と価値観・考え方が似ている | (4) 配偶者と会話がある |
| (5) 配偶者とよく一緒に出かける | (6) 配偶者は自分を自由にしてくれる |
| (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない | (8) 配偶者は金銭的にうるさい |
| (9) 配偶者は自分によりかかりすぎる | (10) 配偶者にはもっと家事をして欲しい |

<(3)配偶者と価値観・考え方が似ていると感じていますか。>

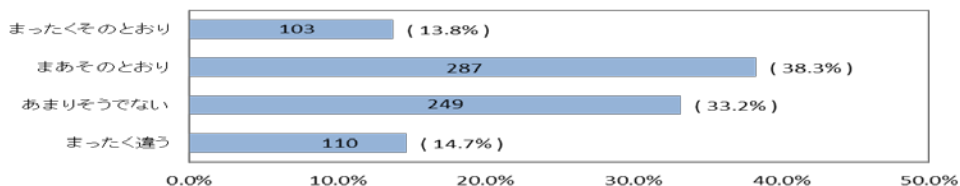
(35-44 歳)

回答数: 877



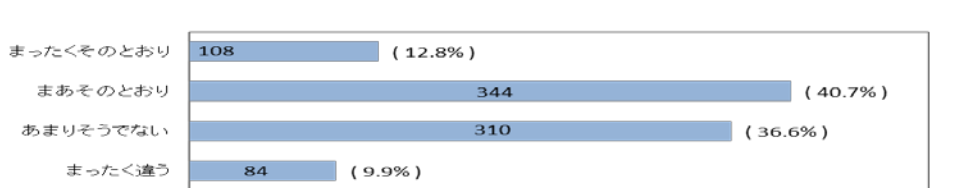
(45-54 歳)

回答数: 749



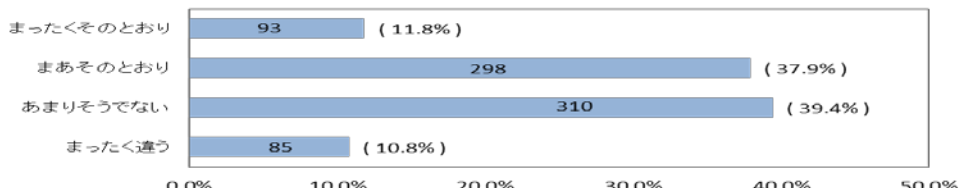
(55-64 歳)

回答数: 846



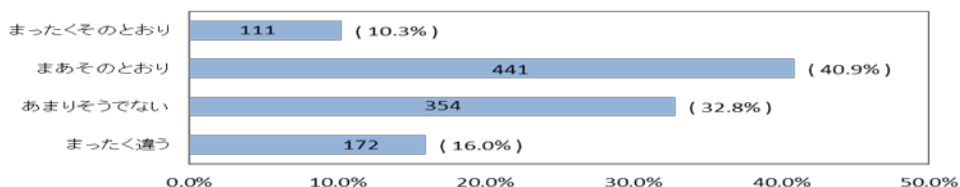
(65-74 歳)

回答数: 786



(配偶者)

回答数: 1,078



(1)~(10)の各設問について本人と配偶者で大きな回答の差異はなかったが、「(3)配偶者と価値観・考え方が似ている」という設問については、他の設問に比べて、本人、配偶者共に「あまりそうではない」とする回答が比較的多かった。35~44歳、45~54歳、55~64歳では「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計がそれぞれ58.1%、52.1%、53.5%、で「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計のそれぞれ41.8%、47.9%、46.5%より多いが、65~74歳ではこれが逆転し、「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計は49.7%と減少するが、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計が50.2%に増加する。若い頃は価値観が似ていると思っているが、年齢とともに価値観が違ってくるのか、または元々違ったことに気が付くのであろうか。お互いに価値観・考え方は似ていないと思いつつ、それ以外ではお互いを大切に思っている状況が伺え、本人と配偶者での大きな認識の差はなかった。

2.5 会社の定年と定年退職後の生活について

【問 19】あなたは定年を経験しましたか。また会社の定年は何歳ですか。

定年を 2 回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください。また、ご自分の意思で転職され、まだ定年前の方は「定年前」を選択して下さい、定年がない場合でまだ退職前の方は「定年前」を選択して、ご自分で退職したいと思われる年齢を記入してください。

No.	会社の定年年齢	回答数	%
1	60歳未満	47	2.8
2	60歳	1,270	75.7
3	61歳	2	0.1
4	62歳	22	1.3
5	63歳	22	1.3
6	64歳	5	0.3
7	65歳	269	16.0
8	66～69歳	5	0.3
9	70歳以上	35	2.1
全体		1,677	100.0

No.	定年前に退職した年齢	回答数	%
1	29歳以下	92	16.5
2	30～34歳	27	4.8
3	35～39歳	16	2.9
4	40～44歳	16	2.9
5	45～49歳	28	5.0
6	50～54歳	102	18.3
7	55～59歳	219	39.2
8	60歳以上	58	10.4
全体		558	100.0

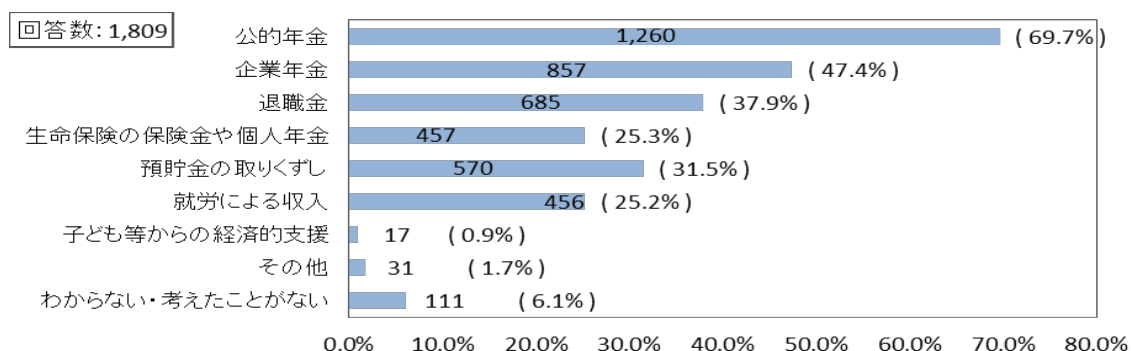
No.	実際に定年退職した年齢	回答数	%
1	55歳以下	29	3.9
2	56～60歳	520	69.4
3	61～64歳	112	15.0
4	65歳以上	88	11.7
全体		749	100.0

会社の定年年齢はやはり 60 歳定年の会社が 75.7%でほとんどであり、16%程度の割合で 65 歳定年の会社があった。ほとんどの会社が 60 歳定年制と 65 歳までの継続雇用制度を採用していると思われる。また、実際に退職した年齢を見ると、定年前退職者については、55～59 歳が 39.2%と多く、その次に 50～54 歳が 18.3%と多い状況であった。

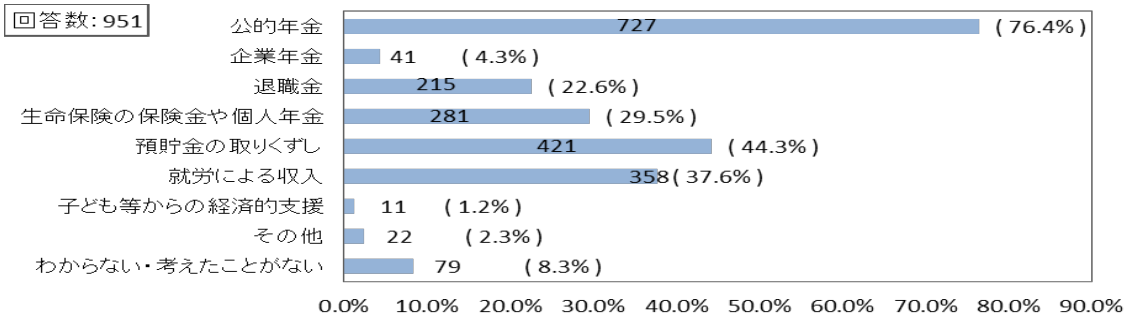
【問 20-1】定年前の方について、定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。

あてはまるものを、3つまでを選んでください。(○は3つまで)

(企業年金あり)

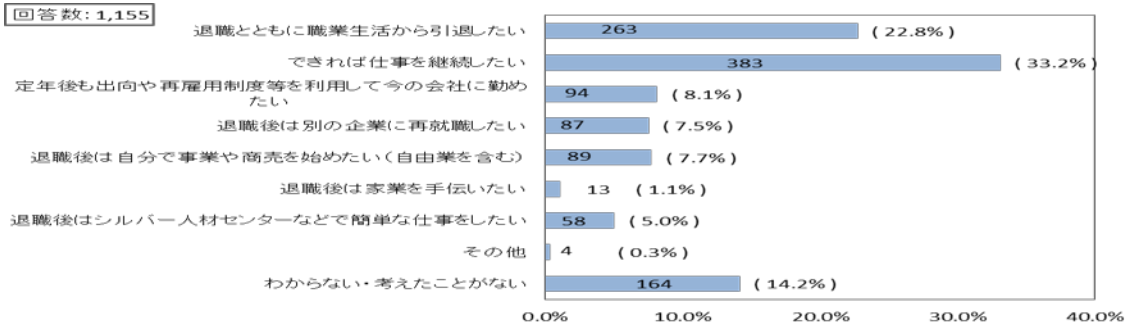


(企業年金なし)

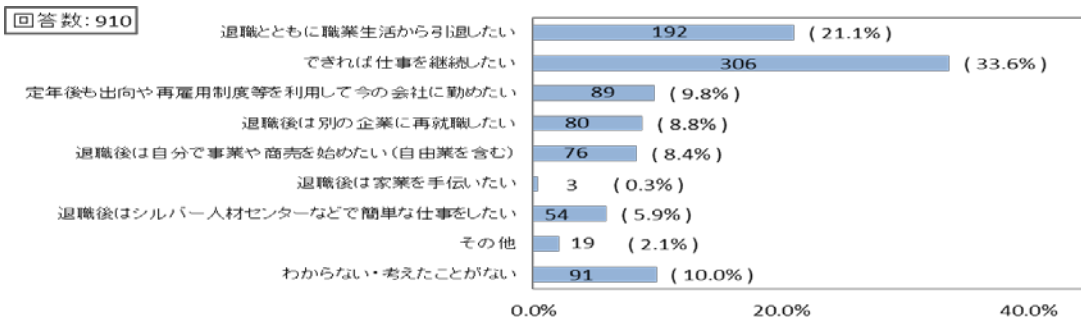


これについては、企業年金の有無による相違をみた。企業年金がある人も、企業年金がない人も「公的年金」で賄おうとしている割合が一番多い。企業年金がある人は次に「企業年金」とする回答が多く、企業年金がない人は次に「預貯金の取りくずし」と「個人年金」と回答する割合が多かった。やはり、定年退職後の老後所得としては企業年金が重要であることが伺え、企業年金がない人は代替として生命保険会社等の個人年金や預貯金で貯蓄をしているものと思われる。一般の生命保険の個人年金や貯蓄ではなかなか資産形成をするためのインセンティブが働かない。企業年金がない人に対して定年退職後の資産形成を推進するような何らかの優遇措置を持った老後所得保障の仕組みが必要と考えられる。公的年金の役割が縮小していく中、公的年金を補完すべき企業年金の新たな推進策が必要である¹。

【問 20-3】 定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(単一回答)
(35-44 歳)



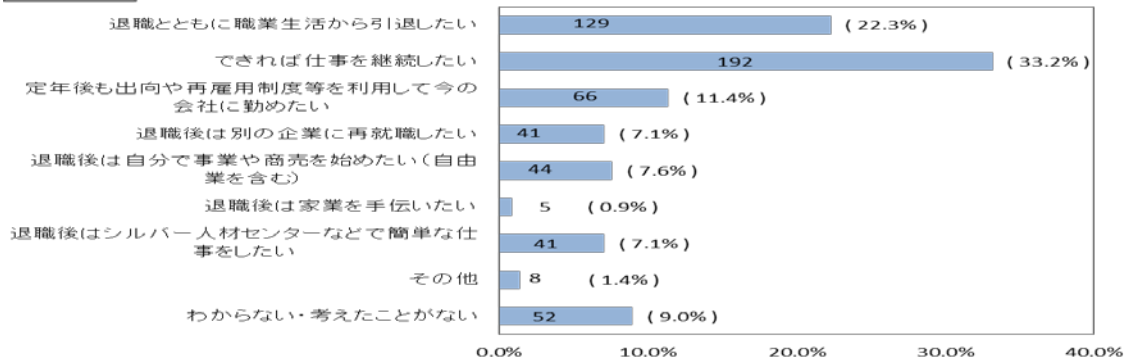
(45-54 歳)



¹ 企業年金の新たな枠組みの提案については、財団法人年金シニアプラン総合研究機構(2010,2011)『老後保障の観点から見た企業年金の評価に関する研究』総括研究報告書 平成 22 年 3 月発行,『老後保障の観点から見た企業年金の評価に関する研究』総括研究報告書 平成 23 年 3 月発行を参照。

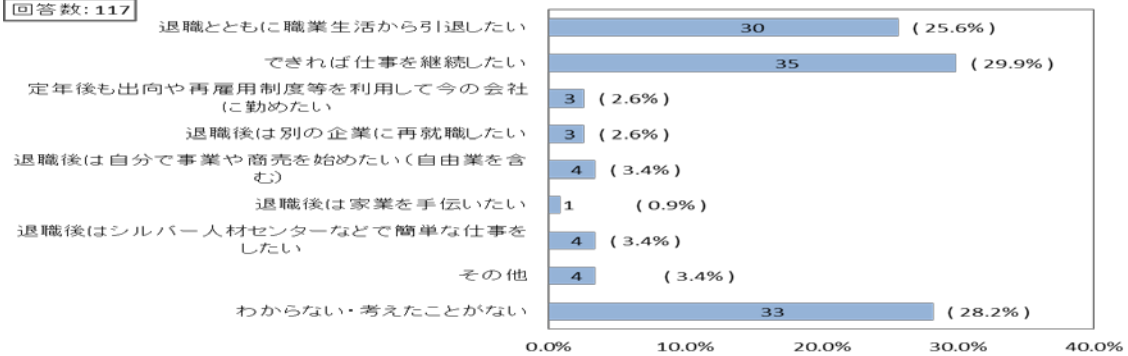
(55-64 歳)

回答数: 578



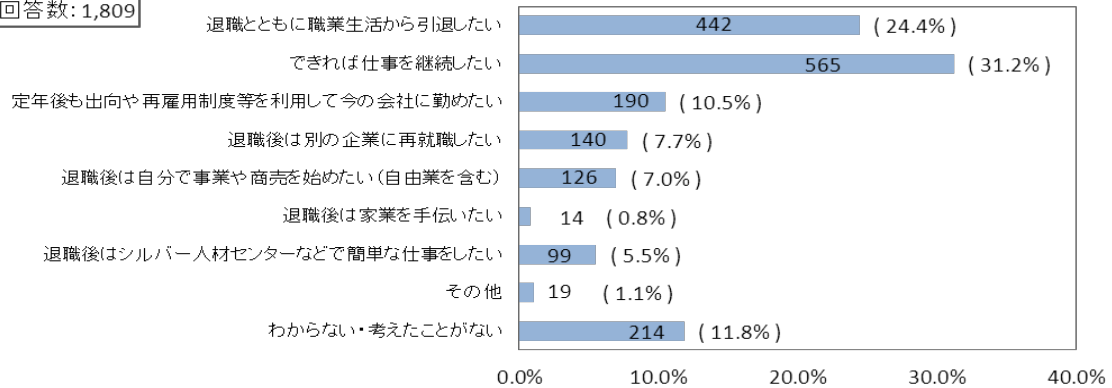
(65-74 歳)

回答数: 117



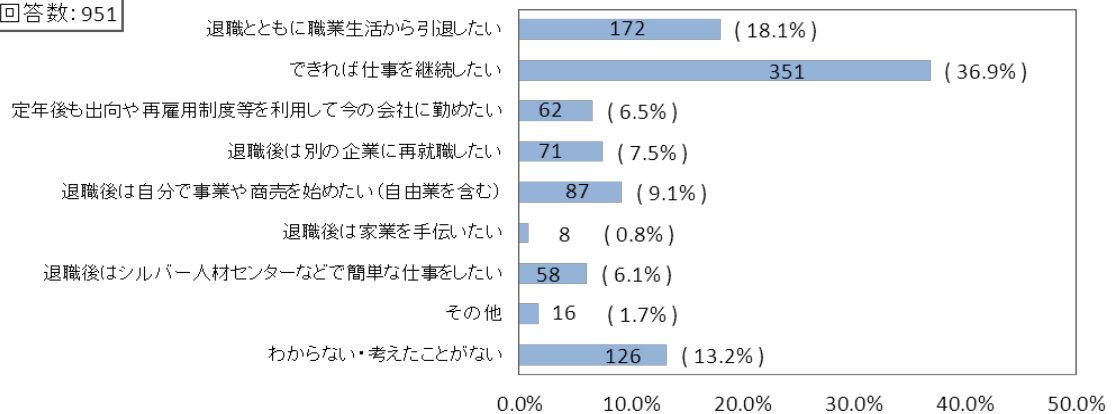
(企業年金あり)

回答数: 1,809



(企業年金なし)

回答数: 951



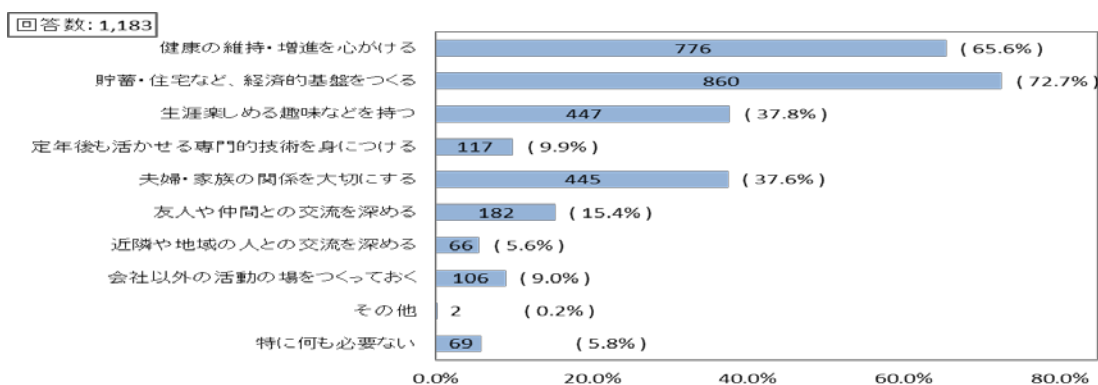
各年齢層では大きな差はなく、やはり 65～74 歳では定年退職とともに引退したいと思う人の割合が増えている。企業年金の有無でみると、企業年金がない人の方が定年後も今の会社で働きたいと考えている割合が 36.9%と企業年金がある人の 31.2%よりも多かった。一方、定年退職で仕事から引退したいと考えている人の割合は、企業年金がある人の方が 24.4%で企業年金がない人の 18.1%より多く、やはり、企業年金がある人は 60 歳から企業年金が受給できると考えられているためではないかと思われる。一方、企業年金がない人は公的年金だけでは不安であり可能な限り働きたいということであろうか。

企業年金有無で見ると、企業年金がある人は「定年退職とともに引退したい」が 24.4%で、企業年金がない人は 18.1%で、企業年金がない人の方が定年退職後も就業による所得を継続したいと考えられていた。先行研究（清家・山田，2004）においても企業年金、私的年金の受給可能性が引退時期を早めることを指摘している²。

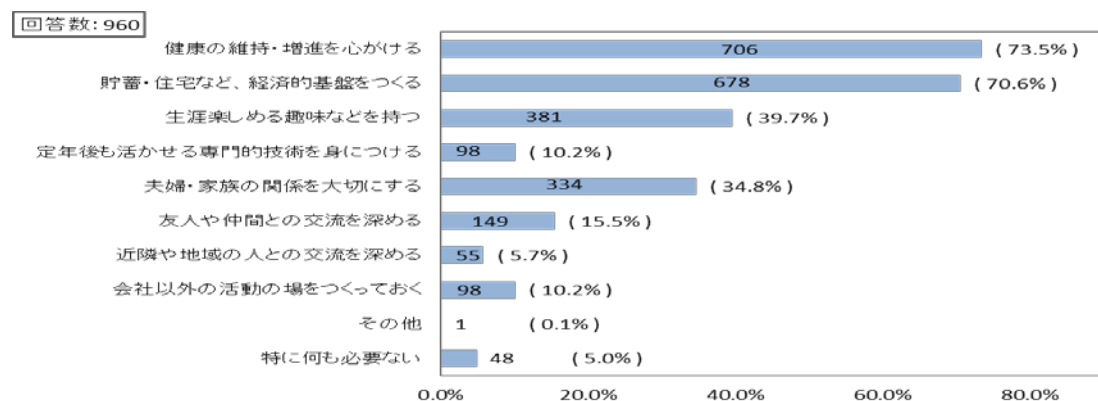
【問 22-1】定年退職に向けて、個人としては、定年前にどのようなことが必要だと思いますか。

あてはまるものを、3つまで選んでください。（回答は3つまで）

（35-44 歳）



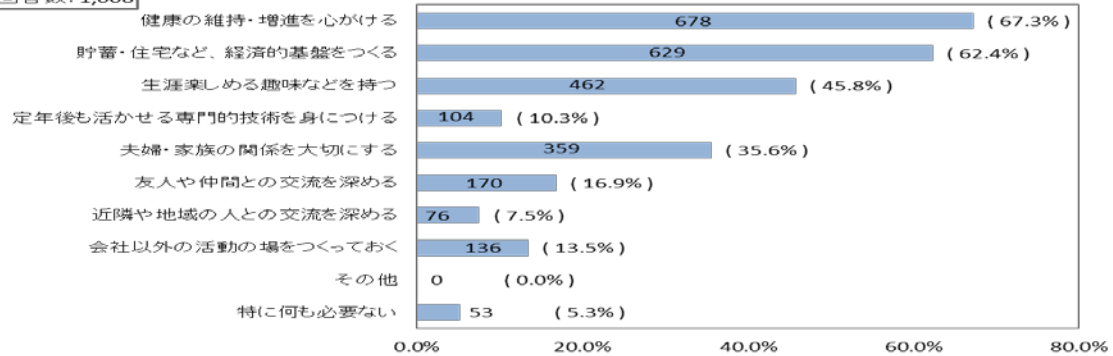
（45-54 歳）



² 清家篤・山田篤弘（2004）『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社，p.17, p.137.

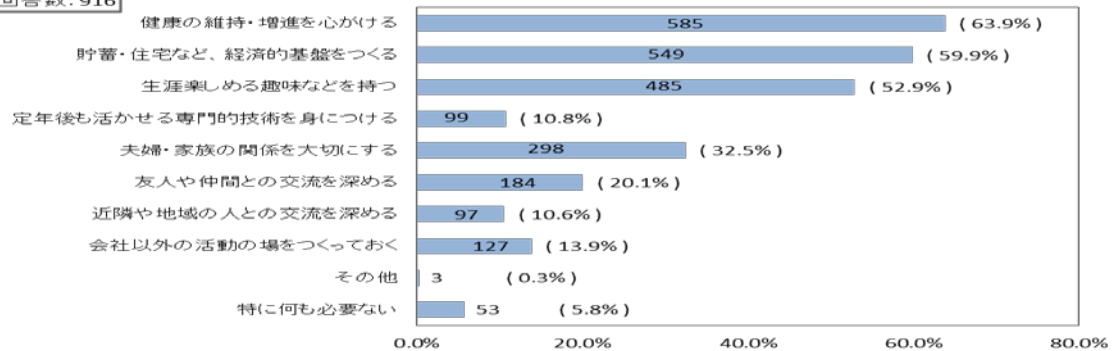
(55-64 歳)

回答数: 1,008



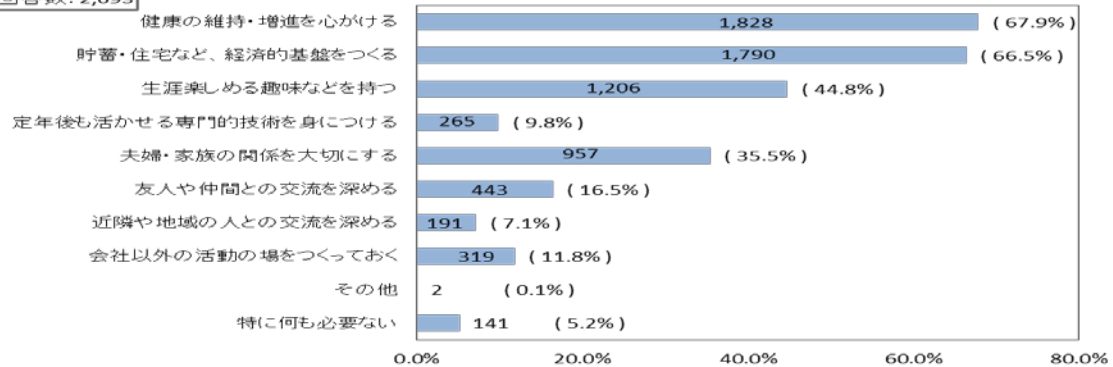
(65-74 歳)

回答数: 916



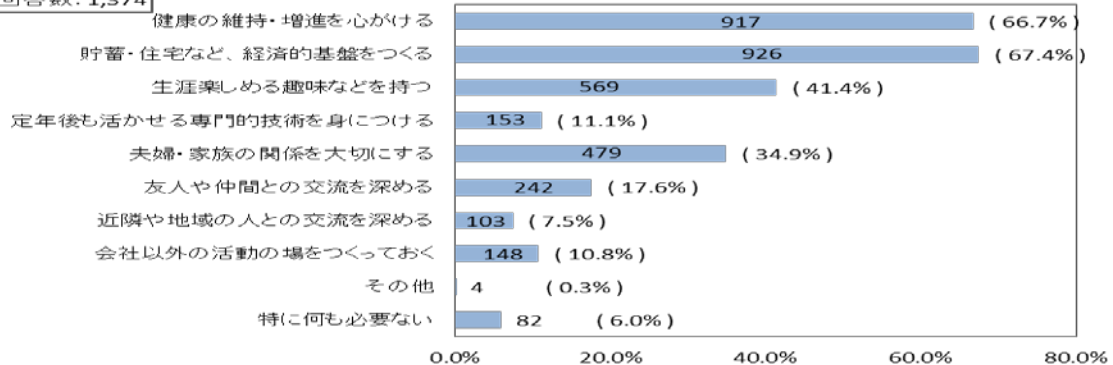
(企業年金あり)

回答数: 2,693



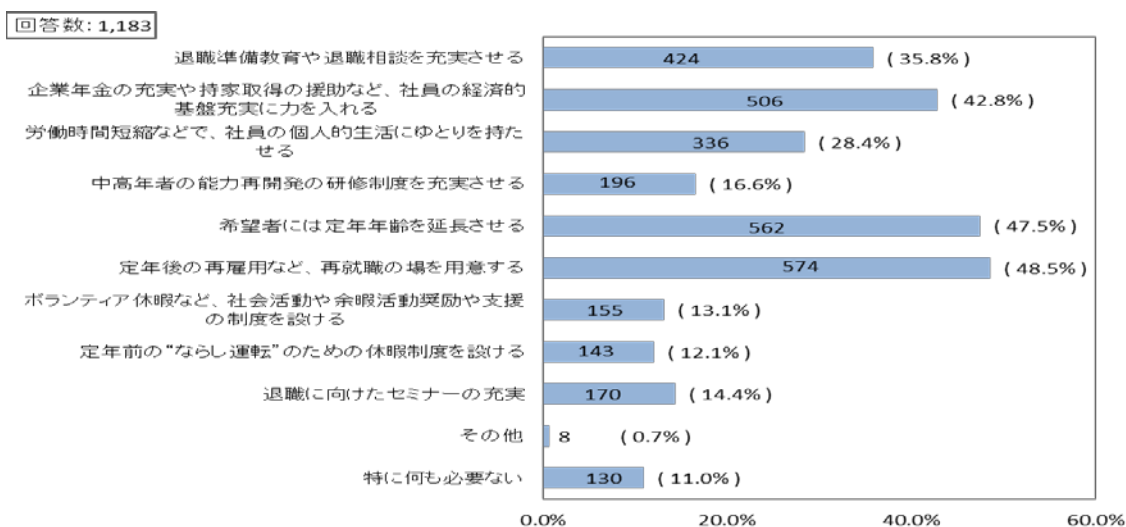
(企業年金なし)

回答数: 1,374

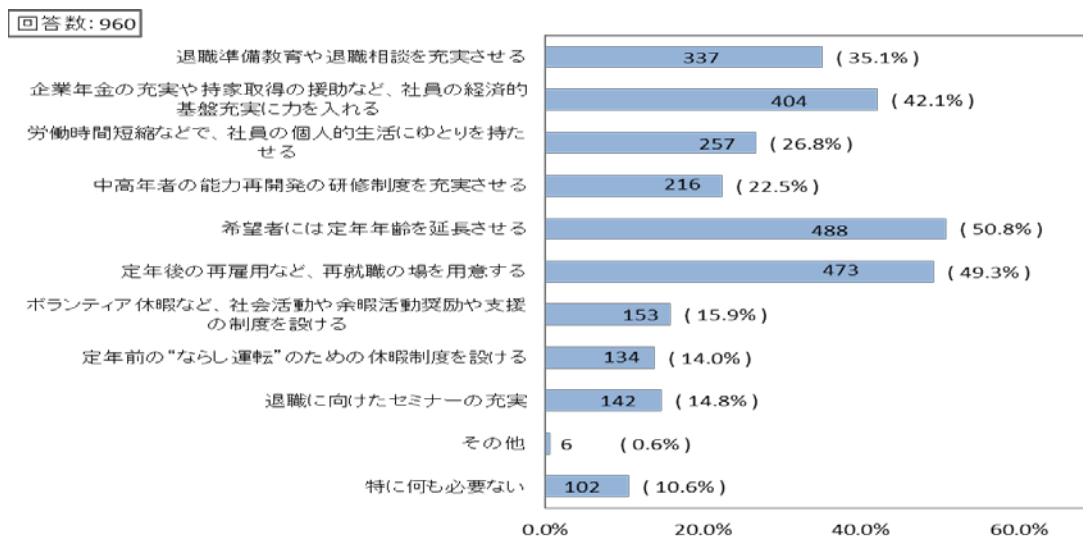


35～44 歳では「経済基盤」が必要であるとする回答が一番多く、45 歳以上では「健康の維持・増進」とする回答が一番多くなる。また、「生涯楽しめる趣味を持つ」とする回答が年齢の上昇とともに増加する。「夫婦・家族の関係を大切にする」とする回答は各年齢層で変化はなく一定割合が維持されていた。企業年金の有無でみると、企業年金がない人の方が若干「経済的基盤」が必要であるとする回答が多く、定年退職後の企業年金の有無が定年退職後の生活に影響を与えていると思われる。

【問 22-2】定年退職に向けて、企業としてはどのような条件の整備が必要だと思いますか。(複数回答)
(35-44 歳)

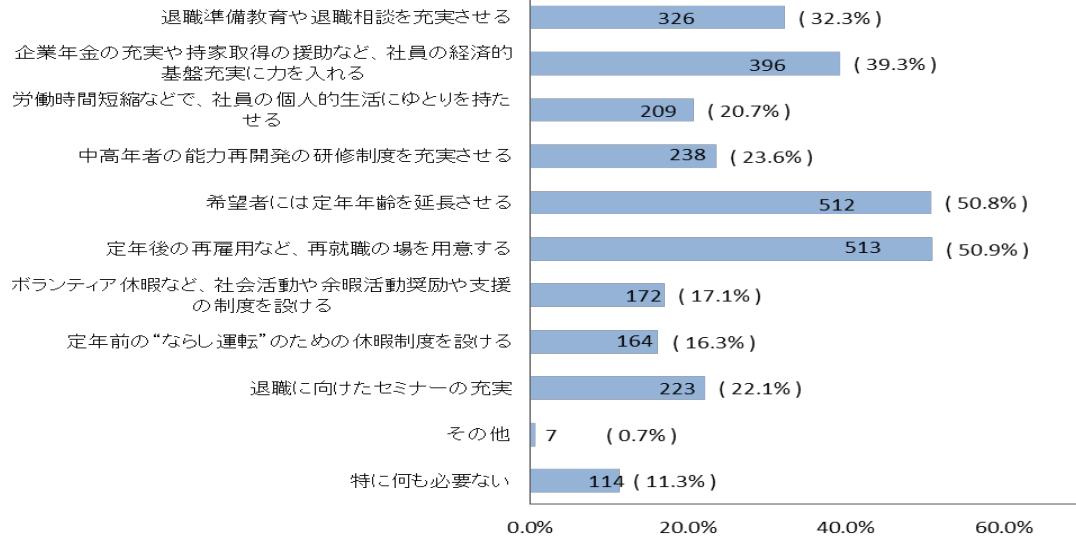


(45-54 歳)



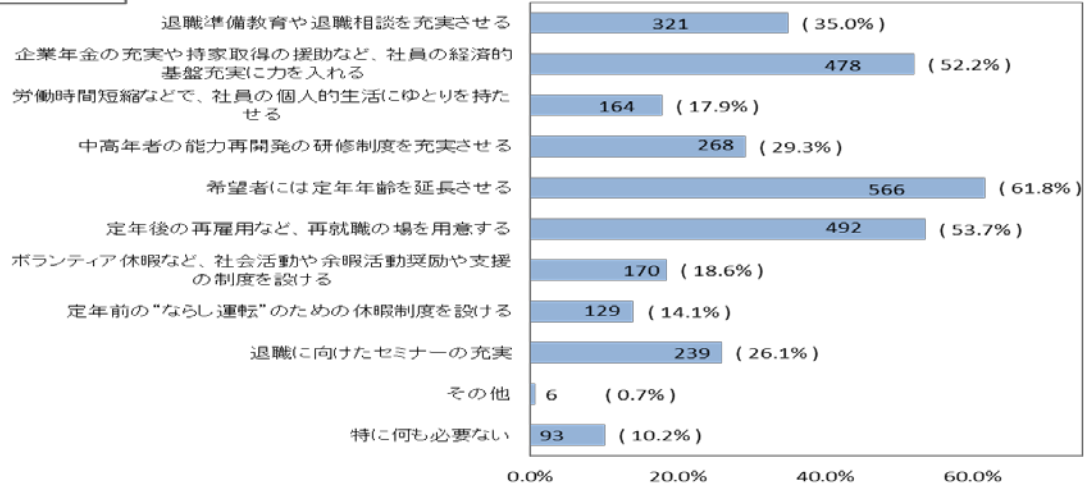
(55-64 歳)

回答数: 1,008



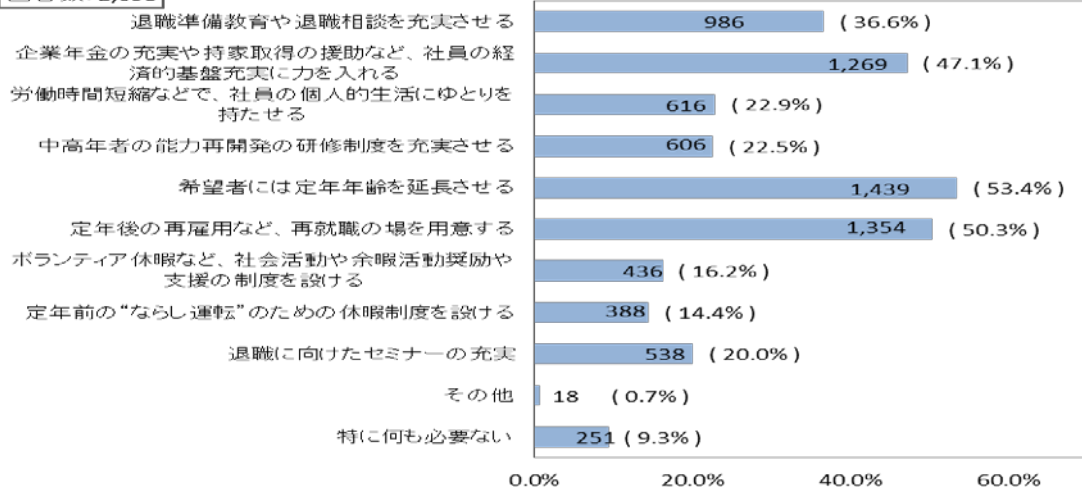
(65-74 歳)

回答数: 916



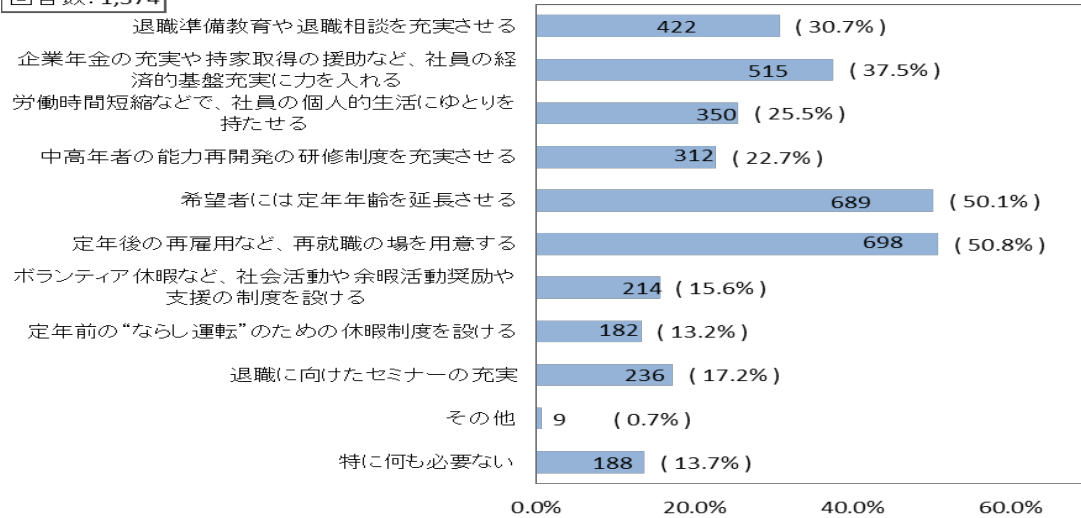
(企業年金あり)

回答数: 2,693



(企業年金なし)

回答数: 1,374

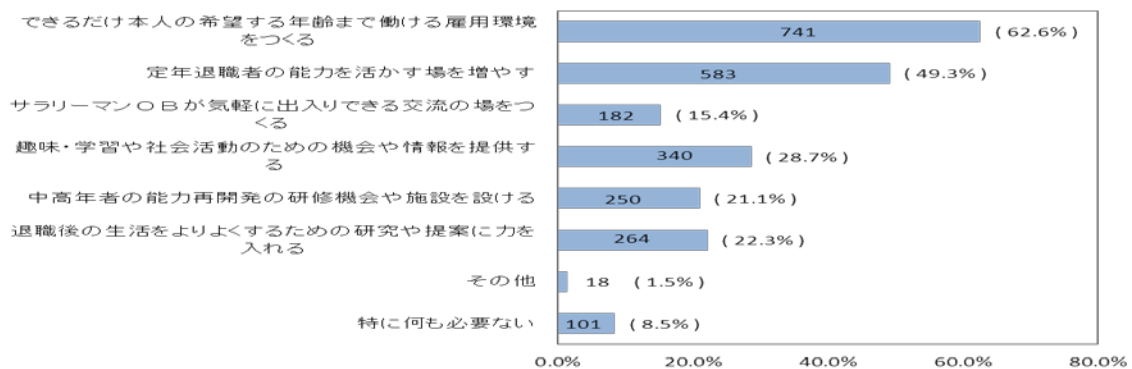


全ての年齢層で企業に求めているものは「定年後の再就職の場の用意」と「希望者への定年延長」が第1位と第2位で多く、3番目に「社員の経済的基盤充実」が多い。4番目には「退職準備教育」を求める回答が多かった。やはり、公的年金の支給開始年齢の引き上げや経済環境の悪化などから定年後も就業を希望する人が多く、定年延長や再雇用など定年後も就業できる環境の整備を望んでいる。また、「退職後教育」や「退職に向けたセミナー」への要望も比較的多く、従業員が退職後の生活に不安を抱えている様子が伺え、企業として定年退職に向けた社員教育が不可欠であると思われる。35～44歳と45～54歳では「労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりをもたせる」とする回答が5番目に多く、仕事が忙しい状況が伺える。65～74歳が企業に求めるものでは「中高年者の能力開発の研修制度の充実」が増加している。企業年金の有無でみると、それぞれで「定年後の再就職の場の用意」と「希望者への定年延長」が、第1位と第2位で多く、第3位は「社員の経済的基盤充実」で同じ状況であった。企業年金の有無による差異は認められなかった。

【問 22-3】定年退職に向けて、社会としてはどのような条件の整備が必要だと思いますか。(複数回答)

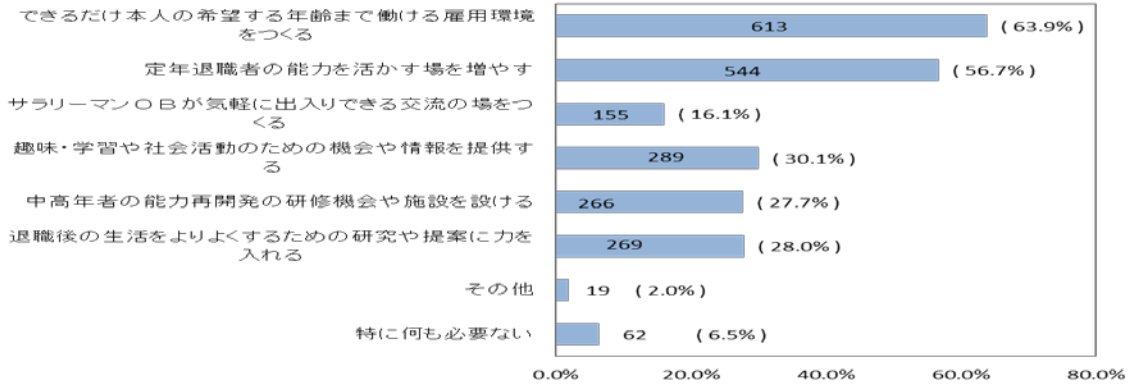
(35-44歳)

回答数: 1,183



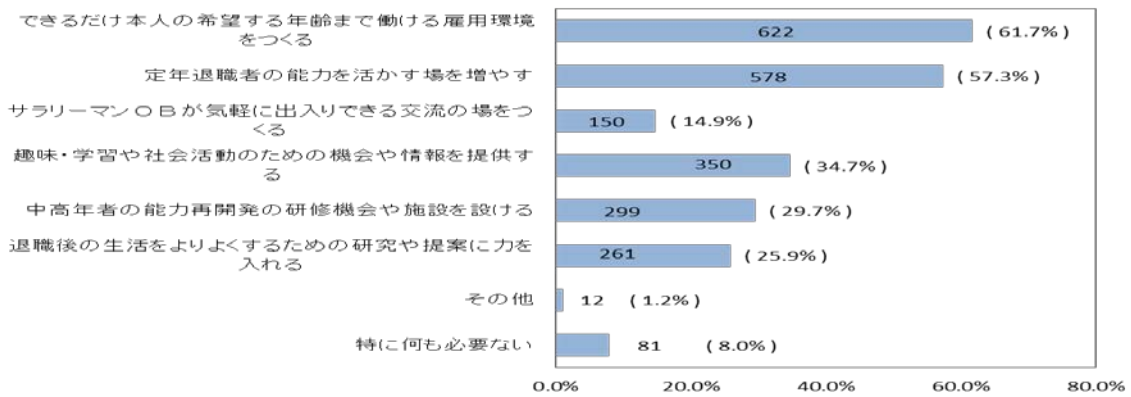
(45-54 歳)

回答数: 960



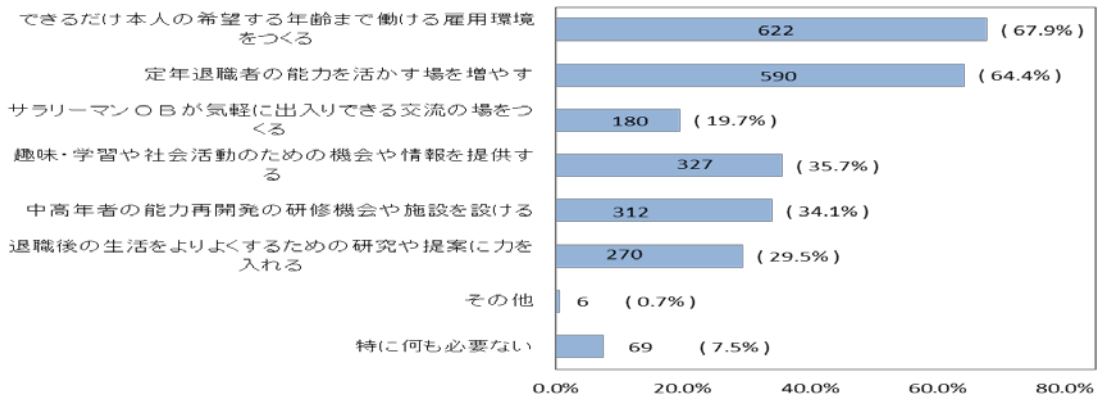
(55-64 歳)

回答数: 1,008



(65-74 歳)

回答数: 916



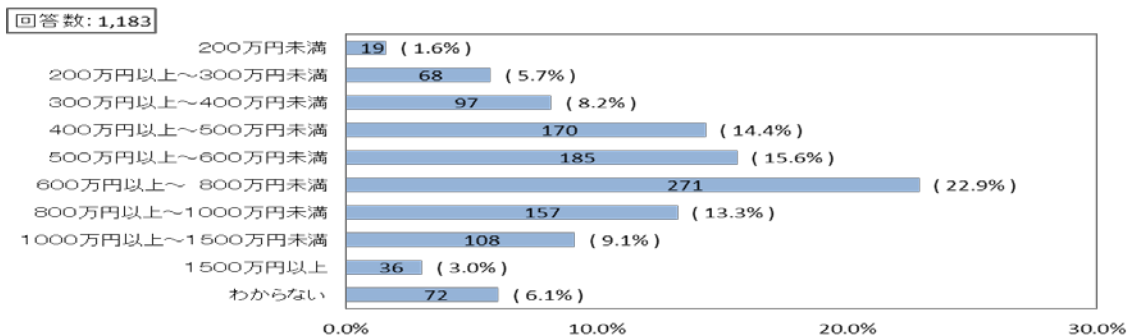
全ての年齢層で社会に求めているものは「希望する年齢まで働ける雇用環境」が一番多く、その次に「定年退職者の能力を活かす場」であった。「定年退職者の能力を活かす場」については35～44歳では、49.3%であるが、65～74歳では64.4%と、年齢が上がるにつれて増加する。やはり高齢期において働ける環境作りを求める人が多かった。3番目は「社会活動のための情報提供」で、これについても35～44歳では28.7%であるが、65～74歳では35.7%と、年齢が上がるにつれて増加しており、社会参加のきっかけを求めている人が多い結果であろう。

2.6 世帯の収入および貯蓄状況について

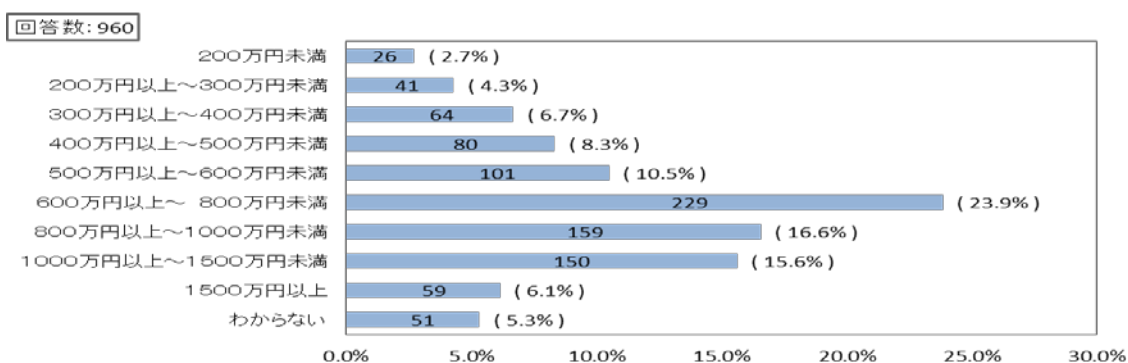
【問 26】 昨年 1 年間のあなたの世帯(ご夫婦合わせて)の年収はいくらですか。(単一回答)

(年金や副業での収入等も含めて、税込金額でお答えください)

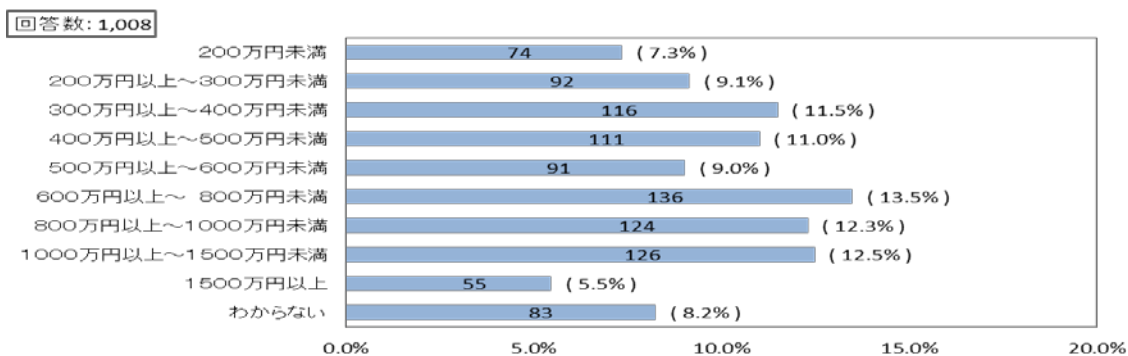
(35-44 歳)



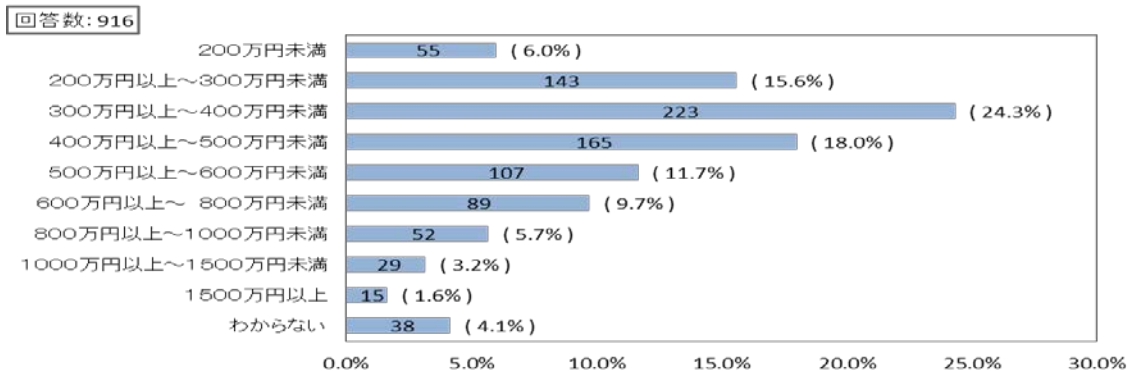
(45-54 歳)



(55-64 歳)

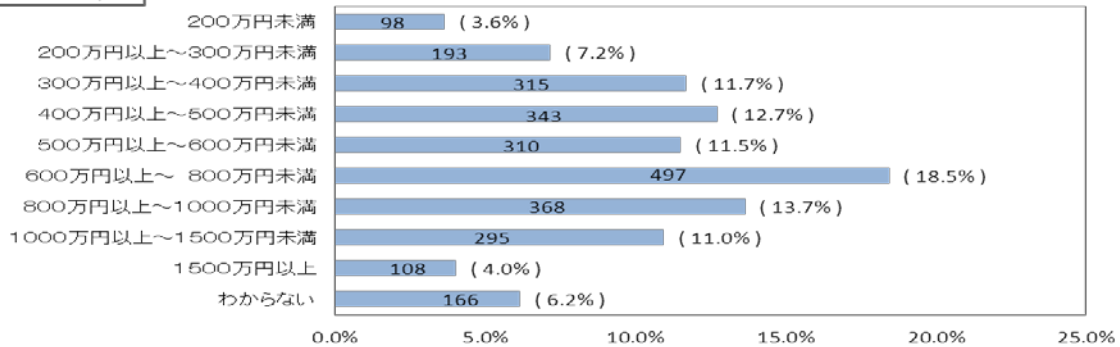


(65-74 歳)



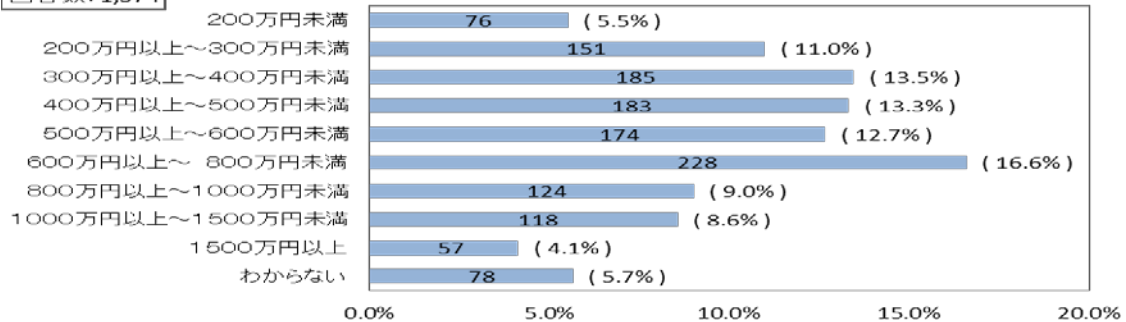
(企業年金あり)

回答数: 2,693



(企業年金なし)

回答数: 1,374

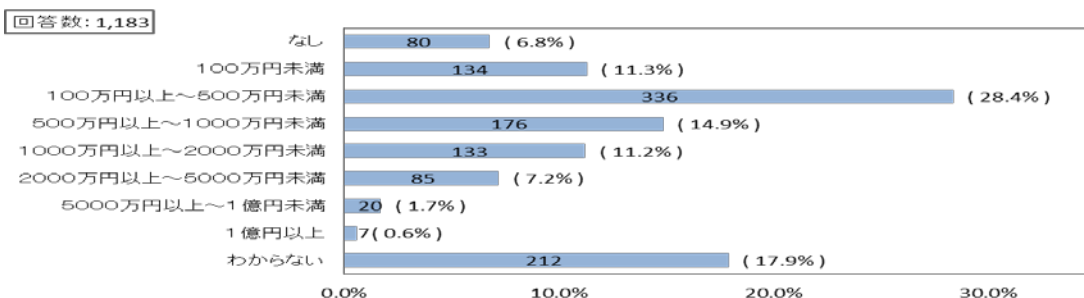


世帯収入を見ると、600万円未満の割合は35～44歳で45.5%、45～54歳で32.5%、55～64歳で47.9%、65～74歳で75.6%であり、600万円以上～1,000万円未満の割合は、35～44歳では36.2%、45～54歳の40.5%、55～64歳で25.8%、65～74歳の15.4%である。1,000万円以上の割合は35～44歳で18.2%、45～54歳で27.0%、55～64歳で26.2%、65～74歳の8.9%で、高所得者についてはやはり就業者の方が定年退職者より多いと思われる。定年退職して年金収入になると世帯収入が大きく減少する結果であろう。35～44歳、45～54歳、55～64歳では600万円以上～800万円未満が一番多く、それぞれ22.9%、23.9%、13.5%である。55～64歳になると300万円以上～500万円未満が増えてきており、定年退職後の再就職や継続雇用などで給与が減少するためと推測される。65～74歳では300万円以上～400万円未満が24.3%で一番多くなり、年金生活に入る65～74歳では世帯収入が下がる結果である。現在、公的年金の給付水準は従前所得の5割を目標水準³とされており、定年退職後の収入は現役所得の約半分程度となるため、定年退職後の生活設計を行うことが大事である。企業年金の有無でみると、1,000万円以上の割合は企業年金ありで21.2%、企業年金なしで18.4%であり、600万円以上～1,000万円未満の割合は企業年金ありで32.2%、企業年金なしで25.6%となっており、全体的に企業年金ありの方が世帯収入が多いと思われる。企業年金もなく世帯収入も低いと思われる企業年金がない人々に対する定年退職後の生活設計は、企業年金がある人々よりも必要であると思われる。

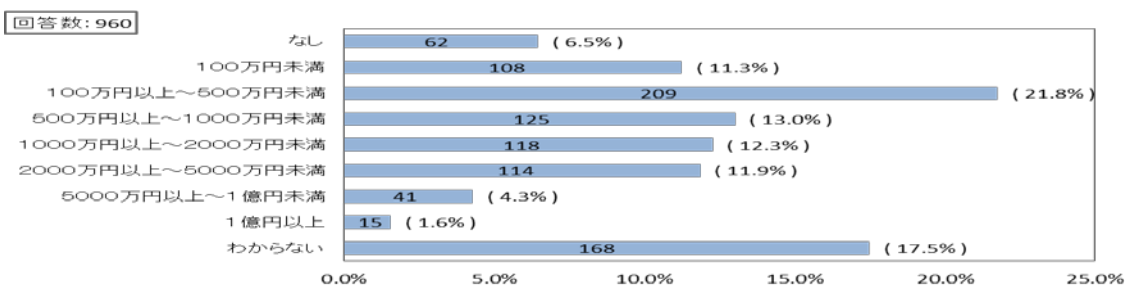
³ 平成16年財政再計算による所得代替率の見通しでは所得代替率は従前所得の約5割とされている。
(<http://www.mhlw.go.jp/topics/nenkin/zaisei/zaisei/04/index.html>, 2011.12.7).

【問 27】現在のあなたの世帯(ご夫婦合わせて)で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部
 でおよそいくらですか。(不動産は除いてお答えください)(単一回答)

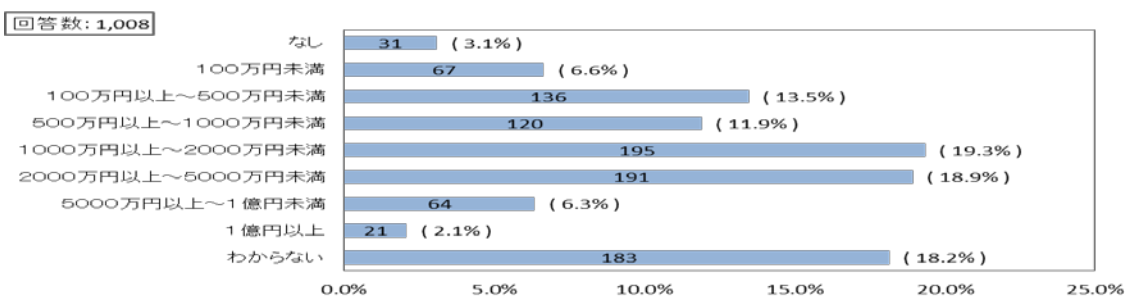
(35-44 歳)



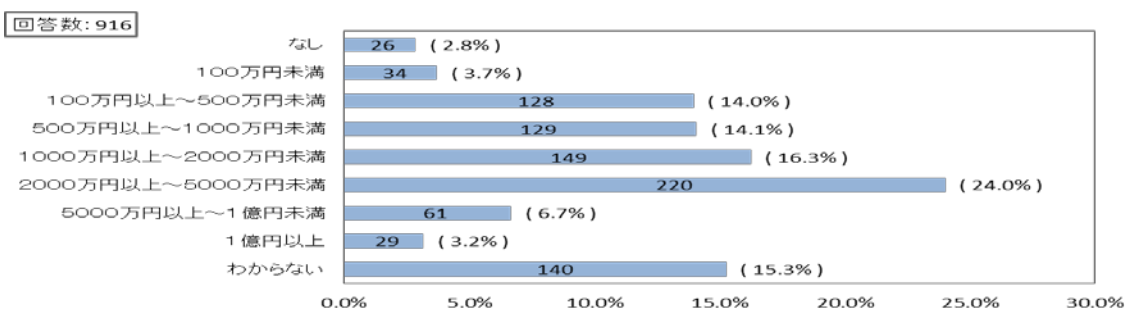
(45-54 歳)



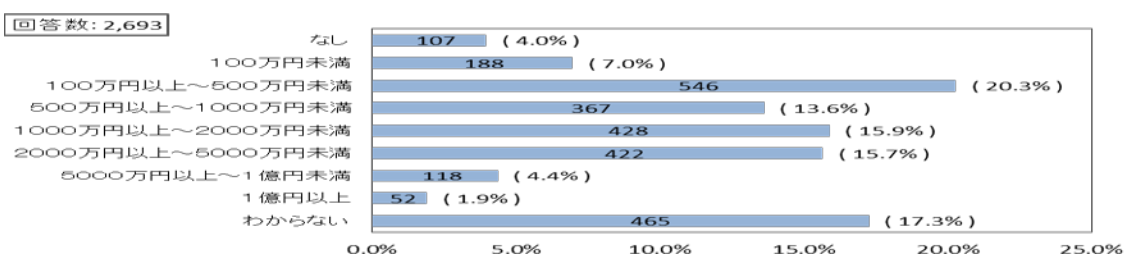
(55-64 歳)



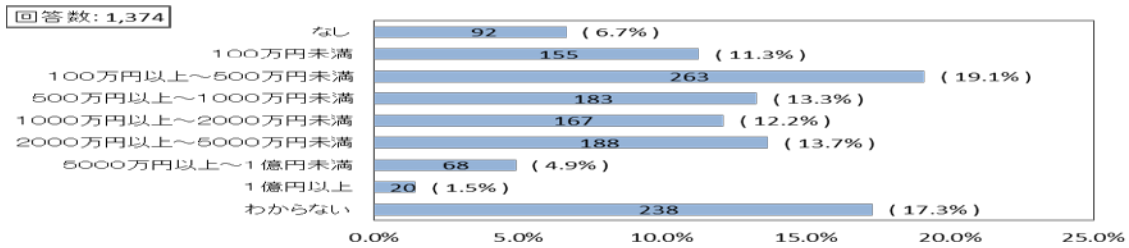
(65-74 歳)



(企業年金あり)



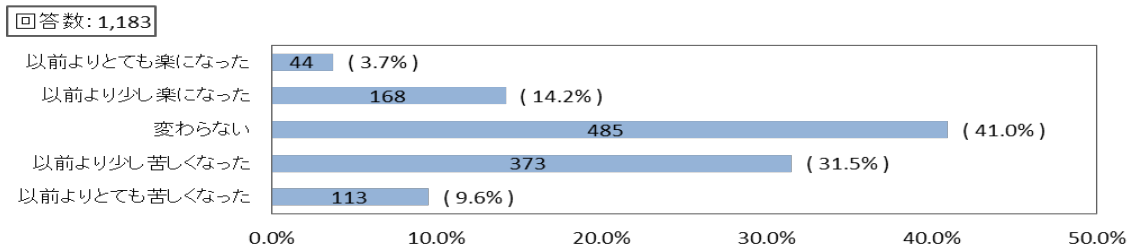
(企業年金なし)



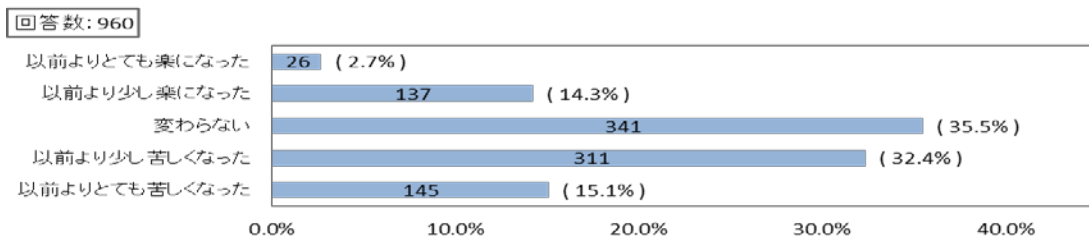
世帯貯蓄については、500万円未満の割合は35～44歳で一番多く46.5%、45～54歳で39.6%、55～64歳で23.2%、65～74歳で20.5%であり、35～44歳と45～54歳では100万円以上～500万円未満の割合が一番多い。55～64歳では1,000万円以上～2,000万円未満が一番多いが、2,000万円以上～5,000万円未満も同じくらいで、65～74歳では2,000万円以上～5,000万円未満が一番多い状況である。やはり若年齢世帯ほど貯蓄が少なく、年齢が上がるにつれて貯蓄額も増加し、高齢者世帯ほど貯蓄額が多い結果であった。企業年金の有無でみると、500万円未満の割合は企業年金ありで31.3%、企業年金なしで37.1%、1,000万円以上の割合は企業年金ありで37.9%、企業年金なしで32.3%で、企業年金ありの方が全体的に世帯貯蓄も多い状況である。世帯収入も世帯貯蓄も少ない企業年金がない人々に対して、公的年金を補完する老後所得保障について、若い頃から定年退職に向けた資産形成ができるような何らかのインセンティブ（税による優遇など）を持った新たな個人貯蓄の仕組み作りが必要である。

【問 30】あなたは5年前(平成18年)と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと
感じていますか。(単一回答)

(35-44歳)

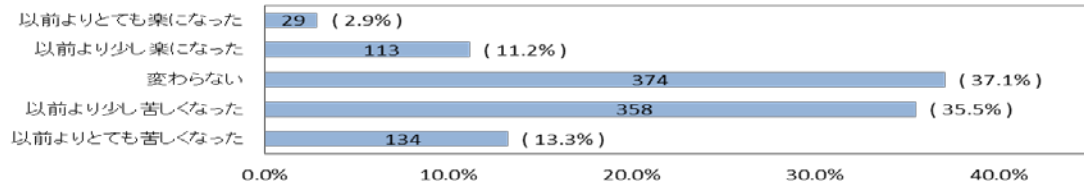


(45-54歳)



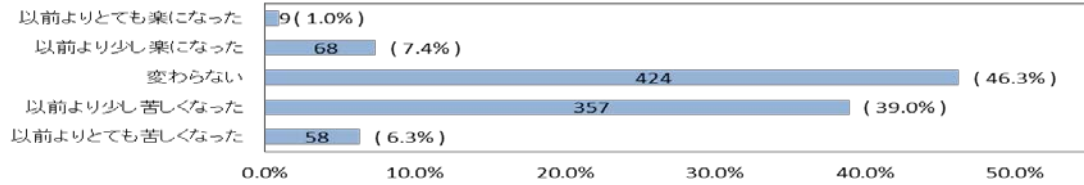
(55-64 歳)

回答数: 1,008



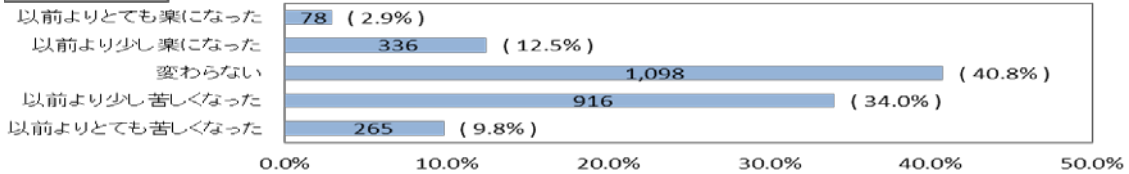
(65-74 歳)

回答数: 916



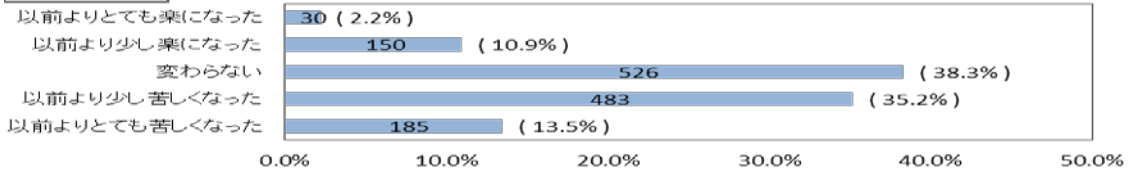
(企業年金あり)

回答数: 2,693



(企業年金なし)

回答数: 1,374



前回調査時の5年前(平成18年)と現在の経済的暮らしが変わったかどうか聞いたところ、各年齢層で「以前より少し苦しくなった」と「以前よりかなり苦しくなった」とする回答が多く、これらの合計は、35~44歳で41.1%、45~54歳で47.5%、55~64歳で48.8%と一番多く、65~74歳で45.3%であった。45~54歳と55~64歳で苦しくなったと感じている人が多かった。また、65~74歳では就業収入から年金収入に変わったことにより経済的に苦しくなったとする回答も含まれていると思われる。一方、「以前よりとても楽になった」と「以前よりも少し楽になった」とする回答の合計は35~44歳で17.9%、45~54歳で17.0%、55~64歳で14.1%と一番多く、65~74歳で8.4%と年齢が上がるにつれて減少していた。企業年金の有無でみると、「以前より少し苦しくなった」と「以前よりかなり苦しくなった」とする合計は、企業年金がある人は43.8%で、企業年金がない人で48.7%であり、「以前よりとても楽になった」と「以前よりも少し楽になった」とする回答の合計は企業年金がある人では15.4%で、企業年金がない人で13.1%で、企業年金がない人の方が生活が苦しくなったと感じていると思われる。全体的に5年前と比べて経済環境や雇用環境の悪化を感じている人々が多い結果であった。

3 まとめ

3.1 生活環境と生きがい

今回の調査は、リーマンショック後の世界経済が悪化し、日本経済も経済・雇用環境共に著しく悪化してきている中での調査であり、5年前と比べて生活が苦しくなったと考えている人の割合が多かった。定年退職後の人の収入は公的年金が中心となり、収入の大幅な増加は望めず、預けている金融資産も低金利のため資産がほとんど増えない状況の中、貯蓄を取り崩していくしかない状況かもしれない。生活環境については若年齢層の35～44歳と45～54歳では自由時間が不十分であるとする人がそれぞれ27.3%、22.5%であり、企業が採用を抑える中、仕事が忙しくゆとりのある生活ができない状況で、将来の不安だけが募っているのではないかと思われる。このような状況下、サラリーマンの生きがい保有率についても減少傾向にあり、高年齢層も若年齢層も将来の不安から生きがいの喪失に繋がっているのではないかと思われる。生きがいの場については、「仕事・会社」が引き続き減少傾向にある中、「家族や家庭」に求める傾向が増えつつある。本人と配偶者の考え方については、お互い「価値観・考え方は異なる」ものの、お互いを大切に考えており、夫婦間での大きな認識の差は見られなかった。

3.2 社会参加

「社会参加」は、高年齢層ほど参加が多く、若年齢層ほど参加が少ない状況である。「社会参加」は拒否しているものではないが、積極的に参加しようという人は少なく、きっかけさえあれば参加してもよいと考えられていた。若い頃は地域のイベントや子どものサークルなどを通して社会参加する機会があり、ここでの関係をその後も続けていけるかどうかの一つの鍵になるように思われる。しかし、若い頃の社会参加がないまま定年退職して自由な時間が持てるようになると、社会参加に興味を持つもののどうしたら良いかわからず「きっかけがない」状態が続き、さらに高齢になると「健康と体力に自信がなくなり」、何となく「自分にあつた活動がない」と思い込んで社会参加ができない人が多いように思われる。退職後の新たな活動の場を退職前から考えている人は少ないと思われ、定年退職後は社会参加による新しい活動の場を切り開いていく必要があると思われるが、その準備ができていないものと思われる。若い頃から色々な社会活動に興味を持って参加し、その中から将来続けられそうな自分に合った社会活動を探していくことが高齢期における社会参加に繋がると思われる。社会活動の参加理由も「身近な人に誘われて」が多く、きっかけさえあれば、参加する意思はあると思われ、「きっかけ」作りが社会参加への第一歩であると思われる。また、生きがいの場はこのような社会参加の中で見出すことができ、生きがいを持った豊かな生活のためにも社会参加への「きっかけ」作りが必要である。このような社会活動に生きがいを見出すことができれば、生きがいの保有にも繋がり豊かな老後生活にも繋がることであろう。

3.3 定年退職に向けて必要なこと

定年退職後に必要なものとしては、「健康の維持増進」「経済基盤」「生涯楽しめる趣味」という結果が挙げられており、これは「健康」「経済」「生きがい」ということになる。また、「退職後教育」や「退職に向けたセミナー」への要望も多く出されており、定年退職後の生活に不安を抱えている様子が伺え、定年退職に向けた年金教育が不可欠であると思われる。若い頃から定年退職に向けた準備を進め、定年退職後の生活設計を若い年齢から行うことが豊かな老後生活に繋がると考える。企業及び社会は「ライフプランセミナー」の重要性を再認識し、より若い年齢から生活設計と定年退職に向けた資産形成のための「ライフプランセミナー」を行っていく必要がある。

3.4 新たに調査対象とした「企業年金がない人」の調査結果

今回の調査では、「企業年金がない人」も新たに調査対象とし、「企業年金がある人」との比較を試みたが、生活と生きがいについての大きな考え方の相違は見られなかった。企業年金がある人は、定年退職後の収入の何割かを企業年金に頼ることができ、定年退職後は無理して働かなくてもよいと考えられていたが、企業年金がない人は定年退職後の収入は公的年金が中心となるため、可能な限り働いて就業による所得を継続したいと考えられていた。また、企業年金がない人は定年退職後は公的年金だけでは不安であることから、自ら個人年金にも加入して定年退職後に備えている状況である。当機構で実施した「企業年金に関するアンケート調査（2011.2）」⁴では、企業年金がない人のほとんどが定年退職後は公的年金だけでは不安であると考えており、何らかの年金制度にできれば加入したいと考えられていた。特に、近年、経済環境の悪化等から非正規雇用という雇用形態が広がりつつあり、「企業年金がない被用者の老後所得保障をどうすべきであるか」については、我が国において緊急の課題であろう。これらの企業年金がない人々が現在加入できる既存の年金制度の周知と伴に、これらの人々が自ら進んで加入するような税の優遇などによるインセンティブを持った新たな仕組み作りが必要かもしれない。諸外国では既に公的年金を補完する私的年金制度の導入が進められており、米国のIRA（Individual Retirement Account：個人退職勘定）、イギリスのNEST（National Employment Saving Trust）国家雇用貯蓄信託⁵、ドイツのリースター年金（Riester Rente）⁶

⁴ 菅谷和宏（2011）「企業年金に関する意識調査」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，30(1): pp.49-77.

⁵ NEST（National Employment Saving Trust）国家雇用貯蓄信託とは、職域年金未加入者を強制的に加入させることにより、低所得者の老後資金の積み立て促進を目的に2012年導入予定である。財源は被用者本人と事業主がそれぞれ税引き後所得（年間5000～3万3500ポンド）の4%、3%を保険料として負担し、政府が減税措置の形で1%を拠出することで賄われるものである。

杉田浩治「自動加入方式を採用する英国の新個人年金制度」
(http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001_01.pdf, 2011.12.5).

⁶ リースター年金（Riester Rente）とは、ドイツの2001年年金改革において公的年金の給付水準の引き下げが行われ、公的年金を補完する目的で、2002年1月に任意加入の個人積立勘定（拠出建て）による補足的な老後保障制度として導入されたものである。加入者の掛金に対して政府が補助金支給（基礎助成金及び児童助成金）または所得控除（保険料の所得控除）を行うものである。低所得者ほど、また子供の人数が多いほど政府の補助が手厚くなるものであり、低所得者には補助金支給、高所得者には所得控除が自動的に行われる仕組みである。拠出上限（2010年までに4%へ段階的に引き上げ）が設定されている。加入対象者は公的年金の強制被保険者であり、任意加入者等は除外となっている。

などを参考に新たな税制優遇（所得控除または直接補助）を持った個人貯蓄の枠組みを構築し、個人の自助努力による公的年金の補完を進めることが豊かな老後生活に繋がると考える。人々が生きがいを持って老後生活を送れるような社会政策の新たな枠組みが必要である。

なお、本稿では第5回調査結果を概観したが、第1回調査から第5回調査の20年間にわたる調査の総括については次章で報告する。生きがいは、個人の生活や心理的要素が複雑に影響するものであり、それ自体非常に多様性を持つものである。また、年齢とともに生活が変化し、それに伴い生きがいの意味や価値観も変化していく。就業形態が多様化していく中、これらの多様性に対応できるような、生きがい感の構築が必要であろう。そのためには、個人として何をすべきか、企業は何をすべきか、社会はどのような政策を作るべきかを考えていく必要がある。経済環境と雇用環境が著しく悪化していく中、人々が何に生きがいを見出し、どのようにして生きがいを得て、その生きがいをいかに将来に亘って保持していくかについて改めて考える時期に来ている。

参考文献

- 財団法人シニアプラン開発機構（現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構）（1992）『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- ———（1997）『第2回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- ———（2002）『第3回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2007）『第4回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総合研究機構。
- 菅谷和宏（2011）「企業年金に関する意識調査」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，（30）1：pp.49-77.
- 企業年金連合会編（2010）『企業年金に関する基礎資料』平成22年12月発行。
- 小笠原章・中嶋邦夫「私的年金が強化されるドイツ年金制度」ニッセイ基礎研 REPORT 2006.12（<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2006/12/li0612b.pdf>, 2011.3.25）。
- 杉田浩治「自動加入方式を採用する英国の新個人年金制度」（2010.1.18）日本証券研究所（http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001_01.pdf, 2011.12.5）。

小笠原章・中嶋邦夫「私的年金が強化されるドイツ年金制度」ニッセイ基礎研 REPORT 2006.12 より抜粋。（<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2006/12/li0612b.pdf>, 2011.3.25）。

第3章 第1回調査結果から第5回調査結果における サラリーマンの生活と生きがいの変化について

1 はじめに

本章では、今回の調査結果を基に、第1回調査からの20年間にわたる社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移の中で、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化してきているかについての分析を行う。平成3年(1991年)に第1回調査が行われてから20年が経過し、日本経済は高度成長から低成長時代へと移行した。団塊の世代¹が大量に定年を迎える中、日本人の平均寿命は第1回調査時の男性75.92歳、女性81.90歳(1990年)から男性79.64歳、女性86.39歳(2010年)²に上昇し、日本の高齢化率も第1回調査時の12.0%(1990年)³から23.1%(2010年)⁴に大きく上昇した。経済・雇用環境が変化し、高齢者が増加する中、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方にも変化が生じているのであろうか。第1回調査結果から今回の第5回調査結果までの5回の調査結果を各項目毎に比較を行い、その変化を考察する。なお、比較する項目については、第1回調査(場合によっては第2回調査)から継続して実施している項目について行う。

主な調査結果としては、経済・雇用環境の悪化に伴い「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのほりあい」「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。このような中、サラリーマンが生きがいを持って生活するためにはどうしたら良いのか。そのキーワードのひとつは「社会参加」ではないかと考えられる。定年退職後も仕事に代わる生きがいを持てるような社会参加への「きっかけ」作りと、これらの人々が現役時代に培った能力を社会に還元し、地域社会を支える役割を担えるような仕組み作りが必要である。また、社会と企業に求められることは、これから定年退職を迎える人々に対して将来の生活不安を少しでも解消するため、若い頃からの将来の生活設計と定年退職に向けた社員教育と、公的年金を補完する新たな「経済基盤」の仕組み作りが必要である。これらは今後の日本の超高齢社会への対策ともなり、日本の明るい未来へ繋がると思う。なお、本稿のうち意見にわたる部分は、筆者の個人的見解であることを付け加えたい。

¹ 日本の第一次ベビーブームに出生した1947年から1949年までの世代を指し、年間出生数は約270万人でその前後の年より約2~3割多く、3年間の出生数合計は約806万人にのぼる。これら団塊の世代が大量に60歳定年退職を迎えたのが2007~2009年である。

² 厚生労働省「統計資料」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/gaiyo.html>, 2011.12.7)。

³ 厚生労働省「平成22年簡易生命表の概況」

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/dl/gaikyou.pdf>, 2011.12.7)。

⁴ 内閣府『平成23年版 高齢社会白書』

(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html, 2011.12.7)。

2 第1回調査結果から第5回調査結果までの変化について

2.1 過去調査結果との比較に際して

平成3年(1991年)の第1回調査からの20年間の社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移の中で、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化してきているかを概観する。比較項目は過去調査から継続して調査実施している項目を抽出して行う。なお、過去調査との比較に際しては継続性の観点から今回調査対象者5,145人のうち「企業年金があるサラリーマン男女およびサラリーマンOB(企業年金の加入者および受給者)」2,693人を抽出して比較を行う。また、今回はインターネット調査を使用した関係上、インターネットを使用する人の基本属性に多少偏りが存在したり、無回答がない⁵、など過去の郵送調査との差異が存在する。男女比については前回までは厚生年金基金加入員数の男女比(3:1)としていたが、今回は第2号被保険者の男女比(7:3)⁶でサンプル数の割付けを実施している。年齢別サンプル数も、前回までは個別の厚生年金基金の加入者受給者に依存していたが、今回は社会保障審議会年金数理部会「公的年金財政状況報告(平成19年度)」⁷に基づく年齢別男女別の割付けを実施。このように前回までとの調査方法との差異に依存して回答結果にも影響が出ている場合があることに留意願いたい。

2.2 サラリーマン像の変化について

主なアンケート項目の調査結果を抜粋して以下に述べる。

【問1】婚姻状況(単一回答)

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	279	2188	159	67	0
(%)	100	10.4	81.2	5.9	2.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	267	1576	57	74	18
(%)	100	13.4	79.1	2.9	3.7	0.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	370	2597	70	105	47
(%)	100	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	248	2477	43	99	42
(%)	100	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	176	2737	41	65	32
(%)	100	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0

近年、未婚率の上昇と離婚率の増加が言われており、厚生労働省「平成22年人口動態統計」によると、婚姻率⁸は1971年の10.5%をピークに減少し、2010年では5.6%であり、離婚率⁹は1963年の0.73%から増加しており、2010年では2.0%となっている。生涯未婚率¹⁰

⁵ 郵送調査では回投票に未記入が発生する可能性があるが、今回のインターネット調査では必ずいずれかの項目に回答しないと次の回答に進めない仕組みとしたため無回答がない状況である。

⁶ 社会保障審議会年金数理部会「公的年金財政状況報告(平成19年度)」に基づいて男女比を割付け。
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html>, 2011.12.7).

⁷ 社会保障審議会年金数理部会「公的年金財政状況報告(平成19年度)」に基づいて年齢別に割付け。
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html>, 2011.12.7).

⁸ 婚姻率: 年間の婚姻届出件数を10月1日現在日本人人口で除して1,000を乗じた数字。
厚生労働省「厚生統計に用いる主な用語の解説」

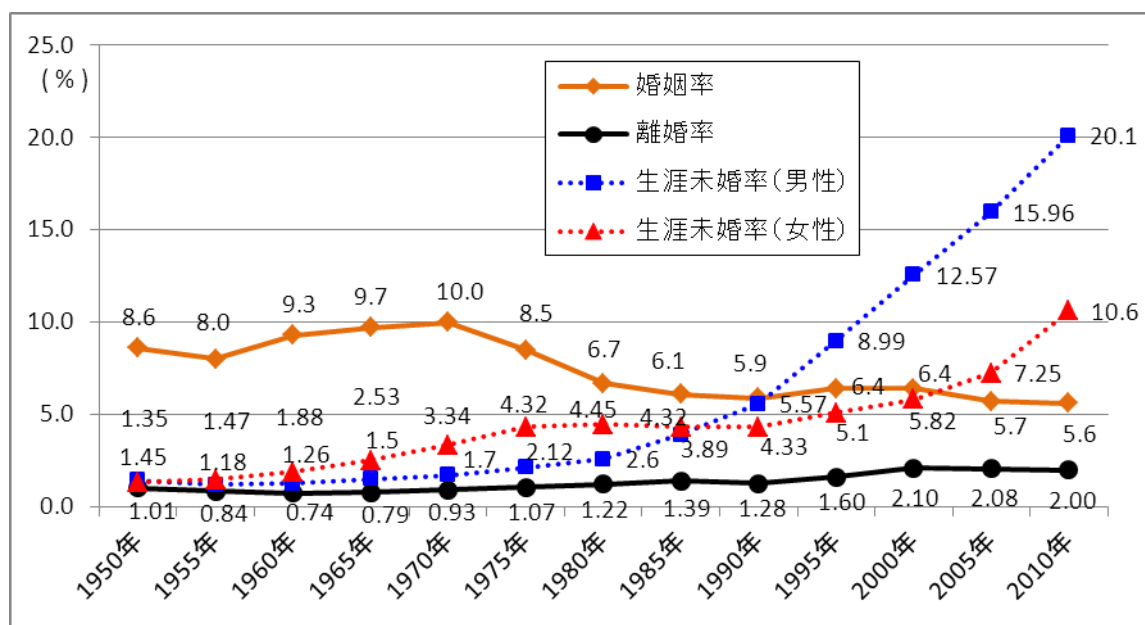
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/kaisetu/index-hw.html>, 2012.2.8).

⁹ 離婚率: 年間の離婚届出件数を10月1日現在日本人人口で除して1,000を乗じた数字。同上

¹⁰ 生涯未婚率: 45~49歳と50~54歳の未婚率の平均値から、50歳時の未婚率(結婚したことがない人の割合)を算出。

は、男性で1955年の1.18%から2010年には20.1%まで上昇、女性も1950年の1.35%から2010年には10.6%まで上昇してきている。〔図表3-1〕参照。本調査結果でも未婚者の割合はこの20年間に5.8%から10.4%の2倍弱（前回では13.4%の2倍強）に増加し、既婚者の割合が減っている。死別（既婚死別）には大きな変化はないが、離婚者（既婚離別）の割合はこの20年間で1.3%から5.9%の4倍強に大きく上昇している。

〔図表3-1〕 婚姻率・離婚率・生涯未婚率の推移（1950-2010）



出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計の年間推計」及び国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2010年版）」より筆者作成

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suikai10/index.html>, 2012.2.8).

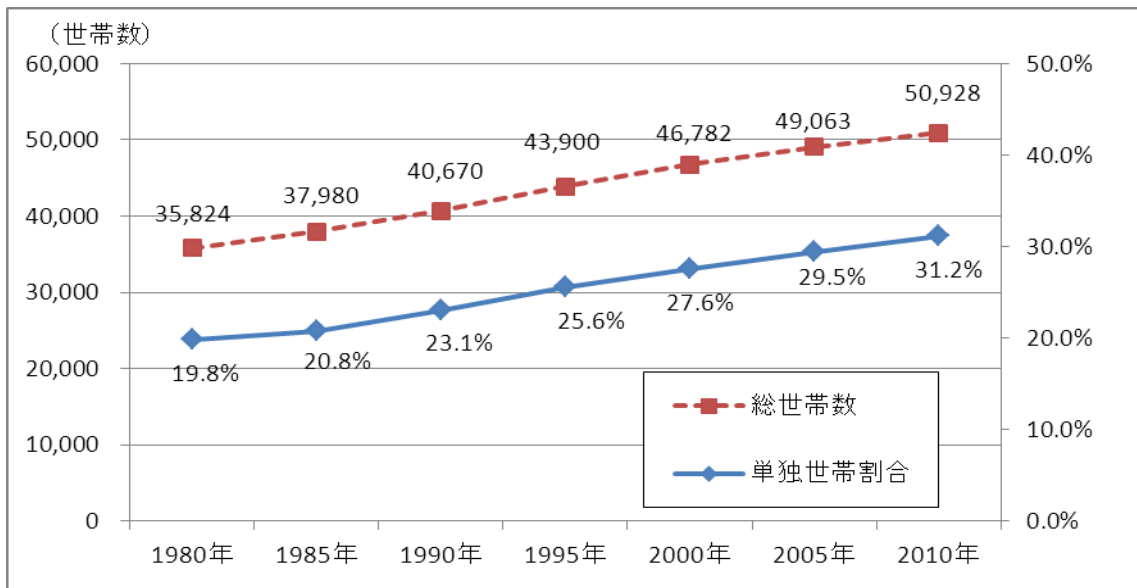
(http://www8.cao.go.jp/shoushi/whitepaper/w-2011/23webhonpen/html/b1_s2-1-2.html, 2012.2.8).

〔問2〕 世帯構成(同居状況) (単一回答)

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分)と未婚の子	自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦	自分たち夫婦(または自分)と親	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	285	814	1131	46	297	120	0
(%)	100	10.6	30.2	42.0	1.7	11.0	4.5	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	194	525	762	74	384	30	23
(%)	100	9.7	26.4	38.3	3.7	19.3	1.5	1.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	281	759	1226	143	564	72	144
(%)	100	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	191	701	1136	148	461	171	101
(%)	100	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	174	780	1282	194	411	84	126
(%)	100	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

ひとり暮らしの割合は、5.7%から10.6%の2倍弱に増加し、自分たち夫婦と子ども夫婦という2世帯（場合により3世帯）同居率が6.4%から1.7%の4分の1弱に減少している。総務省「H22年国勢調査」によると、総世帯数に占める単独世帯数の割合は1980年の19.8%から2010年には31.2%まで上昇してきている。〔図表3-2〕参照。

【図表 3-2】 単独世帯割合の推移（1980-2010）



出典：総務省「H22年国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（2008年3月推計）」より筆者作成

(<http://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2008/gaiyo20080314.pdf>, 2012.2.8).

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/sokuhou/pdf/youyaku.pdf>, 2012.2.8).

【問5】 住居年数（単一回答）

	総数	5年未満	5年以上	10年以上	20年以上	30年以上	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	354	344	643	422	930	0
(%)	100	13.1	12.8	23.9	15.7	34.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	177	203	373	309	752	178
(%)	100	8.9	10.2	18.7	15.5	37.8	8.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	328	350	584	675	1,198	54
(%)	100	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	304	244	660	636	968	97
(%)	100	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	347	313	818	548	992	33
(%)	100	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

【問6】 住居形態（単一回答）

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	1,602	564	58	87	370	12	0
(%)	100	59.5	20.9	2.2	3.2	13.7	0.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,237	314	44	46	167	16	168
(%)	100	62.1	15.8	2.2	2.3	8.4	0.8	8.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,125	471	123	113	201	12	144
(%)	100	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,057	338	100	102	187	30	95
(%)	100	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,210	283	140	114	229	27	48
(%)	100	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

居住年数による大きな変化は見られない。居住形態については、持家比率は 81.7%から 80.4%と大きな変化はないが、「持ち家（一戸建て）」の割合が 72.4%から 59.5%に減少し、「持ち家（分譲マンション等）」の割合が 9.3%から 20.9%の 2 倍強に増加している。一戸建てから集合住宅（マンション）での居住形態が増えている。なお、借家割合は 7.5%から 13.7%に少し増加傾向にある。

【問7】最終学歴（単一回答）

	総数	小学校・ 高等小学 校・新制中 学校	旧制中学 校・高等女 学校・実業 学校・新制 高等学校	旧制高等学 校・高等師 範学校・新 制短大	大学・ 大学院	専門学校・ 専修学校	その他	無回答
≪今回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	100 3.7	590 21.9	305 11.3	1380 51.2	268 10.0	50 1.9	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	120 6.0	608 30.5	132 6.6	803 40.3	149 7.5	4 0.2	176 8.8
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	287 9.0	1162 36.4	164 5.1	1276 40.0	138 4.3	10 0.3	152 4.8
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	346 11.9	1193 41.0	170 5.8	952 32.7	103 3.5	44 1.5	101 3.5
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	449 14.7	1336 43.8	222 7.3	843 27.6	116 3.8	23 0.8	62 2.0

最終学歴は「大学・大学院」の割合が27.6%から51.2%の約2倍弱に増加しており、大学進学率の増加が伺える。文部科学省「平成23年度学校基本調査」¹¹⁾によると、2011年の大学・短大進学率は2010年のピーク時の54.3%から少し下がり53.9%であった。

2.3 就業状況及び収入状況の変化について

【問8】現在の就業形態（単一回答）

	総数	正規の社 員・従業員	派遣・嘱 託・パートタ イマーなど	自営業・自 由業・家 族・従業員	内職	シルバー人 材センター (高齢者事業 団)	無職	その他	無回答
≪今回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	1463 54.3	274 10.2	144 5.3	10 0.4	6 0.2	796 29.6	0 0.0	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	1407 70.6	190 9.5	37 1.9	1 0.1	8 0.4	306 15.4	13 0.7	30 1.5
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	1917 60.1	333 10.4	67 2.1	6 0.2	26 0.8	554 17.4	4 0.1	282 8.8
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	1853 63.7	274 9.4	80 2.8	13 0.4	30 1.0	509 17.5	55 1.9	95 3.3
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	2047 67.1	303 9.9	80 2.6	8 0.3	23 0.8	506 16.6	-	84 2.8

【問9-4】1週間の勤務日数（単一回答）

	該当数	1日未 満	1~2 日未 満	2~3 日未 満	3~4 日未 満	4~5 日未 満	5~6 日未 満	6~7日未 満	7日以上	0日	無回答	非該当
≪今回調査(平成23年)≫ (%)	1,897 100	0 0.0	23 1.2	31 1.6	68 3.6	104 5.5	1406 74.1	244 12.9	21 1.1	-	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,656 100	0 0.0	7 0.4	16 1.0	53 3.2	32 1.9	1388 83.8	137 8.3	9 0.5	1 0.1	13 0.8	0 0.0
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	2,353 100	0 0.0	19 0.8	36 1.5	60 2.5	52 2.2	1884 80.1	228 9.7	20 0.8	0 0.0	50 2.1	4 0.2
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,305 100	1 0.0	13 0.6	22 1.0	44 1.9	36 1.6	1787 77.5	267 11.6	10 0.4	1 0.0	69 3.0	55 2.4
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	2,461 100	0 0.0	20 0.8	30 1.2	40 1.6	38 1.5	1520 61.8	687 27.9	22 0.9	0 0.0	104 4.2	0 0.0

¹¹⁾ 文部科学省『平成23年度学校基本調査』
(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2012/02/06/1315583_1.pdf,
2012.2.8).

【問9-5】1日の勤務時間（単一回答）

	該当数	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6~7時間未満	7~8時間未満	8~9時間未満	9~10時間未満	10~12時間未満	12~15時間未満	15時間以上	0時間	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	0	15	19	37	45	61	69	139	819	257	334	78	24	0	-	-
(%)	100	0.0	0.8	1.0	2.0	2.4	3.2	3.6	7.3	43.2	13.5	17.6	4.1	1.3	0.0	-	-
《第4回調査(平成18年)》	1,656	0	1	6	11	14	20	27	153	673	301	351	69	10	4	16	0
(%)	100	0.0	0.1	0.4	0.7	0.8	1.2	1.6	9.2	40.6	18.2	21.2	4.2	0.6	0.2	1.0	0.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	0	0	9	19	25	34	53	191	1,328	255	254	112	12	0	57	4
(%)	100	0.0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.4	2.3	8.1	56.4	10.8	10.8	4.8	0.5	0.0	2.4	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	1	2	3	15	25	34	48	451	1,141	195	160	65	8	1	101	55
(%)	100	0.0	0.1	0.1	0.7	1.1	1.5	2.1	19.6	49.5	8.5	6.9	2.8	0.3	0.0	4.4	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	0	2	5	19	15	28	48	278	1,330	285	208	62	97	1	83	0
(%)	100	0.0	0.1	0.2	0.8	0.6	1.1	2.0	11.3	54.0	11.6	8.5	2.5	3.9	0.0	3.4	0.0

1週間の勤務日数は、1980年代から導入された週休2日制¹²の影響等もあり減少傾向にある。特に6日以上～7日未満が27.9%から12.9%に約半分以下に減少している。また、3日以上～4日未満が1.6%から3.6%へ、4日以上～5日未満が1.5%から5.5%へ、それぞれ約3倍程度増加している。また、勤務時間を見ると、6時間未満で2.8%から9.4%に増加しており、7時間以上～8時間未満と8時間以上～9時間未満がそれぞれ11.3%、54.0%から7.3%、43.2%に減少している。非正規雇用や短時間労働などの働き方が増えてきている結果と思われる。一方、10時間以上～12時間未満と12時間以上～15時間未満がそれぞれ8.5%、2.5%から17.6%、4.1%に増加しており一部の人に業務が集中している傾向も見られる。これは、非正規雇用の増加や、経済環境の悪化により、正社員への負担が増している結果と思われる。

【問9-2】現在就業している人の職種（単一回答）

	該当数	専門技術職 (研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	308	517	533	95	234	55	155	0	0
(%)	100	16.2	27.3	28.1	5.0	12.3	2.9	8.2	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	94	655	665	44	123	16	48	11	0
(%)	100	5.7	39.6	40.2	2.7	7.4	1.0	2.9	0.7	0.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	149	920	869	62	231	54	21	43	4
(%)	100	6.3	39.1	36.9	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	100	923	747	49	224	36	105	66	55
(%)	100	4.3	40.0	32.4	2.1	9.7	1.6	4.6	2.9	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	119	1,126	700	56	245	35	79	101	0
(%)	100	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1	0.0

【問21-1】既に定年退職した人および定年前退職した人の退職前の職種（単一回答）

	該当数	専門技術職 (研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	884	104	378	224	42	89	15	32	-
(%)	100	11.8	42.8	25.3	4.8	10.1	1.7	3.6	-
《第4回調査(平成18年)》	631	22	355	129	14	50	6	30	25
(%)	100	3.5	56.3	20.4	2.2	7.9	1.0	4.8	4.0
《第3回調査(平成13年)》	1,258	50	663	260	32	161	11	50	31
(%)	100	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0	2.5
《第2回調査(平成8年)》	1,044	48	573	174	14	132	12	33	58
(%)	100	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1,075	39	606	173	13	157	5	19	63
(%)	100	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9

¹² 1980年代から導入され、1989年2月には金融機関の土曜日窓口業務が停止され、1992年5月には国家公務員の完全週休2日制が実施された。

【問9-2】 現在就業中の人で「管理職（役職・課長以上）」の割合が45.8%から27.3%に約半数弱に減少しており、専門技術職の割合が4.8%から16.2%に3倍強に増加している。これらの人に対して最近5年間の出来事を聞いたところ「昇進・昇格」を経験した人の割合が30.4%から19.7%に大きく減少していた。昇格・昇進が厳しい環境になっていると考えられる。また、【問21-1】既に定年退職した人および定年前に退職した人の退職前の職種は「管理職（役職・課長以上）」が56.4%から42.8%に減少していた。これは企業がコスト削減のため組織統合や企業合併等により管理職ポストを削減し、一方で人事制度が年功序列型から能力主義型に変更された結果、管理職になれないサラリーマン層が増えてきていると考えられる。この結果、問10-(3)の「職場での地位の高さ」の満足度の減少や、問13-(8)の「仕事のやりあい」の充足度の減少、さらに問17-(1)～(9)の「仕事・会社」に生きがいの場を求める人の減少にも繋がっているのではないかとと思われる。

【問26】 昨年1年間の世帯年収(夫婦合わせた年金や副業での収入等も含む税込金額) (単一回答)

	総数	200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満	1500万円以上	無回答	わからない
《今回調査(平成23年)》	2,693	98	193	315	343	310	497	368	295	108	-	166
(%)	100	3.6	7.2	11.7	12.7	11.5	18.5	13.7	11.0	4.0	-	6.2
《第4回調査(平成18年)》	1,992	38	104	174	197	223	373	323	298	60	202	-
(%)	100	1.9	5.2	8.7	9.9	11.2	18.7	16.2	15.0	3.0	10.1	-
《第3回調査(平成13年)》	3,189	88	195	305	337	322	610	471	569	105	187	-
(%)	100	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9	-
《第2回調査(平成8年)》	2,909	42	144	273	277	297	605	466	555	121	129	-
(%)	100	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4	-
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

世帯年収については600万円未満層の割合が増え、600万円以上層の割合が減少している。「1000万円以上～1500万円未満」で19.1%から11.0%に、「800万円以上～1000万円未満」で16.0%から13.7%に大きく減少している一方、「400万円以上～500万円未満」で9.5%から12.7%に増加している。経済環境の悪化により世帯収入が減少している結果と考えられる。

2.4 サラリーマンの内面的変化について

【問14】 自分の性格について (単一回答)

(1)あなたは、「人との関係やつながりを大切にすることについて、あてはまると思いませんか。」

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	626	1,629	407	31	0
(%)	100	23.2	60.5	15.1	1.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	745	1,009	162	13	63
(%)	100	37.4	50.7	8.1	0.7	3.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,685	1,286	181	13	24
(%)	100	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,608	1,110	151	10	30
(%)	100	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,534	1,249	179	8	81
(%)	100	50.3	40.9	5.9	0.3	2.7

(2)あなたは、「自分の個性や世界を大切にすること」について、あてはまると思いますか。

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらな い	まったく あてはまらな い	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	584	1706	380	23	0
(%)	100	21.7	63.3	14.1	0.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	460	1070	375	20	67
(%)	100	23.1	53.7	18.8	1.0	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1041	1556	514	25	53
(%)	100	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	968	1408	468	22	43
(%)	100	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	870	1487	506	23	165
(%)	100	28.5	48.7	16.6	0.8	5.4

(3)あなたは、「いつも目標に向かってつき進むこと」について、あてはまると思いますか。

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらな い	まったく あてはまらな い	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	313	1340	978	62	0
(%)	100	11.6	49.8	36.3	2.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	249	909	718	46	70
(%)	100	12.5	45.6	36.0	2.3	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	596	1556	901	77	59
(%)	100	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	584	1429	804	46	46
(%)	100	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	623	1414	802	53	159
(%)	100	20.4	46.3	26.3	1.7	5.2

(4)あなたは、「無理をせずマイペースで進むこと」について、あてはまると思いますか。

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらな い	まったく あてはまらな い	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	516	1734	413	30	0
(%)	100	16.2	64.4	15.3	1.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	385	1083	430	32	62
(%)	100	19.3	54.4	21.6	1.6	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	795	1691	607	52	44
(%)	100	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	740	1541	545	50	33
(%)	100	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	885	1548	468	36	114
(%)	100	29.0	50.7	15.3	1.2	3.7

(5)あなたは、「他人にない自分なりの価値観を持っていること」について、あてはまると思いますか。

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらな い	まったく あてはまらな い	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	481	1638	543	31	0
(%)	100	17.9	60.8	20.2	1.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	333	1047	521	25	66
(%)	100	16.7	52.6	26.2	1.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	746	1567	775	51	50
(%)	100	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	729	1514	588	36	42
(%)	100	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

(6)あなたは、「自分には他人にないすぐれたところがあること」について、あてはまると思いますか。

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらな い	まったく あてはまらな い	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	232	1346	1025	90	0
(%)	100	8.6	50.0	38.1	3.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	134	821	901	70	66
(%)	100	6.7	41.2	45.2	3.5	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	314	1375	1318	125	57
(%)	100	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	364	1346	1058	98	43
(%)	100	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

(7)あなたは、「いろいろなことに興味を持ちチャレンジする」ことについて、あてはまると思いませんか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	288	1346	960	99	0
(%)	100	10.7	50.0	35.6	3.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	185	767	885	93	62
(%)	100	9.3	38.5	44.4	4.7	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	511	1323	1167	139	49
(%)	100	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	512	1187	1064	110	36
(%)	100	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	501	1172	1092	134	152
(%)	100	16.4	38.4	35.8	4.4	5.0

(8)あなたは、「ひとつのことにじっくり取り込む」ことについて、あてはまると思いませんか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	267	1501	867	58	0
(%)	100	9.9	55.7	32.2	2.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	200	932	750	46	64
(%)	100	10.0	46.8	37.7	2.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	500	1387	1144	100	58
(%)	100	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	468	1283	1034	86	38
(%)	100	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	521	1335	954	90	151
(%)	100	17.1	43.8	31.3	2.9	4.9

(9)あなたは、「指導的立場に立とうとする」ことについて、あてはまると思いませんか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	123	786	1377	407	0
(%)	100	4.6	29.2	51.1	15.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	90	597	992	243	70
(%)	100	4.5	30.0	49.8	12.2	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	207	1027	1443	453	59
(%)	100	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	257	1093	1171	343	45
(%)	100	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	269	1039	1192	388	163
(%)	100	8.8	34.1	39.1	12.7	5.3

(10)あなたは、「新しいグループの中にわりと気楽に入れる」ことについて、あてはまると思いませんか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	158	1094	1158	283	0
(%)	100	5.9	40.6	43.0	10.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	156	734	892	145	65
(%)	100	7.8	36.8	44.8	7.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	299	1211	1365	261	53
(%)	100	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	349	1177	1123	225	35
(%)	100	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	310	1084	1251	256	150
(%)	100	10.2	35.5	41.0	8.4	4.9

(11)あなたは、「指導的立場に立とうとする」ことについて、あてはまると思いませんか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	263	1749	628	53	0
(%)	100	9.8	64.9	23.3	2.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	322	1257	330	18	65
(%)	100	16.2	63.1	16.6	0.9	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	708	1911	485	37	48
(%)	100	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	778	1655	410	31	35
(%)	100	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	805	1720	349	42	135
(%)	100	26.4	56.4	11.4	1.4	4.4

(12)あなたは、「上下の立場や関係を尊重する」ことについて、あてはまると思いますか。

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	264	1726	647	56	0
(%)	100	9.8	64.1	24.0	2.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	427	1198	281	17	69
(%)	100	21.4	60.1	14.1	0.9	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	796	1725	544	76	48
(%)	100	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	810	1512	502	45	40
(%)	100	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	993	1450	399	55	154
(%)	100	32.5	47.5	13.1	1.8	5.0

第1回調査で生きがいに影響する要因として、「性格」が深く関与していることが指摘され、「積極性」と「親和性(人との和を大切にする)」が強い人ほど生きがいを持っているとした。ここでは自分の性格について聞いているが、その中から特に変化があると思われるふたつの項目について取り上げる。まず、「(9)指導的立場に立とうとする」については「よくあてはまる」と「少しあてはまる」の合計が42.9%から、33.8%に減少し、「あまりあてはまらない」が39.1%から、51.1%に増加した。「(12)上下の立場や関係を尊重する」は、「よくあてはまる」が減少しており、「少しあてはまる」が47.5%から、64.1%へ増加し、「あまりあてはまらない」も13.1%から、24.0%へ増加している。また、「(1)人との関係やつながりを大切にする」については、「よくあてはまる」が50.3%から、23.2%に半減し、「あまりあてはまらない」が5.9%から、15.1%に3倍弱に増加していた。昨今の個人主義の進展や年功序列型人事制度の崩壊が、個人の内面的や考え方にも影響を与えていると思われる。

サラリーマン像の変化は、未婚者と単独世帯の増加、管理職になれない人の増加、さらに経済環境の悪化による収入の減少が見てとれる。内閣府「平成19年版国民生活白書」¹³では、単独世帯の人は近隣との交際が少なく、町内会自治会などの地域への社会参加が少ないことを指摘している。これらの生活形態や就業形態などの基本属性の変化が、サラリーマンの生きがいにも何らかの影響を及ぼしていると考えられる。

2.5 就業状況(仕事や職場)に対する満足度の変化について

【問10】現在働いている人の就業状況(仕事や職場)に対する満足度(単一回答)

- (1)仕事の内容、(2)就業形態、(3)職場での地位の高さ、(4)賃金、
(5)業績評価の公平さ、(6)福利厚生、(7)職場の人間関係・雰囲気、
(8)全体として

¹³ 内閣府『平成19年版国民生活白書』

(http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01_honpen/html/07sh020105.html, 2012.2.8).

(1)仕事の内容

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	290	800	534	193	80	0	0
(%)	100	15.3	42.2	28.1	10.2	4.2	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	269	819	407	116	29	16	-
(%)	100	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	313	1,152	534	189	57	104	4
(%)	100	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	398	1,098	484	171	50	49	55
(%)	100	17.3	47.6	21.0	7.4	2.2	2.1	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(2)就業形態

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	317	856	464	187	73	0	0
(%)	100	16.7	45.1	24.5	9.9	3.8	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	345	790	340	125	39	17	-
(%)	100	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	309	1,083	511	272	62	112	4
(%)	100	13.1	46.0	21.7	11.6	2.6	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	356	1,052	498	240	44	60	55
(%)	100	15.4	45.6	21.6	10.4	1.9	2.6	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(3)職場での地位の高さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	227	587	741	230	112	0	0
(%)	100	12.0	30.9	39.1	12.1	5.9	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	253	589	572	177	46	19	-
(%)	100	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	232	856	824	236	81	120	4
(%)	100	9.9	36.4	35.0	10.0	3.4	5.1	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	259	833	813	211	60	74	55
(%)	100	11.2	36.1	35.3	9.2	2.6	3.2	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(4)賃金

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	140	448	562	493	254	0	0
(%)	100	7.4	23.6	29.6	26.0	13.4	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	153	488	467	403	125	20	-
(%)	100	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	151	730	610	537	207	114	4
(%)	100	6.4	31.0	25.9	22.8	8.8	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	144	690	653	529	170	64	55
(%)	100	6.2	29.9	28.3	23.0	7.4	2.8	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(5)業績評価の公平さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《今回調査(平成23年)》	1,897	134	429	736	358	230	0	0
(%)	100	7.1	22.6	38.8	19.4	12.1	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	119	434	646	315	114	28	-
(%)	100	7.2	26.2	39.0	19.0	6.9	1.7	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	2,305	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(6)福利厚生

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査(平成23年)≫	1,897	157	508	691	365	176	0	0
(%)	100	8.3	26.8	36.4	19.2	9.3	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	152	576	558	272	70	28	-
(%)	100	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	153	776	747	405	145	123	4
(%)	100	6.5	33.0	31.7	17.2	6.2	5.2	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	175	737	688	408	163	79	55
(%)	100	7.6	32.0	29.8	17.7	7.1	3.4	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(7)職場の人間関係・雰囲気

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査(平成23年)≫	1,897	213	695	637	229	123	0	0
(%)	100	11.2	36.6	33.6	12.1	6.5	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	208	707	448	209	66	18	-
(%)	100	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	177	956	705	285	113	113	4
(%)	100	7.5	40.6	30.0	12.1	4.8	4.8	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	244	913	657	272	104	60	55
(%)	100	10.6	39.6	28.5	11.8	4.5	2.6	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

(8)全体として

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査(平成23年)≫	1,897	169	742	626	260	100	0	0
(%)	100	8.9	39.1	33.0	13.7	5.3	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	158	767	485	202	29	15	-
(%)	100	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	164	1055	661	297	62	110	4
(%)	100	7.0	44.8	28.1	12.6	2.6	4.7	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	190	1089	603	255	57	56	55
(%)	100	8.2	47.2	26.2	11.1	2.5	2.4	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

就業状況に対する満足度で変化が見られた項目について述べる。「(3)職場での地位の高さ」への満足度は、「とても満足している」と「やや満足している」の合計が47.3%から、42.9%に減少し、「やや不満である」と「とても不満である」の合計が11.8%から、18.0%に増加している。前述した管理職の割合が減少していることが影響していると思われる。「(4)賃金」については、「とても満足している」と「やや満足している」の合計が36.1%から、31.0%に減少し、「やや不満である」と「とても不満である」の合計が30.4%から、39.4%に増加し、不満の方が多くなっており、昨今の経済環境の悪化に伴うものと思われる。「(8)全体として」では、「とても満足している」と「やや満足している」の合計が55.4%から、48.0%に減少し、「やや不満である」と「とても不満である」の合計が13.6%から、19.0%に増加している。「職場での地位の高さ」や「賃金」などで不満が増加しているものの、これ以外の「仕事の内容」「就業形態」「職場の人間関係」などは大きな変化はなく満足している割合が多く、「全体として」見れば就業状況には満足している状況と考えられる。

就業状況(仕事や職場)に対する満足度の変化は、特に「賃金」「業績評価の公平さ」で減少してきており、経済環境が悪化し給与のベースアップが見込めない中、特に能力主義型人事制度が本格的に適用されている若年齢層ほど不満が高まってきていると思われる。

2.6 生活状況の変化について

【問 11-1】自由時間の有無（単一回答）

	総数	十分に ある	まあまあ	不十分 である	まったく ない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	969	1234	445	45	0
(%)	100	36.0	45.8	16.5	1.7	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	528	958	390	36	80
(%)	100	26.5	48.1	19.6	1.8	4.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	626	1365	1081	72	45
(%)	100	19.6	42.8	33.9	2.3	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2,909	646	1374	811	46	32
(%)	100	22.2	47.2	27.9	1.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	575	1234	1053	146	43
(%)	100	18.8	40.4	34.5	4.8	1.4

【問 11-2】自由時間の過ごし方（回答は3つまで）

	仕事仲間 のプライベート なつきあい	仕事に 関する勉強 や残務整理	テレビ・ゴ ロやパチン コ、酒など	ひとりで 趣味・スポ ーツなど	仲間と 趣味・ス ポーツな ど	パソコン 通信や インター ネット	個人的な 友人・仲 間との つきあい	行楽・ド ライバ ーなど	庭いじり や家事 など	家庭と の関 わりや サービス	近隣の 人との つきあ いや地 域の用 事	その他	特に何 もしな い	無回答	
《今回調査(平成23年)》	2,648	192	169	743	943	533	1533	542	518	617	844	140	61	33	0
(%)	100	7.3	6.4	28.1	35.6	20.1	57.9	20.5	19.6	23.3	31.9	5.3	2.3	1.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,876	168	162	544	531	549	303	524	430	561	716	167	88	14	39
(%)	100	9.0	8.6	29.0	28.3	29.3	16.2	27.9	22.9	29.9	38.2	8.9	4.7	0.7	2.1
《第3回調査(平成13年)》	3,072	302	374	986	874	944	388	811	961	1106	962	191	105	18	16
(%)	100	9.8	12.2	32.1	28.5	30.7	12.6	26.4	28.0	36.0	31.3	6.2	3.4	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2,831	280	317	909	839	829	72	754	827	1083	936	198	82	17	21
(%)	100	9.9	11.2	32.1	29.6	29.3	2.5	26.6	29.2	38.3	33.1	7.0	2.9	0.6	0.7
《第1回調査(平成3年)》	2,862	535	483	1239	904	477	-	602	335	961	1014	190	70	51	15
(%)	100	18.7	16.9	43.3	31.6	16.7	-	21.0	11.7	33.6	35.4	6.6	2.4	1.8	0.5

【問 11-1】で、自由時間は「十分にあり」と「まあまあ」の合計は59.2%から、81.8%に大幅に増加し、「不十分である」と「まったくない」の合計は39.3%から、18.2%に減少した。経済成長の鈍化とワークライフバランスの浸透により仕事と家庭とのバランスが重視されるようになった結果と思われる。第5回調査結果の年齢別回答状況をみると、「十分にあり」と「まあまあある」とする回答の合計は、35～44歳で69.7%、45～54歳で75.2%、55～64歳で87.9%、65～74歳で96.1%であり、若年齢層ほど忙しく、年齢が上がるにつれて自由時間が増える傾向にある。特に55～64歳と65～74歳になると「十分にあり」が「まあまあある」より多くなり、65～74歳では6割強が「十分にあり」と感じていた。【問 11-2】で、自由時間の過ごし方を見ると、「仕事仲間とのつきあい」と「仕事に関する勉強残務整理」がそれぞれ、18.8%、16.9%から、7.3%、6.4%に大幅に減少し「仲間と趣味・スポーツ」が増加傾向にある。近年パソコンを使用する人が増えており、自由時間の過ごし方としても増加していると思われるが、今回調査結果で「パソコン・インターネット」の項目が大幅に増加しているのは、今回の調査がネット調査であることの偏りであると考えられる。

生活環境の変化は、昨今の「仕事と家庭との両立」の進展から自由時間が増え、自由時間の使い方も、仕事関係から個人的な趣味に変わり、個人の中の「仕事」の割合が減少してきている。

2.7 社会活動に対する参加状況の変化について

【問 12】社会活動(地域活動やボランティア活動など)の参加状況 (単一回答)

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	250	522	451	1470	0
(%)	100	9.3	19.4	16.7	54.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	228	287	190	1165	122
(%)	100	11.4	14.4	9.5	58.5	6.1
《第3回調査(平成13年)》	3,189	395	372	311	1789	322
(%)	100	12.4	11.7	9.8	56.1	10.1
《第2回調査(平成8年)》	2,909	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3,051	372	383	301	1918	77
(%)	100	12.2	12.6	9.9	62.9	2.5

社会活動の参加状況は、「定期的に参加している」と「ときどき参加している」の合計は、24.8%から 28.7%に増加し、「参加していない」人は 62.9%から 54.6%に減少しており、社会活動への参加状況は少しだが増加傾向にある。しかし、定期的に参加している人の割合は 1割にも満たない状況である一方、半数以上が社会活動に参加していない状況である。

【問 12-1】社会活動の参加分野 (複数選択)

	地域の生活 該当数	イベントや村 おこしの活 動	趣味・スポー ツや学習グ ループのリー ダーとしての 活動	児童や青少 年活動の世 話役としての 活動	地域の文化 財や伝統を守 る活動	消費者活動 や生活向上 のための活 動	障害者・老 人の手助け などの社会 福祉活動	行政の委 員、民生委 員、保護司、 人権擁護委 員等の活動	自然保護や 環境保全の 活動	国際交流に 関する活動	その他	無回答	
《今回調査(平成23年)》	772	424	308	186	143	100	61	116	49	127	61	65	0
(%)	-	54.9	39.9	24.1	18.5	13.0	7.9	15.0	6.3	16.5	7.9	8.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	515	220	152	122	79	52	12	65	41	48	10	60	2
(%)	-	42.7	29.5	23.7	15.3	10.1	2.3	12.6	8.0	9.3	1.9	11.7	0.4
《第3回調査(平成13年)》	767	288	223	227	83	58	25	80	83	94	48	63	8
(%)	-	37.5	29.1	29.6	10.8	7.6	3.3	10.4	10.8	12.3	6.3	8.2	1.0
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	321	177	256	128	62	38	96	-	93	44	40	22
(%)	-	42.5	23.4	33.9	17.0	8.2	5.0	12.7	-	12.3	5.8	5.3	2.9

社会活動の参加分野は、「地域の生活環境を守る活動」と「イベント村おこし活動」が多く、それぞれ増加傾向にあり、「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」が少し減少傾向にあるが、その他各項目ともに大きな変化はない。

【問 12-2】社会活動(地域活動やボランティア活動など)への参加理由 (3つまで回答)

	地域や社会に 貢献したい	自分の知識 や経験を活か したい	社会への見 聞を広げたい	友人や仲間を 増やしたい	生活にはりあ いを持たせたい	身近な人に 誘われた	会社の勤め や命令	社会人として 当然と思った	何となく	その他	無回答	
《今回調査(平成23年)》	772	494	249	146	214	170	181	23	209	72	23	0
(%)	-	64.0	32.3	18.9	27.7	22.0	23.4	3.0	27.1	9.3	3.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	515	291	112	72	114	109	118	25	123	6	51	0
(%)	-	56.5	21.7	14.0	22.1	21.2	22.9	4.9	23.9	1.2	9.9	0.0
《第3回調査(平成13年)》	767	426	214	117	236	160	122	47	189	7	40	14
(%)	-	55.5	27.9	15.3	30.8	20.9	15.9	6.1	24.6	0.9	5.2	1.8
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	398	245	149	192	173	138	35	264	7	21	14
(%)	-	52.7	32.5	19.7	25.4	22.9	18.3	4.6	35.0	0.9	2.8	1.9

社会活動の参加理由は、「地域や社会に貢献したい」が半数以上で一番多く増加傾向にある。その他各項目共に大きな変化はない。

【問 12-5】社会活動(地域活動やボランティア活動など)の不参加理由 (3つまで回答)

	該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がな、関心がない	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	1,921	774	390	638	434	52	723	422	813	568	35	0
(%)	-	38.7	20.3	33.2	22.3	2.7	37.6	22.0	42.3	29.6	1.8	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,355	560	131	322	145	22	274	171	553	289	53	40
(%)	-	41.3	9.7	23.8	10.7	1.6	20.2	12.6	40.8	21.3	3.9	3.0
《第3回調査(平成13年)》	2,100	1,114	172	389	211	20	363	197	728	216	119	71
(%)	-	53.0	8.2	18.5	10.0	1.0	17.3	9.4	34.7	10.3	5.7	3.4
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,219	986	214	363	258	31	572	281	799	397	70	98
(%)	-	44.4	9.6	16.4	11.6	1.4	25.8	12.7	36.0	17.9	3.2	4.4

社会活動の不参加理由は、「時間がない」とする回答が 44.4%から 38.7%に減少しており、これは【問 11-1】の自由時間が増えている状況との関係によるものと考えられる。一方、「精神的ゆとりがない」は 16.4%から 33.2%に増加傾向にある。一番多いのは「何から始めるか、きっかけがつかめない」とする回答で 36.0%から 42.3%となっている。やはり、「きっかけ作りが社会参加への第一歩であると思われる。

【問 12-6】社会活動(地域活動やボランティア活動など)不参加者の今後の活動意向 (単一回答)

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない	無回答
《今回調査(平成23年)》	1,921	40	1,078	472	331	0
(%)	1,921	2.1	56.1	24.6	17.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,355	60	824	193	267	11
(%)	1,355	4.4	60.8	14.2	19.7	0.8
《第3回調査(平成13年)》	2,100	137	1,262	204	465	32
(%)	2,100	6.5	60.1	9.7	22.1	1.5
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,219	159	1,332	254	440	34
(%)	2,219	7.2	60.0	11.4	19.8	1.5

地域活動やボランティア活動に参加していない人に対して今後の参加意思について聞いたところ、「条件によっては参加してもよい」が約 6 割近くを占めており大きな変化はない。社会参加について拒否しているものではなく、機会があれば参加する意思はあると思われる。社会参加には、やはり「きっかけ」が大事であると考えられる。

社会活動の参加状況の変化については、少しだけ増加傾向にあるものの、定期的に参加している人の割合は 1 割にも満たない状況であり、半数以上が社会活動に参加していない。過去の調査結果からも、社会活動が生きがいの保有にも繋がるということが指摘されており、いかにして社会参加の「きっかけ」作りをしていくかが必要である。

2.8 生活に対する充足感の変化について

【問 13】現在の生活での充足感（単一回答）

(1)健康、(2)時間的ゆとり、(3)経済的ゆとり、(4)精神的ゆとり、(5)家族の理解・愛情、
 (6)友人・仲間、(7)熱中できる趣味、(8)仕事のやりがい、(9)社会的地位、
 (10)自然とのふれあい、(11)近隣との交流、(12)社会の役に立つこと、(13)住まいのこと

(1)健康

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	228	1343	600	426	96	0
(%)	100	8.5	49.9	22.3	15.8	3.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	203	1073	325	295	36	60
(%)	100	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	411	1834	412	444	51	37
(%)	100	12.9	57.5	12.9	13.9	1.6	1.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	488	1708	325	324	38	26
(%)	100	16.8	58.7	11.2	11.1	1.3	0.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	473	1819	314	386	32	27
(%)	100	15.5	59.6	10.3	12.7	1.0	0.9

(2)時間的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	402	1239	524	415	113	0
(%)	100	14.9	46.0	19.5	15.4	4.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	239	875	349	377	91	61
(%)	100	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	381	1157	567	821	213	50
(%)	100	11.9	36.3	17.8	25.7	6.7	1.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	426	1297	440	578	132	36
(%)	100	14.6	44.6	15.1	19.9	4.5	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	452	1275	499	655	135	35
(%)	100	14.8	41.8	16.4	21.5	4.4	1.1

(3)経済的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	120	983	784	591	215	0
(%)	100	4.5	36.5	29.1	21.9	8.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	93	871	526	363	83	56
(%)	100	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	141	1384	900	587	116	61
(%)	100	4.4	43.4	28.2	18.4	3.6	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	146	1398	750	493	85	37
(%)	100	5.0	48.1	25.8	16.9	2.9	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	142	1421	812	535	98	43
(%)	100	4.7	46.6	26.6	17.5	3.2	1.4

(4)精神的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	157	1065	778	548	145	0
(%)	100	5.8	39.5	28.9	20.3	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	101	839	580	342	61	69
(%)	100	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	214	1376	906	537	88	68
(%)	100	6.7	43.1	28.4	16.8	2.8	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	240	1465	689	396	64	55
(%)	100	8.3	50.4	23.7	13.6	2.2	1.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	236	1505	754	451	56	49
(%)	100	7.7	49.3	24.7	14.8	1.8	1.6

(5)家族の理解・愛情

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	446	1334	675	178	60	0
(%)	100	16.6	49.5	25.1	6.6	2.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	413	1084	326	74	23	72
(%)	100	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	792	1736	426	122	31	82
(%)	100	24.8	54.4	13.4	3.8	1.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	700	1639	382	102	24	62
(%)	100	24.1	56.3	13.1	3.5	0.8	2.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	751	1821	313	88	20	58
(%)	100	24.6	59.7	10.3	2.9	0.7	1.9

(6)友人・仲間

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	238	1314	834	252	55	0
(%)	100	8.8	48.8	31.0	9.4	2.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	203	1075	492	145	17	60
(%)	100	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	383	1768	715	227	38	58
(%)	100	12.0	55.4	22.4	7.1	1.2	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	411	1665	569	202	33	29
(%)	100	14.1	57.2	19.6	6.9	1.1	1.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	373	1762	631	214	32	39
(%)	100	12.2	57.8	20.7	7.0	1.0	1.3

(7)熱中できる趣味

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	377	1187	766	290	73	0
(%)	100	14.0	44.1	28.4	10.8	2.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	236	789	462	343	98	64
(%)	100	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	486	1293	657	536	153	64
(%)	100	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	515	1222	557	475	109	31
(%)	100	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	477	1254	546	585	147	42
(%)	100	15.6	41.1	17.9	19.2	4.8	1.4

(8)仕事のはりあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	128	750	1068	461	286	0
(%)	100	4.8	27.8	39.7	17.1	10.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	127	830	593	233	85	124
(%)	100	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	240	1326	914	349	157	203
(%)	100	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	293	1333	738	271	122	152
(%)	100	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	336	1439	779	255	115	127
(%)	100	11.0	47.2	25.5	8.4	3.8	4.2

(9)社会的地位

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	89	652	1269	453	230	0
(%)	100	3.3	24.2	47.1	16.8	8.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	99	689	794	217	98	95
(%)	100	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	118	1057	1309	317	232	156
(%)	100	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	139	1049	1132	303	180	106
(%)	100	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	132	1154	1127	329	198	111
(%)	100	4.3	37.8	36.9	10.8	6.5	3.6

(10)自然とのふれあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	160	1001	971	449	112	0
(%)	100	5.9	37.2	36.1	16.7	4.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	119	691	588	431	101	62
(%)	100	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	285	1,223	777	662	158	84
(%)	100	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	319	1,243	631	547	131	38
(%)	100	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	296	1,241	635	704	128	47
(%)	100	9.7	40.7	20.8	23.1	4.2	1.5

(11)近隣との交流

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	64	664	1,083	646	236	0
(%)	100	2.4	24.7	40.2	24.0	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	47	501	630	533	221	60
(%)	100	2.4	25.2	31.6	26.8	11.1	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	100	765	981	890	396	57
(%)	100	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	115	835	838	758	327	36
(%)	100	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	130	930	830	865	262	34
(%)	100	4.3	30.5	27.2	28.4	8.6	1.1

(12)社会の役に立つこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	65	508	1,192	690	238	0
(%)	100	2.4	18.9	44.3	25.6	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	37	314	814	540	219	68
(%)	100	1.9	15.8	40.9	27.1	11.0	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	60	493	1,138	976	448	74
(%)	100	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	85	601	1,121	755	306	41
(%)	100	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	89	679	1,113	790	315	65
(%)	100	2.9	22.3	36.5	25.9	10.3	2.1

生活の充足感について変化があった項目については、「(2)時間的ゆとり」「(7)熟中できる趣味」では、「十分満たされている」「まあ満たされている」が増加傾向にあるが、これ以外の「(1)健康」「(3)経済的ゆとり」「(4)精神的ゆとり」「(5)家族の理解・愛情」「(6)友人・仲間」「(8)仕事のほりあい」「(9)社会的地位」「(11)近隣との交流」「(12)社会の役に立つこと」については、「十分満たされている」「まあ満たされている」が減少してきており、「やや欠けている」「まったく欠けている」が増加傾向にある。医療が進歩する中、「健康」に対する充足感が減っているのは何故なのか。医療の進歩により高齢化が進み、寿命が延びたことで、逆に健康に対する不安が高まっているのであろうか。また、自由時間が増え仕事から家庭での時間が増える中、「家族の理解・愛情」の充足感が減っているのは何故なのか。家庭で過ごす時間が増え、生活の中で家庭の比重が増えたことにより、今まで以上に「家族の理解・愛情」を求めるようになってきているが、その期待に対して十分な充足感が得られていないということなのであろうか。さらに、自由時間が増えたのに「友人・仲間」への充足感が減っている。これは、従来仕事関係の仲間との付き合いが多かったものが減少しており、これに代わる新しい仲間がないということなのではないかと思われる。「近隣との交流」「社会の役に立つこと」の充足感が減少しているのは、社会参加が少なく近隣との交流や社会に役立つ活動が少ないのが要因と思われる。

生活に対する充足感の変化については、「時間的ゆとり」は増えたものの、「経済的ゆと

り」と「精神的ゆとり」が減り、「家族の理解」「友人・仲間」「仕事のほりあい」「社会的地位」などの生活全般に対する充足感が減少している。これは昨今の経済環境、雇用環境の悪化とともに、仕事に費やす時間が減り家庭で過ごす時間が増えていることが影響していると思われる。従来の仕事中心の生活から家庭の比重が増えるにつれ、家庭への期待が高まっているものの、仕事に代わる十分な充足感が得られていないのではないだろうか。

2.9 生きがいの有無と生きがいに関する考え方の変化について

【問 15-1】「生きがい」の意味（回答は2つまで）

	総数	生活の活力 やはりあい	生活のリズム やメリハリ	心の安らぎや 気晴らし	生きる喜びや 満足感	人生観や価値 観の形成	生きる目標 や目的	自分自身の 向上	自分の可能 性の実現や 何かをやりと げたと感じる こと	他人や社会 の役に立っ ていると感 じること	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	770	343	793	1172	358	468	359	458	239	17	0
(%)	-	28.6	12.7	29.4	43.5	13.3	17.4	13.3	17.0	8.9	0.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	593	213	486	840	160	412	284	440	272	23	58
(%)	-	29.8	10.7	24.4	42.2	8.0	20.7	14.3	22.1	13.7	1.2	2.9
《第3回調査(平成13年)》	3,189	831	325	851	1291	277	559	582	898	544	20	16
(%)	-	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	761	281	723	1270	230	592	459	719	557	9	33
(%)	-	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1073	217	760	1433	297	597	679	-	777	8	30
(%)	-	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	-	25.5	0.3	1.0

【問 15-2】生きがいの有無（単一回答）

	総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	1,505	313	381	494	0
(%)	100	55.9	11.6	14.1	18.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,133	156	260	364	79
(%)	100	56.9	7.8	13.1	18.3	4.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2,145	228	267	496	53
(%)	100	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2,909	2,280	151	194	248	36
(%)	100	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	2,021	282	400	297	51
(%)	100	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

【問 15-1】生きがいの意味については、「生活のリズムやメリハリ」と「人生観や価値観の形成」が若干増加傾向にあるが、「生きる喜びや満足感」が47.0%から43.5%に減少し、「生活の活力やはりあい」も減少、「他人や社会の役に立っていると感じること」は25.5%から8.9%に大きく減少している。問13での生活の充足度が減少傾向にあり、これにより生きがいの一番の意味を占めていた「生きる喜びや満足感」が減少してきていると思われる。生きがいの意味が「生活のリズムとメリハリ」という、生活するための手段という意味に置き換わってきているのかもしれない。

【問 15-2】生きがいの有無については、「持っている」が66.2%から55.9%に減少し、「前は持っていたが今は持っていない」と「持っていない」の合計が22.3%から25.7%に増加し、「わからない」も9.7%から18.3%に約2倍弱に増加している。生きがいを持っている人が減り、持っていないまたは持っているかわからないとする人が増えている。前問で「生きる喜びや満足感」が減少しており、これが「生きがいの喪失」にも繋がっているのではないだろうか。

【問 16】生きがいの内容（回答は3つまで）

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	552	1404	424	98	152	367	742	1214	401	322	449	338	44	0
(%)	-	20.5	52.1	15.7	3.6	5.6	13.6	27.6	45.1	14.9	12.0	16.7	12.6	1.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	539	828	320	62	122	310	462	1070	374	323	246	262	25	63
(%)	-	27.1	41.6	16.1	3.1	6.1	15.6	23.2	53.7	18.8	16.2	12.3	13.2	1.3	3.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,124	1,400	466	182	185	588	733	1,762	595	584	345	403	33	27
(%)	-	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	0.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	944	1,094	352	136	205	516	498	1,051	401	463	204	310	16	5
(%)	-	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

生きがいの内容については、一番は「趣味」で37.6%から52.1%に増加している。「家族・家庭」も36.1%から45.1%に増加、「配偶者・結婚生活」も17.1%から27.6%に増加し、「仕事」が32.5%から20.5%に減少しており、生きがいの内容が「仕事」から「自分と家庭」に変わってきている。

【問 17】生きがいを得られる場（回答は2つまで）

(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれる場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	1,757	742	154	554	163	160	146	0
(%)	-	65.2	27.6	5.7	20.6	6.1	5.9	5.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,342	886	117	380	119	100	20	75
(%)	-	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0	3.8
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2,252	1,477	188	728	192	155	26	115
(%)	-	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,970	1,372	170	558	162	118	28	207
(%)	-	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	2,087	1,750	136	477	214	87	26	135
(%)	-	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9	4.4

(2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつく場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	1,230	1,131	179	367	223	165	172	0
(%)	-	45.7	42.0	6.6	13.6	8.3	6.1	6.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	908	1,198	128	262	187	88	34	97
(%)	-	45.6	60.1	6.4	13.2	9.4	4.4	1.7	4.9
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,535	1,782	208	505	276	170	54	196
(%)	-	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,316	1,605	189	386	292	148	45	330
(%)	-	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(3)心の安らぎや気晴らしを感じる場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	1,990	89	127	768	73	265	128	0
(%)	-	73.9	3.3	4.7	28.5	2.7	9.8	4.8	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,546	94	99	715	73	231	22	83
(%)	-	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1	4.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2,492	198	157	1,295	104	364	29	149
(%)	-	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
《第2回調査(平成8年)》	2,909	2,280	167	159	1,037	131	314	16	211
(%)	-	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
《第1回調査(平成3年)》	3,051	2,487	273	154	1,138	132	308	16	148
(%)	-	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5	4.9

(4)生活の中で喜びや満足を感じる場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	1743	510	155	577	163	261	145	0
(%)	-	64.7	18.9	5.8	21.4	6.1	9.7	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1315	675	103	449	102	189	33	94
(%)	-	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2093	1213	188	699	206	280	44	182
(%)	-	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1828	1096	171	525	182	238	36	305
(%)	-	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1818	1516	156	392	250	210	55	242
(%)	-	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8	7.9

(5)人生観や価値観に影響を与える場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	1154	654	134	744	499	191	240	0
(%)	-	42.9	24.3	5.0	27.6	18.5	7.1	8.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	718	767	134	585	469	142	56	95
(%)	-	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1102	1274	174	924	845	228	89	214
(%)	-	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	912	1095	181	809	766	179	87	316
(%)	-	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	707	1355	190	865	992	192	78	267
(%)	-	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6	8.8

(6)生活の目標や目的の場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	1664	612	131	192	330	263	200	0
(%)	-	61.8	22.7	4.9	7.1	12.3	9.8	7.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1348	733	93	116	281	158	32	101
(%)	-	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6	5.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2245	1121	176	169	493	240	59	213
(%)	-	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1970	995	183	124	481	168	42	307
(%)	-	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2095	1221	151	86	538	156	41	271
(%)	-	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3	8.9

(7)どの場での生活が自分自身を向上させる場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	832	1059	221	378	586	210	226	0
(%)	-	30.9	39.3	8.2	14.0	21.8	7.8	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	439	1225	183	283	543	125	55	93
(%)	-	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	691	1865	279	490	925	231	58	213
(%)	-	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	583	1642	255	394	852	173	62	326
(%)	-	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	434	1908	263	404	1117	153	52	266
(%)	-	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7	8.7

(8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたりすると感じる場

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	750	1250	216	243	472	234	238	0
(%)	-	27.8	46.4	8.0	9.0	17.5	8.7	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	438	1331	176	123	366	193	75	94
(%)	-	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	730	2036	316	183	616	320	111	191
(%)	-	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	649	1854	262	126	551	240	97	318
(%)	-	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	572	2109	280	129	624	230	127	261
(%)	-	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2	8.6

(9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得ている場

	総数	家庭	仕事・ 会社	地域・ 近隣	個人的 友人	世間・ 社会	その他	どこにも ない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	997	1180	308	320	354	149	269	0
(%)	-	37.0	43.8	11.4	11.9	13.1	5.5	10.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	753	1276	234	166	231	96	79	89
(%)	-	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0	4.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1248	1922	370	313	421	173	136	174
(%)	-	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1077	1789	328	217	383	144	111	256
(%)	-	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	962	2079	346	254	471	132	106	219
(%)	-	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5	7.2

生きがいを得られる場については、全ての項目で「仕事・会社」が減少しており、特に大きく減少しているのは、「(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれる場」の57.4%から27.6%と、「(4)生活の中で喜びや満足感を感じる場」の49.7%から18.9%のふたつである。これ以外に「(5)人生観や価値観に影響を与える場」が44.4%から24.3%に減少、「(6)生活の目標や目的の場」が40.0%から22.7%に減少、「(9)評価を得ている場」が68.1%から43.8%に減少している。従来、サラリーマンは「仕事・会社」で評価を得て喜びや満足感を感じ生活の目的としていたものが、経済環境の悪化と能力主義的人事制度への移行などから、このような考え方が崩れ、価値観の多様化も相まって「仕事・会社」の場で生きがいを得ようとするものが減っていると思われる。「家庭」については、(4)(5)(7)(8)(9)で増加しており、特に「(5)人生観や価値観に影響を与える場」が23.2%から42.9%に大幅に増加し、「仕事・会社」と逆転して第1位になっている。「(7)自分自身を向上させるもの」も、14.2%から30.9%に増加し、「仕事・会社」の39.3%と肩を並べるほどとなっている。自分の人生観や価値観を作り、自分を向上させる場が「仕事・会社」から「家庭」に変わってきている。一方、「(3)心の安らぎや気晴らしを感じる場」は依然として「家庭」が一番多いものの81.5%から73.9%に減少し、家庭以外の項目でも減少しており、「どこにもない」とする回答が0.5%から4.8%へ増加している。サラリーマンにとって、安らぎを得られる場がどこにもなくなってきているのであろうか。

就業している間は生きがいを「仕事・会社」で得られるとしており、自己実現やその評価の場所として「仕事・会社」に拠り所を求めることができる。しかし、仕事なくなった時に、これに代わる生きがいの場を得る必要がある。そのためには、若い頃から「仕事・会社」以外の生きがいを持って生活していくことが、将来の生きがいに繋がるものである。若い頃から自分の生きがいを模索し、「仕事・会社」以外の生きがいを見つけることが、将来の豊かな人生に繋がると思われる。

2.10 配偶者との関係の変化について

【問 18】 配偶者との関係（単一回答）

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (1)配偶者は自分のことを応援してくれている | (6)配偶者は自分を自由にしてくれる |
| (2)自分は配偶者の良き理解者である | (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない |
| (3)配偶者と価値観・考え方が似ている | (8)配偶者は金銭的にうるさい |
| (4)配偶者とよく一緒に出かける | (9)配偶者は自分によりかかりすぎる |
| (5)配偶者と会話がある | (10)配偶者にはもっと家事をして欲しい |

(2)自分は配偶者の良き理解者である(本人)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,188	612	1155	363	58	-
(%)	100	28.0	52.8	16.6	2.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	515	798	211	13	39
(%)	100	32.7	50.6	13.4	0.8	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	839	1439	255	12	52
(%)	100	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	863	1318	239	4	53
(%)	100	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	934	1414	225	6	158
(%)	100	34.1	51.7	8.2	0.2	5.8

(2)自分は配偶者の良き理解者である(配偶者)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,078	208	604	220	46	-
(%)	100	19.3	56.0	20.4	4.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	445	802	219	27	26
(%)	100	29.3	52.8	14.4	1.8	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	631	1271	508	50	65
(%)	100	25.0	50.3	20.1	2.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	675	1294	381	23	57
(%)	100	27.8	53.3	15.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	843	1257	359	30	84
(%)	100	32.8	48.9	14.0	1.2	3.3

(3)配偶者と価値観・考え方が似ている(本人)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,188	317	874	754	243	-
(%)	100	14.5	39.9	34.5	11.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	210	671	563	89	43
(%)	100	13.3	42.6	35.7	5.6	2.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	321	1089	974	148	65
(%)	100	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	301	1044	944	127	61
(%)	100	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

(3)配偶者と価値観・考え方が似ている(配偶者)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,078	111	441	354	172	-
(%)	100	10.3	40.9	32.8	16.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	204	631	531	118	35
(%)	100	13.4	41.5	35.0	7.8	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	312	1018	895	231	69
(%)	100	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	303	1033	849	174	71
(%)	100	12.5	42.5	34.9	7.2	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

(4)配偶者とよく一緒に出かける(本人)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,188	626	925	499	138	-
(%)	100	28.6	42.3	22.8	6.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	485	633	364	55	39
(%)	100	30.8	40.2	23.1	3.5	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	889	971	593	77	67
(%)	100	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	776	984	584	70	63
(%)	100	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	704	1030	767	71	165
(%)	100	25.7	37.6	28.0	2.6	6.0

(4)配偶者とよく一緒に出かける(配偶者)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,078	281	409	274	114	-
(%)	100	26.1	37.9	25.4	10.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	442	598	376	75	28
(%)	100	29.1	39.4	24.8	4.9	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	822	914	605	114	70
(%)	100	32.6	36.2	24.0	4.5	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	747	945	587	77	74
(%)	100	30.7	38.9	24.2	3.2	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	815	870	686	103	99
(%)	100	31.7	33.8	26.7	4.0	3.8

(5)配偶者と会話がある(本人)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,188	647	1093	367	81	-
(%)	100	29.6	50.0	16.8	3.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	510	774	233	21	38
(%)	100	32.4	49.1	14.8	1.3	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	756	1289	452	34	66
(%)	100	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	678	1308	413	22	56
(%)	100	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	675	1412	459	24	167
(%)	100	24.7	51.6	16.8	0.9	6.1

(5)配偶者と会話がある(配偶者)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,078	307	479	221	71	-
(%)	100	28.5	44.4	20.5	6.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	439	756	261	32	31
(%)	100	28.9	49.8	17.2	2.1	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	701	1212	479	69	64
(%)	100	27.8	48.0	19.0	2.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	721	1169	433	37	70
(%)	100	29.7	48.1	17.8	1.5	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	758	1162	513	42	98
(%)	100	29.5	45.2	19.9	1.6	3.8

(9)配偶者は自分によりかかりすぎる(本人)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,188	121	499	1112	456	-
(%)	100	5.5	22.8	50.8	20.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	42	325	878	287	44
(%)	100	2.7	20.6	55.7	18.2	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	136	646	1545	204	66
(%)	100	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	161	779	1478	156	163
(%)	100	5.9	28.5	54.0	5.7	6.0

(9)配偶者は自分によりかかりすぎる(配偶者)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,078	63	248	477	290	-
(%)	100	5.8	23.0	44.2	26.9	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	51	240	819	384	25
(%)	100	3.4	15.8	53.9	25.3	1.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	166	538	1393	353	75
(%)	100	6.6	21.3	55.2	14.0	3.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	177	591	1375	328	102
(%)	100	6.9	23.0	53.4	12.7	4.0

配偶者との関係については、「(3)配偶者と価値観・考え方が似ている」という設問では、他の設問に比べて本人、配偶者共に「あまりそうではない」とする回答が多く、お互いに価値観・考え方は似ていないと思いつつ、それ以外ではお互いを大切にしている状況が伺え、本人と配偶者での大きな認識の差異はなかった。「(2)良き理解者である」については、本人は「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計は85.8%から、80.8%に少し減少し、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計は10.0%から、19.3%に増加している。配偶者は「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計は81.7%から、75.3%に減少し、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計は15.2%から、24.7%に増加している。お互いに良き理解者と思っているものの、その割合は減少傾向にあり、配偶者の方がより厳しい目線であると感じられる。「(3)価値観・考え方が似ている」については、本人は「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計は54.3%から、54.4%とほぼ同じ、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計は43.2%から、45.6%と少し増加している。配偶者は「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計は55.0%から、51.2%に減少し、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計は42.1%から、48.8%に少し増加している。お互い価値観・考え方は違うものと思ひ、その割合は配偶者の方でより増加傾向にある。

生きがいの変化については、「生きる喜びや満足感」が減少し、生きがいの保有率が減少してきている。生きがいの意味が「生活のリズムとメリハリ」という、生活するための手段に置き換わってきているのであろうか。生きがいの内容が「仕事」から「自分」「家庭」に変わり、自分の人生観や価値観を作り、自分を向上させる場が「仕事」から「家庭」に変わってきている。しかし、若い頃は「仕事」が中心となり、「仕事」から生きがいを得ている人も多いだろう。人生の中における「仕事」の割合が相対的に減少していく中、仕事に代わる生きがいを若い頃から見出すことが必要である。そのため、若い頃から自分の生きがいを模索し、生きがいを持った生活が、定年退職後の豊かな人生にも繋がると思われる。

2.11 定年および定年に関する考え方の変化について

【問 19】定年の経験の有無（単一回答）

	総数	まだ定年前	まだ定年前 (定年なし)	定年前に 退職した	定年 退職した	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	2,693	1,195	614	357	527	-
(%)	100	44.4	22.8	13.3	19.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,281	-	177	454	80
(%)	100	64.3	-	8.9	22.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,920	-	226	1,032	11
(%)	100	60.2	-	7.1	32.4	0.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,832	-	184	860	33
(%)	100	63.0	-	6.3	29.6	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,778	-	198	877	198
(%)	100	58.3	-	6.5	28.7	6.5

【問 19-1】現在就業中の人々の定年年齢（単一回答）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,195	0	7	30	978	160	16	4	-
(%)	100	0.0	0.6	2.5	81.8	13.4	1.3	0.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	1	0	68	1,046	86	5	3	72
(%)	100	0.1	0.0	5.3	81.7	6.7	0.4	0.2	5.6
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	5	11	125	1,476	81	11	1	210
(%)	100	0.3	0.6	6.5	76.9	4.2	0.6	0.1	10.9
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	5	5	136	1,382	62	4	3	235
(%)	100	0.3	0.3	7.4	75.4	3.4	0.2	0.2	12.8
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	0	1	299	1,320	79	0	0	79
(%)	100	0.0	0.1	16.8	74.2	4.4	0.0	0.0	4.4

【問 19-3】 定年前に退職した人の退職時年齢（単一回答）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	357	99	73	149	35	1	0	0	-
(%)	100	27.7	20.4	41.7	9.8	0.3	0.0	0.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	177	29	33	98	14	2	1	0	0
(%)	100	16.4	18.6	55.4	7.9	1.1	0.6	0.0	0.0
≪第3回調査(平成13年)≫	226	16	54	120	25	4	0	0	7
(%)	100	7.1	23.9	53.1	11.1	1.8	0.0	0.0	3.1
≪第2回調査(平成8年)≫	184	8	42	89	34	9	1	0	1
(%)	100	4.3	22.8	48.4	18.5	4.9	0.5	0.0	0.5
≪第1回調査(平成3年)≫	198	0	52	102	31	2	0	0	11
(%)	100	0.0	26.3	51.5	15.7	1.0	0.0	0.0	5.6

【問 19-4】 定年退職した人の退職時年齢（単一回答）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	527	0	9	33	428	55	2	0	-
(%)	100	0.0	1.7	6.3	81.2	10.4	0.4	0.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	454	1	2	53	360	33	5	0	0
(%)	100	0.2	0.4	11.7	79.3	7.3	1.1	0.0	0.0
≪第3回調査(平成13年)≫	1,032	1	16	181	725	69	6	0	34
(%)	100	0.1	1.6	17.5	70.3	6.7	0.6	0.0	3.3
≪第2回調査(平成8年)≫	860	1	5	210	557	74	7	0	6
(%)	100	0.1	0.6	24.4	64.8	8.6	0.8	0.0	0.7
≪第1回調査(平成3年)≫	877	0	20	367	423	56	0	0	11
(%)	100	0.0	2.3	41.8	48.2	6.4	0.0	0.0	1.3

【問 19-4】 で会社の定年年齢については、1998年（平成10年）4月1日に60歳定年が義務付けされたため、定年年齢が60～64歳が48.2%から81.2%に大幅に増加している。一方、【問 19-3】 では、定年前に退職した人は、50歳未満が第2回調査の4.3%から27.7%に大幅に増加している。これは、昨今の経済環境の悪化等による雇用調整（早期退職）が影響しているものと思われる。

【問 20-1】 定年退職後の生活費（定年前就業者）（3つまで）

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の 保険金や個人年金	預貯金の 取り崩し	就労による 収入	子ども等からの 経済的支援	その他	わからない 考えた ことがない	無回答
≪今回調査(平成23年)≫	1,809	1,260	857	685	457	570	456	17	31	111	-
(%)	-	69.7	47.4	37.9	25.3	31.5	25.2	0.9	1.7	6.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	982	639	585	285	345	430	9	30	33	14
(%)	-	76.7	49.9	45.7	22.2	26.9	33.6	0.7	2.3	2.6	1.1
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	1,385	1,007	793	385	491	582	17	37	68	23
(%)	-	72.1	52.4	41.3	20.1	25.6	30.3	0.9	1.9	3.5	1.2
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	1,426	979	708	470	321	573	12	44	72	23
(%)	-	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

定年前退職者に対して定年退職後の生活費について聞いたところ、「公的年金」は77.8%から、69.7%に減少、「企業年金」も53.4%から、47.4%に減少しており、「預貯金による取り崩し」を考える人が17.5%から、31.5%に大きく増加している。公的年金では少子高齢化による支給開始年齢の段階的引き上げや給付適正化¹⁴が実施され、企業年金では経済環境と運用環境の低迷、会計基準の変更等により、企業年金の解散や給付減額などが行われており、預貯金等を老後の生活費に考える人が多くなっているのではない

¹⁴ 厚生年金の5%給付乗率の引き下げ（給付適正化）が実施（平成12年4月施行）された。また、平成16年財政再計算による所得代替率の見通しでは所得代替率は従前所得の約5割となっている。

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/nenkin/zaisei/zaisei/04/index.html>, 2011.12.7.)

あろうか。公的年金の役割が縮小していく中、公的年金を補完すべき企業年金の新たな推進策が必要と思われる¹⁵。

【問 20-2】現在就業中の人の定年までの就業希望（単一回答）

	該当数	定年まで 勤めたい	定年前に 退職したい	無回答
《今回調査(平成23年)》	1,809	1,543	266	-
(%)	100	85.3	14.7	-
《第4回調査(平成18年)》	1,281	1,043	219	19
(%)	100	81.4	17.1	1.5
《第3回調査(平成13年)》	1,920	1,506	357	57
(%)	100	78.4	18.6	3.0
《第2回調査(平成8年)》	1,832	1,465	264	103
(%)	100	80.0	14.4	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1,778	1,440	303	35
(%)	100	81.0	17.0	2.0

【問 20-3】定年前の就業者の定年退職後の就業希望（単一回答）

	退職とともに職 該当数 業生活から引 退したい	できれば仕事 を継続したい	定年後も出向 や再雇用制度 等を利用して 今の会社に勤 めたい	退職後は別 の企業に再 就職したい	退職後は自分 で事業や商売 を始めたい(自 由業を含む)	退職後は 家業を手伝 いたい	退職後はシ ルバー人材 センターで 簡単な仕事 をしたい	その他	わから ない考 えがな い	無回答
《今回調査(平成23年)》	1,809	442	565	190	140	126	14	99	19	214
(%)	100	24.4	31.2	10.5	7.7	7.0	0.8	5.5	1.1	11.8
《第4回調査(平成18年)》	1,281	327	452	98	100	100	16	81	20	76
(%)	100	25.5	35.3	7.7	7.8	7.8	1.2	6.3	1.6	5.9
《第3回調査(平成13年)》	1,920	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	1,832	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【問 21-3】定年退職または定年前に退職した人の退職後の就業状況（単一回答）

	退職とともに職 該当数 業生活から引 退した	退職後も再雇 用制度等によ り、前の会社 に勤めた	退職後は出向 先に移籍した	退職後は別 の企業に再 就職した	退職後は自分 で事業や商売 を始めたい(自 由業を含む)	退職後は 家業を手伝 うように なった	退職後はシ ルバー人材 センターで 仕事するよ うになった	その他	無回答
《今回調査(平成23年)》	884	417	94	47	167	64	17	18	60
(%)	100	47.2	10.6	5.3	18.9	7.2	1.9	2.0	6.8
《第4回調査(平成18年)》	631	170	114	69	185	16	2	9	51
(%)	100	26.9	18.1	10.9	29.3	2.5	0.3	1.4	8.1
《第3回調査(平成13年)》	1,258	402	208	155	300	42	13	31	80
(%)	100	32.0	16.5	12.3	23.8	3.3	1.0	2.5	6.4
《第2回調査(平成8年)》	1,044	290	182	108	272	42	20	22	60
(%)	100	27.8	17.4	10.3	26.1	4.0	1.9	2.1	5.7
《第1回調査(平成3年)》	1,075	237	220	113	328	37	19	13	34
(%)	100	22.0	20.5	10.5	30.5	3.4	1.8	1.2	3.2

【問 20-2】で定年まで働きたいかについては、「定年まで働きたい」が 81.0%から 85.3%に増加し、「定年前に退職したい」は、17.0%から 14.7%に減少している。【問 20-3】で定年退職後も仕事を継続したい（再雇用含む）人の合計は 49.4%で半数近い人が定年退職後も働きたいと考えている。「定年前に退職したい」は、17.0%から 14.7%に減少している。昨今の経済状況と雇用状況から働けるうちは働きたいと思う人が増えているものと思われる。一方、【問 21-3】で定年退職または定年前に退職した人の就業状況については、「退職後も前の会社に勤めた」は 20.5%から 10.6%に減少しており、「自分で事業や商売を始めた」が 3.4%から 7.2%に増加していた。

¹⁵ 企業年金の新たな枠組みの提案については、財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2010,2011）『老後保障の観点から見た企業年金の評価に関する研究』総括研究報告書 平成 22 年 3 月発行、『老後保障の観点から見た企業年金の評価に関する研究』総合研究報告書 平成 23 年 3 月発行を参照。

【問 20-4】 現在就業中の人の過去 5 年間で¹の出来事（複数回答）

	総数	子どもや孫の誕生	子どもの成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死	その他の家族の死	昇進・昇格
《今回調査(平成23年)》	1,809	327	220	109	130	260	166	392	18	349	356
(%)	-	18.1	12.2	6.0	7.2	14.4	9.2	21.7	1.0	19.3	19.7
《第4回調査(平成18年)》	1,281	269	271	97	127	149	107	367	14	289	467
(%)	-	21.0	21.2	7.6	9.9	11.6	8.4	28.6	1.1	22.6	36.5
《第3回調査(平成13年)》	1,920	343	410	126	240	241	173	515	9	423	658
(%)	-	17.9	21.4	6.6	12.5	12.6	9.0	26.8	0.5	22.0	34.3
《第2回調査(平成8年)》	1,832	346	419	111	232	265	179	410	12	340	557
(%)	-	18.9	22.9	6.1	12.7	14.5	9.8	22.4	0.7	18.6	30.4
《第1回調査(平成3年)》	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	出向・転籍	中途退職・失業(解雇)	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え	親の介護	親との新たな同居	その他	いずれもない	無回答
《今回調査(平成23年)》	176	94	47	215	166	30	23	414	-
(%)	9.7	5.2	2.6	11.9	9.2	1.7	1.3	22.9	-
《第4回調査(平成18年)》	144	-	17	244	147	37	-	151	8
(%)	11.2	-	1.3	19.0	11.5	2.9	-	11.8	0.6
《第3回調査(平成13年)》	273	-	25	366	-	-	-	191	77
(%)	14.2	-	1.3	19.1	-	-	-	9.9	4.0
《第2回調査(平成8年)》	229	-	43	337	-	-	-	179	79
(%)	12.5	-	2.3	18.4	-	-	-	9.8	4.3
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【問 21-4】 定年退職または定年前に退職した人の最近 5 年間の出来事（複数選択）

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のほりあいや生きがいなくなった
《今回調査(平成23年)》	884	254	22	225	117	20	97	72	30	26	101
(%)	-	28.7	2.5	25.5	13.2	2.3	11.0	8.1	3.4	2.9	11.4
《第4回調査(平成18年)》	631	182	17	192	72	30	74	32	17	13	57
(%)	-	28.8	2.7	30.4	11.4	4.8	11.7	5.1	2.7	2.1	9.0
《第3回調査(平成13年)》	1,258	386	40	414	140	44	-	115	22	-	121
(%)	-	30.7	3.2	32.9	11.1	3.5	-	9.1	1.7	-	9.6
《第2回調査(平成8年)》	1,044	247	28	341	103	40	-	86	17	-	80
(%)	-	23.7	2.7	32.7	9.9	3.8	-	8.2	1.6	-	7.7
《第1回調査(平成3年)》	1,075	258	26	313	-	44	-	82	21	-	75
(%)	-	24.0	2.4	29.1	-	4.1	-	7.6	2.0	-	7.0

	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った	世の中の情報の進展についていけず困った	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
《今回調査(平成23年)》	59	162	32	24	141	45	20	295	-
(%)	6.7	18.3	3.6	2.7	16.0	5.1	2.3	33.4	-
《第4回調査(平成18年)》	56	121	41	11	76	21	7	159	32
(%)	8.9	19.2	6.5	1.7	12.0	3.3	1.1	25.2	5.1
《第3回調査(平成13年)》	100	213	75	24	146	60	39	351	56
(%)	7.9	16.9	6.0	1.9	11.6	4.8	3.1	27.9	4.5
《第2回調査(平成8年)》	86	148	43	16	100	43	10	296	65
(%)	8.2	14.2	4.1	1.5	9.6	4.1	1.0	28.4	6.2
《第1回調査(平成3年)》	115	174	-	25	106	39	14	357	61
(%)	10.7	16.2	-	2.3	9.9	3.6	1.3	33.2	5.7

【問 20-4】で、現在就業中の人の過去 5 年間の出来事では、「子どもの成人・就業」と「子どもの結婚」がそれぞれ 22.9%、12.7%から 12.2%、7.2%に減少していた。昨今の雇用環境の悪化によるものと思われる。定年退職または定年前に退職した人の過去 5 年間の出来事では、「生活のほりあいや生きがいなくなった」が 7.0%から 11.4%に増加、「経済的に苦しくなった」が 24.0%から 28.7%に増加、「配偶者や親の介護が必要になった」が 9.9%から 13.2%に増加していた。特に介護問題は今後の高齢化に伴い、定年退職後の生活に対する大きな問題となっていくものと思われる。

2.12 定年退職に向けての考え方の変化について

【問 22-1】 定年退職に向けて、個人として必要なこと（回答は3つまで）

	健康の維持・ 増進を心がける	貯蓄・住宅な ど、経済的基盤 をつくる	生涯楽しめる 趣味を持つ	定年後も活 かせる専門 的技術を身 につける	夫婦・家族の 関係を大切に する	友人や仲 間との交流 を深める	近隣や地 域の人との 交流を深め る	会社以外 の活動の 場をつつ ておく	その他	特に何も必 要ない	無回答	
《今回調査(平成23年)》	2,693	1828	1790	1206	265	957	443	191	319	2	141	-
(%)	-	67.9	66.5	44.8	9.8	35.5	16.5	7.1	11.8	0.1	5.2	-
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1562	1158	925	235	714	401	273	389	5	11	23
(%)	-	78.4	58.1	46.4	11.8	35.8	20.1	13.7	19.5	0.3	0.6	1.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2012	1520	945	406	524	299	170	367	5	7	59
(%)	-	63.1	47.7	29.6	12.7	16.4	9.4	5.3	11.5	0.2	0.2	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1800	1297	895	340	498	257	173	291	2	15	73
(%)	-	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5	2.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1929	1518	1002	414	409	256	182	305	6	15	46
(%)	-	63.2	49.8	32.8	13.6	13.4	8.4	6.0	10.0	0.2	0.5	1.5

【問 22-1】で定年退職に向けて個人として必要なことは、「健康の維持・増進を心がける」が63.2%から67.9%に増加、「貯蓄・住宅など、経済的基盤」が49.8%から66.5%に増加、「生涯楽しめる趣味を持つ」が32.8%から44.8%に増加し、一番増加したのは「夫婦・家族の関係を大切にする」で13.4%から35.5%である。一方、「定年後も活かせる専門的技術を身につける」は13.6%から9.8%に減少している。定年退職に向けて個人として必要なことは、「健康の維持・増進」「経済的基盤」「生涯楽しめる趣味」が3本柱として挙げられ、これに「家族の関係」が必要と考えられている。

【問 22-2】 定年退職に向けて、企業として必要な条件の整備（複数回答）

	退職準備教育 や退職相談を 充実させる	企業年金の充 実など社員の経 済的基盤充実 に力を入れる	労働時間短縮 で、社員の個 人的生活にゆ とりを持たせる	中高年者の 能力再開発 の研修制度 を充実させる	希望者には定 年年齢を延長 させる	定年後の 再雇用など、再就職 の場を用意 する	社会活動 や余暇活 動奨励や 支援の制 度を設ける	定年前の “ならし運 転”のため の休職制 の充実	退職向け セミナー の充実	その他	特に何も必 要ない	無回答	
《今回調査(平成23年)》	2,693	986	1269	616	606	1439	1354	436	388	538	18	251	-
(%)	-	36.6	47.1	22.9	22.5	53.4	50.3	16.2	14.4	20.0	0.7	9.3	-
《第4回調査(平成18年)》	1,992	678	1026	505	452	887	972	329	231	509	20	79	33
(%)	-	34.0	51.5	25.4	22.7	44.5	48.8	16.5	11.6	25.6	1.0	4.0	1.7
《第3回調査(平成13年)》	3,189	747	1339	447	547	858	1015	302	208	-	29	133	88
(%)	-	23.4	42.0	14.0	17.2	26.9	31.8	9.5	6.5	-	0.9	4.2	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	747	1342	457	500	728	827	258	169	-	11	76	149
(%)	-	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	-	0.4	2.6	5.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	687	1617	622	464	681	911	285	170	-	13	51	119
(%)	-	22.5	53.0	20.4	15.2	22.3	29.9	9.3	5.6	-	0.4	1.7	3.9

【問 22-2】で定年退職に向けて企業として必要なことは、「希望者には定年年齢を延長させる」が22.3%から53.4%に、「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」が29.9%から50.3%に大きく増加しており、定年退職後も働ける場と能力を活かせる場が求められている。また、「退職準備教育や退職相談を充実させる」が22.5%から36.6%に増加しており、退職に向けたセミナーを含めて、従業員に対する退職に向けた準備教育が必要である。「希望者への定年延長」と「定年後の再就職の場の用意」が第1位と第2位で多く、3番目に「社員の経済的基盤充実」、4番目に「退職準備教育」を求める回答が多い。公的年金の支給開始年齢の引き上げや経済環境の悪化などから定年後も就業を希望する人が多く、定年延長や再雇用など定年後も就業できる環境の整備を望んでいる。また、「退職後教育」や「退職に向けたセミナー」の要望も多く、従業員が退職後の生活に不安を抱えている様子が伺え、企業と

して定年退職に向けた社員教育が不可欠である。

【問 22-3】 定年退職に向けて、社会として必要な条件の整備（複数回答）

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンが出入りできる交流の場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない	無回答
《今回調査(平成23年)》	2,693	1710	1535	460	857	736	709	34	191	-
(%)	-	63.5	57.0	17.1	31.8	27.3	26.3	1.3	7.1	-
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1150	1178	408	741	559	462	41	60	36
(%)	-	57.7	59.1	20.5	37.2	28.1	23.2	2.1	3.0	1.8
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1592	1516	313	790	638	481	35	98	76
(%)	-	49.9	47.5	9.8	24.8	20.0	15.1	1.1	3.1	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1514	1275	387	761	595	393	20	59	142
(%)	-	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0	4.9
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1554	1457	497	734	567	547	11	33	117
(%)	-	50.9	47.8	16.3	24.1	18.6	17.9	0.4	1.1	3.8

【問 22-3】で定年退職に向けて社会に求めるものは、「希望する年齢までの雇用環境」が50.9%から63.5%に増加、「定年退職者の能力を活かす場を増やす」が47.8%から57.0%に増加し、定年退職後も働ける場と能力を活かせる場が求められている。「定年退職者の能力を活かす場」は、年齢が上がるにつれて増加し、高齢期において働ける環境作りが必要である。「社会活動のための情報提供」も年齢が上がるにつれて増加し、社会参加の「きっかけ」を求めている人が多い結果と考えられる。

定年に関する考え方は、定年退職後も41.7%が働きたいと考えており、昨今の経済状況と雇用状況の悪化、社会情勢の変化から、働けるうちは働きたいと思う人が増えているものと思われる。また、社会に求めるものも「雇用環境」が一番に挙げられており、定年退職者が働ける環境の整備が必要であろう。

3 調査結果からの考察

3.1 調査結果から見えること

今回の調査は、リーマンショックとユーロ危機後の世界経済が悪化し、日本においても経済・雇用環境が著しく悪化している中での調査であり、5年前と比べて生活が苦しくなったと感じている人は43.8%であった。就業状況については、世帯年収が減り、管理職になれないサラリーマン層が増え、「賃金」と「職場での地位の高さ」への不満が増加している。生活状況については、自由時間が増える中、その使い方は「仕事関係」が減り、「個人の趣味」や「家庭」に費やされるようになってきている。しかし、「時間的ゆとり」は増えたものの、「経済的ゆとり」と「精神的ゆとり」が減り、「家族の理解」「友人・仲間」「仕事のほりあい」「社会的地位」などの生活全般に対する充足感が減少している。従来の仕事中心の生活から家庭の比重が増えるにつれ、家庭への期待が高まっているものの、仕事に代わる十分な充足感が得られていないと思われる。生きがいの意味として「生きる喜びや満足感」が減少する中、生きがいの保有率も減少してきている。生きがいの内容が「仕事」から「趣味」「家庭」「自分」に変わり、自分の人生観や価値観を作り自分を向上させる場も、「仕事・会社」から「家庭」に変

わってきている。また、生きがいの場をどこにもないとする割合も増えつつある。サラリーマンにとって「仕事」以外の場で生きがいを持てる社会の構築が必要である。

3.2 生きがいのある社会の構築に向けて

定年退職後のサラリーマンが生きがいを持って生活するためには、現役時代に培った能力を活かせる場が必要となる。せっかくの能力を無駄にするのは惜しいことであり、活かせる場がないのは、社会全体にとっても損失である。日本の高齢化は今後も進展し、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、高齢化率は2035年に33.7%¹⁶⁾に達し、3人に1人が65歳以上の時代となる。定年退職者の能力を活かす場を作ることが、今後の日本の高齢社会への対応策にも繋がる。少子高齢化による人口構造の変化と超高齢社会に対応していくため、これら能力を持った定年退職者が地域社会の基盤となり、高齢化する地域社会を支える役割を担っていく必要がある。定年退職後は企業労働のみならず、社会活動などのアンペイド・ワーク¹⁷⁾を行うことが社会にとっても有用であるとされている(前田, 2006)。WHOでも高齢期の生活の質(quality of life)を高めるため、社会的、経済的、文化的、精神的な活動や社会活動への参加を継続し、「健康(Health)」「参加(Participation)」「安全(Security)」のための機会を最大化する「アクティブ・エイジング(Active Ageing)」を推奨¹⁸⁾している。個人の生活様式が多様化する中、自分の生活様式に合った定年退職後の働き方や社会参加の仕方を模索し、定年退職後も自分の能力を活かしていく場を見つけることが生きがいの保有にも繋がる。そのためには、定年退職者が能力を活かせる場の整備と、社会参加のしやすい環境の整備が必要である。

3.3 生きがいにおける「社会活動への参加」の重要性

第1回調査結果で「社会活動に参加している人は生活に充足感を感じ、生きがいを持つ人が多い」と指摘され、当機構の「シニアの社会参加と生きがいに関する事業(2011)」研究でも、「社会参加が定年退職後の生活満足度と生きがいを高める」とした¹⁹⁾。しかし、「社会参加」の現状については、今回の調査結果からも定期的に参加している人は1割にも満たない状況であり、半数以上が社会活動に参加していない状況である。内閣府『平成22年度第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果』(2010)²⁰⁾によると、社会活動への参加状況は、日本はドイツ、米国などと比べて低いものの参加しない理由として「時間的・精神的ゆとりがない」が32.2%と多く、「関心がない」とする割合は米国、

¹⁶⁾ 内閣府『平成23年版 高齢社会白書』

(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html, 2011.12.7).

¹⁷⁾ アンペイド・ワークとは、経済的な利益を生み出す賃金労働と対比し、金銭的な対価を伴わない無償労働のことで、家事・育児・介護・看護などの家庭内労働や、ボランティア活動などの社会活動を指す。

¹⁸⁾ 前田信彦(2006)『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房, p.9.

¹⁹⁾ 西村純一(2011)『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, pp.25-44.

²⁰⁾ 内閣府(2010)『平成22年度第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果』

(<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h22/kiso/zentai/index.html>, 2011.12.7).

ドイツよりも低く 15.9%である。今回の調査結果でも「社会活動への参加」を拒否しているものではなく、「きっかけさえあれば参加してもよい」と考えられていた。若い頃は地域のイベントや子どものサークルなどを通して社会参加する機会があり、ここでの関係をその後も続けていけるかどうかの一つの鍵となろう。定年退職後は新しい活動の場を切り開いていく必要があると思われるが、退職後の新たな活動の場を退職前から考えている人は少ないと思われる。若い頃から色々な社会活動に興味を持って参加し、その中から将来続けられそうな自分に合った社会活動を探していくことが定年退職後の社会参加に繋がる。高齢期のライフスタイルは若年期からの生活習慣の積み重ねの上に成り立ち (Elder, 1974)、若い時期からの社会との関わり方に左右される (前田, 2011) ²¹。また、高齢期では移動可能な距離が小さくなり (前田, 2006) ²²、近隣地域の重要性が増すため、社会活動への参加による近隣地域との関係維持が大切となる。社会参加の機会が増えれば高齢期の生きがいは維持され (和田, 1988)、若い頃から社会参加への「きっかけ」作りを行い、地域社会との社会的ネットワークを構築していくことが定年退職後の生きがいにも繋がる。

生きがいとは生活に対する「心の張り」「充実感」「幸福感」「満足感」であると言われている (直井道子, 2004) ²³。今までサラリーマンの生活の大部分を占めていた「仕事」の割合が小さくなってきており、経済環境、雇用環境、社会環境が変化していく中、仕事に代わる新しい生きがいを見出す必要がある。新しい生きがいを求めるのであれば、「新しい自分」を見つけることが必要となる。生きがいは、それが自分にとっての「心の張り」になり、そこから「充実感」「満足感」が得られ、「幸福」な気持ちをえられるものであれば、それはその人にとっての生きがいとなる。それは何処にでもあり、自分で探し出すものでもある。生きがいを見つけることこそ生きがいを持った生活の第一歩である。

3.4 企業と社会に求められること

定年退職後を豊かに過ごすためには、「健康の維持増進」「経済基盤」「生涯楽しめる趣味」が必要とされており、今回調査結果でも「退職後教育」「退職に向けたセミナー」に対する要望が多かった。第 2 回調査結果でも、「将来の生活設計がしっかりできている人ほど将来の生活に不安が少なく、定年退職後生きがいを持って生活しており、将来の生活設計をしっかり持つことが大切である」と指摘している。将来の定年退職後の生活不安を少しでも解消するため、定年退職に向けた社員教育が不可欠である。若い頃から定年退職に向けた準備を始め、定年退職後の生活設計を早い段階から行うことが将来の豊かな老後生活に繋がる。企業と社会は「ライフプランセミナー」の重要性を再認識し、若い年齢からの生活設計と定年退職に向けた準備を支援していくことが必要である。そして、自分で定年退職後の生活設計を作成する必要性を認識させ、自らのライフプランを考えることが求められている。

²¹ 前田信彦 (2011)『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, pp.45-60.

²² 前田信彦 (2006)『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房, p.186.

²³ 直井道子 (2004)「高齢者の生きがいと家族」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第 10 号: p.21.

今回の調査では、「企業年金がない人」も新たに調査対象とし、「企業年金がある人」との比較を試みたが、生きがいに関する考え方に大きな差異は見られなかった。しかし、企業年金がない人は定年退職後は公的年金だけでは不安であり、公的年金を個人年金や預貯金で補おうと考えられていた。定年退職後の就業希望も企業年金がある人より多く、企業年金がない人は世帯収入や世帯貯蓄も企業年金がある人より少ない傾向にあり、これらの人に対して定年退職後に向けた資産形成を支援する施策（税による優遇など）が必要と考えられる。当機構で実施した「企業年金に関するアンケート調査（2011.2）」²⁴でも、企業年金がない人は定年退職後は公的年金だけでは不安であると考えており、37.5%が何らかの年金制度に、できれば加入したいと考えられていた。近年、経済環境の悪化等から非正規雇用という雇用形態が広がりつつあり、厚生労働省が発表した「平成 22 年就業形態の多様化に関する総合実態調査」²⁵によると、非正規雇用者の割合は 38.7%まで上昇してきている。企業年金がない被用者の老後所得保障をどうすべきであるかについては、緊急の課題である。企業年金がない人々が現在加入できる既存の年金制度の周知とともに、これらの人々が自ら進んで加入するような税の優遇などによる新たな私的年金の枠組みの構築が必要と考える。諸外国では既に公的年金の機能を補完する私的年金制度が推進されており、米国のIRA（Individual Retirement Account：個人退職勘定）、イギリスのNEST（National Employment Saving Trust：国家雇用貯蓄信託）²⁶、ドイツのリースター年金（Riester Rente）²⁷などを参考に新たな税制優遇（所得控除または直接補助）による個人貯蓄の枠組みを構築し、個人の自助努力による公的年金の補完を進めることが国民の豊かな老後生活にも繋がると考える。1995年に制定された「高齢社会対策基本法」²⁸第9条3項では、「国は、高齢期のより豊かな生活の実現に資するため、国民の自主的な努力による資産の形成等を支援するよう必要な施策を講ずるものとする。」とされている。さらに、同法第11条2項においては、「国は、活力あ

²⁴ 菅谷和宏（2011）「企業年金に関する意識調査」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，30(1)：pp.49-77.

²⁵ 「平成 22 年就業形態の多様化に関する総合実態調査」：事業所規模 5 人以上の民営事業所約 17,000 カ所と、そこで働く労働者約 51,000 人を対象として、平成 22 年 10 月 1 日現在の状況について調査を実施したもの。

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html>, 2011.12.7).

²⁶ NEST（国家雇用貯蓄信託）とは、職域年金未加入者を強制的に加入させることにより、低所得者の老後資金の積み立て促進を目的としたもの。財源は被用者本人と事業主がそれぞれ税引き後所得（年間 5000～3万3500ポンド）の4%、3%を保険料として負担し、政府が減税措置の形で1%を拠出することで賄われる。杉田浩治「自動加入方式を採用する英国の新個人年金制度」

(http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001_01.pdf, 2011.12.7).

²⁷ リースター年金（Riester Rente）とは、ドイツの 2001 年年金改革において公的年金の給付水準の引き下げが行われ、公的年金を補完する目的で、2002 年 1 月に任意加入の個人積立勘定（拠出建て）による補足的な老後保障制度として導入されたもの。加入者の掛金に対して政府が補助金支給または所得控除（保険料の所得控除）を行う。低所得者ほど政府の補助が手厚くなり、低所得者には補助金支給、高所得者には所得控除が自動的に行われる仕組み。拠出上限（2010 年までに 4%へ段階的に引き上げ）が設定されている。加入対象者は公的年金の強制被保険者であり、任意加入者等は除外となっている。小笠原章・中嶋邦夫「私的年金が強化されるドイツ年金制度」ニッセイ基礎研 REPORT 2006.12 より抜粋。

(<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2006/12/li0612b.pdf>, 2011.12.7).

²⁸ 高齢社会対策基本法は、「国民一人一人が生涯にわたって安心して生きがいを持って過ごすことができる社会を目指して、あるべき高齢社会の姿を明らかにするとともに、高齢社会対策の基本的方向性を示すことによって、高齢社会対策を総合的に推進する」ことを目的に 1995 年 11 月制定。

(http://www8.cao.go.jp/kourei/measure/a_3.htm#2, 2012.2.20).

る地域社会の形成を図るため、高齢者の社会的活動への参加を促進し、及びボランティア活動の基盤を整備するよう必要な施策を講ずるものとする。」と規定されている。活力ある地域社会の形成のため、定年退職者の社会参加を促すような施策が必要である。

4 おわりに

全てのサラリーマンが生きがいを持って生活できるようにするためには、①定年退職者の能力を活かせる場の提供、②生きがいを持つための「きっかけ」作り、③定年退職後に向けた生活設計（ライフプラン）の支援、そして、④老後生活を安心して暮らせるような「経済基盤」の再整備（公的年金を補完する企業年金の充実や私的年金の推進策）が必要である。そして、これらが今後の日本の超高齢社会への対応策にも繋がっていくものと思われる。

生きがいは、個人の生活や心理的要素が複雑に影響するものであり、それ自体非常に多様性を持つものである。また、年齢とともに生活が変化し、それに伴い生きがいの意味や価値観も変化していく。経済環境や雇用環境、就業形態が変化し多様化していく中、生きがいの意味や価値観も変化してきており、多様化する社会に対応できるような生きがい感の構築が必要となる。生きがいの重心が「仕事」から「家庭」「自分」に変化していく中、人々が何に生きがいを見出し、どのようにして生きがいを得て、その生きがいを将来に亘って保持していくにはどうしたらよいかを改めて考える時期に来ている。そのためには、個人として何をすべきか、企業はどのような支援を行うべきか、社会はどのような環境を構築すべきかについて考えていく必要がある。

参考文献

- 内閣府『平成 23 年版 高齢社会白書』
(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html, 2011.12.7).
- ———『平成 22 年度 第 7 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果』
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h22/kiso/zentai/index.html>', 2011.12.7).
- ———『平成 19 年版 国民生活白書』
(http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01_honpen/html/07sh020105.html, 2012.2.8).
- 厚生労働省『平成 22 年就業形態の多様化に関する総合実態調査』
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html>, 2011.12.7).
- ———『平成 22 年簡易生命表の概況』
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/dl/gaikyou.pdf>, 2011.12.7).

- ——— 『平成 19 年度 公的年金財政状況報告』
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html> ', 2011.12.7).
- ——— 『平成 16 年高年齢者就業実態調査結果の概況』
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/keitai/04/index.html> ',
2011.12.7).
- 文部科学省 『学校基本調査平成 23 年度 (速報) 結果の概要』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1309148.htm /, 2011.12.7).
- ——— 『平成 23 年度学校基本調査』
(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2012/02/06/1315583_1.pdf, 2012.2.8).
- 企業年金連合会編 (2010) 『企業年金に関する基礎資料』平成 22 年 12 月発行.
- 財団法人シニアプラン開発機構 (現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構) (1992) 『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ——— (1997) 『第 2 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ——— (2002) 『第 3 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構 (2007) 『第 4 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- ——— (2011) 『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- 菅谷和宏 (2011) 「企業年金に関する意識調査」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, 30(1): pp.49-77.
- 直井道子 (2004) 「高齢者の生きがいと家族」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第 10 号: pp.20-40.
- 安達正嗣 (2004) 「高齢者の生きがいとしての家族・親族・地域関係の再構築」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第 10 号: pp.52-64.
- 清家篤・山田篤弘 (2004) 『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社.
- 前田信彦 (2006) 『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房.
- ——— (2004) 「高齢期における多様な働き方とアンペイド・ワークへの評価」国立女性教育会館研究紀要 第 7 号: pp.21-31.
- 富樫ひとみ (2007) 「高齢者の社会関係に関する文献的考察—社会関係の構造的特質の

検討一」『立命館産業社会論集』42(4): pp.165-183.

- 小笠原章・中嶋邦夫「私的年金が強化されるドイツ年金制度」ニッセイ基礎研 REPORT 2006.12.

(<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2006/12/li0612b.pdf>, 2011.3.25).

- 杉田浩治「自動加入方式を採用する英国の新個人年金制度」(2010.1.18) 日本証券研究所.

(http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001_01.pdf, 2011.12.5).

第4章 中高年期の生きがいと性・年齢ならびに性格 行動特徴との関連

1 はじめに

心理学の領域においては、かねて生涯発達 (life-span development) の観点から、成人期以降の人の心身の加齢変化に対する関心が高かった (e.g., Baltes, Reese, & Lipsitt, 1980; 矢野, 1995)。一方、国立社会保障・人口問題研究所 (2012) の将来人口推計によると、現在およそ4人に1人である65歳以上の高齢者は、2060年には5人に2人にまで拡大することが見込まれている。世界の最長寿国として、すでに超高齢社会に突入している我が国であるが、今後はいっそう、国民の充実した老後、すなわちサクセスフル・エイジングに資する取り組みが求められることになるだろう。

柴田 (2002) は、生きがいについて、自立した生活機能と人生や生活への満足感すなわちQOL (Quality of Life : 生活の質) に、生産性すなわち役割意識や達成感を加えた日本型のサクセスフル・エイジングの概念であると述べている。ライフサイクル理論 (Erikson, 1959) においては、従来、この生産性 (productivity) が生殖性 (generativity) と結び付けられ、子の保護や家庭の維持を主とする中年期の発達課題とされてきた。しかしながら、長寿化にともなって人生プロセスが変化した現代では、生産や社会貢献が可能な健康で自立した高齢世代が出現している (Baltes & Smith, 2002)。この世代は、社会から引退して年金生活を送るというかつての老年期のイメージに収まるものではない。実際、Kahn (1983) は、老年期の生産性が、有償労働だけでなく、無償労働・ボランティア・相互扶助・自助などによっても規定されると述べている。したがって現代の高齢者、少なくとも疾病や障害により介護の対象となる超高齢世代に至る前的高齢者は、定年退職で有償労働を終えたあとも、ボランティアや相互扶助などの活動を通じて役割意識や達成感を満たすこと、すなわち生きがいの保持や再構築を必要としているといえるだろう。

年金シニアプラン総合研究機構 (旧シニアプラン開発機構) は、企業の現役従業員と退職者 (およびその配偶者) を対象とした「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を1991年から5年ごとに行ってきた。本研究の目的は、先に行われた第5回調査のデータを分析し、中高年世代の生きがいの特徴について、性や年齢、性格行動特徴との関連を中心に考察することである。

2 方法

2.1 対象 :

株式会社クロス・マーケティングのモニター登録会員約149万人にインターネット調査を配信し、回答受付順で35歳から74歳の男女5,145名 (平均年齢53.2±11.5歳) を確保し、

分析対象とした。対象者の内訳は、男性 2,799 名（平均年齢 53.5±11.5 歳）、女性 2,346 名（平均年齢 52.8±11.4 歳）で、男性の平均年齢がやや高いという統計的な有意差が認められた¹。

2.2 分析項目：

比較を行う基本属性として、性と年齢を用いた。年齢については、35~44 歳、45~54 歳、55~64 歳、65~74 歳の 4 つの年代にカテゴリ化して比較した。これらの年代は、それぞれ、サラリーマンシニア前期、定年準備期、定年期、年金生活期、に該当する。

2.3 性格行動特徴：

第 2 回調査以降、継続して測定している 13 項目を用いた（〔図表 4-7〕参照）。

2.4 生きがい：

第 2 回調査以降、継続して測定している生きがい関連項目から、本研究では、生きがいの有無、生きがいの意味、生きがいの対象、に関する回答を分析した。生きがいの有無については、「持っている」「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」「わからない」から 1 つを選択させた。生きがいの意味については、〔図表 4-3〕で示した 10 項目のなかから最大 2 つまで、生きがいの対象については、〔図表 4-5〕で示した 13 項目のなかから最大 3 つまでを選択させた。

2.5 分析：

今回は、インターネットを通じたモニター調査という、第 4 回までとは異なる方法でデータを収集していることから、本人調査と配偶者調査の区別は行わずに分析を行った²。はじめに性、年齢（年代）の基本属性と、生きがいの有無、生きがいの意味、生きがいの対象との関連をそれぞれ検討した。つづいて、性格行動特徴に関する 13 項目を因子分析し、因子の下位尺度に基づいたクラスター分析により対象者を分類した。そのうえで、生きがいの有無、生きがいの意味、生きがいの対象について、クラスター間の違いを検討した。分析結果の解釈は、過去の調査結果（シニアプラン開発機構, 1992; 1997; 2002, 2007）を参照しながら行った。

¹ 本研究ではすべての統計的分析の有意水準を 5%以下とした。

² なお、今回の調査結果と比較するために引用した前回調査までの値は、特に断らない限り（配偶者のデータを除いた）本人調査の値である。

3 結果と考察

3.1 基本属性と生きがい

3.1.1 「生きがいの有無」について

男性の生きがい保有率(現在生きがいを「持っている」と回答したものの割合)は54.5%、女性は52.1%であった(図表4-1、図表4-2)。前回(第4回)調査では、男性が57.3%、女性が55.8%であったことから、男女とも生きがい保有率が低下したといえる。ただし生きがい保有率は、第2回調査の78.4%をピークに67.3%(第3回)、56.9%(第4回)、53.4%(今回)と毎回減少している(数字はいずれも男女込みの保有率)。したがって、生きがい保有率の低下は、一時的現象ではなく、近年の我が国の一貫した傾向といえるかもしれない。また、今回の調査では、男女とも生きがいの有無に関して統計的に有意な年代差が認められ、高齢世代ほど生きがい保有率が高い傾向が示された。前回調査でも高齢世代の生きがい保有率が高く、また、他の調査(熊谷他, 2008)でも同様の結果が示されていることから、「サラリーマンシニア前期」(35~44歳)のような前期中年世代が特に生きがいを見いだせていないことも、我が国の現状といえる。

本研究対象の中間層である「定年準備期」(45~54歳)や「定年期」(55~64歳)の世代は、他の世代と比較すると、男女とも生きがいを「前は持っていたが、今は持っていない」と回答する割合が多かった点も指摘しておく。上で述べたように、「サラリーマンシニア前期」の生きがい保有率がそもそも低かった点を考えると、これら「定年準備期」や「定年期」の世代が生きがいを保有していたのは、「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の調査対象の下限(35歳)よりもさらに若い時期であったと考えることもできよう。したがって、例えば、学生時代や就労した際の頃に持っていた生きがいが、「サラリーマンシニア前期」には失われ、「定年準備期」や「定年期」で生きがい喪失感が増す、というプロセスが考えられる。だとすれば、高齢世代である「年金生活期」の生きがい保有率が高かったことは、彼(女)らが、このようなプロセスを経て、改めて生きがいの再構築を試み、成功していることを示しているのかもしれない。

【図表 4-1】 男性における生きがいの有無 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
持っている	54.5	49.1	47.7	54.4	67.9	0.000
前は持っていたが、今は持っていない	12.1	10.9	14.1	12.9	10.9	
持っていない	16.5	18.8	20.5	16.2	9.9	
わからない	17.0	21.2	17.7	16.6	11.3	

*カイ二乗検定による年代間の比較。

【図表 4-2】 女性における生きがいの有無 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
持っている	52.1	45.0	45.7	54.9	66.5	0.000
前は持っていたが、今は持っていない	9.6	7.4	10.7	11.2	9.9	
持っていない	15.2	19.8	17.4	12.2	9.3	
わからない	23.2	27.9	26.2	21.8	14.3	

*カイ二乗検定による年代間の比較。

3.1.2 「生きがいの意味」について

男女とも、生きがいを、「生きる喜びや満足感」「心の安らぎや気晴らし」「生活の活力や
はりあい」として意味づける割合が高く、これは前回までの調査と同傾向であった（図表
4-3、図表 4-4）。また、これらを生きがいの意味とする割合については、今回の調査では
概して統計的に有意な年代差を認めなかった。したがって、これらは、我が国の中老年者
の普遍的な生きがいの意味と考えてよいだろう。ただし、女性における「生きる喜びや満
足感」は、例外的に、高齢世代ほど選択率が減じる統計的に有意な傾向が認められた。加
えて女性は、「人生観や価値観の形成」の選択率が高齢世代ほど高くなる統計的に有意な傾
向も示された点が男性とは異なっていた。「人生観や価値観の形成」は、どの年代も女性よ
り男性の選択率が高いことから、男性的な生きがいの意味といえるだろう。したがって女
性は、加齢により、生きがいの意味（定義）が男性的な方向にシフトするといえるかもし
れない。

このほか指摘しておきたい特徴として、男女とも「他人や社会の役に立っていると感
じること」を生きがいの意味とする割合が低かったことがある。この項目の選択率は、第 1
回調査から第 4 回調査まで 25.5%、19.1%、17.1%、13.7%と下がり続け、今回はついに
9.4%と 10%を下回った（数字はいずれも男女込みの値）。ただしこの傾向を、中老年世代
の利他性の減少（あるいは利己性の増大）とは一概に断じられない。というのも、「自分自
身の向上」の選択率も、第 1 回調査から第 4 回調査まで 22.3%、15.8%、18.3%、14.3%
と毎回下降しており、今回も全体で 12.9%と下げ止まらなかったからである（数字はいず
れも男女込みの値）。反対に、「生活のリズムやメリハリ」のみは、第 1 回調査から第 4 回
調査まで 7.1%、9.7%、10.2%、10.7%と選択率が漸増し、今回は 11.6%となった（数字は
いずれも男女込み）。したがって、先に述べた柴田（2002）の生きがい概念に照らせば、
これら「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の一連の結果は、生きがいの意味
が、生産性よりも QOL を重視する方向に変化しつつあることを示しているように思われ
る。

【図表 4-3】 男性における生きがいの意味 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
生きる喜びや満足感	43.4	43.1	44.4	43.2	43.0	0.947
心の安らぎや気晴らし	28.4	29.0	28.0	30.9	25.2	0.129
生活の活力やはりあい	27.4	30.4	25.8	25.9	26.7	0.149
生きる目標や目的	17.8	19.8	20.2	16.2	14.6	0.015
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	16.3	11.7	14.6	19.1	20.5	0.000
人生観や価値観の形成	15.1	13.5	17.4	15.2	14.8	0.227
生活のリズムやメリハリ	13.1	11.0	11.7	12.0	18.3	0.000
自分自身の向上	12.0	14.9	9.7	10.1	12.9	0.005
他人や社会の役に立っていると感じる事	9.7	7.8	8.5	10.1	12.9	0.007
その他	0.6	0.4	0.6	0.7	0.6	0.815

*カイニ乗検定による年代間の比較(「その他」のみFisherの直説法による比較)。

【図表 4-4】女性における生きがいの意味 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
生きる喜びや満足感	46.3	54.9	47.9	41.9	36.9	0.000
心の安らぎや気晴らし	32.3	30.7	33.3	33.3	32.1	0.720
生活の活力やはりあい	28.8	28.0	30.3	27.7	29.4	0.736
生きる目標や目的	19.5	20.6	21.7	18.7	16.3	0.126
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる	18.2	16.5	15.9	19.6	22.0	0.030
自分自身の向上	13.9	13.4	15.1	14.8	12.3	0.527
生活のリズムやメリハリ	9.8	7.0	8.8	10.3	14.5	0.000
他人や社会の役に立っていると感じる	9.0	7.5	8.1	11.2	9.9	0.113
人生観や価値観の形成	8.5	6.3	7.3	9.5	11.9	0.003
その他	0.6	1.1	0.2	0.4	0.6	0.145

*カイニ乗検定による年代間の比較(「その他」のみFisherの直説法による比較)。

3.1.3 「生きがいの対象」について

男女とも「趣味」と「子ども・孫・親などの家族・家庭」を生きがいの対象に挙げる割合が最も高かった(図表 4-5、図表 4-6)。これらは、前回までの全ての調査³でも最高の選択率を示した項目であったことから、生きがい対象としての重要性和普遍性を持つといえる。ただし、統計的に有意な年代差が認められ、男女を問わず高齢世代ほど、概して「趣味」の選択率が高くなり、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の選択率が低くなる傾向が示された。Erikson (1959) のライフサイクル理論によれば、成人期から老年期にかけて、個人のアイデンティティを巡る発達課題は、次世代の養育(生殖性)から自分らしさの許容(統合性)へと移行する。実際、本研究では「自分自身の健康づくり」の選択率が男女とも高齢世代ほど高くなる統計的に有意な傾向も認められた。本研究の結果は、人生の後半期におけるアイデンティティの移行が、生きがい対象の変化として表象されることを示唆するものといえるだろう。

「配偶者・結婚生活」も男女とも比較的選択率が高かったが、女性のみで高齢世代ほど選択率が低くなる統計的に有意な傾向が認められた。日本人女性の2010年の平均寿命(86.4歳)は26年連続で世界一となり男性の平均寿命(79.6歳)を引き離している(厚生労働省, 2011)。これに加えて一般に女性は年上男性と結婚する傾向のあることが、我が国の高齢女性に「配偶者・結婚生活」という生きがい対象の喪失体験をもたらす要因と思われる。ただし女性は、男性と同様、「社会活動」「自然とのふれあい」の選択率が高齢世代ほど高くなる統計的に有意な傾向が認められた。加えて「学習活動」のように、女性のみで高齢世代ほど選択率が高くなる項目、あるいは、「友人など家族以外の人との交流」のように、若年世代から一貫して男性より女性の選択率が高い項目もある。このように女性は、老年期の「配偶者・結婚生活」という生きがい対象の喪失を、他のさまざまな生きがいで補うことができると思われる。

³ 第1回調査では生きがいの対象に関する質問はしていない。また、第2回調査では「生きがいを持っている」と回答した対象者にのみ、生きがいの対象を尋ねている点で第3回調査から今回の第5回調査までとは質問の方法が異なっている。

〔図表 4-5〕 男性における生きがいの対象 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
趣味	54.5	49.8	52.0	59.2	57.6	0.000
子ども・孫・親などの家族・家庭	44.3	55.2	44.4	36.5	39.1	0.000
配偶者・結婚生活	28.8	30.1	26.6	30.3	27.6	0.333
仕事	23.8	30.5	29.7	22.2	11.3	0.000
スポーツ	16.7	17.2	16.7	16.9	15.7	0.894
ひとりで気ままに過ごすこと	15.2	13.2	14.2	17.4	16.3	0.100
自然とのふれあい	14.0	4.4	9.1	16.2	28.7	0.000
自分自身の健康づくり	11.7	4.3	7.2	12.8	24.4	0.000
友人など家族以外の人との交流	11.0	8.2	11.0	10.5	15.2	0.000
自分自身の内面の充実	10.5	9.3	10.6	10.9	11.7	0.503
社会活動(ボランティア含む)	5.9	2.2	4.4	6.2	11.5	0.000
学習活動	3.4	2.7	2.7	3.8	4.7	0.130
その他	1.4	1.2	1.9	1.0	1.6	0.534

*カイ二乗検定による年代間の比較。

〔図表 4-6〕 女性における生きがいの対象 (%)

	全体	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65-74歳	p*
子ども・孫・親などの家族・家庭	49.3	57.3	49.4	45.0	42.5	0.000
趣味	43.5	35.7	42.1	47.3	51.8	0.000
配偶者・結婚生活	24.6	32.7	24.5	21.0	17.3	0.000
友人など家族以外の人との交流	21.9	19.1	19.1	25.7	24.8	0.004
ひとりで気ままに過ごすこと	18.8	17.9	22.5	20.7	13.7	0.002
自分自身の内面の充実	18.5	13.1	21.5	23.2	17.3	0.000
仕事	12.8	13.5	16.9	11.5	8.5	0.000
自然とのふれあい	12.8	5.3	9.5	15.5	24.6	0.000
自分自身の健康づくり	12.3	6.1	10.7	14.2	20.8	0.000
スポーツ	8.2	6.3	8.6	8.3	10.5	0.069
社会活動(ボランティア含む)	5.3	2.3	3.7	5.9	10.7	0.000
学習活動	3.8	2.8	2.7	4.1	6.3	0.008
その他	2.8	3.7	3.1	2.5	1.4	0.114

*カイ二乗検定による年代間の比較。

3.2 性格行動特徴と生きがい

3.2.1 性格行動特徴項目の因子分析

13項目について因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行った。回転前の固有値は第1因子から4.63、1.48、1.18、0.83のように減じていたので、固有値1.00以上を基準に3因子を抽出した(図表4-7)。

第1因子は「人との関係やつながりを大切にする」など、集団維持に関係する内容の項目に高い負荷を示したので「協調性」と命名した($\alpha=0.77$)。第2因子は「自分の世界や個性を大切にする」など、個人の嗜好に関係する内容の項目に高い負荷を示したので「独自性」と命名した($\alpha=0.66$)。第3因子は「いろいろなことに興味を持ちチャレンジする」など、探究心やリーダーシップに関係する内容の項目に高い負荷を示したので「意欲」と命名した($\alpha=0.75$)。因子間相関は0.46~0.60と中程度でいずれも正の値を示した。

〔図表 4-7〕 性格行動特徴 13 項目の因子分析結果

	F1	F2	F3
F1 協調性			
いろいろな人の話や意見をよく聞く	0.81	-0.02	-0.11
新しいグループの中に、わりと気軽に入れる	0.62	-0.23	0.29
上下の立場や関係を尊重する	0.58	0.03	-0.09
人との関係やつながりを大切にする	0.55	0.04	0.03
どんなところでも結構楽しみを見出す	0.54	0.09	0.14
F2 独自性			
他人にはない自分なりの価値観を持っている	-0.13	0.68	0.24
自分の世界や個性を大切にする	-0.02	0.67	0.01
無理をせずマイペースで進む	0.12	0.54	-0.27
一つのことじじく取り組む	0.04	0.36	0.18
F3 意欲			
指導者の立場に立とうとする	0.06	-0.18	0.74
自分には他人にない優れたところがある	-0.11	0.34	0.58
いつも目標に向かってつき進む	0.07	0.26	0.46
いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	0.19	0.19	0.42
因子間相関	F1	1.00	
	F2	0.51	1.00
	F3	0.60	0.46
			1.00

3.2.2 性格行動特徴のクラスター分析

つづいて、これら 3 因子の尺度ごとに合計得点を求めて標準化し、ウォード法を用いた階層的クラスター分析を行って対象者を分類した。デンドログラムの視認に基づいてクラスター数を 3 とした。クラスター1 は 3 つの尺度得点がどれも高い群で、対象者の 14.2% (730 名) がこの群に属していた。クラスター2 は 3 つの尺度得点が平均的な群で、対象者の 70.6% (3,633 名) がこの群に属していた。クラスター3 は 3 つの尺度得点がどれも低い群で、対象者の 15.2% (782 名) がこの群に属していた。そこで、クラスター1 を積極型、クラスター2 を平均型、クラスター3 を消極型、と命名して性格行動特徴の類型とした。なお、平均型には男性の 72.0%と女性の 68.9%、消極型には男性の 13.8%と女性の 16.9%がそれぞれ属していた。また、若年層ほど消極型が多く、高年層ほど積極型が多かった。これらの性差と年代差はそれぞれ統計的に有意だったが、効果量は 0.04、0.07 といずれも小さいことから、以下の分析では性や年齢ごとの分析は行わないこととした。

3.2.3 性格行動特徴と「生きがいの有無」

生きがい保有率をクラスター間で比較したところ、統計的に有意な違いが認められた(図表 4-8)。すなわち、生きがいを「持っている」と回答した者の割合は積極型が最も多く(83.0%)、反対に、生きがいを「持っていない」とした者の割合は消極型が最も多かった(37.1%)。平均型の生きがい保有率は 54.3%で、積極型と消極型の間間的な値といえる。このことから、協調性、独自性、意欲、の少なくともいずれかの性格行動特徴を有することが、生きがいの保有に奏功することがわかる。生きがい感と性格行動特徴との関連を検討した先行研究(近藤・鎌田, 2004; 横溝・遠山, 2004)においては、外向性や開放性が高い人ほど、生きがいを保有したり生きがい感が高かったりする傾向が示されている。外向性は本研究の性格行動因子の「協調性」、開放性は「意欲」とそれぞれ類似した性格因子であるから、今回の結果は先行研究の結果を支持するものといえるだろう。

なお、消極型は、生きがいを「持っていない」という回答に次いで、自分が生きがいを保有しているか「わからない」という回答が多かった（29.2%）ことも指摘しておきたい。先に述べたように、20年にわたる「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の一連の結果は、現代において生きがいの意味が変容しつつあることを示唆している。このような過渡期的状況のなかで、消極型は、生きがいでなく、生きがいの意味自体を見失っているといえるかもしれない。

【図表 4-8】 性格行動特徴と生きがいの有無 (%)

	全体	積極型	平均型	消極型	p*
持っている	53.4	83.0	54.3	21.1	0.000
前は持っていたが、今は持っていない	11.0	8.0	11.2	12.7	
持っていない	15.9	3.0	13.9	37.1	
わからない	19.8	6.0	20.5	29.2	

*カイ二乗検定による性格行動特徴の類型間の比較。

3.2.4 性格行動特徴と「生きがいの意味」

性格行動特徴のタイプに関わらず、「生きる喜びや満足感」を生きがいの意味とする割合が45%前後で最も多く、選択率に統計的な有意差は認められなかった（図表 4-9）。また「生きる目標や目的」「生活のリズムやメリハリ」も、クラスター間で有意差がなかった。したがって、これらは性格行動特徴に影響されにくい生きがいの意味といえる。

選択率に統計的な有意差を認めた他の項目は、いずれも積極型を選択率が最も高く（あるいは最も低く）、消極型を選択率が最も低い（あるいは最も高い）傾向を示した（平均型は積極型と消極型の中間であった）。このことから、積極型は「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」「自分自身の向上」「人生観や価値観の形成」「他人や社会の役に立っていると感じること」に多く生きがいの意味を見出していることが明らかとなった。

「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」「自分自身の向上」「人生観や価値観の形成」は、柴田（2002）の生きがい概念のなかの「達成感」と、「他人や社会の役に立っていると感じること」は「役割意識」とそれぞれ関連する項目と思われることから、積極型にとっての生きがいは、達成感や役割意識をもたらす高い生産性（Kahn, 1983）を保証するものであると考えられる。

これに対して消極型は、他のタイプに比べて、「心の安らぎや気晴らし」や「生活の活力やほろよい」といった柴田（2002）のいう「QOL」の維持や向上に寄与するものに生きがいの意味を見出しているようである。3.1.2で、生きがいの意味が、生産性よりもQOLの維持を重視する方向に変化しつつあることを指摘したが、上記の結果に照らせば、我が国の中老年世代の性格行動類型は、積極型から消極型へと変容しつつあるのかもしれない。

〔図表 4-9〕 性格行動特徴と生きがいの意味 (%)

	全体	積極型	平均型	消極型	p*
生きる喜びや満足感	44.7	45.6	44.7	43.9	0.791
心の安らぎや気晴らし	30.2	19.3	31.2	35.6	0.000
生活の活力やはりあい	28.0	25.8	27.8	31.2	0.053
生きる目標や目的	18.6	19.6	18.2	19.3	0.570
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	17.2	24.5	17.2	10.4	0.000
自分自身の向上	12.9	18.5	12.8	8.1	0.000
人生観や価値観の形成	12.1	15.8	12.0	8.8	0.000
生活のリズムやメリハリ	11.6	9.9	11.8	12.5	0.235
他人や社会の役に立っていると感じる事	9.4	11.5	9.8	5.6	0.000
その他	0.6	0.3	0.5	1.2	0.077

*カイ二乗検定による性格行動特徴の類型間の比較(「その他」のみFisherの直説法による比較)。

3.2.5 性格行動特徴と「生きがいの対象」

「子ども・孫・親などの家族・家庭」と「自分自身の健康づくり」は性格行動特徴のタイプ間で選択率に統計的な有意差を認めなかった(図表 4-10)。したがってこれらは性格行動特徴に影響されにくい生きがいの対象といえる。特に「子ども・孫・親などの家族・家庭」の選択率(全体で 46.6%)は「趣味」(同 49.5%)と並んで高いことから、これは性格行動特徴に関わらず重要な生きがいの対象であるともいえるだろう。ストレス研究の領域においては、子や孫などの新しい家族の誕生、あるいは、親との死別が、心身の健康に大きな影響を及ぼすライフイベントであることが指摘されている(福川, 2007)。本研究の結果は、このようなライフイベント体験が健康に影響を及ぼすメカニズムについて、生きがい対象の獲得や喪失といった観点から考察可能であることを示唆するものである。

クラスター間で選択率に有意差を認めた他の項目に関しては、おおむね積極型の選択率が最も高く(あるいは最も低く)、消極型の選択率が最も低い(あるいは最も高い)ことが示された(平均型は積極型と消極型の中間であった)⁴。この傾向は、上述の「生きがいの意味」と同様であったことから、性格行動特徴と生きがいの意味や対象との間には、強く一貫した関係のあることが推察される。積極型は、「趣味」「配偶者・結婚生活」「仕事」「友人など家族以外の人との交流」「自分自身の内面の充実」「スポーツ」「社会活動」「学習活動」と、ほとんどの項目で他のクラスターよりも選択率が高かった。これに対して消極型は、「ひとりで気ままに過ごすこと」のみが、他のクラスターよりも高い選択率を示した。これらのことから、積極型の性格行動特徴を有することが、人生の様々な場面で生きがいを見出しやすくしていると推察される。蟹江(1990)による企業従業員を対象とした調査によれば、情緒が安定した積極的なタイプ(Director型)は「仕事」「家庭」「余暇」のいずれの生活場面でも生きがいを感じていたが、情緒不安定で消極的なタイプ(Eccentric型)は、「家庭」のみに重点的に生きがいを感じていた。これらD型とE型の性格類型は、それぞれ本研究の積極型と消極型の性格行動特徴の類型に対応していると考えられることから、研究間で結果の整合性が認められたといえるだろう。

⁴ 例外的に平均型の選択率が最も高かったのが「自然とのふれあい」である。「自然とのふれあい」には、釣り、山登り、散歩、庭いじりなど、さまざまな活動が含まれることが原因であるかもしれない。

〔図表 4-10〕 性格行動特徴と生きがいの対象 (%)

	全体	積極型	平均型	消極型	p*
趣味	49.5	54.7	50.5	39.5	0.000
子ども・孫・親などの家族・家庭	46.6	46.4	47.3	43.4	0.130
配偶者・結婚生活	26.9	28.0	27.5	23.2	0.036
仕事	18.8	27.5	19.0	9.9	0.000
ひとりで気ままに過ごすこと	16.9	10.1	15.9	27.5	0.000
友人など家族以外の人との交流	16.0	18.8	16.3	11.9	0.001
自分自身の内面の充実	14.2	19.6	13.6	11.9	0.000
自然とのふれあい	13.5	11.9	14.4	10.6	0.007
スポーツ	12.8	14.7	13.5	7.8	0.000
自分自身の健康づくり	12.0	13.7	12.0	10.1	0.097
社会活動(ボランティア含む)	5.6	9.5	5.7	1.7	0.000
学習活動	3.6	7.1	3.3	1.8	0.000
その他	2.0	1.5	1.6	4.4	0.000

*カイニ乗検定による性格行動特徴の類型間の比較。

4 展望

本研究では、はじめに性や年齢という基本属性と生きがいとの関連を検討した。その結果、我が国では生きがい保有率が低下傾向にあること、特に、中年世代の生きがい保有率が低いことなどが明らかとなった。これらの知見はそれぞれ、日本人の生きがいについて論じるうえで、今後、我々が配慮すべき点を示していると思われる。

まず、生きがい保有率の低下については、これが他の国と共有される世界的な傾向であるかについて検証する必要がある。これまで、生きがいは日本人特有の感情や価値観を含む概念であることが強調されてきた（例えば、神谷, 1980）。しかしながら近年、比較文化的概念としての生きがいについて海外から指摘されたり（e.g., Mathews, 1996）、入念なインタビューにより生きがい概念の説明を行ったうえで、アジアや欧米の国民の生きがいを明らかにする研究も行われたりしている（森・江上・和田・黒岩・野呂・高橋, 2001）。このような試みをさらに行うことで、日本人の生きがい保有率低下の状況把握や要因の解明がすすむと思われる。

次に、中年世代の生きがい保有率が低い点であるが、学術データベースで検索すると、我が国の生きがいに関する実証研究のほとんどが高齢者を対象としたものであること分かる。しかしながら本研究では、サラリーマンシニア世代（35~44歳）の対象者のうち、男女とも1割程度が生きがいを「前は持っていたが、今は持っていない」と回答していた。このことは、生きがいの獲得（や喪失）が、老年期に至る前にも生じる可能性を示唆するものであろう。実際、近藤（1998）は、生きがい概念は自我の確立する青年期から成立する概念であることを指摘し、大学生を対象に調査を行っている。この結果、「現状満足感」「人生享楽」「存在価値」「意欲」の4つの生きがい因子が見出された。「現状満足感」と「人生享楽」はQOL、「存在価値」は役割意識、「意欲」は達成感とそれぞれ対応していると考えれば、青年期も中高年期と同様の生きがい構造を有しているといえるかもしれない。同一の尺度を用いて、幅広い年齢層を対象とした調査研究を行うことは、生涯発達の観点からも有用な試みとなる。

本研究では、性格行動特徴と生きがいの関連についても検討した。この結果、「協調性」「独自性」「意欲」という性格行動特徴が、概して、生きがい保有率を高めたり、生きがいの意味や対象を多様化したりする可能性が示された。したがって、これらの性格行動特徴を有していない消極型に対して、生きがいの獲得や喪失予防という観点から有用なアプローチを考案することが課題といえるかもしれない。例えば、生きがいの保有には、本研究で検討した性別・年齢や性格行動特徴だけでなく、家族構成、学歴、健康など様々な要因が影響を与えることが指摘されている（柴崎・青木, 2011）。そこで、これらの要因の操作に重点を置いた介入を行うことが一つの方略であろう。反対に、忌避すべきことは、たんに積極型を称揚し、これを見習えと指導するような方略である。性格行動特徴は、その人の個性を最も代表する側面であるから、これを安易に否定するようなアプローチは、生きがいというこれも極めて重要な個性を侵害することになるだろう。

なお、本研究では、生きがいの下位概念のうち、積極型が生産的側面を重視するのに対して、消極型は QOL の維持や向上といった側面を重視する可能性が示された。この点を踏まえると、これまで述べてきた結果は、「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の質問項目が、積極型にあてはまりやすい（すなわち生産性に関連する）ものが多い点に影響を受けている可能性がある。実際、これまで述べなかったが、生きがいの意味（最大 2 つを選択）や生きがいの対象（最大 3 つを選択）に関して、消極型が最大数を挙げる割合は、積極型よりも統計的に有意に少なかった。これまでの 5 回の調査で、生きがいの意味が QOL を重視する方向に変化しつつあることを考えると、消極型にもあてはまりやすい（QOL 関連の）項目を選択肢にバランスよく入れる工夫を行うことが、日本人の生きがいを正しく把握するためには必要かもしれない。

参考文献

- Baltes, P. B., Reese, H. W., & Lipsitt, L. P. (1980) "Life-Span Developmental Psychology", *Annual Review of Psychology*, 31: pp.65-110.
- ——— & Smith, J. (2002) "New Frontiers in the Future of Aging: From Successful Aging of the Young Old to the Dilemmas of the Fourth Age", *Gerontology*, 49: pp.123-135.
- Erikson, E. H. (1959) *Identity and the Life Cycle*, New York: Norton.
- 福川康之 (2007) 『老化とストレスの心理学』弘文堂.
- Kahn, R. L. (1983) "Productive Behavior: Assessment, Determinants, and Effects", *Journal of the American Geriatrics Society*, 31: pp.750-757.
- 神谷美恵子 (1980) 『生きがいについて』みすず書房.

- 蟹江清志 (1990) 「企業従業員の『生きがい』意識と『性格特性』との関連について」『日本経営工学会誌』 40(6): pp.427-433.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2012) 『日本の将来推計人口』 概要報告書.
- 近藤勉・鎌田次郎 (1998) 「現代大学生の生きがい感とスケール作成」『健康心理学研究』 11(1): pp.73-82.
- ———・———— (2004) 「高齢者の生きがい感に影響する性別と年代からみた要因——都市の老人福祉センター高齢者を対象として」『老年精神医学雑誌』 15: pp.1281-1290.
- 厚生労働省 (2011) 『平成 22 年簡易生命表の概況』.
- 熊谷幸恵・森岡郁晴・吉益光一・富田容枝・宮井信行・宮下和久 (2008) 「主観的な精神健康度と身体健康度, 社会生活満足度および生きがい度との関連性——性およびライフステージによる検討」『日本衛生学雑誌』 63(3): pp.636-641.
- Mathews, G. (1996) *What Makes Life Worth Living? : How Japanese and Americans Make Sense of Their Worlds*, Berkeley: University of California Press.
- 森俊太・江上渉・和田修一・黒岩亮子・野呂芳明・高橋勇悦 (2001) 「生きがいをめぐる諸外国の事情」高橋勇悦・和田修一編『生きがいの社会学——高齢社会における幸福とは何か』弘文堂, pp.160-214.
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構 (2007) 『第 4 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- 柴崎幸子・青木邦男 (2011) 「高齢者の生きがいに関する文献的研究」『山口県立大学学術情報』 4: pp.121-130.
- 柴田博 (2002) 「サクセスフル・エイジングの条件」『日本老年医学会雑誌』 39(2): pp.152-154.
- 財団法人シニアプラン開発機構 (現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構) (1992) 『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ——— (1997) 『第 2 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ——— (2002) 『第 3 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- 矢野喜夫 (1995) 「発達概念の再検討」無藤 隆・やまだようこ編『講座生涯発達心理学 1——生涯発達心理学とは何か』金子書房, pp.37-56.
- 横溝輝美・遠山尚考 (2004) 「高齢者のパーソナリティ・パターンと生きがいとの関係について」『心身医学』 44(3): p.236.

第5章 社会参加の効果と関連要因

1 はじめに

近年、社会参加への要請が高まり、またそれを受けて社会参加に対する関心が高まっている。社会参加は、生きがいや生活の満足度への好影響が認められているが、参加者の劇的な増加には至っていない。

そこで本報告では、生きがいと生活の満足度への社会参加の効果及び社会参加の現状を確認し、社会参加への関連要因を考えたい。

また、本報告では高齢者の社会参加についても焦点を当てる。高齢期は職業生活から引退し、社会とのつながりが希薄になりやすい年代である。社会参加は生きがいや生活の満足度に好影響を与えることから、高齢者の社会参加を促進することは、高齢者の QOL を高めることに寄与すると考えるからである。本報告では、高齢期の社会参加の状況を明らかにし、社会参加を促す方法についても探りたい。

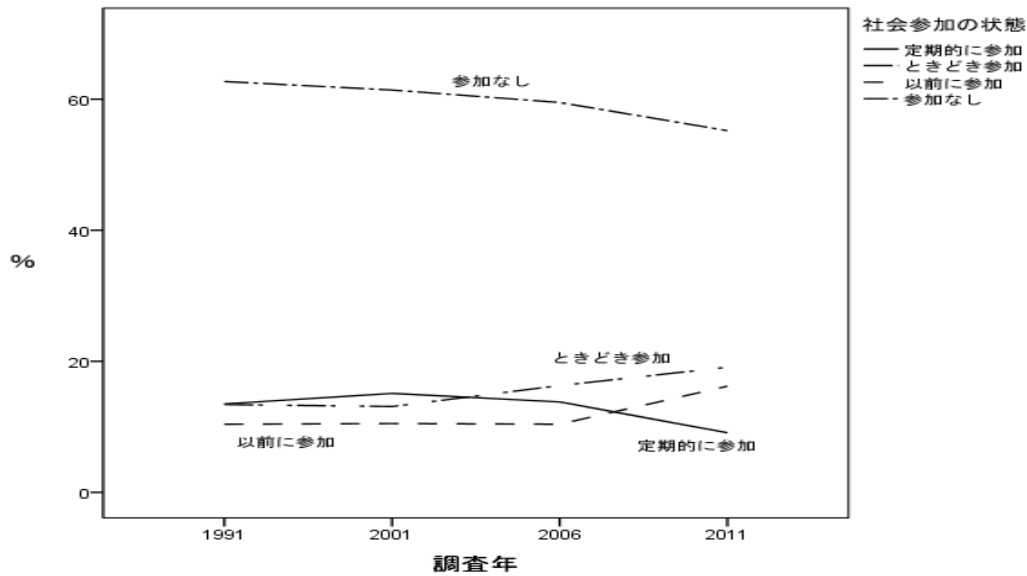
ところで、「社会参加」という言葉は、さまざまな意味で使われている。地方自治体などが主催する生涯学習・レクリエーションの講座に参加する場合やボランティア活動などの無償性の労働を提供する場合などである。本報告では、受動的な活動を含まず無償性の労働を提供するボランティア活動的な行為を社会参加と呼ぶことにする。

2 社会参加状況の推移

2.1 社会参加の形態の変化

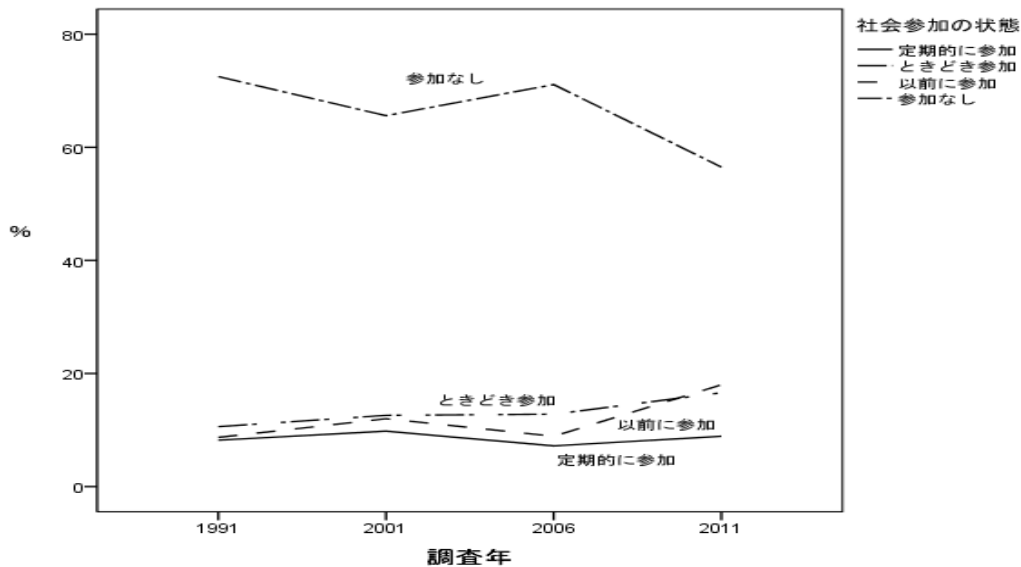
社会参加の「定期的に参加」「ときどき参加」「以前に参加」「参加なし」の4つの形態について、これまでの本調査における推移を男女別にみると、〔図表 5-1〕及び〔図表 5-2〕のようになる（第2回調査では社会参加関係調査は行われていないので省略する）。

〔図表 5-1〕 男性の社会参加の推移



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

〔図表 5-2〕 女性の社会参加の推移



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

参加者の増減状況を見るため、「定期的に参加」と「ときどき参加」を社会参加あり群に、「以前に参加」と「参加なし」を社会参加なし群として、調査時点での社会参加なし群の推移をみた。1991年（第1回調査）、2001年（第3回調査）、2006年（第4回調査）、2011年（第5回調査）の順に、男性では73.1%、71.9%、69.9%、71.4%となっており、社会参加

なし群はわずかに減少傾向にある。女性では 81.2%、77.6%、80.0%、74.5%となっており、減少傾向にある。すなわち、男女とも社会参加率は増加傾向にある。

この社会参加なし群のうち「以前に参加」は、今回調査（2011年）では、男女ともそれまでよりやや急激な増加を示している。

社会参加あり群（「定期的に参加」及び「ときどき参加」）のうち「ときどき参加」は、男女とも年々増加しているが、その傾向は男性の方が顕著である。また男性は、「定期的に参加」が減少傾向にある。

社会参加あり群の上昇傾向は、参加の仕方の「ときどき参加」の増加によるところが大きいと思われる。

2.2 活動分野の推移

社会参加の男女別活動分野の推移は、〔図表 5-3〕のとおりである。

〔図表 5-3〕 男女別活動分野の推移（多重回答）

(%)

調査年	性別	地域の生活環境保護	地域のイベントや“村おこし”	趣味・スポーツ、学習グループのリーダー	児童・青少年活動の世話役	地域の文化財等保護	消費者活動等	社会福祉活動	行政の委員等	自然保護・環境保全	国際交流活動	その他	合計
1991	男性	25.1	14.5	20.2	10.7	5.5	2.6	7.2		7.5	3.5	3.2	100.0
	女性	28.1	10.3	22.6	6.2	1.4	6.2	11.6		6.2	4.1	3.3	100.0
2001	男性	23.3	17.2	17.8	6.9	5.0	1.3	4.9	7.5	8.0	3.5	4.6	100.0
	女性	20.1	18.1	17.3	5.6	2.4	4.8	12.4	2.4	5.2	5.2	6.5	100.0
2006	男性	26.1	17.6	14.8	8.4	6.5	1.1	7.2	4.7	5.2	1.1	7.3	100.0
	女性	24.0	18.0	11.3	12.7	3.3	2.7	9.3	4.0	7.3	1.3	6.1	100.0
2011	男性	25.8	19.2	11.5	8.7	7.0	3.6	5.5	3.7	8.2	3.7	3.1	100.0
	女性	23.8	17.0	10.6	11.2	4.2	4.1	10.4	2.8	6.4	3.9	5.6	100.0

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

男女とも第1位は「地域の生活環境を守る活動」で、これは第2位以下を大きく引き離している。第2位から第4位までをみると、男女とも「地域のイベントや“村おこし”の活動」「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」「児童・青少年活動の世話役としての活動」が挙げられている。しかし、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は女性で上位（1991年では第3位、2001年では第4位）に、「自然保護や環境保全の活動」は男性で上位（2001年で第4位）に挙げられており、性差が見られる。

2.3 社会参加理由の推移

社会参加あり群の男女別社会参加理由の推移は、〔図表 5-4〕 のとおりである。

〔図表 5-4〕 男女別社会参加理由の推移（多重回答）

(%)

調査年	性別	地域・社会への貢献	知識・経験の活用	社会の見聞を広げたい	友人を増やしたい	生活のほりあい	身近な人に誘われた	会社の勤めや命令	社会人として当然	何となく	その他	合計
1991	男性	24.7	15.6	8.9	11.4	9.8	8.3	2.4	17.0	0.4	1.5	100.0
	女性	23.5	12.4	11.5	14.2	15.0	9.7	0.9	12.4	0.4	0.0	100.0
2001	男性	29.0	13.3	6.7	15.0	9.4	8.0	3.0	12.8	0.6	2.2	100.0
	女性	20.9	15.0	10.3	15.9	14.0	7.2	2.5	10.6	0.0	3.6	100.0
2006	男性	28.8	11.4	6.6	10.7	10.2	11.3	2.8	12.9	0.6	4.7	100.0
	女性	26.5	8.8	8.8	13.3	12.7	13.3	1.1	8.3	0.6	6.6	100.0
2011	男性	27.9	13.1	8.0	12.5	8.6	10.1	1.3	12.9	4.2	1.4	100.0
	女性	24.3	14.7	8.7	11.1	11.3	11.5	1.1	10.2	4.5	2.6	100.0

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

男女とも第1位は「地域や社会に貢献したい」で、第2位以下を大きく引き離している。第2位から第4位までをみると、男女とも「友人や仲間を増やしたい」「自分の知識や経験を活かしたい」「社会人として当然と思った」「身近な人に誘われた」が挙がっている。

一方、「生活のほりあい」は女性で上位（1991年では第2位、2001年、2006年、2011年では第4位）に挙がっており、ここでも性差が見られる。

2.4 不参加理由の推移

社会参加なし群の男女別不参加理由の推移は〔図表 5-5〕 のとおりである。

〔図表 5-5〕 男女別不参加理由の推移（多重回答）

(%)

調査年	性別	時間がない	経済的余裕がない	精神的ゆとりがない	健康に自信がない	家族など理解がない	自分にあつた活動の場がない	仲間がない	きっかけがつかめない	興味・関心がない	その他	合計
1991	男性	23.6	5.6	9.1	5.6	0.5	15.1	7.2	20.5	11.0	1.8	100.0
	女性	29.8	4.7	9.1	9.5	1.7	11.9	6.4	18.9	6.5	1.5	100.0
2001	男性	31.2	4.5	10.4	4.6	0.6	11.0	5.7	21.1	7.5	3.4	100.0
	女性	32.4	5.9	12.5	9.1	0.6	8.4	5.3	19.8	2.7	3.3	100.0
2006	男性	21.0	5.4	11.1	4.8	0.9	11.9	7.5	22.6	12.7	2.1	100.0
	女性	25.5	4.8	17.0	7.9	0.8	7.9	5.0	20.5	8.4	2.2	100.0
2011	男性	14.8	9.2	13.4	8.1	1.1	14.6	8.5	16.5	13.1	0.7	100.0
	女性	13.2	8.9	14.7	13.1	1.5	12.2	8.4	16.6	10.2	1.2	100.0

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

1991年から2006年まででは、男女とも第1位が概ね「時間がない」第2位が「何から始めるか、きっかけがつかめない」である。これらと差をあげ、第3位と第4位に「自分にあつた活動の場がない」「精神的なゆとりがない」「興味がない、関心がない」が挙がっている。

2011年では、男女とも第1位が「何から始めるか、きっかけがつかめない」で、「時間がない」は、男性は第2位、女性は第3位で、下位順位との差は大きくない。

1991年から2006年までと2011年で「時間がない」の順位が変わったのは、調査方法の違いが考えられる。2011年調査はインターネットを利用した調査であるが、インターネットに取り組む活動は、「食べる」や「入浴」などの日常生活で繰り返される基本的な活動やそれを支える家事など以外の活動であることから、趣味的な活動と認識されているかもしれない。そのため、「時間がない」と認識しにくかったのではないかと思われる。

2.5 社会参加と生きがい

これまでの調査報告より、社会活動に参加している人ほど生きがいを持っている傾向があることが判明している。今回（2011年）調査の実際の割合でもその傾向が認められた。社会参加の形態別に生きがいの有無の構成比の偏りを調べるため χ^2 検定を行ったところ、〔図表5-6〕に示した結果が得られた（ $\chi^2(1)=320.6$, $p<0.05$ ）。

〔図表 5-6〕 社会参加の状態による生きがいの有無

N=5145

社会参加の状態		生きがいの有無				合計
		持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	
定期的に参加	割合(%)	78.5	5.8	5.6	10.1	100.0
	標準化残差	7.4	-3.4	-5.6	-4.7	
ときどき参加	割合(%)	66.0	9.6	8.6	15.8	100.0
	標準化残差	5.3	-1.2	-5.6	-2.8	
以前に参加	割合(%)	53.9	16.0	12.1	18.0	100.0
	標準化残差	0.2	4.5	-2.8	-1.2	
参加していない	割合(%)	45.0	10.7	21.1	23.2	100.0
	標準化残差	-6.1	-0.4	7	4.1	

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

標準化残差をみたところ、社会参加あり群は、統計的に予測される数値よりも有意に生きがいを「持っている」が多く、社会参加なし群のうち「社会参加なし」では、有意に生きがいを「持っていない」が多いという特徴が見られた。また社会参加なし群のうち「以前に参加」では有意に「前は持っていたが、今は持っていない」が多いという特徴が見られた。

これらから、今回調査においても社会活動に参加している人ほど生きがいを持っていることが明らかになった。

2.6 社会参加と生活満足度

前回調査報告で、社会活動に参加している人ほど生活に関する満足度が高い傾向があるこ

とが明らかになった。今回（2011年）調査においても同様の結果が得られるかどうかを確認するため、社会参加と生活満足度の関連性について分析を行った。

生活に関する満足度に関する質問は、「精神的ゆとり」「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」「家族の理解・愛情」「健康」「住まいのこと」「熱中できる趣味」「近隣との交流」「社会の役に立つこと」「自然とのふれあい」「友人・仲間」「社会的地位」「仕事のほりあい」の13項目である。それぞれについて、満足の程度を5件法で尋ねた。

これらの質問について、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行ったところ、3つの因子が抽出できた（図表5-7）。第1因子は「精神的ゆとり」「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」「家族の理解・愛情」「健康」「住まいのこと」「熱中できる趣味」に高い負荷量を示しており、第2因子は「近隣との交流」「社会の役に立つこと」「自然とのふれあい」「友人・仲間」に、第3因子は「社会的地位」「仕事のほりあい」に高い負荷量を示していた。それぞれの項目に共通する要素を考え、第1因子を「家庭生活の満足度」、第2因子を「私的社會関係満足度」、第3因子を「公的社會関係満足度」と命名した。

それぞれの尺度変数における因子間の一貫性をみる（クロンバックの α 係数）と、第1因子の尺度（家庭生活の満足度）は0.81、第2因子の尺度（私的社會関係満足度）は0.73、第3因子の尺度（公的社會関係満足度）は0.80で、一貫性が認められた。

次に、それぞれの尺度変数について尺度得点を算出した。算出方法は次のとおりである。ただし、質問では満足度が高いほど得点が低いので、得点を逆転させて、満足度が高いほど高い得点にした。

〔図表5-7〕生活に関する満足度の因子パターン

生活の満足度項目	因子		
	1	2	3
精神的ゆとり	0.87	-0.03	0.00
時間的ゆとり	0.77	-0.08	-0.25
経済的ゆとり	0.68	-0.12	0.17
家族の理解・愛情	0.50	0.09	0.02
健康	0.45	0.01	0.08
住まいのこと	0.42	0.21	0.05
熱中できる趣味	0.34	0.17	0.12
近隣との交流	-0.06	0.95	-0.12
社会の役に立つこと	-0.10	0.62	0.27
自然とのふれあい	0.21	0.54	-0.05
友人・仲間	0.29	0.31	0.13
社会的地位	0.03	-0.03	0.84
仕事のほりあい	-0.04	-0.01	0.82

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」（2011）より筆者作成。

家庭生活の満足度：(精神的ゆとり＋時間的ゆとり＋経済的ゆとり＋家族の理解・愛情＋健康＋住まいのこと＋熱中できる趣味) /7
 私的社会的関係満足度：(近隣との交流＋社会の役に立つこと＋自然とのふれあい＋友人・仲間) /4
 公的社会的関係満足度：(社会的地位＋仕事のほりあい) /2

さらに、社会参加の形態による生活の満足度を比較するため、それぞれの満足度尺度について分散分析を行った (N=5145)。その結果、家庭生活の満足度では $F(3,5141) = 63.27, p < 0.05$ 、私的社会的関係満足度では $F(3,5141) = 305.59, p < 0.05$ 、公的社会的関係満足度では $F(3,5141) = 59.89, p < 0.05$ となり、社会参加形態の主効果が認められた (図表 5-8、図表 5-9、図表 5-10)。そのため HDS 法による多重比較を行った結果それぞれの満足度において

定期的に参加 > ときどき参加 > 以前に参加 > 参加していない

の順位で、順位間それぞれで有意差が認められた。

【図表 5-8】 家庭生活の満足度

社会参加の状態	平均値	標準偏差	F
定期的に参加	3.74	0.64	63.27*
ときどき参加	3.52	0.62	
以前に参加	3.38	0.62	
参加していない	3.30	0.69	

N=465~2871

*p<0.05

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

【図表 5-9】 私的社会的関係の満足度

社会参加の状態	平均値	標準偏差	F
定期的に参加	3.66	0.60	305.59*
ときどき参加	3.44	0.58	
以前に参加	3.10	0.65	
参加していない	2.88	0.69	

N=465~2871

*p<0.05

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

【図表 5-10】 公的社会関係の満足度

社会参加の状態	平均値	標準偏差	F
定期的に参加	3.29	0.86	59.89*
ときどき参加	3.11	0.82	
以前に参加	3.00	0.91	
参加していない	2.79	0.91	

N=465~2871

*p<0.05

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」（2011）より筆者作成。

したがって、今回調査においても社会参加をしている人ほど生活の満足を感じていることが明らかになった。また、参加の仕方は、定期的に参加している人ほど満足度が高いことが明らかになった。

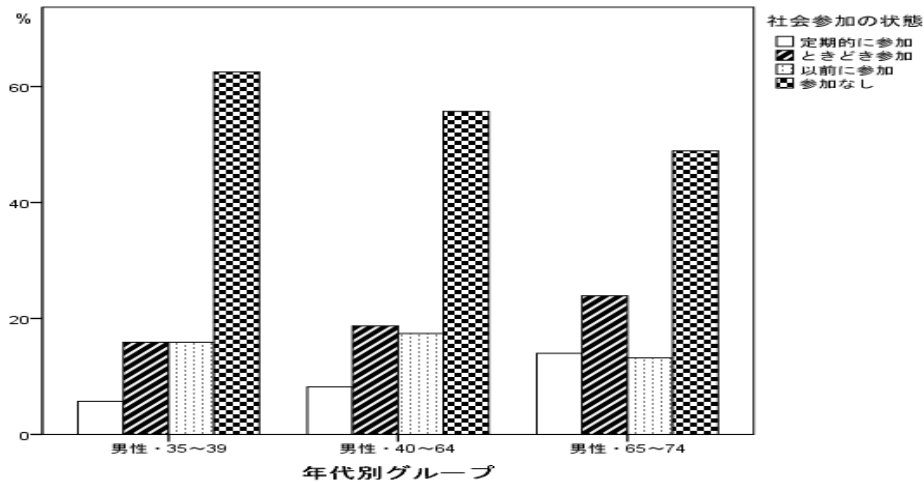
3 性別・年代別の社会参加状況 — 今回の調査結果 —

3.1 性別・年齢別の社会参加の状況

社会参加あり群（「定期的に参加」及び「ときどき参加」）について、性別・年齢別に参加者割合を調べたところ、年齢に応じて社会参加率が上昇するのではなく、いくつかの山が見られた。そのため、5歳毎の年齢階層別・性別でグループ分けし、参加あり群の「定期的に参加」と「ときどき参加」及び「参加なし群」について χ^2 検定を行った。その結果、有意差が見られた（ $\chi^2(30) = 156.93, p < 0.05$ ）。標準化残差を調べたところ、男性では35~39歳のグループで「定期的に参加」が-2.3と有意に低く、65~69歳、70~74歳のグループでは2.1、3.9と有意に高かった。70~74歳のグループでは「ときどき参加」も3.1と有意に高かった。すなわち、統計的に予測される数値よりも、35~39歳のグループでは「定期的に参加」が少なく、65~69歳、70~74歳のグループでは「定期的に参加」が、加えて70~74歳のグループでは「ときどき参加」も多いという偏りがみられた。

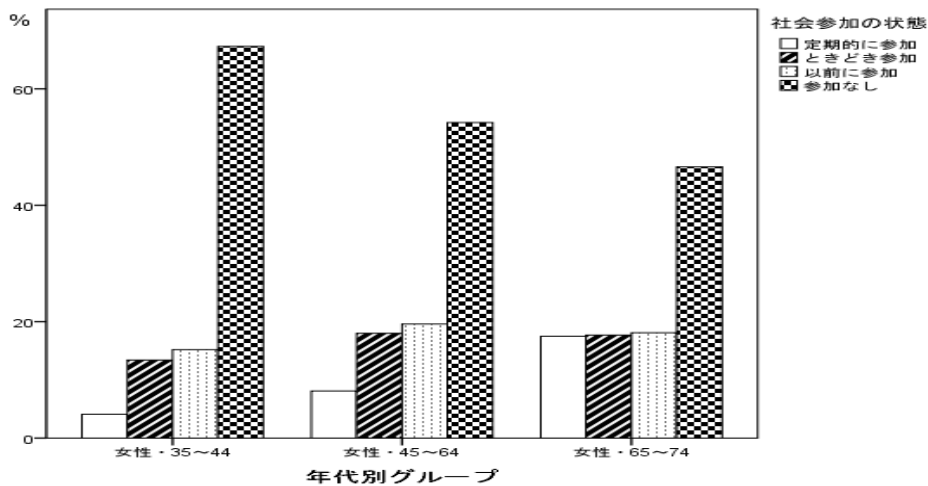
女性の標準化残差では35~39歳、40~44歳のグループで「定期的に参加」が-3.8、-2.3と有意に低く（35~39歳のグループでは「ときどき参加」も-2.9と有意に低い）、65~69歳、70~74歳のグループでは5.6、3.3と有意に高かった。すなわち、統計的に予測される数値よりも、35~44歳のグループでは「定期的に参加」が少なく、加えて35~39歳のグループでは「ときどき参加」も少なく、65~69歳、70~74歳のグループでは「定期的に参加」が多いという、偏りがみられた。

〔図表 5-11〕 男性・年代別社会参加の状態



出典:財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

〔図表 5-12〕 女性・年代別社会参加の状態



出典:財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

社会参加の形態は、男女別、また年代別に特徴があると認められる。そのため、男性を35～39歳、40～64歳、65～74歳の年代別グループに、女性を35～44歳、45～64歳、65～74歳の年代別グループに分類し、それぞれの社会参加の形態を見た(図表5-11、図表5-12)ところ、男女及び年代によって「定期的に参加」や「ときどき参加」など、社会参加の形態が異なることが明らかになった。

3.2 性別・年齢階層別の活動分野

社会参加あり群について、性別・年齢階層別に活動分野の状況を見た(単一回答:選択肢は〔図表5-3〕参照)ところ、「地域の生活環境を守る活動」は、性・年齢階層にかかわらず

概ね1位であった。しかし、40～49歳女性では「児童・青少年活動の世話役としての活動」が、55～59歳女性では「地域のイベントや“村おこし”の活動」が第1位であった。「地域のイベントや“村おこし”の活動」及び「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」は、概ね性・年齢階層に関わらず2～4位であった。

3.3 性別・年齢階層別の社会活動参加理由

社会参加あり群について、性・年齢階層別に社会参加の参加理由を調べた（単一回答：選択肢は〔図表5-4〕参照）ところ、「地域や社会に貢献したい」が性・年齢階層にかかわらず第1位で、第2位以下を大きく引き離していた。「自分の知識や経験を活かしたい」「身近な人に誘われた」「社会人として当然と思った」は性・年齢階層に関わらず概ね第2～4位であった。概ね次に続くのが「友人や仲間を増やしたい」である。特徴的なものでは、65～69歳女性で「生活のはりあい」が第3位に挙がっている。

3.4 性別・年齢階層別のやりがいある活動団体

社会参加あり群について、性・年齢階層別にやりがいある活動団体を調べた（単一回答：選択肢は「行政機関」「社会福祉協議会」「町内会・自治会」「老人クラブ」「地域の住民によるボランティア団体」「民間施設・機関のボランティア団体」「NPO法人」「当事者団体」など）。「町内会・自治会」が性・年齢階層にかかわらず概ね第1位で、「個人または個人の集まり」がそれに次いでいる。ただし、45～49歳女性では、この「個人または個人の集まり」が第1位である。特にこの年齢層以下の女性では第1位に迫っている。次いで、男性では概ね「地域住民によるボランティア団体」が、女性では「公的施設・機関のボランティア」が多かった。

3.5 性別・年齢階層別のやりがいある団体の選択理由

社会参加あり群について、性・年齢階層別に活動団体の選択理由を調べた（単一回答：選択肢は「活動の運営主体」「活動の内容」「活動団体の歴史」「活動団体の評判」「活動団体内の対等な人間関係」「自宅と活動地域との距離」など）。「活動の内容」が性・年齢階層にかかわらず第1位で、第2位の「自宅と活動地域との距離」を大きく引き離している。また、第2位の「自宅と活動地域との距離」は第3位以下を引き離している。「運営主体」と「活動団体内の平等な人間関係」は第3～4位であった。

4 高齢者の社会参加の状況

4.1 高齢者とは

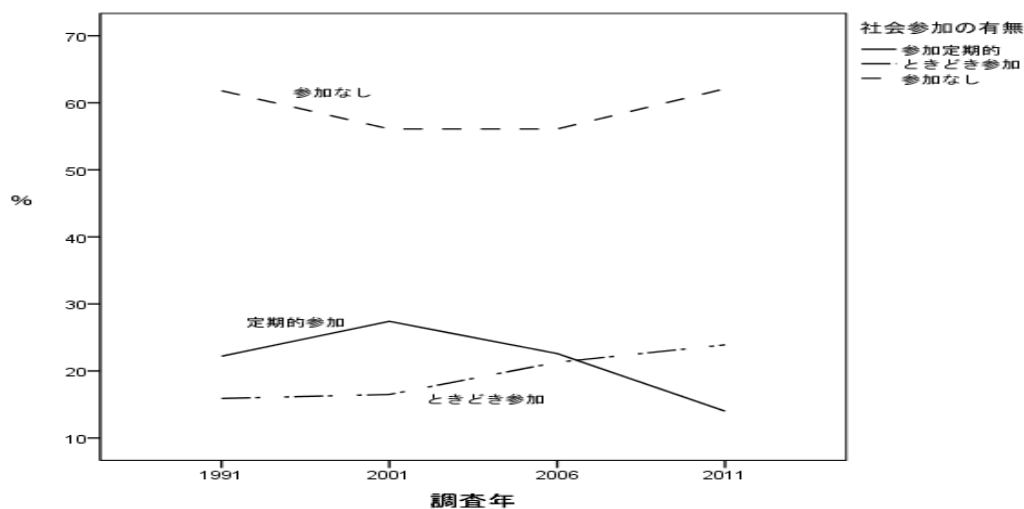
社会参加の有無における今回調査で、統計的な偏りが見られた65歳以上の者を高齢者とし、高齢者の社会参加に関する実態及び意識を見ていくこととする。

なお、高齢者の定義については、国連の世界保健機構（WHO）では、65歳以上の者を高齢者とし、わが国も概ねそれに倣っている。

4.2 社会参加率の推移

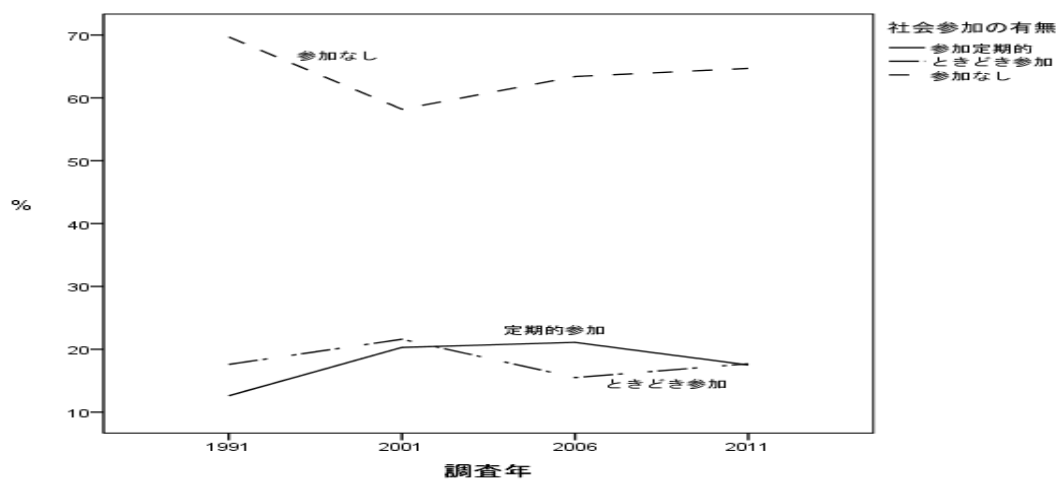
男女とも「参加なし」が2001年には減少したものの、それ以降は増加傾向にある（図表5-13、図表5-14）。反対に「定期的に参加」は近年減少傾向にある。男性では2001年以降「ときどき参加」が増加傾向にあり、2011年には「定期的に参加」を追い抜き、差をあげた。

〔図表 5-13〕 男性高齢者の社会参加率の変化



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

〔図表 5-14〕 女性高齢者の社会参加率の変化



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」第1回（1991）、第3～5回（2001、2006、2011）より筆者作成。

4.3 社会参加の活動分野の状況

4.3.1 性別活動分野と社会参加の仕方

社会参加あり群の「定期的に参加」「ときどき参加」と活動分野の関係を見るため、男女別に「定期的に参加」「ときどき参加」と活動分野について χ^2 検定を行ったところ、〔図表 5-15〕に示した結果が得られた（男性： $\chi^2(10)=29.47$, $p<0.05$ 、女性： $\chi^2(10)=29.01$, $p<0.05$ ）。標準化残差をみたところ、概ね活動内容による参加の仕方の差異はないと認められるが、男性の「行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動」については定期性が強く、「地域の生活環境を守る活動」は定期性が弱い傾向がみられた。

〔図表 5-15〕 活動分野と社会参加の状況

N=419

性別・参加の状態 標準化残差	地域の生活環境 保護	地域のイベントや “村おこし”	趣味・スポーツ、学習グループのリーダー	児童・青少年活動の世話役	地域の文化財等保護	消費者活動等	福祉活動	行政の委員等	自然保護・環境保全	国際交流活動	その他	合計
男・定期的に参加(%)	23.3	10.0	18.9	6.7	1.1	1.1	10.0	13.3	6.7	2.2	6.7	100.0
標準化残差	-2	-1.3	0.5	1.5	-0.4	-0.4	1.5	2.7	0.7	0.4	0.0	
男・ときどき参加(%)	42.9	18.2	15.6	1.9	1.9	1.9	3.9	1.9	3.9	1.3	6.5	100.0
標準化残差	1.5	1.0	-0.4	-1.1	0.3	0.3	-1.1	-2.1	-0.6	-0.3	0.0	
女・定期的に参加(%)	17.2	5.7	18.4	4.6	1.1	4.6	18.4	9.2	3.4	1.1	16.1	100.0
標準化残差	-0.8	-1.7	0.6	1.0	-1.6	0.0	0.9	1.4	0.0	-1.3	1.7	
女・ときどき参加(%)	25.0	18.2	13.6	1.1	9.1	4.5	11.4	2.3	3.4	6.8	4.5	100.0
標準化残差	0.8	1.7	-0.6	-1	1.6	0	-0.9	-1.4	0	1.3	-1.7	

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

また、有意ではないが「地域の生活環境を守る活動」や「地域のイベントや“村おこし”の活動」などの地域での活動は、「定期的な参加」よりも「ときどき参加」が多かった。

4.3.2 活動分野とやりがいの感じる活動団体

どんな活動をどんな団体で行っているのかを見たのが、〔図表 5-16〕である。地域の行事は町内会や自治会で行うことが多いが、その他「地域住民によるボランティア団体」や「個人または個人の集まり」でも行われている。

「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」は、男性では第1位が「個人または個人の集まり」である。その他「個人または個人の集まり」ではさまざまな分野の活動が行われている。

「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は、男性では第1位が「町内会、自治会」と「社会福祉協議会」であるが、女性では「社会福祉協議会」で、「町内会、自治会」はなかった。活動分野によって、男女で行う場が異なることがうかがえる。

〔図表 5-16〕 活動分野と活動団体

N=419 (%)

性別	活動分野	行政機関	社会福祉協議会	町内会・自治会	老人クラブ	公的施設のボランティア団体	地域住民のボランティア団体	民間施設のボランティア団体	NPO法人	当事者団体	個人または個人の集まり	その他	合計
男	地域の生活環境保護	3.4	0.0	66.7	2.3	1.1	8.0	0.0	1.1	2.3	13.8	1.1	100.0
	地域のイベントや“村おこし”	0.0	2.7	67.6	0.0	0.0	10.8	2.7	2.7	2.7	8.1	2.7	100.0
	趣味・スポーツ、学習グループのリーダー	2.4	2.4	12.2	4.9	9.8	17.1	2.4	7.3	9.8	31.7	0.0	100.0
	児童・青少年活動の世話役	0.0	0.0	33.3	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	100.0
	地域の文化財等保護	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0
	消費者活動等	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	100.0
	福祉活動	0.0	20.0	20.0	13.3	6.7	6.7	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	100.0
	行政の委員等	60.0	6.7	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	100.0
	自然保護・環境保全	16.7	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0	25.0	8.3	0.0	16.7	100.0
	国際交流活動	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	0.0	0.0	18.8	6.2	12.5	18.8	0.0	0.0	6.2	6.2	31.2	100.0
女	地域の生活環境保護	2.7	0.0	40.5	16.2	0.0	21.6	2.7	0.0	2.7	10.8	2.7	100.0
	地域のイベントや“村おこし”	0.0	4.8	42.9	4.8	4.8	9.5	4.8	4.8	0.0	23.8	0.0	100.0
	趣味・スポーツ、学習グループのリーダー	3.6	0.0	17.9	3.6	17.9	7.1	7.1	7.1	10.7	14.3	10.7	100.0
	児童・青少年活動の世話役	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	地域の文化財等保護	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	33.3	0.0	11.1	0.0	33.3	0.0	100.0
	消費者活動等	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	100.0
	福祉活動	0.0	38.5	0.0	7.7	3.8	15.4	19.2	0.0	7.7	7.7	0.0	100.0
	行政の委員等	40.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	100.0
	自然保護・環境保全	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	100.0
	国際交流活動	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	100.0
	その他	0.0	0.0	16.7	0.0	27.8	5.6	0.0	5.6	5.6	22.2	16.7	100.0

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

5 高齢者における社会参加への関連要因と生活満足度

5.1 活動分野・活動団体と生活満足度

5.1.1 活動分野と生活満足度

社会参加のための活動団体を選択する理由の第1位は、その団体が行う「活動の内容」である。そこで活動分野の違いによる生活の満足度の高低を調べるため分散分析を行った。結果は、活動分野における有意なグループ差は認められなかった(図表5-17)。

〔図表 5-17〕 活動分野と生活の満足度 N=419

	F 値 (自由度)	有意確率
家庭生活満足度	1.03 (10,408)	0.41
私的関係満足度	0.72 (10,408)	0.71
公的関係満足度	0.71 (10,408)	0.72

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

5.1.2 活動団体と生活満足度

社会参加のための活動団体を選択する理由の第3・4位は、団体の「運営主体」と「団体内の平等な人間関係」である。そこで、活動団体の違いによる生活の満足度の違いを調べるため分散分析を行った。結果は、活動団体における有意なグループ差は認められなかった(図表 5-18)。

〔図表 5-18〕 活動団体と生活の満足度 N=419

	F 値 (自由度)	有意確率
家庭生活満足度	1.38 (10,408)	0.19
私的関係満足度	0.31 (10,408)	0.98
公的関係満足度	1.60 (10,408)	0.10

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

5.2 社会参加との関連要因

5.2.1 社会参加への影響要因

社会参加がなされるにはどんな条件が整えばよいかを見るために、「同居家族の状況」及び「住居の形態」「居住年数」「世帯の年収」「世帯の資産」「最終学歴」「就業の有無」「暮らし向き満足度」「自由時間の有無」について、社会参加の形態への影響をみた。社会参加の形態は、「定期的に参加」「ときどき参加」と「社会参加なし群」(「以前に参加」と「参加なし」)とし、それぞれの変数のカテゴリー(選択肢)を数量化しカテゴリカル回帰分析を行った(図表 5-19)。

男性高齢者では、「同居家族の状況」及び「住居の形態」「居住年数」「世帯の年収」「世帯の資産」「最終学歴」「就業の有無」「暮らし向き満足度」「自由時間の有無」のうち、「同居家族の状況」及び「住居の形態」「居住年数」「世帯の資産」「暮らし向き満足度」「自由時間の有無」でモデルの有意性が確立できた($F(19,624)=1.75$, $p < 0.05$)。ただし、 R^2 乗値は0.05でモデルの説明力は非常に低い。

標準回帰係数(β)は、「同居家族の状況」「住居の形態」で有意差が認められ、これらが他と比べて多少の何らかの影響を与えていると思われる。

女性高齢者では、「住居の形態」及び「世帯の資産」「暮らし向き満足度」「自由時間の有無」「就業の有無」「最終学歴」でモデルの有意性が確立できた ($F(17,478)=1.69$, $p<0.05$)。ただし、 R^2 乗値は0.11でモデルの説明力は非常に低い。

標準回帰係数 (β) は、「住居の形態」「世帯の資産」「最終学歴」で有意差が認められ、これらが他と比べて多少の何らかの影響を与えていると思われる。

〔図表 5-19〕 社会参加の状態への影響要因

男 性			女 性		
変 数	標準化係数 (β)	重要度	変 数	標準化係数 (β)	重要度
同居家族の状況	0.13*	0.31			
住居の形態	0.13*	0.33	住居の形態	0.14*	0.33
居住年数	-0.10	0.22			
世帯の資産	0.10	0.13	世帯の資産	0.12*	0.25
暮らし向き満足度	0.01	0.00	暮らし向き満足度	0.08	0.08
自由時間の有無	0.02	0.01	自由時間の有無	0.05	0.05
			就業の有無	0.04	0.03
			最終学歴	0.12*	0.26

男性：N=644 $R^2=0.05$

* $p<0.05$

女性：N=496 $R^2=0.11$

* $p<0.05$

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

5.2.2 社会参加の形態と居住形態

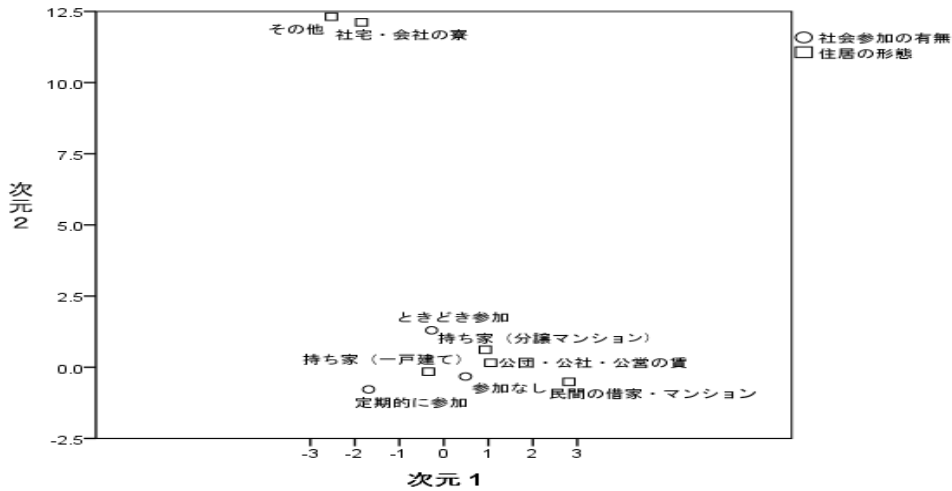
住居の形態（「持ち家（一戸建て）」「持ち家（分譲マンション等）」「社宅・会社の寮」「公社・公団・公営の賃貸住宅」「民間の借家・マンション・アパート」「その他」）は男女とも、社会参加の状態への影響がみられる変数である。

この変数と参加の形態（「定期的に参加」「ときどき参加」「参加なし群」）を数値化しこれらの等質性を示した（等質性分析）のが、〔図表 5-20〕と〔図表 5-21〕である。

男性では「持ち家（一戸建て）」は、「参加なし群」に最も近く、ついで「ときどき参加」に近い。女性は、「持ち家（一戸建て）」は「定期的に参加」「ときどき参加」「参加なし」のどれとも同じくらい近いが、「参加なし」は「持ち家（分譲マンション等）」に重なり合うほどに近いことが見てとれる。

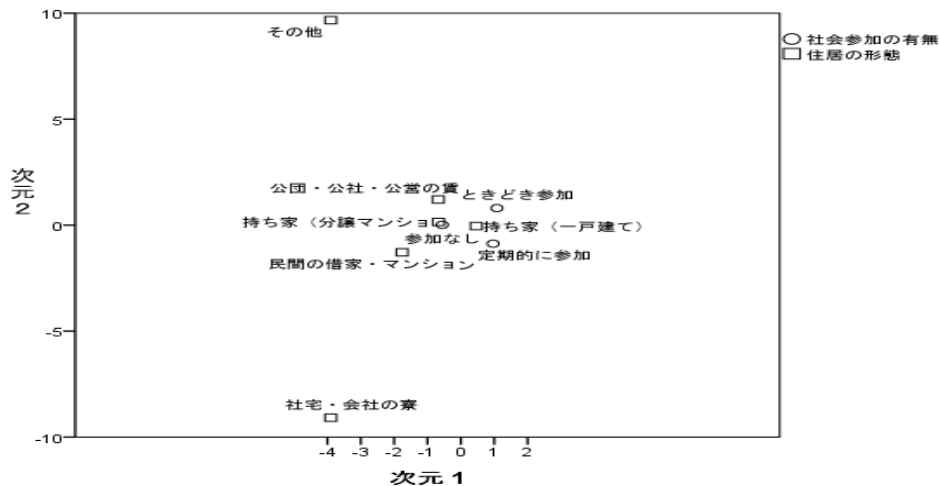
住居の形態が社会参加の形態と何らかの関係があるが、関係のあり方は多様であり、また性差が認められる。

〔図表 5-20〕 男性のカテゴリー結合プロット



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

〔図表 5-21〕 女性カテゴリー結合プロット



出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

6 考察とまとめ

6.1 社会参加状況の推移

過去 20 年の社会参加の状況を見ると、参加は増加傾向にある。しかし近年においては、これは参加の仕方の 1 つである「ときどき参加」の増加が大きいためである。参加の仕方のもう 1 つの形態である「定期的な参加」は、男性ではむしろ減少傾向にある。これらの結果から社会活動への参加は、個人の参加への意識が高まったと同時に個人の好みや都合に合わせて、他方団体側においても参加受け入れが、柔軟に行われていると推察される。

活動分野では、男女とも「地域の生活環境を守る活動」が第1位を維持しているが、第3位、第4位では男女で異なる活動分野が挙げられている。この性差は活動の参加理由でも見られる。社会参加の形態や活動分野、参加理由は、男女の性差を考慮した分析が求められる。

社会参加と生きがいや生活の満足度は、今回調査でも関連性が確認された。社会活動を定期的に行っている人ほど生きがいを持っており、また生活の満足度は高いので、社会参加を促進することは、個人のQOLを高めるのに貢献すると考える。

6.2 性別・年齢階層別の社会参加の状況

今回調査において、性別・年齢階層別に社会参加の形態及びやりがいのある活動分野と参加の理由、やりがいのある活動団体、団体選択理由の分析を行った。その結果、活動団体の選択理由以外で性差及び年齢階層差が見られた。たとえば、活動分野では、年齢を問わないで男女の別だけで見ると「地域の生活環境を守る活動」が第1位であるが、性別・年齢階層別で見ると「児童・青少年活動の世話役としての活動」が40～49歳女性で第1位である。これらから個人が求める参加の仕方や活動分野、活動団体、そして社会が個人に求める参加の仕方や活動分野、活動団体は、性により年代により異なることが推察される。

一方で、性や年齢階層による違いが見られないものもあった。活動分野における「地域の生活環境を守る活動」であり、参加理由における「地域や社会に貢献したい」であり、活動団体における「町内会・自治会」であり、活動団体の選択理由における「活動の内容」と「自宅と活動地域との距離」である。地域は、非常に大きな社会活動の対象であることがうかがえ、住民が参加したいと思えるような活動を町内会や自治会で展開できるかどうか、社会参加の促進の鍵の1つを握っているように思われる。また、参加理由では「身近な人に誘われた」が上位にあることから参加を促す声かけなども有効であり、活動の内容や情報提供などについて、町内会・自治会の努力が求められる。

やりがいのある活動団体では「個人または個人の集まり」が高かった。組織に縛られない社会参加のあり方の新しい潮流になる可能性がある。

6.3 高齢者の社会参加の状況

高齢者の社会参加率は年齢階層別では高いものの、参加率の推移をみると、むしろ減少傾向にある。これは「定期的な参加」が減少しているためであるが、もう1つの参加の仕方「ときどき参加」は、男性で明らかな増加傾向にある。高齢者においても個人の好みや都合に合わせた参加がなされていると推察できる。

活動分野と参加形態の関係をみたところ、どの活動分野でも概ね「定期的な参加」と「ときどき参加」の偏りは見られなかった。しかし、有意ではないものの、地域での活動は「定期的な参加」よりも「ときどき参加」の方が多い傾向にある。

活動分野と活動団体の関係では「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」は、特に男性で多くが「個人または個人の集まり」で行われていることが示された。高齢世代においても地域でのつながり方の多様化が進んでいることが推察される。

6.4 高齢者における社会参加への関連要因と生活満足度

活動分野及び活動参加団体それぞれの違いによる生活の満足度には、違いが認められなかった。活動の分野や参加団体の如何にかかわらず、社会参加そのものが生きがいや生活の満足度に好影響を与えていると推察される。社会参加への関連要因は性差が認められた。「住居の形態」及び「世帯の資産」「暮らし向き満足度」「自由時間の有無」は男女ともに多少の何らかの影響が認められるが、「同居家族の状況」及び「居住年数」は男性のみに、「最終学歴」及び「就業の有無」は女性のみに影響が認められた。影響の仕方も男女で異なり、たとえば「住居の形態」における持ち家（一戸建て）に住む男女では参加の形態が微妙に異なる。ここでも、個人が求める参加の仕方や活動分野、活動団体、そして社会が個人に参加を求める仕方や活動分野、活動団体は、性により異なることが明らかになった。

6.5 高齢者の社会参加促進に向けて

今回調査結果から、社会参加は、その多くが地域で行われており、また社会活動の対象としても地域が大きな存在であることが明らかになった。地域住民は地域で活動したいと思いつつも、活動内容によって実際に活動するかどうかを決めているのである。この傾向は高齢者も同様で、町内会や自治会は魅力ある活動の場を提供することによって、また参加を促す声かけによって地域での参加促進が望めると思われる。参加の仕方は、定期的よりも個人の好みや都合に合わせた、ときどきの参加の方が参加しやすいと思われるので、地域住民に単発的な活動をいくつも呼びかけるのも良いかもしれない。ときどきの参加が定期的な参加につながったり、地域での人間関係を作ったり、参加を呼びかける側に回ったりすることもあり得るので、「ときどき参加」の活動を増やすことが大切だと考える。

また、個人的な集まりでの活動も多く行われている。今後はこの形の社会参加の増加が見込まれるので、個人的な集まりを支援する環境整備も必要になると考える。

参考文献

- 袖井孝子編（2004）『MINERVA 福祉ライブラリー⑧ 少子化社会の家族と福祉』ミネルヴァ書房.
- 内閣府（2011）『高齢社会白書（平成23年版）』.
(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf)
- 山口浩一郎・小島晴洋（2002）『高齢者法』有斐閣.
- 財団法人シニアプラン開発機構（現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構）（1992）『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.

- ——— (2002)『第3回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構 (2007)『第4回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.

第6章 働き方と生きがい—高齢者が生きがいを持って働くためには

1 はじめに

急速に進展する少子高齢化に伴い、高齢者の雇用に対する関心が高まっている。ひとつは、将来の労働力人口の減少が予想される中で、労働力を確保するという観点から高齢者が労働市場から退出しないための方策に関する議論である。もうひとつは、公的年金支給開始年齢の65歳への引上げが2013年度から開始され、現行では60歳で定年に到達した後に雇用が継続されず、年金支給開始年齢までの数年間、無年金・無収入となる者が生じる可能性があり、雇用と年金の確実な接続が議論されている。

後者については、2006年4月施行の改正高年齢者雇用安定法により、事業主は65歳まで労働者の雇用を確保するよう義務づけられるようになった。その際、定年が65歳未満である企業に対して、①定年を65歳まで引き上げ、②定年制廃止、③定年後65歳¹までの雇用確保措置の中から選択できるようになり、継続雇用制度を導入した場合は、希望者全員を対象とすることが原則であるが、労使協定によって対象者の基準を設けることができる。また、その労使協定に合意が得られなくても2006年から5年間は企業側の基準を就業規則に記載し、労働基準監督署の届出があれば対象者を選別することが認められている。その後、2012年1月の厚生労働省労働政策審議会「今後の高年齢者雇用対策について」においては、65歳以上の希望者すべてが雇用を確保できるように提案し、65歳までの雇用確保を確実なものにしようとしている。

高齢者の雇用確保が政策課題として議論され、生涯現役社会を進める方向に政策は動いているが、このような現状において高齢者は生きがいを持って働いているのだろうか。特に定年を迎える現役世代は働く目的として生計のためといった理由が多いであろう。しかし、年齢が高齢になるにつれ子供の世話の必要がなくなり、本人にとって自由に使える時間は増えてくるはずである。自由な時間をどのように使うかといった選択の中で、仕事を選ぶということは仕事に対していきがいを感じているのかもしれないとみることができる。しかし、生計のためにやむを得ず働き続けるといった可能性も否定できない。年齢に関係なく生き生きと社会生活を送るためには、仕事に対して生きがいを持つこと、そして生きがいを持って働くことが求められているのではないだろうか。

このような視点から、本稿では、労働者のうちどのような人が仕事に対して生きがいを感じているのだろうか、そして生きがいを持って働いている人はどのような人なのだろうかについてアンケート調査を基に分析を行いたい。この結果を通じて高齢者が生き生きと働くためには何が必要となるのかについて考察したい。

¹ 2011年12月時点では64歳。

次節以降の構成は下記のとおりである。第2節では分析で用いたデータについて説明する。第3節では、年齢階層別に生きがいを持っている人、定年を経験した人の割合などについてみていく。第4節では生きがいに関する分析について紹介する。第5節で結論を述べる。

2 使用するデータ

2.1 使用するデータの概要

本稿では、年金シニアプラン総合研究機構が実施した「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を用いる。本調査は、株式会社クロス・マーケティングのモニターサンプルのうち、35～74歳の男女で、厚生年金被保険者および厚生年金受給者とそれらの配偶者5,145人を対象としている。そのため、国民年金の第1号被保険者に該当する者は含まれないことに注意すべきである。調査期間は2011年10月25日～28日である。

2.2 就業状態

本調査のサンプル構成を見ておくためいくつかの指標を確認したい。〔図表6-1〕は年齢階層別に、サンプル全体に対する有業者の割合を示したものである。

〔図表 6-1〕 年齢階層別 有業者の割合

	男性	女性
35-39歳	99.1%	56.1%
40-44歳	99.5%	57.5%
45-49歳	99.1%	56.9%
50-54歳	98.7%	57.5%
55-59歳	93.2%	49.8%
60-64歳	54.0%	32.0%
65-69歳	30.8%	26.8%
70-74歳	20.7%	16.7%
年齢計	76.1%	46.0%

男性の有業者の割合は、60歳未満ではおおむね9割を超えているが、60歳を超えると大きく減少し、60-64歳54.0%、65-69歳30.8%、70-74歳20.7%となっている。一方女性では、54歳までは5割を超えているが、その後の年齢階層では徐々に低下し、70-74歳では16.7%となっている。

次に、有業者に限定して雇用形態の分布について説明する。〔図表6-2〕は年齢階層ごとに、有業者に占める各雇用形態の割合を示したものである。男性では、50歳未満では正社員が95%を超える。50歳代では正社員は9割弱であるのに対し、契約社員・嘱託や自営業・自由業・家族従業員の割合が50歳未満と比べわずかに高い。60歳代を超えたところで、正社員の割合は大きく減り、65歳以上では正社員よりも自営業・自由業・家族従業員の割合が高い。

〔図表 6-2〕 年齢階層別 雇用形態の状況

(A) 男性

	正社員	契約社員・ 嘱託	パート・ア ルバイト	自営業・自 由業・家族 従業員	その他
35-39歳	96.3%	1.6%	0.2%	1.6%	0.2%
40-44歳	95.1%	1.6%	0.0%	3.3%	0.0%
45-49歳	94.5%	1.5%	0.3%	3.4%	0.3%
50-54歳	87.6%	2.9%	0.7%	8.8%	0.0%
55-59歳	86.5%	3.8%	0.6%	8.5%	0.6%
60-64歳	47.8%	17.9%	8.7%	23.4%	2.2%
65-69歳	26.6%	15.6%	17.4%	32.1%	8.3%
70-74歳	20.0%	16.7%	15.0%	45.0%	3.3%
年齢計	83.1%	4.7%	2.3%	9.0%	0.9%

(注) 「その他」は、派遣社員、内職、シルバー人材センターの合計。

(B) 女性

	正社員	契約社員・ 嘱託	パート・ア ルバイト	自営業・自 由業・家族 従業員	内職	その他
35-39歳	45.0%	6.6%	35.5%	5.2%	2.4%	5.2%
40-44歳	44.7%	3.2%	37.2%	7.4%	3.2%	7.4%
45-49歳	40.5%	6.4%	39.3%	8.1%	1.2%	5.8%
50-54歳	46.1%	6.7%	29.7%	15.2%	1.2%	2.4%
55-59歳	47.7%	6.0%	33.1%	9.3%	4.0%	4.0%
60-64歳	18.5%	8.6%	50.6%	18.5%	2.5%	3.7%
65-69歳	13.0%	5.8%	39.1%	33.3%	2.9%	8.7%
70-74歳	12.5%	5.0%	20.0%	40.0%	5.0%	22.5%
年齢計	39.5%	5.9%	36.0%	12.2%	2.5%	6.3%

(注) 「その他」は、派遣社員、シルバー人材センターの合計。

女性については、60歳未満では正社員が約半数、パート・アルバイトが約3～4割を占める。女性についても60歳を超えると正社員の割合が低くなる一方、パート・アルバイト、自営業・自由業・家族従業員の割合が高い。

2.3 週当たり労働時間の分布

次に労働時間の分布も年齢階層によって変化がみられるかについて確認しておきたい。〔図表 6-3〕は週当たり労働時間の分布である。

男性については、50歳未満で45時間以上が半数を超え、50歳代でも4割を超えている。60歳代以上では45時間以上の割合が減り、その代り35時間未満の割合が高くなっている。60歳を区切りに労働時間が大きく異なっている。

女性について、60歳を区切りに労働時間の分布が大きく異なっているのは男性と同様である。ただし女性については、正社員割合も男性ほど高くないことと相関するように、35時間未満の割合が高い。60歳以上では6割を超えている。

〔図表 6-3〕 年齢階層別 週当たり労働時間の分布

	男性			女性		
	35時間未 満	35～45時 間未満	45時間以 上	35時間未 満	35～45時 間未満	45時間以 上
35-39歳	4.1%	34.9%	61.0%	42.2%	43.1%	14.7%
40-44歳	4.1%	37.2%	58.7%	41.5%	38.3%	20.2%
45-49歳	4.6%	42.3%	53.1%	40.5%	39.3%	20.2%
50-54歳	3.6%	47.1%	49.3%	44.2%	35.2%	20.6%
55-59歳	5.6%	51.5%	42.9%	45.0%	35.8%	19.2%
60-64歳	33.2%	45.7%	21.2%	67.9%	22.2%	9.9%
65-69歳	47.7%	32.1%	20.2%	69.6%	21.7%	8.7%
70-74歳	70.0%	16.7%	13.3%	62.5%	27.5%	10.0%
年齢計	10.9%	41.1%	48.0%	46.9%	35.9%	17.2%

(注) 週当たり労働時間は、1週間の勤務日数に1日の勤務時間（残業時間含む）をかけあわせることで算出。

2.4 定年経験者の割合

最後に、年齢階層別に定年経験者の割合を見ておきたい。〔図表 6-4〕を見る限り、男女ともに60歳を超えると定年を経験する割合が高くなる。ただ、女性は1～2割程度であり、非正社員では定年制がないためあまり経験しないといえるかもしれない。男性は60-64歳で63.0%、65-69歳で86.0%、70-74歳で91.4%となっている。

以上のように、いくつかの視点で見ても60歳を境に大きく働き方が変化することが分かった。本稿においても、60歳を区切りにして分析をしていきたい。

〔図表 6-4〕 年齢階層別 定年経験者の割合

	男性	女性
35-39歳	0.0%	0.0%
40-44歳	0.0%	0.0%
45-49歳	0.0%	0.0%
50-54歳	1.0%	0.0%
55-59歳	0.9%	0.4%
60-64歳	63.0%	14.0%
65-69歳	86.0%	24.7%
70-74歳	91.4%	28.5%
年齢計	24.6%	6.2%

3 仕事に対する生きがい

前節でみてきた働き方に対して、人々は仕事に対して生きがいを持っているだろうか。この点について基本統計量を確認していきたい。

本調査ではいくつかの質問形式で人々の生きがいについて調査している。詳細は調査票を参照していただきたい。

1つの方法は、調査時点でどのようなことに生きがいを感じているかということである(問16)。13の選択肢から3つを選ぶ形式であるが、仕事を生きがいと感じている者は、男性の

全体サンプルのうち 23.8%、女性の全体サンプルのうち 12.8%である。男性では趣味(54.5%)や家族・家庭(44.3%)に対して生きがいを感じるものが多い中でその次に高い割合であるといえる。

もう 1 つの方法は、生きがいを現在持っているか否かといった情報である(問 15)。この質問は生きがいを表すのに最も適当なものを選んだうえで、生きがいを現在持っているか否かを質問している。

これらの質問項目を用いて、本稿では生きがいに対して 2 つの変数を作成する。1 つは、仕事に対して生きがいを感じているか否かといった変数(以下「仕事生きがい 1」と呼ぶ)である。もう 1 つは、仕事に対して生きがいを感じていて、かつ生きがいを持っていることを表す変数(以下「仕事生きがい 2」と呼ぶ)である。

以上 2 つの変数を年齢階層別の状況を表したのが〔図表 6-5〕である。

〔図表 6-5〕年齢階層別 有業者に対する仕事にいきがいを持っている者の割合

	仕事生きがい1		仕事生きがい2	
	男性	女性	男性	女性
35-39歳	32.1%	19.4%	19.0%	10.0%
40-44歳	28.8%	23.9%	16.8%	16.5%
45-49歳	29.4%	28.3%	19.3%	16.8%
50-54歳	30.4%	26.7%	19.6%	18.2%
55-59歳	29.4%	23.8%	20.9%	12.6%
60-64歳	28.8%	27.2%	21.7%	16.0%
65-69歳	32.1%	36.2%	23.9%	20.3%
70-74歳	36.7%	22.5%	33.3%	22.5%
年齢計	30.3%	25.1%	20.0%	15.4%

(注)「仕事生きがい 1」は、仕事に現在いきがいを感じている者の割合、「仕事生きがい 2」は、仕事に現在いきがいを感じていて、かつ現在いきがいを持っている者の割合。いずれも、有業者に対する割合。

「仕事生きがい 1」にあたる、仕事に現在いきがいを感じている者の割合を見てみると、男性は 3 割前後であり、年齢階層によって大きな違いはない。しかし、女性では 65-69 歳で年齢計より 10 ポイント以上高い一方、年齢の若い層では低い傾向も多少みられる。

「仕事生きがい 2」にあたる、仕事に現在いきがいを感じていて、かつ現在いきがいを持っている者の割合は、男性では年齢計で 2 割が該当する。ただし年齢層が高くなるにつれてその割合が高くなっている傾向がみられる。女性では年齢計で 15.4%が該当し、男性同様年齢が高くなるにつれて、その割合が高くなる傾向が多少みられる。

4 誰が仕事に対する生きがいを持っているか

前節における観察をふまえ、本節では誰が仕事に対する生きがいを持っているかその要因を探っていく。4.1 節は分析方法の詳細の記述であるので、回帰分析の知識のない読者は 4.1 節を読み飛ばしても理解できるように説明してある。

4.1 分析方法

分析方法として生きがいを持っている人を 1、そうでない人を 0 としたダミー変数を作成し、それを諸々の説明変数で回帰させる手法をとる。ここではダミー変数が被説明変数であるのでプロビット分析と呼ばれる手法を用いる。また、前節と同様に生きがいを持つといった場合に、「仕事生きがい 1」と「仕事生きがい 2」の両方を考慮する。

分析をする際に、有業者のみで分析するかそれとも無業者も含めるかは大きな問題となる。特に、前節で確認したように 60 歳以上においての有業率はそれより若い世代よりも低く、生きがいを持っているから実際に働いているというケースも見られる。逆に無業者であれば仕事に対して生きがいを感じていないかもしれない。有業者に限定して分析をすると、計量経済学の分野で指摘されているサンプルセレクションバイアスが発生し、一般的には分析結果を信頼できない場合がある。ただし本稿では結果を掲載していないが、別途サンプルセレクションを考慮した推定も行い分析結果に大きな違いがないことを確認している。したがって、以下では有業者に限定した分析を行う。

さらに、男性の派遣社員、内職、シルバー人材センターに該当するサンプル²と、女性のシルバー人材センターに該当するサンプル（8 サンプル）は数が少ないので分析対象外とした。

次に説明変数について説明する。説明変数を含めた基本統計量は〔図表 6-6〕にある。

第 1 に、雇用形態である（問 8）。この分析ではサンプルが少ない場合もあるので、正社員に対して、非正規社員（契約社員・嘱託、パート・アルバイト）、自営業（自営業・自由業・家族従業員、女性の内職も含む）の効果を見ることにしている。

第 2 に、職種である（問 9(2)）。特に管理職のような職場での地位が高い職種であれば仕事に対して責任も大きく、生きがいを持つ可能性が高い。以下の分析では専門技術職に対してほかの職種であると仕事に対する生きがいを持つ割合が高くなるか、低くなるかについて分析している。

² 男性の派遣社員は 6 サンプル、内職は 3 サンプル、シルバー人材センターは 10 サンプルである。

〔図表 6-6〕 分析サンプルの基本統計量

	男性	女性
仕事生きがい1	0.305	0.253
仕事生きがい2	0.199	0.154
雇用形態(ベース:正社員)		
非正規ダミー	0.063	0.464
自営業ダミー	0.071	0.118
職種(ベース:専門技術職)		
管理職ダミー	0.353	0.056
事務職ダミー	0.197	0.454
販売職ダミー	0.052	0.099
技術職ダミー	0.124	0.107
サービス職ダミー	0.021	0.060
その他	0.066	0.132
労働時間(ベース:週35時間未満)		
週35-45時間未満ダミー	0.417	0.375
週45時間以上ダミー	0.498	0.178
年齢(ベース:35-39歳)		
40-44歳ダミー	0.182	0.178
45-49歳ダミー	0.162	0.166
50-54歳ダミー	0.149	0.160
55-59歳ダミー	0.160	0.138
60-64歳ダミー	0.070	0.066
65-69歳ダミー	0.038	0.058
70-74歳ダミー	0.022	0.031
定年経験ダミー	0.069	0.028
仕事や職場についての満足		
仕事の内容満足ダミー	0.572	0.586
就業形態満足ダミー	0.593	0.597
職場での地位の高さ満足ダミー	0.440	0.401
賃金満足ダミー	0.293	0.313
業績評価の公平さ満足ダミー	0.291	0.291
福利厚生満足ダミー	0.323	0.271
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー	0.464	0.518
サンプルサイズ	2,016	1,016

(注) 男性の派遣社員・内職・シルバー人材センターと女性のシルバー人材センターを除く。
変数の定義は本文中を参照。

第3に、労働時間である(問9(4),(5))。ここでは前節と同様に、1日の勤務時間に1週間の勤務日数をかけあわせることで週当たりの労働時間としている。一つの可能性としては、労働時間が長い人ほど仕事に対していきがいを持っている可能性がある。以下の分析では、週35時間未満に対して、週35-45時間および週45時間以上であった時の割合の変化についてみている。

第4に、年齢である(SC2)。前節でみたように、年齢によって特に生きがいの有無については違いがみられた。このような違いをコントロールするために説明変数として加えている。

第5に、定年経験の有無である(問19)。定年を経験することにより仕事に対して生きがいを見いだせなくなっているかもしれない、定年を経験するほど仕事に対して生きがいを感じていないかもしれない。このような要因を見るために説明変数としてコントロールする。

第6に、仕事や職場についての満足度（問10）である。この変数は主観的な変数であるため、以下の分析では、仕事や職場についての満足度をコントロールしない場合（以下、「モデル1」と呼ぶ）とコントロールする場合（以下、「モデル2」と呼ぶ）の両方を推定する。この満足度を尋ねる質問では、①仕事の内容、②就業形態、③職場での地位の高さ、④賃金、⑤業績評価の公平さ、⑥福利厚生、⑦職場の人間関係・雰囲気、⑧全体としての8つに対して「とても満足している」「やや満足している」「どちらともいえない」「やや不満である」「とても不満である」の5件法で調査している。以下の分析では簡便化のため、「とても満足している」「やや満足している」と回答したものを満足した者と判断し、満足したものを1、そうでないものを0というダミー変数を上記①から⑦について作成した。仕事や職場に満足していれば仕事に対しての生きがいも高いはずである。このような変数間の関係にも注目して分析を試みたい。

4.2 男性で誰が仕事に対して生きがいを持っているか

男性について分析した結果が、〔図表6-7〕である。仕事や職場についての満足度をコントロールしていないモデル1を見てみると、仕事に対して生きがいを感じている（「仕事生きがい1」）要因として、職種や労働時間があることがわかる。

職種については、専門技術職に対して、係数がプラスである管理職は、仕事に対して生きがいを感じやすいということが分かった。また、専門技術職に対して事務職や技術職であれば仕事に対して生きがいを感じにくいということが分かった。管理職のように責任が重く、職場の地位の高い仕事であればそれだけ仕事に対して生きがいを感じやすいことは明らかとなった。

労働時間については週35時間未満に対して、週45時間以上であれば仕事に対して生きがいを感じやすいことが分かった。長時間労働をする人ほど仕事に対して熱心に取り組むようになる、あるいは仕事に時間がとられてしまいそのほかのことが十分できない可能性もあり、仕事に対して生きがいを感じていることがうかがえる。

次に、仕事に対して生きがいを感じ、かつ生きがいを持っている（「仕事生きがい2」）の要因についてみてみると、「仕事生きがい1」とほぼ同じ要因であることが分かった。違いとしては、労働時間の変数が有意ではなく、労働時間の違いにより生きがいを持つ割合の違いは統計的にみられないこと、年齢差が部分的に統計的に有意な差がみられたり見られなかったりということがある。

以上がモデル1についての説明であるが、次に、仕事や職場についての満足度をコントロールしたモデル2の結果を見ていこう。

「仕事生きがい1」についてはモデル1と少し結果が異なっている。第1に、モデル2では「仕事生きがい1」の分析結果のみ自営業が有意となっている。係数がプラスであるので、正社員に比べ自営業であれば仕事に対して生きがいを感じているといえる。自営業であれば家業を継いで仕事をしている場合もあれば、自分の強みや自己実現のためにしたいことを仕事にする場合がある。後者の要素が強いようであれば、自営業者であるほど仕事に生きがいを感じる人が多くなるであろう。

〔図表 6-7〕 仕事に対する生きがいを持つ人の要因（男性）

被説明変数	モデル1		モデル2	
	仕事生きがい1	仕事生きがい2	仕事生きがい1	仕事生きがい2
雇用形態（ベース：正社員）				
非正規ダミー	-0.0057 (0.0540)	-0.0027 (0.0461)	0.0279 (0.0565)	0.0257 (0.0485)
自営業ダミー	0.0880* (0.0480)	0.0453 (0.0410)	0.1123** (0.0494)	0.0658 (0.0418)
職種（ベース：専門技術職）				
管理職ダミー	0.0641** (0.0307)	0.0849*** (0.0273)	0.0389 (0.0312)	0.0551** (0.0264)
事務職ダミー	-0.0854*** (0.0308)	-0.0921*** (0.0245)	-0.0680** (0.0318)	-0.0716*** (0.0243)
販売職ダミー	-0.0615 (0.0470)	-0.0236 (0.0416)	-0.0459 (0.0489)	-0.0006 (0.0430)
技術職ダミー	-0.0989*** (0.0337)	-0.0540* (0.0291)	-0.0787** (0.0350)	-0.0288 (0.0299)
サービス職ダミー	-0.0403 (0.0706)	-0.0316 (0.0594)	-0.0303 (0.0721)	-0.0211 (0.0589)
その他	0.0075 (0.0495)	0.0529 (0.0462)	0.0124 (0.0503)	0.0675 (0.0465)
労働時間（ベース：週35時間未満）				
週35-45時間未満ダミー	0.0243 (0.0462)	0.0344 (0.0405)	0.0136 (0.0460)	0.0233 (0.0383)
週45時間以上ダミー	0.0958** (0.0458)	0.0584 (0.0400)	0.0958** (0.0458)	0.0546 (0.0380)
年齢（ベース：35-39歳）				
40-44歳ダミー	-0.0501 (0.0313)	-0.0458* (0.0261)	-0.0576* (0.0311)	-0.0490** (0.0243)
45-49歳ダミー	-0.0476 (0.0327)	-0.0303 (0.0278)	-0.0347 (0.0335)	-0.0156 (0.0276)
50-54歳ダミー	-0.0623* (0.0335)	-0.0472* (0.0276)	-0.0707** (0.0331)	-0.0532** (0.0253)
55-59歳ダミー	-0.0640* (0.0330)	-0.0308 (0.0283)	-0.0703** (0.0328)	-0.0340 (0.0265)
60-64歳ダミー	0.0139 (0.0527)	0.0219 (0.0456)	0.0041 (0.0526)	0.0159 (0.0435)
65-69歳ダミー	0.0648 (0.0726)	0.0809 (0.0667)	0.0142 (0.0690)	0.0309 (0.0572)
70-74歳ダミー	0.0606 (0.0950)	0.0960 (0.0898)	0.0053 (0.0887)	0.0420 (0.0770)
定年経験ダミー	-0.0884* (0.0529)	-0.0481 (0.0439)	-0.1271*** (0.0474)	-0.0802** (0.0339)
仕事や職場についての満足				
仕事の内容満足ダミー			0.1757*** (0.0264)	0.1547*** (0.0217)
就業形態満足ダミー			-0.0197 (0.0289)	-0.0261 (0.0246)
職場での地位の高さ満足ダミー			0.0646** (0.0285)	0.0721*** (0.0234)
賃金満足ダミー			0.0273 (0.0298)	0.0107 (0.0233)
業績評価の公平さ満足ダミー			0.0089 (0.0310)	0.0314 (0.0252)
福利厚生満足ダミー			-0.0114 (0.0264)	-0.0074 (0.0211)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー			0.0435* (0.0258)	0.0528** (0.0211)
疑似決定係数	0.0277	0.0382	0.0793	0.1265
サンプルサイズ	2,016	2,016	2,016	2,016

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、()内の値は標準誤差を表す。***,**,*はそれぞれ1%,5%,10%水準で有意であることを表す。

仕事や職場についての満足度について結果を説明する。「仕事生きがい 1」「仕事生きがい 2」とともに仕事の内容が満足であるほど、職場での地位の高さが満足であるほど、そして職場の人間関係や雰囲気であるほど、仕事に対して生きがいを感じ、かつ生きがいを持ちやすいことが分かった。

特に係数の大きさを見ると、仕事の内容満足が他の2つより大きいため、仕事内容をいかに満足させるかが、仕事に生きがいを感じ、生きがいを持つためには重要な要素であるといえる。

4.3 男性年齢階層別の分析

前節では、仕事内容、職場での地位の高さ、職場の人間関係や雰囲気が生きがいを持つか・感じるかに重要な要因であることが分かった。前節の分析は男性の幅広い年齢について考察しているため、定年を迎えない60歳未満と定年を迎える可能性のある60歳以上といった2つのサブサンプルに分けて分析を行う。

【図表 6-8】仕事に対する生きがいを持つ人の決定要因（男性、世代別、結果の抜粋）

サンプル 被説明変数	男性35-59歳		男性60-74歳	
	仕事生きがい 1	仕事生きがい 2	仕事生きがい 1	仕事生きがい 2
仕事や職場についての満足				
仕事の内容満足ダミー	0.1605*** (0.0280)	0.1499*** (0.0225)	0.3623*** (0.0689)	0.2246*** (0.0736)
就業形態満足ダミー	-0.0128 (0.0302)	-0.0353 (0.0254)	-0.1441 (0.1077)	0.0249 (0.0926)
職場での地位の高さ満足ダミー	0.0582* (0.0305)	0.0714*** (0.0246)	0.0489 (0.0826)	0.0282 (0.0784)
賃金満足ダミー	0.0516 (0.0324)	0.0337 (0.0253)	-0.1433* (0.0753)	-0.1667** (0.0684)
業績評価の公平さ満足ダミー	0.0191 (0.0333)	0.0425 (0.0266)	-0.0283 (0.0865)	0.0053 (0.0830)
福利厚生満足ダミー	-0.0109 (0.0280)	-0.0108 (0.0217)	-0.0593 (0.0816)	-0.0459 (0.0776)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー	0.0508* (0.0275)	0.0574*** (0.0220)	0.0053 (0.0793)	0.0402 (0.0748)
疑似決定係数	0.0816	0.1377	0.1587	0.1185
サンプルサイズ	1,775	1,775	264	264

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、()内の値は標準誤差を表す。***,**,*はそれぞれ1%,5%,10%水準で有意であることを表す。説明変数として、雇用形態、職種、労働時間、年齢、定年経験ダミー（60歳以上のみ）も加えている。

男性の35-59歳においても、60-74歳においても、ともに生きがいに関して影響を与える変数は仕事内容の満足度である。どちらの世代においても、仕事内容に満足しているほど仕事に生きがいを感じ、生きがいを持っているといえる。特に係数を比較すると、男性35-59

歳よりも男性 60 歳以上のケースの方が高いため、定年を経験する可能性のある高齢者において仕事内容に対して満足するか否かは生きがいを持ったり感じたりするために大きな影響を与えるといえる。

世代によって異なる結果についてみると、職場での地位の高さについては男性 35-59 歳では有意であり、生きがいを持ったり感じたりすることに統計的に有意な影響を与えるが、男性 60 歳以上においては統計的に有意な影響を与えない。また、職場の人間関係・雰囲気にも満足しているかについても同様で、男性 35-59 歳では有意であるが、男性 60 歳以上においては有意ではない。職場での地位の高さや職場の人間関係・雰囲気については定年前の現役世代においては生きがいを感じたり持ったりすることについて説明するが、定年後においてはあまり関係なく、高齢者の雇用に対して職場の地位の高さや人間関係・雰囲気に満足できるように企業が配慮しても、あまり高齢者は生きがいを持ったり感じたりするようにはならないことが示唆される。

また逆に、60 歳以上において有意な影響を与えるが、35-59 歳では有意な影響を与えない要因として、賃金に満足しているかという要素がある。男性 60 歳以上においては、賃金に満足しているほど、仕事に対して生きがいを感じたり生きがいを持ったりしない傾向がみられる。これは意外な結果かもしれないが、一つの可能性としては、高齢者のうち将来の生活に備えるという点で貯蓄が少なく、賃金に満足するほど長い時間働いたりする。そのため仕事に対して後ろ向きに評価するようになり、生きがいを感じないといえるかもしれない。この解釈の是非については今後の分析が待たれる。

4.4 女性で誰が仕事に対して生きがいを持っているか

次に同様の分析を女性についても行ってみたい。ただし、女性においてはサンプルサイズが大きいので、4.3 節のように 2 つの世代に分けた分析は行わない。

結果は〔図表 6-9〕にある。雇用形態については、男性では自営業であればプラス（仕事に生きがいを感じたり持ったりすることに対してプラス）に働いていたが、女性では「仕事生きがい 1」のみにおいてプラスとなっている。女性で自営業である人は、仕事に対しては生きがいを感じるが、生きがいを持ちやすくはならないといえる。

職種については、どの推定結果においても、専門技術職に対して、事務職、販売職、技術職、サービス職は係数がマイナスである。専門技術職に対してこれらの職種に従事している女性は、仕事に対して生きがいを感じにくく、また生きがいを持っていないという結果である。女性では特に専門技術職のように専門性を生かす仕事であれば生きがいを感じやすいと見ることができる。

また、男性との結果の比較で興味深いのは、仕事や職場についての満足度において、女性については仕事内容のみが統計的に有意な結果となっていて、職場での地位の高さや職場での人間関係・雰囲気（一部のモデルでは 10%有意水準で有意であるにすぎない）は生きがいとあまり関連がないということも分かった。女性においては特に仕事内容に対して満足させることが生きがいを持って働くことにつながるのであろう。

〔図表 6-9〕 仕事に対する生きがいを持つ人の要因（女性）

被説明変数	モデル1		モデル2	
	仕事生きがい1	仕事生きがい2	仕事生きがい1	仕事生きがい2
雇用形態（ベース：正社員）				
非正規ダミー	0.0005 (0.0396)	-0.0361 (0.0316)	-0.0083 (0.0400)	-0.0399 (0.0299)
自営業ダミー	0.1174** (0.0593)	0.0514 (0.0464)	0.1177* (0.0602)	0.0357 (0.0430)
職種（ベース：専門技術職）				
管理職ダミー	-0.0239 (0.0644)	-0.0109 (0.0474)	-0.0233 (0.0643)	-0.0165 (0.0424)
事務職ダミー	-0.2227*** (0.0437)	-0.1594*** (0.0339)	-0.2114*** (0.0433)	-0.1385*** (0.0318)
販売職ダミー	-0.1372*** (0.0422)	-0.1048*** (0.0257)	-0.1117** (0.0448)	-0.0800*** (0.0261)
技術職ダミー	-0.0866* (0.0474)	-0.0807*** (0.0291)	-0.0781* (0.0474)	-0.0731*** (0.0257)
サービス職ダミー	-0.1227** (0.0497)	-0.0910*** (0.0310)	-0.0967* (0.0537)	-0.0631* (0.0338)
その他	-0.0618 (0.0503)	-0.0337 (0.0374)	-0.0569 (0.0497)	-0.0283 (0.0344)
労働時間（ベース：週35時間未満）				
週35-45時間未満ダミー	0.0684* (0.0396)	0.0363 (0.0320)	0.0935** (0.0409)	0.0523* (0.0318)
週45時間以上ダミー	0.0890* (0.0489)	0.0145 (0.0373)	0.1101** (0.0510)	0.0295 (0.0376)
年齢（ベース：35-39歳）				
40-44歳ダミー	0.0622 (0.0491)	0.0974** (0.0469)	0.0417 (0.0483)	0.0791* (0.0441)
45-49歳ダミー	0.0981* (0.0512)	0.0905* (0.0476)	0.1074** (0.0520)	0.1011** (0.0475)
50-54歳ダミー	0.0481 (0.0505)	0.0753 (0.0472)	0.0407 (0.0504)	0.0688 (0.0453)
55-59歳ダミー	0.0260 (0.0513)	0.0218 (0.0446)	0.0208 (0.0509)	0.0157 (0.0416)
60-64歳ダミー	0.1096 (0.0745)	0.0768 (0.0672)	0.0973 (0.0743)	0.0565 (0.0611)
65-69歳ダミー	0.1760** (0.0814)	0.1190 (0.0745)	0.1787** (0.0828)	0.1128 (0.0738)
70-74歳ダミー	0.0255 (0.0903)	0.1550 (0.0962)	-0.0004 (0.0858)	0.1062 (0.0869)
定年経験ダミー	-0.1638*** (0.0508)	-0.0755* (0.0455)	-0.1689*** (0.0450)	-0.0779** (0.0344)
仕事や職場についての満足				
仕事の内容満足ダミー			0.1879*** (0.0324)	0.1448*** (0.0248)
就業形態満足ダミー			-0.0139 (0.0362)	0.0267 (0.0266)
職場での地位の高さ満足ダミー			-0.0678* (0.0352)	-0.0193 (0.0259)
賃金満足ダミー			0.0441 (0.0393)	-0.0068 (0.0275)
業績評価の公平さ満足ダミー			-0.0127 (0.0397)	0.0263 (0.0310)
福利厚生満足ダミー			-0.0233 (0.0356)	-0.0103 (0.0258)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー			0.0589* (0.0329)	0.0161 (0.0250)
疑似決定係数	0.0596	0.0691	0.1033	0.1387
サンプルサイズ	1,016	1,016	1,016	1,016

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、()内の値は標準誤差を表す。***,**,*はそれぞれ1%,5%,10%水準で有意であることを表す。

5 結びにかえて

本稿では少子高齢化に伴い高齢者が生涯働く環境が求められている中で、仕事に対する生きがいを感じたり持ったりするということが重要という前提のもとで、労働者のうちどのような人が仕事に対して生きがいを感じていて、そして生きがいを持って働いている人はどのような人なのだろうかについてアンケート調査を基に分析を行ってきた。分析結果をまとめつつ、高齢者が生きがいを持って働くためには何が必要かについて議論したい。

第1に、定年を経験することにより仕事に対して生きがいを感じるができなくなり、生きがいを持たない傾向があることを発見した。定年は企業の事業運営上やむを得ない場合もあるが、労働者の生きがいを高め、定年後も働き続けることを促進させたいといった観点からは、定年後の再雇用等において企業は仕事に対する生きがいを失うことがないように配慮する必要がある。

第2に、特に男性高齢者においては、仕事内容に満足をしていると生きがいを感じやすく生きがいを持ちやすいことが分かった。定年前の世代では有意な影響がある職場での地位の高さや職場の人間関係・雰囲気はあまり影響を与えていないことが分かった。企業が労働者のモチベーションを高めるためには昇進させて役職を与えることや人間関係を良好なことにしていくことはよく行われているが、高齢者雇用に対してはあまり関係がない。むしろ仕事内容に満足するかが大きな課題であるといえる。1番目の点と合わせると、定年後においては労働者が仕事内容に満足するように、企業は面談などの手段を通じて労働者の意向を把握し、可能な限り仕事内容に満足するような配置をしていくことが求められているといえる。

第3に、男性高齢者において賃金の満足度は生きがいに対しては影響を与えない。労働政策研究・研修機構の調査によると、定年後の再雇用において賃金水準が引き下げられることに不満の声があがっているといわれるが、生きがいに対してそれほど影響はなくむしろ賃金に満足している人ほど生きがいを感じていないことがわかった。企業にとって再雇用制度等により労働者を雇用する期間が長くなれば、それだけ人件費が増大する。そのため再雇用により賃金を下げざるを得ないが、その点は生きがいに対しては大きく影響を与えないが、働くモチベーションに対してはどのような影響があるのか今後の分析が待たれる。

また、その他の興味深い結果として、男性の35-59歳においては職場での地位の高さや職場の人間関係・雰囲気が仕事に対して生きがいを感じるためには重要である。また、職種や労働時間も影響を与え、この世代に対しては責任がありある程度難しい仕事を与えるほど生きがいを感じて働くという傾向がみられる。また自営業であれば仕事に対して生きがいを感じやすい傾向があることも指摘しておきたい。

繰り返しになるが、生涯現役世代の実現が求められている日本において、ますます高齢者の活用が重要な課題となる。高齢者の活用においては今回の分析結果からは、仕事内容を満足させることが重要であり、仕事内容に満足しないと生きがいを持って働き、仕事に対して生きがいを感じるようにはならない。労働者の意向を把握することは企業にとってもコストがかかる話であるが、労使双方が高齢者を有効に活用するためには面談等を通じた労働者の仕事内容に対する満足度といった意向の把握が求められているといえる。

第7章 単身世帯の生きがいと生活

1 はじめに

日本では、1980年代より単身世帯が趨勢的に増加しており、今後もその傾向が続くとみられている。具体的には、1980年の単身世帯数は711万世帯（全人口に占める単身者¹の割合6.1%）であったのが、2010年には1,678万世帯（同13.1%）となり、2.36倍増加した²。そして、2030年になると単身世帯数は1,824万世帯（同15.8%）となり、2010年の1.09倍になると予測されている³。

もともと、今後20年間で1.09倍程度の増加であれば、それほどたいしたことではないと思うかもしれない。しかし今後の単身世帯の増加は、二つの点から社会に大きな影響をもたらすと考えられる。

第一に、今後は20代・30代の単身世帯が減少する一方で、中高年や高齢者で単身世帯が増加していく点だ⁴。具体的には、20代・30代の単身世帯数は少子化の影響を受けて2005年の570万世帯から2030年には386万世帯へと0.67倍に減少する。一方、50代と60代の単身世帯数は、2005年の385万人から2030年には663万人へと1.72倍になる。特に、中高年男性の単身世帯の増加は著しく、2030年には50代・60代男性の4人に1人弱が単身者になると予測されている⁵。2030年の50代・60代は、2010年現在の30代・40代にあたる。

第二に、今後は未婚の単身世帯が増加していく点である。中高年男性で単身世帯が増加する最大の要因は未婚化の進展である。男性の生涯未婚率（50歳時点の未婚率）は80年代までは3%台で推移していたが、90年代以降大きく上昇して、2010年には20%となった⁶。そして2030年には同未婚率は29%になると予測されている。一方、女性の生涯未婚率は男性ほど急激ではないが、2010年の11%から2030年には23%になるとみられている⁷。未婚者は配偶者がいないという点において単身世帯になりやすく、未婚者の増加は単身世帯の増加につながっていく。

このように単身世帯は量的に増えるだけでなく、年齢階層や配偶関係の点で質的に変化し

¹ 単身世帯の世帯人員は一人なので、個人の側面からみれば「単身者」となる。本稿では、世帯でみる場合には「単身世帯」、個人としてみる場合には「単身者」という用語を使うが、両者は同一の対象を示す。

² 総務省『国勢調査』各年版。

³ 2030年の単身世帯数は、総務省『平成17年国勢調査』をベースにした国立社会保障・人口問題研究所による推計（国立社会保障・人口問題研究所編『日本の世帯数の将来推計（全国推計）—2008年3月推計』）。なお、2005年の国勢調査をベースにした上記推計によれば、2010年の単身世帯数は1,571万世帯、全人口に占める割合は12.4%とみられていたが、2010年の実績値では、単身世帯数1,679万世帯、全人口に占める割合は13.1%となっている。2010年の実績値は、2015年の推計（単身世帯数1,656万世帯、全人口に占める単身者の割合13.2%）とほぼ同程度であり、いわば5年分単身世帯化が速く進んでいるとみることができる。

⁴ 詳しくは、藤森克彦（2010）『単身急増社会の衝撃』日本経済新聞出版社：pp.53-57参照。

⁵ 国立社会保障・人口問題研究所編『日本の世帯数の将来推計（全国推計）—2008年3月推計』

⁶ 総務省『平成22年国勢調査』

⁷ 国立社会保障・人口問題研究所編『日本の世帯数の将来推計（全国推計）—2008年3月推計』

ている。こうした中、単身世帯に属する人（以下、単身世帯と省略）の意識面や実態面を考察することは、今後の対応を考える上で意義がある。そこで本稿では、単身世帯の生きがい及び仕事・生活面の満足度などを考察する。単身世帯は同居家族がないので、生きがいなどの点で二人以上世帯とは異なった様相が現れるだろう。

また、退職後の生活について単身者の考え方もみていく。例えば、未婚の単身者が高齢期を迎えた場合、子供がないので老後を家族に頼ることが一層困難になることが考えられる。退職後に向けた準備という点でも、二人以上世帯とは異なった対応が求められる。

本稿の構成としては、第1節で分析の視点を示し、第2節で「単身世帯の生きがい」について二人以上世帯との比較や、単身男性と単身女性の差異をみる。そして第3節では「単身世帯の仕事面の満足度」、第4節では「単身世帯の生活面の満足度」を取り上げて、前節と同様に二人以上世帯との比較などをする。最後の第5節では、「単身世帯の退職後」をテーマに、単身世帯が退職後の仕事のあり方や介護をどのように考えているかという点を考察する。

2 分析の視点と留意点

2.1 分析の枠組み

本稿では、単身世帯について、「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」「退職後の生活に向けた考え方」を個別に分析して、単身世帯の生きがい及び生活面や仕事面で満たされている点や欠けている点などを明らかにしていく。そして上記のテーマについて、主に以下の三つの視点から考察する。

第一に、単身世帯と二人以上世帯の比較である。二人以上世帯には、単身世帯を除く全ての世帯類型が含まれる。ただし、後述する通り、本稿が用いるアンケート調査のサンプルをみると、二人以上世帯の94%が有配偶者となっている。一方、単身世帯のサンプルには有配偶者は一人も含まれていない⁸。したがって、両世帯の比較は概ね「配偶者のいない単身世帯」と「配偶者のいる二人以上世帯」の比較といえる。

第二に、単身男性と単身女性の比較である。「生きがい」「仕事の満足度」「生活の満足度」「退職後の生活に向けた考え方」という点では、同じ単身世帯であっても男女の違いが影響している可能性があるため、単身男女の違いも明らかにしていく。

第三に、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」を比較して、同じ単身世帯であるのに、どのような差異があるのか、という点を考察する。また、仕事面や生活面における特定項目についても、それが「満たされている単身世帯」と「欠けている単身世帯」の比較を行なって両者の差異を考察する。

⁸ 「有配偶の単身世帯」とは、単身赴任や別居などによって一人暮らしをする人が考えられる。アンケート調査のサンプルには、有配偶の単身世帯は含まれていない。

2.2 サンプルの特徴

本稿では、財団法人年金シニアプラン総合研究機構が 2011 年に実施したアンケート調査「第 5 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」（以下、「アンケート調査」と示す）の個票を用いて分析する。サンプルの特徴として、以下の点に留意する必要がある。

第一に、アンケート調査の対象からは国民年金第 1 号被保険者が除かれている点である。具体的には、「配偶者のいないパートタイマー（通常の就労者の所定労働時間の 4 分の 3 以下の労働者）」が調査対象になっていない。また、今回のサンプルに「有配偶の単身者」がいないことを勘案すると、調査対象からは「パートタイム労働に従事する単身者」が除かれることになる。一般に単身世帯は、二人以上世帯と比較してパートタイマーを含む非正規労働者の比率が高いことが指摘されているので⁹、本調査で「パートタイム労働に従事する単身者」を扱っていない点には留意が必要である。

なお、配偶者のいない非正規労働者のうち、パートタイマーが除かれるだけで、全ての非正規労働者が除かれるわけではない。例えば、週所定労働時間が 4 分の 3 以上働く派遣社員は、第 2 号被保険者となる。また、「配偶者のいるパートタイマー」は、配偶者が被用者（国民年金第 2 号被保険者）であり、かつ本人（パートタイマー）の年収が 130 万円未満であれば、本人は第 3 号被保険者となってアンケート調査の対象となる。実際、本調査の対象者のうち、単身世帯に占める非正規労働者の割合は 13.3%、二人以上世帯の同割合は 12.4%となっている。

第二に、単身世帯と二人以上世帯との比較に関連して、サンプルに以下の特徴があることを留意する必要がある。

- ① 二人以上世帯と比較して、単身世帯のサンプル数が少ない。具体的には、二人以上世帯のサンプル数が 4,693 人にのぼるのに対して、単身世帯のサンプル数は 452 人と 10 分の 1 程度の水準となっている。なお、二人以上世帯に属する人は世帯主に限らない。
- ② 男女別にみると、単身世帯は二人以上世帯に比べて男性の比率が若干高い。具体的には二人以上世帯に属する男性は 53.9%なのに対して、単身世帯は 59.5%となっている。
- ③ 年齢階層別にみると、単身世帯では相対的に若い年齢階層の比率が高い。例えば、単身世帯総数に占める 35～44 歳の単身者の割合は 37.2%なのに対して、二人以上世帯では 28.7%となっている（図表 7-1）。
- ④ 配偶関係をみると、二人以上世帯ではほぼ全ての年齢階層で 9 割以上が有配偶者であるのに対して、単身世帯では 35・64 歳で未婚者の比率が 5～8 割程度の水準になっている（図表 7-2）。また、単身世帯には有配偶者がいない。つまり、単身世帯と二人以上世帯の比較は、概ね「配偶者のいない単身世帯」と「配偶者のいる二人以上世帯」の比較といえる。

第三に、アンケート調査の手法として、インターネット調査が用いられたことである。このためインターネットの利用者層がサンプルになっていて、利用していない人は事実上対象外となっている。

⁹ 二人以上世帯と比べて、単身世帯に非正規労働者の比率が高いことは、藤森克彦（2010）『単身急増社会の衝撃』日本経済新聞出版社：p.112 参照。なお、夫婦で自営業を営む人も第 1 号被保険者になるので、アンケートの対象から除かれている。

〔図表 7-1〕 単身世帯と二人以上世帯の男女別・年齢階層別のサンプル数 (単位：人)

	単身世帯			二人以上世帯		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
総数	452 (100%)	269 (59.5%)	183 (40.5%)	4,693 (100%)	2,530 (53.9%)	2,163 (46.1%)
年齢階層別割合	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)	(100%)
35-44 歳	168 (37.2%)	115 (42.8%)	53 (29.0%)	1,345 (28.7%)	695 (27.5%)	650 (30.0%)
45-54 歳	119 (26.3%)	69 (25.7%)	50 (27.3%)	1,111 (23.7%)	570 (22.5%)	541 (25.0%)
55-64 歳	85 (18.8%)	55 (20.4%)	30 (16.4%)	1,177 (25.1%)	651 (25.7%)	526 (24.3%)
65-74 歳	80 (17.7%)	30 (11.2%)	50 (27.3%)	1,060 (22.6%)	614 (24.3%)	446 (20.6%)

(注) 総数とは、サンプルとなっている「単身世帯に属する人」や「二人以上世帯に属する人」の総人数及び各男女別人数。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第 5 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

〔図表 7-2〕 単身世帯と二人以上世帯の配偶関係別・年齢階層別サンプル数 (単位：人)

	総数	未婚	離別	死別	有配偶
単身世帯 総数	452 (100%)	270 (59.7%)	141 (31.2%)	41 (9.1%)	0 (0%)
35-44 歳	168 (100%)	139 (82.7%)	28 (16.7%)	1 (0.6%)	0 (0%)
45-54 歳	119 (100%)	72 (60.5%)	45 (37.8%)	2 (1.7%)	0 (0%)
55-64 歳	85 (100%)	41 (48.2%)	36 (42.4%)	8 (9.4%)	0 (0%)
65-74 歳	80 (100%)	18 (22.5%)	32 (40.0%)	30 (37.5%)	0 (0%)
二人以上世帯 総数	4,693 (100%)	182 (3.9%)	114 (2.4%)	61 (1.3%)	4,336 (92.4%)
35-44 歳	1,345 (100%)	105 (7.8%)	31 (2.3%)	2 (0.1%)	1,207 (89.7%)
45-54 歳	1,111 (100%)	52 (4.7%)	36 (3.2%)	4 (0.4%)	1,019 (91.7%)
55-64 歳	1,177 (100%)	20 (1.7%)	34 (2.9%)	23 (2.0%)	1,100 (93.5%)
65-74 歳	1,060 (100%)	5 (0.5%)	13 (1.2%)	32 (3.0%)	1,010 (95.3%)

(注) 総数とは、サンプルとなっている「単身世帯に属する人」や「二人以上世帯に属する人」の総人数及び各男女別人数。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第 5 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)より筆者作成。

3 単身世帯と生きがい

本節では、単身世帯の生きがいについて考察していこう。具体的には、「現在、生きがいをもっているか(生きがいの有無)」「どのようなことに生きがいを感じるか(生きがいの対象)」について、二人以上世帯と比較しながら、単身世帯の特徴を明らかにする¹⁰。その上で、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」を比較して、各々どのような特徴があるのかを考察する。

3.1 単身世帯と二人以上世帯の「生きがい」の有無

単身世帯では、どの程度の人が生きがいをもっているのだろうか。二人以上世帯と比較していこう。

アンケート調査では、「生きがいを表すのに最も適当な表現(生きがいの意味)」を10個の選択肢から2つ選ばせた上で、そこで選んだ「生きがい」について「現在、もっているかどうか」を尋ねている。ちなみに、「生きがいを表すのに最も適当な表現」は、単身世帯と二人以上世帯では大きな違いはみられない¹¹。

単身世帯と二人以上世帯で生きがいをもつ人の割合を比較すると、単身世帯では生きがいをもつ人の割合が低い。具体的には、二人以上世帯では54.4%が生きがいをもつものに対して、単身世帯では42.0%であり、有意な差となっている(図表7-3)。男女別・年齢階層別にみると、単身男性の「35～44歳」「45～54歳」、単身女性の「35～44歳」では3割強の人しか生きがいをもっていない。

¹⁰ 「生きがいの場」についての設問もあるが(問17-1～問17-9)、「選択肢から2つまで選ぶ」という内容になっている。単身世帯と二人以上世帯の比率の比較が困難なため、本稿の調査項目からは除いた。

¹¹ 単身世帯と二人以上世帯の上位5位は同じ項目であり、両世帯が選んだ項目の割合も大きな差はない。具体的には、①「生きる喜びや満足感」(単身世帯42.7%、二人以上世帯44.9%)、②「心の安らぎや気晴らし」(同29.9%、30.2%)、③「生活の活力やはりあい」(同26.8%、28.1%)、④「生きる目標や目的」(23.5%、18.1%)、⑤「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事」(18.4%、17.0%)となっている(問15-1)。

〔図表 7-3〕 生きがいをもつ人の割合

(単位：%)

	単身世帯			二人以上世帯		
	総数 (n=452)	男性 (n=269)	女性 (n=183)	総数 (n=4,693)	男性 (n=2,530)	女性 (n=2,163)
総 数	42.0	37.9	48.1	54.4	56.2	52.4
35-44 歳	33.3	34.8	30.2	48.9	51.5	46.2
45-54 歳	37.8	31.9	46.0	47.7	49.6	45.7
55-64 歳	42.4	40.0	46.7	55.5	55.6	55.3
65-74 歳	66.3	60.0	70.0	67.4	68.2	66.1

(注 1) 10 個の選択肢から「生きがいを表すのに最も適当な言葉」を二つ選ばせ、選択した「生きがいを表す言葉」について「あなたは現在持っていますか」を尋ねている。回答は、「もっている」「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」「わからない」の 4 つの中から一つを選ぶ。上記表は、単身者において「もっている」を選んだ人の割合。

(注 2) 網掛け部分は、生きがいをもつ人の割合が 30% 台の箇所。

(注 3) 「生きがいをもつ単身世帯 (総数)」と、「生きがいをもつ二人以上世帯 (総数)」の比率の差を検定すると、 P 値 = $0.000^{***} < 0.01$ で有意。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第 5 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011) 問 15-2 により筆者作成。

3.2 生きがいの対象 —どのようなことに生きがいを感じるか

それでは、単身世帯は、どのような対象に生きがいを感じるのだろうか。二人以上世帯と比較していこう。

単身世帯の「生きがいの対象」について上位 3 位をあげると、「趣味」(53.8%)、「一人で気ままに過ごすこと」(36.9%)、「仕事」(22.8%) となっている (図表 7-4)。一方、二人以上世帯の上位 3 位は、「子ども・孫・親などの家族・家庭 (以下、「家族・家庭」と省略)」(49.7%)、「趣味」(49.0%)、「配偶者・結婚生活」(29.5%) である。

両世帯とも 5 割前後の人が「趣味」を生きがいの対象としており、「趣味」については有意な差はない。注目すべきは、二人以上世帯では、「家族・家庭」「配偶者・結婚生活」といった家族関連項目を生きがいの対象とする人の割合が高いことだ。これに対して単身世帯では、同居家族がないので、家族関連項目を生きがいの対象とする人の比率が相対的に低い。その代わりに、単身世帯では「一人で気ままに過ごすこと」「仕事」「友人など家族以外の人との交流」などの比率が高くなっている。

また、単身世帯と二人以上世帯で有意に差のある項目のうち、二人以上世帯の比率が単身世帯を上回るのは、「家族・家庭」と「配偶者・結婚生活」のみである。これ以外の項目では、単身世帯が二人以上世帯の割合を上回っている。この点からすれば、単身世帯の生きがいの対象は分散化しているのに対して、二人以上世帯の生きがいの対象は「家族・家庭」や「配偶者・結婚生活」といった家族関連項目に集中する傾向がみられる。

【図表 7-4】 どのようなことに生きがいを感じるか

—単身世帯と二人以上世帯の比較—

(単位：%)

	単身世帯 (n=452)			二人以上世帯 (n=4,693)			<AとD>正 規近似法に よる比率差 の検定	<BとC>正 規近似法に よる比率差 の検定
	総 数 (A)	男性 (269) (B)	女性 (183) (C)	総 数 (D)	男性 (2,530)	女性 (2,163)		
趣 味	53.8 ①	57.6 ①	48.1 ①	49.0 ②	54.1 ①	43.1 ②	0.055	0.046*
一人で気まま に過ごすこと	36.9 ②	35.3 ②	39.3 ②	14.9	13.1	17.1	0.000***	0.384
仕 事	22.8 ③	26.8 ③	16.9	18.4	23.5	12.5	0.024**	0.015**
友人など 家族以外の人 との交流	21.2	15.6	29.5 ③	15.4	10.5	21.2	0.001**	0.000***
自分自身 の内面	17.9	16.4	20.2	13.8	9.9	18.4	0.017**	0.293
子ども・孫・ 親などの 家族・家庭	14.6	11.2	19.7	49.7 ①	47.9 ②	51.8 ①	0.000***	0.012**
自分自身の 健康づくり	14.6	14.1	15.3	11.7	11.5	12.0	0.071*	0.729
スポーツ	14.2	17.1	9.8	12.7	16.6	8.1	0.368	0.030**
自然との ふれあい	13.3	13.0	13.7	13.5	14.2	12.8	0.889	0.842
配偶者・ 結婚生活	0.0	0.0	0.0	29.5 ③	31.9 ③	26.7 ③	0.000***	-
学習活動	6.9	6.7	7.1	3.3	3.1	3.6	0.001***	0.865
社会活動	4.2	2.6	6.6	5.7	6.2	5.2	0.177	0.040**
その他	3.5	3.0	4.4	1.9	1.2	2.6	0.016**	0.430

(注1) 「あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか」という設問について、項目ごとに回答を求めたもの(複数回答可)。

(注2) 数字の下にある丸数字は、比率の高い順に上位3位の順位を示す。

(注3) 「男性」「女性」の下の括弧内の数字は、サンプル数(n)を示す。

(注4) 網掛け部分は、「単身世帯と二人以上世帯」あるいは「単身男性と単身女性」で、有意な差があつて、かつ注目すべき箇所。

(注5) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。

出典:財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問16により筆者作成。

次に、単身男性と単身女性の間で生きがいの対象を比較すると、「一人で気ままに過ごすこと」については、単身男女で有意な差はない。しかし単身男性では、単身女性に比べて、「趣味」(57.6%)、「仕事」(26.8%)、「スポーツ」(17.1%)を生きがいの対象とする人の比率が高い。特に、「仕事」は単身女性との比率の差が大きく、単身女性よりも約10%ポイント高い。

一方、単身女性では、単身男性に比べて、「友人など家族以外の人との交流」(29.5%)、「家族・家庭」(19.7%)、「社会活動」(6.6%)を生きがいの対象とする人の割合が高い。特に、「友人など家族以外の人との交流」は単身男性よりも約11%ポイント高い。

以上のように、単身男性と単身女性を比べると、単身男性は「趣味」「仕事」、単身女性は「友人など家族以外の人との交流」「家族・家庭」を生きがいの対象とする人の割合が高い点に特徴がある。

3.3 「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」の比較

先にみた通り、単身世帯で生きがいをもつ人の割合は42.0%であり、同じ単身世帯でありながら「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」がある。両者にはどのような差異があるのだろうか。以下では、「生きがいの対象」について、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」に分けて考察していこう¹²。

まず、両世帯の比率の差が有意であった項目のうち、「生きがいをもつ単身世帯」の比率が「生きがいをもたない単身世帯」を上回っていたのは、「趣味」「仕事」「家族・家庭」「スポーツ」「学習活動」「社会活動」である（図表 7-5）。このうち「仕事」は、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」の比率の差（14.6%ポイント）が最も大きい項目となっている。単身世帯の生きがいには、「仕事」が一つの大きな役割を果たしていると推察される。

一方、「生きがいをもたない単身世帯」では、「一人で気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人が41.1%いて、「生きがいをもつ単身世帯」の28.9%に比べて12.2%ポイント高い。一概にはいえないが、一人の活動よりも他者との交流の方が生きがいをもつことにつながりやすいのかもしれない。

次に生きがいの有無によって単身男性間で比較すると、「生きがいをもつ単身男性」は有意に差のある全項目—「趣味」「仕事」「スポーツ」「学習活動」「社会活動」—で「生きがいをもたない単身世帯」よりも高い比率になっている。

同様に、生きがいの有無によって単身女性間で比べると、「生きがいをもつ単身女性」は「家族・家庭」「学習活動」「社会活動」を生きがいの対象とする人の割合が高い。一方、「仕事」は有意な差がなく、単身女性の生きがいの大きな要素となっていない。また、「一人で気ままに過ごすこと」は、「生きがいをもたない単身女性」で5割弱の高い水準にあり、「生きがいをもつ単身女性」を大きく上回っている。

¹² アンケート調査では「現在、生きがいをもっていない」と回答した人々にも「生きがいの対象」を尋ねている。

【図表 7-5】 どのようなことに生きがいを感じるか

—「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」の比較—

(単位：%)

	生きがいをもつ 単身世帯			生きがいをもたない 単身世帯			<総数> 正規近似法 による比率 差の検定	<男性> 正規近似法 による比率 差の検定	<女性> 正規近似法 による比率 差の検定
	(n=190)			(n=175)					
	総数 (A)	男性 (102) (B)	女性 (88) (C)	総数 (D)	男性 (119) (E)	女性 (56) (F)			
趣味	57.9 ①	65.7 ①	48.9 ①	48.6 ①	51.3 ①	42.9 ②	0.074*	0.030**	0.481
一人で気ままに過ごすこと	28.9 ②	28.4 ③	29.5 ③	41.1 ②	37.8 ②	48.2 ①	0.015**	0.141	0.024**
仕事	28.9 ②	38.2 ②	18.2	14.3	16.0 ③	10.7	0.001***	0.000***	0.225
友人など家族以外の人との交流	24.2	17.6	31.8 ②	18.9 ③	16.0	25.0 ③	0.215	0.739	0.380
家族・家庭	18.9	13.7	25.0	12.0	11.8	12.5	0.068*	0.662	0.068*
スポーツ	17.9	22.5	12.5	10.9	13.4	5.4	0.057*	0.077*	0.158
自分自身の内面	17.9	14.7	21.6	16.0	16.8	14.3	0.630	0.670	0.274
自然とのふれあい	16.8	14.7	19.3	15.4	16.8	12.5	0.714	0.670	0.285
自分自身の健康づくり	15.8	13.7	18.2	13.1	14.3	10.7	0.473	0.905	0.225
学習活動	11.1	10.8	11.4	4.0	4.2	3.6	0.011**	0.060*	0.099*
社会活動	8.4	4.9	12.5	1.1	0.8	1.8	0.001**	0.064*	0.023**
その他	2.1	2.0	2.3	6.3	5.0	8.9	0.044**	0.222	0.070

(注1) 「あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか」という設問について、項目ごとに回答を求めたもの(複数回答可)。

(注2) 「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」の区分は、「生きがいを表すのに最も適当な表現」を10個の選択肢から二つ選ばせた上で、選択した「生きがいを表す言葉」について「現在もっているかどうか」を尋ねた設問に基づく(問15-2)。「生きがいをもつ単身世帯」は「持っている」と回答した単身世帯であり、「生きがいをもたない単身世帯」は「前はもっていたが、今はもっていない」「持っていない」と回答した単身世帯。

(注3) 数字の下にある丸数字は、比率の高い順に上位3位の順位を示す。

(注4) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。網掛け部分は有意に差のある箇所。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問16により筆者作成。

3.4 第3節のまとめ

本節をまとめると、下記の点があげられる。

第一に、単身世帯は、二人以上世帯と比べて、生きがいをもつ人の割合が低い。そして、「生きがいの対象」を単身世帯と二人以上世帯で比べると、二人以上世帯では家族関連項目を生きがいの対象とする人の割合が高く、生きがいの対象が集中化する傾向がみられる。一方、単身世帯は「一人で気ままに過ごすこと」「仕事」「友人など家族以外の人との交流」と

いった項目で比率が高く、生きがいの対象が分散化している。

第二に、単身男性と単身女性で比較すると、特徴的なのは、単身男性では「趣味」「仕事」を生きがいの対象とするのに対して、単身女性は「友人など家族以外の人との交流」「家族・家庭」といった「人との交流」を生きがいの対象とする人の割合が高い点があげられる。

第三に、「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」を比べると、「生きがいをもつ単身世帯」では単身男性を中心に「仕事」が重要な要素となっている。一方、単身女性の生きがいには「仕事」はあまり影響していない。

また、「生きがいをもたない単身世帯」では「一人で気ままに過ごすこと」の割合が高い。一概には言えないが、一人の活動よりも人との交流の方が、生きがいをもつことにつながりやすいのかもしれない。

4 単身世帯の仕事面の満足度

前節でみたように、単身世帯の生きがいにとって「仕事」は一つの重要な要素となっている。それでは単身世帯は、仕事に満足しているのだろうか。また単身世帯は、仕事や職場においてどのような点に満足し、どのような点に不満を感じているのであろうか。

以下では、二人以上世帯などと比較しながら、単身世帯の仕事の満足度を考察していこう。なお、アンケート調査では無職者も含めて仕事の満足度を尋ねているが、本節では無職者を除き、有職者のみをサンプルとする。

4.1 仕事や職場に対する全体的な満足度

まず単身世帯は、全体として仕事や職場に満足しているのだろうか。〔図表 7-6〕は、「全体として、現在の仕事や職場について、どのように感じているか」という設問に対して、「とても満足している（5点）」「やや満足している（4点）」「どちらともいえない（3点）」「やや不満である（2点）」「とても不満である（1点）」という配点をして、単身世帯と二人以上世帯に分けて点数化したものである。

その結果をみると、単身世帯は二人以上世帯と比べて仕事や職場への満足度が低い¹³。また、単身男性、単身女性、二人以上世帯の男女で点数を比べると、単身女性の点数（3.01点）が最も低い水準になっている。この点、単身女性の点数を就業形態別にみると、単身女性のうち正規社員の点数は3.02点なのに対して、同非正規社員は2.95点となっていて非正規社員の点数が低い。さらに、年齢階層別に「不満」と回答した人の割合をみると、35～54歳の単身女性の3割以上の人が不満をもち、単身男性や二人以上世帯と比べて高い水準にある。

ちなみに、二人以上世帯に属する女性の仕事の満足度（3.48点）は、単身男女や二人以上世帯の男性を上回り最も高い水準にある（図表 7-6）。そして二人以上世帯の女性のうち、正規社員の満足度は3.38点なのに対して第3号被保険者は3.56点であり、第3号被保険者の

¹³ ウィルコクソンの順位和検定では、単身世帯総数と二人以上世帯総数の満足度には有意な差がある（有意確率=0.000***）。一方、単身男性総数と単身女性総数の満足度は、有意な差があるとはいえない（有意確率=0.319>0.1）。

満足度が高い。第3号被保険者の多くは非正規労働者と考えられるので、単身女性とは逆の結果になっている。

この背景には、第3号被保険者は家計補助的に非正規労働に従事することが一因ではないか。つまり、単身女性の多くは「家計の主たる担い手」であるのに対して、第3号被保険者は「家計の補助的」に働く人が多い。このため、単身女性に比べて不満をもちにくい面があるのではないかと推察される。

【図表 7-6】 仕事や職場を全体的にみた場合の満足度

—単身世帯と二人以上の比較—

	単身世帯 (n=362)		二人以上世帯 (n=2,845)				
	男性 (n=226)	女性 (n=136)	世帯	男性 (n=1,903)	女性 (n=942)		
平均点数 (点)	3.09	3.14	3.01	3.37	3.31	3.48	
(%)	「不満」と回答した人の割合	25.7	21.7	32.4	18.0	20.2	13.6
	35-44 歳	25.6	20.4	37.3	21.2	25.2	13.2
	45-54 歳	28.6	24.2	34.8	20.7	21.2	19.9
	55-64 歳	27.0	25.0	29.6	14.6	16.8	9.3
	65-74 歳	8.7	9.1	8.3	5.5	5.7	5.2

(注1) 「現在の仕事や職場について全体としてどのように感じているか」という設問に対する回答。点数は、「とても満足している (5点)」「やや満足している (4点)」「どちらともいえない (3点)」「やや不満である (2点)」「とても不満である (1点)」という配点をして、回答者の割合で加重平均したものの。

(注2) 「不満と回答した人の割合」は、「やや不満」「とても不満」と回答した人の割合の合計。

(注3) 網掛け部分は、不満をもつ人の割合が30%を超える箇所

(注4) 上記表は、有職者のみをサンプルにしている。

出典:財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011) 問10-8により筆者作成。

4.2 単身世帯は仕事や職場のどのような点に不満を感じているか

では、単身世帯は、仕事や職場のどのような点に不満を感じているのだろうか。アンケート調査では、仕事や職場について7項目に分けて満足度を尋ねている。

その結果をみると、全ての項目において単身世帯は二人以上世帯よりも満足度が低く、「福利厚生」を除いて有意な差がある(図表7-7)。また、点数の低い項目をあげると、単身世帯も二人以上世帯も「賃金」「業績評価の公平さ」「福利厚生」で満足度が低い。

さらに、単身男性と単身女性を比べると、有意に差のある項目としては「賃金」「業務評価の公平さ」「職場での地位の高さ」があげられ、いずれも単身女性の満足度が低い。この背景には、賃金や業務評価などの面で女性に不利な雇用慣行が影響しているのではないかと推察される。

〔図表 7-7〕 仕事や職場に関する項目別満足度

(単位：点)

	単身世帯 (A)	(n=362)		二人以上世帯 (D)	(n=2,845)		<AとD> ウィルコクソンの 順位和検定	<BとC> ウィルコクソンの 順位和検定
		男性 (226) (B)	女性 (136) (C)		男性 (1,903)	女性 (942)		
就業形態	3.39	3.46	3.28	3.60	3.59	3.63	0.000***	0.125
仕事の内容	3.25	3.32	3.15	3.59	3.55	3.68	0.000***	0.114
職場の人間関係・雰囲気	3.16	3.22	3.07	3.37	3.33	3.44	0.001***	0.397
職場での地位の高さ	3.11	3.20	2.96	3.37	3.37	3.36	0.000***	0.022**
福利厚生	2.90 ③	2.96 ③	2.80 ③	2.96 ②	2.99 ③	2.90 ①	0.421	0.346
業務評価の公平さ	2.73 ②	2.81 ②	2.59 ②	2.99 ③	2.95 ②	3.06 ③	0.000***	0.047**
賃金	2.60 ①	2.69 ①	2.46 ①	2.86 ①	2.83 ①	2.92 ②	0.000***	0.069*

(注1) 現在の仕事や職場における各項目の状況を「どのように感じているか」という設問(問10)に対する回答。点数は、「とても満足している(5点)」「やや満足している(4点)」「どちらともいえない(3点)」「やや不満である(2点)」「とても不満である(1点)」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。

(注2) 上記表は、有職者のみをサンプルにしている。

(注3) 点数の横にある丸数字は、世帯ごとに点数の低い方の順位。

(注4) 男性、女性の下にある括弧内の数字は、サンプル数(n)。

(注5) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。網掛け部分は有意に差のある箇所。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問10により筆者作成。

4.3 「仕事に満足している単身世帯」と「不満をもつ単身世帯」の比較

先にみた通り、単身世帯の25.7%が仕事や職場に不満をもっていた。では、同じ単身世帯でありながら「仕事に満足している単身世帯」と「不満をもつ単身世帯」では何が異なるのであろうか¹⁴。

まず、「仕事に満足している単身世帯」と「不満をもつ単身世帯」の男女比率を比べると、「仕事に不満をもつ単身世帯」は女性の比率が高い。具体的には、単身世帯総数に占める女性比率は40.5%となっているが、「仕事に不満をもつ単身世帯」における女性比率は47.3%と高い。

また、男女別・就業形態別に「仕事に不満をもつ単身世帯」の割合をみると、単身女性は単身男性に比べて、正規社員・非正規社員に関わらず仕事に不満をもつ人の割合が高い。具体的には、単身男性で不満をもつ人は正規社員で22.6%、非正規社員で19.0%となっているが、単身女性では正規社員が31.5%、非正規労働者が38.5%となっている¹⁵。

¹⁴ 現在の仕事や職場について「全体としてどのように感じているか」を尋ね(問10-8)、「とても満足している」「やや満足している」という単身世帯を「満足している単身世帯」とし、「やや不満である」「とても不満である」という単身世帯を「不満をもつ単身世帯」とした。

¹⁵ なお、非正規労働に従事する単身男性で「不満」と回答する人の割合が相対的に低い水準になっている。

では、「仕事に満足する単身世帯」と「仕事に不満をもつ単身世帯」は、どのような項目に満足し、どのような項目に不満をもっているのか。グループごとに点数化して、下位3位をみると「仕事に満足する単身世帯」も「仕事に不満をもつ単身世帯」も、「賃金」「業務評価の公平さ」といった項目で点数が低いのは共通である（図表 7-8）。一方、「仕事に満足している世帯」では「福利厚生」の点数が低いのに、「仕事に不満をもつ単身世帯」では「職場の人間関係・雰囲気」の満足度が低い。単身男性と単身女性について「仕事に満足するグループ」と「不満をもつグループ」に分けた場合にも、同様な結果を指摘できる。「仕事に不満をもつ単身世帯」は、特に「職場の人間関係・雰囲気」への不満が強いことがひとつの特徴といえよう。

【図表 7-8】「仕事に満足する単身世帯」と「仕事に不満をもつ単身世帯」の比較

(単位：点)

	仕事に満足する単身世帯			仕事に不満をもつ単身世帯			<AとD> ウィルコクソンの順位 和検定	<BとE> ウィルコクソンの順位 和検定	<CとF> ウィルコクソンの順位 和検定
	(n=133)			(n=93)					
	総 数 (A)	男性 (82) (B)	女性 (51) (C)	総 数 (D)	男性 (49) (E)	女性 (44) (F)			
就業形態	4.09	4.12	4.04	2.56	2.69	2.41	0.000***	0.000***	0.000***
仕事の内容	4.02	4.04	3.98	2.27	2.41	2.11	0.000***	0.000***	0.000***
職場の人間関係・雰囲気	4.00	3.94	4.10	2.13 ③	2.29 ③	1.95 ③	0.000***	0.000***	0.000***
職場での地位の高さ	3.79	3.90	3.61	2.25	2.43	2.05	0.000***	0.000***	0.000***
業務評価の公平さ	3.59 ③	3.72 ③	3.37 ②	1.69 ②	1.67 ②	1.70 ②	0.000***	0.000***	0.000***
福利厚生	3.49 ②	3.51 ①	3.45 ③	2.22	2.35	2.07	0.000***	0.000***	0.000***
賃金	3.38 ①	3.52 ②	3.14 ①	1.67 ①	1.65 ①	1.68 ①	0.000***	0.000***	0.000***

(注1) 現在の仕事や職場における各項目の状況を「どのように感じているか」という設問（問10）に対して、5つの選択肢から一つを選択。点数は、5つの選択肢に対して「とても満足している（5点）」「やや満足している（4点）」「どちらともいえない（3点）」「やや不満である（2点）」「とても不満である（1点）」と配点し、回答者の割合で加重平均したものを。

(注2) 上記表は、有職者のみをサンプルにしている。

(注3) 点数の横の丸数字は、世帯ごとに下位3位の順番。網掛け部分も下位3位の箇所。

(注4) 男性、女性の下にある括弧内の数字は、サンプル数（n）を示す。

(注5) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011) 問10-8により筆者作成。

これは、非正規の単身男性のサンプル数が21人と少ないことに加えて、サンプルとなった非正規労働に従事する単身男性には50歳以上の年齢階層が多いことが影響していると思われる。というのも、男女共に年齢階層が高まるにつれて、仕事に不満をもつ人の割合は減少する傾向がみられるからである。

4.4 第4節のまとめ

本節をまとめると、下記の点があげられる。

まず、仕事や職場に対する満足度をみると、全ての項目で単身世帯は二人以上世帯よりも仕事の満足度が低い。また、単身女性で仕事に不満をもつ人の割合が高い。項目別に単身男女で比べると、単身女性は「賃金」「業務評価の公平さ」「職場での地位の高さ」で満足度が低くなっている。

また、「仕事に満足する単身世帯」と「仕事に不満をもつ単身世帯」を比べると、「仕事に不満をもつ単身世帯」は正規労働・非正規労働を問わず、女性の比率が高い。

今後、単身女性の仕事への満足度を高めることが重要になる。多くの単身女性は「主たる稼ぎ主」として働くので、賃金や業務評価など女性に不利な雇用慣行を改める必要があるだろう。

5 単身世帯の生活面の満足度

次に、単身世帯の生活の満足度を考察していこう。アンケート調査では、生活の満足度として、「友人・仲間」「近隣との交流」など13項目について満足度を尋ねている。第2節で考察した通り、友人関係など「人との交流」は、単身世帯の生きがいに影響を与える重要な項目と考えられる。以下では、単身世帯の生活の満足度について、二人以上世帯と比較していく。

5.1 単身世帯と二人以上世帯の比較

まず、生活面の満足度を点数化して単身世帯と二人以上世帯を比べると、二人以上世帯では「家族の理解・愛情」がトップなのに対して、単身世帯では「熱中できる趣味」がトップになっている（図表7-9）。第2節で指摘したことと同様に、二人以上世帯では家族関連項目の満足度が高く、単身世帯では低い。

また単身世帯は、有意に差のある全項目で二人以上世帯の点数を下回り、生活面の満足度が相対的に低い。そして、単身世帯の点数が低い下位3位は、「近隣との交流」「社会の役に立つこと」「社会的地位」である。これら下位3項目は、多少の順位の違いはあるが、二人以上世帯でも同様である。

興味深いのは、単身世帯の「人との交流」である。単身世帯では、家族関連項目の満足度が低いことから、その分、家族以外の人との交流が重要になる。この点、単身世帯において「友人・仲間」の点数は上位3位に位置づけられている。一方、「近隣との交流」は、上記で示した通り、点数が最も低い。今後単身世帯が人との交流を広げていくには、「近隣との交流」が重要になるかもしれない。

次に、単身男性と単身女性を比較すると、有意に差のある項目としては「友人・仲間」「住まいのこと」「家族の理解・愛情」「近隣との交流」があげられる。これら項目は、全て単身男性の点数が低い。このうち、「友人・仲間」「家族の理解・愛情」「近隣との交流」は人との交流に関する項目になっている。今後単身男性が人との交流で満足度をあげることは、生きがいの点でも重要になるだろう。

〔図表 7-9〕 生活の満足度

(単位：点)

	単身世帯			二人以上世帯			<AとD> ウィルコク スンの順位 和検定	<BとC> ウィルコク スンの順位 和検定
	総 数 (n=452)			総 数 (n=4,693)				
	(A)	男性 (269) (B)	女性 (183) (C)	(D)	男性 (2,530)	女性 (2,163)		
熱中できる趣味	3.50 上位①	3.49 上位①	3.51 上位③	3.52	3.56 上位②	3.48	0.649	0.579
時間的ゆとり	3.49 上位②	3.45 上位②	3.55 上位②	3.53 上位②	3.50 上位③	3.57 上位③	0.386	0.211
友人・仲間	3.26 上位③	3.05	3.57 上位①	3.54 上位③	3.46	3.63 上位②	0.000***	0.000***
健康	3.26 上位③	3.21 上位③	3.32	3.42	3.40	3.44	0.002***	0.225
住まいのこと	3.06	2.97	3.17	3.44	3.44	3.43	0.000***	0.032**
家族の理解・愛情	3.02	2.85	3.28	3.78 上位①	3.76 上位①	3.80 上位①	0.000***	0.000***
自然とのふれあい	2.95	2.98	2.91	3.23	3.24	3.23	0.000***	0.513
精神的ゆとり	2.90	2.87	2.96	3.19	3.17	3.20	0.000***	0.368
仕事のはりあい	2.81	2.84	2.75	2.96	3.02	2.89 下位③	0.002***	0.455
経済的ゆとり	2.73	2.77	2.67	3.03	2.98 下位③	3.10	0.000***	0.409
社会的地位	2.69 下位③	2.75 下位③	2.60 下位③	2.92 下位②	3.03	2.79 下位②	0.000***	0.156
社会の役に立つこと	2.51 下位②	2.49 下位②	2.55 下位②	2.78 下位①	2.81 下位①	2.74 下位①	0.000***	0.705
近隣との交流	2.40 下位①	2.32 下位①	2.53 下位①	2.93 下位③	2.88 下位②	3.00	0.000***	0.034**

(注1) 「現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思うか」という問いについて、項目ごとに回答を求めたもの(複数回答可)。点数は、「十分に満たされている(5点)」「やや満たされている(4点)」「どちらともいえない(3点)」「やや欠けている(2点)」「まったく欠けている(1点)」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。

(注2) 点数の下にある丸数字は、点数の上位3位あるいは下位3位の順位を示す。

(注3) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。網掛け部分は、有意な差のある箇所。

(注4) 男性、女性の下にある括弧内の数字は、サンプル数(n)を示す。

出典:財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問13-1~問13-13により筆者作成。

5.2 「近隣との交流に満たされている単身世帯」と「欠ける単身世帯」の比較

上記でみた通り、単身世帯の生活面の満足度では「近隣との交流」が最も低い、「人との交流」という点では今後重視すべき項目と考えられる。では、「近隣との交流に満たされている単身世帯」と「近隣との交流に欠ける単身世帯」はどのような差異があるのだろうか。二つのグループの属性を比べていこう。

まず、居住形態をみると、「近隣との交流に満たされている単身世帯」では、持ち家の一戸建てに住む人の割合が高い。具体的には、単身世帯全体の持ち家率が 23.5%なのに対して、近隣との交流に満たされる単身世帯では 50.8%と高い。一方、「近隣との交流に欠けている単身世帯」では民間の借家・アパート・マンションに住む人が 50.4%と高い（図表 7-10）。

持ち家一戸建てに住む単身者が人との交流に満足する傾向が強いのは、持ち家であればその地域に居住する年数が長くなるので、地域で人間関係を形成しやすいことがあげられる。またマンションに比べて、一戸建ての方が人間関係の距離がとりやすいことも考えられる。これに対して、民間の借家は住み替えの頻度が高く、人間関係の形成に難しい面があろう。

【図表 7-10】「近隣との交流」の有無と住居

(単位：%)

	単身世帯			<AとB>正規近似法による比率差の検定
	総数 (n=452)	「近隣との交流」に満たされる単身世帯(n=59)(A)	「近隣との交流」に欠けている単身世帯(n=242)(B)	
総数	100%	100%	100%	-
持ち家 (一戸建て)	23.5	50.8	12.8	0.000***
民間の借家・アパート・マンション	43.1	22.0	50.4	0.000***
持ち家 (分譲マンション)	23.2	20.3	24.0	0.554
公社・公団・公営の賃貸住宅	6.0	6.8	6.6	0.963
社宅・会社の寮	4.0	0.0	6.2	0.050**
その他	0.2	0.0	0.0	-

(注1) 「近隣との交流がどの程度満たされているのか」という設問に対する回答（一つ選択）。「近隣との交流が満たされている世帯」は、「十分に満たされている」「まあ満たされている」の合計。「近隣との交流に欠けている世帯」は、「やや欠けている」「まったく欠けている」の合計。

(注2) 同設問の選択肢には、「どちらともいえない」があるため、二つのグループを合計しても、単身世帯総数とは一致しない。

(注3) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011) 問13・11と問6より筆者作成。

次に、配偶関係をみると、単身世帯全体では配偶者と死別した人（死別者）の割合が 9.1%なのに、「近隣との交流に満たされる単身世帯」では死別者の割合が 23.7%と高い（図表 7-11）。一方、「近隣との交流に欠ける単身世帯」では、死別者の割合が 2.5%と低い。男女の平均余命の違いからすると、配偶者と死別して単身世帯となった人の多くは女性であることが推察される。そして生前に夫が被用者であれば、妻は専業主婦やパートタイム労働に従事する人が多いため、地域にいる時間が長く、近隣との人間関係を築きやすいのではないかと推察される。

しかし、今後増加が著しい単身者は、未婚の単身者である。未婚の単身者は、子供がいないことが考えられるので、二人以上世帯に比べて持ち家を取得する契機に乏しく、借家に住み続ける人が多いと考えられる。こうした点からすれば、今後近隣との交流は一層難しくなることが考えられる。

【図表 7-11】「近隣との交流」の有無と配偶関係

(単位：%)

	単身世帯			正規近似法 による比率 差の検定
	総数 (n=452)	「近隣との交流」に 満足する単身世帯 (n=59)	「近隣との交流」に 欠ける単身世帯 (n=242)	
総数	100%	100%	100%	-
未婚者	59.7	47.5	68.6	0.002***
離別者	31.2	28.8	28.9	0.986
死別者	9.1	23.7	2.5	0.000***
有配偶者	0.0	0.0	0.0	-

(注1) 「近隣との交流がどの程度満たされているのか」という設問に対する回答（一つ選択）。「近隣との交流が満たされている世帯」は、「十分に満たされている」「まあ満たされている」の合計。「近隣との交流に欠けている世帯」は、「やや欠けている」「まったく欠けている」の合計。

(注2) 同設問の選択肢には、「どちらともいえない」があるため、二つのグループを合計しても、単身世帯総数とは一致しない。

(注3) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問13-11と問6より筆者作成。

5.3 第5節のまとめ

本節をまとめると、下記の点があげられる。

第一に、生活の満足度を単身世帯と二人以上世帯で比べると、単身世帯は二人以上世帯よりも生活の満足度が低い。また単身世帯は、二人以上世帯に比べて「家族の理解・愛情」「近隣との交流」といった「人との交流」に関連する項目の点数が低く、また点数差も大きい。特に、「近隣との交流」は満足度が最も低く、改善の余地があろう。

そこで、「近隣との交流が満たされている単身世帯」と「近隣との交流が欠けている単身世帯」を比べると、「近隣との交流が満たされている単身世帯」では、持ち家の一戸建てに住む人の割合が高く、また、死別者の割合も高い。

しかし今後増加が著しい単身者は、未婚の単身者である。単身世帯が近隣との交流を活発にしていくには工夫が必要であり、今後の課題といえよう。

6 単身世帯の退職後

最後に、退職後の生活に向けた単身世帯の考え方を考察する。具体的には、①退職後の仕事に対する考え方、②定年退職に向けた必要な準備、③要介護になった場合の対応、について、二人以上世帯と比較しながら単身世帯の考え方を整理していく。

6.1 退職後の仕事に対する考え方

まず、「定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいのか」を尋ねると、単身世帯は「できれば仕事を継続したい」と答えた人の比率が二人以上世帯よりも低く、有意な差となっている（図表 7-12）。一方、「退職と共に職業生活から引退したい」と回答する者の割合は単身世帯の方が高く、これも有意な差となっている。単身世帯では、二人以上世帯に比べて仕事に生きがいを感じる人の比率が高かったが、意外なことに単身世帯の退職後の就業意欲は弱い。

【図表 7-12】 定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいか

(単位：%)

	単身世帯 (n=350)			二人以上世帯 (n=2,410)			<AとD> 正規近似 法による 比率差の 検定	<BとC> 正規近似 法による 比率差の 検定
	総数 (A)	男性 (218) (B)	女性 (132) (C)	総数 (D)	男性 (1,689)	女性 (721)		
できれば仕事を継続したい	28.9 ①	25.7 ②	34.1 ①	33.8 ①	34.0 ①	33.3 ①	0.066*	0.093*
退職と共に職業生活から引退したい	26.0 ②	31.7 ①	16.7 ③	21.7 ②	22.3 ②	20.4 ③	0.071*	0.002***
わからない	14.6 ③	12.8 ③	17.4 ②	12.0 ③	7.6	22.3 ②	0.170	0.239
退職後は自分で事業や商売を始めたい	9.1	11.5	5.3	7.5	8.8	4.6	0.285	0.052*
定年後も出向や再雇用制度を利用して今の会社に勤めたい	7.4	7.8	6.8	9.4	11.5 ③	4.4	0.237	0.735
退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	6.3	5.5	7.6	5.6	4.7	7.8	0.606	0.439
退職後は別の企業に再就職したい	6.0	4.1	9.1	7.9	9.3	4.6	0.215	0.058*
その他	1.7	0.9	3.0	1.2	1.1	1.5	0.425	0.140
退職後は家業を手伝いたい	0.0	0.0	0.0	0.9	0.8	1.1	0.073*	—

(注1) 「定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいか」という設問に対する回答。最も当てはまるものを一つ選択。

(注2) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。網掛け部分は、有意な差のある箇所。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」

(2011) 問 20-3-1 により筆者作成。

次に、単身男性と単身女性で比べると、「退職と共に職業生活から引退したい」と考える人が単身男性に 31.7%もいて、単身女性（16.7%）より高く、有意な差になっている。この背景には、単身女性は現役時代の所得が低いために、経済的な理由から退職後も働きたいと考える人が多いのではないだろうか。

6.2 定年退職に向けた必要な準備

次に、「定年退職に向けて、定年前に必要なだと思うこと」を尋ねると、単身世帯と二人以上世帯で有意な差がみられたのは、「経済的基盤を作る」「友人や仲間との交流を深める」「夫婦・家族の関係を大切にする」「会社以外の活動の場を作っておく」「近隣や地域の人との交流を深める」といった項目であった（図表 7-13）。単身世帯は「経済的基盤を作る」と「友人や仲間との交流を深める」の比率が高く、逆に二人以上世帯は「夫婦・家族の関係を大切にする」の比率が高い。同居家族のいない単身世帯が、退職後に備えて経済的な基盤と友人関係の強化を重視していることは妥当であろう。

ところで、単身世帯で「近隣や地域の人との交流を深める」との回答する人の比率は 5.1%であり、最も低い。退職後に備えて、居住地域との関係を重視していないが、一つの課題といえよう。他方、「会社以外の活動の場をつくっておく」との回答が 14.8%と中位に位置づけられている。しかし、どのような場が活動の場になりうるのかは、明らかでない。

なお、単身男性と単身女性の間では、定年退職に向けた必要な準備について有意な差はみられなかった。

【図表 7-13】定年退職に向けて定年前に必要なだと思うこと

(単位：%)

	単身世帯 (n=452)			二人以上世帯 (n=3,615)			<AとD> 正規近似 法による 比率差の 検定	<BとC> 正規近似 法による 比率差の 検定
	総数 (A)	男性 (269) (B)	女性 (183) (C)	総数 (D)	男性 (2,530)	女性 (2,163)		
貯蓄・住宅など、 経済的基盤を作る	71.9 ①	71.7 ①	72.1 ①	66.1 ②	65.1 ②	68.7 ①	0.014**	0.929
健康の維持・増 進に心がける	68.1 ②	66.5 ②	70.5 ②	67.4 ①	67.2 ①	67.8 ②	0.755	0.376
生涯楽しめる趣 味などをもつ	42.0 ③	41.3 ③	43.2 ③	43.8 ③	44.0 ③	43.5 ③	0.465	0.687
友人や仲間との 交流を深める	23.0	22.3	24.0	16.1	14.1	20.6	0.000***	0.666
会社以外の活動 の場をつくっておく	14.8	16.4	12.6	11.1	12.0	8.9	0.018**	0.266
定年後も活かせる 専門技術を身につける	12.4	12.3	12.6	10.0	10.9	7.8	0.117	0.924
夫婦・家族の関 係を大切にする	10.0	8.9	11.5	38.5	39.6	35.9	0.000***	0.373
特に何も必要ない	6.6	7.8	4.9	5.3	4.9	6.3	0.253	0.226
近隣や地域の人 との交流を深める	5.1	3.7	7.1	7.5	7.9	6.6	0.062*	0.108
その他	0.4	0.7	0.0	0.1	0.1	0.1	0.083*	0.242

(注1) 「定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか」という質問に対する回答（複数回答可）。なお、定年退職後の人には、定年前・退職前に準備していたことを回答するように指示されている。

(注2) 二人以上世帯の回答者からは、第3号被保険者が除かれている。

(注3) 網掛け部分は、有意な差のある箇所。

(注4) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011) 問 22-1-1 により筆者作成。

6.3 要介護になった場合の対応

最後に、自分自身が要介護になった場合の対応についてみていこう。

まず、自らが要介護になった場合の不安感を点数化すると、単身世帯は二人以上世帯よりも介護への不安感が強い(図表 7-14)。また、単身男性と単身女性を比較すると、単身女性の方が単身男性よりも強い不安感をもつ。

では、「単身世帯」は誰に介護をしてもらいたいと考えているのだろうか。単身世帯で最も多い回答は「まだ考えていない」であり、50.0%にのぼる(図表 7-15)。つまり、単身世帯の半数は、老後の介護者の具体的なイメージができていない。一方、二人以上世帯では、最も高い割合は「配偶者」(30.9%)であり、「わからない」は 29.8%となっている。希望通りになるかどうかはわからないが、少なくとも二人以上世帯は単身世帯よりも老後の介護者のイメージをもつ人の比率が高い。先述の通り、単身世帯のほうが二人以上世帯よりも介護不

安が強いのは、介護者のイメージをもてていない点が一因なのかもしれない。

また、単身世帯では二人以上世帯に比べて、「介護施設に入る」「介護サービスによる在宅介護」といった外部事業者を考える傾向も強い。

なお、単身男性と単身女性について同様の質問に対する回答比率を比べても、「配偶者」以外の項目には有意な差がみられなかった。

【図表 7-14】 自分自身の介護についてどのように考えているか

(単位：点)

	単身世帯			二人以上世帯		
	総数 (n=452)	男性	女性	総数 (n=4,693)	男性	女性
		(n=269)	(n=183)		(n=2,530)	(n=2,163)
総 数	3.02	2.87	3.25	2.87	2.79	2.96
35-44 歳	2.88	2.73	3.21	2.82	2.68	2.96
45-54 歳	3.09	2.87	3.40	2.94	2.85	3.03
55-64 歳	3.14	3.07	3.27	2.85	2.78	2.94
65-74 歳	3.09	3.00	3.14	2.88	2.86	2.91

(注1) 「大変不安 (4点)」「少し不安 (3点)」「あまり不安ない (2点)」「まったく不安ない (1点)」と配点。点数が高いほど、不安が高い。

(注2) 単身世帯総数と二人以上世帯総数には、不安感に有意な差がある(有意確率=0.000<有意水準0.05)。また、単身男性総数と単身女性総数においても、不安感に有意な差が認められる(有意確率=0.000<有意水準0.05)。

(注3) 網掛け部分は、点数が3点以上の箇所。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問31-3により筆者作成。

〔図表 7-15〕 自分の介護を誰にしてもらいたいのか

(単位：%)

	単身世帯			二人以上世帯			<AとD> 正規近似法 による比率 差の検定	<BとC> 正規近似法 による比率 差の検定
	総数 (A)	(n=452)		総数 (D)	(n=4,693)			
		男性 (269) (B)	女性 (183) (C)		男性 (2,530)	女性 (2,163)		
まだ考えていない	50.0 ①	52.8 ①	45.9 ①	29.8 ②	26.8 ②	33.2 ①	0.000***	0.151
介護施設に入る	25.2 ②	23.4 ②	27.9 ②	20.0 ③	14.5 ③	26.4 ②	0.008***	0.285
介護サービスによる在宅介護	14.4 ③	12.3 ③	17.5 ③	10.3	7.6	13.5	0.007***	0.121
自分の子供	4.9	4.5	5.5	8.2	5.1	11.7	0.013**	0.626
配偶者	3.1	4.8	0.5	30.9 ①	45.3 ①	14.1 ③	0.000***	0.010***
自分の兄弟姉妹	1.5	1.1	2.2	0.3	0.2	0.5	0.000***	0.366
その他	0.9	1.1	0.5	0.6	0.6	0.6	0.377	0.526

(注1) 上記の7つの項目の中から一つを選択。

(注2) ***1%水準で有意、**5%水準で有意、*10%水準で有意。網掛け部分は、有意な差のある箇所。

出典：財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」(2011)問32により筆者作成。

6.4 第6節のまとめ

本節をまとめると、以下の点があげられる。

第一に、単身世帯と二人以上世帯の退職後の就業意欲をみると、単身世帯は二人以上世帯よりも就業意欲が弱い。また、単身男性と単身女性で比べてみると、退職後の就業意欲は、単身男性よりも単身女性のほうが強い。この背景には、単身女性は現役時代の所得が低いために、経済的な理由から退職後も働き続けたいと考える人が多いのではないかと考えられる。

第二に、「定年退職に向けて、定年前に必要なだと思うこと」を尋ねると、単身世帯では二人以上世帯に比べて「経済的基盤」と「友人や仲間との交流」を重視する人の割合が高い。

第三に、自分自身が要介護になった場合の不安感をみると、単身世帯は二人以上世帯よりも介護不安が強い。単身男性と単身女性で介護不安を比較すると、介護不安は単身女性のほうが強くもっている。

さらに、「誰に介護をしてもらいたいのか」を尋ねると、単身世帯の5割が「まだ考えていない」という回答し、具体的な介護者のイメージを描けていない人の割合が高い。

7 おわりに

以上のように、単身世帯の生きがい、仕事面の満足度、生活面の満足度、退職後の生活に向けた考え方、を考察してきた。最後に、本稿で考察したポイントを概観する。

第一に、単身世帯と二人以上世帯で生きがいをもつ人の割合を比較すると、単身世帯では生きがいをもつ人の割合が低い。特に、単身男性の「35-44歳」「45-54歳」、単身女性の「35-44歳」では3割強の人しか生きがいをもっていない。

第二に、単身世帯と二人以上世帯の生きがいの対象の違いである。二人以上世帯では、家族関連項目を生きがいの対象とする人の比率が高く、同居家族のいない単身世帯とは大きな違いがある。そして、単身世帯では家族関連項目を生きがいの対象とする人の比率が低い分、生きがいの対象が分散化する傾向がみられた。

第三に、単身男性と単身女性で生きがいの対象を比較すると、単身男性では「仕事」、単身女性は友人関係など「人との交流」を生きがいの対象とする人の比率が高く、ひとつの特徴と考えられる。換言すれば、今後単身世帯が生きがいの対象を広げる一つの方向として、単身男性では「人との交流」を重視し、単身女性で「仕事」を重視することが考えられる。

第四に、仕事や職場に対する満足度をみると、単身女性では正規社員・非正規社員を問わず仕事の満足度が低くなっている。この背景には、賃金や業務評価など面で女性に不利な雇用慣行が影響しているのではないかと推察される。単身女性の多くは「主たる稼ぎ主」として働くので、賃金や業務評価などを含め男女を平等に扱う雇用慣行になるように是正していく必要がある。

第五に、単身男性は、友人・家族・近隣といった人々との交流の面で満足度が低い。また、退職後の生活に向けて、単身世帯では「友人・仲間との交流」を必要と考える人の比率は高いが、近隣との交流は重視されていない。「仕事」と並んで、「人との交流」は単身世帯の生きがいにとって重要な要素と考えられる。難しい課題ではあるが、社会全体で、単身男性が他者と交流できる多様な場を考えていくことも必要になるのではないかと。

最後に、生きがいや仕事・生活面において単身世帯に重要な要素は、二人以上世帯にとっても重要な要素になりうることを指摘したい。というのも、現在二人以上世帯に属している人も、配偶者との死別などによって単身世帯になる可能性がある。その意味では、二人以上世帯が、家族関連項目のみを生きがいの対象とすることはリスクがある。例えば、家族を超えた「人との交流」は二人以上世帯にとっても重要になるだろう。このような視点を含めて、単身世帯の状況を考察していくことが大切だと思われる。

第8章 男女間および現役と退職者の比較による生きがいの相違

1 はじめに

本章は、本人調査結果を男女別、および現役・退職者別に分けて両者の間にどのような回答結果の相違があるかについて各質問項目別に概観したものである。いずれも、厚生年金被保険者または厚生年金受給者で「企業年金あり」の回答者 2,693 人を対象にしている。

男女別については、男性の回答総数が 1,853 人（このうち、まだ厚生年金を受給していないが 1,243 人、現在受給しているが 610 人）、女性が 840 人（このうち、まだ厚生年金を受給していないが 569 人、現在受給しているが 271 人）となっており、男性の回答者数は女性のその 2 倍強であった。

現役・退職者別については、問 19：「あなたは定年を経験しましたか」の問いに対して、回答 1：「まだ定年前」と回答 2：「定年はない」の回答者を「現役」とし、回答 3：「定年前に退職した」と回答 4：「定年退職した」の回答者を「退職者」として 2 つにグループ分けした。この結果、「現役」の回答総数は 1,809 人（このうち、まだ厚生年金を受給していないが 1,677 人、現在受給しているが 132 人）、「退職者」は 884 人（このうち、まだ厚生年金を受給していないが 135 人、現在受給しているが 749 人）で、こちらも男女別と同様に前者が後者の 2 倍強を占める結果になった。

次節から回答結果のうち特徴的なものを列挙していくことにしたい。

本章の調査対象者の内訳（人）

	未婚	既婚	離別（離婚）	死別	合計
男性	165	1,593	73	22	1,853
女性	114	595	86	45	840

	男性	女性	合計
現役	1,241	568	1,809
退職者	612	272	884

総計
2,693

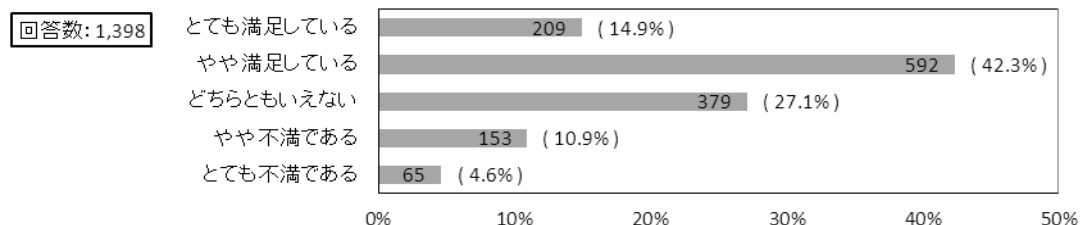
2 男女別の比較

2.1 仕事に関する満足感

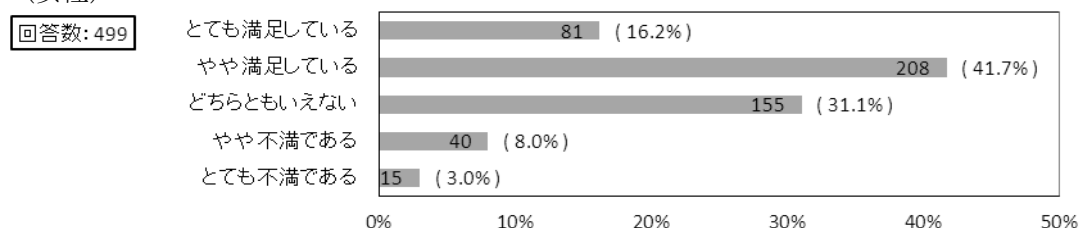
【問 10】 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。

◆問 10-(1) 仕事の内容

(男性)



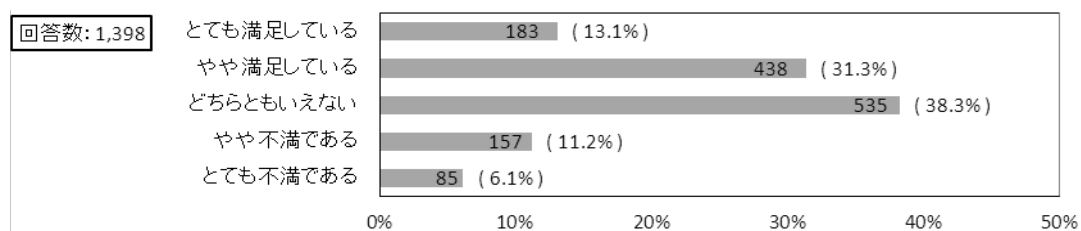
(女性)



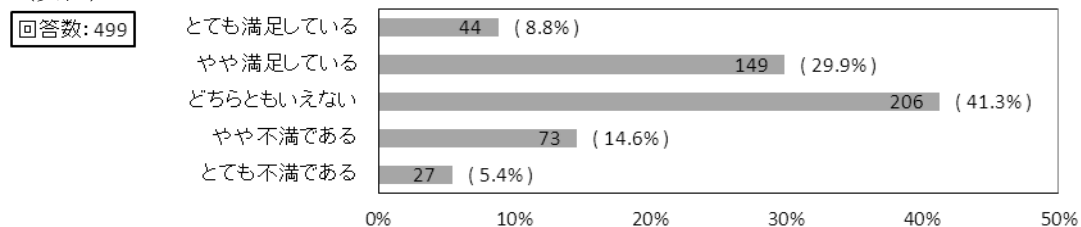
「満足している」¹は男性が 57.2%、女性が 57.9%で全体に占める割合はほぼ同程度である。ただし、「不満である」²は男性が 15.5%、女性が 11.0%と仕事に関する満足感の不足度は男性の不足度は高い一方で、「どちらともいえない」は男性が 27.1%に対して女性は 31.1%と女性の方が高くなっている。男性の方が仕事におけるポジションへのこだわりが強いことや、自分の生活に占める仕事のウェイトが高いことから、理想と現実のギャップが不満に表れていると思われる。

◆問 10-(3) 職場での地位の高さ

(男性)



(女性)



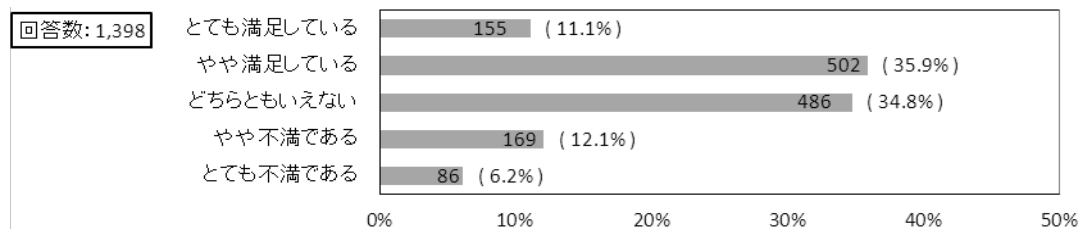
¹ 「満足している」は「とても満足している」と「やや満足している」の合計。以下同様。

² 「不満である」は「やや不満である」と「とても不満である」の合計。以下同様。

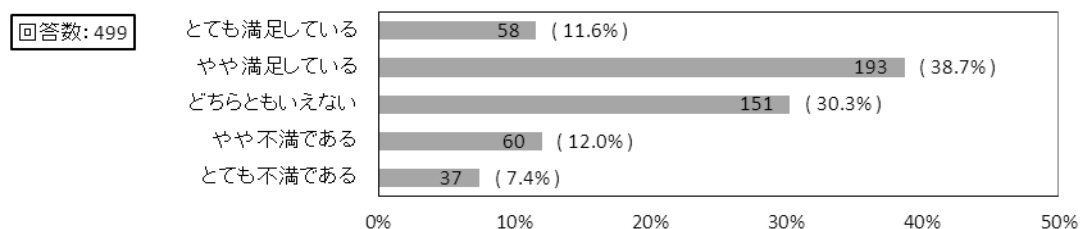
「満足している」は男性が 44.4%に対して女性は 38.7%、「不満である」は男性が 17.3%に対して女性は 20.0%と、男性の方が職場での地位の高さに関しては満足度が高く、女性は低いことがわかる。男女間での昇進・昇格の格差については、男女機会均等法の施行以降縮小傾向にあるが、それでも欧米企業に比べると十分とはいえない。依然として男性優位の職場環境を反映した結果といえよう。

◆問 10-(7) 職場の人間関係・雰囲気

(男性)



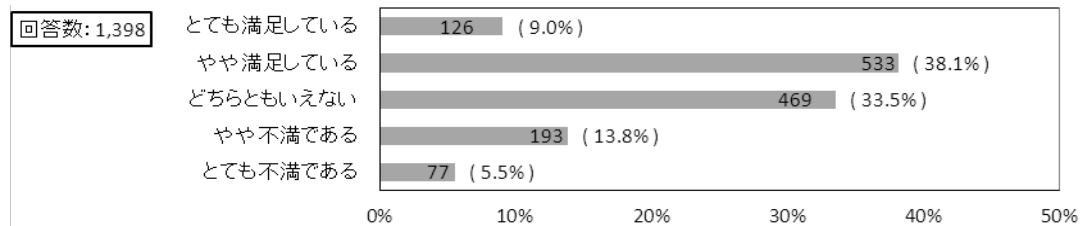
(女性)



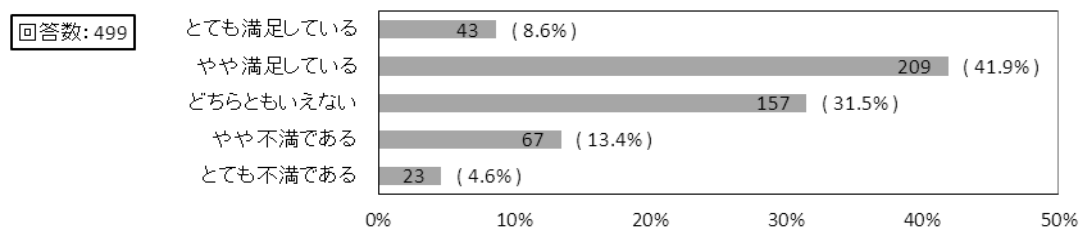
「満足している」は男性が 47.0%に対して女性が 50.3%と女性の職場の人間関係・雰囲気に対する満足度はやや高い。なお、「不満である」は男性が 18.3%に対して女性が 19.4%とほぼ同程度に収まっている。女性は男性に比べて職場でもラインの関係よりも仕事以外の会話も含めて横のつながりを大切にすることが影響していると思われる。

◆問 10-(8) 全体として

(男性)



(女性)



前掲の①仕事の内容、②職場での地位の高さ、③職場の人間関係・雰囲気 の 3 項目以外の④就業形態、⑤賃金、⑥業績評価の公平さ、⑦福利厚生 の 4 項目については男女間で大きな差異は認められなかった。

この結果、仕事全体として「満足している」は男性が 47.1%に対して女性は 50.4%、「不満である」は男性が 19.3%に対して女性は 18.0%と、女性ほうが満足度はやや高い結果になった。

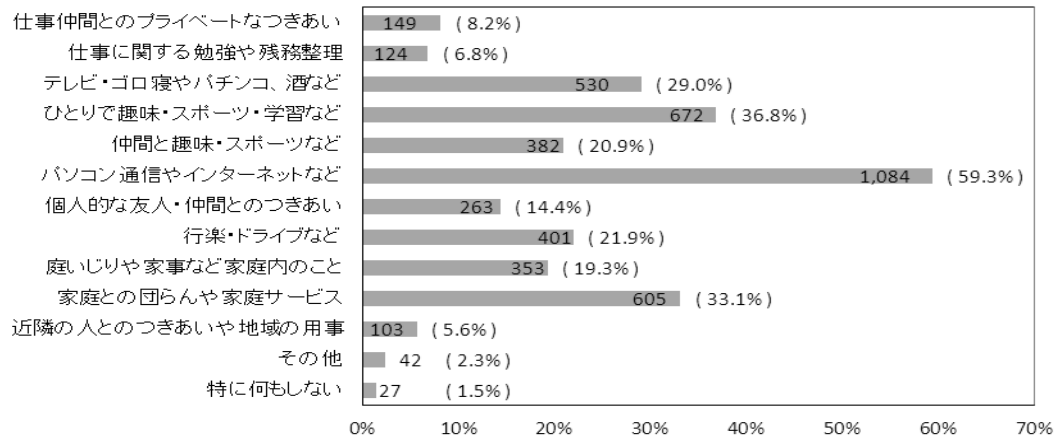
男性の場合は仕事が第一で仕事に対する期待感も高い一方で、女性はいくまでも仕事を生活の場のひとつと考え、仕事に対してある意味「割り切って」いる面もあるのだろう。この点から女性は職場での横のコミュニケーション（会話）を楽しみ、昇進・昇格にこだわらずマイペースで自分自身の生活を営んでいるものと推察される。

2.2 自由時間について

【問 11 (2)】日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。

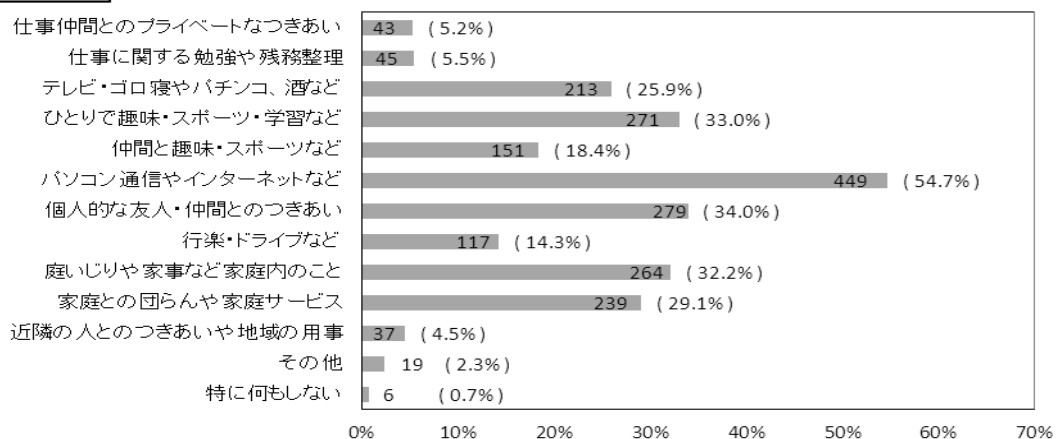
(男性)

回答数: 1,827



(女性)

回答数: 821



男女とも 1 番多いのは「パソコン通信やインターネットなど」でいずれも 5 割を超しているが、これは当調査がネットによる調査であることによるバイアスが存在している可能性があとと思われる。

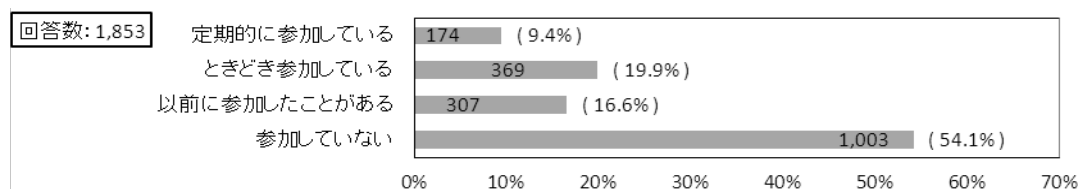
男女間で違いが顕著なのは、女性が「個人的な友人・仲間とのつきあい」や「庭いじりや家事などの家庭内のこと」など友人や家庭に関するが多かったのに対して、男性は「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」や「テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など」のように個人で、あるいは「仕事仲間とのプライベートなつきあい」といった仕事の延長線上の人間関係で自由時間を過ごす割合が女性に比べて相対的に高いことが目立っている。

なお、前問 11 (1)「自由時間の有無について」聞いているが、結果は男女間で大きな違いはなかった。

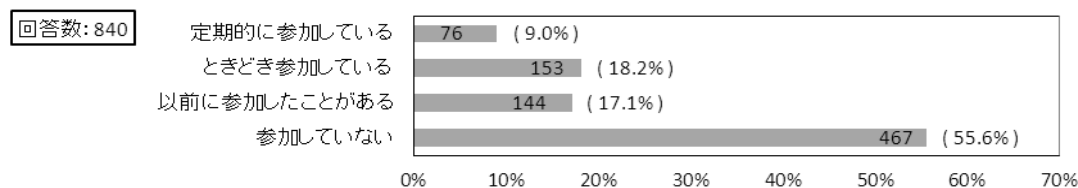
2.3 社会貢献活動³について

【問 12】あなたは、地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。

(男性)



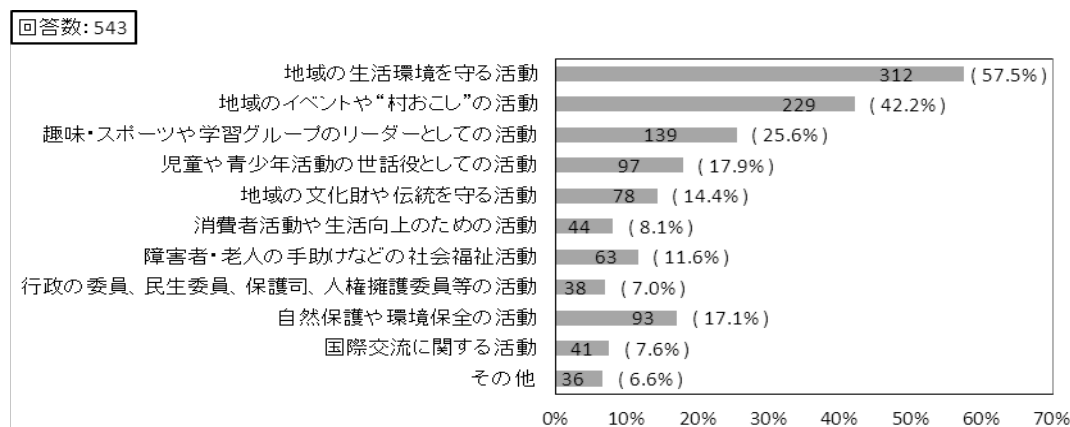
(女性)



「参加している」(定期的とときどき参加の合計)は男性が 29.3%に対して女性が 27.2%、「参加していない」は男性が 54.1%に対して女性が 55.6%と男女間で大きな違いは見られなかった。

【問 12 (1)】どのような分野の活動ですか。

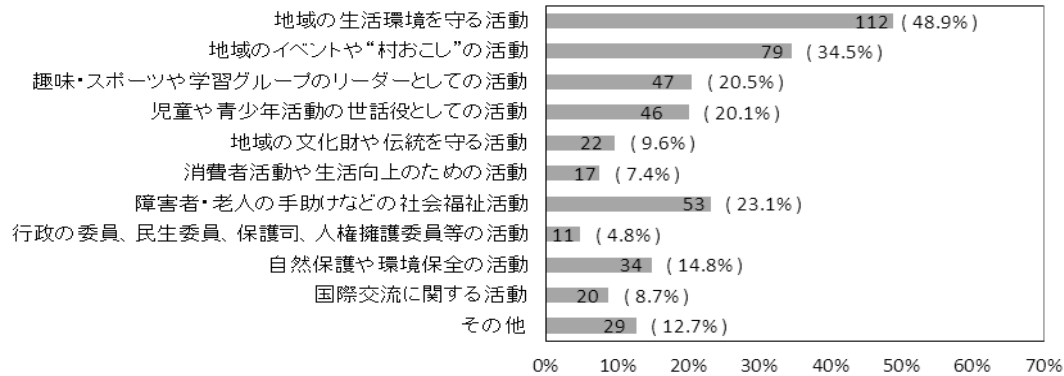
(男性)



³ 社会貢献活動とは地域活動やボランティア活動を指す。

(女性)

回答数: 229

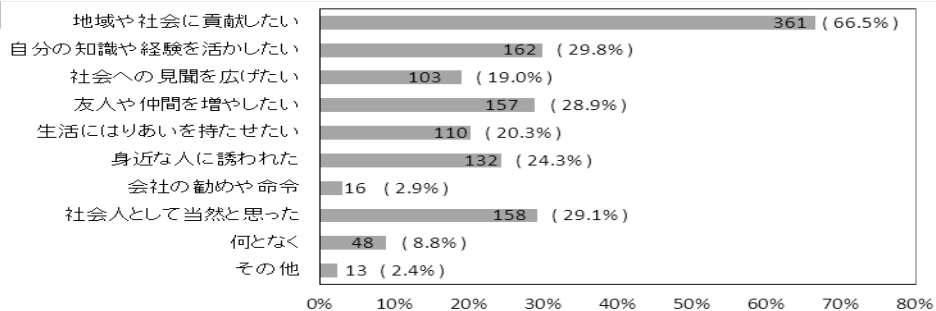


“活動分野”については、男性の回答割合が女性を上回っているのは「地域の生活環境を守る」、「地域のイベント・・・」、「趣味・スポーツや学習グループのリーダー」、「地域の文化財や伝統を守る」などリーダーシップや行政への交渉力などが必要な活動であるのに対して、逆に女性の回答割合が上回っているのは「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」で顕著である。これは女性らしい細やかさや優しさが不可欠な分野であるといえる。

【問 12 (2)】参加した理由は何ですか。

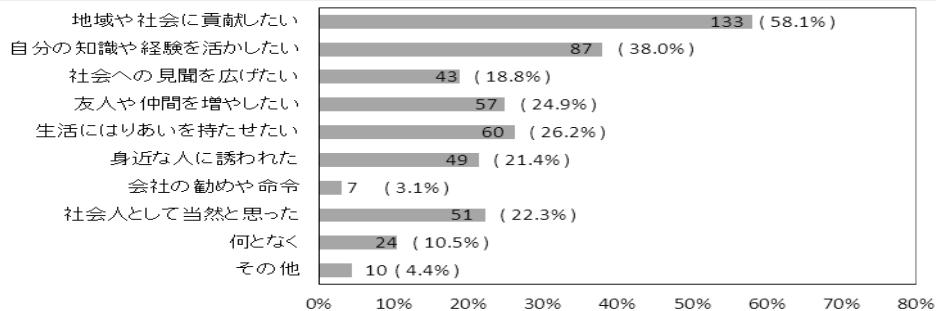
(男性)

回答数: 543



(女性)

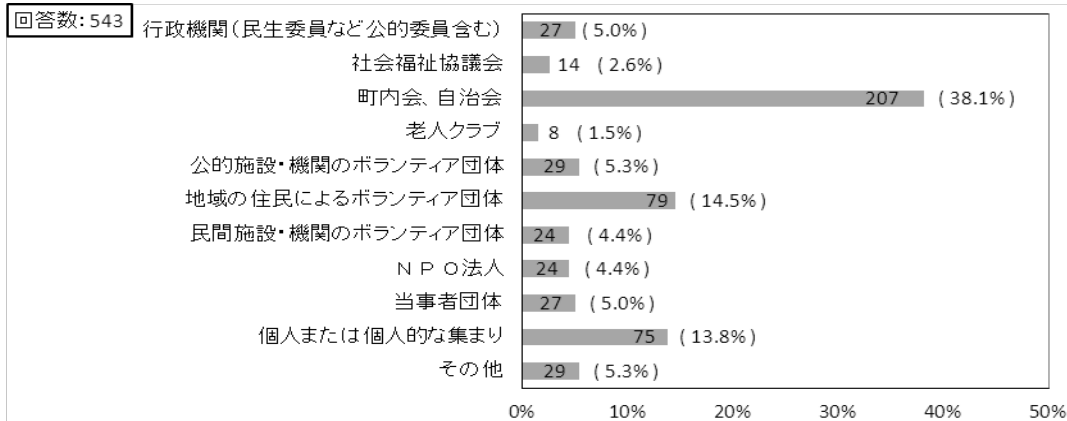
回答数: 229



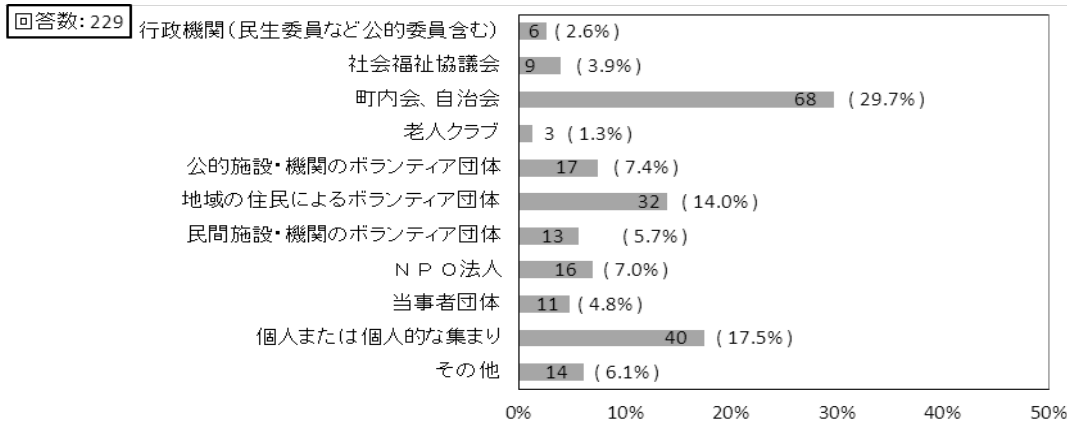
“社会貢献活動に参加した理由”については、男性の割合が女性に比べて高いのは「地域や社会に貢献したい」、「社会人として当然と思った」など大義名分や高邁な精神に基づく理由であるのに対して、女性は「自分の知識や経験を活かしたい」、「生活にはりあいを持たせたい」など社会参加の意識の起点が自らにあることが注目される。

【問 12 (3)】最もやりがいを感じている活動団体はどこですか。

(男性)



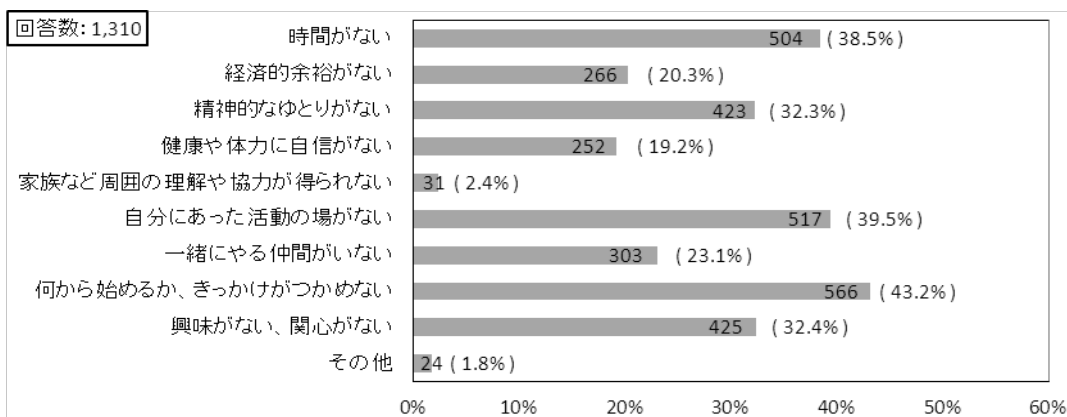
(女性)



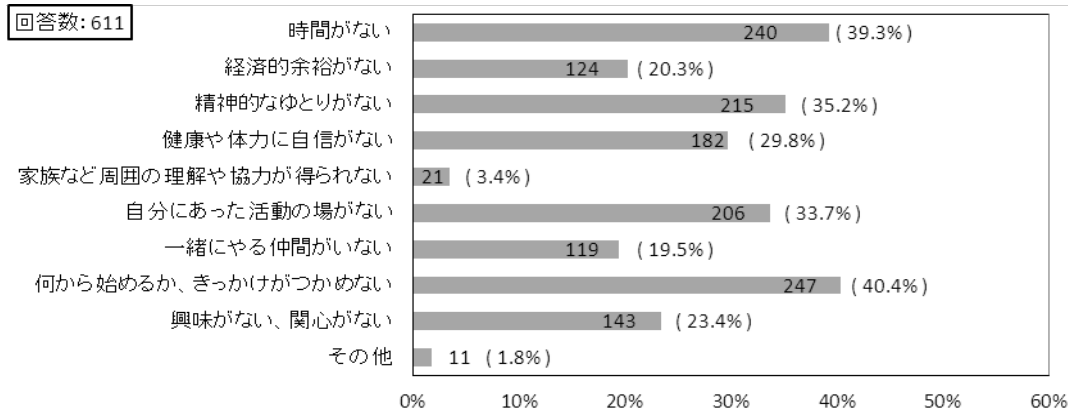
“最もやりがいを感じている活動団体”については、男性が「町内会、自治会」が圧倒的に多いのに対して、女性は「町内会、自治会」に次いで「個人または個人的な集まり」が男性に比べて多いのが特徴的である。女性の方が職場以外のプライベートな人的ネットワークやコミュニケーションを確立している割合は高いものと思われる。

【問 12 (5)】社会貢献活動に参加しない理由は何ですか。

(男性)



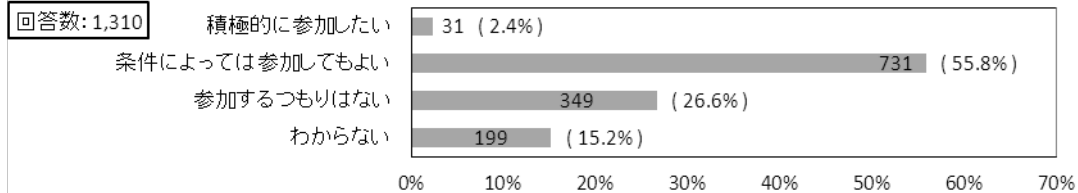
(女性)



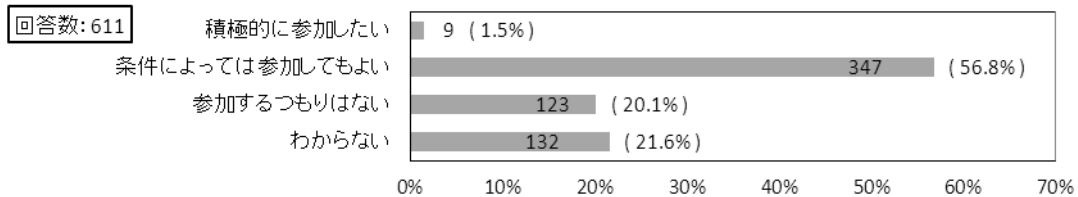
“社会貢献活動に参加していないと回答した人にその理由”を尋ねたところ、男性は女性に比べて「自分にあった活動の場がない」、「興味関心がない」、「一緒にやる仲間がいない」といった自らが積極的に動けば解決できるような不参加の理由が相対的に多いのに対して、女性は「精神的なゆとりがない」、「健康や体力に自身がない」といった自分自身の状況に基づく理由が相対的に多い。

【問 12 (6)】社会貢献活動に今後参加したいと思いますか。

(男性)



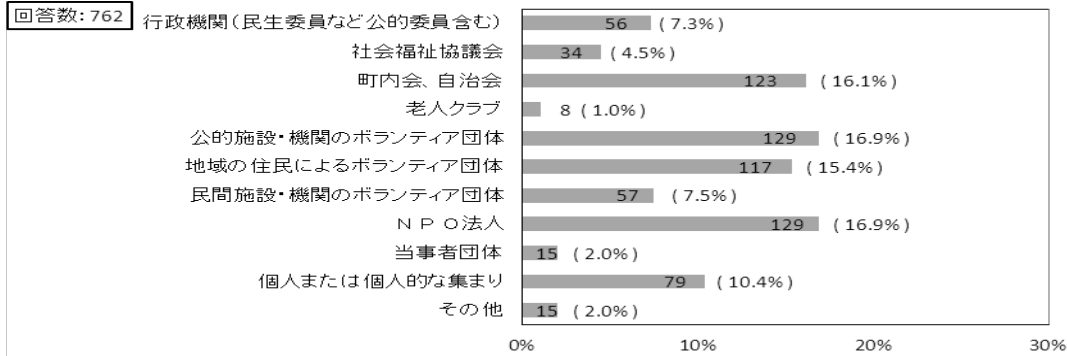
(女性)



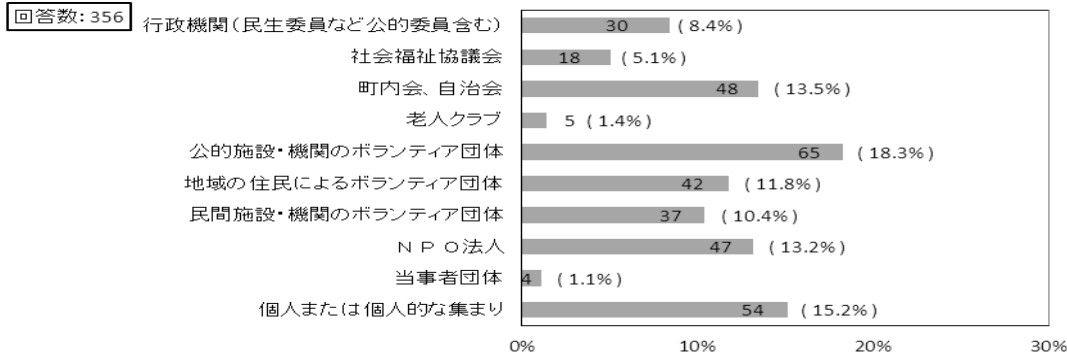
“今は社会貢献活動に参加していないが将来参加する気持ちがあるか”を尋ねた。男女ともに5割以上が「条件によっては参加してもよい」と回答している点は注目されたいだろう。ただし、「参加するつもりはない」は女性が20.1%に対して男性は26.6%と参加拒否の意思がより強固である。

【問 12 (7)】 今後活動するとしたら、関心のある団体はどこですか。

(男性)



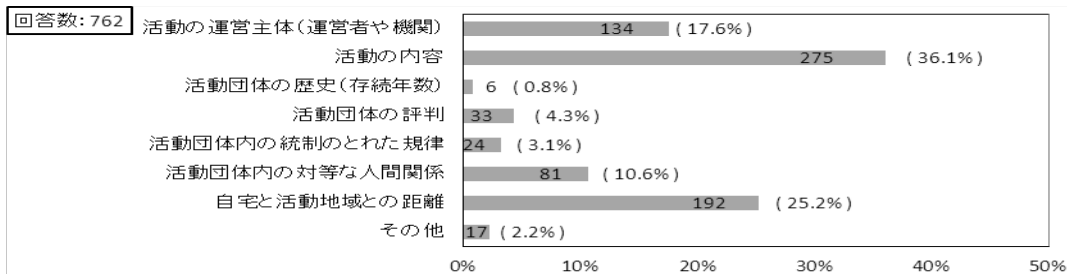
(女性)



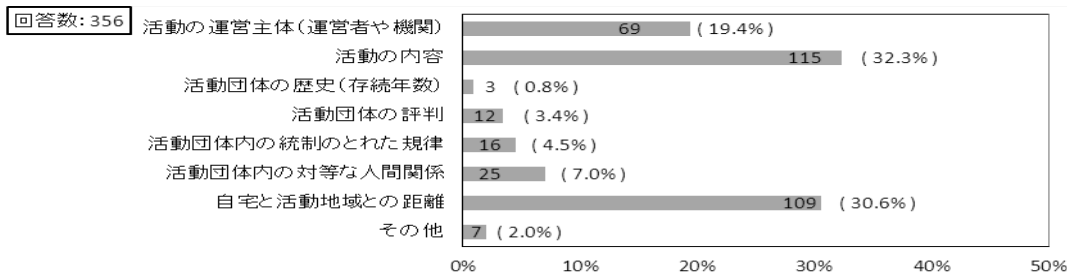
“今後活動する場合の関心ある団体”については、男性は「町内会、自治体」、「各種ボランティア団体」、「NPO法人」など組織に属して活動する志向が強いのに対して、女性は「個人または個人的な集まり」の割合が男性よりも高く、プライベートな人的な結びつきを重視する傾向が見られる。

【問 12 (8)】 問 12 (7) の活動団体を選んだ理由は何ですか。

(男性)



(女性)



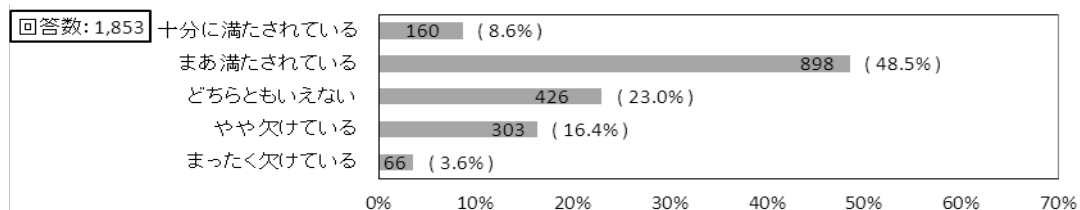
“活動団体を選ぶ理由”として男女ともに「活動の内容」が首位であるが、女性は「自宅と活動地域との距離」という活動のしやすさを男性以上に重視している。

2.4 生活の満足度について

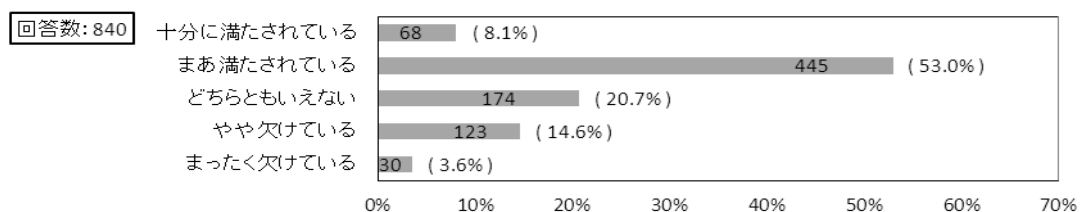
【問 13】現在の生活の各項目について、あなたはどの程度満たされていると思いますか。

◆問 13-(1) 健康

(男性)



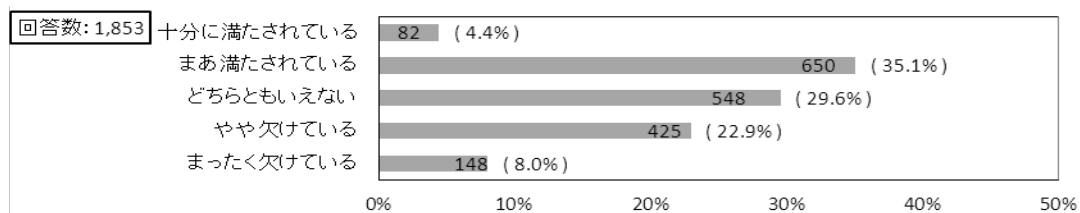
(女性)



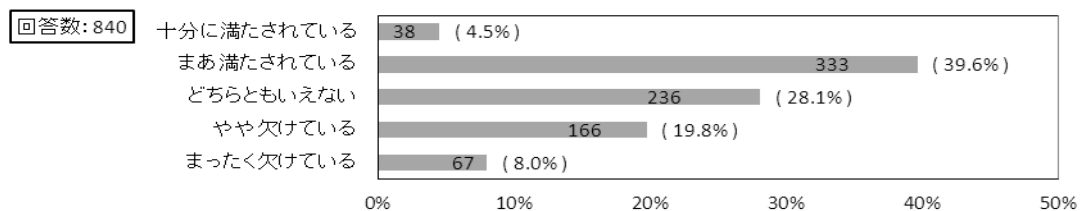
“健康”については、「満たされている」⁴は男性が 57.1%、女性が 61.1%、「欠けている」⁵は男性が 20.0%、女性が 18.2%と女性の満足度の方が男性に比べて高くなっている。

◆問 13-(3) 経済的ゆとり

(男性)



(女性)



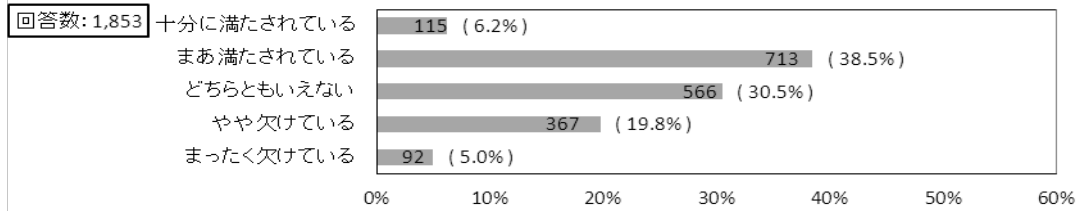
“経済的ゆとり”については、「満たされている」は男性が 39.5%、女性が 44.1%、「欠けている」は男性が 30.9%、女性が 27.8%と女性の満足度の方が男性に比べて高くなっている。

⁴ 「満たされている」は「十分に満たされている」と「まあ満たされている」の合計。以下同様。

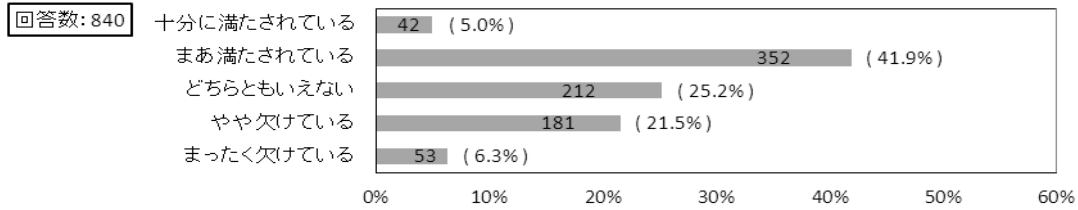
⁵ 「欠けている」は「やや欠けている」と「まったく欠けている」の合計。以下同様。

◆問 13-(4) 精神的ゆとり

(男性)



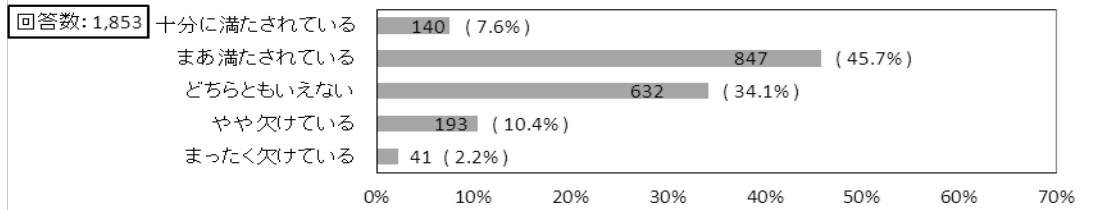
(女性)



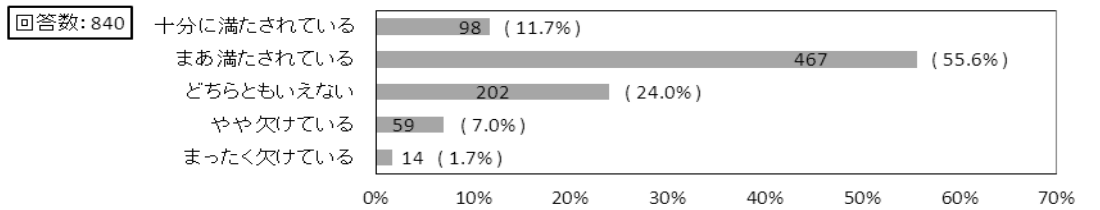
“精神的ゆとり”については、「満たされている」は男性が44.7%、女性が49.9%、「欠けている」は男性が26.8%、女性が27.8%と女性の満足度の方が男性に比べて幾分高くなっている。

◆問 13-(6) 友人・仲間

(男性)



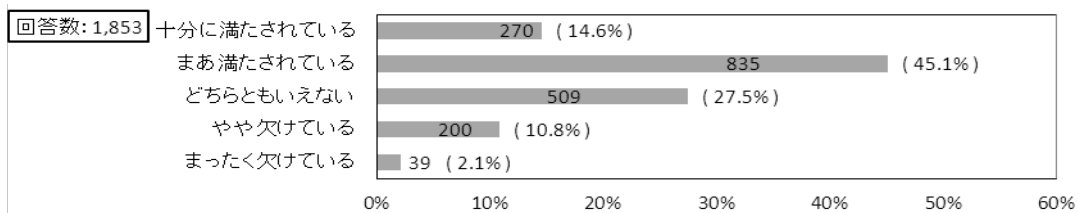
(女性)



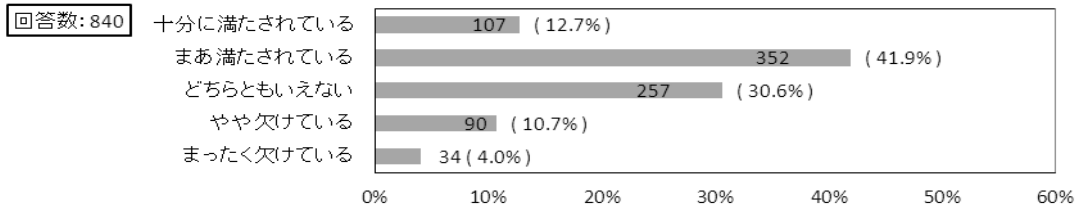
“友人・仲間”については、「満たされている」は男性が53.3%、女性が67.3%、「欠けている」は男性が12.6%、女性が8.7%と女性の満足度の方が男性に比べて格段に高くなっている。

◆熱中できる趣味

(男性)



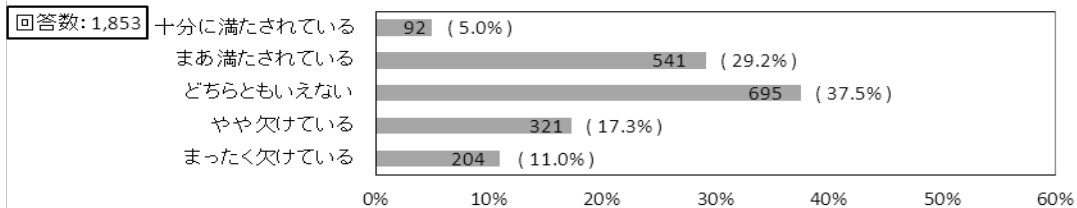
(女性)



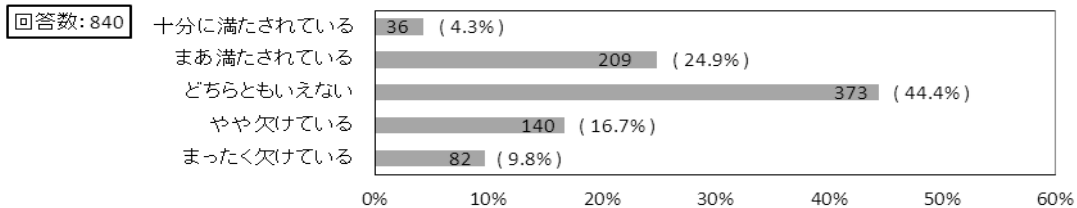
“熱中できる趣味”については、「満たされている」は男性が 59.7%、女性が 54.6%、「欠けている」は男性が 12.9%、女性が 14.7%と男性の満足度の方が女性に比べて高くなっている。

◆問 13-(8) 仕事のはりあい

(男性)



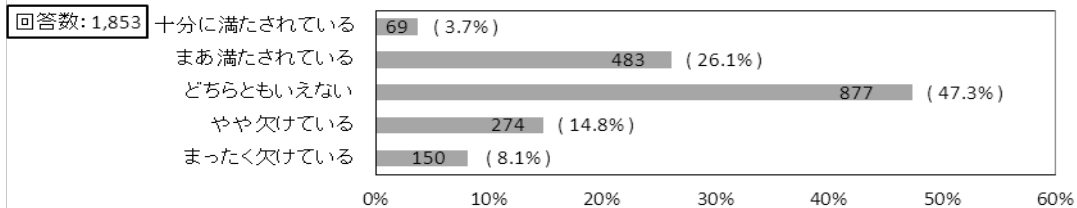
(女性)



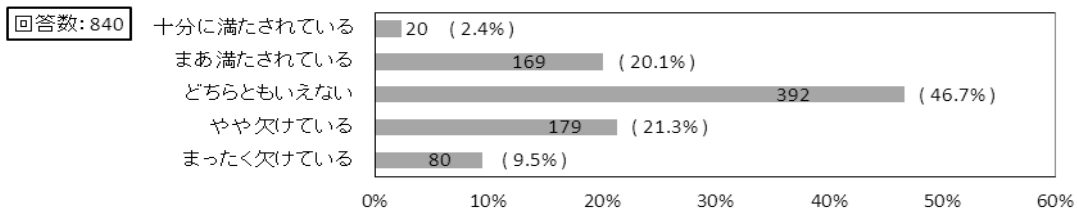
“仕事のはりあい”については、「満たされている」は男性が 34.2%、女性が 29.2%、「欠けている」は男性が 28.3%、女性が 26.5%と男性の満足度の方が女性に比べて高く、女性は満足と不満の割合が拮抗している。

◆問 13-(9) 社会的地位

(男性)



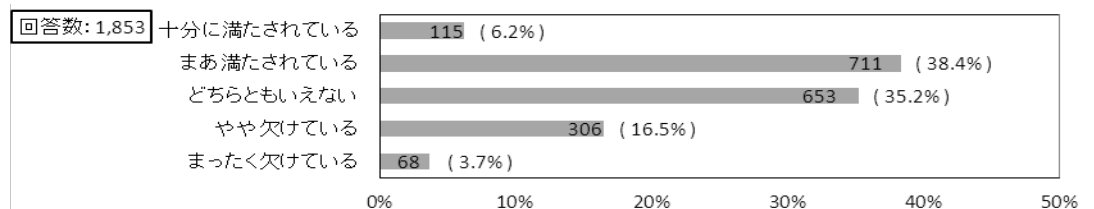
(女性)



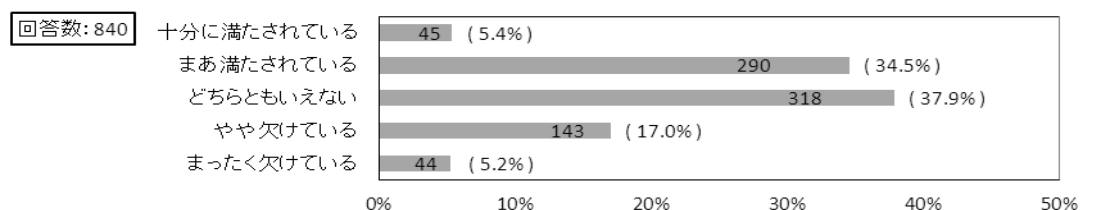
“社会的地位”については、「満たされている」は男性が 29.8%、女性が 22.5%、「欠けている」は男性が 22.9%、女性が 30.8%と男性の満足度の方が女性に比べて高く、女性は不満が満足を上回っている。

◆問 13-(10) 自然とのふれあい

(男性)



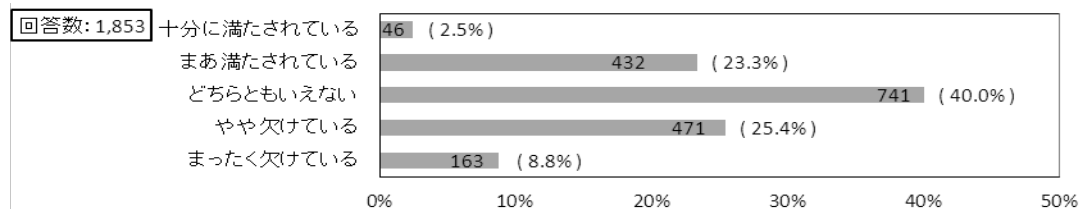
(女性)



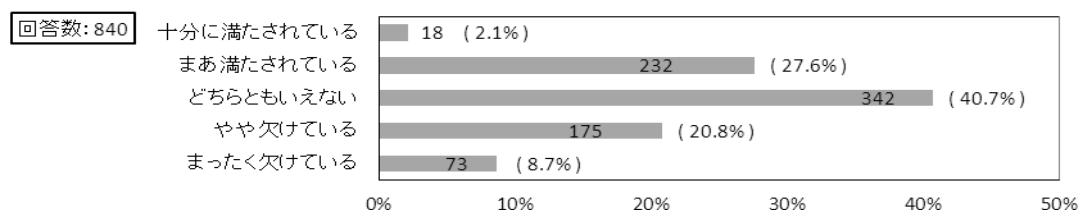
“自然とのふれあい”については、「満たされている」は男性が 44.6%、女性が 39.9%、「欠けている」は男性が 20.2%、女性が 22.2%と男性の満足度の方が女性に比べて高い。

◆問 13-(11) 近隣との交流

(男性)



(女性)



“近隣との交流”については、「満たされている」は男性が 25.8%、女性が 29.7%、「欠けている」は男性が 34.2%、女性が 29.5%と女性の満足度の方が男性に比べて高く、女性が満足と不満が拮抗しているのに対して男性は不満が満足を大きく上回っている。

なお、そのほかの「時間的ゆとり」、「家族の理解・愛情」、「社会に役立つこと」、「住まいのこと」については男女間で顕著な相違はみられなかった。

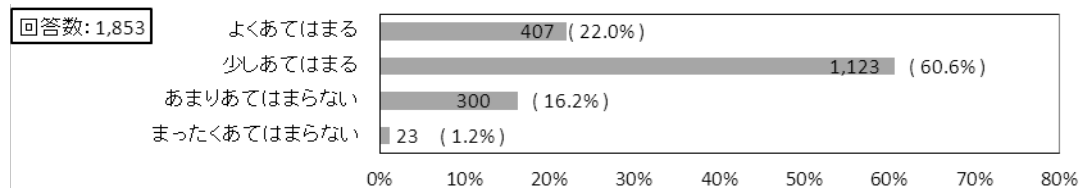
以上から、男性は仕事、社会的地位、趣味、自然とのふれあいで満足度が高い一方で、女性は健康、経済的ゆとり、精神的ゆとり、時間的ゆとり、仲間・友人で満足度が高くなっており、男性が仕事と趣味が中心の生活であるのに対して、女性の方が“ゆとり”と仲間に関わった“豊かな生活”をしているということができよう。

2.5 自分自身のタイプについて

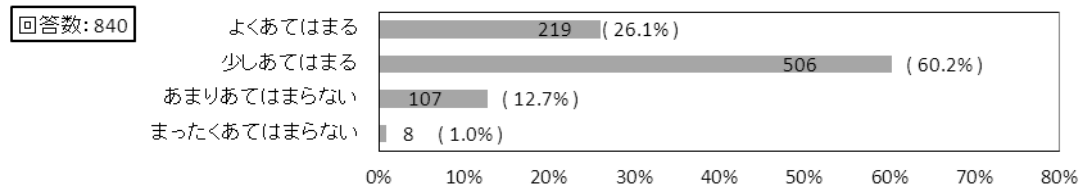
【問 14】各項目について、あなたはどの程度あてはまりますか。

◆問 14-(1) 人との関係やつながりを大切にする

(男性)



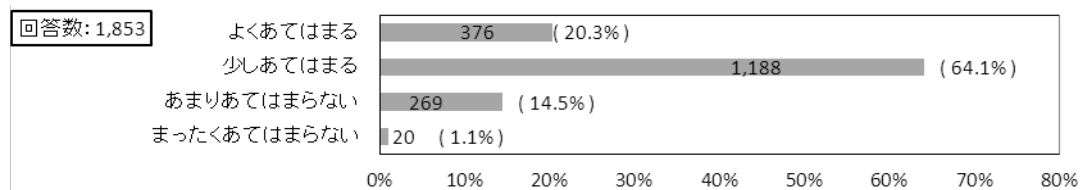
(女性)



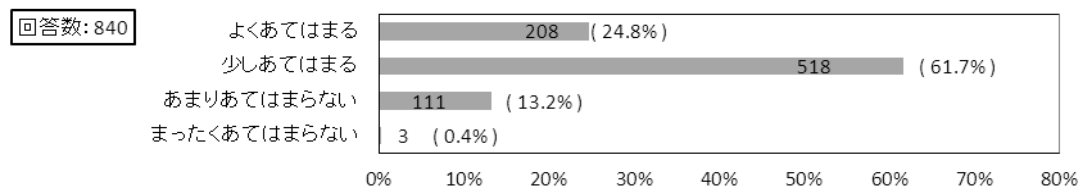
“人との関係やつながりを大切にする”については、「あてはまる」⁶は男性が 82.6%、女性が 86.3%、「あてはまらない」⁷は男性が 17.4%、女性が 13.7%と、女性の方が男性に比べてより大切にする傾向がみられる。

◆問 14-(2) 自分の世界や個性を大切にする

(男性)



(女性)



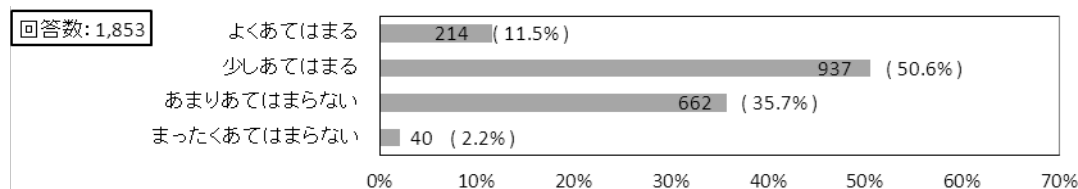
⁶ 「あてはまる」は「よくあてはまる」と「少しあてはまる」の合計。以下同様。

⁷ 「あてはまらない」は「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の合計。以下同様。

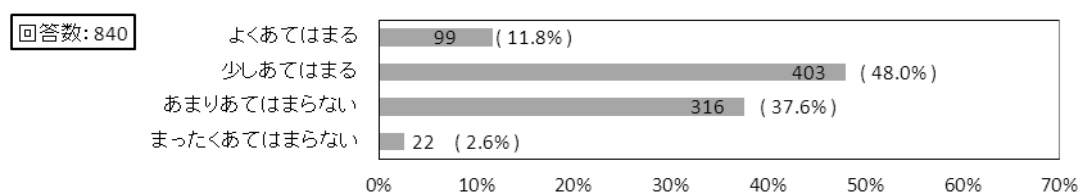
“自分の世界や個性を大切にする”については、「あてはまる」は男性が84.3%、女性が86.5%、「あてはまらない」は男性が15.6%、女性が13.6%と、女性の方が男性に比べてより大切にする傾向がみられる。

◆問 14-(3) いつも目標に向かってつき進む

(男性)



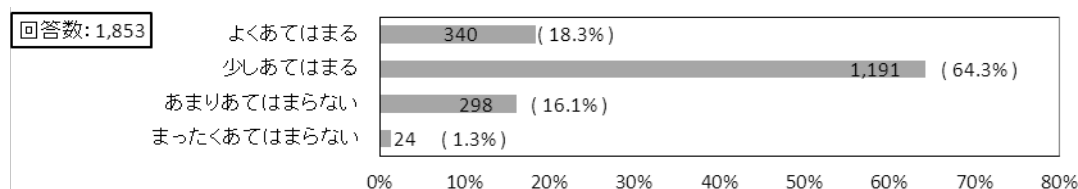
(女性)



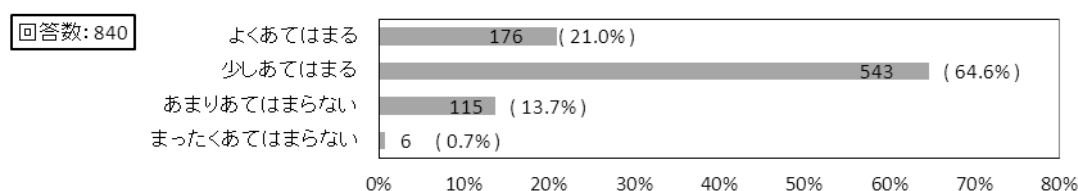
“いつも目標に向かってつき進む”については、「あてはまる」は男性が62.1%、女性が59.8%、「あてはまらない」は男性が37.9%、女性が40.2%と、男性の方が女性に比べて幾分強い傾向がみられる。男性の場合には、仕事関連のことがらが回答に強く影響しているものと思われる。

◆問 14-(4) 無理をせずにマイペースで進む

(男性)



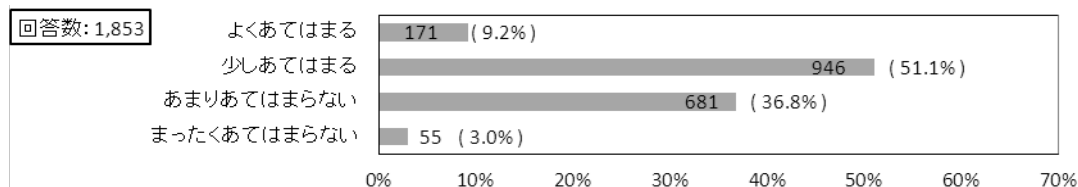
(女性)



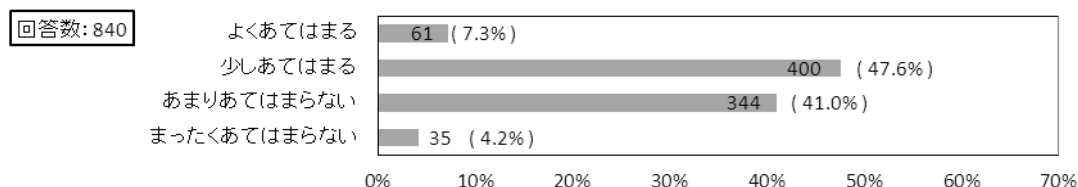
“無理をせずにマイペースで進む”については、「あてはまる」は男性が82.6%、女性が85.6%、「あてはまらない」は男性が17.4%、女性が14.4%と、女性の方が男性に比べて幾分強い傾向がみられる。前掲の“いつも目標に向かってつき進む”と男女間の回答割合が逆転している。

◆問 14-(6) 自分には他人のない優れたところがある

(男性)



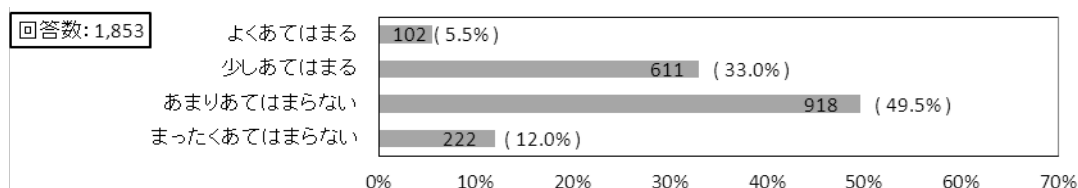
(女性)



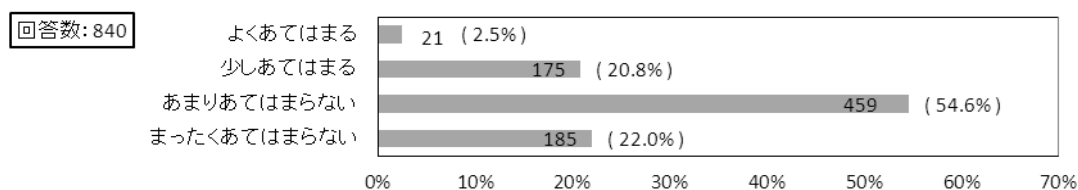
“自分には他人のない優れたところがある”については、「あてはまる」は男性が 60.3%、女性が 54.9%、「あてはまらない」は男性が 39.8%、女性が 45.2%と、男性の方が女性に比べてその傾向が強く、男性に自信家・自惚れ屋が多いようである。男性の場合には、仕事や職業の要因がより強く作用しているものと思われる。

◆問 14-(9) 指導的立場に立とうとする

(男性)



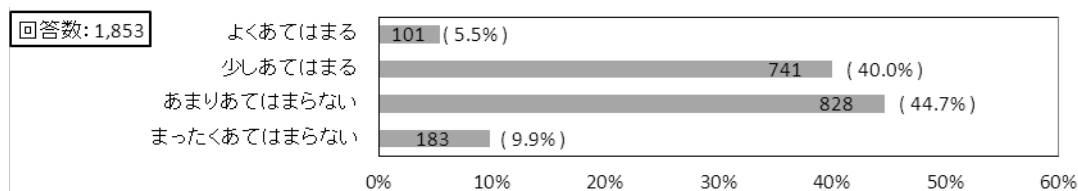
(女性)



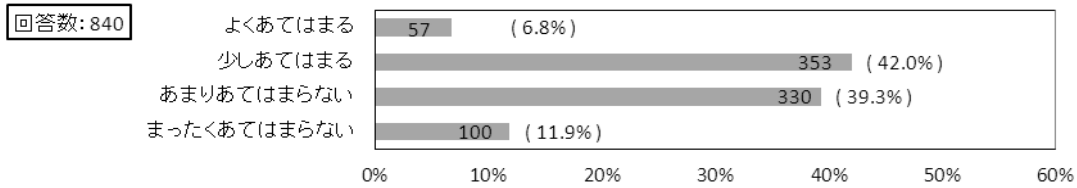
“指導的立場に立とうとする”については、「あてはまる」は男性が 38.5%、女性が 23.3%、「あてはまらない」は男性が 61.5%、女性が 76.8%と、男性の方が女性に比べてその傾向が強い。前掲と同様に、男性の場合には仕事や職業の要因がより強く作用しているものと思われる。

◆問 14-(10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる

(男性)



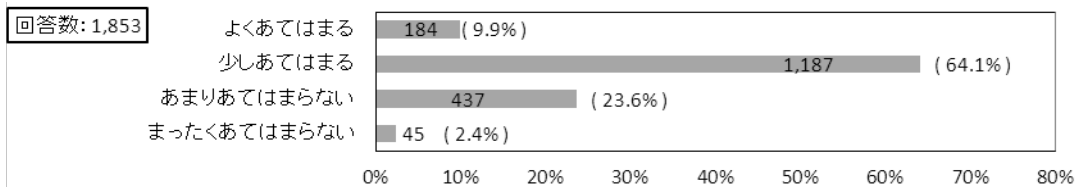
(女性)



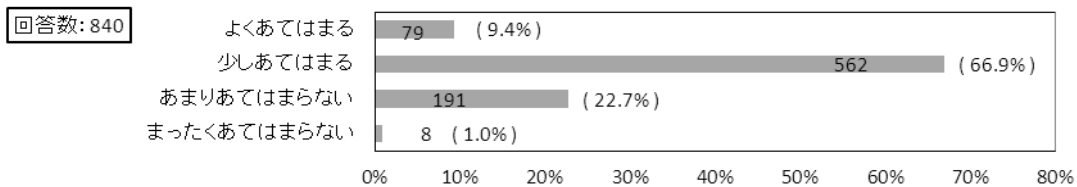
“新しいグループの中に、わりと気軽に入れる”については、「あてはまる」は男性が 45.5%、女性が 48.8%、「あてはまらない」は男性が 54.6%、女性が 51.2%と、女性の方が男性に比べてその傾向が強い。女性の方が仲間との会話を楽しむ機会が多く、会話をきっかけに新しいグループに溶け込むことが比較的容易なのだと思います。男性の場合は、仕事や職場での役職を重視し、プライドも強い傾向にあるので、人によっては新しいグループに溶け込むことが難しい場合があると思われる。

◆問 14-(11) いろいろな人の意見を聞く

(男性)



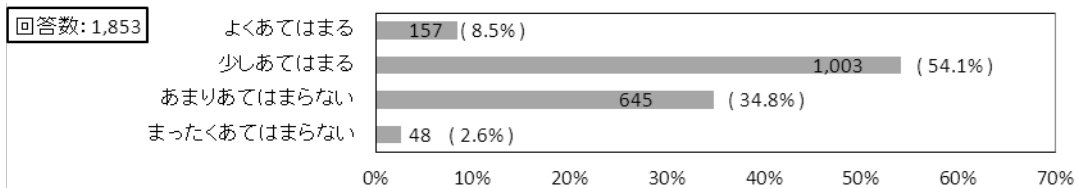
(女性)



“いろいろな人の意見を聞く”については、「あてはまる」は男性が 74.0%、女性が 76.3%、「あてはまらない」は男性が 26.0%、女性が 23.7%と、女性の方が男性に比べてその傾向が強い。前掲の設問と同じく、女性の方が仲間との会話を楽しむ機会が多いことが影響しているものと思われる。

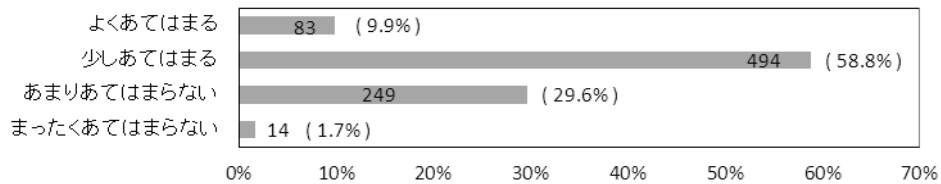
◆問 14-(13) どんなところでも結構楽しみを見出す

(男性)



(女性)

回答数: 840



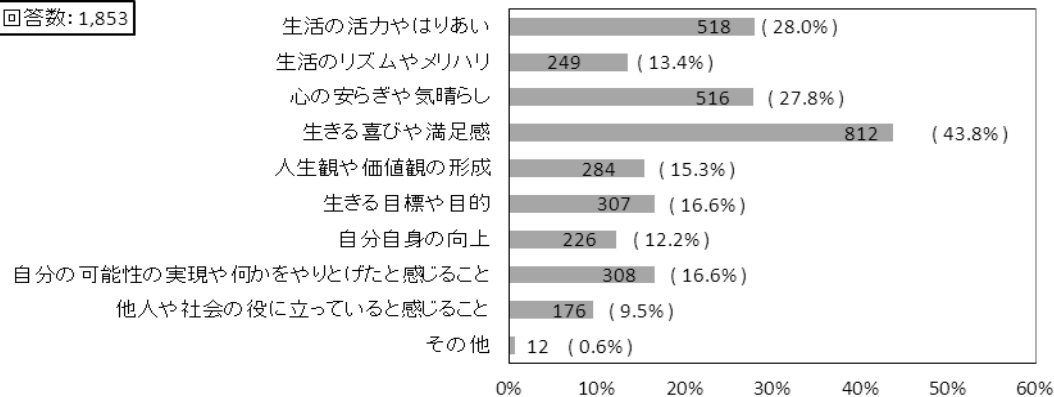
“どんなところでも結構楽しみを見出す”については、「あてはまる」は男性が 62.6%、女性が 68.7%、「あてはまらない」は男性が 37.4%、女性が 31.3%と、女性の方が男性に比べてその傾向が強い。女性の方が柔軟性に富み、身近なことにも含めて楽しみを見出すことのできる対象範囲が広いことを示している。

2.6 生きがいについて

【質問 15】 生きがいを表す最も適当なものはどれだと思いますか。

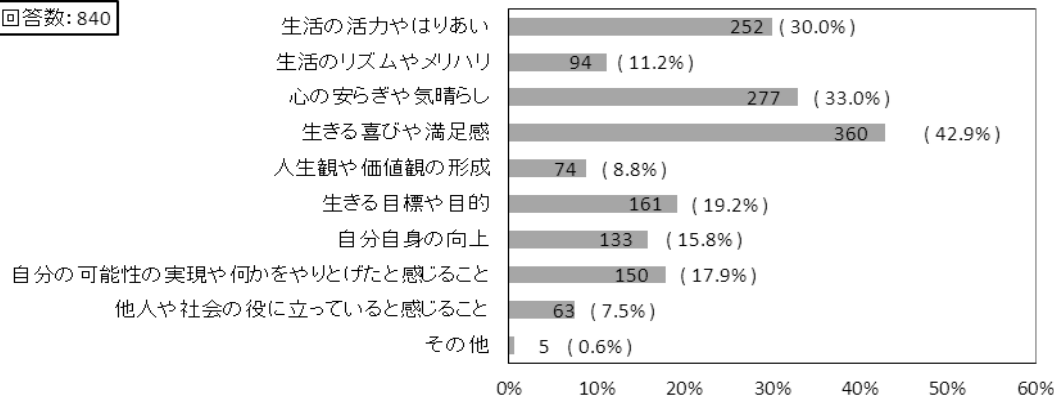
(男性)

回答数: 1,853



(女性)

回答数: 840

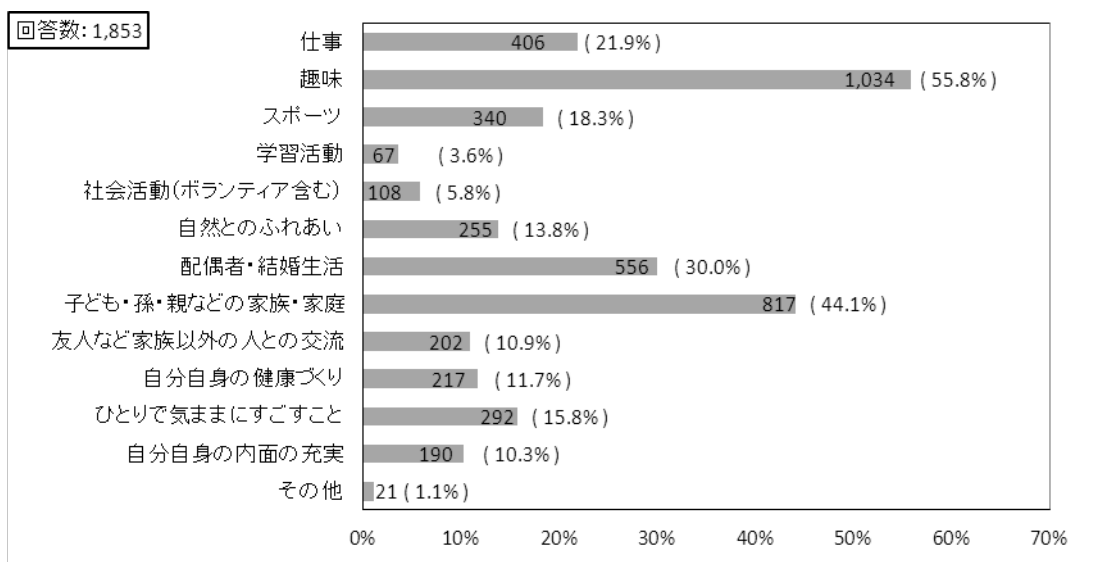


“生きがいとは何か”を尋ねたところ、男女とも「生きる喜びや満足感」が第1位であった。男性は2位が「生活の活力やはりあい」、僅差の3位は「心の安らぎや気晴らし」と続く。女性は2位が「心の安らぎや気晴らし」、3位は「生活の活力やはりあい」で男性と順番が逆になった。男女で開きが大きかったのは「心の安らぎや気晴らし」で、男性が 27.8%に

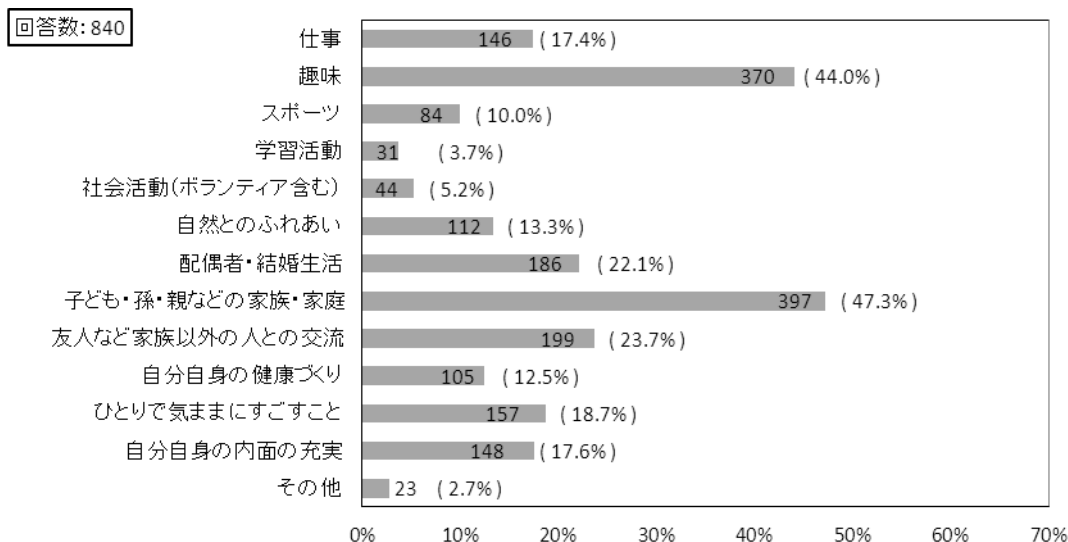
対して女性は 33.0%と女性の方が重視している一方で、「人生観や価値観の形成」では男性が 15.3%に対して女性は 8.8%にとどまった。この点については、男性は大義名分を重視するために堅苦しく構える傾向があるのに対して、女性は気軽に考えて身近なことに生きがいを感じる傾向があることが背景にあると推察される。

【問 16】 どのようなことに生きがいを感じますか。

(男性)



(女性)



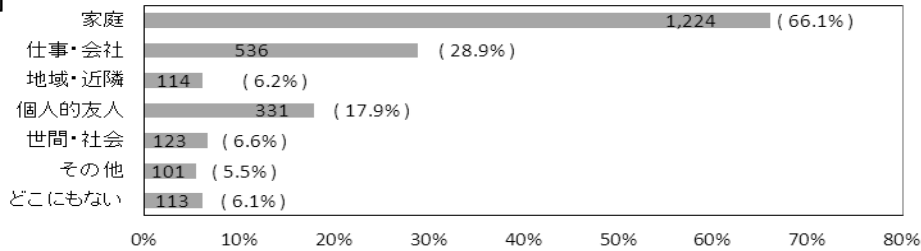
“どのようなことに生きがいを感じるか”については、男女間で比較すると男性は「趣味」、「仕事」、「スポーツ」、「配偶者・結婚生活」などの回答割合が相対的に高かったのに対して、女性は「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「友人など家族以外の人との交流」、「ひとりで気ままに過ごすこと」、「自分自身の内面の充実」の回答割合が男性に比べて高かった。

【問 17】生きがいに関する各項目について、それらはどこで得られますか。

◆問 17-(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこか

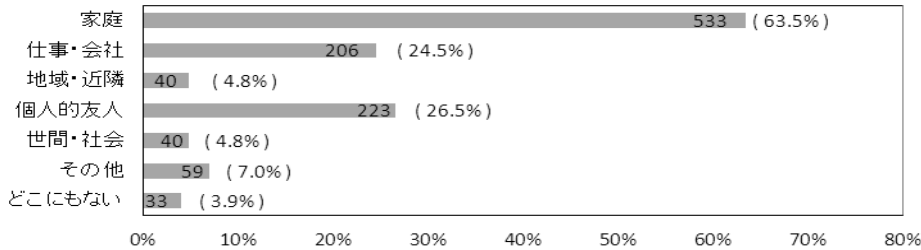
(男性)

回答数: 1,853



(女性)

回答数: 840

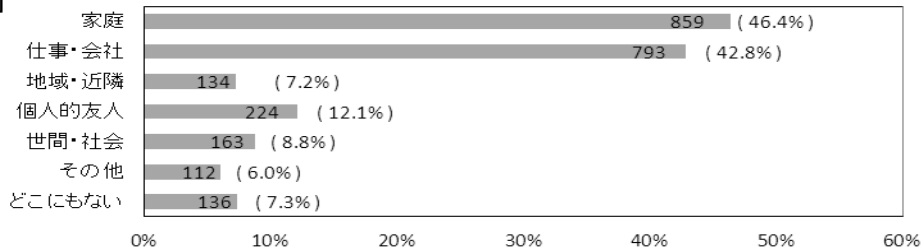


“生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこか”について男女間で比較すると、男性は「仕事・会社」の回答割合が相対的に高かったのに対して、女性は「個人的友人」の回答割合が男性に比べて高いのが目立っている。男性は仕事・会社中心の生活スタイルなのに対して、女性はプライベート重視の生活スタイルだといえる。

◆問 17-(2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがつくか

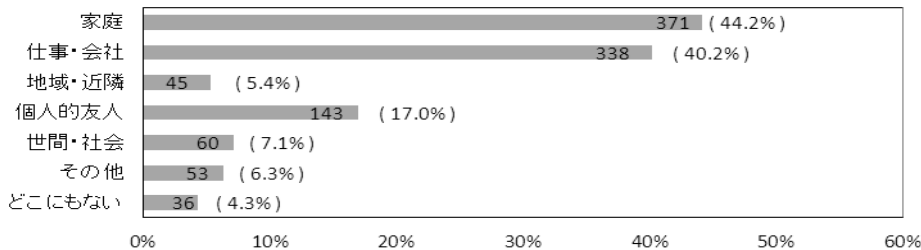
(男性)

回答数: 1,853



(女性)

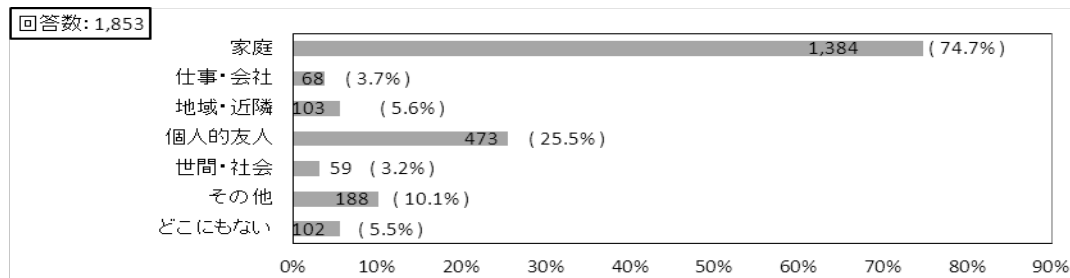
回答数: 840



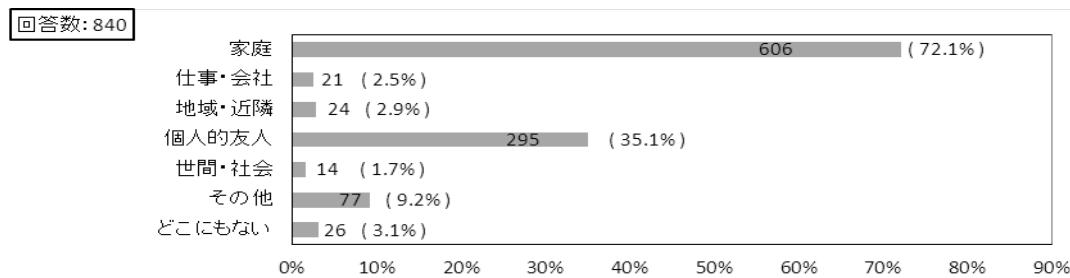
“リズムやメリハリがつくのはどこか”について男女間で比較すると、女性の「個人的友人」の回答割合が男性に比べて高いのが目立っている。

◆問 17-(3) 心の安らぎや気晴らしを感じる事が多いのはどこか

(男性)



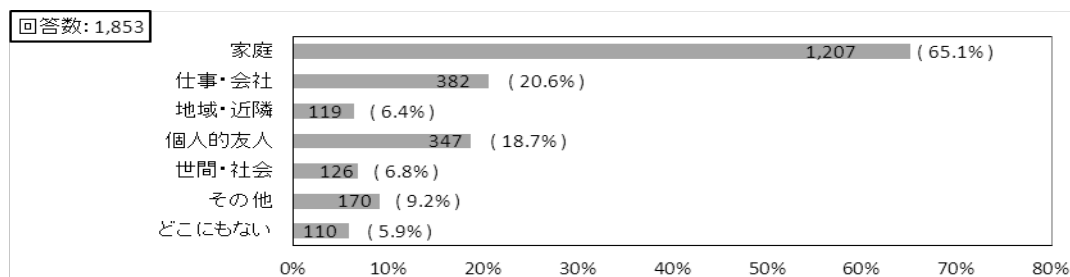
(女性)



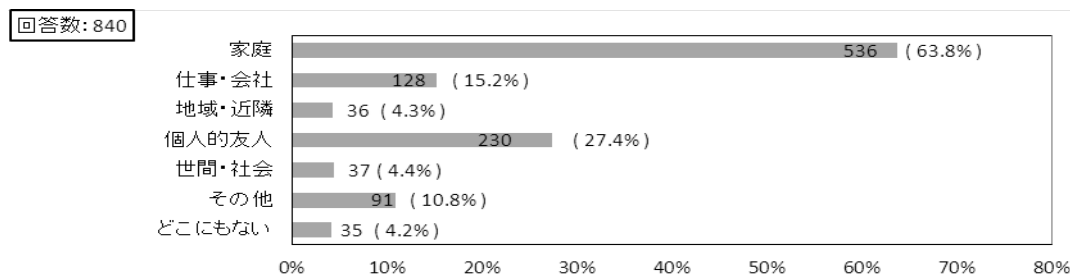
“心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこか”について男女間で比較すると、女性の「個人的友人」の回答割合が男性に比べて高いのが目立っている。

◆問 17-(4) 喜びや満足感を感じる事が多いのはどこか

(男性)



(女性)

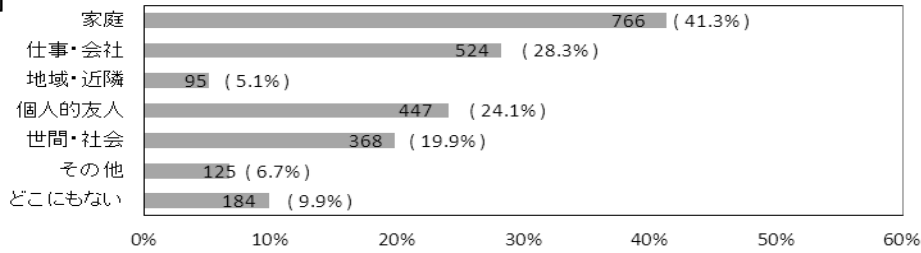


“喜びや満足感を感じる事が多いのはどこか”について男女間で比較すると、女性の「個人的友人」の回答割合が男性に比べて格段に高いのが目立っている。男性では「仕事・会社」が相対的に高い。

◆問 17-(5) 人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人か

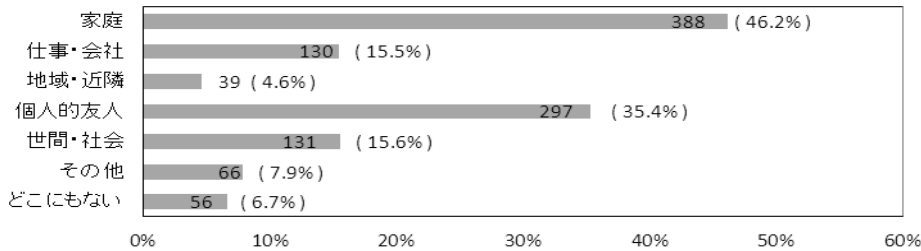
(男性)

回答数: 1,853



(女性)

回答数: 840

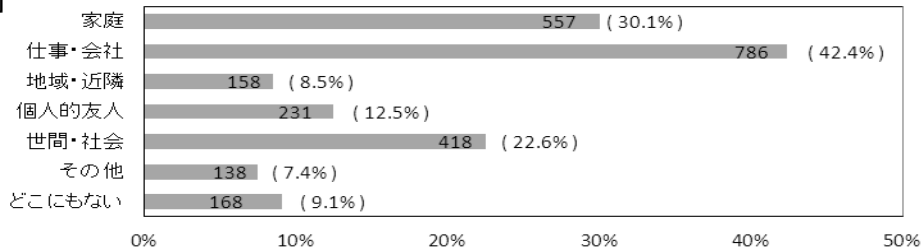


“人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人か”について男女間で比較すると、男性では「仕事・会社」、「世間・社会」が相対的に高い一方で、女性は「家庭」、「個人的友人」の回答割合が高い。

◆問 17-(7) どの場での生活が自分自身を向上させているか

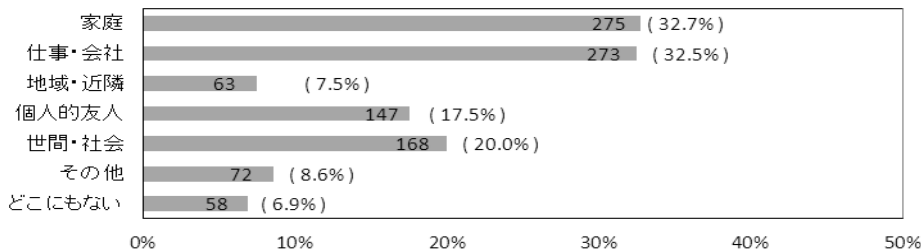
(男性)

回答数: 1,853



(女性)

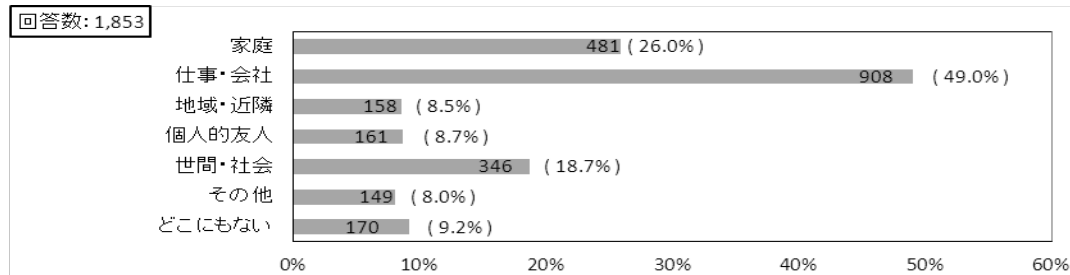
回答数: 840



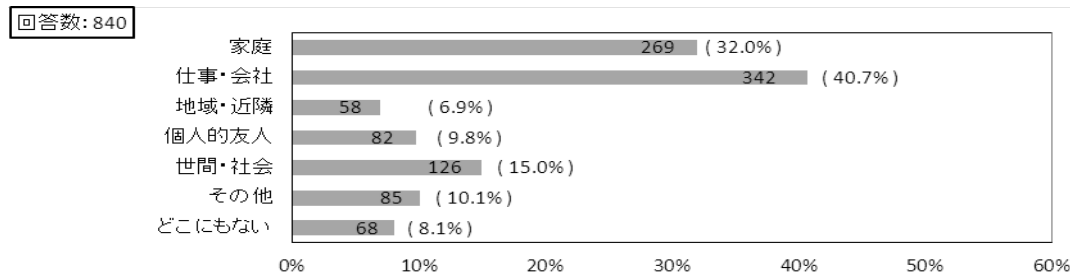
“どの場での生活が自分自身を向上させているか”について男女間で比較すると、男性では「仕事・会社」が相対的に高い一方で、女性は「個人的友人」の回答割合が高い。

◆問 17-(8) 自分の可能性を実現したり何かをやりとげたと感じたりするのは、どの場で多いか

(男性)



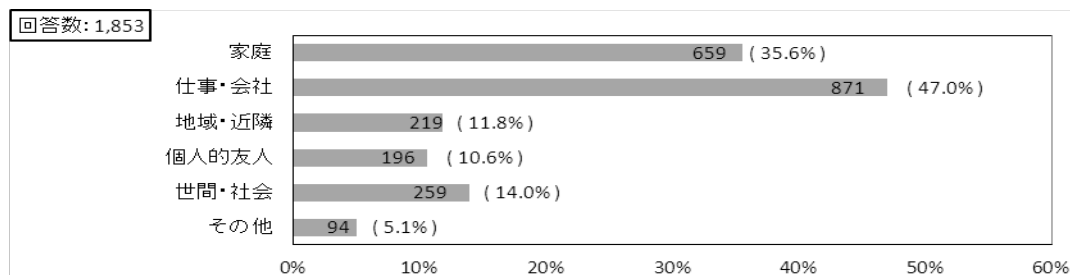
(女性)



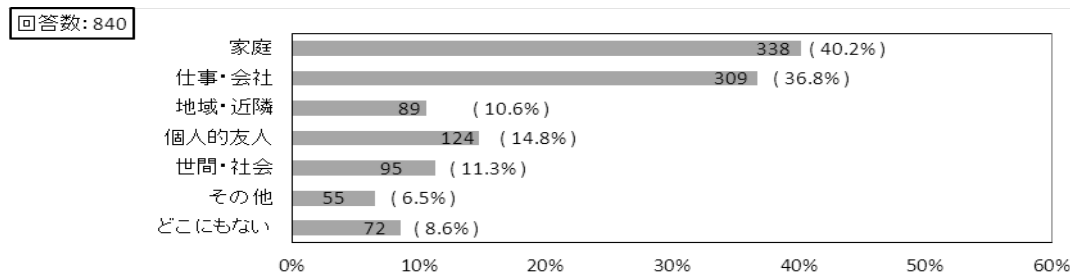
“自分の可能性を実現したり何かをやりとげたと感じたりするのは、どの場で多いか”について男女間で比較すると、男性では「仕事・会社」、「世間・社会」が相対的に高い一方で、女性は「家庭」の回答割合が高い。

◆問 17-(9) 自分が役に立っていると感じる、または評価を得ているのは、どの場で多いか

(男性)



(女性)



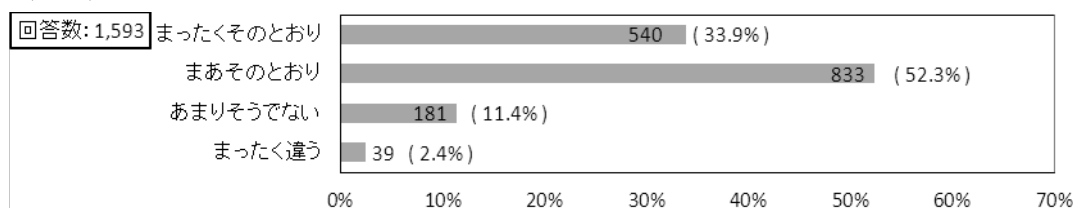
“自分が役に立っていると感じる、または評価を得ているのは、どの場で多いか”について男女間で比較すると、男性では「仕事・会社」が相対的に高い一方で、女性は「家庭」、「個人的友人」の回答割合が高い。

2.7 配偶者について

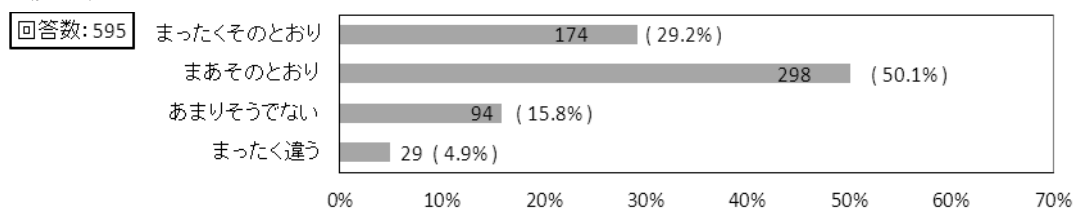
【問 18】 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか

◆問 18-(1) 配偶者は自分のことを応援してくれる

(男性)



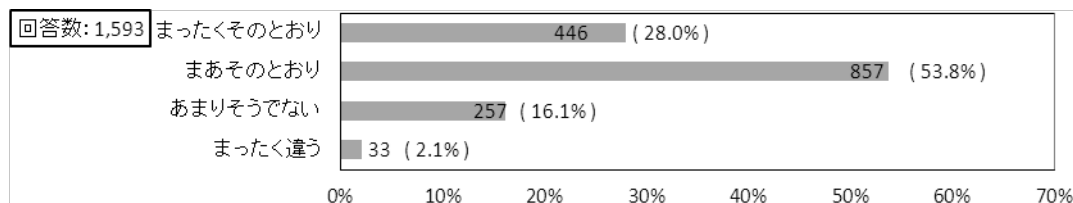
(女性)



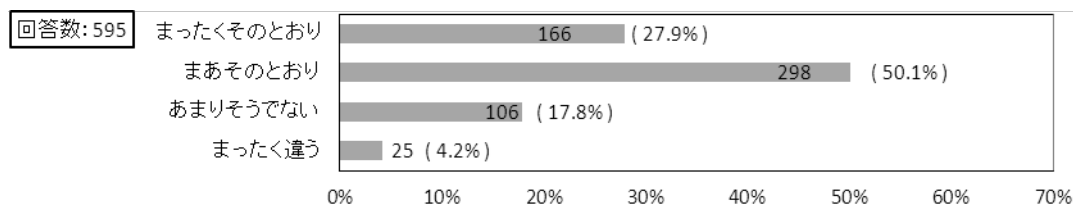
“配偶者は自分のことを応援してくれる”については、「そのとおり」⁸は男性が 86.2%に対して女性は 79.3%、「違う」⁹は男性の 13.6%に対して女性は 20.7%と、男性の方が女性に比べて配偶者が自分のことを応援してくれているとより強く感じている。

◆問 18-(2) 自分は配偶者の良き理解者である

(男性)



(女性)



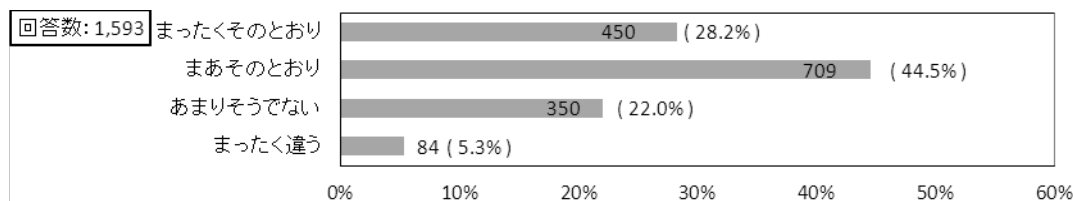
“自分は配偶者の良き理解者である”については、「そのとおり」は男性が 81.8%に対して女性は 78.0%、「違う」は男性の 18.2%に対して女性は 22.0%と、男性の方が女性に比べて自分は配偶者にとって良き理解者だとより強く感じている。

⁸ 「そのとおり」は「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計。以下同様。

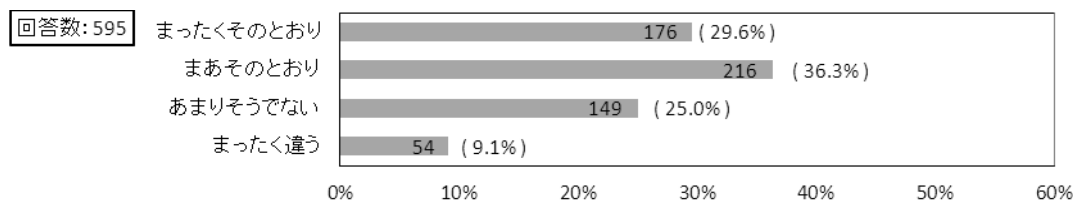
⁹ 「違う」は「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計。以下同様。

◆問 18-(4) 配偶者とよく一緒に出かける

(男性)



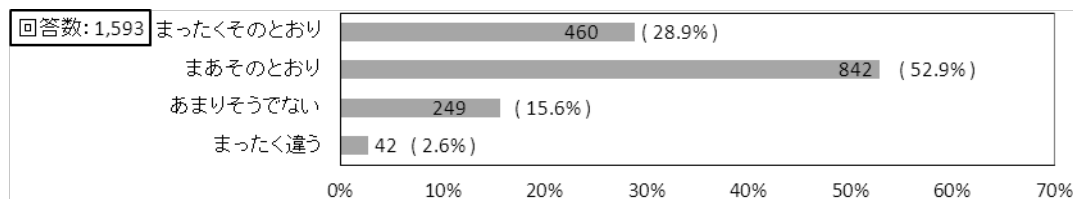
(女性)



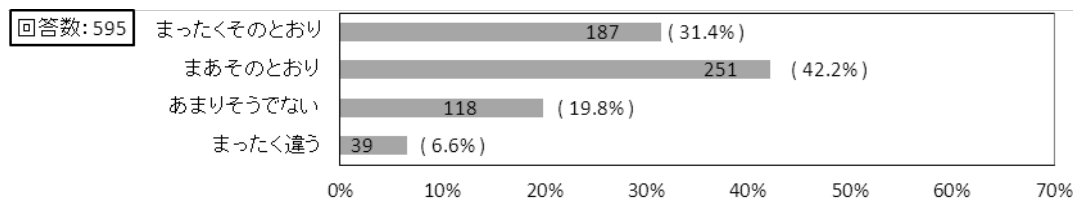
“配偶者とよく一緒に出かける”については、「そのとおり」は男性が 72.7%に対して女性は 65.9%、「違う」は男性の 27.3%に対して女性は 34.1%と、男性の方が女性に比べて自分はよく一緒に出かけるとより強く感じている。

◆問 18-(5) 配偶者と会話がある

(男性)



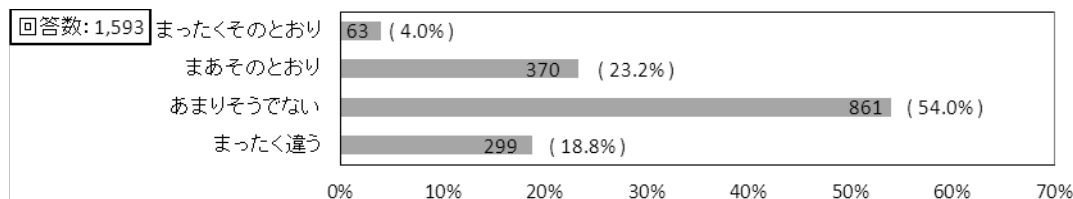
(女性)



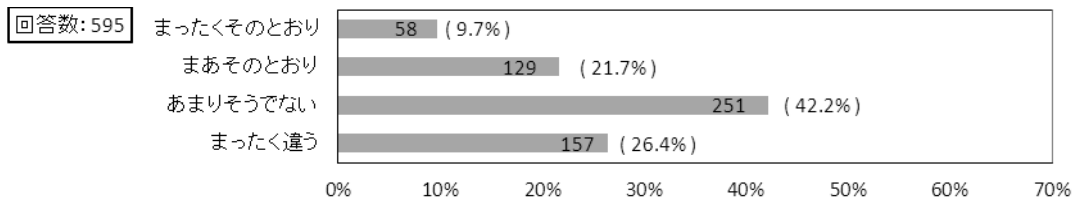
“配偶者と会話がある”については、「そのとおり」は男性が 81.8%に対して女性は 73.6%、「違う」は男性の 18.2%に対して女性は 26.4%と、男性の方が女性に比べて配偶者と会話があるとより強く感じている。

◆問 18-(9) 配偶者は自分によりかかりすぎる

(男性)



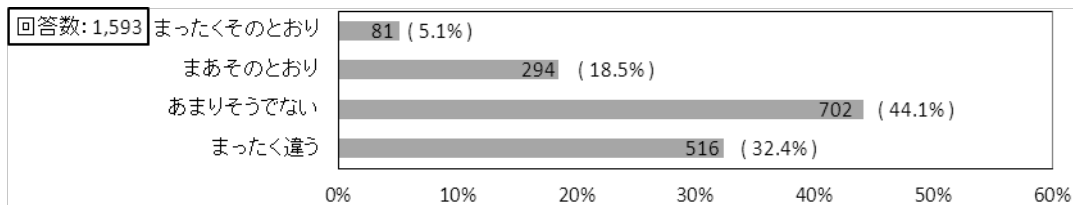
(女性)



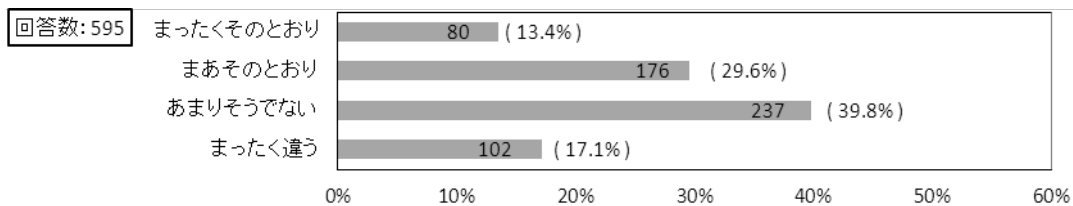
“配偶者は自分によりかかりすぎる”については、「そのとおり」は男性が 27.2%に対して女性は 31.4%、「違う」は男性の 72.8%に対して女性は 68.6%と、女性の方が男性に比べて配偶者は自分によりかかりすぎると強く感じている。

◆問 18-(10) 配偶者にもっと家事をして欲しい

(男性)



(女性)



“配偶者にもっと家事をして欲しい”については、「そのとおり」は男性が 23.6%に対して女性は 43.0%、「違う」は男性の 76.5%に対して女性は 56.9%と、女性の方が男性に比べて配偶者は自分によりかかりすぎると強く感じている。

なお、そのほかの項目の「配偶者と価値観・考え方が似ている」、「配偶者は自分を自由にさせてくれる」、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」、「配偶者は金銭的にうるさい」については男女間で大きな差異は認められなかった。

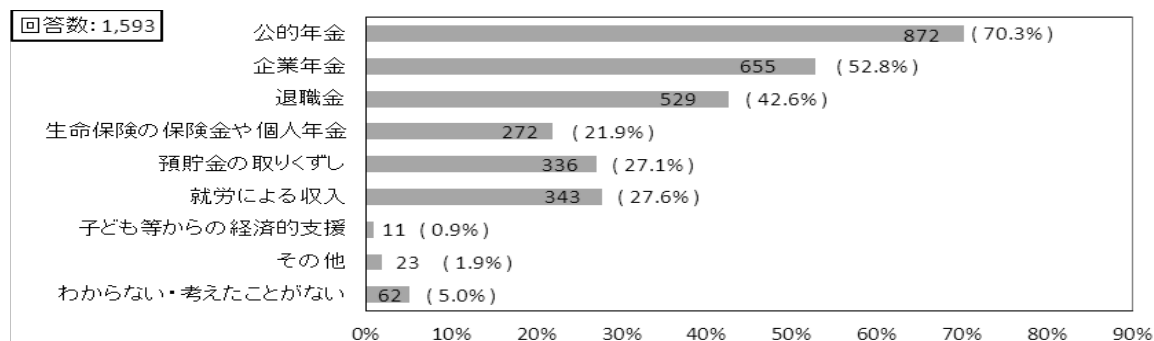
以上の配偶者に関する質問・回答を通じてわかることは、男性（夫）の方が妻に対しての依存度が高く、逆に女性（妻）は独立心が高く、同時に夫にも独立心を持って欲しいと感じている。また、男性は妻を気遣っていると思っているが、女性は必ずしもそのようには思っていない、いわばミスマッチな点も興味深い。

2.8 定年後の仕事や生活について

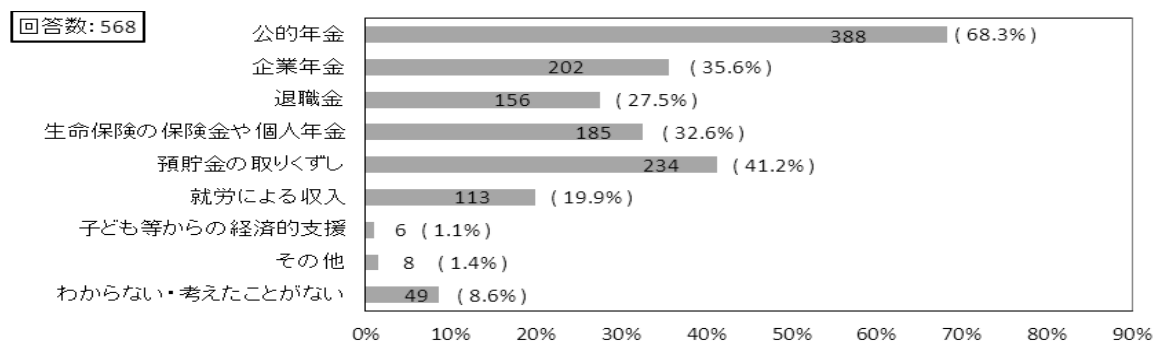
【問 20】定年前の方に、定年後の生活についてうかがいます。

◆問 20-(1) 定年後の生活費を主に何でまかなうつもりか

(男性)



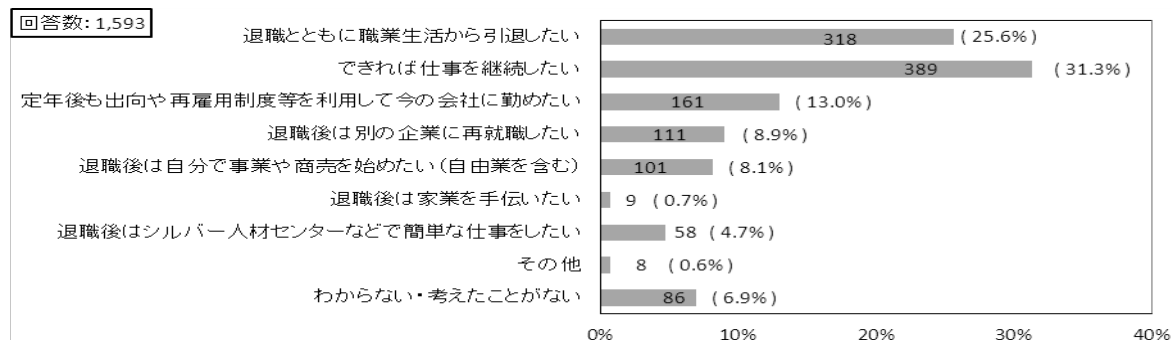
(女性)



“定年後の生活費”については、公的年金を柱にまかなうと考えていることに男女間で違いはないが、注目されるのは男性では「企業年金」、「退職金」、「就労による収入」が相対的に高いのに対して、女性では「預貯金の取りくずし」が高い。男女間では収入の高低、勤務先の退職金や企業年金制度の充実度合いが異なっていることが影響している可能性が高いと思われる。特に女性では退職金 27.5%、企業年金 35.6%と男性のそれぞれ 42.6%、52.8%と比べて著しく低い。その代わりに生命保険の保険金や個人年金が 32.6%と男性の 21.9%に比べて高くなっている。退職金や企業年金の不足を個人年金などの自助努力で補っている様子が伺われる。

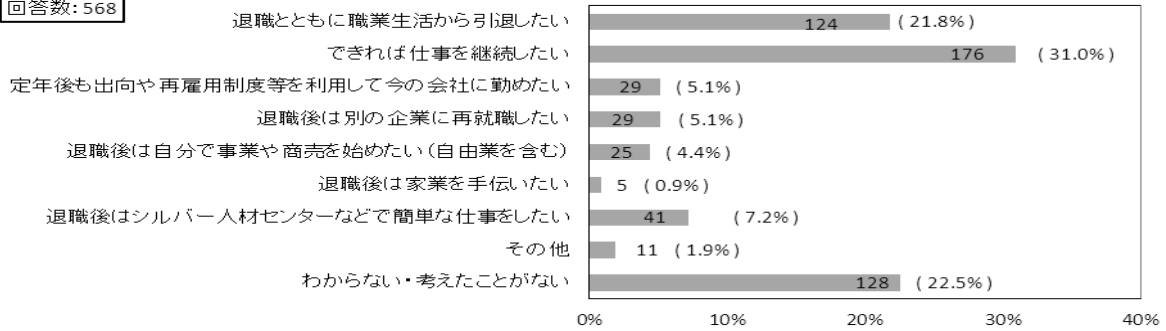
◆問 20-(3) 定年退職・定年前退職の後に仕事をどうしたいか

(男性)



(女性)

回答数: 568



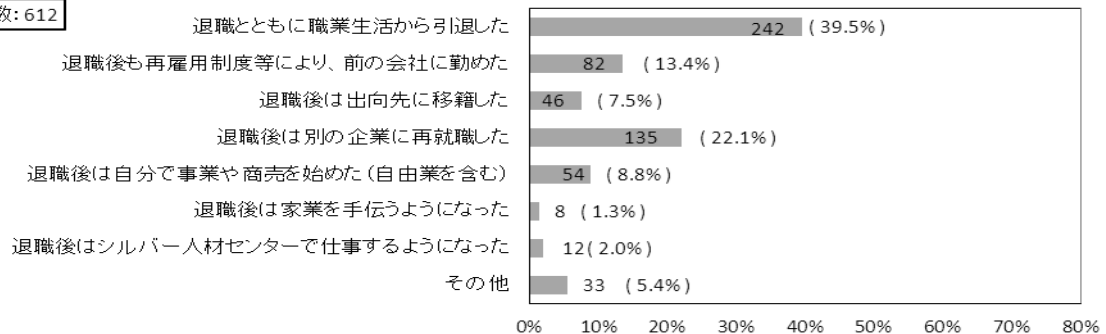
“退職後の仕事”については、「できれば仕事を継続したい」が男女とも第1位でかつ回答割合も31%と同程度であった。違いがあったのは男性では「引退したい」、「出向や再雇用で今の会社に勤めたい」、「別の会社に再就職したい」、「自分で事業を始めたい」が相対的に高いのに対して、女性では「わからない・考えたことがない」が非常に多く、「シルバー人材センターなどで簡単な仕事をした」も高かった。

【問21】定年退職者・定年前退職者の方に、定年後の生活についてうかがいます。

◆問21-(3) 定年後・退職後に仕事についてか

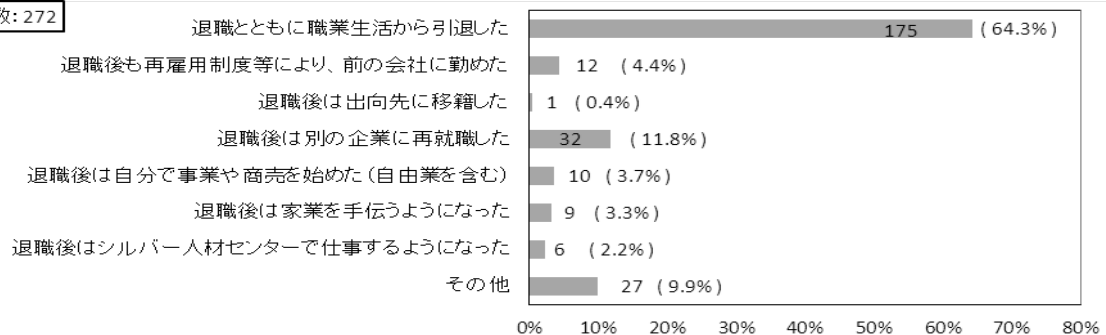
(男性)

回答数: 612



(女性)

回答数: 272



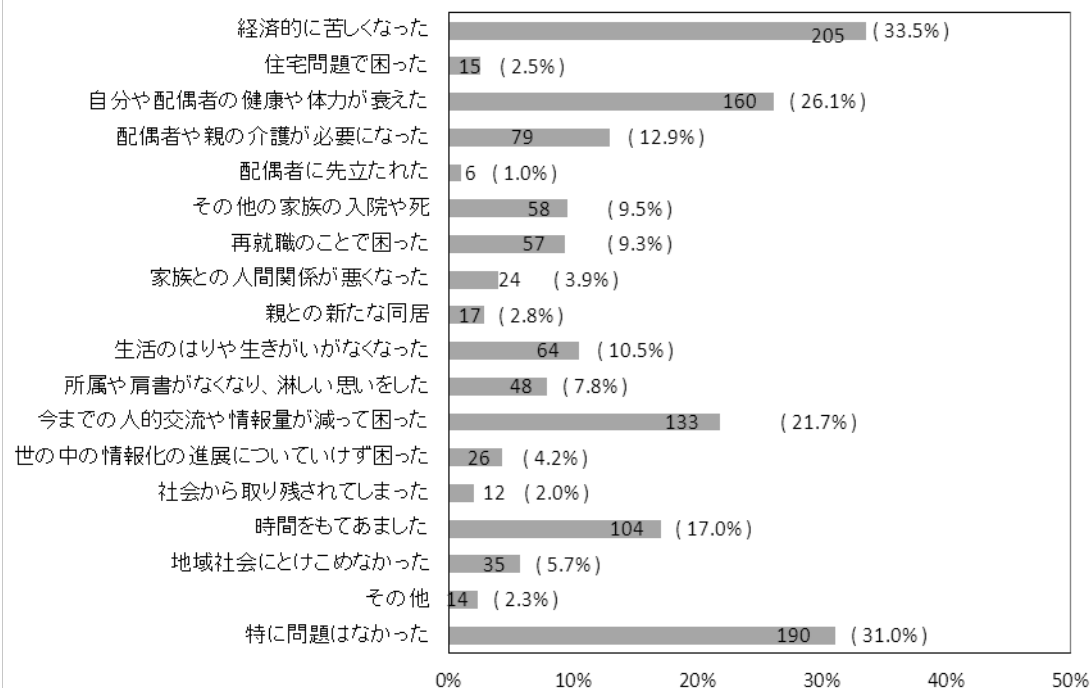
“定年後・退職後の仕事”については、男女ともに「引退した」が第1位だが、その回答割合は男性が39.5%に対して女性は64.3%と女性の方が圧倒的に高く、他の選択肢の回答割合はいずれも非常に低い結果になっている。男性では「別の企業へ再就職」、「前の会社に再雇用」、「開業」などが比較的高かった。前問の回答結果と比較すると、女性も「できれば仕

事を継続」したかったが、実際には「引退した」が多い結果になっている。女性の定年退職に伴う継続雇用や再就職が難しい状況がうかがえる。

◆問 21-(4) 定年後・退職後から今までにどのようなことがあったか

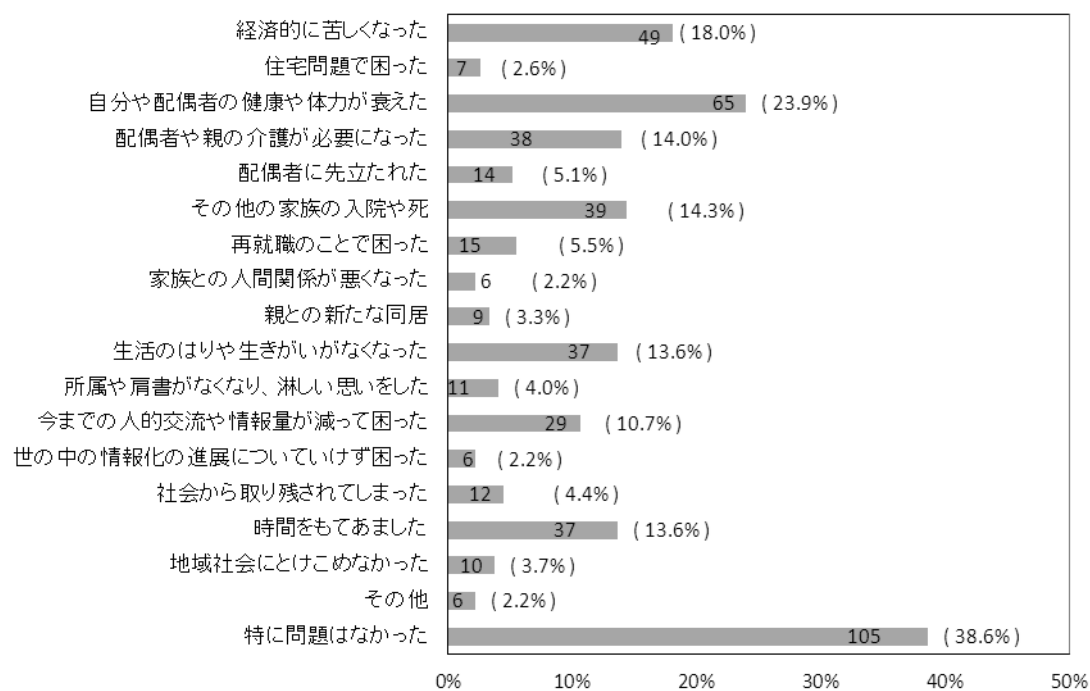
(男性)

回答数: 612



(女性)

回答数: 272

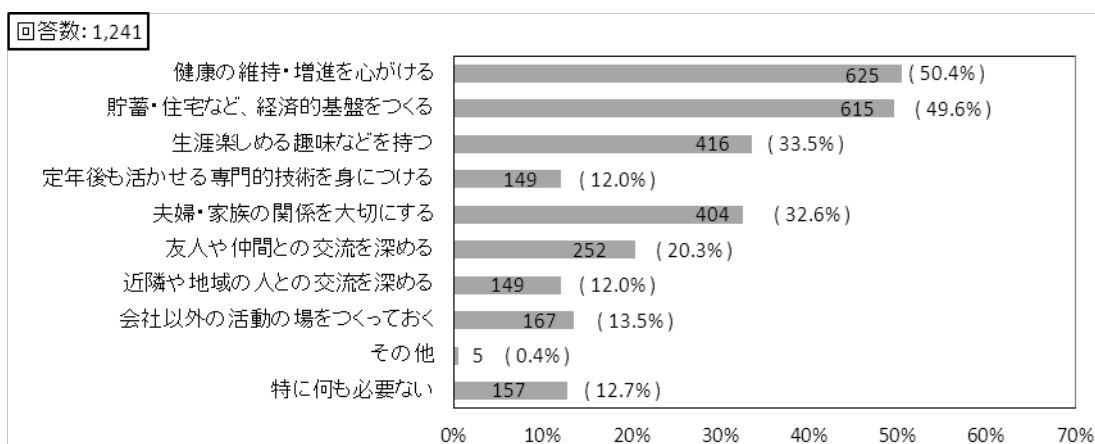


“定年後・退職後のできごと”については、男性では「経済的に苦しくなった」、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」、「人的交流や情報量が減って困った」、「時間を持て余した」などが相対的に高い一方で、女性では「配偶者や親の介護が必要になった」、「配偶者に先立たれた」、「その他の家族の入院や死」、「生活のほりや生きがいがなくなった」が男性に比べて回答割合が高かった。男性では自分自身の悩みを中心とした回答が多い一方で、女性では家族や親族に起こったできごとに関する回答が多い。

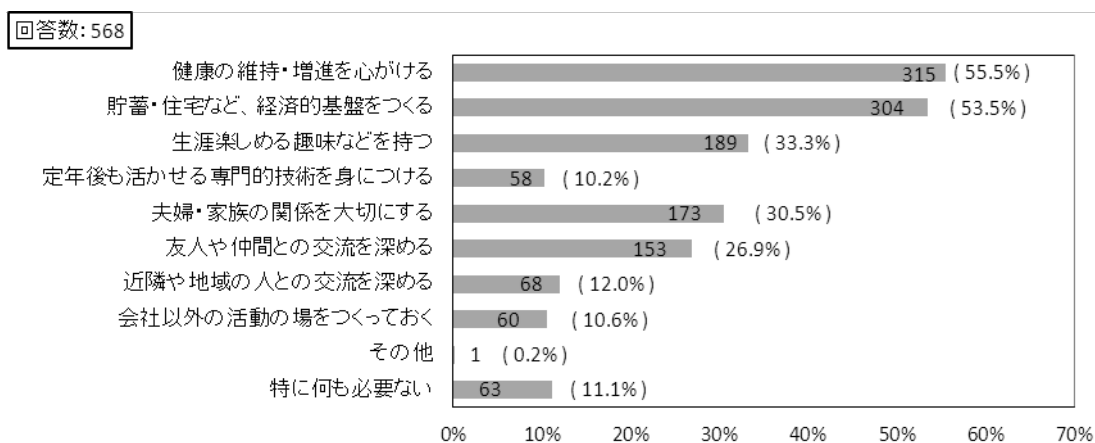
【問 22】 定年退職に向けてどのようなことが必要だと思いますか。

◆問 22-(1)-B 定年前の回答者自身が準備していること

(男性)



(女性)

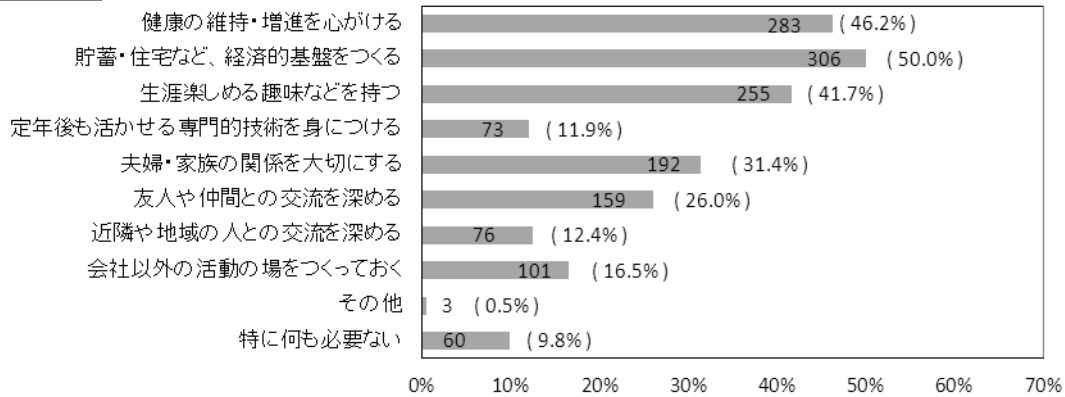


“定年前の回答者に定年退職に向けての実際に準備していること”を尋ねると、男性では女性に比べて「会社以外の活動の場を作っておく」が多いのに対して、女性は「健康の維持・増進」、「経済的基盤をつくる」、「友人や仲間との交流を深める」の回答割合が男性に比べて高かった。男性は定年退職を控えて会社中心の生活を切り替えていく、あるいは会社や仕事関係以外の人的ネットワーク作りに取り組む一方で、女性は既にあるプライベートなネットワークを拡充することに取り組んでおり、女性の方が男性よりも先行している感がある。

◆問 22-(1)-C 定年退職者が実際に準備したこと

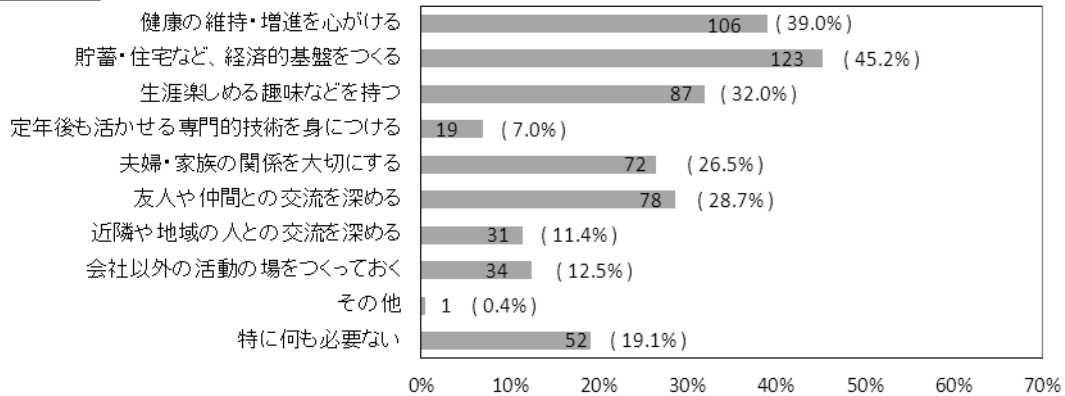
(男性)

回答数: 612



(女性)

回答数: 272

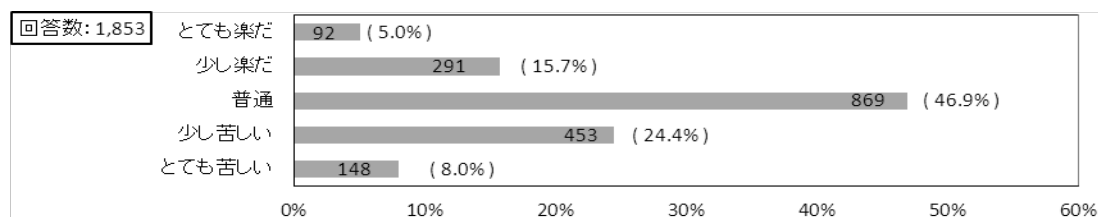


“定年退職者が実際に行なった準備”について尋ねると、男性では「健康の維持・増進」、「経済的基盤をつくる」、「生涯楽しめる趣味を持つ」、「会社以外の活動の場をつくっておく」の回答割合が女性に比べて高い一方で、女性は「友人や仲間との交流を深める」が男性に比べて高いほかは総じて低い、なかで「特に何も必要ない」が男性に比べて10%ポイントも高いのが目立った。これは、前問の回答結果と考え合わせると、女性は準備が既に整っている、あるいは相当程度進んでいるためにあえて準備をする必要がなかったと解釈することもできよう。

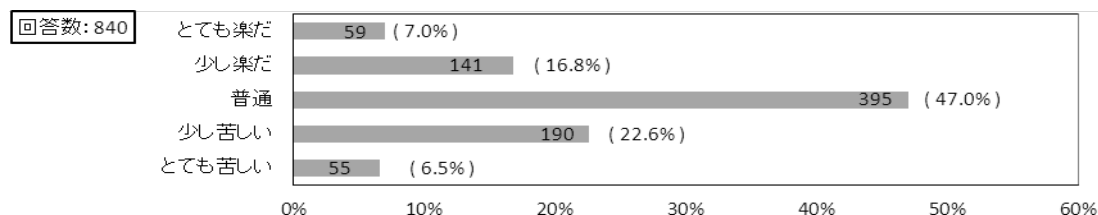
2.9 現在の暮らしと将来の暮らしについて

【問 29】現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか。

(男性)



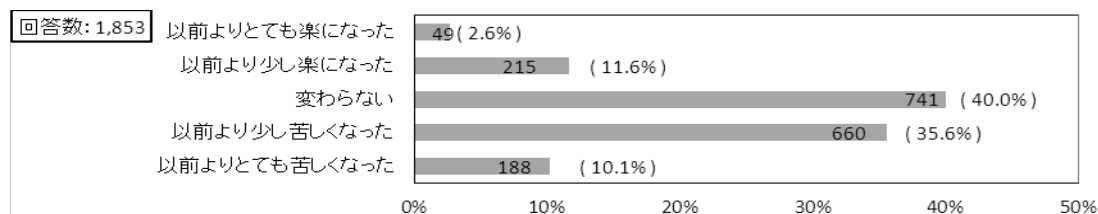
(女性)



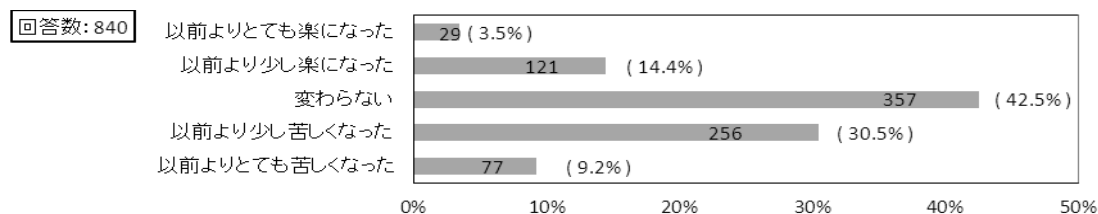
“現在の暮らし”について尋ねたところ、「楽だ」¹⁰は男性が 20.7%に対して女性は 23.8%、「苦しい」¹¹は男性が 32.4%に対して女性は 29.1%と、男性の方が女性に比べて暮らし向きは苦しいと感じている割合が多い。男性は世帯主で扶養家族も多く、女性の場合は共働きであるケースが多いことが回答結果に影響を及ぼしていると考えられる。

【問 30】あなたは 5 年前と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか。

(男性)



(女性)



“5 年前と比較して現在の暮らしの変化”について尋ねたところ、「楽になった」¹²は男性が 14.2%に対して女性は 17.9%、「苦しくなった」¹³は男性が 45.7%に対して女性は 39.7%と、

¹⁰ 「楽だ」は「とても楽だ」と「少し楽だ」の合計。

¹¹ 「苦しい」は「少し苦しい」と「とても苦しい」の合計。

¹² 「楽になった」は「とても楽になった」と「少し楽になった」の合計。

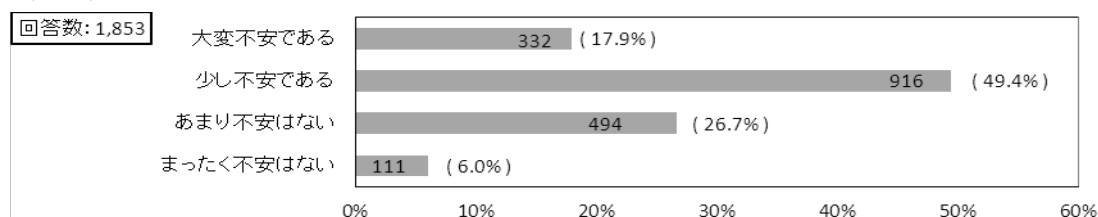
¹³ 「苦しくなった」は「少し苦しくなった」と「とても苦しくなった」の合計。

男性の方が女性に比べて暮らし向きは苦しくなったと感じている割合が多い。前問と同様に男性は世帯主で扶養家族も多く、女性の場合は共働きであるケースが多いことが回答結果に影響を及ぼしていると考えられる。

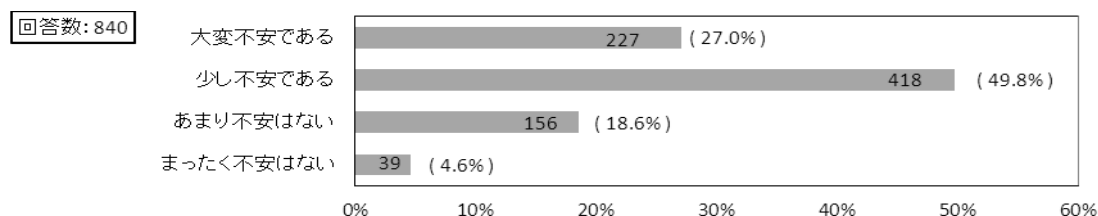
【問 31】あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように感じていますか。

◆問 31-(3) 自身の介護について

(男性)



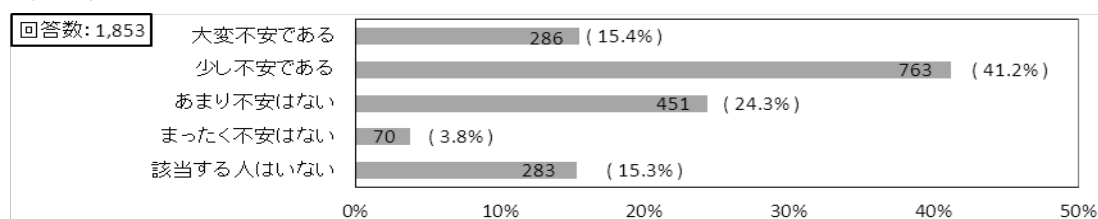
(女性)



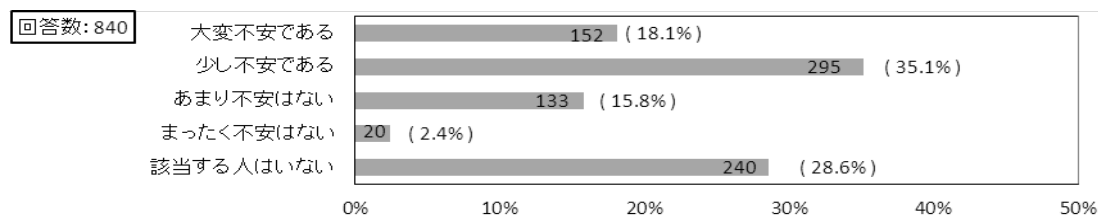
“自分自身の介護”について尋ねると、「不安である」¹⁴は男性が 67.3%に対して女性が 76.8%、「不安はない」¹⁵は男性が 32.7%に対して女性が 23.2%と、女性の方が男性よりも自身の介護についてより不安を感じている。女性の場合は、配偶者(夫)に先立たれてしまい、一人暮らしで要介護状態になる可能性が高いことを懸念していると推察される。

◆問 31-(4) 配偶者の介護について

(男性)



(女性)



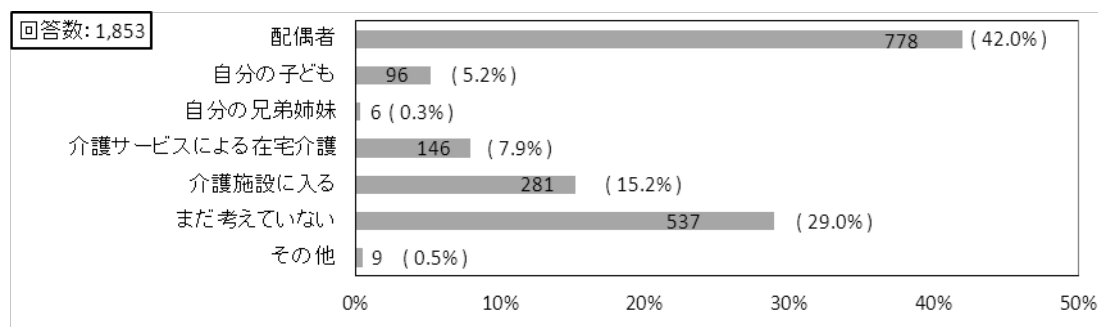
¹⁴ 「不安である」は「大変不安である」と「少し不安である」の合計。以下同様。

¹⁵ 「不安はない」は「あまり不安はない」と「まったく不安はない」の合計。以下同様。

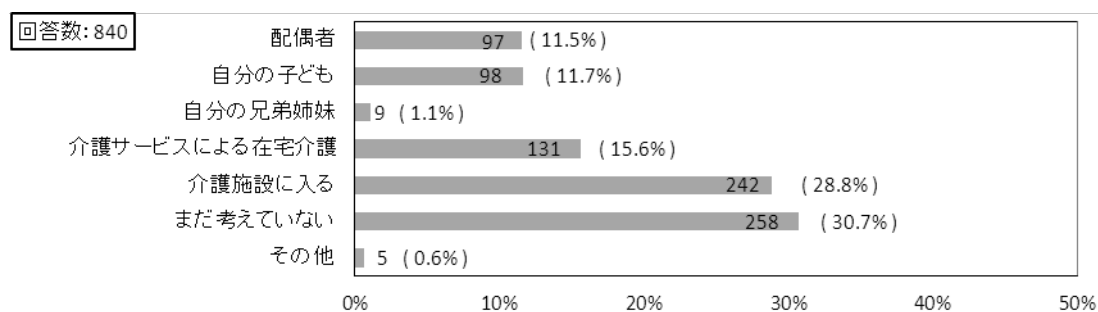
“配偶者の介護”について尋ねると、「不安である」は男性が 66.8%¹⁶に対して女性が 74.5%、「不安はない」は男性が 33.2%に対して女性が 25.5%と、女性の方が男性よりも配偶者の介護についてより不安を感じている。実際には男性（夫）の方が女性（妻）よりも早く要介護になる可能性が高いことが回答結果に影響しているものと考えられる。

【問 32】 あなたはご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか。

(男性)



(女性)



“自分の介護を誰にしてもらいたいか”について尋ねると、男性では「配偶者」が断然多く、「まだ考えていない」が 30%程度であるのに対して、女性では「まだ考えていない」が男性と同程度の回答割合でトップだったが、そのあとは「介護施設に入る」、「介護サービスによる在宅介護」、「自分の子ども」の回答割合が男性に比べて非常に高かった。実際には男性（夫）の方が女性（妻）よりも早く要介護になる可能性が高く、女性の場合は、配偶者（夫）に先立たれてしまい、一人暮らしで要介護状態になる可能性が高いことが回答結果に影響しているものと考えられる。

¹⁶ 文中の回答割合は、「該当する人はいない」の回答数を除いて算出した数値。

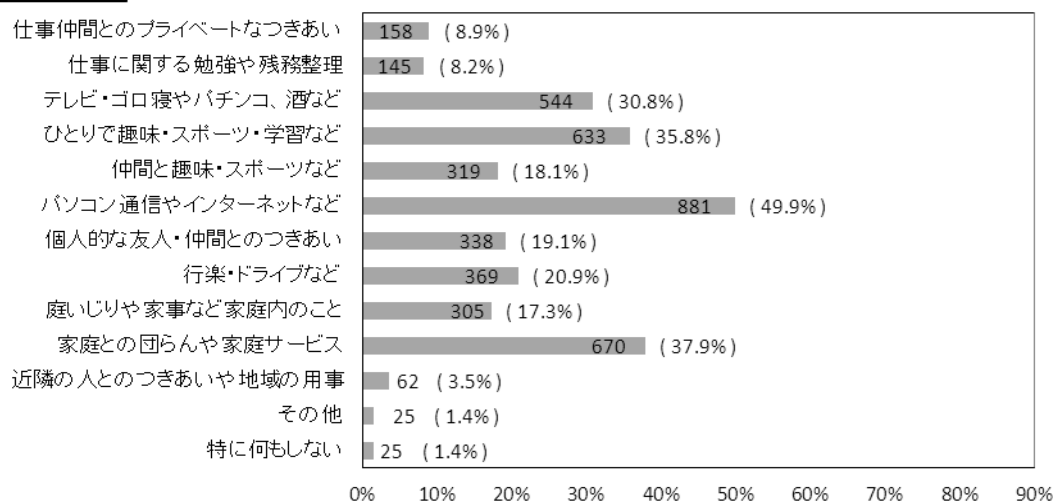
3 現役と退職者との比較

3.1 自由時間の過ごし方

【問 11(2)】自由時間についておうかがいします。日頃の自由時間を主にどんなことに使っていますか。

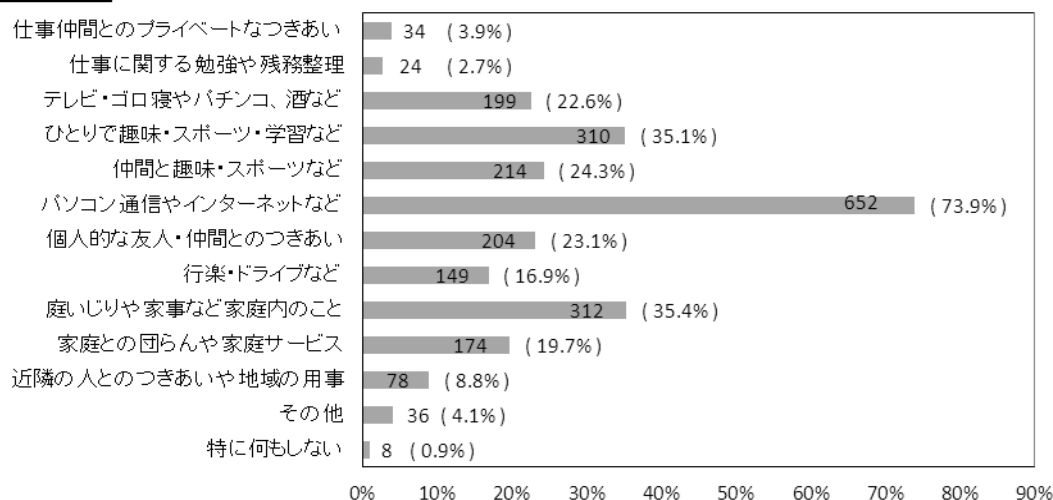
(現役)

回答数: 1,766



(退職者)

回答数: 882

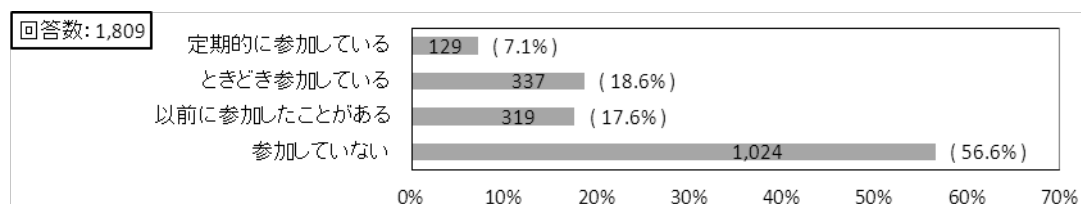


“自由時間の使い方”については、現役・退職者ともに「インターネット」が共に首位であるが、回答割合は圧倒的に退職者の方が高い。現役で相対的に高かったのは「家族との団らんや家庭サービス」、「テレビ・ゴロ寝、パチンコ、酒」、「行楽・ドライブ」など子供がいる家族構成に起因するものや一人での暇つぶし、および「仕事仲間とのプライベートなつきあい」、「仕事に関する勉強や残務整理」などの会社関連の回答が目立った。一方、退職者では子供が独立して自由に時間を使うことができるようになったために「庭いじり家事などの家庭内のこと」、「仲間と趣味・スポーツ」などの回答割合が相対的に高かったと思われる。

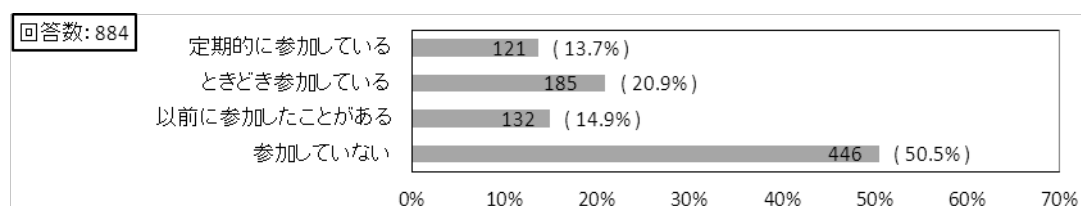
3.2 社会貢献活動について

【問 12】あなたは、地域やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。

(現役)



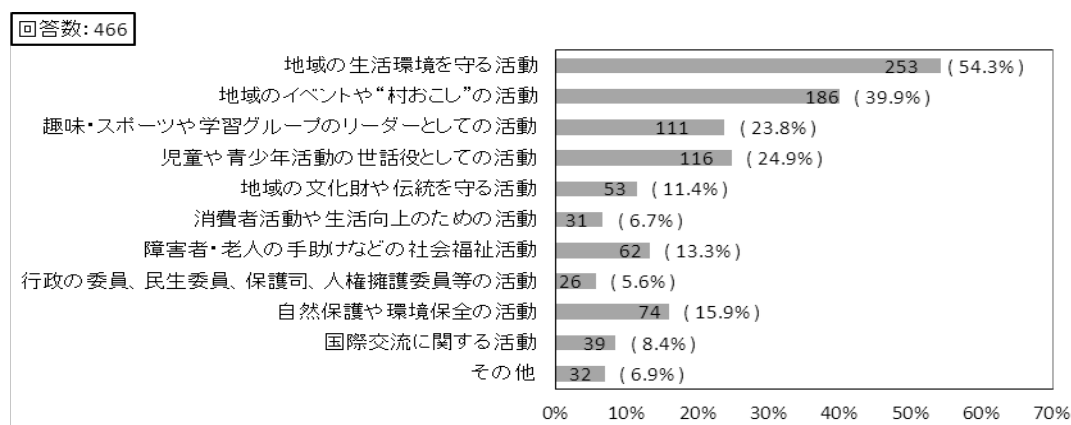
(退職者)



“社会貢献活動への参加の有無”については、「参加している」¹⁷は現役が 25.7%、退職者が 34.8%と退職者が上回っているが、退職者の「参加していない」の回答割合は 50.5%と過半を占めている。現役は「以前参加したことがある」が 17.6%で、仕事や子育てなどの理由で中断してしまっているものとみられ、参加経験のある回答者レベルでみれば現役は 43.4%に対して退職者は 49.5%と、両者の格差は比較的小幅にとどまる。

【問 12(1)】参加している方におたずねします。どのような分野の活動ですか。

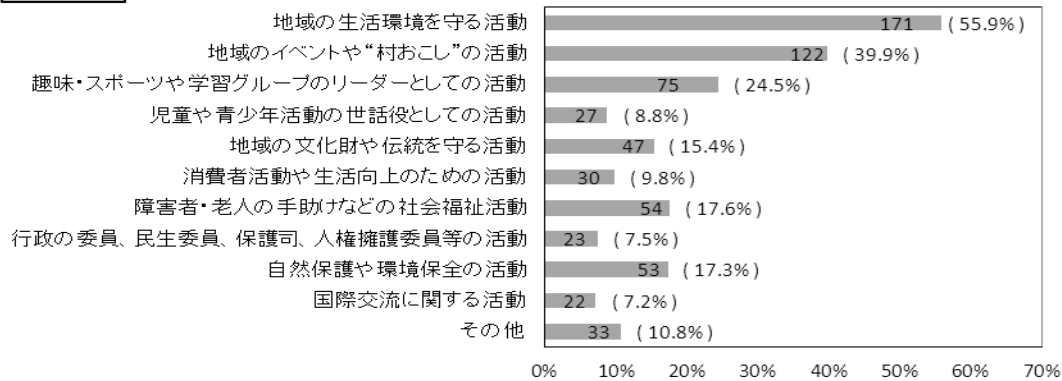
(現役)



¹⁷ 「参加している」は「定期的に参加している」と「ときどき参加している」の合計。

(退職者)

回答数: 306

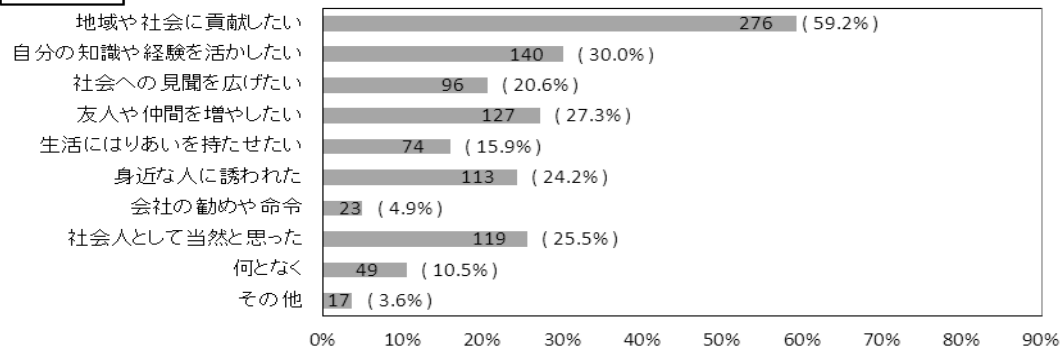


“社会貢献活動での参加分野”については、現役では「児童や青少年活動の世話役としての活動」が我が子のスポーツ活動（少年団など）や習い事・サークル活動の面倒見をきっかけに始めることが多いために24.9%と、退職者の8.8%に比べて格段に回答割合が高い。退職者では、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」、「地域の文化財や伝統を守る活動」、「消費者活動や生活向上のための活動」など、相当程度時間を費やす必要のある活動の回答割合が高くなっている。

【問12(2)】参加している方におたずねします。活動に参加した理由は何ですか。

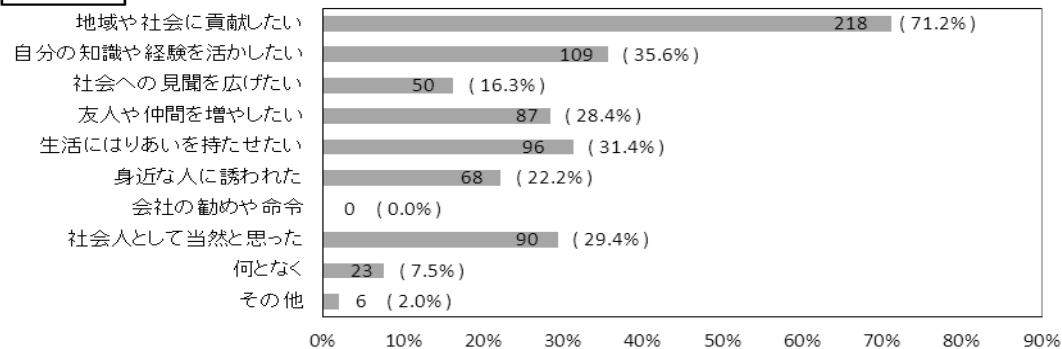
(現役)

回答数: 466



(退職者)

回答数: 306

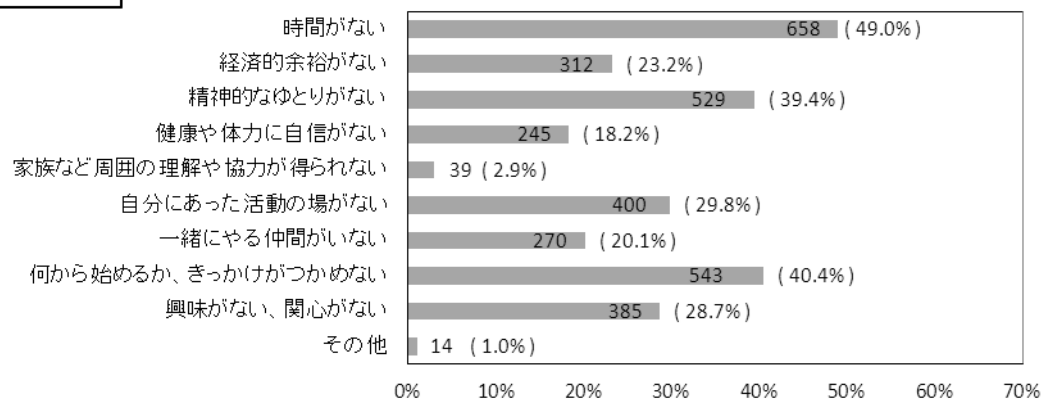


“社会貢献活動の参加理由”については、現役・退職者ともに「地域や社会に貢献したい」が首位であるが、退職者（71.2%）は現役（59.2%）に比べてその割合が高い。現役では「社会への見聞を広げたい」の回答割合が高いのに対して、退職者では「自分の知識や経験を活かしたい」、「生活にはりあいをもたしたい」、「社会人として当然と思った」などが高く、豊富な人生経験に裏打ちされた回答結果であるといえる。

【問 12(5)】参加していない方におたずねします。活動に参加していない理由は何ですか。

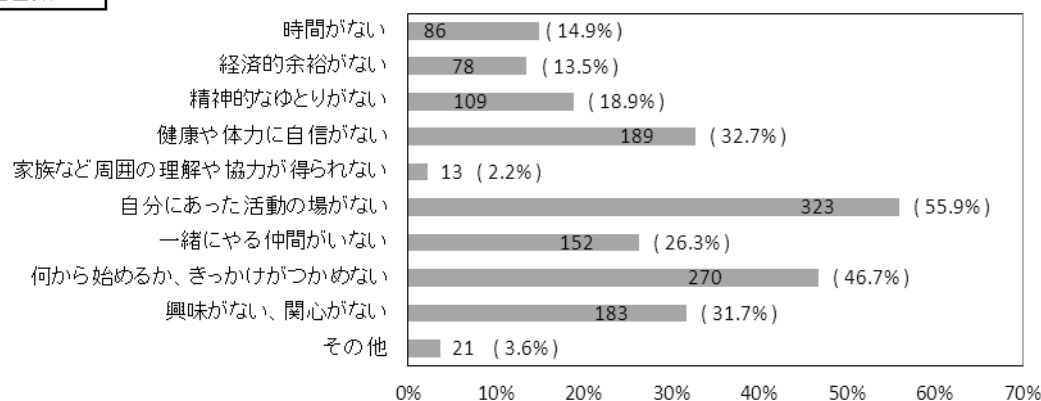
(現役)

回答数: 1,343



(退職者)

回答数: 578



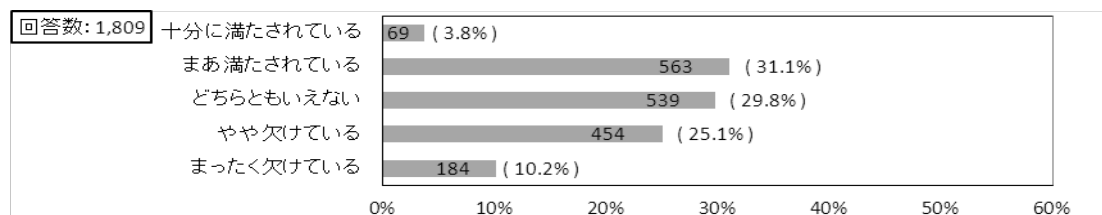
“社会貢献活動に参加していない回答者への不参加の理由”は、現役では「時間がない」、「精神的なゆとりがない」、「経済的余裕がない」など仕事のかたわらに活動をしなければならない悩み（自分自身の問題）がうかがわれる。退職者では「自分にあつた活動の場がない」、「健康や体力に自信がない」、「一緒にやる仲間がいない」など活動対象・内容に関する、あるいは加齢に関する問題が浮上してくる。

3.3 生活の満足度について

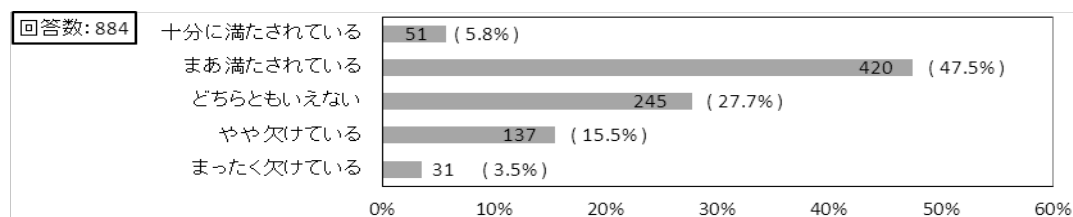
【問 13】現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていますか。

◆問 13-(3) 経済的ゆとり

(現役)



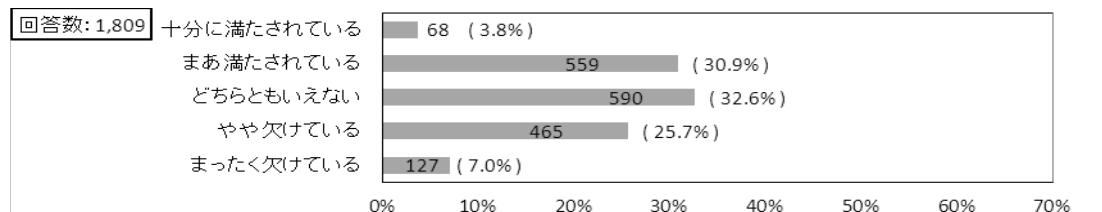
(退職者)



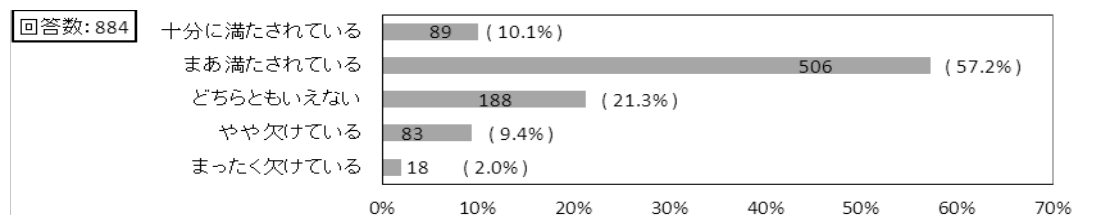
“経済的ゆとりの満足度”については、「満たされている」は現役が 34.9%に対して退職者が 53.3%、「欠けている」は現役が 35.3%に対して退職者が 19.0%と、退職者の方が経済的ゆとりはあることが示されている。

◆問 13-(4) 精神的ゆとり

(現役)



(退職者)

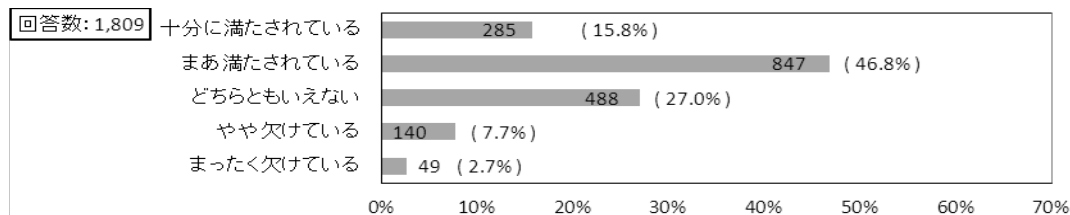


“精神的ゆとりの満足度”については、「満たされている」は現役が 34.7%に対して退職者が 67.3%、「欠けている」は現役が 32.7%に対して退職者が 11.4%と、退職者の方が精神的ゆとりはあることが示されている。

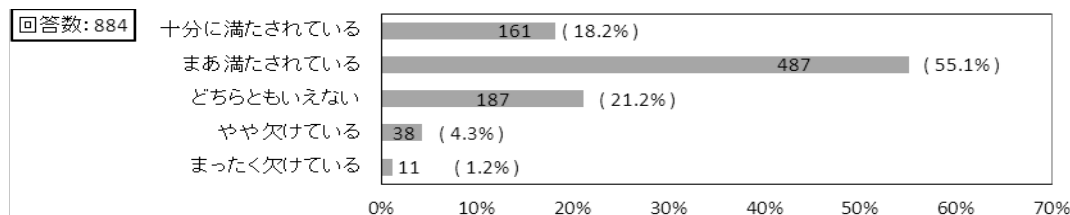
なお、“時間的ゆとり”についても、「満たされている」は現役が 48.3%に対して退職者が 86.8%、「欠けている」は現役が 26.9%に対して退職者が 4.6%と、退職者の方が時間的ゆとりはあり、時間・カネ・心の3つの面で退職者の方が現役に比べてより満たされていると感じているようだ。

◆問 13-(5) 家族の理解・愛情

(現役)



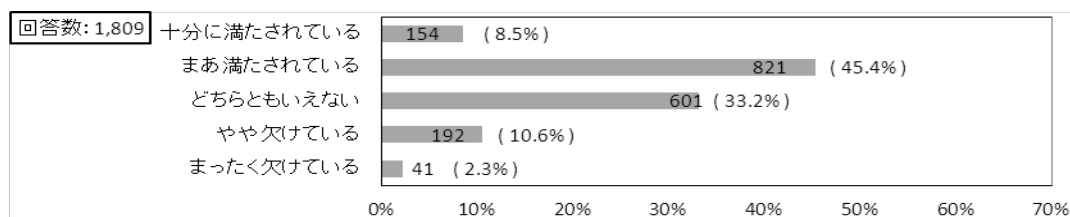
(退職者)



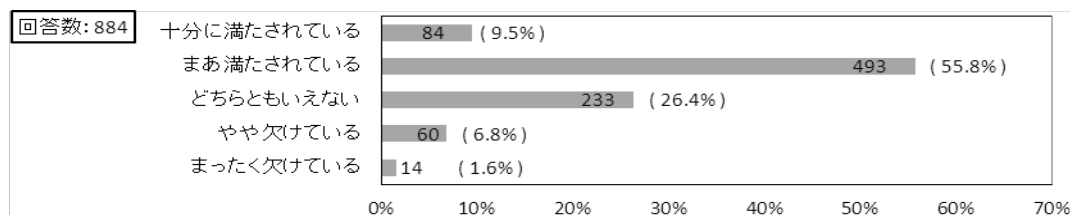
“家族の理解・愛情に関する満足度”については、「満たされている」は現役が 62.6%に対して退職者が 73.3%、「欠けている」は現役が 10.4%に対して退職者が 5.5%と、退職者の方が家族の理解・愛情が得られていると感じていることが示されている。

◆問 13-(6) 友人・仲間

(現役)



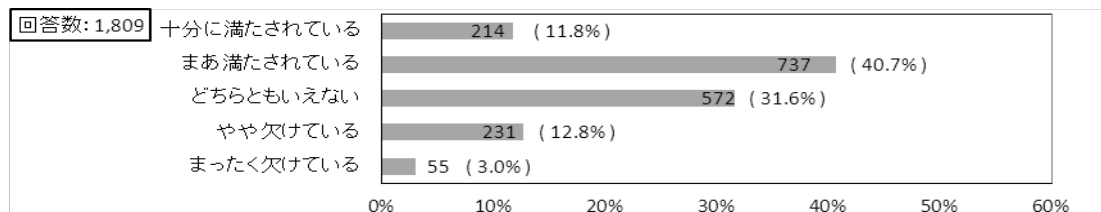
(退職者)



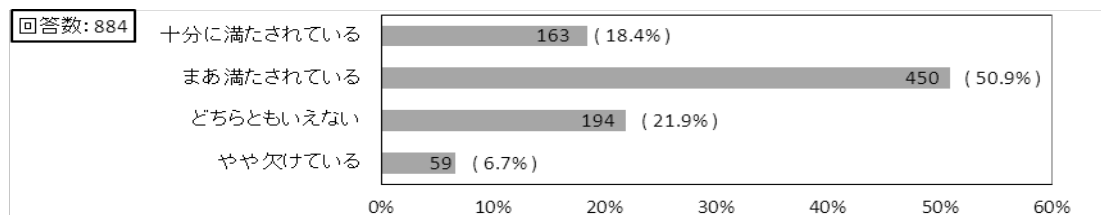
“友人・仲間に関する満足度”については、「満たされている」は現役が 53.9%に対して退職者が 65.3%、「欠けている」は現役が 12.9%に対して退職者が 8.4%と、退職者の方が友人・仲間についての満足度は高い。

◆問 13-(7) 熱中できる趣味

(現役)



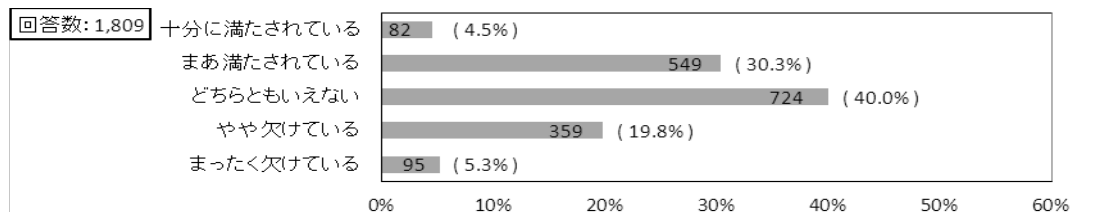
(退職者)



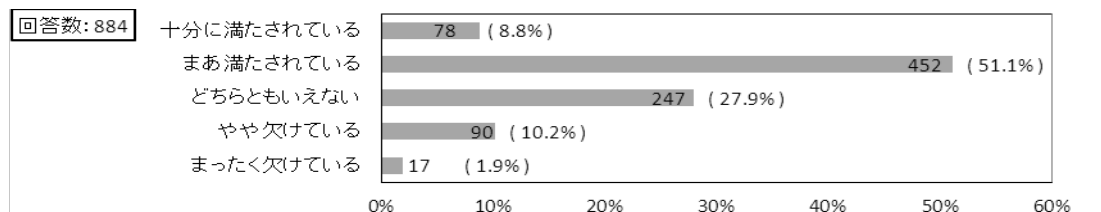
“趣味に関する満足度”については、「満たされている」は現役が 52.5%に対して退職者が 69.3%、「欠けている」は現役が 15.8%に対して退職者が 8.7%と、退職者の方が趣味についての満足度は高い。

◆問 13-(10) 自然とのふれあい

(現役)



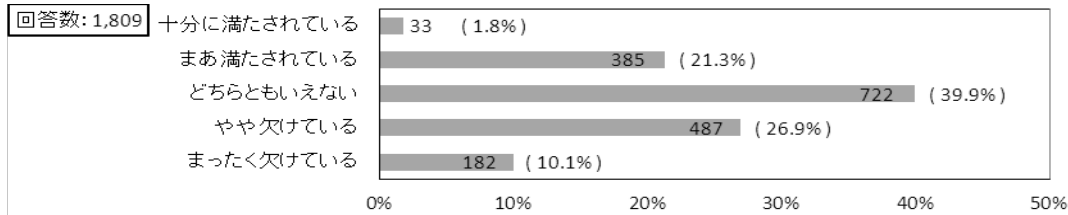
(退職者)



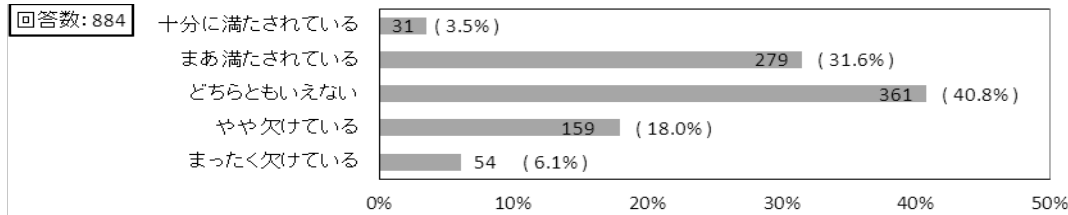
“自然とのふれあいに関する満足度”については、「満たされている」は現役 34.8%に対して退職者が 59.9%、「欠けている」は現役が 25.1%に対して退職者が 12.1%と、退職者の方が自然とのふれあいについての満足度は高い。退職後に田舎暮らしを志向する人が散見されるのもうなずける。

◆問 13-(11) 近隣との交流

(現役)



(退職者)



“近隣との交流に関する満足度”については、「満たされている」は現役 23.1%に対して退職者が 35.1%、「欠けている」は現役が 37.0%に対して退職者が 24.1%と、退職者の方が自近隣との交流についての満足度は高い。退職して時間的な余裕ができることや、自宅に居る時間が増えることが影響していると思われる。

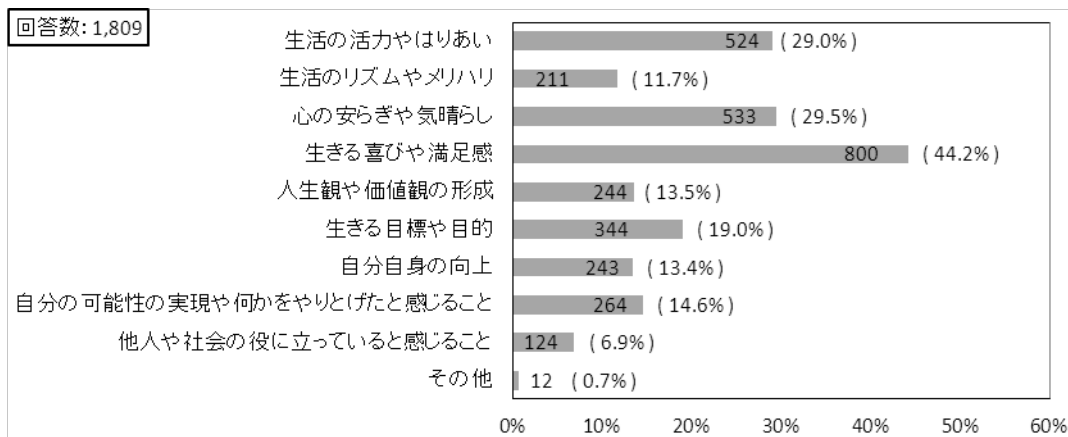
そのほかの項目のうち退職者の満足度の高かったのは“住まいのこと”で、逆に現役の満足度が高かったのは“仕事のほりあい”と“社会的地位”の二つにとどまり、両者が同程度であったのは“社会の役に立つこと”であった。

以上から、退職者の方が現役に比べて物心両面でより豊かな老後生活（充実度・満足度の高い生活）を営んでいるという結果が得られた。

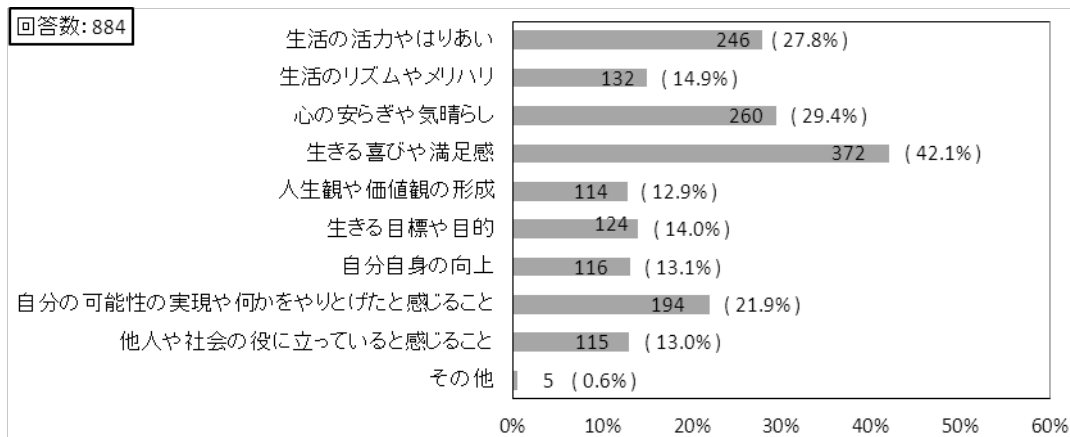
3.4 生きがいについて

【問 15(1)】生きがいを表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。

(現役)



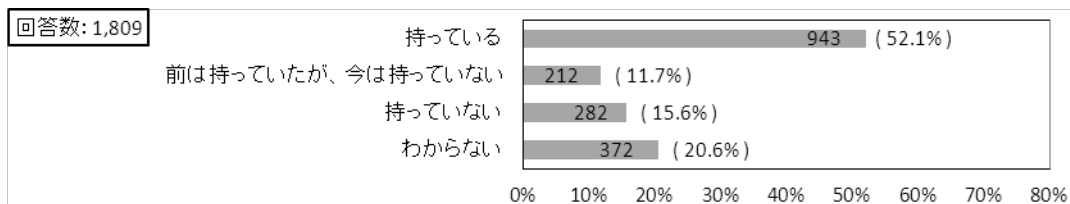
(退職者)



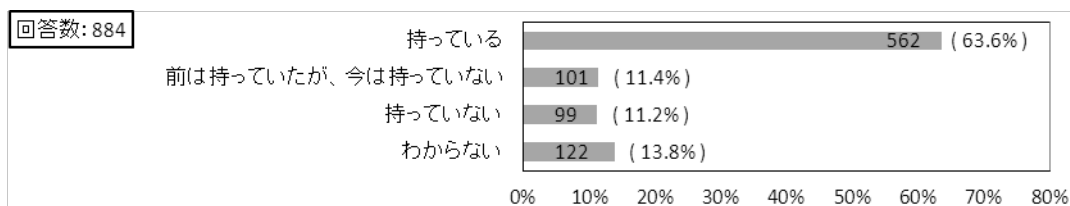
“生きがいを表すのに最も適当なのはどれか”については、現役・退職者ともに「生きる喜びや満足感」が40%以上を占めて首位であった。このほか退職者が現役に比べて回答割合が高かったのは「自分の可能性の実現や何かやりとげたいと感じること」、「生活のリズムやメリハリ」、「他人や社会の役に立っていると感じる」などで、現役では「生きる目標や目的」だけにとどまり、退職者の方が生きがいについて多面的に捉えている傾向がうかがわれる。

【問 15(2)】 そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

(現役)



(退職者)

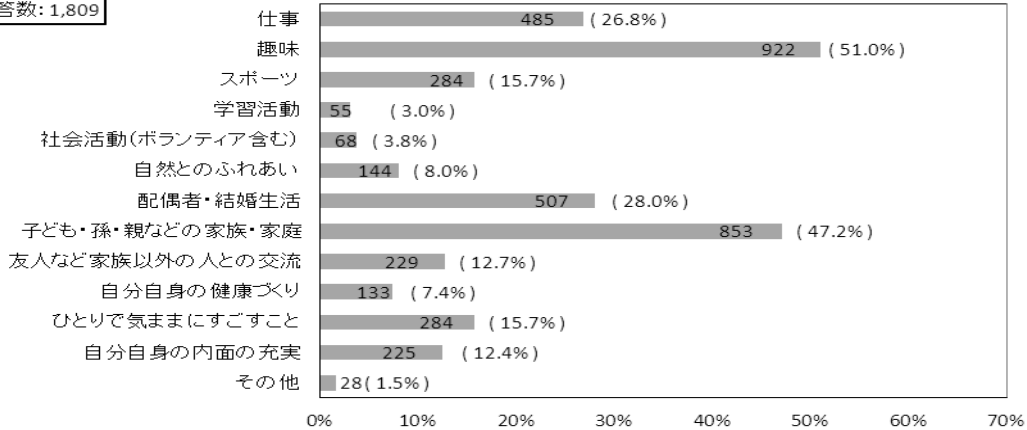


“前問で回答した生きがいを持っているか”については、退職者の方が現役に比べて生きがいを持っているという回答割合が高かった。また「わからない」も現役の方が多かった。

【問16】あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。

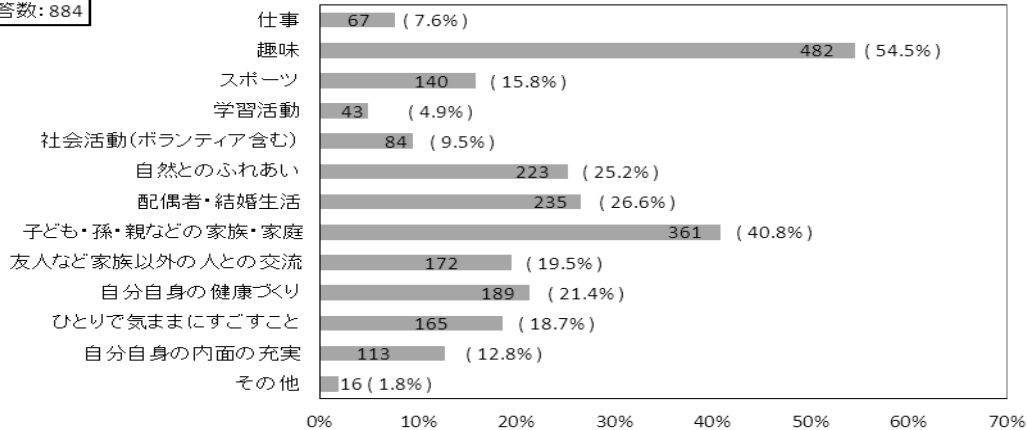
(現役)

回答数: 1,809



(退職者)

回答数: 884



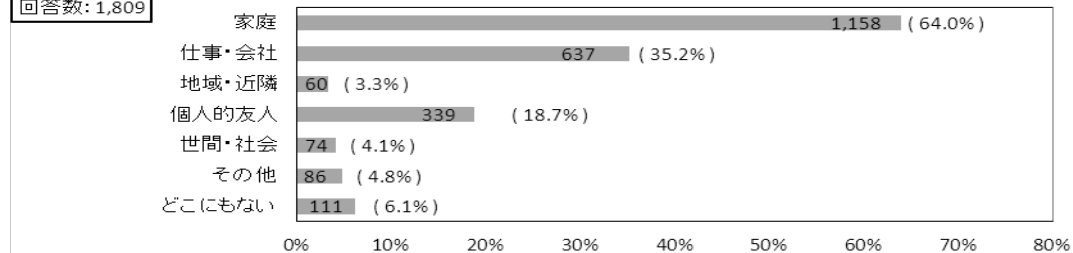
“どのようなことに生きがいを感じるか”については、現役・退職者ともに「趣味」が第1位、「家族・家庭」が第2位だが、「趣味」は退職者の方が、また「家族・家庭」は現役の回答割合が高かった。現役の方が退職者に比べて回答割合が高かったのは「仕事」であった。一方、退職者の回答割合が高かったのは「自然とのふれあい」、「健康づくり」、「友人との交流」、「社会活動」などで、比較的時間が自由になるために活動しやすいことが背景にあると思われる。

【問17】生きがいに関連するそれぞれの項目について、それらは家庭・会社などのどこで得られるか、あてはまるものを選んでください。

◆問17-(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこか

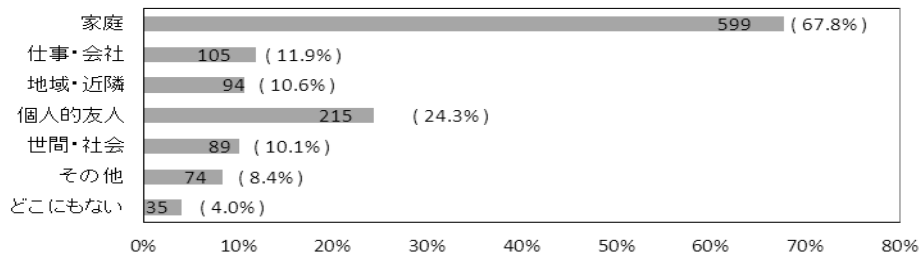
(現役)

回答数: 1,809



(退職者)

回答数: 884

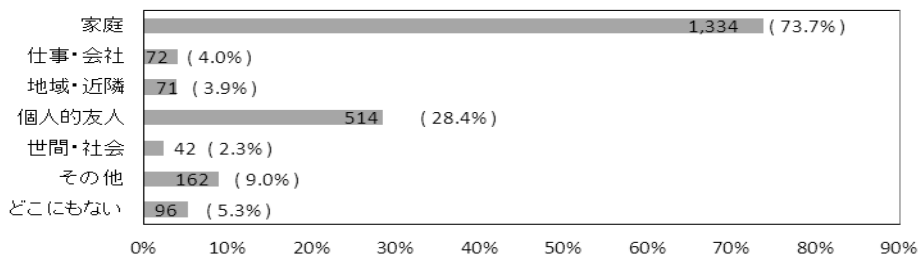


“生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこか”については、現役・退職者ともに「家庭」が60%を超える圧倒的の首位で、次いで現役は「仕事・会社」、退職者は「個人的友人」と続いている。退職者では「地域・近隣」、「世間・社会」も相対的に回答割合が高かった。これは仕事・会社という2本柱の一つ（もう一つは家庭）が退職によって選択肢から消えたために、他の項目へ拡散したことが影響していると思われる。同様な回答内容は“喜びや満足感を感じるのはどこか”の設問でも同様の回答結果になっている

◆問 17-(3) 心の安らぎや気晴らしを感じる人が多いのはどこか

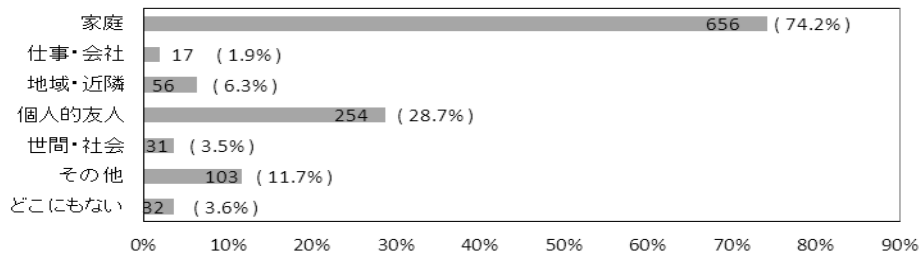
(現役)

回答数: 1,809



(退職者)

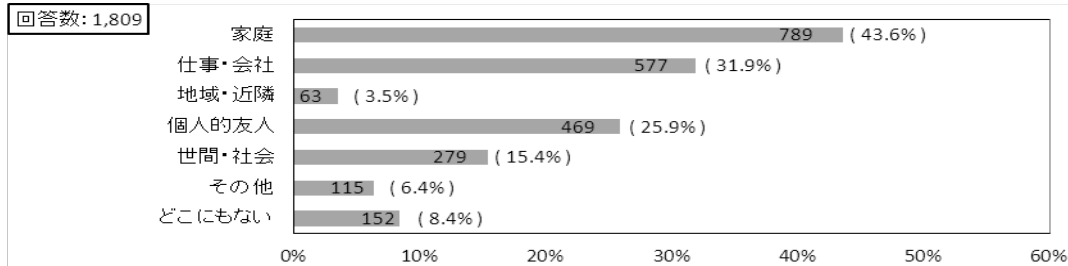
回答数: 884



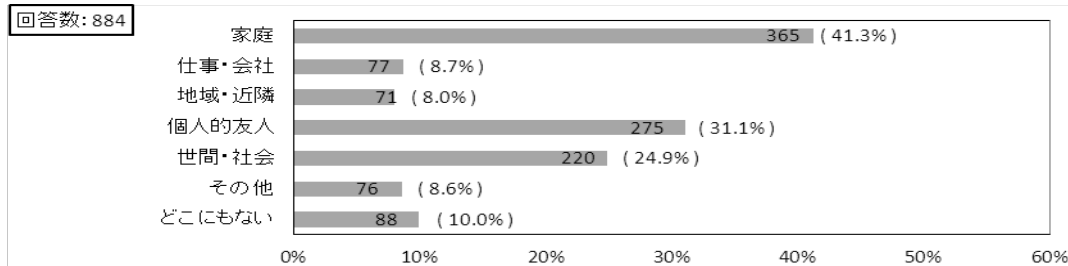
“心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこか”については、現役・退職者ともに「家庭」が70%を超える圧倒的な首位で、次いで第2位は「個人的友人」と続き、本設問に関しては現役・退職者間で大きな相違をみられなかった。

◆問 17-(5) 人生観や価値観に影響を与えているのはどこの人が

(現役)



(退職者)



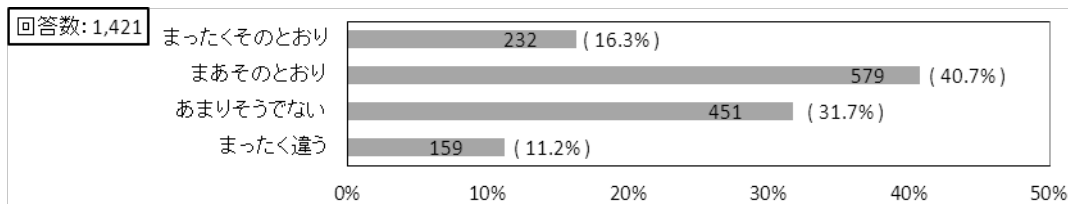
“人生観や価値観に影響を与えているのはどこの人が”については、現役・退職者ともに「家庭」が40%を超える首位であった。現役では「仕事・会社」が第2位で、そのあとに「個人的友人」、「世間・社会」と続く。退職者は第2位が「個人的友人」、第3位が「世間・社会」で、現役にあった選択肢の「仕事・会社」がないために順位が繰り上がった格好になっている。

3.5 配偶者との関係について

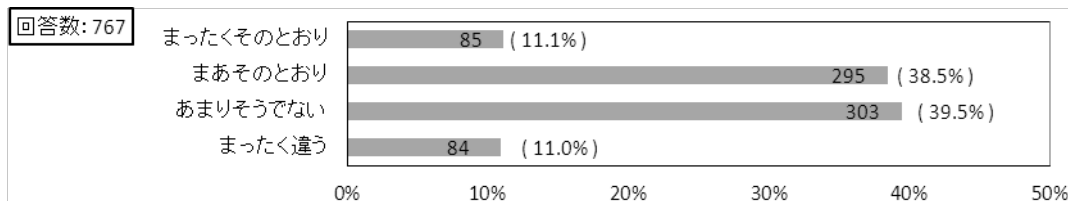
【問 18】日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。それぞれについてお答えください。

◆問 18-(3) 配偶者と価値観・感じ方が似ている

(現役)



(退職者)

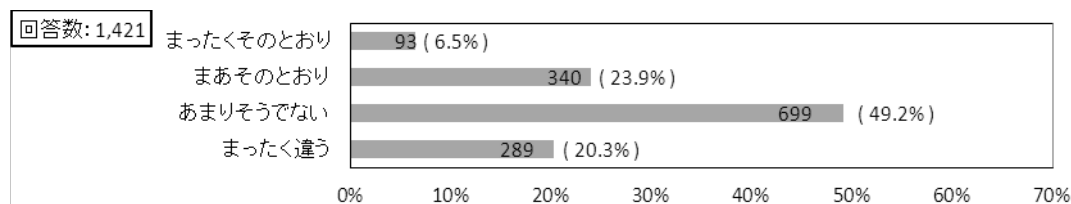


“配偶者と価値観・感じ方が似ている”については、「そのとおり」は現役が 57.0%に対して退職者は 49.6%、「そうではない」は現役が 42.9%に対して退職者は 50.5%と、現役の方が退職者に比べて相対的に配偶者と価値観・感じ方が似ていると回答した割合が高い。

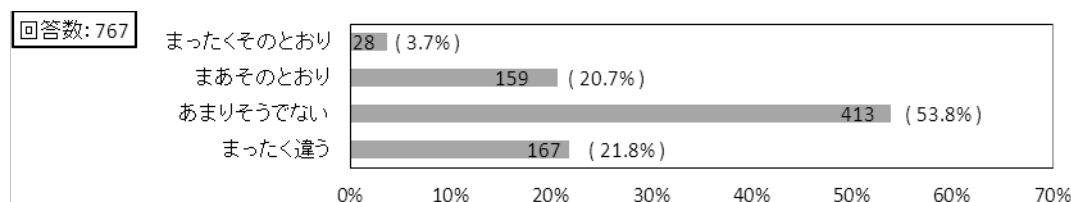
配偶者と一緒に出掛けるについても、現役の方が「そのとおり」と回答した割合が高い結果になった。

◆問 18-(9) 配偶者は自分によりかかりすぎる

(現役)



(退職者)



“配偶者は自分によりかかりすぎる”については、「そのとおり」は現役が 30.4%に対して退職者は 24.4%、「そうではない」は現役が 69.5%に対して退職者は 75.6%と「そうではない」がいずれも 7 割以上を占めるが、現役の方が退職者に比べて相対的に配偶者は自分によりかかりすぎると回答した割合は高い。

“配偶者は金銭的にうるさい”や、“配偶者にもっと家事をしてほしい”も現役の方が退職者に比べてより強く感じているという結果となった。現役は仕事や育児などに追われる日々を過ごしているために、時間面や経済面で夫婦が一致協力して欲しいという願望が強いためと推察される。

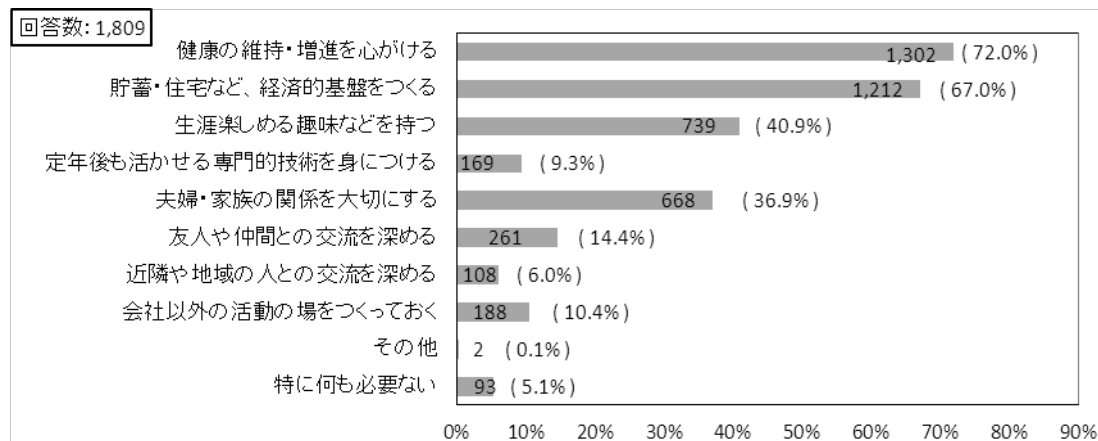
なお、“配偶者は自分のことを応援してくれる”や、“自分は配偶者の良き理解者である”、“配偶者と会話がある”についてはいずれも現役・退職者間で大きな差異はみられなかった。

3.6 定年退職に向けての準備について

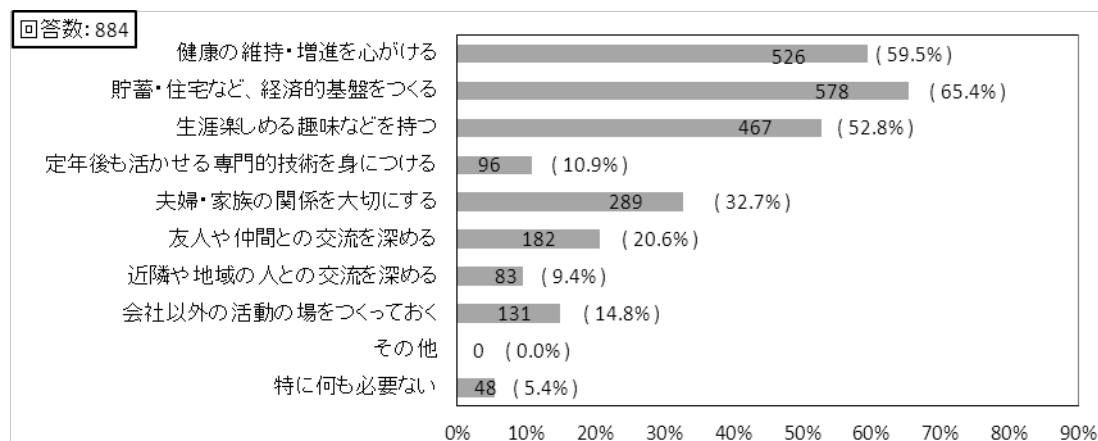
【問 22 (1)】定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。

◆問 22-(1)-A 定年前にどのようなことが必要だと思うか

(現役)



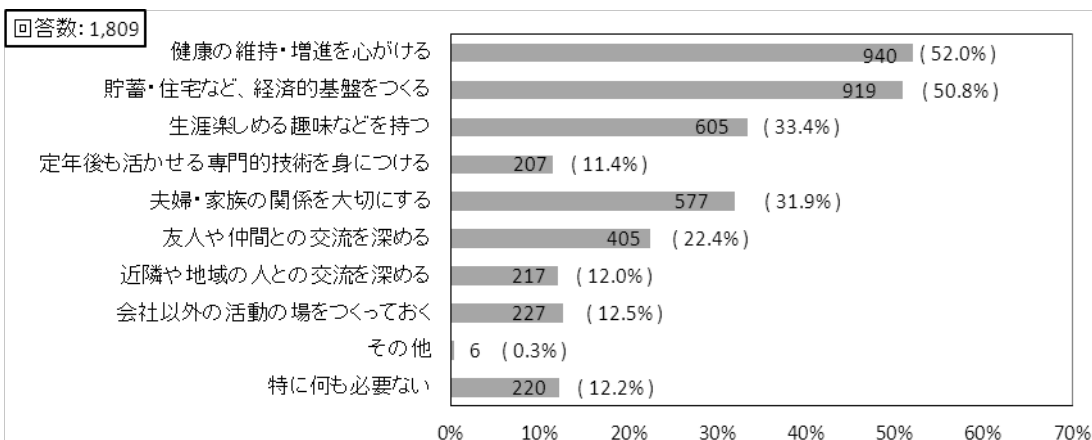
(退職者)



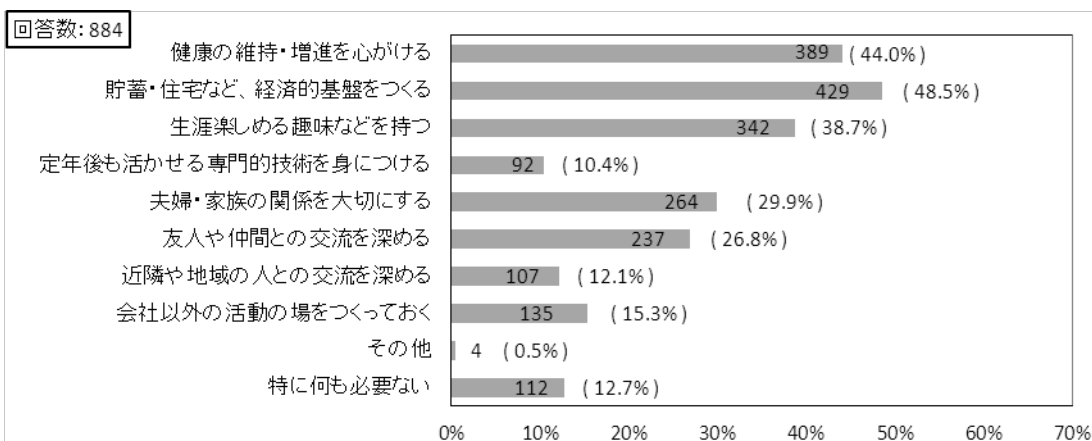
“定年退職に向けて個人としてどのようなことが必要か”について尋ねた。「健康の維持・増進」は退職者も 59.5%と高いが、現役はそれ以上に 72.0%と非常に高くなっている。「経済的基盤」は現役・退職者ともに 65%以上で重視している。退職者では、「生涯楽しめる趣味を持つ」、「友人や仲間との交流を持つ」、「会社以外の活動の場をつくっておく」などが現役に比べて高く、いずれも退職後を強く意識したものと思われる。

◆問 22-(1)-B, C 定年前の方はあなた自身がどのような準備・心掛けをしているか。定年後・退職後の方はあなた自身がどのような準備・心掛けをしたか

(現役)



(退職者)

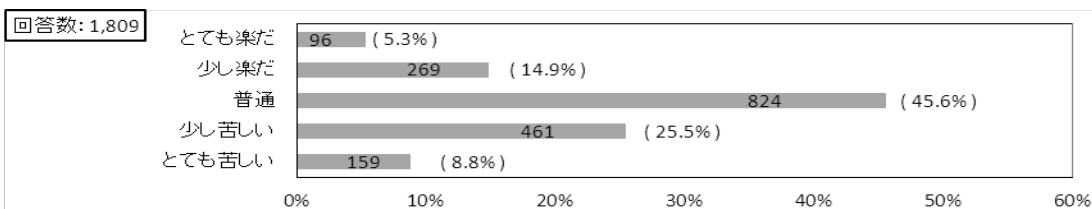


“現役には準備していること、退職者には退職前に準備したこと”について尋ねた。「健康の維持・増進」は退職者（44.0%）も高いが、現役では52.0%とそれ以上に高い。「経済的基盤」は現役・退職者ともに50%前後の首位で重視していることがわかる。退職者では、「生涯楽しめる趣味を持つ」、「友人や仲間との交流を持つ」、「会社以外の活動の場をつくっておく」などが高く、前問と同様にいずれも退職後を意識したものと思われる。

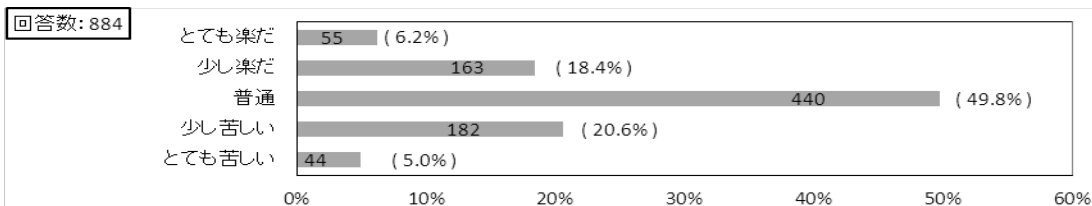
3.7 現在と将来の暮らしについて

【問 29】現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか。

(現役)



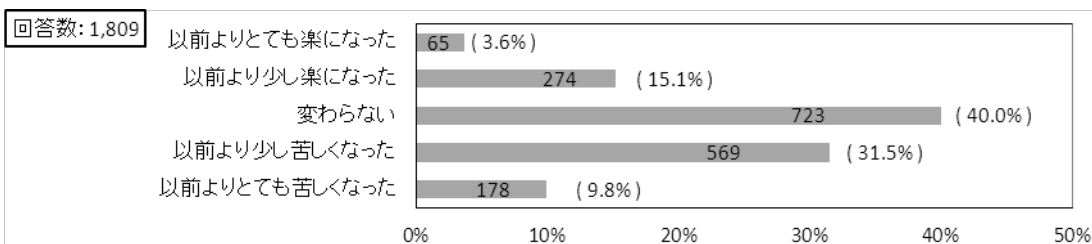
(退職者)



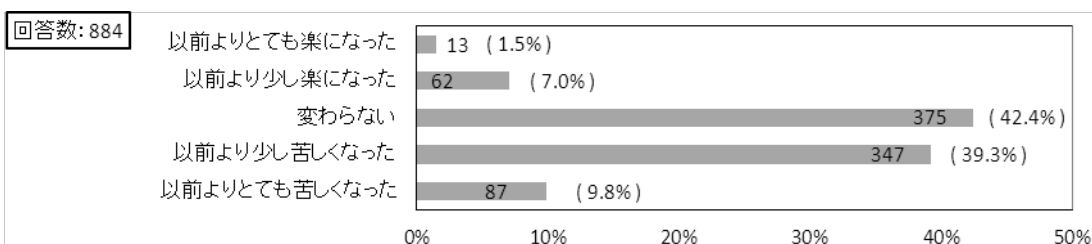
“自分自身の暮らし”については、「楽だ」は現役が 20.2%に対して退職者が 24.6%、「苦しい」は現役が 34.3%に対して退職者が 25.6%と、現役の方が退職者に比べてより苦しいと感じている。現役は子育てや住宅購入などの経済的な負担が重く、給与もかつてのような右肩上がりのアップも期待できない。このため、退職者に比べて暮らし向きについて苦しいと感じている者の割合が高くなっていると思われる。

【問 30】あなたは 5 年前と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか。

(現役)



(退職者)

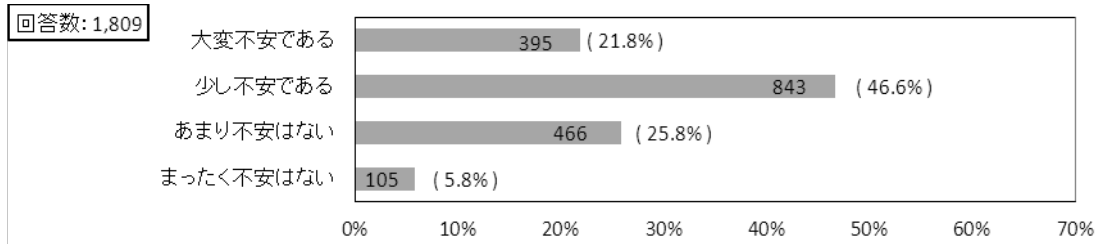


“5 年前に比べての自分自身の暮らしの変化”については、「楽だ」は現役が 18.7%に対して退職者が 8.5%、「苦しい」は現役が 41.3%に対して退職者が 49.1%と、退職者の方が現役に比べてより苦しくなっていると感じている度合いが強い。前問とは対照的な回答結果になった。直近 5 年間に退職した人たちが収入の減少から苦しくなったと回答し、このことが影響して退職者の方が「苦しくなった」という回答割合が増えた可能性がある。

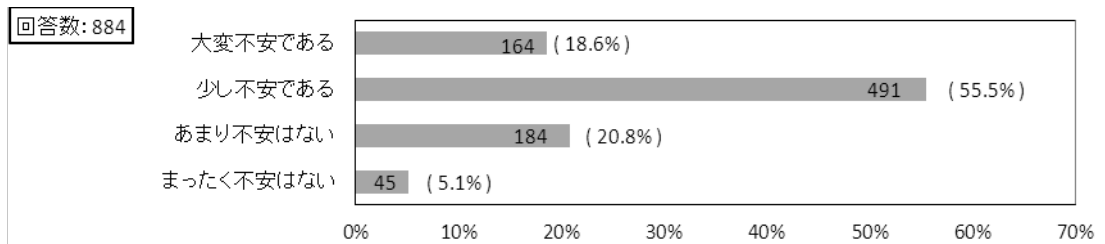
【問 31】 あなた将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。

◆問 31-(3) 自分自身の介護について

(現役)



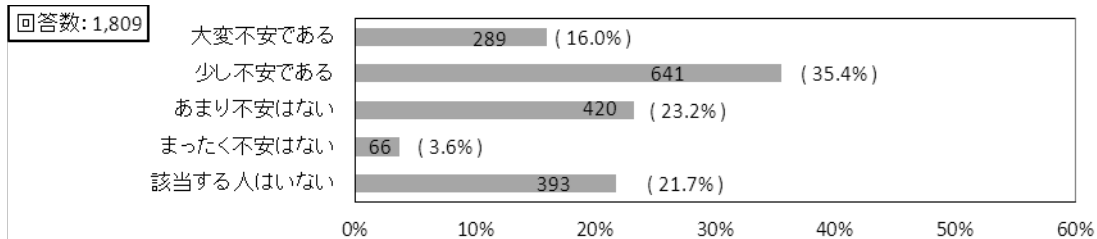
(退職者)



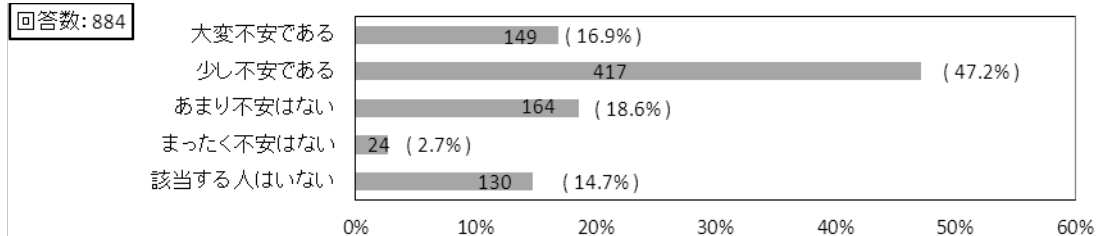
“自分自身の介護”については、「不安である」は現役が 68.4%¹⁸に対して退職者が 64.1%、「不安はない」は現役が 31.6%に対して退職者が 25.9%と、両者間で大きな差異はなかった。

◆問 31-(4) 配偶者の介護について

(現役)



(退職者)



“配偶者の介護”については、「不安である」は現役が 68.4%¹⁸に対して退職者が 64.1%、「不安はない」は現役が 31.6%に対して退職者が 25.9%と、両者間で大きな差異はなかった。

¹⁸ 文中の回答割合の数値は、「該当する人はいない」を除いて、それ以外の回答について割合を計算し直したものである。

4 おわりに

4.1 男女の比較

仕事全体については、女性の方が男性よりも満足度は高い結果になった。これは、男性の場合は仕事が第一であり、仕事に対する期待感も高いので当然のことながら不満も多く生ずることになる。女性はあくまでも仕事を生活の場のひとつとして多面的に考え、仕事に対してある意味の「割り切り」を持っている面もあるのだろう。女性は職場での横のコミュニケーション（会話）を楽しみ、昇進・昇格にこだわらずマイペースで自分自身の生活を営んでいるものと推察される。

自由時間の使い方については、男性は趣味、スポーツ、学習、テレビ、ゴロ寝などがあげられるが、これらにおいても一人で過ごすことが多く、プライベートな付き合いは仕事仲間であったりする。これに対して、女性は個人的な仲間や友人と過ごしたり、庭いじりや家事など家庭で過ごしたりと、男性に比べるとコミュニケーションを図りながら自由時間をゆったりと過ごす傾向がうかがわれる。

社会貢献活動については、男女間で参加率に大きな違いはなかったが、活動内容では男性がリーダーシップや行政との交渉力が必要な活動に参加している割合が多いのに対して、女性は社会福祉など細やかさや心配りが不可欠な分野での活動が目立っている。参加理由は男性が大義名分や高邁な精神に基づく理由をあげているのに対して、女性は自らの知識や経験など活かすというような自分を起点としたものが参加理由になっている。活動団体は男女ともに町内会・自治会が一番多いが、女性では組織ではなく個人や個人的な集まりといったプライベートな人的ネットワークを活かした活動も多い点が注目される。

生活の満足度については、男性は仕事、社会的地位、趣味、自然とのふれあいで満足度が高い一方で、女性は健康、経済的ゆとり、精神的ゆとり、時間的ゆとり、仲間・友人で満足度が高い。男性が仕事と趣味が中心の生活であるのに対して、女性は“ゆとり”と仲間に関わられた“豊かな生活”を営んでいるといえよう。

自分自身のタイプについては、男性は目標に向かって進む、指導的立場に立つ、他人にない優れた点があるなど仕事を進める上で必要なことから回答割合が多い一方で、女性はある人とのつながりを大切にす、自分の世界や個性を大切にす、無理せずマイペースで進む、新しいグループに気軽に加入する、いろいろな人の意見を聞く、どんなところでも楽しみを見出すなど自分自身や人とのコミュニケーションを大切にす姿が浮き彫りになった。

生きがいについて、男性は大義名分を重視するために堅苦しく構えるのに対して、女性は気軽に考えて身近なことに生きがいを感じる傾向がある。生きがいをもたらせてくれ、かつ生活に大きな影響を与えるところは、男性では仕事・会社、女性では個人的友人が多い。これは男性が仕事・会社中心の生活スタイルなのに対して、女性はプライベート重視の生活スタイルに起因していると思われる。

配偶者については、男性（夫）の方が妻に対しての依存度が高く、逆に女性（妻）は独立心が高く、同時に夫にも独立心を持って欲しいと感じている。また、男性は妻を気遣っていると思っているが、女性は必ずしもそのようには思っていないという mismatch が生じている。

退職後の仕事や生活については、男女ともに退職後も仕事を継続したいと考えているが、実際には女性の方が引退した割合が高く、女性の再雇用・継続雇用は困難な面があると思われる。また、退職後に起こったことに関して、男性では自分自身の悩みを中心とした回答が多い一方で、女性では家族や親族に関するできごとの回答が多いのも特徴的である。定年退職に向けての準備は、男性が定年退職を控えて会社中心の生活を切り替えていく、あるいは会社や仕事関係以外の人的ネットワーク作りに取り組む一方で、女性は既にあるプライベートな人的ネットワークを拡充することに取り組んでおり、女性の方が男性よりも先行している感がある。

介護については、男性（夫）の方が女性（妻）よりも早く要介護になる、さらには配偶者（夫）に先立たれてしまい、女性（妻）自身が一人暮らしの状態でも要介護状態になる可能性が高いことを反映して、女性の方が自分自身および配偶者の介護に不安を感じているようだ。

以上のことから、次のような男女の異なるイメージ像が浮かび上がってくる。男性は、仕事・会社という一本の太い軸を中心にした生活（単線志向のライフスタイル）であり、物事の考え方、自由時間の過ごし方、行動様式なども仕事・会社という要因に強く規定され、影響を受けている。また、余暇は一人で過ごし、趣味なども対象を絞り込んで深く探求するタイプが多い。

女性は、仕事・会社をあくまでも複数ある生活軸のひとつ（複線志向のライフスタイル）として捉えている。個人的な友人・仲間とのプライベートなコミュニケーションも重要な生活軸のひとつである。男性と異なり多面的な考え方をするために、精神的なゆとりが持てる。社会貢献活動や自由時間の過ごし方においても、組織や建前、形式などではなく、あくまでも人というソフト面を重視して行動する傾向が強いようだ。

男性も歳を重ねて定年退職が視野に入ってくる 50 歳代には、仕事・会社一本槍から徐々に活動の場を広げてライフスタイルを移行していくことが望ましい。その場合に参考になるのが上記の女性のライフスタイルであろう。友人・仲間とのコミュニケーションを大切にすることで、趣味や社会貢献活動を行うにも単独で行うのに比べてより多くの情報交換ができ、励みにもなる。さらには仲間から刺激を受けて活動に幅と厚みが出てくるし、精神的なゆとりもアップすることも考えられる。男性は世帯主として家族を養わなければならない使命があるので仕事・会社中心出ることにはやむを得ないが、年齢とともに徐々にライフスタイルを変えていくことで心豊かな老後生活を送るための準備が可能になってくると思われる。

4.2 現役と退職者の比較

自由時間の使い方については、現役が家族との団らんや家庭サービス、一人で暇つぶし、仕事関連などが多いのに対して、退職者は仲間との趣味やスポーツ、庭いじりなど子供の独立や豊富な自由時間等のライフサイクルに起因する面が大きい。

社会貢献活動については、参加している割合は退職者の方が多いが、現役は子育てや仕事の関係で中断を余儀なくされるケースも多い。活動した経験者も合わせると現役と退職者で参加率に大きな格差はなくなる。活動分野は現役が子供のスポーツや習い事の付き添いや面

倒見をきっかけとした活動なのに対して、退職者は時間に余裕があることから地域活動や社会福祉活動など家庭・家族から離れての活動が中心になるようだ。参加理由では現役は社会への見聞を広げたいが、また退職者では知識や経験を活かしたいなどが多い。

生活の満足度については、退職者の方が現役に比べて物心両面でより豊かな生活（充実度・満足度の高い生活）を営んでいる一方で、現役は厳しい雇用情勢や子育て、住宅問題などを抱えて生活の満足度は低くなっている。

生きがいについては、退職者の方が現役に比べて生きがいを持っていると回答した割合が高かった。生きがいのトップは現役・退職者ともに趣味、次いで家庭・家族であったが、それ以外では現役は仕事が、退職者は自然とのふれあい、友人との交流、社会活動などで、退職者の方が時間に余裕があることもあって生きがいも多面的である。心の安らぎを得られる場所は両者ともに家庭であった。人生観や価値観に影響を与える人のいる場所や生活に張り合いや活力をもたらしてくれる場所も同様にトップは家庭だが、次は現役が仕事・会社、退職者は個人的友人と回答が分かれた。

配偶者との関係については、現役の方が配偶者と共有したいと思う時間は長く、相手に求める要求は多く、期待感も強い。逆に過度に頼られることを負担に感じるケースもみられる。退職者には同様な傾向はうかがえないが、これは結婚生活が長くなり、配偶者に対して諦観を抱くようになったためと考えることもできよう。

定年退職に向けての準備については、現役では健康の維持・増進が多く、退職者では趣味を持つ、友人らとの交流、会社以外の場作りなどが多い。パネル調査とは異なるために推測にとどまるが、現役の間（特に若いうち）は定年退職後の生活スタイルについて具体的な姿が浮かばないために、回答も一般的な健康問題が多い。その後、定年退職の時期が近づくとつれて生活スタイルや準備、心構えも徐々に明確になってくるので具体的な選択肢への回答が多くなるのだと思われる。

現在の暮し向きについては、現役の方が退職者に比べてより苦しいと感じている。現役は子育てや住宅購入などの経済的な負担が重く、給与もかつてのような右肩上がりの上昇は期待できない。このため、退職者に比べて暮らし向きについて苦しいと感じている現役の割合が高くなっているものと思われる。

介護に対する将来的な不安については、自分自身および配偶者のいずれに関しても、現役と退職者との間で回答結果に大きな相違は無かった。

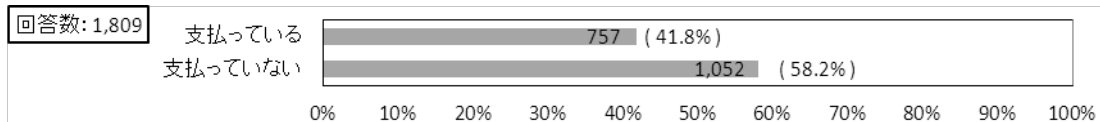
なお、本章における退職者は企業年金の加入者・受給者であり、経済的に比較的ゆとりのある層だと考えられる。章末の参考のグラフをみると、現役のうち4割が住宅ローンを支払っているのに対して、退職者の9割近くは住宅ローンを支払っていないのでローン返済の負担感は両者で大きな違いがある。一方、収入は現役の最頻値が600万円以上800万円未満なのに対して、退職者の最頻値は300万円以上400万円未満と開きはあるが、金融資産の保有高は現役の最頻値が100万円以上500万円未満なのに対して、退職者の最頻値は2000万円以上5000万円未満と大幅な違いがある。住宅ローン・教育費の負担感は現役の方が大きい一方で、金融ストックは退職者の方が現役を大幅に上回っている。これらのことが退職者の方が現役に比べて豊かな生活を実感できる背景になっているものと思われる。現在の現役世代

が定年退職以降に現在の退職者が感じているような生活のゆとりを感じられるかは、公的年金などの社会保障制度や雇用情勢などからみて不透明であると言わざるを得ない。そのため、現役サラリーマンが定年帯退職後に生きがいと生活のゆとりを感じられるような社会保障制度の枠組みや企業によるライフプランのための研修制度の充実などが必要となつてこよう。

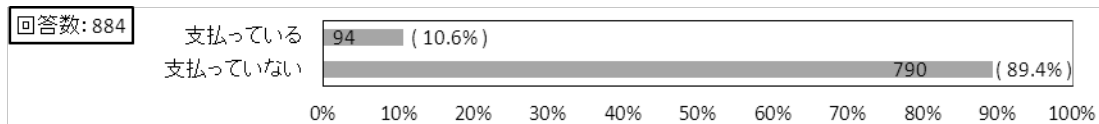
<参考>

【問 24】 現在、住宅ローンを支払っていますか。

(現役)

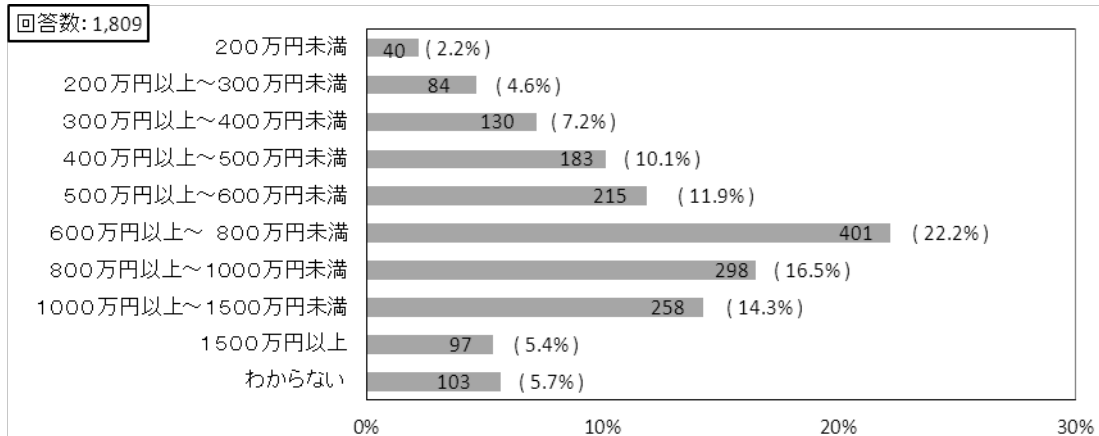


(退職者)

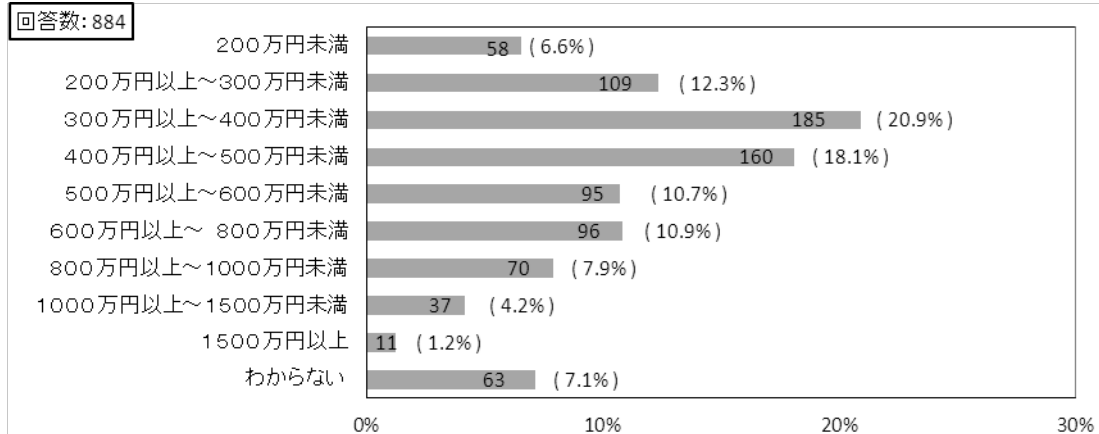


【問 26】 昨年 1 年間のあなたの世帯 (夫婦合わせて) の年収はいくらですか。

(現役)

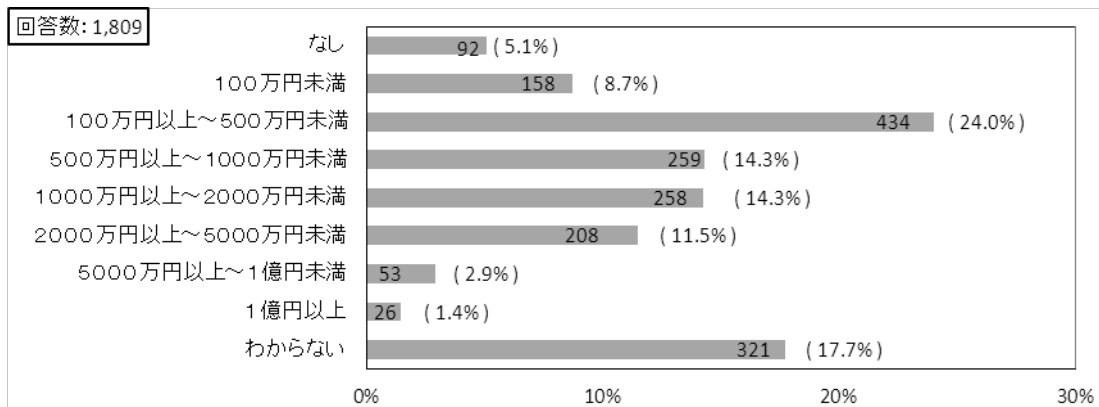


(退職者)

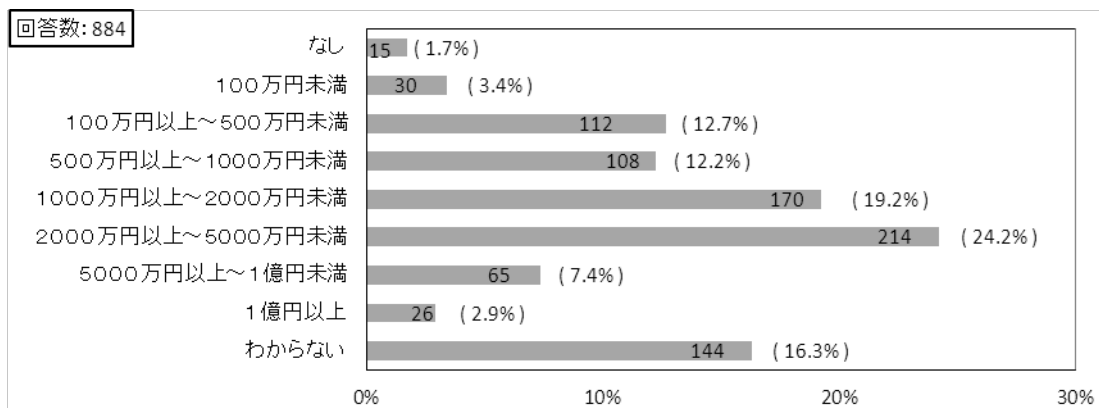


【問 27】現在のあなたの世帯（夫婦合わせて）で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部
 でおおよそいくらですか。

（現役）



（退職者）



第9章 今回の生きがい調査を通して

～PLP セミナー実施に向けた調査結果のまとめ～

1 はじめに

本調査は、当機構で実施する年金ライフプラン（PLP）セミナーの基礎資料になるものである。PLP セミナーの基本的なコンセプトは、年金生活者が健康と経済の基盤の上で、生きがいを持って過ごすことができるよう、定年退職前に必要な教育を実施することである。生きがいを考える場合は、仕事、地域、余暇、家族の4つの側面がある。従って、健康、経済、生きがい全般、仕事、地域、余暇、家族の7つの切り口があるといえることができる。

主な対象が定年退職を前にした者であるので、まず、定年年齢について見てみると、今回調査でも60歳が圧倒的多数であった。定年年齢が60歳という回答は回答者全体の7割以上（71.4%）、また、企業年金ありとする者の回答に限ってみると、4分の3以上（75.4%）であった。

PLP セミナーに参加するのは、定年退職を控えた50歳代後半が中心で、ほとんどが50歳代である。参加は当機構ホームページでも受け付けているが、実際には企業年金経由での参加申し込みが大半である。当機構としても、PLP セミナーは本来、企業年金基金の福祉事業か企業の従業員教育の一環として行われることが望ましいと考えている。

そこで、次節では、現在のPLPセミナーの主たる参加者である企業年金ありの50歳代の人々にとって、60歳代になるとどのような変化が生ずるかを具体的に明らかにするため、先ほど述べて7つの切り口から、変化の状況を浮き彫りにすることを試みる。具体的には、これらの切り口に関係の深いと考えられる調査項目について、年齢階級別に比較し、50歳代から60歳代の変化の状況を検討することとしたい。

次に、当機構では、これまでの定年退職を控えた50歳代の人たちとは別に、年代層を広げ、新たなカリキュラムとして、40歳代からの年金ライフプランの実施を構想している。また、本調査はこれまでのような企業年金加入者だけでなく、企業年金に加入しない者も対象にしている。そこで、第3節では、企業年金に加入していない人も含む35歳以上のサラリーマン（OB含む）の生活と生きがいを年齢階級別に見ることとする。

PLPセミナーの参加者は必ずしも男性だけとは限らない。男女共同参画が謳われて久しく、今後も女性の社会進出は増大することが予想される。また、PLPセミナーには夫婦同伴での参加を推奨している。そこで、第4節では、女性に焦点を絞り、サラリーウーマン（OGを含む）と専業主婦（第3号被保険者）の生活と生きがいの状況を概観することとする。

2 企業年金に加入するサラリーマンにとっての生活と生きがい

今回の調査は平成3年度の第1回調査から5回目になる。前回までは企業年金経由で調査をしていたため、調査対象者は企業年金に加入するサラリーマンであった。今回は企業年金に加入していない者も調査対象としているが、従前の調査との連続性や、現在のところPLPセミナーが企業年金加入者を主たる対象としていることから、まず本節では、企業年金に加入するサラリーマンの生活と生きがいの状況を見ることとする。企業年金に加入するサラリーマン全体の状況に加え、男女（サラリーマン・サラリーウーマン）別、そして、定年などによる退職をまだ経験しない現役と、退職を経験したOBに区分¹して、その状況を概観する。

2.1 健康状況

PLPセミナーの基本は、健康と経済の基盤の上で、生きがいを持って過ごすことだが、その中でも、まず何よりも健康である。ただ、最近は健康保険組合で生活習慣病の検診や保健指導が行われるようになってきたことなどから、当機構が行うPLPセミナーでは、健康に関するカリキュラムは省略している。また、今回含め本調査では健康について本格的な質問事項は設定していない。

本調査の中で健康に関して聞いている調査項目として、健康に関する満足度があるので、その状況を見ると〔図表9-1〕のとおりである。

これによると、年齢による差はあまりなく、むしろ、「十分に満たされている」又は「まあ満たされている」と答えた者の割合²は年齢とともに上昇している。

ただし、女性は60歳代で若干低下するのに対し、男性にはこのようなことは見られない。現役とOBでは、全体としてOBの方が高い。50歳代後半ではほぼ変わらないが、60歳代前半ではOBがかなり高い。

〔図表9-1〕健康満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	54.1	51.9	59.1	53.9	-
40-44	53.6	51.8	57.4	53.7	-
45-49	55.6	51.4	64.0	55.4	-
50-54	54.1	53.2	55.9	53.6	-
55-59	60.1	58.7	63.3	60.2	59.6
60-64	59.0	60.2	56.0	52.2	60.9
65-69	66.5	64.5	71.3	-	66.8
70-74	66.2	67.7	62.8	-	66.9
総計	58.3	57.1	61.1	55.4	64.4

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

¹ 現役とOBに区分した場合、65歳以上の現役と55歳未満のOBは出現サンプル数が極端に少なくなることから、これらについての数値は図表に掲載していない。

² 本稿では、この割合を「満足度」と表記する。

2.2 経済状況

次に、経済について、経済的ゆとりについての満足度の状況を見ると、〔図表 9-2〕のとおりである。

経済的ゆとりについても、60 歳以上になってむしろ向上するという興味深い結果になっている。これは、すぐ後に見るとおり、収入は低下するが、それに代わって、金融資産額が増加することを反映していると考えられる。

全年齢で女性の満足度の方が男性より高い。次に見るとおり、女性の方が年収額や金融資産額は少ない（ただし、さほどではない）にもかかわらず、サラリーウーマン・OG の経済満足度は、サラリーマン（男性）より高いという結果になっている。

〔図表 9-2〕 経済満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	31.0	30.2	32.6	30.5	-
40-44	31.7	31.0	33.0	30.6	-
45-49	29.8	24.8	39.6	29.4	-
50-54	39.1	37.1	43.1	38.4	-
55-59	41.3	40.5	43.1	39.8	49.1
60-64	48.6	47.3	51.6	46.4	49.2
65-69	58.8	57.3	62.8	-	58.5
70-74	53.2	51.6	57.0	-	52.2
総計	41.0	39.5	44.2	34.9	53.3

（注）「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

収入状況について、調査結果から一定の仮定を置いて平均年収を試算³したものが、〔図表 9-3〕である。

これを見ると、年収は 60 歳代で大きく低下することがわかる。収入は安定的な生活の基礎であるが、これを見ると 60 歳を境に生活状況が一変するであろうことが想像される。ただし、先ほど見たとおり、主観的な満足度は上昇する。このことには十分な留意が必要である。

男女間では、60 歳代での低下は変わらないが、男性の方が 50 歳代まで高かった分だけ落ち込みの幅が大きい。

現役でも 60 歳代になると年収が大きく低下することから、現役でも 60 歳の門をくぐると年収がかなり低下することがうかがわれる。同年齢層では現役よりも OB の年収がかなり低い。

³ 年間収入については、200 万円未満、200 万円以上から 600 万円未満まで 100 万円刻み、1000 万円未満まで 200 万円刻み、1000 万円以上 1500 万円未満、1500 万円以上、わからない、の 10 択で質問している。試算に当たっては、200 万円未満は 100 万円とし、それ以上は刻みの中間値とし、1500 万円以上は 1500 万円とした。わからない、は分子分母から除外し、各回答者数で加重平均したものである。200 万円未満を 200 万円としたことについては、対象が企業年金有のサラリーマンであることから過小評価の可能性があり、1500 万円以上を 1500 万円としたことについては、企業によっては、経営者、役員、幹部社員などに数千万円クラスの年俸を支払う場合も決して珍しくないことから、試算値は控えめの数値と考えるべきである。

〔図表 9-3〕 年齢階級別平均年収額（試算）

単位：万円

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	668	669	658	667	-
40-44	750	774	685	744	-
45-49	776	788	744	775	-
50-54	845	900	722	851	-
55-59	812	859	694	848	610
60-64	504	497	496	607	475
65-69	511	487	534	-	489
70-74	488	502	431	-	483
総計	674	687	629	755	505

（注）「200万円未満」は100万円、「1,500万円以上」は1,500万円として試算。

保有する金融資産の状況について、調査結果から一定の仮定を置いて平均額を試算⁴したものが、〔図表 9-4〕である。

年収は60歳を境に大きく低下するのに対して、金融資産額はこのような傾向はみられず、むしろ、60歳代が最も高い。このことが、経済的なゆとりの満足度の上昇につながっていると考えられる。

現役よりもOBの方が高額な資産を保有している。これは、資産額が多い者が早期に退職したことと、退職に伴って退職金を受け取ったことの、因果関係が逆の2つの理由が考えられる。パネル調査ではないので解明には限界があるが、金融資産額が増加していることについては、退職を経験しない現役の者の資産額は60歳代になってもさほど増加していないこと、総数では60歳代でかなり増加していること、50歳代後半でOBになった者は退職金割増しを伴う早期退職に応じた可能性があることなどから、退職金の要因が大きいと考えられる。

⁴ 金融資産額については、なし、100万円未満、100万円～500万円、500万円～1000万円、1000万円～2000万円、2000万円～5000万円、5000万円～1億円の以上・未満、1億円以上、わからない、の9択で質問している。試算に当たっては、なしは0、100万円未満は50万円、それ以上は刻みの中間値、1億円以上は1億円とした。わからない、は分子分母から除外し、各回答者数で加重平均したものである。金融資産額はばらつきの幅が広く、1億円以上と答えた者はかなりこれを上回る額を保有している可能性があるため、注3同様、試算値は控えめの数値と考えるべきである。

〔図表 9-4〕 年齢階級別平均資産額（試算）

単位：万円

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	991	1038	872	983	-
40-44	1090	1074	1133	1094	-
45-49	1284	1198	1496	1259	-
50-54	1762	1735	1826	1741	-
55-59	1961	1988	1892	1839	2591
60-64	2462	2571	2123	1904	2605
65-69	2661	2575	2898	-	2588
70-74	2422	2426	2411	-	2426
総計	1783	1789	1769	1415	2524

（注）「100万円未満」は50万円、「1億円以上」は1億円として試算。

現役層に対し、各回答者に3つまでの範囲で、定年後の生活を主に何によってまかなおうと考えているか聞いたところ（図表 9-5）、最も多かったのが「公的年金」で約7割がこれを挙げた。次いで、本集計対象が企業年金ありの人であったことを反映してか「企業年金」が約半数になり、「退職金」、「預貯金の取りくずし」と続いている。

男女間の相対比較では、男性が「企業年金」や「退職金」を選ぶ割合が高く、女性は「預貯金の取りくずし」や「生命保険の保険金や個人年金」を選ぶ割合が高い。

〔図表 9-5〕 定年後の生活費をまかなう手段

単位：%

事項	総数	男性	女性
公的年金	69.7	70.3	68.3
企業年金	47.4	52.8	35.6
退職金	37.9	42.6	27.5
生命保険の保険金や個人年金	25.3	21.9	32.6
預貯金の取りくずし	31.5	27.1	41.2
就労による収入	25.2	27.6	19.9
子ども等からの経済的支援	0.9	0.9	1.1
その他	1.7	1.9	1.4
わからない・考えたことがない	6.1	5.0	8.6

（注）各回答者が3つまでの範囲で、定年後の生活費を主にまかなおうと考えているものとして選んだ事項の割合。

2.3 生きがいの状況

生きがいからは少し外れるかもしれないが、まず、精神的ゆとりに関する満足度（図表 9-6）についてみる。

60歳代になると精神的ゆとりの満足度は大きく上昇する。現役に比べOBが高くなっていることから、これは、仕事の責任から解放され精神的にゆとりができたためと考えられるであろう。

〔図表 9-6〕 精神的なゆとり満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	31.7	30.9	33.3	31.5	-
40-44	26.9	26.9	27.0	26.6	-
45-49	28.3	25.7	33.3	27.2	-
50-54	39.1	35.6	46.1	38.8	-
55-59	43.6	41.3	48.6	42.2	50.9
60-64	59.6	62.4	52.7	44.9	63.7
65-69	69.2	67.9	72.3	-	70.2
70-74	75.2	74.5	76.7	-	75.1
総計	45.4	44.7	46.9	34.7	67.3

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

「生きがい」はそれ自体日常生活から出てきた言葉で、具体的にとらえることができにくい概念だが、「生きがい」を表すのに最も適当なものとして 2 つまで選んでもらった。これは第 1 回から調査しており、その推移が、〔図表 9-7〕である。

今回の調査では、「生きる喜びや満足感」が最も多く、次いで「心の安らぎや気晴らし」、「生活の活力やはりあい」と続いている。

過去の調査との比較では、「他人や社会の役に立っていると感じること」が一貫して低下し、落ち込みの幅が大きい。また、「自分自身の向上」、「自分の可能性の実現や何かをやり遂げたと感じること」といった人生の積極姿勢に関わる事項も低下傾向を示している。これに対し、「生活のリズムやメリハリ」、「心の安らぎや気晴らし」、「人生観や価値観の形成」といった内面指向の事項が増加傾向を示している。これを見ると、生きがい観という観点からも、日本人が内向きになっているように見受けられる。

年齢層（図表 9-8）で特に顕著な差はないが、「生きる喜びや満足感」が年齢とともに若干低下するのに対し、「自分の可能性の実現や何かをやり遂げたと感じること」が年齢とともに上昇する（ただし、70 歳代になると低下）傾向がある。

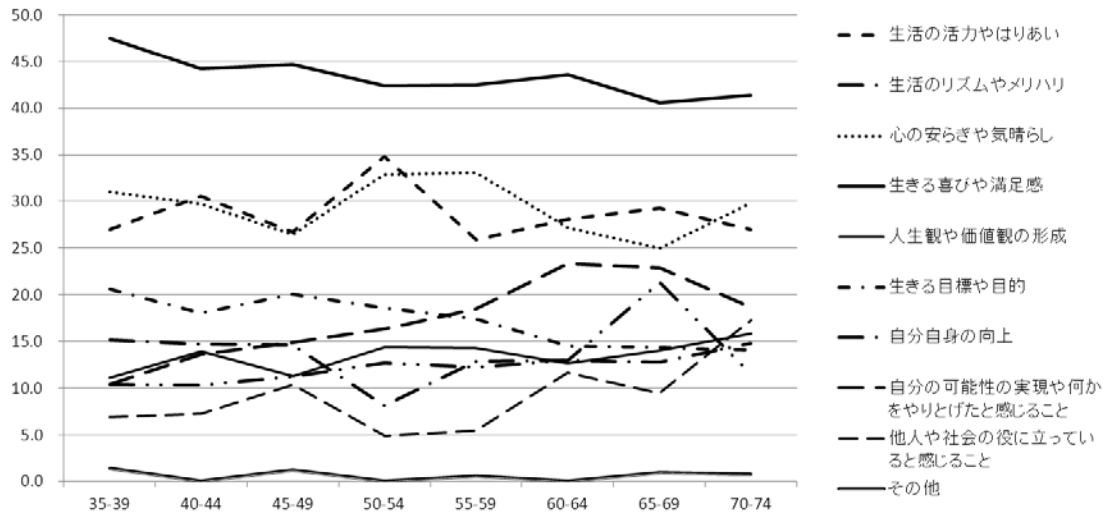
〔図表 9-7〕 生きがいの意味

単位：%

事項	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査	今回調査
生活の活力やはりあい	35.2	26.2	26.1	29.8	28.6
生活のリズムやメリハリ	7.1	9.7	10.2	10.7	12.7
心の安らぎや気晴らし	24.9	24.9	26.9	24.4	29.4
生きる喜びや満足感	47.0	43.7	40.5	42.2	43.5
人生観や価値観の形成	9.7	7.9	8.7	8.0	13.3
生きる目標や目的	19.6	20.4	17.5	20.7	17.4
自分自身の向上	22.3	15.8	18.3	14.3	13.3
自分の可能性の実現や何かをやり遂げたと感じること	-	24.7	28.2	22.1	17.0
他人や社会の役に立っていると感じること	25.5	19.1	17.7	13.7	8.9
その他	0.3	0.3	0.6	1.2	0.6

(注) 各回答者が 2 つまでの範囲で、「生きがい」を表すのに適切なものとして選んだ事項の割合。

〔図表 9-8〕 年齢層別の生きがいの意味



生きがいを、現在持っているかどうか聞いた結果が、〔図表 9-9〕である。

生きがいを持っている者の割合は年齢に従って上昇する傾向にある。過去の調査でもこの傾向は確認されており、今回調査でも全般的にはこの傾向が現れているといえる。

前回（第4回）調査では、その前の調査（第3回）に比べ生きがい保有率が大きく減少した。今回調査では、全体としての生きがい保有率は前回（第4回）よりさらに若干低下する中で、50歳代後半の保有率が上昇し、60歳台前半で低下した結果、50歳代後半と60歳台前半で逆転現象が生じている。その差はわずかであるので、ほぼ変わらないとみるべきであろう。ただし、この結果、定年になって生きがい保有率はむしろ上昇するという言い方は困難になった。

〔図表 9-9〕 生きがい保有率

単位：%

年齢	第3回	第4回	今回
35-39	56.6	51.2	48.5
40-44	55.0	50.2	48.3
45-49	65.4	44.4	50.2
50-54	61.3	49.4	48.9
55-59	67.9	55.7	57.8
60-64	74.7	63.3	57.1
65-69	80.6	70.9	72.9
70-74	81.5	75.5	67.6
全体	67.3	56.9	55.9

(注) 生きがいを「持っている」と答えた者の比率。

男女別にみると（図表 9-10）、男性は50歳台前半で低下するが、その後は60歳代後半まで上昇している。これに対し、女性は、60歳代前半の落ち込みが大きく、これが男女計の

50 歳代後半から 60 歳代前半にかけての逆転減少に結びついている。

定年退職後の「生きがい喪失」は一般論としてよく指摘されるところであるが、男性よりも女性にとって深刻な問題かもしれない。ただし、60 歳代前半の女性の生きがい保有率がこれほど大きく落ち込むことについては、更なる分析と慎重な考察が必要であろう。

〔図表 9-10〕 生きがい保有率

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	48.5	48.5	48.5	48.2	-
40-44	48.3	49.8	45.2	48.6	-
45-49	50.2	50.0	50.5	50.0	-
50-54	48.9	47.3	52.0	49.8	-
55-59	57.8	55.0	64.2	57.8	57.9
60-64	57.1	58.4	53.8	58.0	56.9
65-69	72.9	70.5	78.7	-	72.0
70-74	67.6	66.1	70.9	-	65.3
総計	55.9	55.4	57.0	52.1	63.6

(注) 各回答者中生きがいを「持っている」と回答した者の割合。

現在どのようなことに生きがいを感じているか、〇は 3 つまでという条件で生きがいの対象を聞いた結果は、〔図表 9-11〕 のとおりである。各項目ごとに、回答者の何%の者が選んだか、その数が記載されている。

「趣味」が最も多くの者によって選ばれており、次いで「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「配偶者・結婚生活」、「仕事」と続いている。

男女間では、両者の差が大きい事項として、男性は「趣味」、「スポーツ」、「配偶者との結婚生活」を選ぶ割合が高く、女性は「友人など家族以外の人との交流」、「自分自身の内面の充実」を選ぶ割合が高い。

現役と OB・OG 間では、「仕事」を選ぶ割合が OB になると大きく低下し、代わって、「自然とのふれあい」、「自分自身の健康づくり」を選ぶ割合が増えている。

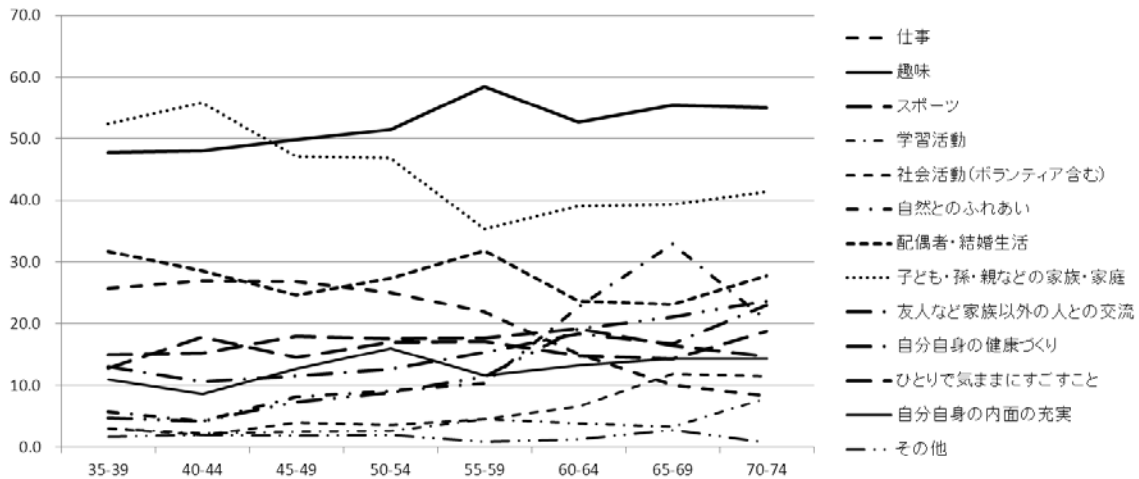
〔図表 9-11〕 生きがいの対象

事項	総数	男性	女性	単位：%	
				現役	OB
仕事	20.5	21.9	17.4	26.8	7.6
趣味	52.1	55.8	44.0	51.0	54.5
スポーツ	15.7	18.3	10.0	15.7	15.8
学習活動	3.6	3.6	3.7	3.0	4.9
社会活動(ボランティア含む)	5.6	5.8	5.2	3.8	9.5
自然とのふれあい	13.6	13.8	13.3	8.0	25.2
配偶者・結婚生活	27.6	30.0	22.1	28.0	26.6
子ども・孫・親などの家族・家庭	45.1	44.1	47.3	47.2	40.8
友人など家族以外の人との交流	14.9	10.9	23.7	12.7	19.5
自分自身の健康づくり	12.0	11.7	12.5	7.4	21.4
ひとりで気ままに過ごすこと	16.7	15.8	18.7	15.7	18.7
自分自身の内面の充実	12.6	10.3	17.6	12.4	12.8
その他	1.6	1.1	2.7	1.5	1.8

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、生きがいを感じることで選んだ事項の割合。

年齢による変化(図表 9-12)については、「仕事」が年齢とともにはっきりと低下する、また、「子ども・孫・親などの家族・家庭」もある程度低下する。60歳以降は、「自然とのふれあい」が上昇し、「社会活動」も上昇傾向がみられる。

〔図表 9-12〕 年齢層別の生きがいの対象



2.4 仕事関係

生きがいの構成要素として、仕事、地域、余暇、家族の4つの区分がある。以下順次その区分ごとの状況を見ていく。

まず、仕事の状況について、年齢層別の就業形態を見たものが〔図表 9-13〕である。

就業形態は60歳代になると大きく変化する。とりわけ、正社員比率は60歳代になるときわめて大きく低下する、ただし、低下傾向は50歳代後半から始まっている。代わって、無

職が増大し、また、自営業・自由業、契約社員・嘱託も増加する。

〔図表 9-13〕 企業年金のある者の就業形態

単位：%

年齢	正社員	契約社員・嘱託	派遣社員	パート・アルバイト	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター (高齢者事業団)	無職
35-39	81.8	2.4	0.9	4.7	2.6	0.2	0.0	7.3
40-44	81.1	1.4	1.1	5.0	2.5	0.6	0.0	8.3
45-49	79.3	3.0	0.6	7.0	0.9	0.3	0.0	8.8
50-54	76.2	3.3	0.7	4.2	7.8	0.0	0.0	7.8
55-59	69.2	4.3	0.3	6.6	4.6	0.6	0.0	14.5
60-64	17.4	9.5	0.0	8.5	11.0	0.3	0.6	52.7
65-69	6.7	4.0	1.2	6.7	7.6	0.3	0.3	73.2
70-74	3.6	2.5	0.4	3.6	7.6	0.7	1.1	80.6
総計	54.3	3.7	0.7	5.8	5.3	0.4	0.2	29.6

(注) 各年齢層ごとの回答者に占める割合。

仕事のほりあいに関する満足度について見たものが、〔図表 9-14〕である。50歳代までの30%台から60歳代になると20%台に低下するが、それほど大きな落ち込みではない。

〔図表 9-14〕 仕事のほりあい満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	33.6	37.1	25.8	33.9	-
40-44	33.9	38.0	25.2	34.3	-
45-49	33.4	32.1	36.0	33.5	-
50-54	39.7	39.0	41.2	40.8	-
55-59	35.9	38.4	30.3	39.8	15.8
60-64	27.1	31.4	16.5	40.6	23.4
65-69	28.7	27.4	31.9	-	24.6
70-74	27.3	28.1	25.6	-	25.3
総計	32.6	34.2	29.2	36.9	23.8

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

サラリーマンの仕事は企業組織の中で行われており、日本では企業の職位が社会的な地位としても受け止められることが多い。退職すれば会社の肩書はなくなる。本来は平等な日本で社会的な序列があるわけではないが、個人としてどう受け止めるかの問題がある。そこで、社会的地位の満足度について見た（図表 9-15）。50歳代前半が最も高く、50歳代後半は40歳代とあまり変わらない。60歳代でさらに若干低下する。女性は60歳代前半で一度大きく低下するが、その後はむしろ男性より高くなる。

現役とOBを比べてみると、社会的地位に関する満足度の低下は現役からOBになることに伴う場合が多いことが表れている。

〔図表 9-15〕 社会的地位の満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	27.4	30.2	21.2	27.7	-
40-44	28.3	33.1	18.3	28.0	-
45-49	28.0	30.7	22.5	28.5	-
50-54	34.2	38.5	25.5	34.9	-
55-59	28.8	30.6	24.8	31.6	14.0
60-64	25.6	29.6	15.4	39.1	21.8
65-69	24.1	22.2	28.7	-	21.5
70-74	23.4	22.9	24.4	-	20.8
総計	27.5	29.8	22.5	30.7	20.9

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

現役層が希望する定年退職後の仕事の状況は、〔図表 9-16〕 のとおりである。

まだ実際には退職を経験していない現役層は、約 4 分の 1 が退職とともに引退したいと考えている。これに対し、仕事の継続または雇用形態が変わっても今の会社に勤めたいとするものを合わせると 4 割以上になり、これに別の企業への再就職やシルバー人材センターなどでの仕事を含め、何らかの形で仕事を希望する者は 6 割以上 (62.7%) にのぼる。

〔図表 9-16〕 現役の者の定年退職後における仕事に関する希望

単位：%

	総数	男性	女性
退職とともに職業生活から引退したい	24.4	25.6	21.8
できれば仕事を継続したい	31.2	31.3	31.0
定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	10.5	13.0	5.1
退職後は別の企業に再就職したい	7.7	8.9	5.1
退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	7.0	8.1	4.4
退職後は家業を手伝いたい	0.8	0.7	0.9
退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	5.5	4.7	7.2
その他	1.1	0.6	1.9
わからない・考えたことがない	11.8	6.9	22.5

これに対し、実際に定年退職または定年前退職をした人たちが仕事に就いたかどうか聞いた結果は〔図表 9-17〕 のとおりである。退職経験者の半数近くが、職業生活から引退したと答えている。前の会社や別の仕事 (シルバー人材センター含む) など何らかの形で仕事に就いた人 (46.0%) と、ほぼ半々である。

〔図表 9-17〕 退職者の退職後における仕事の状況

単位：%

	総数	男性	女性
退職とともに職業生活から引退した	47.2	39.5	64.3
退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	10.6	13.4	4.4
退職後は出向先に移籍した	5.3	7.5	0.4
退職後は別の企業に再就職した	18.9	22.1	11.8
退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	7.2	8.8	3.7
退職後は家業を手伝うようになった	1.9	1.3	3.3
退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	2.0	2.0	2.2
その他	6.8	5.4	9.9

2.5 地域関係の状況

退職に伴って、人間関係が職場中心から地域中心に変わるといわれる。従って、退職後の生きがいを考える場合に重要な構成要素になると考えられる。

まず、近隣との交流に関する満足度は〔図表 9-18〕のとおりである。

年齢が高くなるにつれ、近隣との交流に関する満足度は上昇している。60歳代前半でそれまでと比べてある程度上昇し、その後も上昇し続ける。

男女間では、女性の方が男性より総じて高い。ただし、60歳代前半の女性だけは特異的な数値を示している。男性は、60歳代でかなり上昇している。

現役とOBを比べると、OBが高いが、両者の数字がある50歳代後半と60歳代前半では、両者に目立った差がないことから、退職の有無より年齢による要因が働いていると考えられる。

〔図表 9-18〕 近隣との交流満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	20.6	19.2	23.5	20.5	-
40-44	21.1	21.2	20.9	20.9	-
45-49	24.0	21.6	28.8	23.1	-
50-54	21.8	21.0	23.5	21.8	-
55-59	23.6	19.0	33.9	23.8	22.8
60-64	27.8	29.2	24.2	27.5	27.8
65-69	38.4	37.2	41.5	-	37.7
70-74	43.9	42.2	47.7	-	42.9
総計	27.0	25.8	29.8	23.1	35.1

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

地域との関係では、自治会活動やボランティア団体における活動など社会活動への参加が想起される。参加状況を聞いた結果は〔図表 9-19〕のとおりである。

社会参加への参加割合は年齢とともに上昇するが、60歳前後で大きな変化は見られず、むしろ、65歳以降に大きく上昇する傾向がある。

現役とOBを比べると、OBが高いが、両者の数字がある50歳代後半と60歳代前半では、両者に目立った差はない。

〔図表 9-19〕 社会活動への参加割合

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	18.9	19.6	17.4	18.6	-
40-44	24.4	26.1	20.9	24.6	-
45-49	26.7	27.5	25.2	26.9	-
50-54	27.7	29.8	23.5	27.0	-
55-59	29.6	29.3	30.3	29.9	28.1
60-64	29.0	27.4	33.0	33.3	27.8
65-69	36.0	35.5	37.2	-	34.6
70-74	42.1	44.3	37.2	-	43.7
総計	28.7	29.3	27.3	25.8	34.6

(注) 社会活動に「定期的に」または「ときどき」参加している者の割合。

2.6 余暇の状況

余暇について、まず、時間的ゆとりに関する満足度は〔図表 9-20〕のとおりである。

時間的ゆとりについて十分にかまあ満たされているとする者の割合は、50歳代で5割を超え、60歳代になると8割以上になる。

男女間では、50歳代までは女性の方が高いのに対し、60歳代になると男性の方が高くなる。

現役とOBの比較では、OBが格段に高く、かつ、両年齢層の重なる50歳代後半と60歳代前半でも、OBがかなり高くなる。退職に伴って時間的ゆとりが大いに増えることが示されている。

〔図表 9-20〕 時間的ゆとりの満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	42.3	39.5	48.5	41.8	-
40-44	43.1	44.5	40.0	42.3	-
45-49	42.9	41.7	45.0	42.1	-
50-54	56.4	55.1	58.8	54.3	-
55-59	58.1	56.6	61.5	54.8	75.4
60-64	81.1	82.3	78.0	63.8	85.9
65-69	87.2	89.3	81.9	-	88.2
70-74	88.5	92.2	80.2	-	90.6
総計	60.9	61.4	60.0	48.3	86.9

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

熱中できる趣味の満足度は〔図表 9-21〕のとおりであり、45歳後半から5割を超え、60

歳代になると6割台に上昇し、60歳代後半からは7割台になる。

男女間では、男性が年齢とともに上昇するのに対し、女性は60歳代前半と70歳代でその前より大きく低下する。

現役とOBの比較では、OBが高い。両年齢層の重なる50歳代後半では差がないが、60歳代前半では、OBがかなり高くなる。

〔図表 9-21〕 熱中できる趣味の満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	48.2	50.5	43.2	48.0	-
40-44	48.6	52.2	40.9	48.0	-
45-49	55.3	53.2	59.5	55.1	-
50-54	55.4	56.1	53.9	55.4	-
55-59	54.4	53.3	56.9	54.4	54.4
60-64	61.5	65.9	50.5	55.1	63.3
65-69	73.5	73.5	73.4	-	73.7
70-74	74.1	77.6	66.3	-	75.1
総計	58.1	59.6	54.6	52.6	69.3

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

実際に自由に使える時間は十分にあると思うか聞いた結果は〔図表 9-22〕のとおりであり、これについて、「十分にある」か「まあまあ」と答えた人の比率は、50歳代後半で8割を超え、60歳代では9割を超える。

男女間では、50歳代後半以降は男性の方が女性より高くなる。

現役よりもOBが相当高く、かつ、両年齢層の重なる50歳代後半ではほとんど差がないが、60歳代前半では、OBがかなり高くなる。

〔図表 9-22〕 自由時間のゆとりがある人の割合

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	70.0	67.4	75.8	69.7	-
40-44	69.4	70.2	67.8	68.9	-
45-49	72.3	71.6	73.9	72.5	-
50-54	78.2	78.0	78.4	76.8	-
55-59	84.6	86.0	81.7	84.4	86.0
60-64	93.7	94.2	92.3	85.5	96.0
65-69	95.7	97.4	91.5	-	96.9
70-74	97.5	97.4	97.7	-	97.6
総計	81.8	82.0	81.3	75.0	95.7

(注) 自由時間が「十分にある」と「まあまあ」と答えた者の比率。

自由時間の使い方を聞いた結果は〔図表 9-23〕のとおりである。今回最も多かったのは、「パソコン通信やインターネットなど」で、群を抜いていたが、今回の調査がインターネットを通じてのアンケート調査であったことから、そのバイアスが出ていると考えられる。

これを除くと、「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」、「家庭との団らんや家庭サービス」、「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒など」、「庭いじりや家事など家庭内のこと」、「仲間と趣味・スポーツなど」、「行楽・ドライブなど」が比較的多く選ばれた。

〔図表 9-23〕 自由時間の使い方

単位：%

事項	総数	男性	女性	現役	OB
仕事仲間とのプライベートなつきあい	7.3	8.2	5.2	8.9	3.9
仕事に関する勉強や残務整理	6.4	6.8	5.5	8.2	2.7
テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	28.1	29.0	25.9	30.8	22.6
ひとりで趣味・スポーツ・学習など	35.6	36.8	33.0	35.8	35.1
仲間と趣味・スポーツなど	20.1	20.9	18.4	18.1	24.3
パソコン通信やインターネットなど	57.9	59.3	54.7	49.9	73.9
個人的な友人・仲間とのつきあい	20.5	14.4	34.0	19.1	23.1
行楽・ドライブなど	19.6	21.9	14.3	20.9	16.9
庭いじりや家事など家庭内のこと	23.3	19.3	32.2	17.3	35.4
家庭との団らんや家庭サービス	31.9	33.1	29.1	37.9	19.7
近隣の人とのつきあいや地域の用事	5.3	5.6	4.5	3.5	8.8
その他	2.3	2.3	2.3	1.4	4.1
特に何もしない	1.2	1.5	0.7	1.4	0.9

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、日ごろの自由時間を主に使っていることとして選んだ事項の割合。

2.7 家族状況

生きがいを感じる場として家族が最も重要である。まず、婚姻の状況について見ると（図表 9-24）、既婚（配偶者あり）が男女ともに圧倒的に多いが、とりわけ男性は全体で 86%に達する。女性は相対的に未婚や離別・死別が多い。年齢との関係では、年齢とともに未婚の割合が減少する。既婚（配偶者あり）は、男性の 50 歳代までは年齢とともに上昇するが、60 歳代前半で一度低下する。女性は 50 歳代で若干低下する。離別は、男性 65 歳以上で目立って低下するが、女性は 60 歳代後半でも高い。死別は女性 60 歳代以降に目立って上昇する。

【図表 9-24】 回答者の婚姻の状況

単位：%

年齢	未婚		既婚(配偶者あり)		既婚(離別)		既婚(死別)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
35-39	19.9	20.5	77.7	72.7	2.1	6.8	0.3	0.0
40-44	16.7	19.1	78.0	72.2	4.9	8.7	0.4	0.0
45-49	11.9	19.8	81.7	71.2	6.0	9.0	0.5	0.0
50-54	6.3	15.7	85.9	68.6	6.3	14.7	1.5	1.0
55-59	4.1	10.1	90.5	70.6	4.1	15.6	1.2	3.7
60-64	5.8	5.5	86.7	78.0	6.2	5.5	1.3	11.0
65-69	1.3	4.3	95.3	69.1	1.3	13.8	2.1	12.8
70-74	0.5	8.1	95.8	62.8	1.0	8.1	2.6	20.9
総計	8.9	13.6	86.0	70.8	3.9	10.2	1.2	5.4

(注) 各性・年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

家族同居の状況を既婚(配偶者あり)とそれ以外について見ると、既婚(配偶者あり)(図表 9-25)では、「未婚の子と同居」が半数近くになるが、50歳代後半から目立って減少し、60歳代でさらに減少する。代わって、「夫婦だけ」が大きく増加する。「親と同居」は60歳代後半からかなり減少する。

未婚または離・死別で配偶者がいない者について(図表 9-26)は、どの年齢層でも半数以上が「ひとり暮らし」で、次いで「その他」であり、具体的には兄弟姉妹や友人、パートナーなどと同居している。

【図表 9-25】 既婚(配偶者あり)の同居家族状況

単位：%

年齢	夫婦だけ	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	24.5	65.2	1.2	8.4	0.6
40-44	16.1	70.1	1.5	10.9	1.5
45-49	21.0	65.8	1.2	12.1	0.0
50-54	24.4	62.6	0.4	11.4	1.2
55-59	35.1	46.6	2.7	14.2	1.4
60-64	50.6	29.6	1.9	16.5	1.5
65-69	61.5	31.9	1.7	3.8	1.0
70-74	67.6	23.1	4.6	4.2	0.4
総計	37.2	49.8	1.9	10.2	1.0

(注1) 各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

(注2) 「子夫婦と同居」はほかに孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」はほかに子や孫がいる場合を含む。

〔図表 9-26〕 配偶者のいない者の同居家族状況

単位：%

年齢	ひとり暮らし	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	58.4	2.0	0.0	20.8	18.8
40-44	57.0	5.8	0.0	19.8	17.4
45-49	58.3	4.2	0.0	19.4	18.1
50-54	50.8	14.8	0.0	14.8	19.7
55-59	50.9	7.3	1.8	10.9	29.1
60-64	50.0	12.0	0.0	10.0	28.0
65-69	60.0	17.5	0.0	5.0	17.5
70-74	67.5	15.0	10.0	0.0	7.5
総計	56.4	8.3	1.0	14.7	19.6

(注1) 各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

(注2) 「子夫婦と同居」はほかに孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」はほかに子や孫がいる場合を含む。

家族の理解・愛情に関する満足度については（図表 9-27）、満足度は総じて 6 割代で安定しているといえるが、60 歳代後半から 7 割台に上昇する。男女間では、女性が年齢にかかわらず安定しているのに対し、男性は年齢とともに上昇する。

現役と OB では、60 歳代前半では OB がかなり高くなる。

〔図表 9-27〕 家族の理解・愛情の満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	62.4	60.1	67.4	62.5	-
40-44	61.4	58.0	68.7	60.9	-
45-49	59.0	57.3	62.2	58.5	-
50-54	61.9	60.5	64.7	61.6	-
55-59	66.4	66.5	66.1	66.7	64.9
60-64	67.2	69.5	61.5	59.4	69.4
65-69	74.7	77.8	67.0	-	74.4
70-74	79.1	80.7	75.6	-	78.8
総計	66.1	65.9	66.5	62.6	73.3

(注) 「十分に満たされている」と「まあ満たされている」と答えた者の比率。

配偶者のいる者に、配偶者との関係について様々な観点から質問した。この結果は〔図表 9-28〕のとおりである。このうち、「配偶者は自分のことを応援してくれる」から「配偶者は自分を自由にさせてくれる」まではどちらかというポジティブな質問、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」以下はネガティブな質問だが、ポジティブな質問に対しては概ね 70～80%の者が「まったくそのとおり」か「まあそのとおり」という肯定的な回答をし、ネガティブな質問に対しては肯定的な回答をしたものは 20%台であった。ただし、「配偶者と価値観・考え方が似ている」という項目だけは、肯定的な回答が約半数であり、価値観・考え方が似ている夫婦もあればそうでない夫婦もあるという結果になった。

男女間で最も大きな差があったのは「配偶者にもっと家事をしてほしい」で、男性に比べ女性がこれに肯定的な回答をする比率が高い。

〔図表 9-28〕 配偶者との関係についての受け止め方

単位：％

項目	総数	男性	女性	現役	OB
配偶者は自分のことを応援してくれる	84.3	86.2	79.3	83.7	85.5
自分は配偶者のよき理解者である	80.8	81.8	78.0	80.8	80.7
配偶者と価値観・考え方が似ている	54.4	54.0	55.6	57.1	49.5
配偶者とよく一緒に出かける	70.9	72.8	65.9	72.8	67.4
配偶者と会話がある	79.5	81.7	73.6	79.6	79.4
配偶者は自分を自由にさせてくれる	85.6	85.8	85.0	83.2	90.1
配偶者は自分の親を大切にしてくれない	27.5	27.3	27.8	27.4	27.6
配偶者は金銭的にうるさい	25.7	27.9	20.0	28.1	21.4
配偶者は自分よりかかりすぎる	28.3	27.2	31.4	30.5	24.4
配偶者にもっと家事をしてほしい	28.8	23.5	43.0	31.9	23.2

(注1) 各項目、「まったくそのとおり」か「まあそのとおり」という回答数の全回答者数に対する比率。

(注2) ただし、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」だけは、全回答者数から「非該当」とする回答数を控除した数に対する比率。

3 企業年金のない人も含めたサラリーマンの生活と生きがい

本節では、企業年金のない人も含めたサラリーマンの生活と生きがいを取り扱う。検討する事項は前節と同じく、健康と経済、そして、生きがい全般とその4区分である。図表もほぼ前節と同じだが、集計の対象がより広がっているため、数値は同じではない⁵。全体的な状況に加え、サラリーマン（男性）とサラリーウーマン（女性）に区分し、また、企業年金の有無に区分して概観する。

3.1 健康状況

健康に関する満足度（図表 9-29）を見ると、年齢とともに全体的な満足度が少しずつ上昇する傾向にある。年齢とともに健康上何らかの問題を抱える人は増えているはずであるが、主観的にはその逆になっている。

総じて女性の方が、健康に関する満足度が高い傾向を示している。企業年金ありの人の方が、健康に関する満足度が高い。

⁵ 今回の調査では、企業年金ありのグループの抽出率がなしのグループの2倍になっている。図表の数値はこれを補正（すなわち企業年金なしのデータを2倍に評価）して算出している。

〔図表 9-29〕 健康に関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企業あり	企業なし
35-39	52.0	48.7	59.4	54.1	50.0
40-44	55.6	51.9	63.5	53.6	57.6
45-49	52.0	48.2	59.6	55.6	48.5
50-54	50.2	48.0	54.9	54.1	46.5
55-59	55.6	54.9	57.1	60.1	51.1
60-64	58.5	58.3	58.9	59.0	58.0
65-69	62.3	61.0	65.8	66.5	58.3
70-74	64.8	64.9	64.4	66.2	63.4
総計	56.1	54.2	60.3	58.3	53.9

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

3.2 経済状況

経済的ゆとりについての満足度（図表 9-30）についても、年齢とともに上昇し、40 歳代までは 20%台であったものが 50 歳代では 30%台に、60 歳以上になると 40%台になる。

男女間では、総じて女性の方が高い。特に、60 歳以降に女性が男性を上回る。企業年金ありの人の経済的ゆとりの満足度は企業年金なしの人に比べ各年齢層で高い。

〔図表 9-30〕 経済的ゆとりに関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企業あり	企業なし
35-39	26.8	26.1	28.2	31.0	22.7
40-44	28.8	28.3	30.0	31.7	26.1
45-49	25.9	23.2	31.4	29.8	22.2
50-54	34.5	34.7	34.0	39.1	29.9
55-59	36.9	37.3	36.1	41.3	32.6
60-64	44.3	42.3	49.2	48.6	40.1
65-69	49.8	46.8	57.4	58.8	41.1
70-74	46.3	42.0	55.7	53.2	39.4
総計	36.0	34.7	39.0	41.0	31.2

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

平均年収⁶（図表 9-31）は、60 歳代で大きく低下する。

男女間では全体の平均額は男性が高いが、60 歳代では逆転している。50 歳代では男性が相対的に高いことから、60 歳を境にした落ち込みの幅が男性ではかなり大きい。

企業年金ありの人は企業年金なしの人より総体的には高いが、60 歳代前半だけは逆転する。企業年金なしの人は 60 歳代後半でも大きく低下する。

⁶ 年収及び金融資産額の試算の方法は注 3 及び注 4 参照。

〔図表 9-31〕 年齢階級別平均年収額（試算）

単位:万円

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	634	640	618	668	598
40-44	694	719	635	750	640
45-49	731	754	682	776	688
50-54	792	832	705	845	740
55-59	776	815	685	812	742
60-64	546	541	563	504	586
65-69	482	472	509	511	454
70-74	451	458	433	488	414
総計	642	656	610	674	611

(注)「200万円未満」は100万円、「1,500万円以上」は1,500万円として試算。

金融資産の状況(図表 9-32)については、年収が60歳を境に大きく低下するのに対して、金融資産額はこのような傾向はみられず、むしろ、60歳代が最も高い。

男女間では、50歳代前半までは男性が高いが、50歳代後半からは女性の方が高い。企業年金ありの人の方がなしの人より平均額は高い。ただし、注目すべきは60歳代前半で一度ほぼ拮抗することである。その後企業年金ありの人はさらに60歳代後半で最高になるのに対し、企業年金なしの人の資産額は60歳代後半から低下することから、企業年金の役割をうかがうことができる。

〔図表 9-32〕 年齢階級別平均資産額（試算）

単位:万円

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	872	918	747	991	750
40-44	1065	1040	1124	1090	1040
45-49	1207	1197	1232	1284	1131
50-54	1818	1898	1638	1762	1872
55-59	1870	1859	1898	1961	1786
60-64	2459	2442	2511	2462	2456
65-69	2434	2405	2516	2661	2208
70-74	2265	2191	2455	2422	2113
総計	1702	1704	1695	1783	1622

(注)「100万円未満」は50万円、「1億円以上」は1億円として試算。

現役層に対し、各回答者に3つまでの範囲で、定年後の生活を主に何によってまかなおうと考えているか聞いたところ(図表 9-33)、最も多かったのが「公的年金」で7割以上がこれを挙げた。企業年金ありとなしの間では、当然ながら、企業年金ありの人は「企業年金」を挙げる人が多かったが、企業年金なしの人はごくわずかであり、「預貯金の取りくずし」や「就労収入」が多くなっている。

〔図表 9-33〕 定年後の生活費をまかなう手段

単位：%

事項	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
公的年金	73.1	74.2	49.0	69.7	76.4
企業年金	25.3	27.4	3.8	47.4	4.3
退職金	30.0	34.6	8.2	37.9	22.6
生命保険の保険金や個人年金	27.5	23.8	26.0	25.3	29.5
預貯金の取りくずし	38.0	34.5	34.0	31.5	44.3
就労による収入	31.6	34.8	19.2	25.2	37.6
子ども等からの経済的支援	1.1	1.0	0.7	0.9	1.2
その他	2.0	2.3	0.9	1.7	2.3
わからない・考えたことがない	7.2	6.5	6.1	6.1	8.3

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、定年後の生活費を主にまかなおうと考えているものとして選んだ事項の割合。

3.3 生きがいの状況

精神的ゆとりに関する満足度(図表 9-34)については、60歳代になると大きく上昇する。企業年金の有無別では、企業年金ありの人の満足度がどの年齢層でもなしの人を上回っている。

〔図表 9-34〕 精神的ゆとりに関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	27.1	25.5	30.8	31.7	22.7
40-44	26.8	23.4	33.9	26.9	26.6
45-49	27.0	23.6	33.6	28.3	25.7
50-54	36.1	34.5	39.3	39.1	33.1
55-59	37.2	35.7	40.6	43.6	30.9
60-64	56.3	55.9	57.3	59.6	53.1
65-69	64.3	61.8	70.5	69.2	59.5
70-74	67.1	64.2	73.6	75.2	59.2
総計	41.5	39.6	45.6	45.4	37.7

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

生きがいの意味(図表 9-35)を見ると、「生きる喜びや満足感」が最も多く、次いで「心の安らぎや気晴らし」、「生活の活力やはりあい」と続く。

男女間でさほど大きな差は見受けられないが、男性では「人生観や価値観の形成」、「生活のリズムやメリハリ」といった項目がより多く、女性では「心の安らぎや気晴らし」などがより多い。企業年金の有無によっても顕著な差異は見られない。

〔図表 9-35〕 生きがいの意味

事項	単位:%				
	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
生活の活力やはりあい	27.5	27.1	28.5	28.6	26.5
生活のリズムやメリハリ	11.9	13.0	9.7	12.7	11.1
心の安らぎや気晴らし	29.9	28.6	32.7	29.4	30.3
生きる喜びや満足感	44.0	43.2	45.9	43.5	44.5
人生観や価値観の形成	13.2	15.0	9.2	13.3	13.0
生きる目標や目的	18.6	18.3	19.2	17.4	19.8
自分自身の向上	12.6	12.0	13.9	13.3	11.8
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	16.5	16.1	17.5	17.0	16.0
他人や社会の役に立っていると感じること	9.6	9.8	9.1	8.9	10.3
その他	0.5	0.5	0.4	0.6	0.4

(注) 各回答者が2つまでの範囲で、「生きがい」を表すのに適切なものとして選んだ事項の割合。

生きがいの保有率(図表 9-36)は、年齢に従って上昇する傾向があるが、60歳代前半で一度低下する。前節でみた企業年金ありの者については微減(ただし、男性は60歳代前半でも増加するのに対し、女性は大きく低下)であったが、企業年金なしも含めると低下の度合いが大きくなる。

〔図表 9-36〕 生きがい保有率

年齢	単位:%				
	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	48.3	49.7	45.1	48.5	48.1
40-44	47.3	48.5	44.6	48.3	46.2
45-49	46.3	44.8	49.3	50.2	42.5
50-54	49.9	49.9	50.0	48.9	51.0
55-59	57.3	55.1	62.1	57.8	56.7
60-64	51.6	51.3	52.4	57.1	46.3
65-69	69.1	68.6	70.5	72.9	65.5
70-74	66.9	66.2	68.4	67.6	66.2
総計	54.1	54.0	54.4	55.9	52.4

(注) 各回答者中生きがいを「持っている」と回答した者の割合。

企業年金のない者について生きがい保有率(図表 9-37)を見ると、男性も女性も60歳代前半で大きく低下している。また、現役かOBかで見ると、55歳代後半で現役の人たちの生きがい保有率は高いのに対し、OBではかなり低いことから、退職が生きがい保有に大きな影響を与えている可能性がうかがわれる。

〔図表 9-37〕 企業年金なしの者の生きがい保有率

単位：%

年齢	総数	男性	女性	現役	OB
35-39	48.1	51.0	41.8	49.0	—
40-44	46.2	47.2	44.1	45.5	—
45-49	42.5	39.6	48.2	42.8	—
50-54	51.0	52.4	48.1	50.7	—
55-59	56.7	55.3	60.0	58.7	43.5
60-64	46.3	44.3	51.1	45.0	47.1
65-69	65.5	66.7	62.5	—	65.0
70-74	66.2	66.3	65.9	—	66.4
総計	52.4	52.6	51.9	49.7	58.4

(注) 各回答者中生きがいを「持っている」と回答した者の割合。

生きがいの対象(図表 9-38)は、「趣味」が最も多く、次いで「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「配偶者・結婚生活」、「仕事」と続く。

男女間で差が目立つ項目としては、男性が「スポーツ」、「仕事」、「配偶者・結婚生活」を選ぶ割合が高く、女性は「友人など家族以外の人との交流」、「自分自身の内面の充実」、「ひとりで気ままに過ごすこと」が多く選ばれている。企業年金の有無でそれほど大きな差は見られないが、企業年金ありの人が「スポーツ」や「配偶者・結婚生活」を選ぶ割合が若干高く、企業年金なしの人は「仕事」を選ぶ割合が若干高い。

〔図表 9-38〕 生きがいの対象

単位：%

事項	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
仕事	21.9	24.8	15.6	20.5	23.3
趣味	51.1	53.8	45.0	52.1	50.0
スポーツ	13.5	15.8	8.3	15.7	11.2
学習活動	3.5	3.3	4.0	3.6	3.4
社会活動(ボランティア含む)	5.6	5.9	5.0	5.6	5.5
自然とのふれあい	14.0	14.2	13.6	13.6	14.3
配偶者・結婚生活	25.6	28.2	19.9	27.6	23.7
子ども・孫・親などの家族・家庭	44.6	44.5	44.8	45.1	44.0
友人など家族以外の人との交流	14.9	11.1	23.3	14.9	14.8
自分自身の健康づくり	11.9	11.7	12.4	12.0	11.9
ひとりで気ままに過ごすこと	16.6	15.0	20.3	16.7	16.6
自分自身の内面の充実	13.2	10.7	18.8	12.6	13.8
その他	2.1	1.5	3.2	1.6	2.5

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、生きがいを感じることで選んだ事項の割合。

3.4 仕事関係

企業年金がない者も含めたサラリーマン・ウーマンの就業形態（図表 9-39）は、企業年金ありの者の場合と大差はなく、正社員比率は 60 歳代になると大きく低下する、ただし、低下傾向は 50 歳代後半から始まっている。代わって、無職が増大し、また、自営業・自由業契約社員・嘱託も増加している。

【図表 9-39】サラリーマンの就業形態

単位：%

年齢	正社員	契約社員・嘱託	派遣社員	パート・アルバイト	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター（高齢者事業団）	無職
35-39	79.8	3.3	2.1	4.9	1.5	0.1	0.0	8.3
40-44	78.6	2.3	1.4	5.2	3.4	0.3	0.0	8.8
45-49	74.7	3.0	1.8	5.3	4.7	0.2	0.0	10.4
50-54	72.8	4.5	0.3	4.7	8.4	0.0	0.0	9.3
55-59	68.3	3.3	0.1	5.0	8.2	1.1	0.0	14.0
60-64	23.6	7.5	0.0	7.0	11.4	0.5	0.9	49.1
65-69	7.5	4.4	1.2	6.9	10.4	0.2	1.4	68.1
70-74	3.9	2.3	0.2	3.2	9.8	0.4	1.6	78.6
総計	53.4	3.8	1.0	5.3	6.9	0.3	0.4	28.9

企業年金がない者も含めたサラリーマン・ウーマンの仕事のほりあいの満足度（図表 9-40）は、企業年金ありの者の場合と大差はなく、50 歳代までの 30%台から 60 歳代になると 20%台に低下するが、それほど大きな落ち込みではない。

男女間では、概ねの傾向として、現役時代の若い段階では男性が若干高く、65 歳以降になると女性が高くなるが、それほど顕著な差ではない。企業年金ありとなしでも男女間と同様の傾向はあるが、やはり顕著な差ではない。

【図表 9-40】仕事のほりあいに関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	33.0	35.0	28.6	33.6	32.4
40-44	32.4	34.9	27.0	33.9	31.0
45-49	32.9	31.8	35.0	33.4	32.3
50-54	39.3	41.9	34.0	39.7	38.9
55-59	36.5	39.1	30.6	35.9	37.1
60-64	29.0	32.2	21.1	27.1	30.9
65-69	30.1	29.5	31.6	28.7	31.5
70-74	27.8	26.8	29.9	27.3	28.2
総計	32.7	34.0	29.8	32.6	32.8

（注）「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

社会的地位の満足度（図表 9-41）は、50 歳代が 30%台で高く、60 歳代で若干低下する。特に、男性の低下が相対的に大きい。企業年金あり者と比べると、50 歳代後半から 60 歳代前半では企業年金なしの者の方が高くなる。

〔図表 9-41〕 社会的地位に関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	26.2	27.5	23.3	27.4	25.0
40-44	26.6	30.5	18.5	28.3	25.0
45-49	27.1	29.8	22.0	28.0	26.3
50-54	32.4	37.3	22.3	34.2	30.6
55-59	31.3	34.4	24.2	28.8	33.7
60-64	27.0	28.7	22.7	25.6	28.4
65-69	23.6	22.8	25.8	24.1	23.2
70-74	21.5	19.1	27.0	23.4	19.7
総計	27.0	28.8	23.1	27.5	26.6

（注）「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

定年退職後の仕事について、現役層（図表 9-42）は、2 割強が退職とともに引退したいと考えている。これに対し、仕事の継続または雇用形態が変わっても今の会社に勤めたいとするものを合わせると 4 割以上になり、これに別の企業への再就職シルバー人材センターなどでの仕事を含め、何らかの形で仕事を希望する者が 3 分の 2（64.9%）にのぼる。

男女間では、男性の方が引退希望の割合が若干高いが、女性では「わからない・考えたことがない」がかなり多い。企業年金の有無では、企業年金ありの人の方が引退を希望する割合が高い。

〔図表 9-42〕 現役の者の定年退職後における仕事に関する希望

単位：%

	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
退職とともに職業生活から引退したい	21.2	22.2	18.8	24.4	18.1
できれば仕事を継続したい	34.1	33.9	34.6	31.2	36.9
定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	8.5	10.1	4.7	10.5	6.5
退職後は別の企業に再就職したい	7.6	8.6	5.4	7.7	7.5
退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	8.1	9.5	4.8	7.0	9.1
退職後は家業を手伝いたい	0.8	0.7	1.0	0.8	0.8
退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	5.8	4.8	8.0	5.5	6.1
その他	1.4	1.2	1.7	1.1	1.7
わからない・考えたことがない	12.6	8.8	21.1	11.8	13.2

これに対し、実際に定年退職または定年前退職をした人たちが仕事に就いたかどうか聞いたところ（図表 9-43）、半数近くが、職業生活から引退したと答えている。

男女間では、女性の方が引退した割合が高く、また、企業年金の有無では、企業年金なしの方が引退した割合が高く、それぞれ、現役の者の希望とは逆の結果になっている。

〔図表 9-43〕 退職者の退職後における仕事の状況

単位：％

	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
退職とともに職業生活から引退した	49.7	42.7	64.3	47.2	52.2
退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	10.3	13.5	3.6	10.6	9.9
退職後は出向先に移籍した	3.9	5.3	0.9	5.3	2.4
退職後は別の企業に再就職した	16.5	20.1	9.0	18.9	13.9
退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	8.3	10.2	4.3	7.2	9.5
退職後は家業を手伝うようになった	2.8	2.0	4.5	1.9	3.8
退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	2.0	1.7	2.5	2.0	1.9
その他	6.6	4.5	10.9	6.8	6.4

3.5 地域関係の状況

近隣との交流に関する満足度（図表 9-44）は、年齢が高くなるにつれて上昇している。60歳代前半でそれまでと比べてある程度上昇し、その後も上昇し続ける。

男女間では、女性の方が男性よりすべての年齢層で高い。企業年金の有無では、企業年金ありの方がすべての年齢層で高い。

〔図表 9-44〕 近隣との交流に関する満足度

単位：％

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	19.5	17.7	23.7	20.6	18.5
40-44	19.2	17.4	23.2	21.1	17.4
45-49	19.5	17.0	24.2	24.0	15.0
50-54	19.8	19.0	21.4	21.8	17.8
55-59	21.6	18.0	29.7	23.6	19.7
60-64	26.2	23.2	33.5	27.8	24.7
65-69	37.7	36.1	41.6	38.4	36.9
70-74	41.6	40.5	44.3	43.9	39.4
総計	25.1	23.1	29.4	27.0	23.1

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

社会活動への参加割合（図表 9-45）は、年齢とともに上昇するが、65歳以降に大きく上昇する傾向がある。

男女間では男性が総じて高く、企業年金の有無では企業年金有の方が高い。

〔図表 9-45〕 社会活動への参加割合

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	19.6	22.6	13.2	18.9	20.4
40-44	24.2	27.9	16.3	24.4	23.9
45-49	24.4	25.0	23.3	26.7	22.2
50-54	25.3	27.2	21.4	27.7	22.9
55-59	24.6	24.4	25.1	29.6	19.7
60-64	27.8	27.2	29.2	29.0	26.5
65-69	34.6	34.4	35.3	36.0	33.3
70-74	39.7	40.5	37.9	42.1	37.3
総計	27.0	28.2	24.2	28.7	25.3

(注) 社会活動に「定期的に」または「ときどき」参加している者の割合。

3.6 余暇の状況

時間的ゆとりに関する満足度（図表 9-46）は、50 歳代で 5 割を超え、60 歳代になると 3/4 以上になる。

男女間では、40 歳代までは女性の方が高いが、50 歳代以降は目立った差はなくなる。企業年金の有無でさほどの差はないが、幾分企業年金ありの方が高い。

〔図表 9-46〕 時間的ゆとりに関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	40.6	35.8	51.1	42.3	38.9
40-44	45.2	44.6	46.4	43.1	47.3
45-49	41.8	38.9	47.5	42.9	40.7
50-54	52.7	52.8	52.4	56.4	49.0
55-59	55.7	55.5	56.2	58.1	53.4
60-64	78.8	80.7	74.1	81.1	76.5
65-69	85.8	85.9	85.8	87.2	84.5
70-74	86.5	87.4	84.5	88.5	84.5
総計	59.5	58.9	60.6	60.9	58.0

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

熱中できる趣味の満足度（図表 9-47）は、45 歳後半から 5 割を超えるが、60 歳代になると 6 割代に上昇し 60 歳代後半からは 7 割台になる。

男女間では、男性が年齢とともに上昇するのに対し、女性は 60 歳代前半でその前より大きく低下する。企業年金の有無では、50 歳代まではさほどの差はないが、60 歳代以降になると企業年金ありの方が高くなる。

〔図表 9-47〕 熱中できる趣味に関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	48.7	48.4	49.2	48.2	49.1
40-44	47.9	48.9	45.9	48.6	47.3
45-49	54.0	52.3	57.4	55.3	52.7
50-54	54.4	54.7	53.9	55.4	53.5
55-59	55.0	53.5	58.4	54.4	55.6
60-64	60.7	64.7	50.8	61.5	59.9
65-69	71.2	70.9	72.1	73.5	69.0
70-74	70.8	70.4	71.8	74.1	67.6
総計	57.2	57.4	56.7	58.1	56.3

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

自由に使える時間は十分にあると思うか聞き、これに対する回答（図表 9-48）を見ると、「十分にある」か「まあまあ」と答えた人の比率が、50 歳代後半で 8 割を超え、60 歳代では 9 割を超える。

男女間では、50 歳代後半以降は男性の方が女性より高くなるが、差は必ずしも大きくない。企業年金の有無別では、企業年金有の方が若干高いが、差はわずかである。

〔図表 9-48〕 自由時間のゆとりがある人の割合

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	68.8	65.2	76.7	70.0	67.6
40-44	70.6	70.7	70.4	69.4	71.7
45-49	73.9	71.8	78.0	72.3	75.4
50-54	76.7	74.2	81.6	78.2	75.2
55-59	83.9	85.2	80.8	84.6	83.1
60-64	91.3	91.4	90.8	93.7	88.9
65-69	95.2	95.4	94.7	95.7	94.6
70-74	96.6	96.1	97.7	97.5	95.8
総計	81.3	80.5	82.8	81.8	80.7

(注) 自由時間が「十分にある」と「まあまあ」と答えた者の比率。

自由時間の使い方（図表 9-49）で、「パソコン通信やインターネットなど」が群を抜いていたのは、今回の調査がインターネットを通じての者であったことから、そのバイアスによるものと考えられる。これを除くと、「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」、「家庭との団らんや家庭サービス」、「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒など」、「庭いじりや家事など家庭内のこと」、「行楽・ドライブなど」、「仲間と趣味・スポーツなど」が比較的多く選ばれた。

男女間では、「個人的な友人・仲間とのつきあい」と「庭いじりや家事など家庭内のこと」で女性が大きく上回っていた。企業年金の有無では大きな差はないが、「仕事仲間とのプライベートなつきあい」が企業年金ありで大きかった。

〔図表 9-49〕 自由時間の使い方

単位：%

事項	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
仕事仲間とのプライベートなつきあい	5.8	6.7	3.7	7.3	4.3
仕事に関する勉強や残務整理	6.4	6.8	5.6	6.4	6.5
テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	28.4	29.9	24.9	28.1	28.7
ひとりで趣味・スポーツ・学習など	35.4	35.9	34.3	35.6	35.1
仲間と趣味・スポーツなど	18.5	19.0	17.3	20.1	16.9
パソコン通信やインターネットなど	58.5	59.9	55.5	57.9	59.2
個人的な友人・仲間とのつきあい	21.2	15.1	34.8	20.5	22.0
行楽・ドライブなど	19.2	21.7	13.8	19.6	18.9
庭いじりや家事など家庭内のこと	23.5	19.0	33.6	23.3	23.7
家庭との団らんや家庭サービス	30.6	32.5	26.3	31.9	29.3
近隣の人とのつきあいや地域の用事	5.3	5.6	4.5	5.3	5.3
その他	2.6	2.2	3.6	2.3	2.9
特に何もしない	1.2	1.3	1.0	1.2	1.2

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、日ごろの自由時間を主に使っていることとして選んだ事項の割合。

3.7 家族状況

サラリーマンの婚姻の状況（図表 9-50）については、既婚（配偶者あり）が男女ともに圧倒的に多いが、とりわけ男性は 84.1%に達する。女性は相対的に未婚や離別・死別が多い。年齢との関係では、年齢とともに未婚の割合が減少する。既婚（配偶者あり）は、男性の 50 歳代までは年齢とともに上昇するが、60 歳代前半で一度低下する。女性は 50 歳代で若干低下する。離別は、男性 60 歳代後半以降が目立って低下するが、女性は 60 歳代後半からむしろ高まる。死別は女性 60 歳代以降が目立って上昇する。

〔図表 9-50〕 回答者の婚姻の状況

単位：%

年齢	未婚		既婚（配偶者あり）		既婚（離別）		既婚（死別）	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
35-39	19.7	29.7	78.1	63.2	2.0	3.4	0.2	0.0
40-44	18.4	23.2	75.4	67.4	5.7	4.3	0.6	0.0
45-49	15.0	18.8	79.1	70.4	5.7	5.4	0.2	0.9
50-54	8.0	14.6	83.4	69.9	8.0	7.3	0.7	0.5
55-59	5.3	11.4	87.9	71.7	5.3	9.6	1.4	3.7
60-64	5.0	4.9	86.4	80.5	6.6	7.0	2.0	9.7
65-69	2.7	3.2	90.9	70.0	3.2	13.2	3.2	12.6
70-74	0.8	5.2	95.4	64.4	2.1	15.5	1.8	21.8
総計	9.9	15.0	84.1	69.4	4.7	7.8	1.2	5.4

(注) 各性・年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

家族同居の状況を既婚（配偶者あり）とそれ以外について見ると、既婚（配偶者あり）では（図表 9-51）、「未婚の子と同居」が半数近くになるが、50 歳代後半から目立って減少し、60 歳代でさらに減少する。代わって、「夫婦だけ」が大きく増加する。「親と同居」は 60 歳代後半からかなり減少する。

未婚または離・死別で配偶者がいない者について（図表 9-52）は、どの年齢層でも半数以上が「ひとり暮らし」になっている。40 歳代までは、次いで「親と同居」だが、50 歳代以降は「その他」が多くなる。

〔図表 9-51〕 既婚（配偶者あり）の同居家族状況

単位：%

年齢	夫婦だけ	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	22.5	66.6	1.3	9.1	0.6
40-44	16.6	66.4	2.6	13.2	1.1
45-49	19.8	67.9	1.0	10.5	0.8
50-54	24.9	56.7	0.2	17.1	1.0
55-59	35.8	42.3	2.4	18.4	1.0
60-64	48.4	32.6	2.8	14.7	1.5
65-69	56.6	32.6	3.7	6.6	0.5
70-74	68.7	22.2	3.1	4.1	1.9
総計	36.4	48.7	2.1	11.8	1.0

（注 1）各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

（注 2）「子夫婦と同居」はほかに孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」はほかに子や孫がいる場合を含む。

〔図表 9-52〕 配偶者のいない者の同居家族状況

単位：%

年齢	ひとり暮らし	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	50.7	2.6	0.0	24.2	22.5
40-44	57.1	4.5	0.0	20.7	17.7
45-49	63.3	4.4	0.0	17.7	14.6
50-54	49.6	13.0	0.0	14.5	22.9
55-59	54.5	11.6	0.8	8.3	24.8
60-64	52.0	14.3	4.1	9.2	20.4
65-69	62.0	11.0	2.0	4.0	21.0
70-74	58.8	15.0	15.0	0.0	11.3
総計	55.6	8.1	1.7	14.9	19.7

（注 1）各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

（注 2）「子夫婦と同居」はほかに孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」はほかに子や孫がいる場合を含む。

家族の理解・愛情に関する満足度（図表 9-53）は、ほぼ 6 割代で安定しているといえるが、40 歳代後半だけは 50%台前半に落ち込む。逆に、60 歳代後半から 7 割台に上昇する。

男女間では、女性が年齢にかかわらず安定しているのに対し、男性は 40 歳代後半に向かって低下し、その後は年齢とともに上昇する。企業年金の有無別では、企業年金ありの方が幾分高い。

〔図表 9-53〕 家族の愛情・理解に関する満足度

単位：%

年齢	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
35-39	62.5	59.3	69.5	62.4	62.5
40-44	60.6	57.4	67.4	61.4	59.8
45-49	54.9	53.0	58.7	59.0	50.9
50-54	58.0	56.4	61.2	61.9	54.1
55-59	62.9	63.3	62.1	66.4	59.6
60-64	64.7	63.8	67.0	67.2	62.3
65-69	72.7	74.7	67.9	74.7	70.8
70-74	77.2	78.1	75.3	79.1	75.4
総計	63.9	62.9	66.0	66.1	61.7

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

配偶者との関係 (図表 9-54) については、「配偶者は自分のことを応援してくれる」から「配偶者は自分を自由にさせてくれる」まではどちらかというとポジティブな質問、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」以下はネガティブな質問だが、ポジティブな質問に対しては概ね 70~80%の者が「まったくそのとおり」か「まあそのとおり」という肯定的な回答をし、ネガティブな質問に対しては肯定的な回答をしたものは 20%台であった。ただし、「配偶者と価値観・考え方が似ている」という項目だけは、肯定的な回答が約半数であり、価値観・考え方が似ている夫婦もあればそうでない夫婦もあるという結果になった。

男女間で最も大きな差があったのは「配偶者にもっと家事をしてほしい」で、男性に比べ女性がこれに肯定的な回答をする比率が高い。企業年金の有無では目立った差はない。

〔図表 9-54〕 配偶者との関係についての受け止め方

単位：%

項目	総数	男性	女性	企年あり	企年なし
配偶者は自分のことを応援してくれる	84.0	85.8	79.4	84.3	83.7
自分は配偶者のよき理解者である	79.5	80.3	77.3	80.8	78.1
配偶者と価値観・考え方が似ている	53.0	53.3	52.3	54.4	51.6
配偶者とよく一緒に出かける	70.4	72.7	64.1	70.9	69.8
配偶者と会話がある	78.6	80.4	73.7	79.5	77.7
配偶者は自分を自由にさせてくれる	84.4	84.2	84.8	85.6	83.1
配偶者は自分の親を大切にしてくれない	25.9	26.2	25.1	27.5	24.4
配偶者は金銭的にうるさい	25.4	27.7	19.3	25.7	25.0
配偶者は自分によりかかりすぎる	27.8	25.7	33.4	28.3	27.3
配偶者にもっと家事をしてほしい	28.1	22.4	43.2	28.8	27.3

(注 1) 各項目、「まったくそのとおり」か「まあそのとおり」という回答数の全回答者数に対する比率。

(注 2) ただし、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」だけは、全回答者数から「非該当」とする回答数を控除した数に対する比率。

4 女性にとっての生活と生きがい

本節では、女性に焦点を当ててその状況を概観することとする。具体的には、サラリーウーマンの現役・OG とサラリーマン世帯の専業主婦が対象である。サラリーウーマンは、企業年金がある女性とない女性に区分する。専業主婦（第3号被保険者）は、その夫が企業年金に加入しているかどうかまでは聞いていないので、両方の世帯が混在している。

検討項目は前2節とほぼ同じだが、専業主婦は仕事には就いていないので、仕事状況を除いた6項目とする。

本節の図表における「総数」は女性だけの総数である。なお、本調査では、第1号被保険者を調査対象としていないので、「総数」が必ずしも日本全体の女性の平均的状況ではない。

4.1 健康状況

健康に関する満足度（図表 9-55）は、年齢による差はあまりないが、50歳代には低下し、その後はむしろ年齢とともに全体的な満足度が上昇する。ただし、70歳代になると低下がみられる。

企業年金ありのサラリーウーマンの方が、健康に関する満足度が幾分高い。また、サラリーウーマンより専業主婦の方が、健康に関する満足度が幾分低いが、サラリーマン（男性）に比べると専業主婦の方が幾分高い。ただし、60歳代後半から逆転する。

【図表 9-55】健康に関する満足度

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	62.3	59.1	59.7	64.4	48.7
40-44	60.9	57.4	69.5	58.8	51.9
45-49	57.3	64.0	55.4	55.5	48.2
50-54	54.9	55.9	53.8	54.9	48.0
55-59	54.9	63.3	50.9	53.2	54.9
60-64	59.5	56.0	61.7	60.0	58.3
65-69	62.6	71.3	60.4	60.0	61.0
70-74	57.1	62.8	65.9	51.4	64.9
総計	58.8	61.1	59.6	57.6	54.2

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

4.2 経済状況

経済的ゆとりについての満足度（図表 9-56）も、年齢とともに上昇する。

企業年金ありのサラリーウーマンの満足度は企業年金なしの人に比べ各年齢層で高い。専業主婦は60歳代前半までは企業年金ありとそう変わらないが、60歳代後半から相対的に低くなる。サラリーマン（男性）に比べると、専業主婦の満足度がどの年齢層でも高い。

〔図表 9-56〕 経済的ゆとりに関する満足度

単位：%

年齢	総数	企業あり	企業なし	第3号	(参考)男性
35-39	33.7	32.6	23.9	37.9	26.1
40-44	32.3	33.0	27.1	34.0	28.3
45-49	37.0	39.6	23.2	41.6	23.2
50-54	38.6	43.1	25.0	42.1	34.7
55-59	40.4	43.1	29.1	43.9	37.3
60-64	50.8	51.6	46.8	52.2	42.3
65-69	51.2	62.8	52.1	46.1	46.8
70-74	52.8	57.0	54.5	50.5	42.0
総計	41.1	44.2	33.9	42.8	34.7

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

世帯の年収を試算⁷(図表 9-57)すると、年収は 60 歳代で低下する。

企業年金ありのサラリーウーマンは 60 歳代前半での低下の程度が大きく、企業年金なしの人は 60 歳代後半で大きく低下する。専業主婦には世帯の収入を聞いており、年齢層ごとに高低はあるが全体的には男性と大差ない。

〔図表 9-57〕 年齢階級別平均年収額 (試算)

単位：万円

年齢	総数	企業あり	企業なし	第3号	(参考)男性
35-39	577	658	576	600	640
40-44	613	685	588	648	719
45-49	688	744	624	759	754
50-54	717	722	690	781	832
55-59	689	694	678	729	815
60-64	586	496	631	626	541
65-69	486	534	484	496	472
70-74	439	431	435	457	458
総計	603	629	592	643	656

(注) 「200 万円未満」は 100 万円、「1,500 万円以上」は 1,500 万円として試算。

年収は 60 歳代を境に大きく低下する状況に対して、金融資産額の試算額(図表 9-58)はこのような傾向はみられず、むしろ、60 歳代が最も高い。

企業年金ありの人の方がなしの人より平均額は高い。ただし、注目すべきは 60 歳代前半で一度逆転することである。男女計の場合はほぼ拮抗するが逆転まで至らなかったのに対し、女性の場合の両者の差は顕著である。その後企業年金ありの人は 60 歳代後半で最高になるのに対し、企業年金なしの人の資産額は 60 歳代後半から低下する傾向は男女計の場合と同様である。

専業主婦に聞いた世帯の資産額はサラリーウーマンよりも低く、男性と比べても低い。世

⁷ 年収及び金融資産額の試算の方法は注 3 及び注 4 参照。

帯としての資産を聞いているので、男性と専業主婦の資産額は本来ほぼ同額であるはずだが、このような結果になったのは、専業主婦が世帯として保有する資産額を低くしか認識していないことを意味しているといえよう。

【図表 9-58】年齢階級別平均資産額（試算）

単位:万円

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	940	872	606	1081	918
40-44	904	1195	1116	698	1040
45-49	1201	1624	975	1117	1197
50-54	1587	1892	1463	1519	1898
55-59	1905	2014	1903	1859	1859
60-64	2492	2282	3205	2289	2442
65-69	2593	3303	2269	2389	2405
70-74	2229	2558	2499	1947	2191
総計	1653	1897	1669	1542	1704

(注)「100万円未満」は50万円、「1億円以上」は1億円として試算。

4.3 生きがいの状況

精神的ゆとりに関する満足度(図表 9-59)については、60歳代になると大きく上昇する。

企業年金の有無別では、40歳代と60歳代前半で企業年金なしの人の満足度が上回っている。男性との対比では、50歳代までは専業主婦の方が高いが、60歳代から逆転する。夫の定年退職に伴って夫が家庭にいる時間が増えたことが関係しているのかもしれない。

【図表 9-59】精神的ゆとりに関する満足度

単位:%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	33.9	33.3	28.4	36.2	25.5
40-44	34.3	27.0	40.7	34.6	23.4
45-49	39.6	33.3	33.9	44.5	23.6
50-54	44.3	46.1	32.7	48.1	34.5
55-59	44.5	48.6	32.7	47.5	35.7
60-64	49.6	52.7	61.7	43.5	55.9
65-69	64.8	72.3	68.8	60.0	61.8
70-74	65.3	76.7	70.5	58.7	64.2
総計	45.6	46.9	44.4	45.5	39.6

(注)「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

生きがいの意味(図表 9-60)については、「生きる喜びや満足感」が最も多く、次いで「心の安らぎや気晴らし」、「生活の活力やはりあい」と続く。

企業年金の有無によっても顕著な差異は見られない。男性との比較でもさほど大きな差は見受けられないが、男性では「人生観や価値観の形成」、「生活のリズムやメリハリ」といっ

た項目がより多く、女性では「心の安らぎや気晴らし」などがより多い。

〔図表 9-60〕 生きがいの意味

事項	総数	企年あり	企年なし	単位：%	
				第3号	(参考)男性
生活の活力やはりあい	28.6	30.0	27.1	28.6	27.1
生活のリズムやメリハリ	9.5	11.2	8.2	9.4	13.0
心の安らぎや気晴らし	32.1	33.0	32.5	31.6	28.6
生きる喜びや満足感	47.0	42.9	48.8	47.9	43.2
人生観や価値観の形成	8.4	8.8	9.6	7.8	15.0
生きる目標や目的	19.6	19.2	19.2	19.9	18.3
自分自身の向上	13.5	15.8	11.9	13.2	12.0
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	18.3	17.9	17.1	19.0	16.1
他人や社会の役に立っていると感じる事	9.4	7.5	10.7	9.6	9.8
その他	0.6	0.6	0.2	0.7	0.5

(注) 各回答者が2つまでの範囲で、「生きがい」を表すのに適切なものとして選んだ事項の割合。

生きがいの保有率(図表 9-61)は、年齢に従って上昇する傾向があるが、60歳代前半で一度低下する。

サラリーウーマンが定年を迎える60歳代前半で大きく低下するのに対し、専業主婦にはこのような傾向はみられない。ただし、専業主婦の生きがい保有率自体はサラリーウーマンに比べると、30歳代後半を除き、全般的に低い傾向にある。男性と比べても低いですが、唯一60歳代前半で逆転する。これは男性サラリーマンが定年を迎え生きがい保有率が一時的に低下するためであると考えられる。

〔図表 9-61〕 生きがい保有率

年齢	総数	企年あり	企年なし	単位：%	
				第3号	(参考)男性
35-39	48.1	48.5	41.8	50.3	49.7
40-44	40.4	45.2	44.1	37.3	48.5
45-49	42.3	50.5	48.2	36.5	44.8
50-54	46.8	52.0	48.1	44.4	49.9
55-59	55.1	64.2	60.0	49.6	55.1
60-64	52.3	53.8	51.1	52.2	51.3
65-69	63.8	78.7	62.5	58.3	68.6
70-74	65.6	70.9	65.9	63.3	66.2
総計	51.0	57.0	51.9	48.2	54.0

(注) 各回答者中生きがいを「持っている」と回答した者の割合。

生きがいの対象(図表 9-62)については、「子ども・孫・親などの家族・家庭」と「趣味」が多く、次いで「配偶者・結婚生活」、「友人など家族以外の人との交流」と続く。

企業年金の有無でそれほど大きな差は見られないが、企業年金ありの人が「スポーツ」や「配偶者・結婚生活」を選ぶ割合が若干高く、企業年金なしの人は「ひとりで気ままに過ごすこと」、「自分自身の内面の充実」、「学習活動」を選ぶ割合が若干高い。

専業主婦はサラリーウーマンに比べると、当然ながら、「仕事」の割合が低く、「子ども・

孫・親などの家族・家庭」が高い。専業主婦を男性サラリーマンと比べると、「仕事」や「スポーツ」で低く、「友人など家族以外の人との交流」や「自分自身の内面の充実」で高くなっている。

〔図表 9-62〕 生きがいの対象

単位：％

事項	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
仕事	11.8	17.4	13.8	8.9	24.8
趣味	43.4	44.0	46.0	42.0	53.8
スポーツ	7.8	10.0	6.5	7.5	15.8
学習活動	3.9	3.7	4.2	3.8	3.3
社会活動(ボランティア含む)	5.3	5.2	4.7	5.6	5.9
自然とのふれあい	12.7	13.3	13.8	12.1	14.2
配偶者・結婚生活	25.2	22.1	17.8	29.3	28.2
子ども・孫・親などの家族・家庭	49.7	47.3	42.3	53.6	44.5
友人など家族以外の人との交流	21.5	23.7	22.9	20.0	11.1
自分自身の健康づくり	12.2	12.5	12.4	12.1	11.7
ひとりで気ままに過ごすこと	18.9	18.7	22.0	17.7	15.0
自分自身の内面の充実	18.7	17.6	19.9	18.6	10.7
その他	2.8	2.7	3.7	2.4	1.5

(注) 各回答者が3つまでの範囲で、生きがいを感じることとして選んだ事項の割合。

4.4 地域関係の状況

近隣との交流に関する満足度(図表 9-63)については、年齢が高くなるにつれて上昇している。60歳代前半でそれまでと比べてある程度上昇し、その後も上昇し続ける。

サラリーウーマンの企業年金の有無別では、年齢層によって若干の高低がみられるが全体としてはほぼ同じになっている。

専業主婦はサラリーウーマンより高い。また、サラリーマン(男性)と比べるとすべての年齢層でかなり高い。

〔図表 9-63〕 近隣との交流に関する満足度

単位：％

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	24.0	23.5	23.9	24.3	17.7
40-44	24.5	20.9	25.4	25.5	17.4
45-49	24.5	28.8	19.6	24.8	17.0
50-54	27.5	23.5	19.2	32.3	19.0
55-59	30.8	33.9	25.5	31.7	18.0
60-64	35.2	24.2	42.6	36.5	23.2
65-69	42.6	41.5	41.7	43.5	36.1
70-74	46.2	47.7	40.9	47.7	40.5
総計	30.9	29.8	29.0	32.2	23.1

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

社会活動への参加割合（図表 9-64）は年齢とともに上昇するが、60 歳以降に大きく上昇する傾向がある。

サラリーウーマンの企業年金の有無では、企業年金有の方が総じて若干高い。

専業主婦の社会参加率は、サラリーウーマンと比べ年齢層によって若干の高低がみられるが、全体としてはほぼ同じである。サラリーマン（男性）と比べると、全体では男性の方が高いが、60 歳代では専業主婦の方が高いという特徴が見られる。

【図表 9-64】 社会活動への参加割合

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	14.4	17.4	9.0	15.3	22.6
40-44	20.4	20.9	11.9	23.5	27.9
45-49	22.9	25.2	21.4	22.6	25.0
50-54	24.2	23.5	19.2	26.3	27.2
55-59	24.7	30.3	20.0	24.5	24.4
60-64	32.3	33.0	25.5	34.8	27.2
65-69	36.9	37.2	33.3	38.3	34.4
70-74	32.7	37.2	38.6	28.4	40.5
総計	25.1	27.3	21.3	25.8	28.2

(注) 社会活動に「定期的に」または「ときどき」参加している者の割合。

4.5 余暇の状況

時間的ゆとりに関する満足度（図表 9-65）も、年齢とともに上昇する。総数では全年齢層で5割を超えるが、サラリーウーマンは50 歳代まではいくつかの年齢層で5割を割る。

専業主婦は、50 歳代まではサラリーウーマンより満足度が高いが、60 歳代から逆転する。同様の傾向が、専業主婦とサラリーマン（男性）と比べて場合にも見られる。

【図表 9-65】 時間的ゆとりに関する満足度

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	52.6	48.5	53.7	53.7	35.8
40-44	54.2	40.0	52.5	60.1	44.6
45-49	55.1	45.0	50.0	61.3	38.9
50-54	65.7	58.8	46.2	75.9	52.8
55-59	66.2	61.5	50.9	74.1	55.5
60-64	72.5	78.0	70.2	71.3	80.7
65-69	77.4	81.9	89.6	70.4	85.9
70-74	75.8	80.2	88.6	68.8	87.4
総計	63.7	60.0	61.2	66.1	58.9

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

熱中できる趣味に関する満足度（図表 9-66）についても、全体の傾向として年齢とともに満足度が上昇する。

サラリーウーマンの企業年金有無でさほどの差は認められないが、40 歳代前半までは企業年金なしのサラリーウーマンの方が高い。専業主婦についても、特に他のグループと比べ差が際立つところは認められない。

〔図表 9-66〕 熱中できる趣味に関する満足度

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	46.9	43.2	55.2	45.2	48.4
40-44	45.1	40.9	50.8	44.4	48.9
45-49	55.5	59.5	55.4	54.0	52.3
50-54	54.4	53.9	53.8	54.9	54.7
55-59	55.1	56.9	60.0	52.5	53.5
60-64	58.8	50.5	51.1	65.2	64.7
65-69	67.4	73.4	70.8	63.5	70.9
70-74	71.2	66.3	77.3	70.6	70.4
総計	55.7	54.6	58.6	55.0	57.4

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

自由に使える時間は十分にあると思うか聞いた結果（図表 9-67 で）は、30 歳代後半でも 4 分の 3 の女性が肯定的な回答をする中で、その率は年齢とともに上昇し、60 歳代でほぼ 9 割になる。

サラリーウーマンの企業年金の有無別では、50 歳代前半までは企業年金なしの方が高いがその差は大きなものではない。専業主婦は、50 歳代まではサラリーウーマンより率は高い。また、サラリーマン（男性）と比べても同様の傾向がみられる。

〔図表 9-67〕 自由時間のゆとりがある人の割合

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	75.5	75.8	77.6	74.6	65.2
40-44	76.4	67.8	72.9	81.0	70.7
45-49	82.9	73.9	82.1	86.9	71.8
50-54	86.0	78.4	84.6	89.5	74.2
55-59	85.1	81.7	80.0	88.5	85.2
60-64	90.1	92.3	89.4	89.6	91.4
65-69	93.3	91.5	97.9	92.2	95.4
70-74	91.8	97.7	97.7	87.2	96.1
総計	84.3	81.3	84.3	85.4	80.5

(注) 自由時間が「十分にある」と「まあまあ」と答えた者の比率。

自由時間の使い方（図表 9-68）について⁸は、「パソコン通信やインターネットなど」が群を抜いていたことは、今回の調査がインターネット調査であったことから、そのバイアスが出ている点は前 2 節と同じである。

これを除くと、「庭いじりや家事など家庭内のこと」、「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」、「個人的な友人・仲間とのつきあい」、「家庭との団らんや家庭サービス」、「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒など」、「仲間と趣味・スポーツなど」が比較的多く選ばれた。

サラリーウーマンの中で企業年金の有無で大きな差はみられない。ある程度多く選ばれた項目の中で専業主婦との間で差があったものとしては、専業主婦が「庭いじりや家事など家庭内のこと」を多く選んだのに対し、サラリーウーマンは「仲間と趣味・スポーツなど」、「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒など」、「個人的な友人・仲間とのつきあい」を多く選んでいる。

サラリーマン（男性）との間で特徴的なのは「行楽・ドライブなど」である。男性が多く挙げていたが、専業主婦でこれを挙げるものは少ない。男性だけで行楽やドライブをするケースもあるにせよ、家族で行楽やドライブをする場合も多い。その場合も、行楽・ドライブを男性は自由時間の中に入れてのに対し、専業主婦はそのように受け止めていないということであると思われる。この受け止め方に大きな差があることは興味深い。それ以外では「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒など」、「仲間と趣味・スポーツなど」は男性が多く、「庭いじりや家事など家庭内のこと」や「個人的な友人・仲間とのつきあい」は専業主婦が多く挙げている。

【図表 9-68】自由時間の使い方

事項	総数	単位：%			(参考)男性
		企年あり	企年なし	第3号	
仕事仲間とのプライベートなつきあい	2.3	5.2	2.1	1.2	6.7
仕事に関する勉強や残務整理	3.9	5.5	5.7	2.6	6.8
テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	22.0	25.9	23.9	19.8	29.9
ひとりで趣味・スポーツ・学習など	35.1	33.0	35.6	35.7	35.9
仲間と趣味・スポーツなど	15.0	18.4	16.2	13.2	19.0
パソコン通信やインターネットなど	60.7	54.7	56.3	64.8	59.9
個人的な友人・仲間とのつきあい	30.8	34.0	35.6	27.6	15.1
行楽・ドライブなど	10.6	14.3	13.4	8.1	21.7
庭いじりや家事など家庭内のこと	39.3	32.2	35.1	43.7	19.0
家庭との団らんや家庭サービス	26.5	29.1	23.6	26.6	32.5
近隣の人とのつきあいや地域の用事	6.1	4.5	4.5	7.3	5.6
その他	3.6	2.3	4.8	3.7	2.2
特に何もしない	1.8	0.7	1.2	2.5	1.3

(注) 各回答者が 3 つまでの範囲で、日ごろの自由時間を主に使っていることとして選んだ事項の割合。

⁸ 第 3 号は他の質問のような 1078 件でなくこれに回答した 1053 件の比率

4.6 家族状況

サラリーウーマンの婚姻（図表 9-69）については、現に配偶者ありとする者の比率は全体の約 7 割で年齢によって大きな変動がないようにみられる。しかし、前節で見たとおり、未婚の割合は年齢とともに低下し、代わって離別や死別が多くなる。

専業主婦は定義上全員の配偶者である。

〔図表 9-69〕 回答者の有配偶の状況

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	84.2	72.7	53.7	100.0	78.1
40-44	85.9	72.2	62.7	100.0	75.4
45-49	86.7	71.2	69.6	100.0	79.1
50-54	86.9	68.6	71.2	100.0	83.4
55-59	87.5	70.6	72.7	100.0	87.9
60-64	91.3	78.0	83.0	100.0	86.4
65-69	86.4	69.1	70.8	100.0	90.9
70-74	84.2	62.8	65.9	100.0	95.4
総計	86.5	70.8	68.0	100.0	84.1

(注) 各年齢階級ごとに、「既婚（配偶者あり）」と回答した者の構成割合である。

サラリーウーマンと専業主婦について同居家族の状況（図表 9-70、9-71）を見ると、サラリーウーマンでは、「未婚の子と同居」が 50 歳代前半までは半数近くになるが、50 歳代後半からかなり減少し、60 歳代後半でさらに減少する。代わって、「夫婦だけ」が大きく増加する。「親と同居」は 60 歳代後半からかなり減少する。

専業主婦世帯では「未婚の子と同居」の割合がサラリーウーマンの場合よりさらに高いが、年齢別の傾向はほぼ同様である。

〔図表 9-70〕 サラリーウーマンの同居家族の状況

単位：%

年齢	ひとり暮らし	夫婦だけ	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	13.6	17.6	44.7	1.5	11.6	11.1
40-44	14.9	16.7	48.9	0.6	11.5	7.5
45-49	17.4	19.2	44.9	0.6	11.4	6.6
50-54	13.6	18.2	45.5	0.0	14.3	8.4
55-59	12.8	31.1	31.7	3.0	11.0	10.4
60-64	6.5	41.3	31.2	2.9	10.9	7.2
65-69	16.2	40.1	28.9	2.8	4.2	7.7
70-74	20.8	46.2	19.2	7.7	0.8	5.4
総計	14.4	27.5	37.9	2.2	9.8	8.2

(注 1) 各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

(注 2) 「子夫婦と同居」は他に孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」は他に子や孫がいる場合を含む。

〔図表 9-71〕 専業主婦の同居家族の状況

単位：%

年齢	夫婦だけ	未婚の子と同居	子夫婦と同居	親と同居	その他
35-39	30.5	61.0	0.6	6.8	1.1
40-44	26.8	63.4	1.3	7.2	1.3
45-49	32.8	52.6	0.0	13.9	0.7
50-54	33.1	51.1	1.5	12.8	1.5
55-59	31.7	49.6	1.4	13.7	3.6
60-64	53.0	33.0	2.6	11.3	0.0
65-69	58.3	32.2	3.5	5.2	0.9
70-74	60.6	28.4	7.3	0.9	2.8
総計	39.1	48.2	2.0	9.1	1.5

(注1) 各年齢階級ごとに、上記各区分に該当すると回答した者の構成割合である。

(注2) 「子夫婦と同居」は他に孫や未婚の子がいる場合を含み、「親と同居」は他に子や孫がいる場合を含む。

家族の理解・愛情に関する満足度（図表 9-72）は、ほぼ 6 割以上で安定しているといえるが、企業年金なしのサラリーウーマンは 40 歳代後半から 50 歳代にかけて 50%台へと若干落ち込む。

専業主婦の満足度はサラリーウーマンより総じて高く、また、サラリーマン（男性）に比べるとさらに高い。

〔図表 9-72〕 家族の愛情・理解に関する満足度

単位：%

年齢	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
35-39	75.0	67.4	71.6	79.1	59.3
40-44	67.3	68.7	66.1	67.3	57.4
45-49	61.0	62.2	55.4	62.8	53.0
50-54	66.5	64.7	57.7	70.7	56.4
55-59	68.4	66.1	58.2	73.4	63.3
60-64	71.3	61.5	72.3	74.8	63.8
65-69	68.8	67.0	68.8	69.6	74.7
70-74	73.7	75.6	75.0	72.5	78.1
総計	69.0	66.5	65.4	71.4	62.9

(注) 「十分に満たされている」か「まあ満たされている」と答えた者の比率。

配偶者との関係（図表 9-73）については、企業年金の有無、サラリーウーマンか専業主婦かで特に大きな差はみられない。

男女間で最も大きな差があったのは「配偶者にもっと家事をしてほしい」で、男性に比べ女性がこれに肯定的な回答をする比率が高い。

〔図表 9-73〕 配偶者との関係についての受け止め方

単位：％

項目	総数	企年あり	企年なし	第3号	(参考)男性
配偶者は自分のことを応援してくれる	78.7	79.3	79.4	78.4	85.8
自分は配偶者のよき理解者である	76.0	78.0	76.6	75.3	80.3
配偶者と価値観・考え方が似ている	51.6	55.6	48.8	51.2	53.3
配偶者とよく一緒に出かける	64.0	65.9	62.2	64.0	72.7
配偶者と会話がある	73.2	73.6	73.9	72.9	80.4
配偶者は自分を自由にさせてくれる	86.0	85.0	84.5	86.6	84.2
配偶者は自分の親を大切にしてくれない	24.0	27.8	22.3	23.4	26.2
配偶者は金銭的にうるさい	18.5	20.0	18.6	18.1	27.7
配偶者は自分によりかかりすぎる	30.5	31.4	35.4	28.8	25.7
配偶者にもっと家事をしてほしい	40.4	43.0	43.3	39.0	22.4

(注1) 各項目、「まったくそのとおり」か「まあそのとおり」という回答数の全女性回答者数に対する比率。

(注2) ただし、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」だけは、全回答者数から「非該当」とする回答数を控除した数に対する比率。

5 おわりに

PLP セミナーの参加者は、それぞれ個性があり、個人差があるが、セミナーを実施する立場からは、対象者の平均的なプロフィールを把握しておくことは意義のあることと考えられる。そのため、以上では、PLP セミナーの基本的なコンセプトに沿って、健康、経済、生きがい全般、仕事、地域、余暇、家族の7つの切り口から今回の調査データを年齢層別に整理し、それぞれの結果を概観した。

特徴的なことは、各項目の満足度が、概して年齢とともに上昇傾向を示していたことである。収入は60歳代で大きく低下するが、経済的な満足度は上昇している。これは、金融資産額の増加を反映していると考えられる。経済的な条件は、健康と並んで老後生活の安定に不可欠の項目である。たとえ収入額という客観的な数値が低下しても、満足度という主観的な幸福を示す数値が上昇することは、退職後生活の充実を考えるうえで重要な意味合いを持つと考えられる。収入は50歳代が人生で最も高い。退職前にはその水準を前提に将来を考えがちで、不安も強くなる。しかし、退職年齢を迎えるころには、子供も独立し、実際には支出も低下するのである。そして、金融資産額の増加には退職金が寄与していると考えられる。また、退職した人たちは、退職に伴って収入が低下することをあらかじめ認識し、そのための心構えが十分にできていたということも考えられる。

高齢期の収入は年金が中心である。現在の高齢者の受け取る年金額は、まだ現役の若者層と比べると、支払った保険料に比べ相対的に有利である。今後、公的年金の給付水準が徐々に低下していくことを考えると、退職前教育の意義がますます高まってくるといえるであろう。すなわち、あらかじめどの程度の収入や退職金が受けられるか、退職前によく認識しておいてもらうことが今以上により一層必要になると考えられる。

前回までと異なり今回の調査では、企業年金のない人も調査対象としている。企業年金のあるグループとないグループを比べると、各種の満足度や収入額、金融資産額、生きがいに関する各項目で、企業年金があるグループが高い割合を示したものが多かった。企業年金がある人たちが相対的にゆとりある生活を送ることができることを示すものであり、企業年金

の役割が再確認される結果になった。

ただ、両グループ間の差異はさほど大きなものではなく、企業年金がないからといって生きがいのある生活が送れないということでは全くない。退職前から準備することで、退職後に充実した生活を送ることは、十分に可能である。むしろ、このようなグループに対してこそ PLP セミナーの必要性が高いといえることができるであろう。

女性労働者は一般的には低賃金というイメージで受け止められている。女性の場合、第 1 号や第 3 号被保険者が非正規就業に就く割合が高く、それが女性全体の平均収入額を引き下げていると考えられる。今回の調査でも男性の方が女性より平均的な年収額は高かったが、その差はさほどではなかった。第 2 号被保険者だけで比較すると、男性と女性の全体としての給与水準に比べ、大きな差ではなかった。

女性の社会進出に伴って、サラリーウーマンも増加する傾向にある。また、PLP セミナーには夫婦同伴での出席が推奨されている。今後の PLP セミナー充実のために、女性のライフスタイルを把握し、適切にセミナー内容に盛り込んでいくようさらに検討が必要であろう。

今回は年金制度区分でいうと、第 2 号被保険者と第 3 号被保険者が調査対象になっている。これらの者の生活と生きがいに関する基礎的な情報が収集できたことは大きな意義があるが、第 1 号被保険者が残された課題というべきであろう。基礎年金だけでは老後生活を支えるには十分とはいえないが、厚生年金の適用はなくとも、国民年金基金制度など一定の制度的な準備はされている。ただし、強制適用ではなく自らの意思で加入しなければならないので、個人個人の知識や意識がその分さらに重要である。そのことから、高齢期の生活に向けた教育ニーズが最も高い層であるともいえる。第 1 号被保険者はきわめて多様な人々で構成されているので、必ずしも容易な課題ではないが、調査研究も含め、当機構としても対応を検討していく必要があるだろう。

参考文献

- 株式会社社会保険研究所（2011）『年金ライフプランのすすめ』。
- 財団法人シニアプラン開発機構（現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構）（1992）『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- ——（1997）『第 2 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- ——（2002）『第 3 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構。
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2007）『第 4 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総

合研究機構.

- 菅谷和宏 (2012) 『「第 5 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」——アンケート調査 結果概要』『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, 30(4): pp.50-96.
- ——— (2012) 『「40 歳台からのライフプランセミナー」の開発と年金ライフプランセミナー講師育成方法の見直し』『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, 30(4): pp.97-105.

第5回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

～サラリーマンシニアを中心として～

【資料編】

平成 24 (2012) 年 3 月

資料1 「第5回 アンケート調査票」

I. 調査票

第5回「サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査票

(※予備調査票で対象者を抽出し、該当者に対して本調査票にて調査を実施した。)

【予備調査票】

◆対象者を抽出するための調査

SC1. 性別

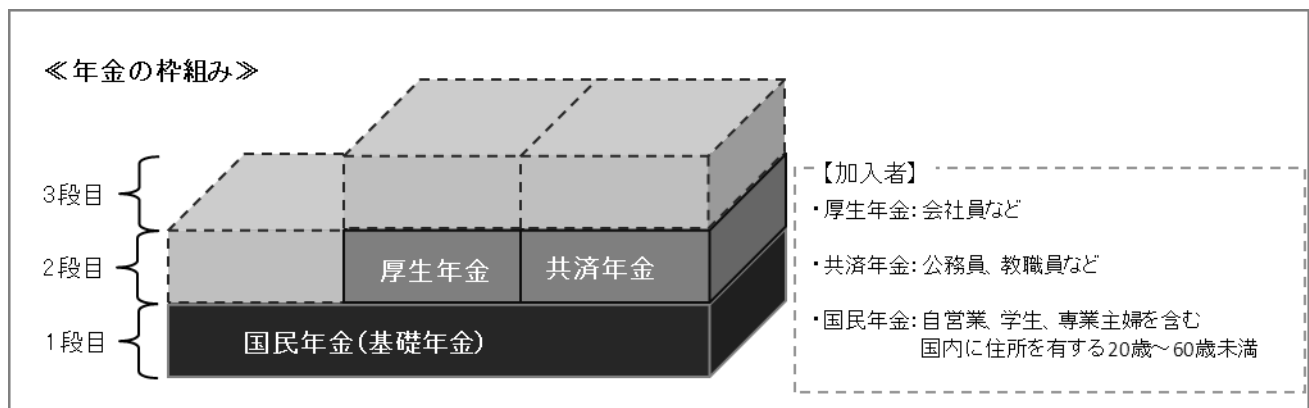
1. 男 2. 女

SC2. 年齢

歳

SC3. あなたは、現在、厚生年金に加入しているか、または厚生年金を受給していますか。

厚生年金とは、日本の民間企業の従業員が加入する公的年金制度で、あなたが日本の民間企業にお勤めで、会社給与明細で厚生年金保険料が控除されていれば、厚生年金に加入していると思われます。

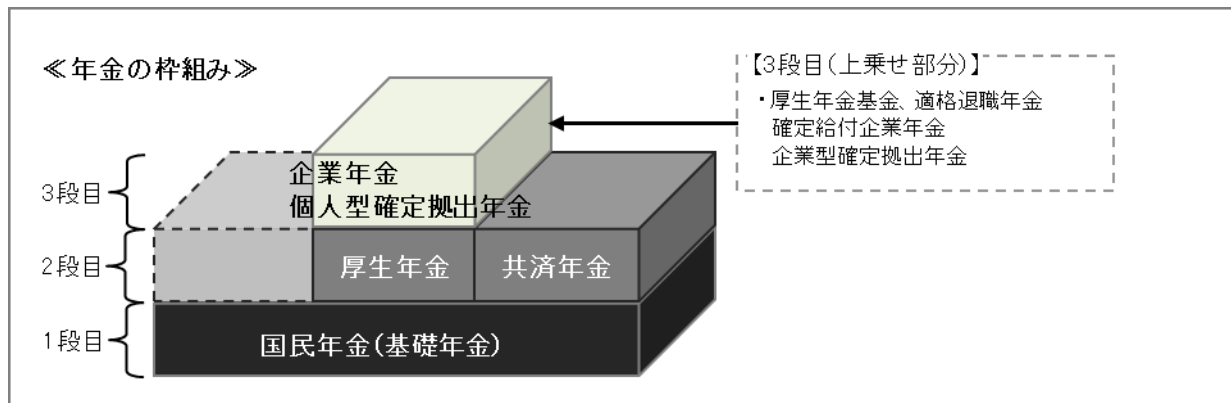


1. 現在、厚生年金に加入している（まだ厚生年金は受給していない）。
2. 現在、厚生年金を受給している。
3. 現在、厚生年金に加入しておらず、かつ厚生年金を受給していない。
4. わからない
5. その他（_____）

(SC3 = 1, 2のみ)

SC4. あなたは、現在、企業年金に加入しているか、または企業年金を受給していますか。

ここで言う企業年金とは、企業がその従業員のために任意で実施する企業年金制度で、具体的には「厚生年金基金、確定給付企業年金、適格退職年金、企業型確定拠出年金」を指します。



1. 現在、企業年金に加入している（まだ企業年金は受給していない）。
2. 現在、企業年金を受給している。
3. 現在、企業年金に加入しておらず、かつ企業年金を受給していない。
4. わからない
5. その他（_____）

(SC3 = 3, 4, 5のみ)

SC5. 現在のあなたの状況として当てはまるものはどれですか。（単一回答）

会社員（公務員）に扶養されている配偶者とは、あなたの配偶者が、現在、サラリーマン等で厚生年金もしくは共済年金（国家公務員共済組合、地方公務員等共済組合、私立学校教職員共済）に加入しており、かつあなたが配偶者に扶養されている（具体的には、専業主婦もしくは専業主夫であるか、あるいは働いている場合であっても、あなたご自身の年収が130万円未満である）場合で、あなたが国民年金の第3号被保険者の場合を指します。

1. 現在、会社員（公務員）に扶養されている配偶者（国民年金の第3号被保険者）である。
2. その他（_____）

【本調査の対象条件】

予備調査 SC2 : 年齢 = 35歳以上74歳以下

AND

予備調査 SC3 = 1または2 AND SC4 = 1, 2, 3

OR

予備調査 SC3 = 3, 4, 5 AND SC5 = 1

【本調査票】

第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

平成23年10月
財団法人年金シニアプラン総合研究機構

調査の主旨

- 本調査は「財団法人 年金シニアプラン総合研究機構」が行うものです。当財団では、豊かな人生経験を持ち、心身とも活力あふれる企業退職者を“シニア”と位置づけ、こうした方々が定年退職後も充実した生活を送るために必要なさまざまな社会システム“シニアプラン”を社会に提示しています。この事業の一環として、「サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査研究を実施しており、本調査は、サラリーマンの方及びサラリーマンだった方々を対象に、生活と生きがいに関する調査を目的としております。
- 本調査は平成3年から5年毎に実施しているものであり、今回は第5回目となります。

■ あなた自身とあなたのご家族についておうかがいします。

問1. あなたはご結婚されていますか。

1. 未婚 2. 既婚（配偶者あり） 3. 既婚（離別） 4. 既婚（死別）

問2. 現在、ごいっしょにお住まいの方はどなたですか。（○は1つ）

1. ひとり暮らし
2. 自分たち夫婦だけ
3. 自分たち夫婦（または自分）と未婚の子
4. 自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦（ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む）
5. 自分たち夫婦（または自分）と親（ほかに子や孫がいる場合を含む）
6. その他（具体的に _____)

問3. 現在、お子さまはいらっしゃいますか。

1. 子どもがいる

2. 子どもはいない

問4へお進み下さい

〔問3 = 1のみ〕

(1) お子さまの人数

人

〔問3 = 1のみ、(1)の人数により回答欄に人数分を表示〕

(2) お子さまの年齢は何歳ですか。

	性別	年齢
第1子	1. 男 2. 女	
第2子	1. 男 2. 女	
～		

〔問3 = 1のみ、(2)で18歳以上の人数分のみ表示〕

(3) 18歳以上のお子さまについておうかがいします。

	同居状況	就業状況	結婚状況
第1子	1. 同居 2. 非同居	1. 正社員 2. 契約社員、派遣社員、 パート、アルバイト 3. 未就業(学生除く) 4. 学生	1. 既婚 2. 未婚
第2子	1. 同居 2. 非同居	1. 正社員 2. 契約社員、派遣社員、 パート、アルバイト 3. 未就業(学生除く) 4. 学生	1. 既婚 2. 未婚
～			

問4. 現在のあなたのお住まいはどこですか。

都道府県

問5. 現在お住まいの地域(市区町村)に住んで何年になりますか。単身赴任等で一時離れた場合も、家族が継続して住んでいた期間は年数に含めてください。(○は1つ)

1. 5年未満	3. 10年以上～20年未満	5. 30年以上
2. 5年以上～10年未満	4. 20年以上～30年未満	

問6. 現在お住まいの住居は、次のどれですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)	4. 公社・公団・公営の賃貸住宅
2. 持ち家(分譲マンション等)	5. 民間の借家・マンション・アパート
3. 社宅・会社の寮	6. その他(具体的に_____)

問7. あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

1. 小学校・高等小学校・新制中学校	4. 大学・大学院
2. 旧制中学校・旧制高等女学校・ 旧制実業学校・新制高等学校	5. 専門学校・専修学校
3. 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	6. その他(_____)

■ ふだんのお仕事と生活についておうかがいします。

問8. あなたの現在の就業状況・形態は、次のどれですか。(○は1つ)

1. 正社員	5. 自営業・自由業・家族従業員
2. 契約社員・嘱託	6. 内職
3. 派遣社員	7. シルバー人材センター(高齢者事業団)
4. パート・アルバイト	8. 無職
	↳ (最後に職を離れてから_____年)

※8(無職)を選択した方は問11へお進みください

問9. [現在、職業についている方のみ] (問8 = 1~7のみ)

(1) あなたの現在のお仕事の業種は次のどれですか。(○は1つ)

1. 水産・農林	11. 輸送用機器、精密機器、その他製品
2. 鉱業	12. 卸売業、小売業
3. 建設	13. 銀行、証券、保険、その他金融
4. 食料品	14. 不動産
5. 繊維製品、パルプ・紙	15. 運輸 (陸運、海運、空運)、倉庫
6. 化学、医薬品	16. 通信
7. 石油・石炭	17. 電気・ガス
8. ゴム製品、ガラス・土石製品	18. サービス
9. 鉄鋼、非鉄金属、金属製品	19. 公官庁
10. 機械、電気機器	20. その他

(2) あなたの現在の職種は次のどれですか。(○は1つ)

1. 専門技術職 (研究職・技師等)	5. 技能職
2. 管理職 (役員・課長以上の管理職)	6. サービス職 (添乗員・ホテルマン等)
3. 事務職 (一般事務・営業・経理事務等)	7. その他 (_____)
4. 販売職 (店員・セールス等)	

(3) 勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。(支店や営業所がある場合は合計した人でお答えください) (○は1つ)

1. 1~29人	2. 30~99人	3. 100~299人	4. 300~999人
5. 1000人以上	6. わからない		

(4) あなたの1週間の勤務日数は何日ですか

(週によって異なる場合は平均を四捨五入してください) 日

(5) あなたの1日の勤務時間 (残業時間含む) 時間
(日によって異なる場合は平均を四捨五入してください)

[現在、職業についている方のみ] (問8 = 1~7のみ)

問10. 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。(1)~(8)のそれぞれについてお答えください。(1)から(8)まで、○はそれぞれ1つずつ)

とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
---------------	--------------	---------------	-------------	--------------

(1) 仕事の内容	1	2	3	4	5
(2) 就業形態	1	2	3	4	5
(3) 職場での地位の高さ	1	2	3	4	5
(4) 賃金	1	2	3	4	5
(5) 業績評価の公平さ	1	2	3	4	5
(6) 福利厚生	1	2	3	4	5
(7) 職場の人間関係・雰囲気	1	2	3	4	5
(8) 全体として	1	2	3	4	5

問 11. 自由時間についておうかがいします。

(1) あなたが日頃、自由に使える時間は十分だと思いますか。(○は1つ)

1. 十分にある	2. まあまあ	3. 不十分である	4. まったくない
----------	---------	-----------	-----------

→ 問 12 へお進みください

[(1) = 1 ~ 3 のみ]

(2) 日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。(○は3つまで)

<p>1. 仕事仲間とのプライベートなつきあい</p> <p>2. 仕事に関する勉強や残務整理</p> <p>3. テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など</p> <p>4. ひとりで趣味・スポーツ・学習など</p> <p>5. 仲間と趣味・スポーツなど</p> <p>6. パソコン通信やインターネットなど</p> <p>7. 個人的な友人・仲間とのつきあい</p>	<p>8. 行楽・ドライブなど</p> <p>9. 庭いじりや家事など家庭内のこと</p> <p>10. 家庭との団らんや家庭サービス</p> <p>11. 近隣の人とのつきあいや地域の用事</p> <p>12. その他 (_____)</p> <p>13. 特に何もしない</p>
---	---

問 12. あなたは、地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。(○は1つ)

<p>1. 定期的に参加している</p> <p>2. ときどき参加している</p>	<p>3. 以前に参加したことがある</p> <p>4. 参加していない</p>
---	--

(1) (2) (3) (4) へ	(5) (6) (7) (8) へ
-------------------	-------------------

[(1) ~ (4) は問 12 = 1, 2 のみ]

(1) それは、どのような分野の活動ですか。

	あてはまるもの (○はいくつでも)	左記であてはまると答えた中で最もあてはまるものはどれですか (○はひとつ)
1. 地域の生活環境を守る活動		
2. 地域のイベントや“村おこし”の活動		
3. 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動		
4. 児童や青少年活動の世話役としての活動		
5. 地域の文化財や伝統を守る活動		
6. 消費者活動や生活向上のための活動		
7. 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動		
8. 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動		
9. 自然保護や環境保全の活動		
10. 国際交流に関する活動		
11. その他 (具体的に _____)		

(2) 活動に参加した理由は何ですか。

	あてはまるもの (○は3つまで)	左記であてはまると答えた 中で最もあてはまるものは どれですか (○はひとつ)
1. 地域や社会に貢献したい		
2. 自分の知識や経験を活かしたい		
3. 社会への見聞を広げたい		
4. 友人や仲間を増やしたい		
5. 生活にはりあいを持たせたい		
6. 身近な人に誘われた		
7. 会社の勧めや命令		
8. 社会人として当然と思った		
9. 何となく		
10. その他 (具体的に_____)		

(3) 活動されている中で、あなたが最もやりがいを感じている活動団体はどこですか。(○は1つ)

1. 行政機関 (民生委員など公的委員含む)	7. 民間施設・機関のボランティア団体
2. 社会福祉協議会	8. NPO法人
3. 町内会、自治会	9. 当事者団体
4. 老人クラブ	10. 個人または個人的な集まり
5. 公的施設・機関のボランティア団体	11. その他 (_____)
6. 地域の住民によるボランティア団体	

(4) (3) でお答えになった活動団体を選んだ理由は何ですか。(○は1つ)

1. 活動の運営主体 (運営者や機関)	5. 活動団体内の統制のとれた規律
2. 活動の内容	6. 活動団体内の対等な人間関係
3. 活動団体の歴史 (存続年数)	7. 自宅と活動地域との距離
4. 活動団体の評判	8. その他 (具体的に_____)

[(5) (6) は問 12=3, 4のみ]

(5) 現在参加していない理由は何ですか。

	あてはまるもの (○は3つまで)	左記であてはまると答えた 中で最もあてはまるものは どれですか (○はひとつ)
1. 時間がない		
2. 経済的余裕がない		
3. 精神的なゆとりがない		
4. 健康や体力に自信がない		
5. 家族など周囲の理解や協力が得られない		
6. 自分にあった活動の場がない		
7. 一緒にやる仲間がいない		
8. 何から始めるか、きっかけがつかめない		
9. 興味がない、関心がない		
10. その他 (具体的に_____)		

(6) 今後参加したいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 積極的に参加したい | 3. 参加するつもりはない |
| 2. 条件によっては参加してもよい | 4. わからない |

[(7)(8)は(6)=1, 2のみ]

(7) 今後、地域活動やボランティア活動をされるとしたら、あなたが最も関心を持っている活動団体はどこですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 行政機関 (民生委員など公的委員含む) | 7. 民間施設・機関のボランティア団体 |
| 2. 社会福祉協議会 | 8. NPO法人 |
| 3. 町内会、自治会 | 9. 当事者団体 |
| 4. 老人クラブ | 10. 個人または個人的な集まり |
| 5. 公的施設・機関のボランティア団体 | 11. その他 (_____) |
| 6. 地域の住民によるボランティア団体 | |

(8) (7) でお答えになった活動団体を選ぶ理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 活動の運営主体 (運営者や機関) | 5. 活動団体内の統制のとれた規律 |
| 2. 活動の内容 | 6. 活動団体内の対等な人間関係 |
| 3. 活動団体の歴史 (存続年数) | 7. 自宅と活動地域との距離 |
| 4. 活動団体の評判 | 8. その他 (具体的に_____) |

問 13. 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。(1) ~ (13) のそれぞれについてお答えください。(1)から(12)まで、○はそれぞれ1つずつ)



- | | | | | | |
|----------------|---|---|---|---|---|
| (1) 健康 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 時間的ゆとり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) 経済的ゆとり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (4) 精神的ゆとり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (5) 家族の理解・愛情 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (6) 友人・仲間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (7) 熱中できる趣味 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (8) 仕事のはりあい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (9) 社会的地位 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (10) 自然とのふれあい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (11) 近隣との交流 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (12) 社会の役に立つこと | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (13) 住まいのこと | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 14. 以下の(1)～(13)は、あなたにどの程度あてはまりますか。(1)～(13)のそれぞれについてお答えください。(1)から(13)まで、○はそれぞれ1つずつ)

よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
---------	---------	------------	-------------

- | | | | | |
|--------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| (1) 人との関係やつながりを大切にする…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (2) 自分の世界や個性を大切にする…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (3) いつも目標に向かってつき進む…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (4) 無理をせずマイペースで進む…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (5) 他人にはない自分なりの価値観を持っている…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (6) 自分には他人にない優れたところがある…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (8) 一つのことにじっくり取り組む…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (9) 指導者的立場に立とうとする…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (11) いろいろな人の話や意見をよく聞く…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (12) 上下の立場や関係を尊重する…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |
| (13) どんなところでも結構楽しみを見出す…………… | 1…………… | 2…………… | 3…………… | 4…………… |

■ あなたの生きがいについておうかがいします。

問 15.

(1) よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。(○は2つまで)

1. 生活の活力やはりあい	6. 生きる目標や目的
2. 生活のリズムやメリハリ	7. 自分自身の向上
3. 心の安らぎや気晴らし	8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる
4. 生きる喜びや満足感	9. 他人や社会の役に立っていると感じる
5. 人生観や価値観の形成	10. その他(具体的に_____)

(2) そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。(○は1つ)

1. 持っている	3. 持っていない
2. 前は持っていたが、今は持っていない	4. わからない

問 16. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

1. 仕事	8. 子ども・孫・親などの家族・家庭
2. 趣味	9. 友人など家族以外の人との交流
3. スポーツ	10. 自分自身の健康づくり
4. 学習活動	11. ひとりで気ままに過ごすこと
5. 社会活動(ボランティア含む)	12. 自分自身の内面の充実
6. 自然とのふれあい	13. その他(具体的に_____)
7. 配偶者・結婚生活	

問 17. 生きがいに関連する (1) ~ (9) について、それらは家庭や仕事・会社などのどこで得られるか、あてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

((1)から(9)まで、○はそれぞれ2つまで)

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	1	2	3	4	5	6	7
(2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか	1	2	3	4	5	6	7
(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	1	2	3	4	5	6	7
(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を感じる人が多いですか	1	2	3	4	5	6	7
(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	1	2	3	4	5	6	7
(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	1	2	3	4	5	6	7
(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	1	2	3	4	5	6	7
(8) 自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	1	2	3	4	5	6	7
(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	1	2	3	4	5	6	7

■ 配偶者との関係についておうかがいします。

[現在、配偶者がいる方のみ] (問1=2のみ)

問 18. 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1) ~ (10) のそれぞれについてお答えください。(1)から(10)まで、○はそれぞれ1つつつ)

	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	非該当
(1) 配偶者は自分のことを応援してくれる	1	2	3	4	
(2) 自分は配偶者の良き理解者である	1	2	3	4	
(3) 配偶者と価値観・考え方が似ている	1	2	3	4	
(4) 配偶者とよく一緒に出かける	1	2	3	4	
(5) 配偶者と会話がある	1	2	3	4	
(6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる	1	2	3	4	
(7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない	1	2	3	4	5
(8) 配偶者は金銭的にうるさい	1	2	3	4	
(9) 配偶者は自分によりかかりすぎる	1	2	3	4	
(10) 配偶者にもっと家事をして欲しい	1	2	3	4	

〔問 19～問 22 は第 2 号被保険者のみに表示、第 3 号被保険者には表示せず〕

■ お仕事とお仕事からの引退についておうかがいします。

問 19. あなたは定年を経験しましたか。定年は何才ですか。

(定年を 2 回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください。また、ご自分の意思で転職され、まだ定年前の方は 1 を選択して下さい、定年がない場合で退職前の方は 1 を選択して、ご自分で退職すると思われる年齢を記入してください)

1. まだ定年前	→	定年は () 才	→	問 20 へお進みください
2. まだ定年前	→	定年はない	→	
3. 定年前に退職した	→	退職は () 才のとき	} →	問 21 へお進みください
4. 定年退職した	→	定年は () 才のとき		

〔定年前の方のみ〕 (問 19= 1 のみ)

問 20. 定年後の生活についておうかがいします。

(1) 定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。(○は 3 つまで)

1. 公的年金	6. 就労による収入
2. 企業年金	7. 子ども等からの経済的支援
3. 退職金	8. その他 ()
4. 生命保険の保険金や個人年金	9. わからない・考えたことがない
5. 預貯金の取りくずし	

(2) 今の会社に定年まで勤めたいと思いますか。

1. 定年まで勤めたい
2. 定年前に退職したい → (あと _____ 年くらいで)

(3) 定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(○は 1 つだけ)

1. 退職とともに職業生活から引退したい
2. できれば仕事を継続したい ↳ (a. 満額年金受給時まで、b. 元気なうちはいつまでも、c. () 歳まで)
3. 定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい
4. 退職後は別の企業に再就職したい
5. 退職後は自分で事業や商売を始めたい (自由業を含む)
6. 退職後は家業を手伝いたい
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい
8. その他 ()
9. わからない・考えたことがない

(4) 過去 5 年間に、次のような出来事がありましたか。(○はいくつでも)

1. 子どもや孫の誕生	10. 昇進・昇格
2. 子どもの成人・就職	11. 出向・転籍
3. 子どもや孫との別居	12. 中途退職・失業 (解雇)
4. 子どもの結婚	13. 災害等による資産の減少・経済的困難
5. 自分自身の入院	14. 自宅の購入・建て替え
6. 配偶者の入院	15. 親の介護
7. その他の家族の入院	16. 親との新たな同居
8. 配偶者の死	17. いずれもない
9. その他の家族の死	18. その他 (具体的に _____)

[定年退職または定年前の退職を経験した人のみ] (問 19= 2, 3のみ)

問 21. 定年後、退職後の生活についておうかがいします。

(1) 定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 専門技術職 (研究職・技師等) | 5. 技能職 |
| 2. 管理職 (役員・課長以上の管理職) | 6. サービス職 (添乗員・ホテルマン等) |
| 3. 事務職 (一般事務・営業・経理事務等) | 7. その他 (_____) |
| 4. 販売職 (店員・セールス等) | |

(2) 定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか。

(支店や営業所を含む合計)

- | | | | | |
|----------|-----------|-------------|-------------|------------|
| 1. 1～29人 | 2. 30～99人 | 3. 100～299人 | 4. 300～999人 | 5. 1000人以上 |
| 6. わからない | | | | |

(3) 定年後・退職後に仕事につきましたか。(○は1つだけ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 退職とともに職業生活から引退した |
| 2. 退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた |
| 3. 退職後は出向先に移籍した |
| 4. 退職後は別の企業に再就職した |
| 5. 退職後は自分で事業や商売を始めた (自由業を含む) |
| 6. 退職後は家業を手伝うようになった |
| 7. 退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった |
| 8. その他 (_____) |

(4) 定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に苦しくなった | 10. 生活のほりや生きがいがなくなった |
| 2. 住宅問題で困った | 11. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした |
| 3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた | 12. 今までの人的交流や情報量が減って困った |
| 4. 配偶者や親の介護が必要になった | 13. 世の中の情報化の進展についていけず困った |
| 5. 配偶者に先立たれた | 14. 社会から取り残されてしまった |
| 6. その他の家族の入院や死 | 15. 時間をもてあました |
| 7. 再就職のことで困った | 16. 地域社会にとけこめなかった |
| 8. 家族との人間関係が悪くなった | 17. その他 (具体的に _____) |
| 9. 親との新たな同居 | 18. 特に問題はなかった |

問 22. 定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1) 個人としては、定年前にどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

また、実際にあなた自身が準備したり心がけたりしている(した)ことはありますか。

〔定年前の方〕は、あなた自身が現在準備したり心がけていることをお答えください。

〔定年後・退職後の方〕は、あなた自身が定年前・退職前に準備したり心がけていたことをお答えください。

(問 19= 1 は A と B を表示、問 19= 2 または 3 は A と C を表示)

	A [全員] 定年退職に向けて、 定年前にどのような ことが必要だと思 いますか。(○は 3つまで)	B [定年前の方のみ] 定年退職に向けて、あ なた自身が現在準備 したり心がけている ことは何ですか。(○ はいくつでも)	C [定年後・退職 後の方のみ] あなた自身が定年 前・退職前に実際 に準備したり心が けたこと(○はい くつでも)
1. 健康の維持・増進を心がける			
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる			
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ			
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける			
5. 夫婦・家族の関係を大切にす る			
6. 友人や仲間との交流を深める			
7. 近隣や地域の人との交流を深 める			
8. 会社以外の活動の場をつくっ ておく			
9. その他 (具体的に_____)			
10. 特に何も必要ない			

(2) 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 退職準備教育や退職相談を充実させる
2. 企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる
3. 労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる
4. 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる
5. 希望者には定年年齢を延長させる
6. 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する
7. ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける
8. 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける
9. 退職に向けたセミナーの充実
10. その他(具体的に_____)
11. 特に何も必要ない

(3) 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる
2. 定年退職者の能力を活かす場を増やす
3. サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる
4. 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する
5. 中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける
6. 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる
7. その他(具体的に_____)
8. 特に何も必要ない

[問 19-b～問 21-b、問 23-b は第3号被保険者のみに表示]

問 19-b. あなたの配偶者は定年を経験しましたか。

(配偶者をご自分の意思で転職されて、転職先の会社でまだ定年前の方は1を選択して下さい)

- | | | |
|-------------|---------|------------------------|
| 1. まだ定年前 | _____ → | <u>問 20-b へお進みください</u> |
| 2. 定年前に退職した | _____ → | <u>問 21-b へお進みください</u> |
| 3. 定年退職した | _____ → | |

[配偶者が定年前の方のみ] (問 19-b=1のみ)

問 20-b. 配偶者が定年前の方にお伺いします。

(1) 配偶者の方の定年前に、定年後をどう過ごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)について、ご夫婦で話し合ったことがありますか。

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. まったくない |
|---------|----------|-----------|

(2) あなたから見て、配偶者の方に、あるいはご家庭で、過去5年間に、次のような出来事がありましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1. 子どもや孫の誕生 | 10. 昇進・昇格 |
| 2. 子どもの成人・就職 | 11. 出向・転籍 |
| 3. 子どもや孫との別居 | 12. 中途退職・失業(解雇) |
| 4. 子どもの結婚 | 13. 災害等による資産の減少・経済的困難 |
| 5. 自分自身の入院 | 14. 自宅の購入・建て替え |
| 6. 配偶者の入院 | 15. 親の介護 |
| 7. その他の家族の入院 | 16. 親との新たな同居 |
| 8. 配偶者の死 | 17. いずれもない |
| 9. その他の家族の死 | 18. その他(具体的に_____) |

〔配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した人のみ〕（問 19-b=2, 3のみ）

問 21-b. 配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方にお伺いします。

（1）配偶者の方の退職前に、退職後をどうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合ったことがありましたか。

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| 1. よくあった | 2. たまにあった | 3. まったくなかった |
|----------|-----------|-------------|

（2）あなたから見て、配偶者の方に、あるいはご家庭で、退職から今までに、次のようなことがありましたか。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に苦しくなった | 10. 生活のほりや生きがいがなくなった |
| 2. 住宅問題で困った | 11. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした |
| 3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた | 12. 今までの人的交流や情報量が減って困った |
| 4. 配偶者や親の介護が必要になった | 13. 世の中の情報化の進展についていけず困った |
| 5. 配偶者に先立たれた | 14. 社会から取り残されてしまった |
| 6. その他の家族の入院や死 | 15. 時間をもてあました |
| 7. 再就職のことで困った | 16. 地域社会にとけこめなかった |
| 8. 家族との人間関係が悪くなった | 17. その他（_____） |
| 9. 親との新たな同居 | 18. 特に問題はなかった |

問 23. 将来のお住まいはどのようにする予定ですか。（○は1つ）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 自分または配偶者の持ち家に住む |
| 2. 親・親類から家を譲り受ける |
| 3. 賃貸住宅に住む |
| 4. 自立型住居（有料老人ホーム、有料介護施設など）に住む |
| 5. その他（具体的に_____） |

■ あなたの世帯の資産状況についておうかがいします。

問 24. 現在、住宅ローンを支払っていますか。（○は1つ）

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 支払っている（残りはあと_____年） | 2. 支払っていない |
|------------------------|------------|

（問 24= 1のみ）

問 25. 現在の住宅ローン残高はおよそいくらですか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 100万円未満 | 5. 2000万円以上～5000万円未満 |
| 2. 100万円以上～500万円未満 | 6. 5000万円以上～1億円未満 |
| 3. 500万円以上～1000万円未満 | 7. 1億円以上 |
| 4. 1000万円以上～2000万円未満 | 8. わからない |

問 26. 昨年1年間のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）の年収はいくらですか。

（年金や副業での収入等も含めて、税込金額でお答えください）（○は1つ）

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 200万円未満 | 6. 600万円以上～800万円未満 |
| 2. 200万円以上～300万円未満 | 7. 800万円以上～1000万円未満 |
| 3. 300万円以上～400万円未満 | 8. 1000万円以上～1500万円未満 |
| 4. 400万円以上～500万円未満 | 9. 1500万円以上 |
| 5. 500万円以上～600万円未満 | 10. わからない |

問 27. 現在のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部でおよそいくらですか。（不動産は除いてお答えください）（○は1つ）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. なし | 6. 2000万円以上～5000万円未満 |
| 2. 100万円未満 | 7. 5000万円以上～1億円未満 |
| 3. 100万円以上～500万円未満 | 8. 1億円以上 |
| 4. 500万円以上～1000万円未満 | 9. わからない |
| 5. 1000万円以上～2000万円未満 | |

〔第2号被保険者で現在、年金を受給されている方のみ〕（SC3=2のみ）

問 28. 現在のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）の収入について、その収入の構成割合はそれぞれ何割くらいですか。次の（1）～（6）の合計が10割となるようにお答えください。

現在のあなたの世帯の収入	構成割合	
（1）公的年金		割
（2）企業年金		割
（3）個人年金		割
（4）給与		割
（5）不動産収入・利息・配当金		割
（6）その他の収入		割
合 計	10	割

（1）～（6）の合計が10になるようチェック

■ 現在のあなたの暮らしと将来の暮らし方についておうかがいします。

問 29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか。（○は1つ）

- | | | | | |
|----------|---------|-------|----------|-----------|
| 1. とても楽だ | 2. 少し楽だ | 3. 普通 | 4. 少し苦しい | 5. とても苦しい |
|----------|---------|-------|----------|-----------|

問 30. あなたは5年前（平成18年）と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか。（○は1つ）

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 以前よりとても楽になった | 2. 以前より少し楽になった | 3. 変わらない |
| 4. 以前より少し苦しくなった | 5. 以前よりとても苦しくなった | |

問 31. あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。次の（1）～（4）について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

- | | | | | |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|
| 大変不安である | 少し不安である | あまり不安はない | まったく不安はない | 該当する人はいない |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|

- | | | | | | |
|--------------|---|---|---|---|---|
| （1）ご自分の両親の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| （2）配偶者の両親の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| （3）ご自分の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | — |
| （4）配偶者の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 32. あなたはご自分の介護を誰にしてもらいたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 配偶者 | 5. 介護施設に入る |
| 2. 自分の子ども | 6. まだ考えていない |
| 3. 自分の兄弟姉妹 | 7. その他(具体的に_____) |
| 4. 介護サービスによる在宅介護 | |

■ ライフプランセミナーについておうかがいします。

[問 33～問 36 は第2号被保険者かつ定年前の方のみ](問 19=1, 2, 3のみ)

問 33. あなたは「ライフプランセミナー」という言葉をご存じですか。(○は1つ)

ここで言う「ライフプランセミナー」とは、定年退職後に充実した生活を送れるよう、退職後の生活設計(ライフプラン)についての準備を退職前から行うことを目的としたセミナーであり、主に「家計経済(年金や医療保険の仕組み)」「健康」「生きがい」などについて学んだり、自分で退職後の家計プランを作成したりするセミナーです。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 知っており受講したことがある | 2. 知ってはいるが受講したことはない |
| 3. 知らない | |

(問 33=1のみ)

問 34. あなたは「ライフプランセミナー」をどこで受講しましたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. 勤めている会社 | 2. 金融機関 |
| 3. 役所等の公的機関 | 4. その他(具体的に_____) |

(問 33=1のみ)

問 35. あなたは「ライフプランセミナー」を受講してよかったと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 自分の退職後のライフプランのイメージを考えるきっかけとなりよかった。 |
| 2. 自分の退職後の家計プランを作成することができてよかった。 |
| 3. 今まで知らなかった退職後の年金などについての知識を知ることができてよかった。 |
| 4. あまり役にたたなかった。 |
| 5. ほとんど役にたたなかった。 |
| 6. その他(具体的に_____) |

(問 33=2, 3のみ)

問 36. あなたは「ライフプランセミナー」を受講してみたいと思いますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 無料であれば受けてみたい |
| 2. 有料(1日コースで8千円程度)でも受けてみたい |
| 3. 有料(1泊2日コース宿泊料込みで3万円程度)でもじっくりと受講してみたい |
| 4. 受けてみたいとは思わない |
| 5. その他(具体的に_____) |

※ご協力ありがとうございました。

以上

資料 2 「第 1 回～第 5 回調査の単純集計結果比較表」

(1) 本人調査結果 (企業年金あり)

(第 1 回～第 5 回調査結果)

(2) 本人調査結果 (企業年金なし)

(第 5 回調査結果のみ)

(3) 配偶者調査結果

(第 1 回～第 5 回調査結果)

Ⅱ. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

(1) 本人調査結果(企業年金あり)

【本人調査】 SC1. 性別

	総数	男	女	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,853	840	0
(%)	100	68.8	31.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,482	496	14
(%)	100	74.4	24.9	0.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,372	776	41
(%)	100	74.4	24.3	1.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,296	547	66
(%)	100	78.9	18.8	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,440	578	33
(%)	100	80.0	18.9	1.1

(注: 第5回は企業年金ありの35～74歳の男女2,693人の集計結果)

【本人調査】 SC2. 年齢

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	0	423	360	329	307	351	317	328	278	0	0	53.3
(%)	100	0.0	15.7	13.4	12.2	11.4	13.0	11.8	12.2	10.3	0.0	0.0	53.3
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	0	252	219	243	235	345	218	285	143	0	52	54.0
(%)	100	0.0	12.7	11.0	12.2	11.8	17.3	10.9	14.3	7.2	0.0	2.6	54.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	0	341	331	358	419	448	407	556	248	0	81	54.9
(%)	100	0.0	10.7	10.4	11.2	13.1	14.0	12.8	17.4	7.8	0.0	2.5	54.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	0	262	336	348	314	405	399	521	214	0	110	55.2
(%)	100	0.0	9.0	11.6	12.0	10.8	13.9	13.7	17.9	7.4	0.0	3.8	55.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	0	265	426	362	360	425	439	472	230	0	72	54.6
(%)	100	0.0	8.7	14.0	11.9	11.8	13.9	14.4	15.5	7.5	0.0	2.4	54.6

【本人調査】 Q1. 婚姻状況

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	279	2,188	159	67	0
(%)	100	10.4	81.2	5.9	2.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	267	1,576	57	74	18
(%)	100	13.4	79.1	2.9	3.7	0.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	370	2,597	70	105	47
(%)	100	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	248	2,477	43	99	42
(%)	100	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	176	2,737	41	65	32
(%)	100	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0

【本人調査】 Q2. 世帯構成

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分と未婚の子)	自分たち夫婦(または自分と子ども夫婦)	自分たち夫婦(または自分と親)	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	285	814	1,131	46	297	120	0
(%)	100	10.6	30.2	42.0	1.7	11.0	4.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	194	525	762	74	384	30	23
(%)	100	9.7	26.4	38.3	3.7	19.3	1.5	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	281	759	1,226	143	564	72	144
(%)	100	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	191	701	1,136	148	461	171	101
(%)	100	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	174	780	1,282	194	411	84	126
(%)	100	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

【本人調査】 Q3. 子供の有無

	総数	子どもがいる	子どもはいない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	2,032	661	0
(%)	100	75.5	24.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,387	365	240
(%)	100	69.6	18.3	12.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	-	-	-
(%)	100	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	-	-	-
(%)	100	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-
(%)	100	-	-	-

【本人調査】 Q3 1.1. 子供の人数

	該当数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答	平均(人)
≪第5回調査(平成23年)≫	2,032	457	1,175	365	33	2	0	0	2.0
(%)	100	22.5	57.8	18.0	1.6	0.1	0.0	0.0	2.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,387	254	848	257	25	3	0	0	2.0
(%)	100	18.3	61.1	18.5	1.8	0.2	0.0	0.0	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q3. 子供の年齢(第一子)

	該当数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	2,032	273	451	456	542	305	5	0	0	25.3
(%)	100	13.4	22.2	22.4	26.7	15.0	0.2	0.0	0.0	25.3
≪第4回調査(平成18年)≫	1,387	160	277	327	434	168	7	0	14	25.7
(%)	100	11.5	20.0	23.6	31.3	12.1	0.5	0.0	1.0	25.7
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q3. 子供の年齢(末子)								
	該当数	0 ~9歳	10 ~19歳	20 ~29歳	30 ~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60歳 以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	2,032	415	443	477	557	138	2	0	0	22.2
(%)	100	20.4	21.8	23.0	23.5	6.8	0.1	0.0	0.0	22.2
《第4回調査(平成18年)》	1,133	183	240	319	325	54	1	0	11	22.9
(%)	100	16.2	21.2	28.2	28.7	4.8	0.1	0.0	1.0	22.9
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (1) 正規従業員のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	419	544	378	53	4	0	1.1	
(%)	100	30.0	38.9	27.0	3.8	0.3	0.0	1.1	
《第4回調査(平成18年)》	955	246	367	295	45	2	0	1.2	
(%)	100	25.8	38.4	30.9	4.7	0.2	0.0	1.2	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (2) 派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	987	336	71	4	0	0	0.4	
(%)	100	70.6	24.0	5.1	0.3	0.0	0.0	0.4	
《第4回調査(平成18年)》	955	771	159	23	2	0	0	0.2	
(%)	100	80.7	16.6	2.4	0.2	0.0	0.0	0.2	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (3) 未就業のお子さまの人数(学生は除く)							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	1,064	286	45	3	0	0	0.3	
(%)	100	76.1	20.5	3.2	0.2	0.0	0.0	0.3	
《第4回調査(平成18年)》	955	837	109	8	0	1	0	0.1	
(%)	100	87.6	11.4	0.8	0.0	0.1	0.0	0.1	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (4) 学生のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	1,076	255	66	1	0	0	0.3	
(%)	100	77.0	18.2	4.7	0.1	0.0	0.0	0.3	
《第4回調査(平成18年)》	955	697	182	64	12	0	0	0.4	
(%)	100	73.0	19.1	6.7	1.3	0.0	0.0	0.4	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の結婚状況 (1) 有配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	663	532	182	21	0	0	0.7	
(%)	100	47.4	38.1	13.0	1.5	0.0	0.0	0.7	
《第4回調査(平成18年)》	855	335	232	247	36	5	0	1.0	
(%)	100	39.2	27.1	28.9	4.2	0.6	0.0	1.0	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の結婚状況 (2) 無配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	1,398	379	407	472	125	14	1	1.3	
(%)	100	27.1	29.1	33.8	8.9	1.0	0.1	1.3	
《第4回調査(平成18年)》	855	360	255	184	53	2	1	1.0	
(%)	100	42.1	29.8	21.5	6.2	0.2	0.1	1.0	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q4. 居住地(都道府県)						
	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	232	1,183	359	576	174	169	0
(%)	100	8.6	43.9	13.3	21.4	6.5	6.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	110	764	302	236	132	208	240
(%)	100	5.5	38.4	15.2	11.8	6.6	10.4	12.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	248	1,322	484	574	236	252	73
(%)	100	7.8	41.5	15.2	18.0	7.4	7.9	2.3
《第2回調査(平成8年)》	2,909	195	796	825	580	221	176	116
(%)	100	6.7	27.4	28.4	19.9	7.6	6.1	4.0
《第1回調査(平成3年)》	3,051	271	1,131	436	589	316	234	74
(%)	100	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

【本人調査】

Q5. 居住年数

	総数	5年未満	5年以上			30年以上	無回答
			10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満		
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	354	344	643	422	930	0
(%)	100	13.1	12.8	23.9	15.7	34.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	177	203	373	309	752	178
(%)	100	8.9	10.2	18.7	15.5	37.8	8.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	328	350	584	675	1,198	54
(%)	100	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	304	244	660	636	968	97
(%)	100	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	347	313	818	548	992	33
(%)	100	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

【本人調査】

Q6. 住居形態

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
(%)	100	59.5	20.9	2.2	3.2	13.7	0.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,237	314	44	46	167	16	168
(%)	100	62.1	15.8	2.2	2.3	8.4	0.8	8.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,125	471	123	113	201	12	144
(%)	100	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,057	338	100	102	187	30	95
(%)	100	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,210	283	140	114	229	27	48
(%)	100	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

【本人調査】

Q7. 最終学歴

	総数	小学校・高等小学校・新制中学校	旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他	無回答
(%)	100	3.7	21.9	11.3	51.2	10.0	1.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	120	608	132	803	149	4	176
(%)	100	6.0	30.5	6.6	40.3	7.5	0.2	8.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	287	1,162	164	1,276	138	10	152
(%)	100	9.0	36.4	5.1	40.0	4.3	0.3	4.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	346	1,193	170	952	103	44	101
(%)	100	11.9	41.0	5.8	32.7	3.5	1.5	3.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	449	1,336	222	843	116	23	62
(%)	100	14.7	43.8	7.3	27.6	3.8	0.8	2.0

【本人調査】

Q8. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族・従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職	その他	無回答
(%)	100	54.3	10.2	5.3	0.4	0.2	29.6	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,407	190	37	1	8	306	13	30
(%)	100	70.6	9.5	1.9	0.1	0.4	15.4	0.7	1.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,917	333	67	6	26	554	4	282
(%)	100	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,853	274	80	13	30	509	55	95
(%)	100	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,047	303	80	8	23	506	-	84
(%)	100	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	-	2.8

【本人調査】

Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)
									* 0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	881	287	312	175	33	74	0	0	8.9
(%)	100	32.6	35.2	19.9	3.7	8.4	0.0	0.0	8.9
≪第4回調査(平成18年)≫	306	105	110	43	8	6	1	33	6.6
(%)	100	34.3	35.9	14.1	2.6	2.0	0.3	10.8	6.6
≪第3回調査(平成13年)≫	554	284	188	45	15	2	1	19	4.8
(%)	100	51.3	33.9	8.1	2.7	0.4	0.2	3.4	4.8
≪第2回調査(平成8年)≫	509	279	130	60	9	2	4	25	4.7
(%)	100	54.8	25.5	11.8	1.8	0.4	0.8	4.9	4.7
≪第1回調査(平成3年)≫	506	207	141	62	10	0	19	67	5.0
(%)	100	40.9	27.9	12.3	2.0	0.0	3.8	13.2	5.0

【本人調査】

Q9.1. 現在の業種

	該当数	水産・農業	鉱業	建設	食料品	繊維製品 パルプ・紙	化学 医薬品	石油 石炭	ゴム製品 ガラス 土石製品	鉄鋼 非鉄金属 金属製品	機械 電気機器	輸送用機器 精密機器 その他製品	卸売業 小売業	銀行・証券 保険 その他金融
														融
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	7	8	155	40	25	75	8	11	53	145	109	167	78
(%)	100	0.4	0.4	8.2	2.1	1.3	4.0	0.4	0.6	2.8	7.6	5.7	8.8	4.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	不動産	運輸	通信	電気 ガス	サービス	公官庁	その他
(%)	3	4.8	3.2	1.3	17.4	2.9	21.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 2. 現在の職種

	該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	308	517	533	95	234	55	155	0	0
(%)	100	16.2	27.3	28.1	5.0	12.3	2.9	8.2	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	94	655	665	44	123	16	48	11	0
(%)	100	5.7	39.6	40.2	2.7	7.4	1.0	2.9	0.7	0.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	149	920	869	62	231	54	21	43	4
(%)	100	6.3	39.1	36.9	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	100	923	747	49	224	36	105	66	55
(%)	100	4.3	40.0	32.4	2.1	9.7	1.6	4.6	2.9	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	119	1,126	700	56	245	35	79	101	0
(%)	100	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1	0.0

【本人調査】

Q9 3. 現在の勤務先の企業規模

	該当数	1~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	383	273	301	300	575	65	0
(%)	100	20.2	14.4	15.9	15.8	30.3	3.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	400	242	246	202	542	24	0
(%)	100	24.2	14.6	14.9	12.2	32.7	1.4	0.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	383	256	232	252	1,161	65	4
(%)	100	16.3	10.9	9.9	10.7	49.3	2.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	342	274	254	250	1,059	71	55
(%)	100	14.8	11.9	11.0	10.8	45.9	3.1	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	395	272	328	316	1,060	90	0
(%)	100	16.1	11.1	13.3	12.8	43.1	3.7	0.0

【本人調査】

Q9 4 1. 現在の1週間の勤務日数

	該当数	1日未満	1~2日未満	2~3日未満	3~4日未満	4~5日未満	5~6日未満	6~7日未満	7日以上	0日	無回答	非該当	平均(日)* 0日含む
《第5回調査(平成23年)》	1,897	0	23	31	68	104	1,406	244	21	-	-	-	4.9
(%)	100	0.0	1.2	1.6	3.6	5.5	74.1	12.9	1.1	-	-	-	4.9
《第4回調査(平成18年)》	1,656	0	7	16	53	32	1,388	137	9	1	13	0	5.0
(%)	100	0.0	0.4	1.0	3.2	1.9	83.8	8.3	0.5	0.1	0.8	0.0	5.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	0	19	36	60	52	1,884	228	20	0	50	4	5.0
(%)	100	0.0	0.8	1.5	2.5	2.2	80.1	9.7	0.8	0.0	2.1	0.2	5.0
《第2回調査(平成8年)》	2,305	1	13	22	44	36	1,787	267	10	1	69	55	5.0
(%)	100	0.0	0.6	1.0	1.9	1.6	77.5	11.6	0.4	0.0	3.0	2.4	5.0
《第1回調査(平成3年)》	2,461	0	20	30	40	38	1,520	687	22	0	104	0	5.2
(%)	100	0.0	0.8	1.2	1.6	1.5	61.8	27.9	0.9	0.0	4.2	0.0	5.2

【本人調査】

Q9 5 1. 現在の1日の勤務時間

	該当数	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6~7時間未満	7~8時間未満	8~9時間未満	9~10時間未満	10~12時間未満	12~15時間未満	15時間以上	0時間
《第5回調査(平成23年)》	1,897	0	15	19	37	45	61	69	139	819	257	334	78	24	0
(%)	100	0.0	0.8	1.0	2.0	2.4	3.2	3.6	7.3	43.2	13.5	17.6	4.1	1.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	0	1	6	11	14	20	27	153	673	301	351	69	10	4
(%)	100	0.0	0.1	0.4	0.7	0.8	1.2	1.6	9.2	40.6	18.2	21.2	4.2	0.6	0.2
《第3回調査(平成13年)》	2,353	0	0	9	19	25	34	53	191	1,328	255	254	112	12	0
(%)	100	0.0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.4	2.3	8.1	56.4	10.8	10.8	4.8	0.5	0.0
《第2回調査(平成8年)》	2,305	1	2	3	15	25	34	48	451	1,141	195	160	65	8	1
(%)	100	0.0	0.1	0.1	0.7	1.1	1.5	2.1	19.6	49.5	8.5	6.9	2.8	0.3	0.0
《第1回調査(平成3年)》	2,461	0	2	5	19	15	28	48	278	1,330	285	208	62	97	1
(%)	100	0.0	0.1	0.2	0.8	0.6	1.1	2.0	11.3	54.0	11.6	8.5	2.5	3.9	0.0

	無回答	非該当	平均(時間)* 0時間含む
《第5回調査(平成23年)》	-	-	8.3
(%)	-	-	8.3
《第4回調査(平成18年)》	16	0	8.6
(%)	1.0	0.0	8.6
《第3回調査(平成13年)》	57	4	8.3
(%)	2.4	0.2	8.3
《第2回調査(平成8年)》	101	55	8.1
(%)	4.4	2.4	8.1
《第1回調査(平成3年)》	83	0	9.4
(%)	3.4	0.0	9.4

【本人調査】

Q10 1. 現在の就業状況についての満足度 (1) 仕事の内容

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	290	800	534	193	80	0	0
(%)	100	15.3	42.2	28.1	10.2	4.2	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	269	819	407	116	29	16	-
(%)	100	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	313	1,152	534	189	57	104	4
(%)	100	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	398	1,098	484	171	50	49	55
(%)	100	17.3	47.6	21.0	7.4	2.2	2.1	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q10 2. 現在の就業状況についての満足度 (2) 就業形態

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	317	856	464	187	73	0	0
(%)	100	16.7	45.1	24.5	9.9	3.8	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	345	790	340	125	39	17	-
(%)	100	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	309	1,083	511	272	62	112	4
(%)	100	13.1	46.0	21.7	11.6	2.6	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	356	1,052	498	240	44	60	55
(%)	100	15.4	45.6	21.6	10.4	1.9	2.6	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.3. 現在の就業状況についての満足度 (3)職場での地位の高さ

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	227	587	741	230	112	0	0
(%)	100	12.0	30.9	39.1	12.1	5.9	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	253	589	572	177	46	19	-
(%)	100	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	232	856	824	236	81	120	4
(%)	100	9.9	36.4	35.0	10.0	3.4	5.1	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	259	833	813	211	60	74	55
(%)	100	11.2	36.1	35.3	9.2	2.6	3.2	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.4. 現在の就業状況についての満足度 (4)賃金

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	140	448	562	493	254	0	0
(%)	100	7.4	23.6	29.6	26.0	13.4	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	153	488	467	403	125	20	-
(%)	100	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	151	730	610	537	207	114	4
(%)	100	6.4	31.0	25.9	22.8	8.8	4.8	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	144	690	653	529	170	64	55
(%)	100	6.2	29.9	28.3	23.0	7.4	2.8	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.5. 現在の就業状況についての満足度 (5)業績評価の公平さ

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	134	429	736	358	230	0	0
(%)	100	7.1	22.6	38.8	19.4	12.1	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	119	434	646	315	114	28	-
(%)	100	7.2	26.2	39.0	19.0	6.9	1.7	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.6. 現在の就業状況についての満足度 (6)福利厚生

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	157	508	691	365	176	0	0
(%)	100	8.3	26.8	36.4	19.2	9.3	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	152	576	558	272	70	28	-
(%)	100	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	153	776	747	405	145	123	4
(%)	100	6.5	33.0	31.7	17.2	6.2	5.2	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	175	737	688	408	163	79	55
(%)	100	7.6	32.0	29.8	17.7	7.1	3.4	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.7. 現在の就業状況についての満足度 (7)職場の人間関係・雰囲気

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	213	695	637	229	123	0	0
(%)	100	11.2	36.6	33.6	12.1	6.5	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	208	707	448	209	66	18	-
(%)	100	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	177	956	705	285	113	113	4
(%)	100	7.5	40.6	30.0	12.1	4.8	4.8	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	244	913	657	272	104	60	55
(%)	100	10.6	39.6	28.5	11.8	4.5	2.6	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.8. 現在の就業状況についての満足度 (8)全体として

	該当数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	無回答	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,897	169	742	626	260	100	0	0
(%)	100	8.9	39.1	33.0	13.7	5.3	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,656	158	767	485	202	29	15	-
(%)	100	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,353	164	1,055	661	297	62	110	4
(%)	100	7.0	44.8	28.1	12.6	2.6	4.7	0.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,305	190	1,089	603	255	57	56	55
(%)	100	8.2	47.2	26.2	11.1	2.5	2.4	2.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q11.1. 自由時間の有無

	総数	十分に ある	まあまあ	不十分 である	まったく ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	969	1,234	445	45	0
(%)	100	36.0	45.8	16.5	1.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	528	958	390	36	80
(%)	100	26.5	48.1	19.6	1.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	626	1,365	1,081	72	45
(%)	100	19.6	42.8	33.9	2.3	1.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	646	1,374	811	46	32
(%)	100	22.2	47.2	27.9	1.6	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	575	1,234	1,053	146	43
(%)	100	18.8	40.4	34.5	4.8	1.4

【本人調査】

Q11.2. 自由時間の過ごし方

	該当数	仕事仲間とのプライベートなつきあい	仕事に関する勉強や残務整理	テレビ・ゴロ寝やパソコン、酒など	ひとりで趣味・スポーツ・学習など	仲間と趣味・スポーツなど	パソコン通信やインターネットなど	個人的な友人・仲間とのつきあい	行楽・ドライブなど	庭いじりや家事など家庭内のこと	家庭との団らんや家庭サービス	近隣の人のつきあいや地域の用事	その他	特に何もしない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,648	192	169	743	943	533	1,533	542	518	617	844	140	61	33	0
(%)	100	7.3	6.4	28.1	35.6	20.1	57.9	20.5	19.6	23.3	31.9	5.3	2.3	1.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,876	168	162	544	531	549	303	524	430	561	716	167	88	14	39
(%)	100	9.0	8.6	29.0	28.3	29.3	16.2	27.9	22.9	29.9	38.2	8.9	4.7	0.7	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,072	302	374	986	874	944	388	811	861	1,106	962	191	105	18	16
(%)	100	9.8	12.2	32.1	28.5	30.7	12.6	26.4	28.0	36.0	31.3	6.2	3.4	0.6	0.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,831	280	317	909	839	829	72	754	827	1,083	936	198	82	17	21
(%)	100	9.9	11.2	32.1	29.6	29.3	2.5	26.6	29.2	38.3	33.1	7.0	2.9	0.6	0.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2,862	535	483	1,239	904	477	-	602	335	961	1,014	190	70	51	15
(%)	100	18.7	16.9	43.3	31.6	16.7	-	21.0	11.7	33.6	35.4	6.6	2.4	1.8	0.5

【本人調査】

Q12. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	250	522	451	1,470	0
(%)	100	9.3	19.4	16.7	54.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	228	287	190	1,165	122
(%)	100	11.4	14.4	9.5	58.5	6.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	395	372	311	1,789	322
(%)	100	12.4	11.7	9.8	56.1	10.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	372	383	301	1,918	77
(%)	100	12.2	12.6	9.9	62.9	2.5

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野(複数選択)

	該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	772	424	308	186	143	100	61	116	49	127	61	65	0
(%)	-	54.9	39.9	24.1	18.5	13.0	7.9	15.0	6.3	16.5	7.9	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	515	220	152	122	79	52	12	65	41	48	10	60	2
(%)	-	42.7	29.5	23.7	15.3	10.1	2.3	12.6	8.0	9.3	1.9	11.7	0.4
≪第3回調査(平成13年)≫	767	288	223	227	83	58	25	80	83	94	48	63	8
(%)	-	37.5	29.1	29.6	10.8	7.6	3.3	10.4	10.8	12.3	6.3	8.2	1.0
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	755	321	177	256	128	62	38	96	-	93	44	40	22
(%)	-	42.5	23.4	33.9	17.0	8.2	5.0	12.7	-	12.3	5.8	5.3	2.9

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野(最もあてはまるものをひとつ選択)

	該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	772	242	129	106	66	28	10	61	24	32	19	55
(%)	100	31.3	16.7	13.7	8.5	3.6	1.3	7.9	3.1	4.1	2.5	7.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由(あてはまるもの3つまで選択)

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	772	494	249	146	214	170	181	23	209	72	23	0
(%)	-	64.0	32.3	18.9	27.7	22.0	23.4	3.0	27.1	9.3	3.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	515	291	112	72	114	109	118	25	123	6	51	0
(%)	-	56.5	21.7	14.0	22.1	21.2	22.9	4.9	23.9	1.2	9.9	0.0
≪第3回調査(平成13年)≫	767	426	214	117	236	160	122	47	189	7	40	14
(%)	-	55.5	27.9	15.3	30.8	20.9	15.9	6.1	24.6	0.9	5.2	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	755	398	245	149	192	173	138	35	264	7	21	14
(%)	-	52.7	32.5	19.7	25.4	22.9	18.3	4.6	35.0	0.9	2.8	1.9

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由(最もあてはまるものをひとつ選択)

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	772	302	103	30	73	44	78	9	73	38	22
(%)	100	39.1	13.3	3.9	9.5	5.7	10.1	1.2	9.5	4.9	2.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.3. やりがいを感じる活動団体

	行政機関 該当数 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボ ランティア 団体	民間施設・ 機関のボ ランティア 団体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他	
《第5回調査(平成23年)》	772	33	23	275	11	46	111	37	40	38	115	43
(%)	100	4.3	3.0	35.6	1.4	6.0	14.4	4.8	5.2	4.9	14.9	5.6
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

	活動の運 営主体(運 営者や機 関)	活動の 内容	活動団体 の歴史 (存続年 数)	活動団体 の評判	活動団体 内の統制 のとれた 規律	活動団体 内の対等 な 人間関係	自宅と活 動地域と の距離	その他	
《第5回調査(平成23年)》	772	79	302	13	16	13	84	224	41
(%)	100	10.2	39.1	1.7	2.1	1.7	10.9	29.0	5.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

	時間がない	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがない	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協力 が得られ ない	自分にあ った活動 の場がない	いっしょ にやる仲 間がない	何から始 めるか、 きっかけ がつかめ ない	興味がな い、関心 がない	その他	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	1,921	774	390	638	434	52	723	422	813	568	35	0
(%)	-	38.7	20.3	33.2	22.3	2.7	37.6	22.0	42.3	29.6	1.8	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,355	560	131	322	145	22	274	171	553	289	53	40
(%)	-	41.3	9.7	23.8	10.7	1.6	20.2	12.6	40.8	21.3	3.9	3.0
《第3回調査(平成13年)》	2,100	1,114	172	389	211	20	363	197	728	216	119	71
(%)	-	53.0	8.2	18.5	10.0	1.0	17.3	9.4	34.7	10.3	5.7	3.4
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,219	986	214	363	258	31	572	281	799	397	70	98
(%)	-	44.4	9.6	16.4	11.6	1.4	25.8	12.7	36.0	17.9	3.2	4.4

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

	時間がない	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがない	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協力 が得られ ない	自分にあ った活動 の場がない	いっしょ にやる仲 間がない	何から始 めるか、 きっかけ がつかめ ない	興味がな い、関心 がない	その他	
《第5回調査(平成23年)》	1,921	399	117	191	181	12	227	66	324	378	26
(%)	100	20.8	6.1	9.9	9.4	0.6	11.8	3.4	16.9	19.7	1.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	積極的に 参加したい	条件によ つては参 加しても よい	参加する つもりは ない	わからな い	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	1,921	40	1,078	472	331	0
(%)	100	2.1	56.1	24.6	17.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,355	60	824	193	267	11
(%)	100	4.4	60.8	14.2	19.7	0.8
《第3回調査(平成13年)》	2,100	137	1,262	204	465	32
(%)	100	6.5	60.1	9.7	22.1	1.5
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,219	159	1,332	254	440	34
(%)	100	7.2	60.0	11.4	19.8	1.5

【本人調査】

Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

	行政機関 該当数 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボ ランティア 団体	民間施設・ 機関のボ ランティア 団体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他	
《第5回調査(平成23年)》	1,118	86	52	171	13	194	159	94	176	19	133	21
(%)	100	7.7	4.7	15.3	1.2	17.4	14.2	8.4	15.7	1.7	11.9	1.9
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,118	203	390	9	45	40	106	301	24
(%)	100	18.2	34.9	0.8	4.0	3.6	9.5	26.9	2.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.1. 生活充足感 (1)健康

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	228	1,343	600	426	96	0
(%)	100	8.5	49.9	22.3	15.8	3.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	203	1,073	325	295	36	60
(%)	100	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	411	1,834	412	444	51	37
(%)	100	12.9	57.5	12.9	13.9	1.6	1.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	488	1,708	325	324	38	26
(%)	100	16.8	58.7	11.2	11.1	1.3	0.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	473	1,819	314	386	32	27
(%)	100	15.5	59.6	10.3	12.7	1.0	0.9

【本人調査】 Q13.2. 生活充足感 (2)時間的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	402	1,239	524	415	113	0
(%)	100	14.9	46.0	19.5	15.4	4.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	239	875	349	377	91	61
(%)	100	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	381	1,157	567	821	213	50
(%)	100	11.9	36.3	17.8	25.7	6.7	1.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	426	1,297	440	578	132	36
(%)	100	14.6	44.6	15.1	19.9	4.5	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	452	1,275	499	655	135	35
(%)	100	14.8	41.8	16.4	21.5	4.4	1.1

【本人調査】 Q13.3. 生活充足感 (3)経済的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	120	983	784	591	215	0
(%)	100	4.5	36.5	29.1	21.9	8.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	93	871	526	363	83	56
(%)	100	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	141	1,384	900	587	116	61
(%)	100	4.4	43.4	28.2	18.4	3.6	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	146	1,398	750	493	85	37
(%)	100	5.0	48.1	25.8	16.9	2.9	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	142	1,421	812	535	98	43
(%)	100	4.7	46.6	26.6	17.5	3.2	1.4

【本人調査】 Q13.4. 生活充足感 (4)精神的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	157	1,065	778	548	145	0
(%)	100	5.8	39.5	28.9	20.3	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	101	839	580	342	61	69
(%)	100	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	214	1,376	906	537	88	68
(%)	100	6.7	43.1	28.4	16.8	2.8	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	240	1,465	689	396	64	55
(%)	100	8.3	50.4	23.7	13.6	2.2	1.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	236	1,505	754	451	56	49
(%)	100	7.7	49.3	24.7	14.8	1.8	1.6

【本人調査】 Q13.5. 生活充足感 (5)家族の理解・愛情

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	446	1,334	675	178	60	0
(%)	100	16.6	49.5	25.1	6.6	2.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	413	1,084	326	74	23	72
(%)	100	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	792	1,736	426	122	31	82
(%)	100	24.8	54.4	13.4	3.8	1.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	700	1,639	382	102	24	62
(%)	100	24.1	56.3	13.1	3.5	0.8	2.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	751	1,821	313	88	20	58
(%)	100	24.6	59.7	10.3	2.9	0.7	1.9

【本人調査】 Q13.6. 生活充足感 (6)友人・仲間

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	238	1,314	834	252	55	0
(%)	100	8.8	48.8	31.0	9.4	2.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	203	1,075	492	145	17	60
(%)	100	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	383	1,768	715	227	38	58
(%)	100	12.0	55.4	22.4	7.1	1.2	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	411	1,665	569	202	33	29
(%)	100	14.1	57.2	19.6	6.9	1.1	1.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	373	1,762	631	214	32	39
(%)	100	12.2	57.8	20.7	7.0	1.0	1.3

【本人調査】 Q13.7. 生活充足感 (7) 熱中できる趣味

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	377	1,187	766	290	73	0
(%)	100	14.0	44.1	28.4	10.8	2.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	236	789	462	343	98	64
(%)	100	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	486	1,293	657	536	153	64
(%)	100	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	515	1,222	557	475	109	31
(%)	100	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	477	1,254	546	585	147	42
(%)	100	15.6	41.1	17.9	19.2	4.8	1.4

【本人調査】 Q13.8. 生活充足感 (8) 仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	128	750	1,068	461	286	0
(%)	100	4.8	27.8	39.7	17.1	10.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	127	830	593	233	85	124
(%)	100	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	240	1,326	914	349	157	203
(%)	100	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	293	1,333	738	271	122	152
(%)	100	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	336	1,439	779	255	115	127
(%)	100	11.0	47.2	25.5	8.4	3.8	4.2

【本人調査】 Q13.9. 生活充足感 (9) 社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	89	652	1,269	453	230	0
(%)	100	3.3	24.2	47.1	16.8	8.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	99	689	794	217	98	95
(%)	100	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	118	1,057	1,309	317	232	156
(%)	100	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	139	1,049	1,132	303	180	106
(%)	100	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	132	1,154	1,127	329	198	111
(%)	100	4.3	37.8	36.9	10.8	6.5	3.6

【本人調査】 Q13.10. 生活充足感 (10) 自然とのふれあい

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	160	1,001	971	449	112	0
(%)	100	5.9	37.2	36.1	16.7	4.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	119	691	588	431	101	62
(%)	100	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	285	1,223	777	662	158	84
(%)	100	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	319	1,243	631	547	131	38
(%)	100	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	296	1,241	635	704	128	47
(%)	100	9.7	40.7	20.8	23.1	4.2	1.5

【本人調査】 Q13.11. 生活充足感 (11) 近隣との交流

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	64	664	1,083	646	236	0
(%)	100	2.4	24.7	40.2	24.0	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	47	501	630	533	221	60
(%)	100	2.4	25.2	31.6	26.8	11.1	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	100	765	981	890	396	57
(%)	100	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	115	835	838	758	327	36
(%)	100	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	130	930	830	865	262	34
(%)	100	4.3	30.5	27.2	28.4	8.6	1.1

【本人調査】 Q13.12. 生活充足感 (12) 社会の役に立つこと

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	65	508	1,192	690	238	0
(%)	100	2.4	18.9	44.3	25.6	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	37	314	814	540	219	68
(%)	100	1.9	15.8	40.9	27.1	11.0	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	60	493	1,138	976	448	74
(%)	100	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	85	601	1,121	755	306	41
(%)	100	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	89	679	1,113	790	315	65
(%)	100	2.9	22.3	36.5	25.9	10.3	2.1

【本人調査】 Q13.13. 生活充足感 (13) 住まいのこと

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	248	1,120	936	317	72	
(%)	100	9.2	41.6	34.8	11.8	2.7	
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】 Q14.1. 性格 (1)人との関係やつながりを大切にする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	626	1,629	407	31	0
(%)	100	23.2	60.5	15.1	1.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	745	1,009	162	13	63
(%)	100	37.4	50.7	8.1	0.7	3.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,685	1,286	181	13	24
(%)	100	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,608	1,110	151	10	30
(%)	100	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,534	1,249	179	8	81
(%)	100	50.3	40.9	5.9	0.3	2.7

【本人調査】 Q14.2. 性格 (2)自分の世界や個性を大切にする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	584	1,706	380	23	0
(%)	100	21.7	63.3	14.1	0.9	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	460	1,070	375	20	67
(%)	100	23.1	53.7	18.8	1.0	3.4
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,041	1,556	514	25	53
(%)	100	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2,909	968	1,408	468	22	43
(%)	100	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	870	1,487	506	23	165
(%)	100	28.5	48.7	16.6	0.8	5.4

【本人調査】 Q14.3. 性格 (3)いつも目標に向かって進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	313	1,340	978	62	0
(%)	100	11.6	49.8	36.3	2.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	249	909	718	46	70
(%)	100	12.5	45.6	36.0	2.3	3.5
《第3回調査(平成13年)》	3,189	596	1,556	901	77	59
(%)	100	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2,909	584	1,429	804	46	46
(%)	100	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
《第1回調査(平成3年)》	3,051	623	1,414	802	53	159
(%)	100	20.4	46.3	26.3	1.7	5.2

【本人調査】 Q14.4. 性格 (4)無理をせずマイペースで進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	516	1,734	413	30	0
(%)	100	16.2	64.4	15.3	1.1	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	385	1,083	430	32	62
(%)	100	19.3	54.4	21.6	1.6	3.1
《第3回調査(平成13年)》	3,189	795	1,691	607	52	44
(%)	100	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2,909	740	1,541	545	50	33
(%)	100	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	885	1,548	468	36	114
(%)	100	29.0	50.7	15.3	1.2	3.7

【本人調査】 Q14.5. 性格 (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	481	1,638	543	31	0
(%)	100	17.9	60.8	20.2	1.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	333	1,047	521	25	66
(%)	100	16.7	52.6	26.2	1.3	3.3
《第3回調査(平成13年)》	3,189	746	1,567	775	51	50
(%)	100	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
《第2回調査(平成8年)》	2,909	729	1,514	588	36	42
(%)	100	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.6. 性格 (6)自分には他人にない優れたところがある

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	232	1,346	1,025	90	0
(%)	100	8.6	50.0	38.1	3.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	134	821	901	70	66
(%)	100	6.7	41.2	45.2	3.5	3.3
《第3回調査(平成13年)》	3,189	314	1,375	1,318	125	57
(%)	100	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	364	1,346	1,058	98	43
(%)	100	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.7. 性格 (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	288	1,346	960	99	0
(%)	100	10.7	50.0	35.6	3.7	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	185	767	885	93	62
(%)	100	9.3	38.5	44.4	4.7	3.1
《第3回調査(平成13年)》	3,189	511	1,323	1,167	139	49
(%)	100	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	512	1,187	1,064	110	36
(%)	100	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	501	1,172	1,092	134	152
(%)	100	16.4	38.4	35.8	4.4	5.0

【本人調査】

Q14.8. 性格 (8) 一つのことじじっくり取り組む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	267	1,501	867	58	0
(%)	100	9.9	55.7	32.2	2.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	200	932	750	46	64
(%)	100	10.0	46.8	37.7	2.3	3.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	500	1,387	1,144	100	58
(%)	100	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2,909	468	1,283	1,034	86	38
(%)	100	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
《第1回調査(平成3年)》	3,051	521	1,335	954	90	151
(%)	100	17.1	43.8	31.3	2.9	4.9

【本人調査】

Q14.9. 性格 (9) 指導者の立場に立とうとする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	123	786	1,377	407	0
(%)	100	4.6	29.2	51.1	15.1	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	90	597	992	243	70
(%)	100	4.5	30.0	49.8	12.2	3.5
《第3回調査(平成13年)》	3,189	207	1,027	1,443	453	59
(%)	100	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2,909	257	1,093	1,171	343	45
(%)	100	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	269	1,039	1,192	388	163
(%)	100	8.8	34.1	39.1	12.7	5.3

【本人調査】

Q14.10. 性格 (10) 新しいグループの中にわりと気軽に入れる

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	158	1,094	1,158	283	0
(%)	100	5.9	40.6	43.0	10.5	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	156	734	892	145	65
(%)	100	7.8	36.8	44.8	7.3	3.3
《第3回調査(平成13年)》	3,189	299	1,211	1,365	261	53
(%)	100	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2,909	349	1,177	1,123	225	35
(%)	100	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	310	1,084	1,251	256	150
(%)	100	10.2	35.5	41.0	8.4	4.9

【本人調査】

Q14.11. 性格 (11) いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	263	1,749	628	53	0
(%)	100	9.8	64.9	23.3	2.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	322	1,257	330	18	65
(%)	100	16.2	63.1	16.6	0.9	3.3
《第3回調査(平成13年)》	3,189	708	1,911	485	37	48
(%)	100	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	778	1,655	410	31	35
(%)	100	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	805	1,720	349	42	135
(%)	100	26.4	56.4	11.4	1.4	4.4

【本人調査】

Q14.12. 性格 (12) 上下の立場や関係を尊重する

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	264	1,726	647	56	0
(%)	100	9.8	64.1	24.0	2.1	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	427	1,198	281	17	69
(%)	100	21.4	60.1	14.1	0.9	3.5
《第3回調査(平成13年)》	3,189	796	1,725	544	76	48
(%)	100	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	810	1,512	502	45	40
(%)	100	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3,051	993	1,450	399	55	154
(%)	100	32.5	47.5	13.1	1.8	5.0

【本人調査】

Q14.13. 性格 (13) どんどこでも結構楽しみを見出す

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	240	1,497	894	62	0
(%)	100	8.9	55.6	33.2	2.3	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	226	974	703	26	63
(%)	100	11.3	48.9	35.3	1.3	3.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	476	1,606	980	83	44
(%)	100	14.9	50.4	30.7	2.6	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2,909	478	1,413	904	74	40
(%)	100	16.4	48.6	31.1	2.5	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3,051	459	1,462	915	72	143
(%)	100	15.0	47.9	30.0	2.4	4.7

【本人調査】

Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やはい あい	生活のリ ズムやメリ ハリ	心の安ら ぎや晴 らし	生きる喜 びや満足 感	人生観や 価値観の 形成	生きる目 標や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何か をやりと げたと感 じるこ と	他人や社 会の役に 立っている こと	その他	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	770	343	793	1,172	358	468	359	458	239	17	0
(%)	-	28.6	12.7	29.4	43.5	13.3	17.4	13.3	17.0	8.9	0.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	593	213	486	840	160	412	284	440	272	23	58
(%)	-	29.8	10.7	24.4	42.2	8.0	20.7	14.3	22.1	13.7	1.2	2.9
《第3回調査(平成13年)》	3,189	831	325	851	1,291	277	559	582	898	544	20	16
(%)	-	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	761	281	723	1,270	230	592	459	719	557	9	33
(%)	-	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,073	217	760	1,433	297	597	679	-	777	8	30
(%)	-	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	-	25.5	0.3	1.0

【本人調査】

Q15.2. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,505	313	381	494	0
(%)	100	55.9	11.6	14.1	18.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,133	156	260	364	79
(%)	100	56.9	7.8	13.1	18.3	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,145	228	267	496	53
(%)	100	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,280	151	194	248	36
(%)	100	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,021	282	400	297	51
(%)	100	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

【本人調査】

Q16. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	552	1,404	424	98	152	367	742	1,214	401	322	449	338	44	0
(%)	-	20.5	52.1	15.7	3.6	5.6	13.6	27.6	45.1	14.9	12.0	16.7	12.6	1.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	539	828	320	62	122	310	462	1,070	374	323	246	262	25	63
(%)	-	27.1	41.6	16.1	3.1	6.1	15.6	23.2	53.7	18.8	16.2	12.3	13.2	1.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,124	1,400	466	182	185	588	733	1,762	595	584	345	403	33	27
(%)	-	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	0.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	944	1,094	352	136	205	516	498	1,051	401	463	204	310	16	5
(%)	-	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,757	742	154	554	163	160	146	0
(%)	-	65.2	27.6	5.7	20.6	6.1	5.9	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,342	886	117	380	119	100	20	75
(%)	-	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0	3.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,252	1,477	188	728	192	155	26	115
(%)	-	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,970	1,372	170	558	162	118	28	207
(%)	-	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,087	1,750	136	477	214	87	26	135
(%)	-	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9	4.4

【本人調査】

Q17.2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつけますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,230	1,131	179	367	223	165	172	0
(%)	-	45.7	42.0	6.6	13.6	8.3	6.1	6.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	908	1,198	128	262	187	88	34	97
(%)	-	45.6	60.1	6.4	13.2	9.4	4.4	1.7	4.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,535	1,782	208	505	276	170	54	196
(%)	-	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,316	1,605	189	386	292	148	45	330
(%)	-	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,990	89	127	768	73	265	128	0
(%)	-	73.9	3.3	4.7	28.5	2.7	9.8	4.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,546	94	99	715	73	231	22	83
(%)	-	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1	4.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,492	198	157	1,295	104	364	29	149
(%)	-	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,280	167	159	1,037	131	314	16	211
(%)	-	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,487	273	154	1,138	132	308	16	148
(%)	-	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5	4.9

【本人調査】

Q17.4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,743	510	155	577	163	261	145	0
(%)	-	64.7	18.9	5.8	21.4	6.1	9.7	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,315	675	103	449	102	189	33	94
(%)	-	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,093	1,213	188	699	206	280	44	182
(%)	-	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,828	1,096	171	525	182	238	36	305
(%)	-	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,818	1,516	156	392	250	210	55	242
(%)	-	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8	7.9

【本人調査】

Q17.5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,154	654	134	744	499	191	240	0
(%)	-	42.9	24.3	5.0	27.6	18.5	7.1	8.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	718	767	134	585	469	142	56	95
(%)	-	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,102	1,274	174	924	845	228	89	214
(%)	-	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	912	1,095	181	809	766	179	87	316
(%)	-	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	707	1,355	190	865	992	192	78	267
(%)	-	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6	8.8

【本人調査】 Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,664	612	131	192	330	263	200	0
(%)	-	61.8	22.7	4.9	7.1	12.3	9.8	7.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,348	733	93	116	281	158	32	101
(%)	-	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6	5.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,245	1,121	176	169	493	240	59	213
(%)	-	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,970	995	183	124	481	168	42	307
(%)	-	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,095	1,221	151	86	538	156	41	271
(%)	-	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3	8.9

【本人調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場 (7)どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	832	1,059	221	378	586	210	226	0
(%)	-	30.9	39.3	8.2	14.0	21.8	7.8	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	439	1,225	183	283	543	125	55	93
(%)	-	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	691	1,865	279	490	925	231	58	213
(%)	-	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	583	1,642	255	394	852	173	62	326
(%)	-	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	434	1,908	263	404	1,117	153	52	266
(%)	-	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7	8.7

【本人調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場 (8)可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	750	1,250	216	243	472	234	238	0
(%)	-	27.8	46.4	8.0	9.0	17.5	8.7	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	438	1,331	176	123	366	193	75	94
(%)	-	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	730	2,036	316	183	616	320	111	191
(%)	-	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	649	1,854	262	126	551	240	97	318
(%)	-	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	572	2,109	280	129	624	230	127	261
(%)	-	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2	8.6

【本人調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場 (9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	997	1,180	308	320	354	149	269	0
(%)	-	37.0	43.8	11.4	11.9	13.1	5.5	10.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	753	1,276	234	166	231	96	79	89
(%)	-	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0	4.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,248	1,922	370	313	421	173	136	174
(%)	-	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,077	1,789	328	217	383	144	111	256
(%)	-	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	962	2,079	346	254	471	132	106	219
(%)	-	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5	7.2

【本人調査】 Q18.1. 配偶者との関係 (1)配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	714	1,131	275	68	-
(%)	100	32.6	51.7	12.6	3.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	738	699	92	7	40
(%)	100	46.8	44.4	5.8	0.4	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.2. 配偶者との関係 (2)自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	612	1,155	363	58	-
(%)	100	28.0	52.8	16.6	2.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	515	798	211	13	39
(%)	100	32.7	50.6	13.4	0.8	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	839	1,439	255	12	52
(%)	100	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	863	1,318	239	4	53
(%)	100	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	934	1,414	225	6	158
(%)	100	34.1	51.7	8.2	0.2	5.8

【本人調査】 Q18.3. 配偶者との関係 (3)配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	317	874	754	243	-
(%)	100	14.5	39.9	34.5	11.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	210	671	563	89	43
(%)	100	13.3	42.6	35.7	5.6	2.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	321	1,089	974	148	65
(%)	100	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	301	1,044	944	127	61
(%)	100	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.4. 配偶者との関係 (4) 配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	626	925	499	138	-
(%)	100	28.6	42.3	22.8	6.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	485	633	364	55	39
(%)	100	30.8	40.2	23.1	3.5	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	889	971	593	77	67
(%)	100	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	776	984	584	70	63
(%)	100	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	704	1,030	767	71	165
(%)	100	25.7	37.6	28.0	2.6	6.0

【本人調査】 Q18.5. 配偶者との関係 (5) 配偶者と会話がある(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	647	1,093	367	81	-
(%)	100	29.6	50.0	16.8	3.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	510	774	233	21	38
(%)	100	32.4	49.1	14.8	1.3	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	756	1,289	452	34	66
(%)	100	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	678	1,308	413	22	56
(%)	100	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	675	1,412	459	24	167
(%)	100	24.7	51.6	16.8	0.9	6.1

【本人調査】 Q18.6. 配偶者との関係 (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	691	1,182	255	60	-
(%)	100	31.6	54.0	11.7	2.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	531	826	159	12	48
(%)	100	33.7	52.4	10.1	0.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.7. 配偶者との関係 (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	128	350	606	657	447	-
(%)	100	5.9	16.0	27.7	30.0	20.4	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	103	179	364	519	352	59
(%)	100	6.5	11.4	23.1	32.9	22.3	3.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.8. 配偶者との関係 (8) 配偶者は金銭的にうるさい(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	128	435	1,056	569	-
(%)	100	5.9	19.9	48.3	26.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	67	260	845	357	47
(%)	100	4.3	16.5	53.6	22.7	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.9. 配偶者との関係 (9) 配偶者は自分よりかかりすぎる(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	121	499	1,112	456	-
(%)	100	5.5	22.8	50.8	20.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	42	325	878	287	44
(%)	100	2.7	20.6	55.7	18.2	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	136	646	1,545	204	66
(%)	100	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	161	779	1,478	156	163
(%)	100	5.9	28.5	54.0	5.7	6.0

【本人調査】 Q18.10. 配偶者との関係 (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	161	470	939	618	-
(%)	100	7.4	21.5	42.9	28.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	73	268	678	511	46
(%)	100	4.6	17.0	43.0	32.4	2.9
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19. あなたは定年を経験しましたか(SA)

	総数	まだ定年前	まだ定年前(定年なし)	定年前に退職した	定年退職した	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,195	614	357	527	-
(%)	100	44.4	22.8	13.3	19.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,281	-	177	454	80
(%)	100	64.3	-	8.9	22.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,920	-	226	1,032	11
(%)	100	60.2	-	7.1	32.4	0.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,832	-	184	860	33
(%)	100	63.0	-	6.3	29.6	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,778	-	198	877	198
(%)	100	58.3	-	6.5	28.7	6.5

【本人調査】 Q19.1. 定年は何歳ですか : 「まだ定年前」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,195	0	7	30	978	160	16	4	-	-
(%)	100	0.0	0.6	2.5	81.8	13.4	1.3	0.3	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	1	0	68	1,046	86	5	3	72	60.2
(%)	100	0.1	0.0	5.3	81.7	6.7	0.4	0.2	5.6	60.2
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	5	11	125	1,476	81	11	1	210	59.9
(%)	100	0.3	0.6	6.5	76.9	4.2	0.6	0.1	10.9	59.9
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	5	5	136	1,382	62	4	3	235	59.9
(%)	100	0.3	0.3	7.4	75.4	3.4	0.2	0.2	12.8	59.9
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	0	1	299	1,320	79	0	0	79	59.6
(%)	100	0.0	0.1	16.8	74.2	4.4	0.0	0.0	4.4	59.6

【本人調査】 Q19.3. 定年は何歳ですか : 「定年前に退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	357	99	73	149	35	1	0	0	-	-
(%)	100	27.7	20.4	41.7	9.8	0.3	0.0	0.0	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫	177	29	33	98	14	2	1	0	0	53.7
(%)	100	16.4	18.6	55.4	7.9	1.1	0.6	0.0	0.0	53.7
≪第3回調査(平成13年)≫	226	16	54	120	25	4	0	0	7	55.6
(%)	100	7.1	23.9	53.1	11.1	1.8	0.0	0.0	3.1	55.6
≪第2回調査(平成8年)≫	184	8	42	89	34	9	1	0	1	56.5
(%)	100	4.3	22.8	48.4	18.5	4.9	0.5	0.0	0.5	56.5
≪第1回調査(平成3年)≫	198	0	52	102	31	2	0	0	11	56.3
(%)	100	0.0	26.3	51.5	15.7	1.0	0.0	0.0	5.6	56.3

【本人調査】 Q19.4. 定年は何歳ですか : 「定年退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	527	0	9	33	428	55	2	0	-	-
(%)	100	0.0	1.7	6.3	81.2	10.4	0.4	0.0	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫	454	1	2	53	360	33	5	0	0	60.1
(%)	100	0.2	0.4	11.7	79.3	7.3	1.1	0.0	0.0	60.1
≪第3回調査(平成13年)≫	1,032	1	16	181	725	69	6	0	34	59.8
(%)	100	0.1	1.6	17.5	70.3	6.7	0.6	0.0	3.3	59.8
≪第2回調査(平成8年)≫	860	1	5	210	557	74	7	0	6	59.7
(%)	100	0.1	0.6	24.4	64.8	8.6	0.8	0.0	0.7	59.7
≪第1回調査(平成3年)≫	877	0	20	367	423	56	0	0	11	58.7
(%)	100	0.0	2.3	41.8	48.2	6.4	0.0	0.0	1.3	58.7

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (1) 定年後の生活費を主に何によってまかないますか(MA)

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の保険金や個人年金	預貯金の取りぐずし	就労による収入	子ども等からの経済的支援	その他	わからない・考えたことがない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,809	1,260	857	685	457	570	456	17	31	111	-
(%)	-	69.7	47.4	37.9	25.3	31.5	25.2	0.9	1.7	6.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	982	639	585	285	345	430	9	30	33	14
(%)	-	76.7	49.9	45.7	22.2	26.9	33.6	0.7	2.3	2.6	1.1
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	1,385	1,007	793	385	491	582	17	37	68	23
(%)	-	72.1	52.4	41.3	20.1	25.6	30.3	0.9	1.9	3.5	1.2
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	1,426	979	708	470	321	573	12	44	72	23
(%)	-	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) 今の会社に定年まで勤めたいですか(SA)

	該当数	定年まで勤めたい	定年前に退職したい	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,809	1,543	266	-
(%)	100	85.3	14.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	1,043	219	19
(%)	100	81.4	17.1	1.5
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	1,506	357	57
(%)	100	78.4	18.6	3.0
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	1,465	264	103
(%)	100	80.0	14.4	5.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	1,440	303	35
(%)	100	81.0	17.0	2.0

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) あと何年くらい今の会社に勤めたいですか : 「定年前に退職したい」選択者

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年) *0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	266	121	82	46	10	7	-	-	5.3
(%)	-	45.5	30.8	17.3	3.8	2.6	-	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫	219	81	54	45	11	5	0	23	6.1
(%)	100	37.0	24.7	20.5	5.0	2.3	0.0	10.5	6.1
≪第3回調査(平成13年)≫	357	125	93	78	15	5	0	41	6.1
(%)	100	35.0	26.1	21.8	4.2	1.4	0.0	11.5	6.1
≪第2回調査(平成8年)≫	264	97	81	45	13	2	5	21	5.6
(%)	100	36.7	30.7	17.0	4.9	0.8	1.9	8.0	5.6
≪第1回調査(平成3年)≫	303	94	94	55	12	3	0	45	5.8
(%)	100	31.0	31.0	18.2	4.0	1.0	0.0	14.9	5.8

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) 定年退職後または定年前の退職後に仕事をどのようにしたいですか(SA)

	該当数	退職とともに職業生活から引退したい	できれば仕事を継続したい	定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	退職後は別の企業に再就職したい	退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	退職後は家業を手伝いたい	退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	その他	わからない、考えたことがない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,809	442	565	190	140	126	14	99	19	214	-
(%)	100	24.4	31.2	10.5	7.7	7.0	0.8	5.5	1.1	11.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	327	452	98	100	100	16	81	20	76	11
(%)	100	25.5	35.3	7.7	7.8	7.8	1.2	6.3	1.6	5.9	0.9
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) どのくらいまで「仕事を継続したい」ですか(SA)

	該当数	満額年金受給時まで	元気なうちはいつまでも	()歳まで(計)	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	年齢無回答	無回答	平均
≪第5回調査(平成23年)≫	565	140	405	20	0	0	0	3	9	4	4	-	-	68.25
(%)	100	24.8	71.7	3.5	0.0	0.0	0.0	15.0	45.0	20.0	20.0	-	-	-
≪第4回調査(平成18年)≫	452	127	295	16	0	1	0	4	11	0	0	0	14	-
(%)	100	28.1	65.3	3.5	0.0	0.2	0.0	0.9	2.4	0.0	0.0	0.0	3.1	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (4) 過去5年間に次のような出来事がありましたか(MA)

	総数	子どもや孫の誕生	子どもの成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死	その他の家族の死	昇進・昇格
≪第5回調査(平成23年)≫	1,809	327	220	109	130	260	166	392	18	349	356
(%)	-	18.1	12.2	6.0	7.2	14.4	9.2	21.7	1.0	19.3	19.7
≪第4回調査(平成18年)≫	1,281	269	271	97	127	149	107	367	14	289	467
(%)	-	21.0	21.2	7.6	9.9	11.6	8.4	28.6	1.1	22.6	36.5
≪第3回調査(平成13年)≫	1,920	343	410	126	240	241	173	515	9	423	658
(%)	-	17.9	21.4	6.6	12.5	12.6	9.0	26.8	0.5	22.0	34.3
≪第2回調査(平成8年)≫	1,832	346	419	111	232	265	179	410	12	340	557
(%)	-	18.9	22.9	6.1	12.7	14.5	9.8	22.4	0.7	18.6	30.4
≪第1回調査(平成3年)≫	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	出向・転籍	中途退職・失業(解雇)	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え	親の介護	親との新たな同居	その他	いずれもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	176	94	47	215	166	30	23	414	-
(%)	9.7	5.2	2.6	11.9	9.2	1.7	1.3	22.9	-
≪第4回調査(平成18年)≫	144	-	17	244	147	37	-	151	8
(%)	11.2	-	1.3	19.0	11.5	2.9	-	11.8	0.6
≪第3回調査(平成13年)≫	273	-	25	366	-	-	-	191	77
(%)	14.2	-	1.3	19.1	-	-	-	9.9	4.0
≪第2回調査(平成8年)≫	229	-	43	337	-	-	-	179	79
(%)	12.5	-	2.3	18.4	-	-	-	9.8	4.3
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (1) 定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか(SA)

	該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	884	104	378	224	42	89	15	32	-
(%)	100	11.8	42.8	25.3	4.8	10.1	1.7	3.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	631	22	355	129	14	50	6	30	25
(%)	100	3.5	56.3	20.4	2.2	7.9	1.0	4.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	1,258	50	663	260	32	161	11	50	31
(%)	100	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	1,044	48	573	174	14	132	12	33	58
(%)	100	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1,075	39	606	173	13	157	5	19	63
(%)	100	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (2) 定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか(SA)

	該当数	1~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上	無回答	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	884	81	94	84	116	484	-	25
(%)	100	9.2	10.6	9.5	13.1	54.8	-	3
≪第4回調査(平成18年)≫	631	66	55	80	76	331	23	-
(%)	100	10.5	8.7	12.7	12.0	52.5	3.6	-
≪第3回調査(平成13年)≫	1,258	88	81	103	99	856	31	-
(%)	100	7.0	6.4	8.2	7.9	68.0	2.5	-
≪第2回調査(平成8年)≫	1,044	55	76	91	110	661	51	-
(%)	100	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9	-
≪第1回調査(平成3年)≫	1,075	60	81	103	130	665	36	-
(%)	100	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (3) 定年後・退職後に仕事につきましたか(SA)

	該当数	退職とともに職業生活から引退した	退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	退職後は出向先に移籍した	退職後は別の企業に再就職した	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝うようになった	退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	884	417	94	47	167	64	17	18	60	-
(%)	100	47.2	10.6	5.3	18.9	7.2	1.9	2.0	6.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	631	170	114	69	185	16	2	9	51	15
(%)	100	26.9	18.1	10.9	29.3	2.5	0.3	1.4	8.1	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	1,258	402	208	155	300	42	13	31	80	27
(%)	100	32.0	16.5	12.3	23.8	3.3	1.0	2.5	6.4	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	1,044	290	182	108	272	42	20	22	60	48
(%)	100	27.8	17.4	10.3	26.1	4.0	1.9	2.1	5.7	4.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1,075	237	220	113	328	37	19	13	34	74
(%)	100	22.0	20.5	10.5	30.5	3.4	1.8	1.2	3.2	6.9

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (4) 定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか(MA)

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のほろあいや生きがいなくなった	所属や肩書きがなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った
≪第5回調査(平成23年)≫	884	254	22	225	117	20	97	72	30	26	101	59	162
(%)	-	28.7	2.5	25.5	13.2	2.3	11.0	8.1	3.4	2.9	11.4	6.7	18.3
≪第4回調査(平成18年)≫	631	182	17	192	72	30	74	32	17	13	57	56	121
(%)	-	28.8	2.7	30.4	11.4	4.8	11.7	5.1	2.7	2.1	9.0	8.9	19.2
≪第3回調査(平成13年)≫	1,258	386	40	414	140	44	-	115	22	-	121	100	213
(%)	-	30.7	3.2	32.9	11.1	3.5	-	9.1	1.7	-	9.6	7.9	16.9
≪第2回調査(平成8年)≫	1,044	247	28	341	103	40	-	86	17	-	80	86	148
(%)	-	23.7	2.7	32.7	9.9	3.8	-	8.2	1.6	-	7.7	8.2	14.2
≪第1回調査(平成3年)≫	1,075	258	26	313	-	44	-	82	21	-	75	115	174
(%)	-	24.0	2.4	29.1	-	4.1	-	7.6	2.0	-	7.0	10.7	16.2

	世の中の情報化の進展について困った	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題は無かった	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	32	24	141	45	20	295	-
(%)	3.6	2.7	16.0	5.1	2.3	33.4	-
≪第4回調査(平成18年)≫	41	11	76	21	7	159	32
(%)	6.5	1.7	12.0	3.3	1.1	25.2	5.1
≪第3回調査(平成13年)≫	75	24	146	60	39	351	56
(%)	6.0	1.9	11.6	4.8	3.1	27.9	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	43	16	100	43	10	296	65
(%)	4.1	1.5	9.6	4.1	1.0	28.4	6.2
≪第1回調査(平成3年)≫	-	25	106	39	14	357	61
(%)	-	2.3	9.9	3.6	1.3	33.2	5.7

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : A-全員 (MA)

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にす	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,828	1,790	1,206	265	957	443	191	319	2	141	-
(%)	-	67.9	66.5	44.8	9.8	35.5	16.5	7.1	11.8	0.1	5.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,562	1,158	925	235	714	401	273	389	5	11	23
(%)	-	78.4	58.1	46.4	11.8	35.8	20.1	13.7	19.5	0.3	0.6	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,012	1,520	945	406	524	299	170	367	5	7	59
(%)	-	63.1	47.7	29.6	12.7	16.4	9.4	5.3	11.5	0.2	0.2	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,800	1,297	895	340	498	257	173	291	2	15	73
(%)	-	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,929	1,518	1,002	414	409	256	182	305	6	15	46
(%)	-	63.2	49.8	32.8	13.6	13.4	8.4	6.0	10.0	0.2	0.5	1.5

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年前の方 (MA)

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にす	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,809	940	919	605	207	577	405	217	227	6	220	-
(%)	-	52.0	50.8	33.4	11.4	31.9	22.4	12.0	12.5	0.3	12.2	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年後・退職後の方 (MA)

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にす	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	884	389	429	342	92	264	237	107	135	4	112	-
(%)	-	44.0	48.5	38.7	10.4	29.9	26.8	12.1	15.3	0.5	12.7	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年退職者及び定年前の方 (MA)

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にす	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,315	1,024	784	175	803	644	325	299	19	90	51
(%)	-	66.0	51.4	39.4	8.8	40.3	32.3	16.3	15.0	1.0	4.5	2.6
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,969	1,527	1,189	379	978	874	425	366	39	183	94
(%)	-	61.7	47.9	37.3	11.9	30.7	27.4	13.3	11.5	1.2	5.7	2.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,957	1,536	1,265	367	1,102	964	487	436	22	130	86
(%)	-	67.3	52.8	43.5	12.6	37.9	33.1	16.7	15.0	0.8	4.5	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,891	1,621	1,297	411	929	933	496	419	27	184	148
(%)	-	62.0	53.1	42.5	13.5	30.4	30.6	16.3	13.7	0.9	6.0	4.9

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (2) 企業として必要な条件の整備

	総数	退職準備教育や退職相談を充実させる	企業年金の充実など社員の経済的基盤充実を入れる	労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	希望者には定年年齢を延長させる	定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	退職に向けたセミナーの充実	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	986	1,269	616	606	1,439	1,354	436	388	538	18	251	-
(%)	-	36.6	47.1	22.9	22.5	53.4	50.3	16.2	14.4	20.0	0.7	9.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	678	1,026	505	452	887	972	329	231	509	20	79	33
(%)	-	34.0	51.5	25.4	22.7	44.5	48.8	16.5	11.6	25.6	1.0	4.0	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	747	1,339	447	547	858	1,015	302	208	-	29	133	88
(%)	-	23.4	42.0	14.0	17.2	26.9	31.8	9.5	6.5	-	0.9	4.2	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	747	1,342	457	500	728	827	258	169	-	11	76	149
(%)	-	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	-	0.4	2.6	5.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	687	1,617	622	464	681	911	285	170	-	13	51	119
(%)	-	22.5	53.0	20.4	15.2	22.3	29.9	9.3	5.6	-	0.4	1.7	3.9

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (3) 社会として必要な条件の整備

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンOBが入りやすい場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や交流の場を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,710	1,535	460	857	736	709	34	191	-
(%)	-	63.5	57.0	17.1	31.8	27.3	26.3	1.3	7.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,150	1,178	408	741	559	462	41	60	36
(%)	-	57.7	59.1	20.5	37.2	28.1	23.2	2.1	3.0	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,592	1,516	313	790	638	481	35	98	76
(%)	-	49.9	47.5	9.8	24.8	20.0	15.1	1.1	3.1	2.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,514	1,275	387	761	595	393	20	59	142
(%)	-	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0	4.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,554	1,457	497	734	567	547	11	33	117
(%)	-	50.9	47.8	16.3	24.1	18.6	17.9	0.4	1.1	3.8

【本人調査】 Q23. 将来の住まい

	総数	自分または配偶者の持家に住む	親・親類から家を譲り受ける	賃貸住宅に住む	自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設)に住む	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	2,107	181	232	122	51
(%)	100	78.2	6.7	8.6	4.5	1.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q24. (1) 現在の住宅ローンの有無(SA)

	総数	あり	なし
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	851	1,842
(%)	100	31.6	68.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】 Q24. 住宅ローンはあと何年で済むか(SA)

	総数	4年以下	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年以上
≪第5回調査(平成23年)≫	851	70	136	139	143	134	103	126
(%)	100	8.2	16.0	16.3	16.8	15.7	12.1	14.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q25. 住宅ローンの残高(SA)

	総数	100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	851	23	82	144	307	246	9	0	40
(%)	100	2.7	9.6	16.9	36.1	28.9	1.1	0.0	4.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q26. 昨年の世帯年収(SA)

	総数	200万円以上～300万円未満										1500万円以上	無回答	わからない
		200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満					
《第5回調査(平成23年)》	2,693	98	193	315	343	310	497	368	295	108	-	-	166	
(%)	100	3.6	7.2	11.7	12.7	11.5	18.5	13.7	11.0	4.0	-	-	6.2	
《第4回調査(平成18年)》	1,992	38	104	174	197	223	373	323	298	60	202	-	-	
(%)	100	1.9	5.2	8.7	9.9	11.2	18.7	16.2	15.0	3.0	10.1	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	3,189	88	195	305	337	322	610	471	569	105	187	-	-	
(%)	100	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	2,909	42	144	273	277	297	605	466	555	121	129	-	-	
(%)	100	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】

Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円以上～500万円未満						1億円以上	わからない
			100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満		
《第5回調査(平成23年)》	2,693	107	188	546	367	428	422	118	52	465
(%)	100	4.0	7.0	20.3	13.6	15.9	15.7	4.4	1.9	17.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (1) 公的年金

	該当数	割合											平均(割)
		0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	
《第5回調査(平成23年)》	881	38	51	73	81	100	137	100	97	87	72	45	5
(%)	100	4.3	5.8	8.3	9.2	11.4	15.6	11.4	11.0	9.9	8.2	5.1	5.2
《第4回調査(平成18年)》	574	72	30	38	51	52	68	63	71	52	36	41	4.9
(%)	100	12.5	5.2	6.6	8.9	9.1	11.8	11.0	12.4	9.1	6.3	7.1	4.9
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (2) 企業年金

	該当数	割合											平均(割)
		0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	
《第5回調査(平成23年)》	881	180	217	162	130	80	63	26	9	5	2	7	2
(%)	100	20.4	24.6	18.4	14.8	9.1	7.2	3.0	1.0	0.6	0.2	0.8	2.2
《第4回調査(平成18年)》	574	182	117	119	74	49	24	5	3	0	1	0	1.7
(%)	100	31.7	20.4	20.7	12.9	8.5	4.2	0.9	0.5	0.0	0.2	0.0	1.7
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (3) 個人年金

	該当数	割合											平均(割)
		0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	
《第5回調査(平成23年)》	881	650	127	65	15	15	7	1	0	0	1	0	1
(%)	100	73.8	14.4	7.4	1.7	1.7	0.8	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (4) 給与

	該当数	割合											平均(割)
		0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	
《第5回調査(平成23年)》	881	604	40	44	35	29	41	21	17	18	14	18	1
(%)	100	68.6	4.5	5.0	4.0	3.3	4.7	2.4	1.9	2.0	1.6	2.0	1.4
《第4回調査(平成18年)》	574	284	22	28	36	22	44	25	27	18	26	42	2.8
(%)	100	49.5	3.8	4.9	6.3	3.8	7.7	4.4	4.7	3.1	4.5	7.3	2.8
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (5) 不動産収入・利息・配当金

	該当数	割合											平均(割)
		0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	
《第5回調査(平成23年)》	881	690	106	35	23	9	9	5	2	2	0	0	0
(%)	100	78.3	12.0	4.0	2.6	1.0	1.0	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.4
《第4回調査(平成18年)》	574	490	37	21	10	8	5	2	1	0	0	0	0.3
(%)	100	85.4	6.4	3.7	1.7	1.4	0.9	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (6) その他の収入

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	881	774	52	21	13	8	5	2	3	0	1	2	0
(%)	100	87.9	5.9	2.4	1.5	0.9	0.6	0.2	0.3	0.0	0.1	0.2	0.3
≪第4回調査(平成18年)≫	574	504	39	10	14	2	3	1	0	0	1	0	0.2
(%)	100	87.8	6.8	1.7	2.4	0.3	0.5	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	151	432	1,264	643	203	-
(%)	100	5.6	16.0	46.9	23.9	7.5	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	72	271	887	396	97	269
(%)	100	3.6	13.6	44.5	19.9	4.9	13.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	202	1,733	-	984	94	176
(%)	100	6.3	54.3	-	30.9	2.9	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)

	総数	以前よりとても楽になった	以前より少し楽になった	変わらない	以前より少し苦しくなった	以前よりとても苦しくなった
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	78	336	1,098	916	265
(%)	100	2.9	12.5	40.8	34.0	9.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	462	915	329	72	915
(%)	100	17.2	34.0	12.2	2.7	34.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	462	915	329	72	915
(%)	100	17.2	34.0	12.2	2.7	34.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	559	1,334	650	150	-
(%)	100	20.8	49.5	24.1	5.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	438	1,058	584	90	523
(%)	100	16.3	39.3	21.7	3.3	19.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか(SA)

	総数	配偶者	自分の 子ども	自分の 兄弟姉妹	介護サー ビスによる 在宅介護	介護施設 に入る	まだ考え ていない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	875 32.5	194 7.2	15 0.6	277 10.3	523 19.4	795 29.5	14 0.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q33. 「ライフプランセミナー」をご存じですか(SA)

	総数	知っており 受講した	知っては いるが受講 していない	知らない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,166 100	153 7.1	745 34.4	1,268 58.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-

【本人調査】 Q33. 「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですがどこで受講しましたか(SA)

	総数	勤めてい る会社	金融機関	役所等の 公的機関	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	153 100	132 86.3	8 5.2	6 3.9	7 4.6
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q34. 「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですが受講してよかったと思いますか(MA)

	総数	退職後の 生活設計 のイメージ を考える きっかけと なりよかつ た	退職後の 自分の家 計プランを 作成でき よかつた	年金の知 識を とができて よかつた	あまり役に たなかつ た	ほとんど 役にた なかつ た	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	153 -	85 55.6	42 27.5	58 37.9	29 19.0	7 4.6	3 2.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q34. 「ライフプランセミナー」を受講していないとお答えですが受講してみたいですか(SA)

	総数	無料であ れば受講 してみたい	有料(1日 コースで8 千円程度) でも受講し てみたい	有料(1泊 2日コース で宿泊料 込みで3万 円程度)で もじっくりと 受講して みたい	受講して みたいとは思 わない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,013 100	888 44.1	28 1.4	9 0.4	1,061 52.7	27 1.3
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-

Ⅱ. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

(2) 本人調査結果(企業年金なし)

【本人調査】

SC1. 性別

	総数	男	女
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	946	428
(%)	100	68.9	31.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

(注: 第5回は企業年金なしの35～74歳の男女1,374人の集計結果)

【本人調査】

SC2. 年齢

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	0	216	184	167	157	178	162	168	142	0	53.4
(%)	100	0.0	15.7	13.4	12.2	11.4	13.0	11.8	12.2	10.3	0.0	53.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q1. 婚姻状況

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	173	1,070	96	35
(%)	100	12.6	77.9	7.0	2.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q2. 世帯構成

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分)と未婚の子	自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦	自分たち夫婦(または自分)と親	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	167	380	533	33	189	72
(%)	100	12.2	27.7	38.8	2.4	13.8	5.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q3. 子供の有無

	総数	子どもがいる	子どもはいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	1,003	371
(%)	100	73.0	27.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】

Q3.1.1. 子供の人数

	該当数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	平均(人)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,003	256	532	187	24	2	2	2.0
(%)	100	25.5	53.0	18.6	2.4	0.2	0.2	2.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q3. 子供の年齢(第一子)

	該当数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,003	151	190	239	250	169	4	0	25.5
(%)	100	15.1	18.9	23.8	24.9	16.8	0.4	0.0	25.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q3. 子供の年齢(末子)								
	該当数	0 ~9歳	10 ~19歳	20 ~29歳	30 ~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60歳 以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	1,003	210	206	244	254	89	0	0	0	22.4
(%)	100	20.9	20.5	24.3	25.3	8.9	0.0	0.0	0.0	22.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (1)正規従業員のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	221	267	178	29	5	0	1.0	
(%)	100	31.6	38.1	25.4	4.1	0.7	0.0	1.0	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (2)派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	485	173	36	5	1	0	0.4	
(%)	100	69.3	24.7	5.1	0.7	0.1	0.0	0.4	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (3)未就業のお子さまの人数(学生は除く)							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	522	155	21	2	0	0	0.3	
(%)	100	74.6	22.1	3.0	0.3	0.0	0.0	0.3	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の就業状況 (4)学生のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	536	132	31	1	0	0	0.3	
(%)	100	76.6	18.9	4.4	0.1	0.0	0.0	0.3	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の結婚状況 (1)有配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	323	203	137	34	3	0	0.8	
(%)	100	46.1	29.0	19.6	4.9	0.4	0.0	0.8	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q3. 子供の結婚状況 (2)無配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)	
《第5回調査(平成23年)》	700	181	285	187	44	3	0	1.1	
(%)	100	25.9	40.7	26.7	6.3	0.4	0.0	1.1	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q4. 居住地(都道府県)						
	総数	北海道・ 東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	140	545	186	302	109	92	
(%)	100	10.2	39.7	13.5	22.0	7.9	6.7	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】 Q5. 居住年数

	総数	5年以上				30年以上
		5年未満	10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	131	214	279	222	528
(%)	100	9.5	15.6	20.3	16.2	38.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q6. 住居形態

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他
(%)	100	58.9	19.9	1.5	3.5	15.4	0.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q7. 最終学歴

	総数	小学校・高等学校・新制中学校	旧制中学校・高等女子学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他
(%)	100	4.0	22.1	11.7	49.6	11.1	1.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q8. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族・従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職
(%)	100	52.5	9.9	8.4	0.3	0.7	28.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	平均(年)
								* 0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	387	131	115	75	13	53	-	9.9
(%)	100	33.9	29.7	19.4	3.4	13.7	-	9.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q9.1. 現在の業種

	該当数	水産・農業	鉱業	建設	食料品	繊維製品 パルプ・紙	化学 医薬品	石油 石炭	ゴム製品 ガラス 土石製品	鉄鋼 非鉄金属 金属製品	機械 電気機器	輸送用機器 精密機器 その他製品	卸売業 小売業	銀行・証券 保険 その他金融
														融
≪第5回調査(平成23年)≫	987	3	3	85	19	14	22	4	4	24	52	37	107	19
(%)	100	0.3	0.3	8.6	1.9	1.4	2.2	0.4	0.4	2.4	5.3	3.7	10.8	1.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	不動産	運輸	通信	電気 ガス	サービス	公官庁	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	46	37	20	6	211	39	235
(%)	5	3.7	2.0	0.6	21.4	4.0	23.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 2. 現在の職種

	該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	987	155	277	264	75	100	28	88
(%)	100	15.7	28.1	26.7	7.6	10.1	2.8	8.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 3. 現在の勤務先の企業規模

	該当数	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	987	426	190	130	88	113	40
(%)	100	43.2	19.3	13.2	8.9	11.4	4.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 4 1. 現在の1週間の勤務日数

	該当数	1日未満	1～2日未満	2～3日未満	3～4日未満	4～5日未満	5～6日未満	6～7日未満	7日以上	平均(日)* 0日含む
≪第5回調査(平成23年)≫	987	0	12	27	33	36	643	214	22	5.0
(%)	100	0.0	1.2	2.7	3.3	3.6	65.1	21.7	2.2	5.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 5 1. 現在の1日の勤務時間

	該当数	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8～9時間未満	9～10時間未満	10～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	平均(時間)* 0時間含む
≪第5回調査(平成23年)≫	987	0	7	13	14	21	27	41	74	426	150	159	46	9	8.3
(%)	100	0.0	0.7	1.3	1.4	2.1	2.7	4.2	7.5	43.2	15.2	16.1	4.7	0.9	8.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q10 1. 現在の就業状況についての満足度 (1)仕事の内容

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	147	432	256	107	45
(%)	100	14.9	43.8	25.9	10.8	4.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q10 2. 現在の就業状況についての満足度 (2)就業形態

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	155	394	260	132	46
(%)	100	15.7	39.9	26.3	13.4	4.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q10 3. 現在の就業状況についての満足度 (3)職場での地位の高さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	126	315	401	93	52
(%)	100	12.8	31.9	40.6	9.4	5.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.4. 現在の就業状況についての満足度 (4)賃金

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	63	208	283	259	174
(%)	100	6.4	21.1	28.7	26.2	17.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.5. 現在の就業状況についての満足度 (5)業績評価の公平さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	67	211	408	188	113
(%)	100	6.8	21.4	41.3	19.0	11.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.6. 現在の就業状況についての満足度 (6)福利厚生

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	56	202	375	231	123
(%)	100	5.7	20.5	38.0	23.4	12.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.7. 現在の就業状況についての満足度 (7)職場の人間関係・雰囲気

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	103	365	328	117	74
(%)	100	10.4	37.0	33.2	11.9	7.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.8. 現在の就業状況についての満足度 (8)全体として

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	84	381	309	150	63
(%)	100	8.5	38.6	31.3	15.2	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q11.1. 自由時間の有無

	総数	十分にある	まあまあ	不十分である	まったくない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	473	636	243	22
(%)	100	34.4	46.3	17.7	1.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q11.2. 自由時間の過ごし方

	該当数	仕事仲間とのプライベートなつきあい	仕事に関する勉強や残務整理	テレビ・ゴルフやスポーツ・酒など	ひとりで趣味・スポーツ・学習など	仲間と趣味・スポーツなど	パソコン通信やインターネットなど	個人的な友人・仲間とのつきあい	行楽・ドライブなど	庭いじりや家事など家庭内のこと	家庭との団らんや家庭サービス	近隣の人のつきあいや地域の用事	その他	特に何もしない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,352	58	88	388	475	228	800	297	256	321	396	71	39	16
(%)	-	4.3	6.5	28.7	35.1	16.9	59.2	22.0	18.9	23.7	29.3	5.3	2.9	1.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12. 社会活動参加状況

	総数	定期的に 参加している	ときどき参 加している	以前に参 加したこと がある	参加してい ない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	115	233	226	800
(%)	100	8.4	17.0	16.4	58.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野（複数選択）

	該当数	地域の生 活環境を 守る活動	イベントや “村おこし” の活動	趣味・ス ポーツや 学習ゲ ループの リーダーと しての活 動	児童や青 少年活動 の世話役 としての活 動	地域の文 化財や伝 統を守る 活動	消費者活 動や生活 向上のた めの活動	障害者・老 人の手助 けなどの 社会福祉 活動	行政の委 員、民生委 員、保護 司、人権擁 護委員等 の活動	自然保護 や環境保 全の活動	国際交流 に関する 活動	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	173	142	86	81	55	30	48	30	62	31	24
(%)	-	49.7	40.8	24.7	23.3	15.8	8.6	13.8	8.6	17.8	8.9	6.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野（最もあてはまるものをひとつ選択）

	該当数	地域の生 活環境を 守る活動	イベントや “村おこし” の活動	趣味・ス ポーツや 学習ゲ ループの リーダーと しての活 動	児童や青 少年活動 の世話役 としての活 動	地域の文 化財や伝 統を守る 活動	消費者活 動や生活 向上のた めの活動	障害者・老 人の手助 けなどの 社会福祉 活動	行政の委 員、民生委 員、保護 司、人権擁 護委員等 の活動	自然保護 や環境保 全の活動	国際交流 に関する 活動	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	95	61	55	33	11	6	26	12	13	13	23
(%)	100	27.3	17.5	15.8	9.5	3.2	1.7	7.5	3.4	3.7	3.7	6.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由（あてはまるもの3つまで選択）

	該当数	地域や社 会に貢献 したい	自分の知 識や経験 を活かした い	社会への 見聞を広 げたい	友人や仲 間を増やし たい	生活には りあいを持 たせたい	身近な人 に誘われ た	会社の勤 めや命令	社会人とし て当然と 思った	何となく	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	208	112	68	95	78	76	9	106	34	20
(%)	-	59.8	32.2	19.5	27.3	22.4	21.8	2.6	30.5	9.8	5.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由（最もあてはまるものをひとつ選択）

	該当数	地域や社 会に貢献 したい	自分の知 識や経験 を活かした い	社会への 見聞を広 げたい	友人や仲 間を増やし たい	生活には りあいを持 たせたい	身近な人 に誘われ た	会社の勤 めや命令	社会人とし て当然と 思った	何となく	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	121	50	12	30	29	34	4	33	16	19
(%)	100	34.8	14.4	3.4	8.6	8.3	9.8	1.1	9.5	4.6	5.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.3. やりがいを感じる活動団体

	該当数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボラ ンティア団 体	民間施設・ 機関のボ ランティア 団体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	17	7	124	1	25	45	17	15	23	56	18
(%)	100	4.9	2.0	35.6	0.3	7.2	12.9	4.9	4.3	6.6	16.1	5.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	348	31	161	5	3	1	32	105	10
(%)	100	8.9	46.3	1.4	0.9	0.3	9.2	30.2	2.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

	該当数	時間が無い	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,026	363	288	375	266	37	315	197	426	307	20
(%)	-	35.4	28.1	36.5	25.9	3.6	30.7	19.2	41.5	29.9	1.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

	該当数	時間が無い	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,026	192	106	97	117	7	86	36	176	194	15
(%)	100	18.7	10.3	9.5	11.4	0.7	8.4	3.5	17.2	18.9	1.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,026	11	553	282	180
(%)	100	1.1	53.9	27.5	17.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

	該当数	行政機関(民生委員など)	社会福祉協議会	町内会自治会	老人クラブ	公的施設・機関のボランティア団体	地域住民によるボランティア団体	民間施設・機関のボランティア団体	NPO法人	当事者団体	個人または個人的な集まり	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	564	62	23	93	9	70	76	43	114	3	60	11
(%)	100	11.0	4.1	16.5	1.6	12.4	13.5	7.6	20.2	0.5	10.6	2.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	564	89	208	3	22	22	57	145	18
(%)	100	15.8	36.9	0.5	3.9	3.9	10.1	25.7	3.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q13.1. 生活充足感 (1)健康					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	103 7.5	638 46.4	314 22.9	262 19.1	57 4.1	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.2. 生活充足感 (2)時間的ゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	188 13.7	609 44.3	272 19.8	243 17.7	62 4.5	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.3. 生活充足感 (3)経済的ゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	52 3.8	377 27.4	392 28.5	366 26.6	187 13.6	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.4. 生活充足感 (4)精神的ゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	64 4.7	454 33.0	431 31.4	330 24.0	95 6.9	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.5. 生活充足感 (5)家族の理解・愛情					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	209 15.2	639 46.5	378 27.5	111 8.1	37 2.7	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.6. 生活充足感 (6)友人・仲間					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	126 9.2	578 42.1	477 34.7	146 10.6	47 3.4	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.7. 生活充足感 (7)熱中できる趣味					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	168 12.2	605 44.0	365 26.6	190 13.8	46 3.3	
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】 Q13.8. 生活充足感 (8)仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	67 4.9	384 27.9	516 37.6	250 18.2	157 11.4
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.9. 生活充足感 (9)社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	48 3.5	317 23.1	629 45.8	239 17.4	141 10.3
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.10. 生活充足感 (10)自然とのふれあい

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	65 4.7	463 33.7	505 36.8	255 18.6	86 6.3
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.11. 生活充足感 (11)近隣との交流

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	24 1.7	294 21.4	569 41.4	333 24.2	154 11.2
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.12. 生活充足感 (12)社会の役に立つこと

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	26 1.9	218 15.9	615 44.8	353 25.7	162 11.8
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.13. 生活充足感 (13)住まいのこと

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	100 7.3	561 40.8	487 35.4	169 12.3	57 4.1
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.1. 性格 (1)人との関係やつながりを大切に

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	307 22.3	827 60.2	218 15.9	22 1.6
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.2. 性格 (2) 自分の世界や個性を大切にす

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	283 20.6	861 62.7	216 15.7	14 1.0
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.3. 性格 (3) いつも目標に向かって進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	128 9.3	632 46.0	568 41.3	46 3.3
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.4. 性格 (4) 無理をせずマイペースで進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	209 15.2	957 69.7	192 14.0	16 1.2
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.5. 性格 (5) 他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	226 16.4	855 62.2	276 20.1	17 1.2
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.6. 性格 (6) 自分には他人にない優れたところがある

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	107 7.8	623 45.3	578 42.1	66 4.8
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.7. 性格 (7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	143 10.4	619 45.1	558 40.6	54 3.9
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.8. 性格 (8) 一つのことじこにじっくり取り組む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374 100	140 10.2	743 54.1	453 33.0	38 2.8
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.9. 性格 (9)指導者の立場に立とうとする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	51	384	689	250
(%)	100	3.7	27.9	50.1	18.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.10. 性格 (10)新しいグループの中にわりと気軽に入れる

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	65	526	619	164
(%)	100	4.7	38.3	45.1	11.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.11. 性格 (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	116	880	346	32
(%)	100	8.4	64.0	25.2	2.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.12. 性格 (12)上下の立場や関係を尊重する

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	144	860	335	35
(%)	100	10.5	62.6	24.4	2.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.13. 性格 (13)どんなところでも結構楽しみを見出す

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	123	734	473	44
(%)	100	9.0	53.4	34.4	3.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やは あい	生活のリ ズムやメ ハリ	心の安ら ぎや気晴 らし	生きる喜 びや満足 感	人生観や 価値観の 形成	生きる目 標や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何か をやりと げたと感 じるこ と	他人や社 会の役に 立っている と感じる こと	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	364	153	417	612	179	272	162	220	141	5
(%)	-	26.5	11.1	30.3	44.5	13.0	19.8	11.8	16.0	10.3	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q15.2. 生きがいの有無

	総数	持って いる	前は持つ ていたが、 今は持つ ていない	持って いない	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	720	147	261	246
(%)	100	52.4	10.7	19.0	17.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q16. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	320	687	154	47	76	197	326	605	204	164	228	190	34
(%)	-	23.3	50.0	11.2	3.4	5.5	14.3	23.7	44.0	14.8	11.9	16.6	13.8	2.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	873	419	74	251	75	86	89
(%)	-	63.5	30.5	5.4	18.3	5.5	6.3	6.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	590	593	83	166	123	90	106
(%)	-	42.9	43.2	6.0	12.1	9.0	6.6	7.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	1003	57	49	378	43	159	69
(%)	-	73.0	4.1	3.6	27.5	3.1	11.6	5.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	863	289	65	293	71	130	91
(%)	-	62.8	21.0	4.7	21.3	5.2	9.5	6.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	575	311	54	353	286	107	133
(%)	-	41.8	22.6	3.9	25.7	20.8	7.8	9.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	837	338	44	88	172	140	125
(%)	-	60.9	24.6	3.2	6.4	12.5	10.2	9.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場 (7)どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	392	554	92	164	342	108	151
(%)	-	28.5	40.3	6.7	11.9	24.9	7.9	11.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場 (8)可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	360	650	99	92	234	128	151
(%)	-	26.2	47.3	7.2	6.7	17.0	9.3	11.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場 (9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	471	623	124	143	170	73	174
(%)	-	34.3	45.3	9.0	10.4	12.4	5.3	12.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.1. 配偶者との関係 (1)配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	339	557	133	41
(%)	100	31.7	52.1	12.4	3.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.2. 配偶者との関係 (2)自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	277	559	193	41
(%)	100	25.9	52.2	18.0	3.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.3. 配偶者との関係 (3)配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	124	428	389	129
(%)	100	11.6	40.0	36.4	12.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.4. 配偶者との関係 (4)配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	297	450	238	85
(%)	100	27.8	42.1	22.2	7.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.5. 配偶者との関係 (5)配偶者と会話がある(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	306	525	192	47
(%)	100	28.6	49.1	17.9	4.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.6. 配偶者との関係 (6)配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	320	569	144	37
(%)	100	29.9	53.2	13.5	3.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.7. 配偶者との関係 (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	51	156	312	331	220
(%)	100	4.8	14.6	29.2	30.9	20.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.8. 配偶者との関係 (8)配偶者は金銭的にうるさい(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	48	220	522	280
(%)	100	4.5	20.6	48.8	26.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.9. 配偶者との関係 (9)配偶者は自分よりかかりすぎる(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	54	238	577	201
(%)	100	5.0	22.2	53.9	18.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.10. 配偶者との関係 (10)配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)

	該当数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	77	215	468	310
(%)	100	7.2	20.1	43.7	29.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19. あなたは定年を経験しましたか(SA)

	総数	まだ定年 前	まだ定年 前 (定年なし)	定年前に 退職した	定年 退職した
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	482	469	201	222
(%)	100	35.1	34.1	14.6	16.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.1. 定年は何歳ですか：「まだ定年前」選択者

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	482	0	1	9	343	114	12	3	-	61.5
(%)	100	0.0	0.2	1.9	71.2	23.7	2.5	0.6	-	61.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.3. 定年は何歳ですか：「定年前に退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	201	80	29	70	21	1	0	0	-	46.2
(%)	100	39.8	14.4	34.8	10.4	0.5	0.0	0.0	-	46.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.4. 定年は何歳ですか：「定年退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	222	0	2	9	180	23	8	0	-	61.1
(%)	100	0.0	0.9	4.1	81.1	10.4	3.6	0.0	-	61.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (1) 定年後の生活費を主に何によってまかないますか(MA)

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の保険金や個人年金	預貯金の取りくずし	就労による収入	子ども等からの経済的支援	その他	わからない・考えたことがない
≪第5回調査(平成23年)≫	951	727	41	215	281	421	358	11	22	79
(%)	-	76.4	4.3	22.6	29.5	44.3	37.6	1.2	2.3	8.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) 今の会社に定年まで勤めたいですか(SA)

	該当数	定年まで勤めたい	定年前に退職したい
≪第5回調査(平成23年)≫	951	795	156
(%)	100	83.6	16.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) あと何年くらい今の会社に勤めたいですか：「定年前に退職したい」選択者

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	平均(年)*0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	156	65	45	31	9	6	5.9
(%)	100	41.7	28.8	19.9	5.8	3.8	5.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) 定年退職後または定年前の退職後に仕事をどのようにしたいですか(SA)

	該当数	退職とともに職業生活から引退したい	できれば仕事を継続したい	定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	退職後は別の企業に再就職したい	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝いたい	退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	その他	わからない・考えたことがない
≪第5回調査(平成23年)≫	951	172	351	62	71	87	8	58	16	126
(%)	100	18.1	36.9	6.5	7.5	9.1	0.8	6.1	1.7	13.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3)どのくらいまで「仕事を継続したい」ですか(SA)

	該当数	満額年金 受給時まで	元気なうち はいつまで も	()歳まで (計)	50歳未満	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70~74 歳	平均
≪第5回調査(平成23年)≫	351	57	281	13	0	1	0	1	6	5	65.4
(%)	100	16.2	80.1	3.7	0.0	7.7	0.0	7.7	46.2	38.5	
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (4)過去5年間に次のような出来事がありましたか(MA)

	総数	子どもや 孫の誕生	子どもの 成人・就職	子どもや 孫との別 居	子どもの 結婚	自分自身 の入院	配偶者の 入院	その他の 家族の入 院	配偶者の 死	その他の 家族の死	昇進・昇格	出向・転籍	中途退職 ・失業 (解雇)
≪第5回調査(平成23年)≫	951	189	108	51	83	134	88	225	3	181	133	40	111
(%)	-	19.9	11.4	5.4	8.7	14.1	9.3	23.7	0.3	19.0	14.0	4.2	11.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	災害等に よる資産 の減少・経 済的困難	自宅の購 入・建て替 え	親の介護	親との新 たな同居	その他	いずれもな い
≪第5回調査(平成23年)≫	32	108	101	11	17	223
(%)	3.4	11.4	10.6	1.2	1.8	23.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (1)定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか(SA)

	該当数	専門技術 職(研究 職・技師 等)	管理職(役 員・課長以 上の管理 職)	事務職(一 般事務・営 業・経理事 務等)	販売職(店 員・セール ス等)	技能職	サービス 職(添乗 員・ホテル マン等)	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	423	52	164	97	30	34	10	36
(%)	100	12.3	38.8	22.9	7.1	8.0	2.4	8.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (2)定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか(SA)

	該当数	1~29人	30~99 人	100~ 299人	300~ 999人	1000人 以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	423	82	60	58	61	135	27
(%)	100	19.4	14.2	13.7	14.4	31.9	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (3)定年後・退職後に仕事につきましたか(SA)

	該当数	退職ととも に職業生 活から引 退した	退職後も 再雇用制 度等によ り、前の会 社に勤め た	退職後は 出向先に 移籍した	退職後は 別の企業 に再就職 した	退職後は 自分で事 業や商売 を始めた (自由業を 含む)	退職後は 家業を手 伝うよう になった	退職後は シルバー 人材セン ターで仕事 するよう になった	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	423	221	42	10	59	40	16	8	27
(%)	100	52.2	9.9	2.4	13.9	9.5	3.8	1.9	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (4) 定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか (MA)

	該当数	経済的に 苦しくなった	住宅問題 で困った	自分や配 偶者の健 康や体力 が衰えた	配偶者や 親の介護 が必要に なった	配偶者に 先立たれ た	その他の 家族の入 院や死	再就職の ことで困っ た	家族との 人間関係 が悪くなっ た	親との新 たな同居	生活のは りあいや生 きがいにな らなくなった	所属や肩 書がなくな り、淋しい 思いをした	今までの 人的交流 や情報量 が減って 困った
《第5回調査(平成23年)》 (%)	423	132	16	120	61	9	62	34	12	18	55	28	85
	-	31.2	3.8	28.4	14.4	2.1	14.7	8.0	2.8	4.3	13.0	6.6	20.1
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	世の中の 情報化の 進展につ いていけ ず困った	社会から 取り残され てしまった	時間をも てあま した	地域社会 にとけこ まなかつ た	その他	特に問題 はなかつ た
《第5回調査(平成23年)》 (%)	17	18	73	19	6	131
	4.0	4.3	17.3	4.5	1.4	31.0
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : A-全員 (MA)

	総数	健康の維 持・増進を 心がける	貯蓄・住宅 など、経済 的基盤を つくる	生涯楽し める趣味 などを持つ	定年後も 活かせる 専門的技 術を身に つける	夫婦・家族 の関係を 大切にす る	友人や仲 間との交 流を深め る	近隣や地 域の人と の交流を 深める	会社以外 の活動の 場をつく っておく	その他	特に何も 必要ない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374	917	926	569	153	479	242	103	148	4	82
	-	66.7	67.4	41.4	11.1	34.9	17.6	7.5	10.8	0.3	6.0
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-一定年前の方 (MA)

	総数	健康の維 持・増進を 心がける	貯蓄・住宅 など、経済 的基盤を つくる	生涯楽し める趣味 などを持つ	定年後も 活かせる 専門的技 術を身に つける	夫婦・家族 の関係を 大切にす る	友人や仲 間との交 流を深め る	近隣や地 域の人と の交流を 深める	会社以外 の活動の 場をつく っておく	その他	特に何も 必要ない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	951	483	461	299	110	299	226	83	111	2	163
	-	50.8	48.5	31.4	11.6	31.4	23.8	8.7	11.7	0.2	17.1
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : C-定年後・退職後の方 (MA)

	総数	健康の維 持・増進を 心がける	貯蓄・住宅 など、経済 的基盤を つくる	生涯楽し める趣味 などを持つ	定年後も 活かせる 専門的技 術を身に つける	夫婦・家族 の関係を 大切にす る	友人や仲 間との交 流を深め る	近隣や地 域の人と の交流を 深める	会社以外 の活動の 場をつく っておく	その他	特に何も 必要ない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	423	158	182	179	40	119	100	64	57	2	80
	-	37.4	43.0	42.3	9.5	28.1	23.6	15.1	13.5	0.5	18.9
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (2) 企業として必要な条件の整備

	総数	退職準備 教育や退 職相談を 充実させる	企業年金 の充実な ど社員の 経済的基 盤充実を 力を入れ る	労働時間 短縮で、社 員の個人 的生活に ゆとりを 持たせる	中高年者 の能力再 開発の研 修制度を 充実させる	希望者に は定年年 齢を延長 させる	定年後の 再雇用な ど、再就 職の場を 用意する	社会活動 や余暇活 動奨励や 支援の制 度を設け る	定年前の “ならし 運転”のた めの休暇 制度を設 ける	退職に向 けたセミ ナーの充 実	その他	特に何も 必要ない
《第5回調査(平成23年)》 (%)	1,374	422	515	350	312	689	698	214	182	236	9	188
	-	30.7	37.5	25.5	22.7	50.1	50.8	15.6	13.2	17.2	0.7	13.7
《第4回調査(平成18年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q22. 定年退職に向けて (3) 社会として必要な条件の整備

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンOBが入りできる交流の場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	888	760	207	449	391	355	21	122
(%)	-	64.6	55.3	15.1	32.7	28.5	25.8	1.5	8.9
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q23. 将来の住まい

	総数	自分または配偶者の持家に住む	親・親類から家を譲り受ける	賃貸住宅に住む	自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設)に住む	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,374	1,047	91	164	52	20
(%)	100	76.2	6.6	11.9	3.8	1.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q24. (1) 現在の住宅ローンの有無(SA)

	総数	あり	なし
《第5回調査(平成23年)》	1,374	391	983
(%)	100	28.5	71.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-
(%)	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-
(%)	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-
(%)	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】

Q24. 住宅ローンはあと何年ですか(SA)

	総数	4年以下	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年以上
《第5回調査(平成23年)》	391	26	50	68	52	72	68	55
(%)	100	6.6	12.8	17.4	13.3	18.4	17.4	14.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q25. 住宅ローンの残高(SA)

	総数	100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
《第5回調査(平成23年)》	391	7	32	75	135	120	3	0	19
(%)	100	1.8	8.2	19.2	34.5	30.7	0.8	0.0	4.9
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q26. 昨年の世帯年収(SA)

	総数	200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満	1500万円以上	わからない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	76	151	185	183	174	228	124	118	57	78
(%)	100	5.5	11.0	13.5	13.3	12.7	16.6	9.0	8.6	4.1	5.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円未満	100万円以上～50万円未満	500万円以上～100万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,374 100	92 6.7	155 11.3	263 19.1	183 13.3	167 12.2	188 13.7	68 4.9	20 1.5	238 17.3
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (1)公的年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	23 5.3	28 6.5	38 8.8	15 3.5	23 5.3	44 10.1	29 6.7	29 6.7	32 7.4	37 8.5	136 31.3	6.4 6.4
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (2)企業年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	398 91.7	10 2.3	10 2.3	3 0.7	7 1.6	3 0.7	1 0.2	1 0.2	0 0.0	0 0.0	1 0.2	0.2 0.2
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (3)個人年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	363 83.6	33 7.6	14 3.2	6 1.4	8 1.8	6 1.4	1 0.2	0 0.0	2 0.5	1 0.2	0 0.0	0.4 0.4
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (4)給与

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	287 66.1	16 3.7	17 3.9	19 4.4	17 3.9	10 2.3	5 1.2	11 2.5	25 5.8	19 4.4	8 1.8	1.8 1.8
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (5)不動産収入・利息・配当金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	341 78.6	35 8.1	21 4.8	14 3.2	9 2.1	5 1.2	5 1.2	1 0.2	2 0.5	1 0.2	0 0.0	0.6 0.6
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (6)その他の収入

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	434 100	349 80.4	30 6.9	19 4.4	13 3.0	6 1.4	5 1.2	3 0.7	1 0.2	4 0.9	2 0.5	2 0.5	0.6 0.6
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	61	185	598	372	158
(%)	100	4.4	13.5	43.5	27.1	11.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)

	総数	以前よりとても楽になった	以前より少し楽になった	変わらない	以前より少し苦しくなった	以前よりとても苦しくなった
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	30	150	526	483	185
(%)	100	2.2	10.9	38.3	35.2	13.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	251	462	170	27	464
(%)	100	18.3	33.6	12.4	2.0	33.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	168	309	187	50	660
(%)	100	12.2	22.5	13.6	3.6	48.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	319	640	335	80	-
(%)	100	23.2	46.6	24.4	5.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	222	509	280	45	318
(%)	100	16.2	37.0	20.4	3.3	23.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか(SA)

	総数	配偶者	自分の子ども	自分の兄弟姉妹	介護サービスによる在宅介護	介護施設に入る	まだ考えていない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	420	89	2	143	269	439	12
(%)	100	30.6	6.5	0.1	10.4	19.6	32.0	0.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q33.「ライフプランセミナー」をご存じですか(SA)

	総数	知っているが受講していない	知っているが受講している	知らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,152	25	347	780
(%)	100	2.2	30.1	67.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-

【本人調査】 Q34.「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですがどこで受講しましたか(SA)

	総数	勤めている会社	金融機関	役所等の公的機関	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	25	14	2	3	6
(%)	100	56.0	8.0	12.0	24.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q35.「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですが受講してよかったと思いますか(MA)

	総数	退職後の生活設計のイメージを考えるときっかけとなりよかった	退職後の自分の家計プランを作成できた	年金の知識をすることができた	あまり役にた	ほとんど役にた	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	25	11	4	9	7	2	1
(%)	-	44.0	16.0	36.0	28.0	8.0	4.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q36.「ライフプランセミナー」を受講していないとお答えですが受講してみたいですか(SA)

	総数	無料であれば受講してみたい	有料(1日コースで8千円程度)でも受講してみたい	有料(1泊2日コースで宿泊料込みで3万円程度)でもじっくり受講してみたい	受講してみたいとは思わない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,127	456	15	3	649	4
(%)	100	40.5	1.3	0.3	57.6	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

II. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

(3) 配偶者調査結果

【配偶者調査】

SC1. 性別

	総数	男	女	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	0	1,078	0
(%)	100	0.0	100.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	224	1,286	9
(%)	100	14.7	84.7	0.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	333	2,145	47
(%)	100	13.2	85.0	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	241	2,145	44
(%)	100	9.9	88.3	1.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	271	2,299	3
(%)	100	10.5	89.4	0.1

(注: 第5回は第2号被保険者の配偶者(35～74歳の女性)1,078人の集計結果)

【配偶者調査】

SC2.1. 年齢

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	0	177	153	137	133	139	115	115	109	0	0	52.6
(%)	100	0.0	16.4	14.2	12.7	12.3	12.9	10.7	10.7	10.1	0.0	0.0	52.6
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	82	150	192	187	204	251	215	156	56	14	12	52.3
(%)	100	5.4	9.9	12.6	12.3	13.4	16.5	14.2	10.3	3.7	0.9	0.8	52.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	104	238	275	292	391	370	411	259	102	22	61	53.0
(%)	100	4.1	9.4	10.9	11.6	15.5	14.7	16.3	10.3	4.0	0.9	2.4	53.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	115	219	268	348	327	396	384	256	73	14	30	52.6
(%)	100	4.7	9.0	11.0	14.3	13.5	16.3	15.8	10.5	3.0	0.6	1.2	52.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	103	261	375	319	372	397	390	249	56	7	44	51.8
(%)	100	4.0	10.1	14.6	12.4	14.5	15.4	15.2	9.7	2.2	0.3	1.7	51.8

【配偶者調査】

Q8. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	10	231	63	16	3	755	0	0
(%)	100	0.9	21.4	5.8	1.5	0.3	70.0	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	275	357	43	14	2	713	44	71
(%)	100	18.1	23.5	2.8	0.9	0.1	46.9	2.9	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	358	597	113	57	5	1,025	172	198
(%)	100	14.2	23.6	4.5	2.3	0.2	40.6	6.8	7.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	386	543	99	75	12	889	239	187
(%)	100	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	358	551	130	111	2	1,353	-	68
(%)	100	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	-	2.6

【配偶者調査】

Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年) *0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	754	179	145	122	40	268	0	0	16.1
(%)	100	23.7	19.2	16.2	5.3	35.5	0.0	0.0	16.1
≪第4回調査(平成18年)≫	713	147	124	106	56	232	5	43	16.1
(%)	100	20.6	17.4	14.9	7.9	32.5	0.7	6.0	16.1
≪第3回調査(平成13年)≫	1,025	225	174	134	74	264	3	151	14.7
(%)	100	22.0	17.0	13.1	7.2	25.8	0.3	14.7	14.7
≪第2回調査(平成8年)≫	889	178	136	133	62	237	5	138	15.0
(%)	100	20.0	15.3	15.0	7.0	26.7	0.6	15.5	15.0
≪第1回調査(平成3年)≫	1,353	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】

Q12. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	100	178	199	601	0
(%)	100	9.3	16.5	18.5	55.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	216	215	195	846	47
(%)	100	14.2	14.2	12.8	55.7	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	376	307	321	1,261	260
(%)	100	14.9	12.2	12.7	49.9	10.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	283	437	398	1,360	95
(%)	100	11.0	17.0	15.5	52.9	3.7

【配偶者調査】

Q12.1. 社会活動参加分野(複数選択)

	該当数	地域の生活環境を守る活動	地域のイベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	278	127	81	51	57	16	19	52	18	27	17	28	0
(%)	-	45.7	29.1	18.3	20.5	5.8	6.8	18.7	6.5	9.7	6.1	10.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	431	147	124	96	118	21	19	70	34	29	5	37	1
(%)	-	34.1	28.8	22.3	27.4	4.9	4.4	16.2	7.9	6.7	1.2	8.6	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	683	212	149	166	105	27	61	160	41	31	26	48	5
(%)	-	31.0	21.8	24.3	15.4	4.0	8.9	23.4	6.0	4.5	3.8	7.0	0.7
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.1. 社会活動参加分野（最もあてはまるものをひとつ選択）

	該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他
《第5回調査(平成23年)》	278	78	36	27	36	4	6	33	12	12	7	27
(%)	100	28.1	12.9	9.7	12.9	1.4	2.2	11.9	4.3	4.3	2.5	9.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.2. 社会活動参加理由（あてはまるもの3つまで選択）

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを果たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
《第5回調査(平成23年)》	278	144	80	52	74	64	86	7	62	32	20	0
(%)	-	51.8	28.8	18.7	26.6	23.0	30.9	2.5	22.3	11.5	7.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	431	211	93	63	141	89	120	11	77	4	30	7
(%)	-	49.0	21.6	14.6	32.7	20.6	27.8	2.6	17.9	0.9	7.0	1.6
《第3回調査(平成13年)》	683	353	168	121	201	164	145	12	123	6	48	4
(%)	-	51.7	24.6	17.7	29.4	24.0	21.2	1.8	18.0	0.9	7.0	0.6
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.2. 社会活動参加理由（最もあてはまるものをひとつ選択）

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを果たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他
《第5回調査(平成23年)》	278	67	40	16	15	30	47	4	25	16	18
(%)	100	24.1	14.4	5.8	5.4	10.8	16.9	1.4	9.0	5.8	6.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.3. やりがいを感じる活動団体

	該当数	行政機関(民生委員など)	社会福祉協議会	町内会自治会	老人クラブ	公的施設・機関のボランティア団体	地域住民によるボランティア団体	民間施設・機関のボランティア団体	NPO法人	当事者団体	個人または個人的な集まり	その他
《第5回調査(平成23年)》	278	11	8	85	9	24	27	17	8	12	59	18
(%)	100	4.0	2.9	30.6	3.2	8.6	9.7	6.1	2.9	4.3	21.2	6.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
《第5回調査(平成23年)》	278	23	120	4	4	1	27	86	13
(%)	-	8.3	43.2	1.4	1.4	0.4	9.7	60.9	4.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由（あてはまるもの3つまで選択）

	該当数	時間が無い	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあった活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味が無い、関心がない	その他	無回答
《第5回調査(平成23年)》	800	209	165	293	270	30	222	171	308	224	32	0
(%)	-	26.1	20.6	36.6	33.8	3.8	27.8	21.4	38.5	28.0	4.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,041	502	93	213	184	13	188	75	303	184	58	27
(%)	-	48.2	8.9	20.5	17.7	1.2	18.1	7.2	29.1	17.7	5.6	2.6
《第3回調査(平成13年)》	1,582	718	112	283	320	22	278	144	445	183	91	51
(%)	-	45.4	7.1	17.9	20.2	1.4	17.6	9.1	28.1	11.6	5.8	3.2
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1,758	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由（最もあてはまるものをひとつ選択）

	該当数	時間が ない	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがな い	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協 力が得ら れない	自分にあ った活動 の場がな い	いっしょ にやる仲 間がい ない	何から始 めるか、 きっかけ つかめな い	興味がな い、関心 がない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	800 100	106 13.3	37 4.6	98 12.3	131 16.4	8 1.0	51 6.4	34 4.3	154 19.3	153 19.1	28 3.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に 参加したい	条件によ つては参 加しても よい	参加す るつもり はない	わから ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	800 100	13 1.6	418 52.3	182 22.8	187 23.4	0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,041 100	29 2.8	543 52.2	167 16.0	278 26.7	24 2.3
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	1,582 100	79 5.0	867 54.8	183 11.6	427 27.0	26 1.6
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	1,758 -	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

	該当数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボ ランティア 団体	民間施設・ 機関のボ ランティア 団体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	431 100	27 6.3	29 6.7	48 11.1	3 0.7	77 17.9	65 15.1	43 10.0	62 14.4	7 1.6	52 12.1	18 4.2
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.8. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運 営主体(運 営者や機 関)	活動の 内容	活動団体 の歴史 (存続年 数)	活動団体 の評判	活動団体 内の統制 のとれた 規律	活動団体 内の対等 な 人間関係	自宅と活 動地域と の距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	431 100	49 11.4	162 37.6	3 0.7	8 1.9	14 3.2	41 9.5	133 30.9	21 4.9
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.1. 生活充足感 (1)健康

	総数	十分満 たされて いる	まあ満 たされて いる	どちら ともい えない	やや欠 けている	まったく 欠けて いる	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	85 7.9	536 49.7	226 21.0	180 16.7	51 4.7	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,519 100	144 9.5	829 54.6	244 16.1	243 16.0	37 2.4	22 1.4
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	2,525	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,430	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	2,573	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.2. 生活充足感 (2)時間的ゆとり

	総数	十分満 たされて いる	まあ満 たされて いる	どちら ともい えない	やや欠 けている	まったく 欠けて いる	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	188 17.4	525 48.7	202 18.7	129 12.0	34 3.2	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,519 100	194 12.8	569 37.5	333 21.9	333 21.9	67 4.4	23 1.5
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	2,525	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,430	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	2,573	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.3. 生活充足感 (3) 経済的ゆとり

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	54	407	291	229	97	0
(%)	100	5.0	37.8	27.0	21.2	9.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	104	682	418	235	58	22
(%)	100	6.8	44.9	27.5	15.5	3.8	1.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.4. 生活充足感 (4) 精神的ゆとり

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	71	420	309	217	61	0
(%)	100	6.6	39.0	28.7	20.1	5.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	108	662	416	247	51	35
(%)	100	7.1	43.6	27.4	16.3	3.4	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.5. 生活充足感 (5) 家族の理解・愛情

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	197	573	222	68	18	0
(%)	100	18.3	53.2	20.6	6.3	1.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	347	840	226	64	11	31
(%)	100	22.8	55.3	14.9	4.2	0.7	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.6. 生活充足感 (6) 友人・仲間

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	98	571	294	86	29	0
(%)	100	9.1	53.0	27.3	8.0	2.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	240	844	290	106	13	26
(%)	100	15.8	55.6	19.1	7.0	0.9	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.7. 生活充足感 (7) 熱中できる趣味

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	133	460	308	147	30	0
(%)	100	12.3	42.7	28.6	13.6	2.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	198	541	387	279	87	27
(%)	100	13.0	35.6	25.5	18.4	5.7	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.8. 生活充足感 (8) 仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	32	217	497	174	158	0
(%)	100	3.0	20.1	46.1	16.1	14.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	84	482	573	141	121	118
(%)	100	5.5	31.7	37.7	9.3	8.0	7.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.9. 生活充足感 (9) 社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満た されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	15	133	600	175	155	0
(%)	100	1.4	12.3	55.7	16.2	14.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	40	286	722	197	193	81
(%)	100	2.6	18.8	47.5	13.0	12.7	5.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.10. 生活充足感 (10)自然とのふれあい

	総数	十分満た されている	まあ満足 されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	50	413	398	176	41	0
(%)	100	4.6	38.3	36.9	16.3	3.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	92	510	492	309	87	29
(%)	100	6.1	33.6	32.4	20.3	5.7	1.9
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.11. 生活充足感 (11)近隣との交流

	総数	十分満た されている	まあ満足 されている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	30	317	458	202	71	0
(%)	100	2.8	29.4	42.5	18.7	6.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	66	558	476	310	87	22
(%)	100	4.3	36.7	31.3	20.4	5.7	1.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.12. 生活充足感 (12)社会の役に立つこと

	総数	十分満た されている	まあ 満足されて いる	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	15	150	505	306	102	0
(%)	100	1.4	13.9	46.8	28.4	9.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	31	272	623	397	157	39
(%)	100	2.0	17.9	41.0	26.1	10.3	2.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.13. 生活充足感 (13)住まいのこと

	総数	十分満た されている	まあ 満足されて いる	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	89	462	359	138	30
(%)	100	8.3	42.9	33.3	12.8	2.8
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やはい あい	生活のリ ズムやメリ ハリ	心の安ら ぎや気晴 らし	生きる喜び や満足感	人生観や 価値観の 形成	生きる目 標や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何か をやりと げたと感 じるこ と	他人や社 会の役に 立っている と感じる こと	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	308	101	341	516	84	215	142	205	103	8	0
(%)	-	28.6	9.4	31.6	47.9	7.8	19.9	13.2	19.0	9.6	0.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	483	165	449	642	96	348	242	263	163	15	19
(%)	-	31.8	10.9	29.6	42.3	6.3	22.9	15.9	17.3	10.7	1.0	1.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	657	242	673	1015	167	454	535	656	341	21	45
(%)	-	26.0	9.6	26.7	40.2	6.6	18.0	21.2	26.0	13.5	0.8	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	632	212	686	949	149	438	503	632	381	12	40
(%)	-	26.0	8.7	28.2	39.1	6.1	18.0	20.7	26.0	15.7	0.5	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	934	209	814	1079	155	434	679	-	413	7	49
(%)	-	36.3	8.1	31.6	41.9	6.0	16.9	26.4	-	16.1	0.3	1.9

【配偶者調査】 Q15.2. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持つ ていたが、 今は持つ ていない	持って いない	わからない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	520	105	175	278	0
(%)	100	48.2	9.7	16.2	25.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	893	112	146	334	34
(%)	100	58.8	7.4	9.6	22.0	2.2
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,804	130	179	360	52
(%)	100	71.4	5.1	7.1	14.3	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,982	107	96	206	39
(%)	100	81.6	4.4	4.0	8.5	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,670	203	344	285	71
(%)	100	64.9	7.9	13.4	11.1	2.8

【配偶者調査】 Q16. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然との ふれあい	配偶者・ 結婚生活	子ども・ 孫・親など の家族・家 庭	友人など 家族以外 の人の交 流	自分自身 の 健康づくり	ひとりで気 まますご すこと	自分自身 の内面の 充実	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	96	453	81	41	60	130	316	578	216	130	191	201	26	0
(%)	-	8.9	42.0	7.5	3.8	5.6	12.1	29.3	53.6	20.0	12.1	17.7	18.6	2.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	256	576	148	53	80	230	432	864	391	221	201	235	13	18
(%)	-	16.9	37.9	9.7	3.5	5.3	15.1	28.4	56.9	25.7	14.5	13.2	15.5	0.9	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	454	1066	227	135	130	467	748	1416	651	412	275	410	40	50
(%)	-	18.0	42.2	9.0	5.3	5.1	18.5	29.6	56.1	25.8	16.3	10.9	16.2	1.6	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	442	950	171	96	144	377	589	1096	562	388	179	328	14	8
(%)	-	18.2	39.1	7.0	4.0	5.9	15.5	24.2	45.1	23.1	16.0	7.4	13.5	0.6	0.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q17.1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	779	165	41	250	71	75	55	0
(%)	-	72.3	15.3	3.8	23.2	6.6	7.0	5.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,187	357	125	372	71	76	15	32
(%)	-	78.1	23.5	8.2	24.5	4.7	5.0	1.0	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,930	605	243	855	136	167	26	111
(%)	-	76.4	24.0	9.6	33.9	5.4	6.6	1.0	4.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,872	620	235	695	134	129	10	106
(%)	-	77.0	25.5	9.7	28.6	5.5	5.3	0.4	4.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,959	678	313	671	143	152	18	106
(%)	-	76.1	26.4	12.2	26.1	5.6	5.9	0.7	4.1

【配偶者調査】 Q17.2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	572	260	79	164	105	66	87	0
(%)	-	53.1	24.1	7.3	15.2	9.7	6.1	8.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	905	508	168	255	131	81	24	51
(%)	-	59.6	33.4	11.1	16.8	8.6	5.3	1.6	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,404	849	299	563	215	183	43	186
(%)	-	55.6	33.6	11.8	22.3	8.5	7.2	1.7	7.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,359	770	310	485	219	159	37	213
(%)	-	55.9	31.7	12.8	20.0	9.0	6.5	1.5	8.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q17.3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	829	12	34	336	23	105	49	0
(%)	-	76.9	1.1	3.2	31.2	2.1	9.7	4.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,162	48	78	633	48	177	21	32
(%)	-	76.5	3.2	5.1	41.7	3.2	11.7	1.4	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,885	113	138	1,234	65	286	27	140
(%)	-	74.7	4.5	5.5	48.9	2.6	11.3	1.1	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,824	116	177	1,029	98	225	20	138
(%)	-	75.1	4.8	7.3	42.3	4.0	9.3	0.8	5.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,959	164	242	1,051	113	286	12	119
(%)	-	76.1	6.4	9.4	40.8	4.4	11.1	0.5	4.6

【配偶者調査】 Q17.4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	777	109	43	236	55	113	65	0
(%)	-	72.1	10.1	4.0	21.9	5.1	10.5	6.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,152	252	109	352	64	152	27	46
(%)	-	75.8	16.6	7.2	23.2	4.2	10.0	1.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,849	466	178	689	152	267	41	181
(%)	-	73.2	18.5	7.0	27.3	6.0	10.6	1.6	7.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,786	440	199	546	137	229	29	195
(%)	-	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6	9.4	1.2	8.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,791	513	253	495	143	232	55	226
(%)	-	69.6	19.9	9.8	19.2	5.6	9.0	2.1	8.8

【配偶者調査】 Q17.5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	570	77	49	323	232	86	93	0
(%)	-	52.9	7.1	4.5	30.0	21.5	8.0	8.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	815	279	114	502	291	133	32	50
(%)	-	53.7	18.4	7.5	33.0	19.2	8.8	2.1	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,257	427	214	892	539	231	53	221
(%)	-	49.8	16.9	8.5	35.3	21.3	9.1	2.1	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,175	386	264	864	469	185	59	202
(%)	-	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	7.6	2.4	8.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,089	440	326	854	629	197	55	217
(%)	-	42.3	17.1	12.7	33.2	24.4	7.7	2.1	8.4

【配偶者調査】 Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	761	99	39	68	136	114	91	0
(%)	-	70.6	9.2	3.6	6.3	12.6	10.6	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,182	258	112	91	212	138	26	51
(%)	-	77.8	17.0	7.4	6.0	14.0	9.1	1.7	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,823	430	165	171	406	211	27	266
(%)	-	72.2	17.0	6.5	6.8	16.1	8.4	1.1	10.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,830	441	190	142	344	199	30	200
(%)	-	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2	8.2	1.2	8.2
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,974	436	223	124	428	176	30	211
(%)	-	76.7	16.9	8.7	4.8	16.6	6.8	1.2	8.2

【配偶者調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場 (7)どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	415	218	84	160	254	109	132	0
(%)	-	38.5	20.2	7.8	14.8	23.6	10.1	12.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	587	499	218	253	350	138	53	42
(%)	-	38.6	32.9	14.4	16.7	23.0	9.1	3.5	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	864	779	358	474	625	246	97	254
(%)	-	34.2	30.9	14.2	18.8	24.8	9.7	3.8	10.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	797	720	423	478	612	221	61	226
(%)	-	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	9.1	2.5	9.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	656	744	524	479	786	223	66	242
(%)	-	25.5	28.9	20.4	18.6	30.5	8.7	2.6	9.4

【配偶者調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場 (8)可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	431	276	101	87	173	118	138	0
(%)	-	40.0	25.6	9.4	8.1	16.0	10.9	12.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	621	552	193	123	224	190	85	50
(%)	-	40.9	36.3	12.7	8.1	14.7	12.5	5.6	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,008	872	358	202	405	289	143	223
(%)	-	39.9	34.5	14.2	8.0	16.0	11.4	5.7	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	970	830	415	152	378	289	131	219
(%)	-	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6	11.9	5.4	9.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	986	853	439	182	402	295	178	237
(%)	-	38.3	33.2	17.1	7.1	15.6	11.5	6.9	9.2

【配偶者調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場 (9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	603	234	121	138	109	60	127	0
(%)	-	55.9	21.7	11.2	12.8	10.1	5.6	11.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	884	515	230	168	140	105	63	37
(%)	-	58.2	33.9	15.1	11.1	9.2	6.9	4.1	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,564	795	401	306	214	175	104	152
(%)	-	61.9	31.5	15.9	12.1	8.5	6.9	4.1	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,511	760	423	218	218	149	93	165
(%)	-	62.2	31.3	17.4	9.0	9.0	6.1	3.8	6.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,460	813	487	270	236	147	121	186
(%)	-	56.7	31.6	18.9	10.5	9.2	5.7	4.7	7.2

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (1)配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	247	598	177	56	-
(%)	100	22.9	55.5	16.4	5.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	532	762	174	27	24
(%)	100	35.0	50.2	11.5	1.8	1.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (2)自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	208	604	220	46	-
(%)	100	19.3	56.0	20.4	4.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	445	802	219	27	26
(%)	100	29.3	52.8	14.4	1.8	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	631	1,271	508	50	65
(%)	100	25.0	50.3	20.1	2.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	675	1,294	381	23	57
(%)	100	27.8	53.3	15.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	843	1,257	359	30	84
(%)	100	32.8	48.9	14.0	1.2	3.3

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (3)配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	111	441	354	172	-
(%)	100	10.3	40.9	32.8	16.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	204	631	531	118	35
(%)	100	13.4	41.5	35.0	7.8	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	312	1,018	895	231	69
(%)	100	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	303	1,033	849	174	71
(%)	100	12.5	42.5	34.9	7.2	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (4)配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	281	409	274	114	-
(%)	100	26.1	37.9	25.4	10.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	442	598	376	75	28
(%)	100	29.1	39.4	24.8	4.9	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	822	914	605	114	70
(%)	100	32.6	36.2	24.0	4.5	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	747	945	587	77	74
(%)	100	30.7	38.9	24.2	3.2	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	815	870	686	103	99
(%)	100	31.7	33.8	26.7	4.0	3.8

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (5)配偶者と会話がある(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	307	479	221	71	-
(%)	100	28.5	44.4	20.5	6.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	439	756	261	32	31
(%)	100	28.9	49.8	17.2	2.1	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	701	1,212	479	69	64
(%)	100	27.8	48.0	19.0	2.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	721	1,169	433	37	70
(%)	100	29.7	48.1	17.8	1.5	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	758	1,162	513	42	98
(%)	100	29.5	45.2	19.9	1.6	3.8

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	361	573	113	31	-
(%)	100	33.5	53.2	10.5	2.9	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	559	778	138	18	26
(%)	100	36.8	51.2	9.1	1.2	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	67	149	328	379	155	-
(%)	100	6.2	13.8	30.4	35.2	14.4	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	85	192	370	534	287	51
(%)	100	5.6	12.6	24.4	35.2	18.9	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (8) 配偶者は金銭的にうるさい(SA)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	57	138	484	399	-
(%)	100	5.3	12.8	44.9	37.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	66	189	812	422	30
(%)	100	4.3	12.4	53.5	27.8	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (9) 配偶者は自分よりかかりすぎる(SA)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	63	248	477	290	-
(%)	100	5.8	23.0	44.2	26.9	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	51	240	819	384	25
(%)	100	3.4	15.8	53.9	25.3	1.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	166	538	1393	353	75
(%)	100	6.6	21.3	55.2	14.0	3.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	177	591	1375	328	102
(%)	100	6.9	23.0	53.4	12.7	4.0

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)

	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	105	315	486	172	-
(%)	100	9.7	29.2	45.1	16.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	134	469	635	253	28
(%)	100	8.8	30.9	41.8	16.7	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q23. 将来の住まい

	総数	自分または配偶者の 持家に住む	親・親類から家を譲り 受ける	賃貸住宅 に住む	自立型住居(有料老人 ホーム、有料介護 施設)に住む	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	852	53	97	36	40
(%)	100	79.0	4.9	9.0	3.3	3.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q24. (1)現在の住宅ローンの有無(SA)

	総数	あり	なし
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	346	732
(%)	100	32.1	67.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【配偶者調査】 Q24. 住宅ローンはあと何年ですか(SA)

	総数	4年以下	5年 ～9年	10年 ～14年	15年 ～19年	20年 ～24年	25年 ～29年	30年以上
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	346 100	29 8.4	55 15.9	56 16.2	53 15.3	69 19.9	38 11.0	46 13.3
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q25. 住宅ローンの残高(SA)

	総数	100万円 未満	100万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～10 0万円未 満	1000万 円以上～ 2000万 円未満	2000万 円以上～ 5000万 円未満	5000万 円以上～ 1億円未 満	1億円以 上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	346 100	4 1.2	39 11.3	67 19.4	100 28.9	77 22.3	5 1.4	0 0.0	54 15.6
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q26. 昨年の世帯年収(SA)

	総数	200万円 未満	200万円 以上～30 0万円未 満	300万円 以上～40 0万円未 満	400万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～60 0万円未 満	600万円 以上～80 0万円未 満	800万円 以上～10 0万円未 満	1000万 円以上～ 1500万 円未満	1500万 円以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	27 2.5	62 5.8	136 12.6	144 13.4	141 13.1	185 17.2	149 13.8	82 7.6	25 2.3	127 11.8
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円 未満	100万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～10 0万円未 満	1000万 円以上～ 2000万 円未満	2000万 円以上～ 5000万 円未満	5000万 円以上～ 1億円未 満	1億円以 上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	54 5.0	77 7.1	195 18.1	125 11.6	122 11.3	119 11.0	41 3.8	5 0.5	340 31.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても 苦しい
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	88 8.2	161 14.9	502 46.6	246 22.8	81 7.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)

	総数	以前より とても楽に なった	以前より少 し楽になっ た	以前より少 し変わらない	以前より少 し苦しく なった	以前より とても苦しく なった
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	33 3.1	137 12.7	439 40.7	332 30.8	137 12.7
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】		Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	175 16.2	378 35.1	174 16.1	40 3.7	311 28.8	
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	216 20.0	272 25.2	151 14.0	53 4.9	386 35.8	
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	263 24.4	548 50.8	233 21.6	34 3.2	-	
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	273 25.3	535 49.6	222 20.6	29 2.7	19 1.8	
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか(SA)						
	総数	配偶者	自分の子ども	自分の兄弟姉妹	介護サービスによる在宅介護	介護施設に入る	まだ考えていない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,078 100	170 15.8	122 11.3	4 0.4	128 11.9	260 24.1	390 36.2	4 0.4
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-

資料 3 「調査票質問票項目一覧表」

(過去調査分との質問項目対照表)

(1) 本人調査票質問項目

(2) 配偶者調査票調査項目

Ⅲ. 調査票質問項目一覧表(過去調査分との質問項目対照表)

(1) 本人調査票質問項目

【予備調査】

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
SC1 性別	1 男 2 女	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2
SC2 年齢	年齢を実数で記入	F1 同左		F1 同左		F1 同左		F1 同左	
SC3 厚生年金への加入状況	1 現在、厚生年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、厚生年金を受給している 3 現在、厚生年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他()								
SC4 企業年金への加入状況 (SC2=1、2)	1 現在、企業年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、企業年金を受給している 3 現在、企業年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他()								
SC5 国民年金の第3号被保険者かどうか (SC3=3、4、5)	1 国民年金の第3号被保険者に該当 2 その他()								

【本調査】

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問1 未婚	1 未婚 2 既婚(配偶者あり) 3 既婚(離別) 4 既婚(死別)	F2	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4
問2 世帯構成	1 ひとり暮らし 2 自分たち夫婦だけ 3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子 4 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほ… 5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や… 6 その他(具体的に)	F3	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6
問3 子どもの有無 (1)子どもの人数 (2)子どもの年齢 (3)18歳以上の子どもに関して	1 子どもがいる 2 子どもはいない 人数を記入 各々の子供の性別・年齢を記入 該当する各々の子どもの以下の状況を選択回答 ・同居状況(同居非同居の別) ・就業状況(正社員、契約・派遣・パート、 未就業(除く学生)、学生) ・結婚状況(既婚結婚の別)	F4	同左 (1) 同左 (2) 第一子と末子の年齢						
問4 居住地	都道府県名を記入	F5 同左	同左	F2 同左	同左	F2 同左	同左	F2 同左	同左
問5 居住年数	1 5年未満 2 5年以上～10年未満 3 10年以上～20年未満 4 20年以上～30年未満 5 30年以上	F6	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5
問6 住居形態	1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(分譲マンション等) 3 社宅・会社の寮 4 公社・公団・公営の賃貸住宅 5 民間の借家・マンション・アパート 6 その他	F7	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6	F8	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6
問7 最終学歴	1 小学校・高等小学校・新制中学校 2 旧制中学校・旧制高等女子学校・旧制実業学校… 3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大 4 大学・大学院 5 専門学校・専修学校 6 その他	F8	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6
問8 現在の就業形態	1 正社員 2 契約社員・嘱託 3 派遣社員 4 パート・アルバイト 5 自営業・自由業・家族従業員 6 内職 7 シルバー人材センター(高齢者事業団) 8 無職 ⇒ (最後に職を離れてから 年)	問1	1 2 3 4 5 6	F12	1 2 3 4 5 6	問21	1 2 3 4 5 6	問22	1 2 3 4 5 6
問9 現在の職種等	(1)勤務先の業種 1 水産・農林 2 鉱業 3 建設 4 食料品 5 繊維製品、パルプ・紙 6 化学、医薬品 7 石油・石炭 8 ゴム製品、ガラス・土石製品 9 鉄鋼、非鉄金属、金属製品 10 機械、電気機器 11 輸送用機器、精密機器、その他製品 12 卸売業、小売業 13 銀行、証券、保険、その他金融 14 不動産 15 運輸(陸運、海運、空運)、倉庫 16 通信 17 電気・ガス 18 サービス 19 公官庁 20 その他 (2)現在の職種 1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他 (3)勤務先の従業員数 1 1～29人 2 30～99人 3 100～299人 4 300～999人 5 1000人以上 6 わからない (4)現在の1週間の勤務日数 (5)現在の1日の勤務時間								
問10 現在の就業状況についての満足度	(1)仕事の内容 (2)就業形態 (3)職場での地位の高さ (4)賃金 (5)業績評価の公平さ (6)福利厚生 (7)職場の人間関係・雰囲気 (8)全体として	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	問23 付問	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	問22 (5)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)		

今回調査			第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査			
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢		
問11 自由時間	(1)自由時間の有無	1 十分にある 2 まあまあ 3 不十分である 4 まったくない	問4	1 2 3 4	問5	1 2 3 4	問4	1 2 3 4	問4	1 2 3 4		
	(2)自由時間の過ごし方	1 仕事仲間とのプライベートなつきあい 2 仕事に関する勉強や残務整理 3 テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など 4 ひとりで趣味・スポーツ・学習など 5 仲間と趣味・スポーツなど 6 パソコン通信やインターネットなど 7 個人的な友人・仲間とのつきあい 8 行楽・ドライブなど 9 庭いじりや家事など家庭内のこと 10 家庭との団らんや家庭サービス 11 近隣の人とのつきあいや地域の用事 12 その他 13 特に何もしない	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 15 16	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 15 16	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 14 15		
	問12 社会活動参加状況		1 定期的に参加している 2 ととき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない	問5	1 2 3 4	問3	1 2 3 4			問15	1 2 3 4	
		(1)社会活動参加分野(いくつでも)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや"村おこし"の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11			付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		(1)社会活動参加分野(最もあてはまるものひとつ)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや"村おこし"の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他									
		(2)社会活動参加理由(該当するもの3つまで)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勤めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他()	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		(2)社会活動参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勤めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他()									
		(3)活動団体	1 行政機関(民生委員など公的委員含む) 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他()									
		(4)活動団体の選択理由	1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 活動に費やす時間 8 自宅と活動地域との距離 9 その他()									
		(5)社会活動不参加理由(該当するもの3つまで)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味が無い、関心がない 10 その他()	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		(5)社会活動不参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味が無い、関心がない 10 その他()									
		(6)社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない	付問4	1 2 3 4	付問4	1 2 3 4			付問4	1 2 3 4	
		(7)今後活動する場合の関心のある団体	1 行政機関の各委員 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他()									
(8)今後活動する場合の活動団体の選択理由		1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 自宅と活動地域との距離 8 その他()										

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
問13 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のほりあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと (13)住まいのこと	問6	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問4	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問2	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)
問14 性格	(1)人との関係やつながりを大切に (2)自分の世界や個性を大切に (3)いつも目標に向かってつき進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことにとじっくり取り組む (9)指導者の立場に立とうとする (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところででも結構楽しみを見出す	問7	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問8	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問7	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問18	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)
問15 生きがいの意味	(1)生きがいの意味 (2)生きがいの有無	問8	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
問16 生きがいの内容	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動(ボランティア含む) 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままに過ごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13		
問17 生きがい構成要素 取得の場	(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは… (2)生活のどの場でリズムやメリハリがつかますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ… (4)生活のどの場で喜びや満足を感じる… (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている… (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場での生活が自分自身を向上させている… (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた… (9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得て…	問10	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問6	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問5	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問10	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)
問18 夫婦関係の現状	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる (2)自分は配偶者のよき理解者である (3)配偶者と価値観・考え方が似ている (4)よく一緒に出かける (5)会話がある (6)配偶者は自分を自由にさせてくれる (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない (8)配偶者は金銭的にうるさい (9)配偶者は自分よりかかりすぎる (10)配偶者にもっと家事をして欲しい	問11	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	問13	(2) (4) (7) (6) (10)	問9	(2) (4) (7) (6)	問21	(2) (5) (4) (8)
問19 定年経験の有無、 定年・退職年齢	1 まだ定年前⇒定年は()才 2 まだ定年前⇒定年はない 3 定年前に退職した⇒退職は()才のとき 4 定年退職した⇒定年は()才のとき	問13	1 2 3	問19	1 2 3	問23	1 2 3	問24	1 2 3
問20 定年前の方 に対する質問	(1)定年後の経済基盤として重視するもの (2)定年までの勤務希望 (3)退職後の就業希望 (4)過去5年間に経験したライフイベント	問14	(1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9	問20	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9	問24	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9	問25	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8 9

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査		
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	
問21 定年退職または 定年前退職を経験 した方に対する質問	(1)退職前の職種	1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他	問15 (1) 1 2 3 4 5 6 7	問21 (1) 1 2 3 4 5 6 7	問25 (1) 1 2 3 4 5 6 7	問26 (1) 1 2 3 4 5	問26 (1) 1 2 3 4 5	問26 (1) 1 2 3 4 5	問26 (1) 1 2 3 4 5	
	(2)退職前の勤務先の企業規模	1 1~29人 2 30~99人 3 100~299人 4 300~999人 5 1000人以上 6 わからない	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	(2) 1 2 3 4 5	
	(3)退職後の就業の有無	1 退職とともに職業生活から引退した 2 退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた 3 退職後は出向先に移籍した 4 退職後は別の企業に再就職した 5 退職後は自分で事業や商売を始めた(自由… 6 退職後は家業を手伝うようになった 7 退職後はシルバー人材センターで仕事するよ… 8 その他	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	
	(4)定年後の生活問題	1 経済的に苦しくなった 2 住宅問題で困った 3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 4 配偶者や親の介護が必要になった 5 配偶者に先立たれた 6 その他の家族の入院や死 7 再就職のことで困った 8 家族との人間関係が悪くなった 9 親との新たな同居 10 生活のはりや生きがいなくなった 11 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした 12 今までの人的交流や情報量が減って困った 13 世の中の情報化の進展についていけず困った 14 社会から取り残されてしまった 15 時間をもてあました 16 地域社会にとけこめなかった 17 その他() 18 特に問題はない	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	(8) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(8) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(8) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(6) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	(6) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	(6) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	
	問22 定年退職に向けて 必要な対応	(1)個人として必要な対応	1 健康の維持・増進を心がける 2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる 3 生涯楽しめる趣味などを持つ 4 定年後も活かせる専門的技術を身につける 5 夫婦・家族の関係を大切に 6 友人や仲間との交流を深める 7 近隣や地域のひととの交流を深める 8 会社以外の活動の場をつくっておく 9 その他 10 特に何も必要ない	問16 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問22 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		付問 実際に準備している(した)こと	1 健康の維持・増進を心がける 2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる 3 生涯楽しめる趣味などを持つ 4 定年後も活かせる専門的技術を身につける 5 夫婦・家族の関係を大切に 6 友人や仲間との交流を深める 7 近隣や地域のひととの交流を深める 8 会社以外の活動の場をつくっておく 9 その他 10 特に何も必要ない	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		(2)企業の対応	1 退職準備教育や退職相談を充実させる 2 企業年金の充実や持家取得の援助など… 3 労働時間短縮などで、社員の個人的生活に… 4 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる 5 希望者には定年年齢を延長させる 6 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する 7 ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動… 8 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける 9 退職に向けたセミナーの充実 10 その他() 11 特に何も必要ない	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		(3)社会的対応	1 できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用… 2 定年退職者の能力を活かす場を増やす 3 サラリーマンOJが気軽に出入りできる交流の… 4 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を… 5 中高年者の能力再開発の研修機会や施設… 6 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に… 7 その他() 8 特に何も必要ない	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		問23 将来の住まいの予定	1 自分または配偶者の持ち家に住む 2 親・親類から家を譲り受ける 3 賃貸住宅に住む 4 自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など) 5 その他(具体的に)							
		問24 住宅ローン支払いの 有無	1 支払っている(残りはあと 年) 2 支払っていない	F7 付問 1 2	F7 付問 1 2	F7 付問 1 2	F7 付問 1 2	F7 付問 1 2	F7 付問 1 2	
		問25 住宅ローン残高	1 100万円未満 2 100万円以上~500万円未満 3 500万円以上~1000万円未満 4 1000万円以上~2000万円未満 5 2000万円以上~5000万円未満 6 5000万円以上~1億円未満 7 1億円以上 8 わからない							
		問26 世帯収入(夫婦合算)	1 200万円未満 2 200万円以上~300万円未満 3 300万円以上~400万円未満 4 400万円以上~500万円未満 5 500万円以上~600万円未満 6 600万円以上~ 800万円未満 7 800万円以上~1000万円未満 8 1000万円以上~1500万円未満 9 1500万円以上 10 わからない	F9 1 2 3 4 5 6 7 8 9	F10 1 2 3 4 5 6 7 8 9	F10 1 2 3 4 5 6 7 8 9	F11 1 2 3 4 5 6 7 8 9	F11 1 2 3 4 5 6 7 8 9	F11 1 2 3 4 5 6 7 8 9	
		問27 保有している金融 資産の総額	1 なし 2 100万円未満 3 100万円以上~500万円未満 4 500万円以上~1000万円未満 5 1000万円以上~2000万円未満 6 2000万円以上~5000万円未満 7 5000万円以上~1億円未満 8 1億円以上 9 わからない							
		問28 収入の構成割合	1 公的年金 ()割 2 企業年金 ()割 3 個人年金 ()割 4 給与 ()割 5 不動産収入・利息・配当金 ()割 6 その他 ()割	F10 1 2 3 4 5	F10付問1 1 2 3 4 5	F10付問1 1 2 3 4 5	F10付問1 1 2 3 4 5	F10付問1 1 2 3 4 5	F10付問1 1 2 3 4 5	
	問29 現在の自分自身の 暮らし向き	1 とても楽だ 2 少し楽だ 3 普通 4 少し苦しい 5 とても苦しい	F11 1 2 3 4 5	F11 1 2 3 4 5	F11 1 2 3 4 5	F11 1 2 3 4 5	F11 1 2 3 4 5	F11 1 2 3 4 5		
	問30 5年前と比較しての 自分自身の暮らし 向きの変化	1 以前よりとても楽になった 2 以前より少し楽になった 3 変わらない 4 以前より少し苦しくなった 5 以前よりとても苦しくなった								

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
問31 将来の家族と 自分の介護	(1) 自分の両親の介護 (2) 配偶者の両親の介護 (3) 自分自身の介護 (4) 配偶者の介護								
	1 大変不安である 2 少し不安である 3 あまり不安ではない 4 全く不安はない 5 該当する人はいない								
問32 自分の介護を 誰にしてもらい たいか	1 配偶者 2 自分の子ども 3 自分の兄弟姉妹 4 介護サービスによる在宅介護 5 介護施設に入る 6 まだ考えていない 7 その他(具体的に)								
問33 ライフプランセミナーを 知っているか	1 知っており受講したことがある 2 知っているが受講したことはない 3 知らない								
問34 ライフプランセミナーを どこで受講したか	1 勤めている会社 2 金融機関 3 役所等の公的機関 4 その他(具体的に)								
問35 ライフプランセミナーを 受講してよかったか	1 退職後のライフプランのイメージを考えるきっかけに 2 退職後の家計プランを作成できてよかった 3 退職後の年金などの知識を得られた 4 あまり役にたたなかった 5 ほとんど役にたたなかった 6 その他(具体的に)								
問36 ライフプランセミナーを 受講してみたいか	1 無料であれば受けてみたい 2 有料(1日コースで8千円程度)でも受けてみたい 3 有料(1泊2日コース宿泊料込み3万円程度)でも 4 受けてみたいとは思わない 5 その他(具体的に)								

Ⅲ. 調査票質問項目一覧表(過去調査分との質問項目対照表)

(2) 配偶者調査票質問項目

【予備調査】

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
SC1 性別	1 男 2 女	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2
SC2 年齢	年齢を実数で記入	F1 同左	同左	F1 同左	同左	F1 同左	同左	F1 同左	同左
SC3 厚生年金への加入状況	1 現在、厚生年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、厚生年金を受給している 3 現在、厚生年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他()								
SC4 企業年金への加入状況 (SC2=1、2)	1 現在、企業年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、企業年金を受給している 3 現在、企業年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他()								
SC5 国民年金の第3号被保険者かどうか (SC3=3、4、5)	1 国民年金の第3号被保険者に該当 2 その他()								

【本調査】

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
問1 未既婚	1 未婚 2 既婚(配偶者あり) 3 既婚(離別) 4 既婚(死別)	F2	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4
問2 世帯構成	1 ひとり暮らし 2 自分たち夫婦だけ 3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子 4 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほ… 5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や… 6 その他(具体的に)	F3	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6
問3 子どもの有無	1 子どもがいる 2 子どもはいない (1)子どもの人数 (2)子どもの年齢 (3)18歳以上の子どもに関して	F4	同左 (1) 同左 (2) 第一子と末子の年齢						
問4 居住地	都道府県名を記入	F5 同左	同左	F2 同左	同左	F2 同左	同左	F2 同左	同左
問5 居住年数	1 5年未満 2 5年以上～10年未満 3 10年以上～20年未満 4 20年以上～30年未満 5 30年以上	F6	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5
問6 住居形態	1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(分譲マンション等) 3 社宅・会社の寮 4 公社・公団・公営の賃貸住宅 5 民間の借家・マンション・アパート 6 その他	F7	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6	F8	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6
問7 最終学歴	1 小学校・高等小学校・新制中学校 2 旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校… 3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大 4 大学・大学院 5 専門学校・専修学校 6 その他	F8	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6
問8 現在の就業形態	1 正社員 2 契約社員・嘱託 3 派遣社員 4 パート・アルバイト 5 自営業・自由業・家族従業員 6 内職 7 シルバー人材センター(高齢者事業団) 8 無職 ⇒ (最後に職を離れてから 年)	問1	1 2 3 4 5 6	F12	1 2 3 4 5 6	問21	1 2 3 4 5 6	問22	1 2 3 4 5 6
問11 自由時間	(1)自由時間の有無 (2)自由時間の過ごし方	問4	1 2 3 4	問5	1 2 3 4	問4	1 2 3 4	問4	1 2 3 4
		付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
問12 社会活動参加状況	1 定期的に参加している 2 ときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない	問5	1 2 3 4	問3	1 2 3 4			問15	1 2 3 4
(1) 社会活動参加分野(いくつでも)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11			付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
(1) 社会活動参加分野(最もあてはまるものひとつ)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他								
(2) 社会活動参加理由(該当するもの3つまで)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他()	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
(2) 社会活動参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他()								
(3) 活動団体	1 行政機関(民生委員など公的委員含む) 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他()								
(4) 活動団体の選択理由	1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 活動に費やす時間 8 自宅と活動地域との距離 9 その他()								
(5) 社会活動不参加理由(該当するもの3つまで)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味がなく、関心がない 10 その他()	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
(5) 社会活動不参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味がなく、関心がない 10 その他()								
(6) 社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない	付問4	1 2 3 4	付問4	1 2 3 4			付問4	1 2 3 4
(7) 今後活動する場合の関心のある団体	1 行政機関の各委員 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他()								
(8) 今後活動する場合の活動団体の選択理由	1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 自宅と活動地域との距離 8 その他()								
問13 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のほりあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと (13)住まいのこと	問6	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問4	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問2	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)
			同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
問14 性格	(1)人との関係やつながりを大切にする (2)自分の世界や個性を大切にする (3)いつも目標に向かってつき進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことじこじこ取り組む (9)指導者の立場に立とうとする (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところでも結構楽しみを見出す	問7	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問8	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問7	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	問18	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)
問15 生きがいの意味	(1)生きがいの意味 (2)生きがいの有無	問8	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
問16 生きがいの内容	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動(ボランティア含む) 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままにすごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13		
問17 生きがい構成要素 取得の場	(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは… (2)生活のどの場でリズムやメリハリがつかますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ… (4)生活のどの場で喜びや満足感を感じる… (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている… (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場での生活が自分自身を向上させている… (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた… (9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得て…	問10	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問6	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問5	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問10	(1) (2) (3) (4) (6) (7) (9) (10)
問18 夫婦関係の現状	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる (2)自分は配偶者のよき理解者である (3)配偶者と価値観・考え方が似ている (4)よく一緒に出かける (5)会話がある (6)配偶者は自分を自由にさせてくれる (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない (8)配偶者は金銭的にうるさい (9)配偶者は自分よりかかきすぎる (10)配偶者にもっと家事をして欲しい	問11	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	問13	(2) (4) (7) (6) (10)	問9	(2) (4) (7) (6)	問21	(2) (5) (4) (8)
問19-I 配偶者の定年の有無			1 まだ定年前 2 定年前に退職した 3 定年退職した						
問20-I 配偶者が定年前 の方に質問	(1)定年後の生活設計についての夫婦の話し合い (2)配偶者の過去5年間の家庭での出来事	問9	(1) 1 2 3	問13	(1) 1 2 3			問12	(1) 1 2 3
問21-I 配偶者が定年退職・定 年前退職の方に質問	(1)定年後の生活設計についての夫婦の話し合い (2)配偶者の定年後の生活問題	問9	(1) 1 2 3	問13	(1) 1 2 3			問12	(1) 1 2 3
			(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	問10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	
問22 定年退職に向けて 必要な対応	(1)個人として必要な対応 付問 実際に準備している(した)こと	問16	(1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問22	(1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27	(1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27	(1) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

今回調査		第4回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢	質問番号	回答 選択肢
(2)企業の対応	1 退職準備教育や退職相談を充実させる	(2)	1	(2)	1	(2)	1	(2)	1
	2 企業年金の充実や持家取得の援助など…		2		2		2		
3 労働時間短縮などで、社員の個人的生活に…	3		3		3		3		
4 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	4		4		4		4		
5 希望者には定年年齢を延長させる	5		5		5		5		
6 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	6		6		6		6		
7 ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動…	7		7		7		7		
8 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	8		8		8		8		
9 退職に向けたセミナーの充実	9		9		9		9		
10 その他()	10		10		10		10		
11 特に何も必要ない	11		11		11		11		
(3)社会的対応	1 できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用…	(3)	1	(3)	1	(3)	1	(3)	1
	2 定年退職者の能力を活かす場を増やす		2		2		2		
	3 サラリーマン〇Bが気軽に出入りできる交流の…		3		3		3		
	4 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を…		4		4		4		
	5 中高年者の能力再開発の研修機会や施設…		5		5		5		
	6 退職後の生活をよりよくなるための研究や提案に…		6		6		6		
	7 その他()		7		7		7		
	8 特に何も必要ない		8		8		8		
問23 将来の住まいの予定	1 自分または配偶者の持ち家に住む 2 親・親類から家を譲り受ける 3 賃貸住宅に住む 4 自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など) 5 その他(具体的に)								
問24 住宅ローン支払いの有無	1 支払っている(残りはあと 年) 2 支払っていない	F7	付問 1 2	F7	付問 1 2			F7	付問 1 2
問25 住宅ローン残高	1 100万円未満 2 100万円以上～500万円未満 3 500万円以上～1000万円未満 4 1000万円以上～2000万円未満 5 2000万円以上～5000万円未満 6 5000万円以上～1億円未満 7 1億円以上 8 わからない								
問26 世帯収入(夫婦合算)	1 200万円未満 2 200万円以上～300万円未満 3 300万円以上～400万円未満 4 400万円以上～500万円未満 5 500万円以上～600万円未満 6 600万円以上～ 800万円未満 7 800万円以上～1000万円未満 8 1000万円以上～1500万円未満 9 1500万円以上 10 わからない	F9	1 2 3 4 5 6 7 8 9	F10	1 2 3 4 5 6 7 8 9	F11	1 2 3 4 5 6 7 8 9		
問27 保有している金融資産の総額	1 なし 2 100万円未満 3 100万円以上～500万円未満 4 500万円以上～1000万円未満 5 1000万円以上～2000万円未満 6 2000万円以上～5000万円未満 7 5000万円以上～1億円未満 8 1億円以上 9 わからない								
問28 収入の構成割合	1 公的年金 ()割 2 企業年金 ()割 3 個人年金 ()割 4 給与 ()割 5 不動産収入・利息・配当金 ()割 6 その他 ()割	F10	1 2 3 4 5	F10付問1	2 2 1 3・4 5				
問29 現在の自分自身の暮らし向き	1 とても楽だ 2 少し楽だ 3 普通 4 少し苦しい 5 とても苦しい	F11	1 2 3 4 5	F11	1 2 3 4				
問30 5年前と比較しての自分自身の暮らし向きの変化	1 以前よりとても楽になった 2 以前より少し楽になった 3 変わらない 4 以前より少し苦しくなった 5 以前よりとても苦しくなった								
問31 将来の家族と自分の介護	(1)自分の両親の介護 (2)配偶者の両親の介護 (3)自分自身の介護 (4)配偶者の介護								
問32 自分の介護を誰にしてもらいたいか	1 配偶者 2 自分の子ども 3 自分の兄弟姉妹 4 介護サービスによる在宅介護 5 介護施設に入る 6 まだ考えていない 7 その他(具体的に)								

「第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」 (H23-1)

平成24年3月

(編集・発行) 財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪1丁目3番13号 NBF高輪ビル4階

電話 : 03-5793-9411 (年金シニアプラン総合研究機構 総務企画部 代表)

FAX : 03-5793-9413

URL : <http://www.nensoken.or.jp/>

本書の全部または一部の複写・複製・転記載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。
これらの許諾につきましては年金シニアプラン総合研究機構までご照会ください。